

茨城県教育財団文化財調査報告第309集

堂ノ上遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第309集

どう の うえ
堂 ノ 上 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

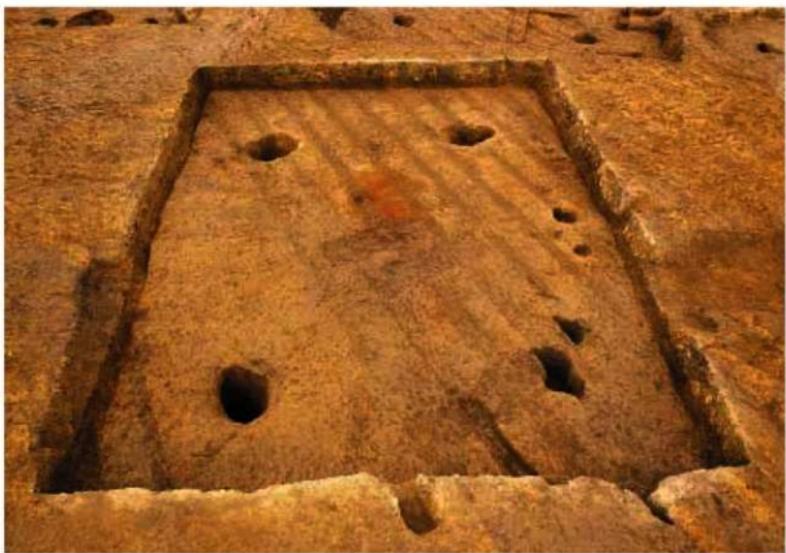
上 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団



堂ノ上遺跡遠景



第2号竪穴建物跡



第47A号住居跡出土子持勾玉



第47A号住居跡出土子持勾玉・第93号住居跡出土子持勾玉未成品

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。

その一環として整備する首都圏中央連絡自動車道の建設は、首都高 中央環状線などと一体となって、首都圏の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散導入と首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら、この事業地内には、埋蔵文化財包蔵地である堂ノ上遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から同遺跡の埋蔵文化財発掘調査について委託を受け、平成19年1月から平成20年3月まで2年間にわたってこれを実施しました。

本書は、同遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、稲敷市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財團法人茨城県教育財団
理事長 稲葉節生

例　　言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財團が平成18年度と19年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷市江戸崎乙字堂ノ上881番地ほかに所在する堂ノ上遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成19年1月1日～平成19年3月31日

平成19年4月2日～平成20年3月31日

整理 平成20年6月2日～平成21年3月31日

3 発掘調査は、平成18年度が調査課長川井正一、平成19年度が調査課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。

平成18年度

首席調査員兼班長 川又清明

主任調査員 青木仁昌

主任調査員 締引英樹

主任調査員 青木 亨

主任調査員 本橋弘巳

副主任調査員 小林 恵

平成19年度

首席調査員兼班長 川村満博

主任調査員 成島一也 平成19年4月2日～5月31日

主任調査員 近藤恒重

主任調査員 寺内久永 平成20年1月1日～3月31日

調査員 鹿島直樹 平成19年4月2日～6月30日

調査員 菊池直哉 平成19年8月1日～8月31日

調査員 作山智彦 平成19年8月1日～10月31日

調査員 前島直人

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

調査員 前島直人 第1章～第3章第3節2、第4節まとめ

調査員 作山智彦 第3章第3節2～4、写真図版

調査員 早川麗司 第3章第3節5

5 第97号住居跡出土の馬骨の部位および推定年齢については、国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏に御指導いただいた。

6 炭化材およびガラス製品の同定は、パリノサーヴェイ株式会社に委託し、考察を付章として掲載した。

凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X = -6,000m, Y = 43,600mの交点を基準点（A 1 a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI—住居跡 SX—竪穴建物跡 SB—掘立柱建物跡 SD—溝跡 SK—土坑 P—ビット

遺物 P—土器 TP—拓本記録土器 DP—土製品 Q—石器・石製品 M—鉄製品・鉄滓・古錢

G—ガラス製品 B—骨角製品 N—自然遺物

土層 K—搅乱

3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社）を使用した。

4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は500分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより、異なる場合は、それぞれの縮尺をスケールで示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■ 炉・焼土・赤彩

■ 火床面

■ 電構材・粘土・炭化物・黒色処理

■ 煤

●土器・拓本記録土器

○土製品

□石器・石製品

△鉄製品

■ガラス製品

▲滑石片

◆自然遺物 硬化面

5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 遺物番号は遺物ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、〔 〕内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m, cm, gで示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。

(3) 備考欄は、土器の残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴住居跡の主軸は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N-10°-E）。

目 次

－上 卷－

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	9
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	9
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	14
1 弥生時代の遺構と遺物	14
(1) 堅穴住居跡	14
(2) 土坑	19
2 古墳時代の遺構と遺物	19
(1) 堅穴住居跡	19

－下 卷－

2 古墳時代の遺構と遺物	
(2) 堅穴建物跡	351
(3) 土坑	366
3 平安時代の遺構と遺物	374
(1) 堅穴住居跡	374
(2) 土坑	377
4 中世の遺構と遺物	378
掘立柱建物跡	378
5 その他の遺構と遺物	379
(1) 溝跡	379
(2) 土坑	387
(3) 遺構外出土遺物	397
第4節 まとめ	399
付 章 堂ノ上遺跡の自然科学分析	417
写真図版	
抄 錄	

堂ノ上遺跡の概要

【調査のあらまし】

堂ノ上遺跡は、稻敷市江戸崎の、小野川と沼里川にはさまれた高い台地の上にあります。今回調査した場所は、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道(圏央道)を建設する予定地で、昔の人々の生活の跡を写真や図面などに記録し、将来へ伝えるために発掘調査を行いました。

【調査の内容】



住居跡の中を掘ると、このように土器などの遺物が見つかります。土器の破片をつなげると、形が復元できました。これは第24号住居跡から遺物が出土した状態です。



火災にあった住居跡や、引越をする時に屋根や柱を燃やして片付けた住居跡を掘ると、焼けた土や木材が出てきます。第4号住居跡の壁際からは焼けた土が出てきました。



第141号住居跡の床面には、完形の土師器が残されていました。引越をした時に置いていったと考えられます。



第140号住居跡から見つかった須恵器です。遠くで作られた土器が運ばれていたことが分かりました。



第141号住居跡の竈です。竈は土に砂や粘土を混ぜて作られています。火をたいたため、中が赤く焼けています。



第118号住居跡の竈には甕が残されていました。煮炊きの様子が分かります。竈の左側はこわれています。



第62号住居跡は、東側の壁に竈が作られています。竈の右側には、物を入れるための貯蔵穴があります。右側(南側)の壁のそばに、出入口で使ったと考えられる柱穴がありました。



第23号住居跡は、西側の壁に竈が作られています。竈の左側に貯蔵穴があります。左側(南側)が出入口と考えられます。出入口は、多くの住居で南側に作られています。



竈が作られる前は、このような床面に設けた炉で煮炊きをしていました。火をたいたため、赤く焼けています。



引越をした後、しばらくして同じ場所に住居が建てられた様子です。第28号住居跡と第29号住居跡などが重なって見つかりました。



第5号竪穴建物跡から見つかった紡錘車は、他の紡錘車よりも大きく作られています。この他、模様を入れた紡錘車も見つかっています。



第152号住居跡からは、管玉が見つかりました。碧玉と考えられる緑色の石で作られています。



石製品の未完成品も見つかっています。これは第93号住居跡から見つかった、子持勾玉を作ろうとして、途中でやめてしまったものです。

【調査で分かったこと】

調査の結果、弥生時代(約1700年前)、古墳時代(約1700~1400年前)、平安時代(約1000年前)の竪穴住居跡(家の跡)などが見つかり、この遺跡が昔の人々のむらであったことが分かりました。

住居が多く建てられたのは約1500年前です。このころ、このむらに今のコンロにあたる竈が伝わってきました。それまでは床面に設けた炉で煮炊きをしていたので、竈のおかげで強い火力で食事を作ることができるようになり、便利になったと考えられます。

竈は古墳時代、奈良時代、平安時代の多くの遺跡から見つかっていますが、住居の北側の壁に作っているものが多いようです。しかし、このむらでは、住居によって様々な方角に竈を作られています。なかでも、東側に竈を作った住居が多いことが分かりました。伝わった時期が周辺のむらに比べると少し早いためか、伝わってきて間もない竈を住居の中のどこに作れば生活しやすいか、人々が考えながら作った様子が想像できます。今回の調査成果は、竈が使われ始めるころの生活の様子、竈が北側に作られることが多くなるまでの様子、住居の間取りなどを研究するための大切な資料となります。

当遺跡からは、古墳時代の人々が使った土師器・須恵器といわれる土器が数多く出土しています。食事用の壺や椀、貯蔵用や煮炊き用の甕、米を蒸すための甑などの土器が見つかりました。また、祭りに使われたと考えられる勾玉、有孔円板、剣形模造品など、石で作った道具(石製品)も多く見つかりました。大きな勾玉のまわりに小さな勾玉状のものが付いている子持勾玉も見つかりました。また、石製品の材料となった滑石の破片や、臼玉の完成品や未完成品が多く見つかった建物跡であることから、臼玉などを作る人々が住んでいたことが分かりました。これらの石製品は、作り方、人々の石製品作りの様子、周辺のむらとの交流を研究するための重要な資料となります。

この他、竈の上にのせた甕を支えるための支脚、魚をとるための網の重りや祭りの道具といわれている土玉、糸を紡ぐ道具である紡錘車、石製品の形を整える砥石なども見つかっています。

堂ノ上遺跡から見つかった生活の跡、土器や石製品などの道具は、当時の人々のくらしをより知るための手がかりとなります。

【むずかしい言葉】

土 師 器... 古墳時代から平安時代に作られた焼き物です。野外で焼かれたため、主に赤い色をしています。

須 恵 器... 韓国半島から伝わった方法で作られた焼き物です。窯の中で焼かれたため、主に灰色をしています。古墳時代には主に大阪府、愛知県、静岡県などの窯で焼かれました。

管玉・臼玉... 首かざりにした玉です。管状のものを管玉、臼状のものを臼玉と呼んでいます。

剣形模造品... 剣の形をまねて作られました。ぶら下げるために穴があいています。

有孔円板... まるい鏡の形をまねて作られました。穴が1か所あけられた単孔円板、2か所あけられた双孔円板に分けられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成16年9月29日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年3月8日に現地踏査を、平成18年9月12～15日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成18年9月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に堂ノ上遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨回答した。

平成18年10月12日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘についての通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成18年10月13日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

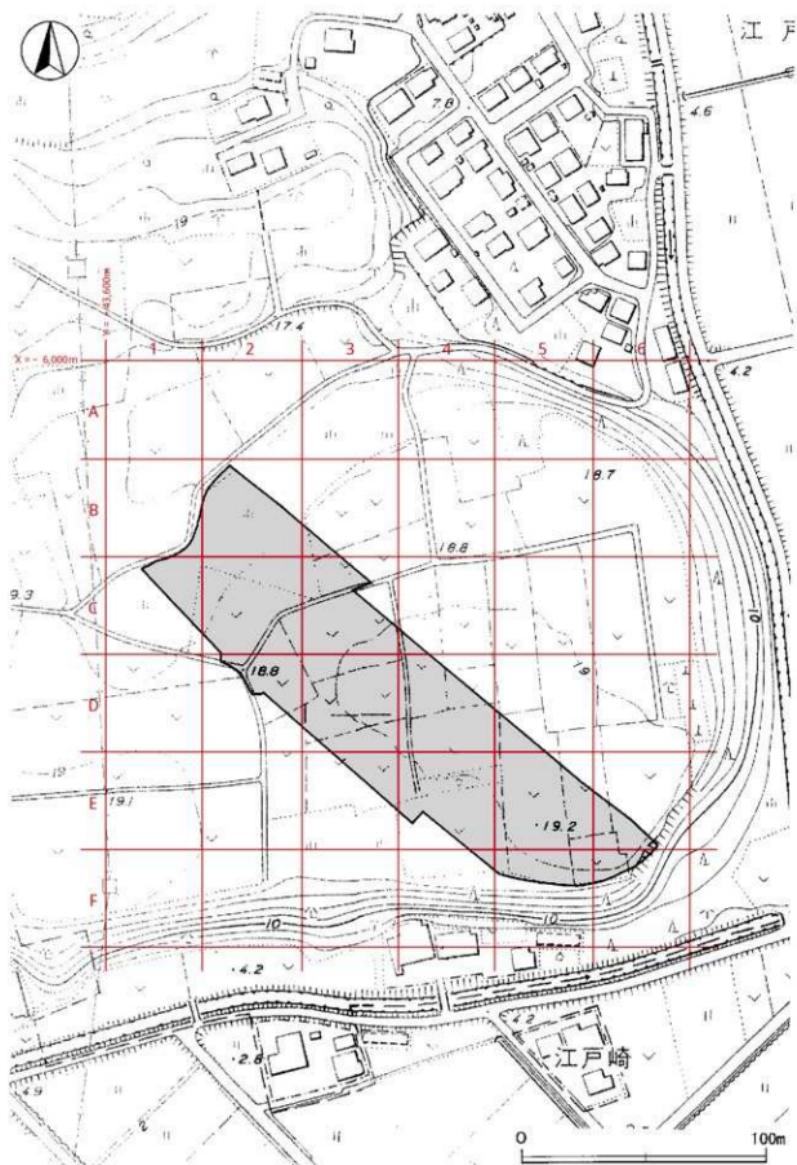
平成19年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、堂ノ上遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財団を紹介した。

財團法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成19年1月1日から平成19年3月31日、及び平成19年4月2日から平成20年3月31日まで、堂ノ上遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成19年1月1日から平成19年3月31日、および平成19年4月2日から平成20年3月31日まで実施した。その概要を、表で掲載する。

期間 工程	平成19年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月
調査準備															
表土除去															
遺構確認															
遺構調査															
遺物洗浄 注記作業 写真整理															
補足調査															
撤収															



第1図 堂ノ上遺跡調査区設定図（江戸崎都市計画図 2,500分の1）



第2図 堂ノ上遺跡遺構全体図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

堂ノ上遺跡は、茨城県稲敷市（旧江戸崎町）に所在している。稲敷市は、平成17年に江戸崎町・東町・新利根町・桜川村の4町村が合併してできた新しい市で、茨城県の南部に位置している。北は霞ヶ浦南岸に面し、東は横利根川、南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は、霞ヶ浦水系及び利根川水系による沖積低地と稲敷台地と呼ばれる標高20~30mの洪積台地からなっており、これらの水系に挟まれた台地は、北西のつくば市から続く筑波・稲敷台地の最東南端に当たる。市域の稲敷台地は、小野川右岸の神宮寺台地と左岸の江戸崎台地に分かれ、西部から流入して霞ヶ浦に注ぐ小野川、小野川の支流である清水川や花指川などによつて緩やかな起伏を持つ多数の谷津が複雑に入り組み、樹枝状に開析されている。

稲敷台地の地層は、第四紀洪積世の古東京湾時代に堆積した成田層を基盤として、成田層下部、成田層上部、龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土層の順に堆積しており、その堆積状況は水平かつ單調で、摺曲や断層は見られない¹⁾。

当遺跡は小野川左岸の江戸崎台地に位置し、小野川と沼里川に挟まれた標高約20mほどの舌状台地上に立地している。調査前の現況は畑地である。

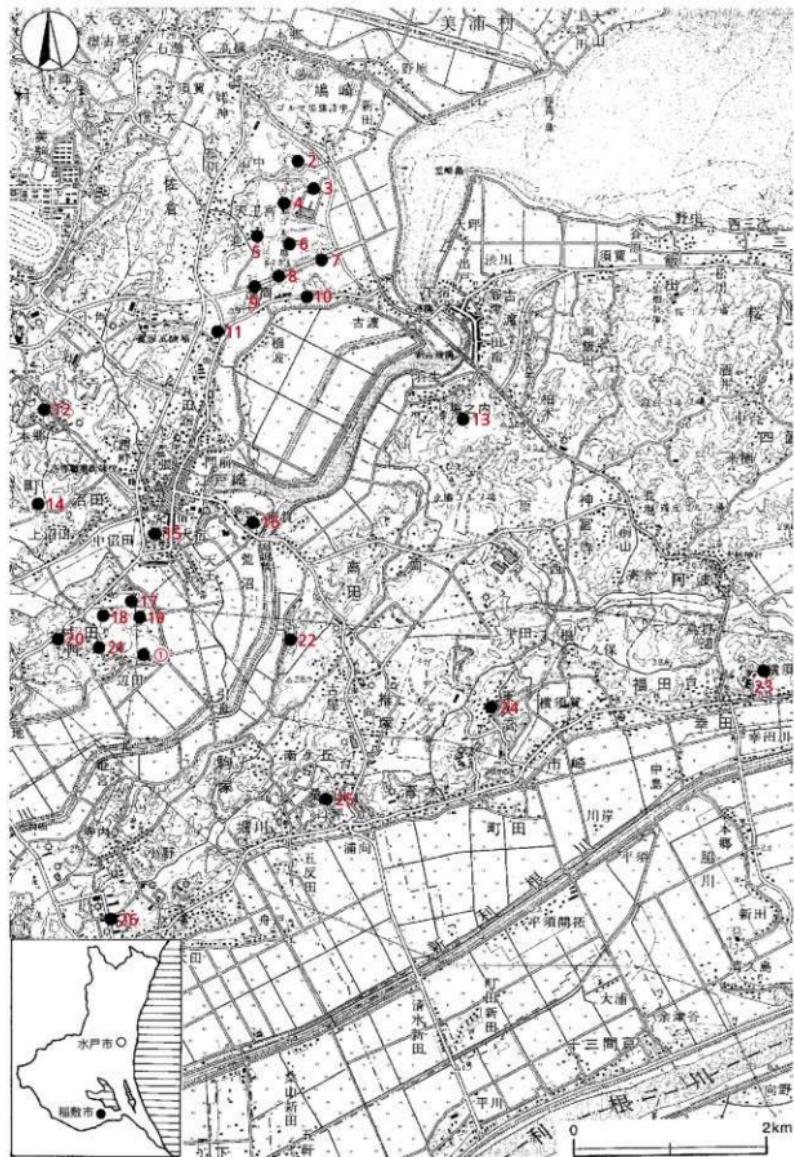
第2節 歴史的環境

稲敷市は河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境を示し、台地上には数多くの遺跡の分布が認められており、これまで旧石器から近世までの約160遺跡が周知されている。ここでは主な遺跡について時代を追って、調査成果をもとに記述する。

旧石器の遺跡は、中峰遺跡⁽²⁾で5か所の石器集中地点が調査され、石器の接合資料などが確認されている²⁾。また、秋平遺跡⁽⁶⁾からはナイフ形石器が出土している³⁾。住居跡や土坑の覆土からナイフ形石器、剥片などが出土した例は増加しているものの、明確な生活痕跡は確認されていない⁴⁾。

縄文時代になると遺跡数が増加し、霞ヶ浦水系と利根川水系に挟まれた台地上に、村田貝塚⁽²⁰⁾や椎塚貝塚⁽²²⁾、他に沼田貝塚⁽¹⁴⁾、吹上貝塚⁽¹¹⁾などの貝塚が多く確認されている。縄文時代の霞ヶ浦は鹹水域であり⁵⁾、小野川左岸に位置する村田貝塚では、前期から中期にかけての貝塚から、ハマグリ、オキシジミ、シオフキなどの貝の他に、魚骨、獸骨や骨角器、土鍤などが出土しており、漁労を営んだ当時の様子をうかがい知ることができる。後期の椎塚貝塚からは、注口土器や山形土偶、石棒のほか、ヤスが突き刺さった状態で発見されたタイの頭骨が出土したことが知られている⁶⁾。また、見松遺跡⁽¹⁹⁾で中期の住居跡、中峰遺跡で土坑がそれぞれ調査されている⁷⁾。そのほか、櫛の台古墳群⁽¹⁰⁾・思川遺跡⁽⁸⁾で早期の炉穴が調査され、中佐倉貝塚⁽⁴⁾では、前期の住居跡と地点貝塚が調査されている¹⁰⁾。

弥生時代の遺跡は、これまでに旧江戸崎町内には周知されていなかった。しかし、近年の調査により、後期の集落跡が確認されている。櫛の台古墳群から弥生時代後期の住居跡が6軒確認され、さらに大日山古墳群⁽⁷⁾で8軒¹¹⁾、思川遺跡で3軒と調査例が増加している。特に大日山古墳群は、土器様相から集落の形成時期が中期後葉まで遡ることが判明するなど、弥生時代の様相も徐々に明らかになっている。



第3図 堂ノ上遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 50,000分の1「佐原」）

表1 堂ノ上遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世	近世		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	
①	堂ノ上遺跡	○	○	○	○	○			14	沼田貝塚	○				
2	池平遺跡		○	○					15	江戸崎城跡				○	○
3	水神峯古墳			○					16	御城遺跡				○	
4	中佐倉貝塚	○	○	○					17	見晴塚古墳			○		
5	姫宮古墳群			○					18	豆葉師遺跡	○	○	○		
6	秋平遺跡	○	○	○					19	児松遺跡	○				
7	大日山古墳群	○	○	○	○	○	○		20	村田貝塚	○	○	○	○	
8	思川遺跡	○	○	○	○				21	中峰遺跡	○	○	○	○	
9	二の宮貝塚			○	○	○	○		22	椎塚貝塚	○				
10	樋の台古墳群		○	○	○				23	幸田遺跡	○	○	○	○	
11	吹上貝塚	○	○						24	東大沼古墳群			○		
12	犬塚遺跡					○	○		25	上の台遺跡			○		
13	下君山廃寺				○				26	諏訪原古墳群			○		

古墳時代の遺跡は、多くの古墳や集落跡が確認されている。6世紀前葉に築造されたと考えられる水神峯古墳(3)では、緑泥片岩製で、内部朱塗りの箱式石棺が確認され、副葬品として直刀、鐵鎌、刀子などの鉄器や武具のほか、金銅張りの馬鞍、F字形鏡板付き櫛や辻金具といった馬具などが出土している¹²⁾。樋の台古墳群では、7基中6基が調査され、箱式石棺が確認されており、全長40mの前方後円墳を主墳とした後期古墳群とされる¹³⁾。姫宮古墳群(5)は全長約32mの前方後円墳を主墳とした6世紀後半の古墳群と考えられている¹⁴⁾。東大沼古墳群(24)では、第7号墳から金環や直刀7振のほか、鐵鎌、ガラス小玉・棗玉・勾玉・管玉・切小玉・丸玉といった玉類が出土し、6世紀後葉の築造と考えられている¹⁵⁾。利根川左岸に所在する諏訪原古墳群(26)は、円墳だけ構成された古墳群で、箱式石棺から人骨2体が確認されている¹⁶⁾。このような古墳群のほかに、中峰遺跡内にある中峰古墳、見晴塚古墳(17)や豆葉師遺跡(18)のような単独の古墳も多く確認されている。旧桜川村では、前浦遺跡が調査され、一边約5mの正方形の掘り込みから、口縁部や底部が故意に打ち欠かれた埴・高坏・壺20点、球状土鍤30点とともに、有孔円板や劍形模造品・小形勾玉が約50点出土しており、滑石製模造品を主体とした漁業集団による海辺祭祀が行なわれていた祭祀遺跡と考えられている¹⁷⁾。集落跡としては、池平遺跡¹⁸⁾(2)や秋平遺跡のほか、二の宮貝塚(9)、大日山古墳群、思川遺跡、上の台の遺跡(25)、幸田遺跡¹⁹⁾(23)などが多数調査されている。二の宮貝塚や大日山古墳群からは、有孔円板、劍形品などの石製模造品や土製勾玉、球状土鍤、管状土鍤などの土製品が出土している。樋の台古墳群では、初期竈が付設された住居跡が6軒確認され、池平遺跡では、5世紀後半から6世紀前半段階で集落が最盛期になるといた様相が見られる。時期は明らかではないが、利根川の北岸台地上に所在する上の台遺跡では、玉作工房跡が確認され、碧玉や滑石による管玉・臼玉・有孔円板・劍形模造品や未成品が出土している²⁰⁾。当遺跡の東方約6kmに位置する幸田遺跡では、5世紀前半から中頃に小集落が出現・消滅した後、6世紀前半に再び集落が出現し、滑石を材料とした勾玉・管玉・臼玉・劍形・有孔円板・刀子などの石製模造品や、その製作工房跡

と捉えられる住跡が検出されるなど、当時の5世紀末から6世紀前半期における集落の様相を知るうえで貴重な資料となっている。

奈良平安時代の当地域は、信太郡に属し、当遺跡が所在する小野川左岸一帯は駅家里に比定されている。この時代の遺跡では、小野川左岸の台地上に下君山廃寺跡²¹⁾(13)が所在している。この台地上の一帯には、布目瓦が散布している。台地の中央は木瓜台と呼ばれており、この畑の中の土壇状に小高くなっている場所に心礎と石造露盤が置かれている。瓦は、8世紀前半の重弧文軒平瓦や、9世紀前半の国分寺系素縁複弁十葉花文軒丸瓦と均整唐草文軒平瓦が出土しており、信太郡の郡寺跡と推定されている²²⁾。また集落跡では、信太郡信太郷に比定されている地域で、櫛の台遺跡で9世紀、秋平遺跡・思川遺跡で8~11世紀、中佐倉貝塚では8世紀のち10~11世紀、池平遺跡で10世紀、二の宮貝塚で10~11世紀の掘立柱建物跡を伴う集落跡が調査されている。

江戸崎は、中世信太庄と呼ばれる莊園に含まれており²³⁾、城館跡は、江戸崎城跡(15)、御城 遺跡(16)、犬塚遺跡(12)、羽賀城跡、二重堀遺跡²⁴⁾などが存在している。南北朝時代末期には山内上杉氏の支配下に置かれ、やがてその被官である土岐原氏・白田氏が当地に赴任する。土岐原氏は7代約200年にわたって当地方を支配し、江戸崎城を本拠に霞ヶ浦対岸の行方一帯まで勢力を有した常南の地頭領主として知られている。しかし、北条氏と手を結んだため、1590年には豊臣秀吉の関東平定の余波を受けて、江戸崎城を明け渡す。その後、佐竹義宣の弟芦名盛重が城主となるが、1620年に徳川家康によって秋田角館に移封となる。盛重が秋田移封後に青山忠俊が城主となるが、間もなく江戸崎城は廢城となった。

※ 文中の()内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

註

- 1) 稲原紀夫ほか『茨城県 地学のガイド』コロナ社 1997年8月
- 2) 本橋弘巳『中峰遺跡・尻松遺跡 一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告書』第286集 2008年3月
- 3) 平田満男・小林園子・大賀健『秋平遺跡・池平遺跡・中佐倉貝塚 ザ・インペリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
江戸崎町佐倉地区遺跡発掘調査会 1999年7月
- 4) 茨城県史編集委員会『茨城県史料 考古資料編 先土器・绳文時代』茨城県 1979年3月
- 5) 江戸崎町史編さん委員会『江戸崎町史』江戸崎町 1997年3月
- 6) 註4文献と同じ。
- 7) 註4文献と同じ。
- 8) 関宮正光・高野浩之・平岡和夫『櫛の台古墳群 第2・3次発掘調査報告書』江戸崎町教育委員会 2001年3月
- 9) 鈴木美治『茨城県新川江戸崎森道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 二の宮貝塚 大日山古墳群 思川遺跡』『茨城県教育財团文化財報告』第65集 1991年3月
- 10) 註3文献と同じ。
- 11) 註3文献と同じ。
- 12) 関宮正光『廻宮古墳群1・2号墳・水神峯古墳』江戸崎町教育委員会 2000年10月
- 13) 註8文献と同じ。
- 14) 註12文献と同じ。
- 15) 森田忠治『東大沼古墳群第7号墳発掘調査報告書』『東町立歴史民俗資料館文化財調査報告書』第1集 2000年3月
- 16) 新利根村史編纂委員会編『新利根村史(一)』1981年11月
- 17) 茨城県史編さん原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県 1974年2月
- 18) 註3文献と同じ。
- 19) 関宮正光『幸田遺跡・幸田台遺跡 東台田遺跡造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』東町教育委員会 1995年3月
- 20) 瓦吹懐ほか『学术調査報告4 茨城県における古代瓦の研究』茨城県立歴史館 1991年3月
- 21) 矢戸三男・豊巣幸正・塙谷修『関東II 茨城県・千葉県・東京都・神奈川県』寺村光晴編『日本玉作大観』吉川弘文館 2004年8月
- 22) 註5文献と同じ。
- 23) 註5文献と同じ。
- 24) 大隈武「二重堀遺跡 主要地方道駅ヶ崎阿見稚バイパス整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告』第297集 2008年3月

参考文献

茨城県教育厅文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2002年3月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

当遺跡は、小野川左岸の標高19mほどの舌状台地の先端部に立地している。調査面積は12,320m²で、調査区域は、その台地を南北に縱断するような帶状を呈している。調査前の現況は、畑地である。

調査の結果、堅穴住居跡151軒（弥生時代3・古墳時代146・平安時代2）、堅穴建物跡6棟（古墳時代）、掘立柱建物跡1棟（中世）、溝跡19条（時期不明）、土坑100基（弥生時代1・古墳時代8・平安時代1・時期不明90）が確認できた。

遺物は、遺物コンテナ（60×40×20cm）に293箱出土している。主な遺物は、弥生土器（壺、土師器（壺・椀・高台付壺・壺・器台・高壺・鉢・壺・甌・瓶・ミニチュア）、須恵器（壺・蓋・高壺・甌・甌）、土製品（勾玉・小玉・土玉・管状土鍾・支脚・紡錘車）、石器（敲石・砥石）、石製品（子持勾玉・勾玉・管玉・甌玉・白玉・紡錘車・單孔円板・双孔円板・劍形模造品）、ガラス製品（勾玉・小玉）、鐵滓、馬骨などである。

第2節 基本層序

調査区東部のE4 g0区にテストピットを設定し、基本層序を確認した（第4図）。層序は以下の通りである。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土で、層厚は26~50cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層で、粘性・縮まりが強い。層厚は14~32cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は43~60cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は16~21cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。始良丹沢火山灰（AT）が含まれている可能性が高い。層厚は38~55cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は8~26cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は29~39cmである。第2黒色帯の上部に相当すると考えられる。

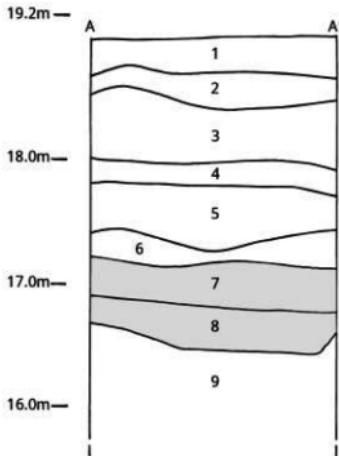
第8層は、暗褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は17~35cmである。第2黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第9層は、褐色を呈するハードローム層で、粘性・

縮まりが強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

なお、遺構は第2層の上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 弥生時代の遺構と遺物

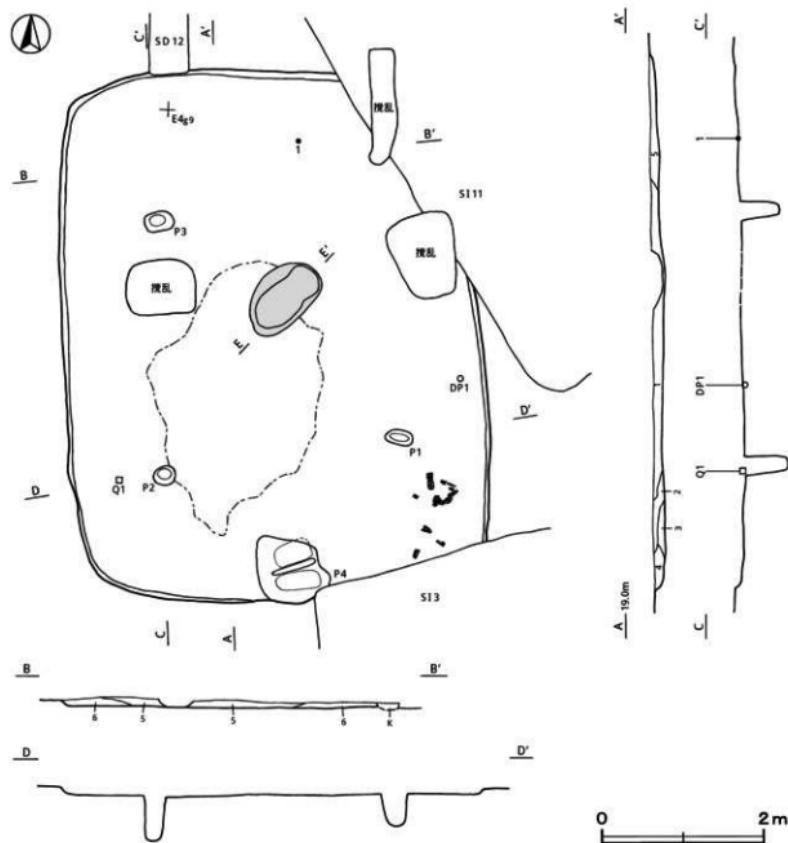
当時代の遺構として、竪穴住居跡3軒、土坑1基が確認できた。以下、遺構と遺物について記述する。

(i) 竪穴住居跡

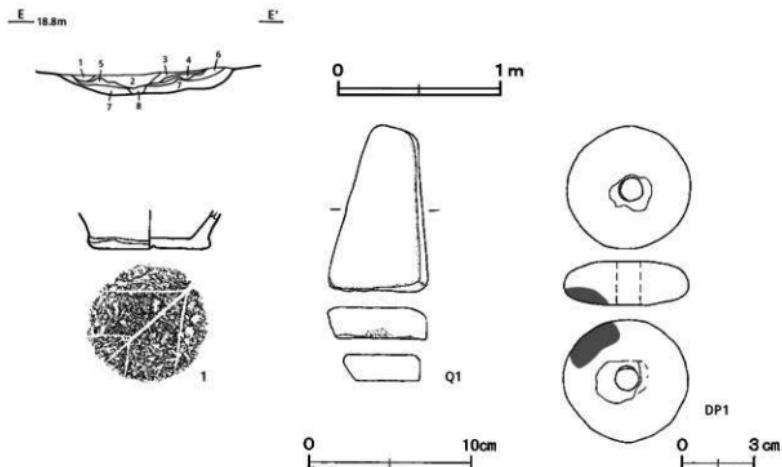
第10号住居跡（第5・6図）

位置 調査区東部のE4g9区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 第3・11号住居、第12号溝に掘り込まれている。



第5図 第10号住居跡実測図



第6図 第10号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸6.58m、短軸5.10mの隅丸長方形で、主軸方向はN=8°-Wである。壁高は6~13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央から南側の炉周辺が踏み固められている。コーナー部に炭化材が遺存している。

炉 中央やや北寄りに付設されている地床である。長径1.05m、短径0.66mの楕円形で、床面を12cm掘り込んでいる。床面とほぼ同じ高さを炉床としており、第5・6層が赤変硬化している。

伊土層解説

1 黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量	5 明赤褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子微量
2 暗赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量	6 明赤褐色	燒土ブロック多量、ローム粒子微量
3 暗赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量	7 ぬい赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量
4 暗赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量	8 暗赤褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量

ピット 4か所。P 1~P 3は深さ38~55cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。壁際の層に焼土や炭化材が多く含まれ、ブロック状の堆積から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	4 黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・燒土粒子微量
2 暗赤褐色	ロームブロック少量	5 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片192点(壺)が出土している。また、混入した土師器片82点(壺13、高杯4、甕65)、須恵器片2点(壺)、石英片9点、頁岩1点も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土し、西壁際の床面から雲母片岩片が出土している。Iは北壁寄り、DP 1は東壁際のそれぞれ床面、Q 1は南北壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。コーナー部の床面に炭化材が遺存することから、焼失した可能性がある。

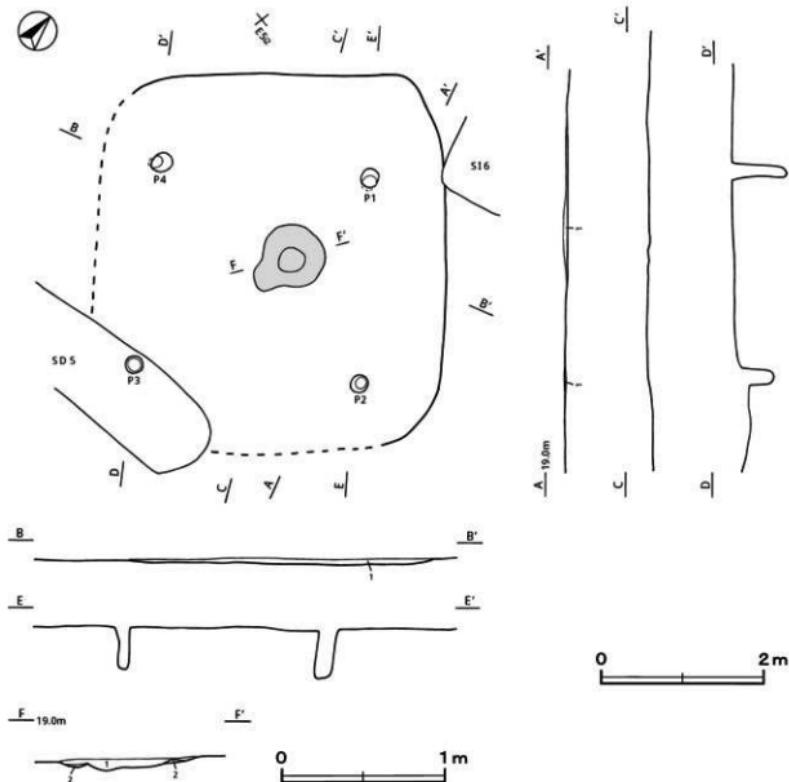
第10号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	釜	-	(2.4)	7.6	長石・石英・雲母	明褐色	普通	附加条1種縹文 底面木葉柄	床面	10%
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土			特徴	出土位置	備考
DP1	筋縫甌	5.1	1.8	0.9	51.4	長石・石英・雲母	ナゲ	一方向からの穿孔		床面	PL79

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	敲石	10.2	6.1	1.6	145.3	安山岩	敲打痕1か所	覆土下層	

第12号住居跡（第7図）

位置 調査区東部のE 5 i 2区、標高18.6mの台地上に位置している。



第7図 第12号住居跡実測図

重複関係 第6号住居、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.31mの隅丸方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は6cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、炉周辺がやや踏み固められている。

炉 中央部に付設されている地床炉である。長径0.96m、短径0.80mの楕円形で、床面を6cm掘り込んでいる。第2層が赤変硬化している。

伊土層解説

1 緑 赤 極色 ロームブロック・焼土ブロック微量

2 赤 黄 極色 焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 4か所。P.1~P.4は深さ34~65cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 単一層である。堆積が薄いが、ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 緑 赤 極色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片3点（壺）が出土している。また、混入した土師器片75点（坏5、甕70）が出土している。出土遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、住居の形状から弥生時代と考えられる。

第19号住居跡（第8図）

位置 調査区東部のE 4c3区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第65号土坑跡に掘り込み、第20号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.76m、短軸4.74mの長方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は10~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な床で、炉の周辺のみが踏み固められている。

炉 北壁寄りに付設された地床炉である。長径67cm、短径48cmの楕円形で、床面とほぼ同じ高さを炉床としており、第1層が赤変硬化している。

伊土層解説

1 緑 黄 極色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

3 緑 黄 極色 焼土粒子少量、ロームブロック微量

2 赤 黄 極色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 緑 黄 極色 ローム粒子微量

6 緑 黄 極色 ロームブロック中量

2 緑 黄 極色 ロームブロック少量

7 黄 黄 極色 ローム粒子多量

3 緑 黄 極色 ロームブロック微量

8 黄 黄 極色 ロームブロック多量

4 黄 黄 極色 ロームブロック中量

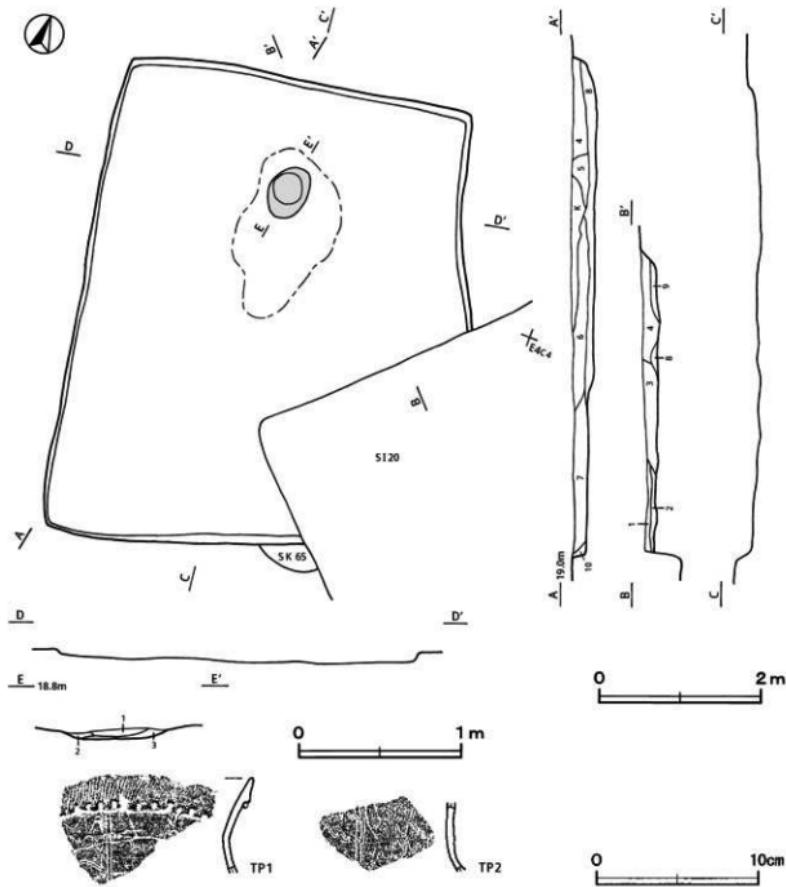
9 黄 黄 極色 ロームブロック微量

5 黄 黄 極色 ロームブロック少量

10 緑 黄 極色 ローム粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片89点（壺）が出土している。また、混入した土師器片53点（坏6・甕47）、須恵器片2点（甕）、土製品1点（土玉）が出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から覆土下層にかけて出土している。TP 1・TP 2はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から弥生時代後期と考えられる。



第8図 第19号住居跡・出土遺物実測図

第19号住跡出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	層構	地土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	弥生土器	壺	長石・石英	褐色	普通	複合口縁・口縁部外周面波状文・複合部下端斜突・頸部沈線による複合区画内に櫛縞波状文	壺土中	
TP2	弥生土器	壺	長石・石英	褐色	普通	沈線による複合区画内に櫛縞波状文	壺土中	

表2 弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平 前 形	規模 (m) 長幅×幅幅	高さ (cm)	床面 形状	壁面 形状	内部構造				主な出土遺物	時 期	裏塗跡 (有・無)
								六角柱 柱	口口任 アーチ	アーチ アーチ	炉			
10	E 4 g9	N- B' - W	圓丸長方形	6.58×5.10	6-13	平坦	-	3	1	-	1	人為 弥生土器	本跡→SI 3-11, SD 12	
12	E 5 j2	N- 50' - E	圓丸長方形	4.65×4.31	6	平坦	-	4	-	-	1	人為 弥生土器	本跡→SI 6, SD 5	
19	E 4 c3	N- 18' - W	長方形	5.76×4.74	10-28	平坦	-	-	-	-	1	人為 弥生土器	SI 6→本跡→SI 20	

(2) 土坑

第65号土坑 (第9図)

位置 調査区東部のE 4 c3区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第19・20号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径104cm、短径76cmの楕円形で、長径方向はN-86°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

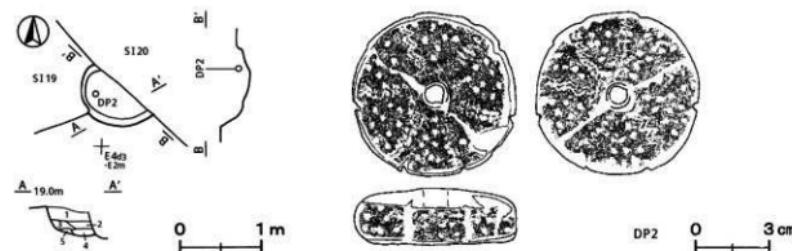
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量

4	暗褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 弥生土器7点(壺), 土製品1点(紡錘車)が出土している。DP2は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から弥生時代と考えられる。



第9図 第65号土坑・出土遺物実測図

第65号土坑出土遺物観察表 (第9図)

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP2	紡錘車	47	47	1.0	50.1	長石・石英	上・下・側面竹管による刺突文と波状文	覆土中層	PL79

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構として、竪穴住居跡146軒、竪穴建物跡6棟、土坑8基が確認できた。なお、工房跡と考えられる建物跡など、住居以外の用途が推測される遺構は竪穴建物跡とした。以下、遺構と遺物について記述する。

(i) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第10・11図)

位置 調査区東部のE 6 i4区、標高19.4mの台地上に位置している。

重複関係 西部を第2・3号構に掘り込まれている。

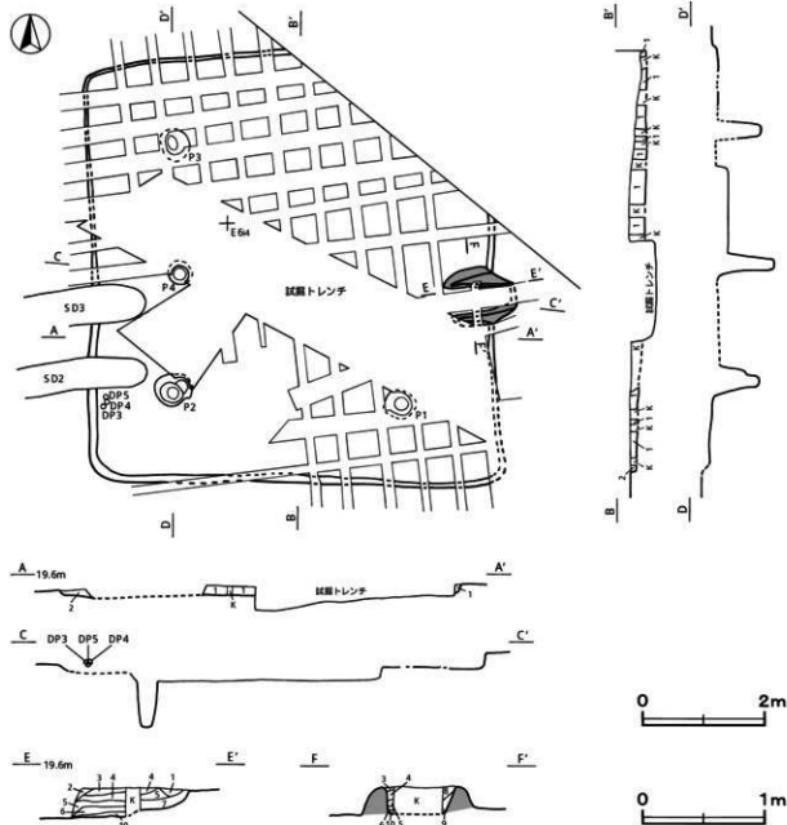
規模と形状 北西部が調査区域外に延びている。南北軸7.02m、東西軸6.58mの方形で、主軸方向はN-92°-Eである。壁高は12~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。龜周辺に若干の高まりがある。

龜 東壁の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部までの規模は搅乱により不明である。燃焼部幅は42cmである。火床面は搅乱により不明である。

遺土層解説

1	灰褐色	砂粒中量、粘土ブロック・炭化物、ローム粒子微量	6	暗赤褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化物、砂粒微量
2	褐褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子、砂粒微量	7	赤褐色	砂粒少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
3	灰褐色	砂粒多量、粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
4	赤褐色	粘土ブロック少量、砂粒少量	9	明褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5	褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量	10	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、砂粒微量



第10図 第1号住跡実測図

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ48～72cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ86cmで、主柱穴間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

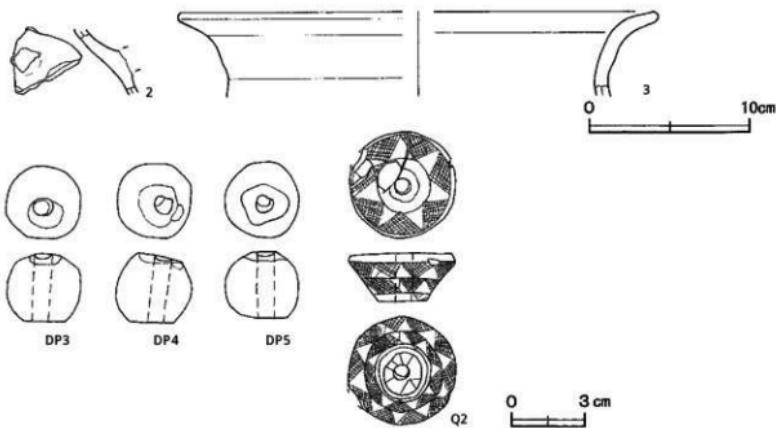
土層解説

1 植物 黄色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 植物 黄色 ロームブロック・施土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片334点(壺56・高杯2・壺4・甕265・瓶7)、須恵器片4点(壺2・瓶1・甕1)、土製品14点(土玉3・支脚11)、石器1点(砥石)、石製品1点(紡錘車)、滑石片1点が出土している。また、混入した弥生土器片30点(壺)、須恵器片1点(高台付壺)も出土している。遺物の大半は、覆土下層から出土している。DP 3～DP 5は南西コーナー部の床面からまとめて出土し、2・3、Q 2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀代と考えられる。



第11図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表(第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	須恵器	瓶	-	(41)	-	長石	ぶい黄	普通	肥手欠缺 自然釉	覆土中	5%
3	土師器	壺	[29.2]	(52)	-	長石・雲母	橙	普通	ナデ	覆土中	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	土玉	3.1	2.8	0.8	26.6	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	
DP4	土玉	3.1	2.9	0.8	26.1	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	
DP5	土玉	3.1	2.7	0.7	27.2	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	紡錘車	4.4	2.0	0.7	(46.1)	滑石	上・下・側面縦斜 網目文 二方向からの穿孔 剣面刀子状工具で整形カ	覆土中	PL82

第2号住居跡(第12・13図)

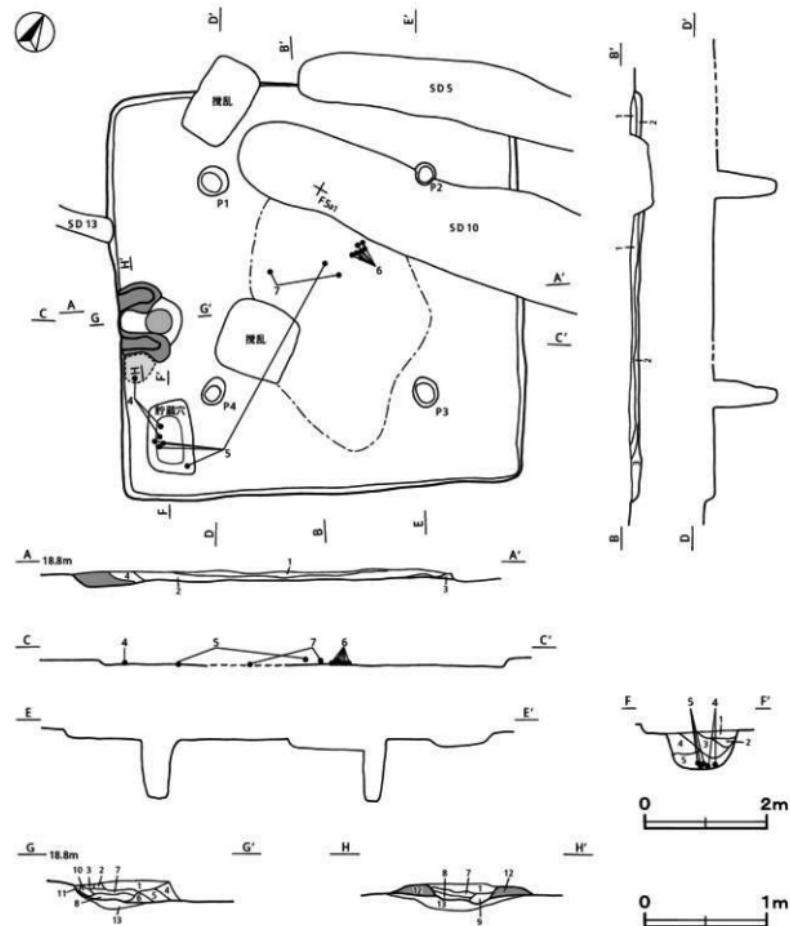
位置 調査区東部のF 5 al区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第5・10号構、南西部を第13号構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.70m、短軸6.60mの方形で、主軸方向はN-123°-Wである。壁高は8~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部までの規模は107cm、燃焼部幅55cmである。第12層は袖部で、粘土ブロックを主体とする褐色灰色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第13層は掘り方への埋土である。



第12図 第2号住居跡実測図

遺土層解説

1	褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	にじみ褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐 色	焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量微量	8	褐 色	炭化粒子微量、ロームブロック・焼土ブロック微量
3	にじみ褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子微量	9	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	褐 色	ロームブロック微量
6	赤 色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量	12	明 褐 灰 色	粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量
			13	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、砂粒微量

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ89～104cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸120cm、短軸75cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

坑窓穴層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	4	褐 色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	褐 色	ロームブロック・砂粒微量	5	暗 褐 色	焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量			

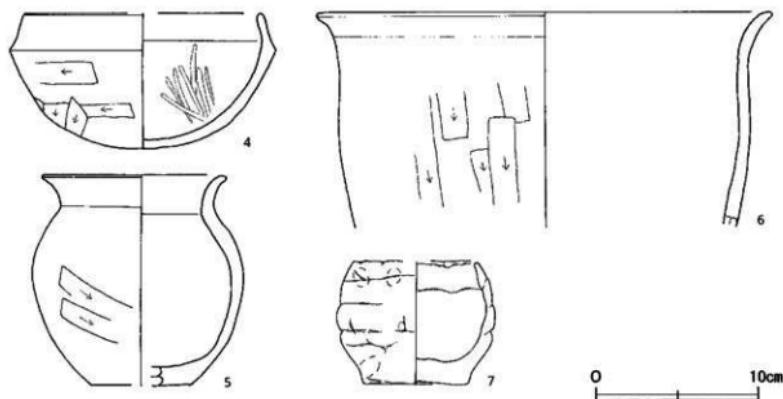
覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	3	褐 色	ロームブロック微量
2	暗 褐 色	ロームブロック微量	4	暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片632点（坪141・高坪7・甕404・瓶77・ミニチュア3）、須恵器片5点（坪1・甕4）、土製品8点（土玉7・管状土錐1）が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片83点（壺）も出土している。遺物の大半は、中央部と南コーナー部の覆土中層から下層にかけて出土している。6は中央部の床面、4・5は貯蔵穴の覆土下層、7は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第13図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土器	环	[146]	8.4	-	長石・雲母	明赤褐色	普通	体部外側へラ削り 内面磨き	貯藏穴	70% PL.4
5	土器	小形環	11.0	12.9	[16.2]	長石・石英	褐	普通	体部外側へラ削り 内面ヘナダ	貯藏穴	70%
6	土器	瓶	27.9	(13.2)	-	長石	褐	普通	体部外側へラ削り 内面磨き	床面	15%
7	土器	ミニチュア	[7.6]	7.6	6.4	長石・赤色粒子	明赤褐色	普通	内面ヘナダ	覆土下層	30%

第3号住居跡（第14・15図）

位置 調査区東部のE4h0区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.65m、短軸6.43mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は18~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から南壁際にかけて踏み固められている。壁構が部分的に確認できた。

竈 2か所。竈1は北壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、燃焼部幅56cmである。袖部は第10~12層で、砂粒とロームブロックを主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2は北壁の中央部に位置している。煙道部しか確認できなかった。壁外に28cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。遺存状況から、竈2から竈1へ作り替えられている。

竈1土層解説

- 1 硫 黄 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黄 色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 赤 黄 色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 にい赤褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 にい赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黄 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 7 黄 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 赤 黄 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 硫 黄 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黄 黄 色 粘土ブロック多量、焼土ブロック微量
- 11 硫 黄 色 砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 12 黄 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・砂粒微量
- 13 明赤 黄 色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
- 14 にい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 15 黄 黄 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 16 硫 黄 色 ロームブロック少量、砂粒微量
- 17 黄 色 ローム粒子・焼土粒子微量

竈2土層解説

- 1 硫 黄 色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量
- 2 硫 黄 色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
- 3 硫 黄 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 4 硫 黄 黄 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 にい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 赤 黄 色 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 7 黄 黄 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 8 硫 黄 色 ロームブロック少量
- 9 黄 黄 色 ロームブロック少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ45~54cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯藏穴 北東コーナー部に付設されている。長径100cm、短径73cmの楕円形で、深さは26cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

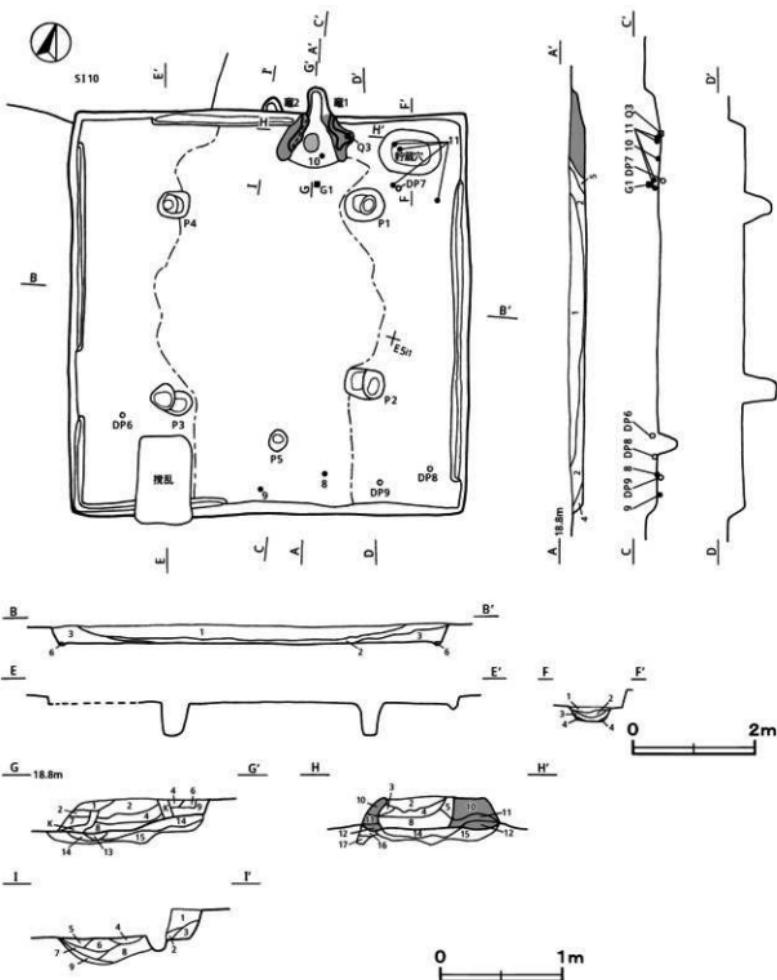
貯藏穴土層解説

- 1 硫 黄 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 硫 黄 色 ロームブロック少量
- 3 黄 黄 色 ロームブロック微量
- 4 硫 黄 色 ローム粒子少量

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 紺 色 ロームブロック微量 |
| 2 灰 紺 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰 紺 色 ロームブロック・燒土ブロック・砂粒微量 |
| 3 灰 紺 色 ロームブロック少量 | 6 灰 色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

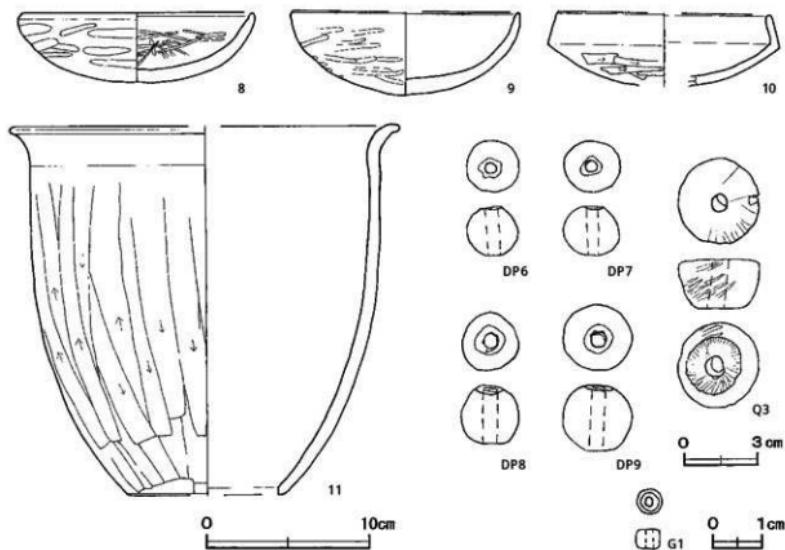


第14図 第3号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片820点（壺298・高环1・甕457・瓶62・ミニチュア2）、須恵器片3点（壺・蓋・甕）、土製品27点（小玉1・土玉18・支脚8）、石製品1点（紡錘車）、ガラス製品1点（小玉）、鉄滓2点（0.2g）、滑石片8点、褐鐵鉱1点が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片106点（壺）も出土している。遺物の

大半は、全体の覆土中層から下層にかけて出土している。8・9は南壁寄りの床面、DP6～DP9は壁際の覆土下層から床面にかけて、10は竈燃烧部、11は貯藏穴の上面、Q3は竈右袖部の覆土下層、G1は竈の前面の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀末葉と考えられる。



第15図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土器	壺	14.3	4.3	-	長石・石英・雲母	ぶい黄褐色	普通	体部外面へラ削り後磨き 内面磨き	床面	60%
9	土器	壺	[13.9]	5.2	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	体部外面へラ削り後磨き	床面	55%
10	土器	壺	[13.2]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り	竈燃焼部	30%
11	土器	壺	[23.5]	22.7	[9.6]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り	貯藏穴	50% PL.49

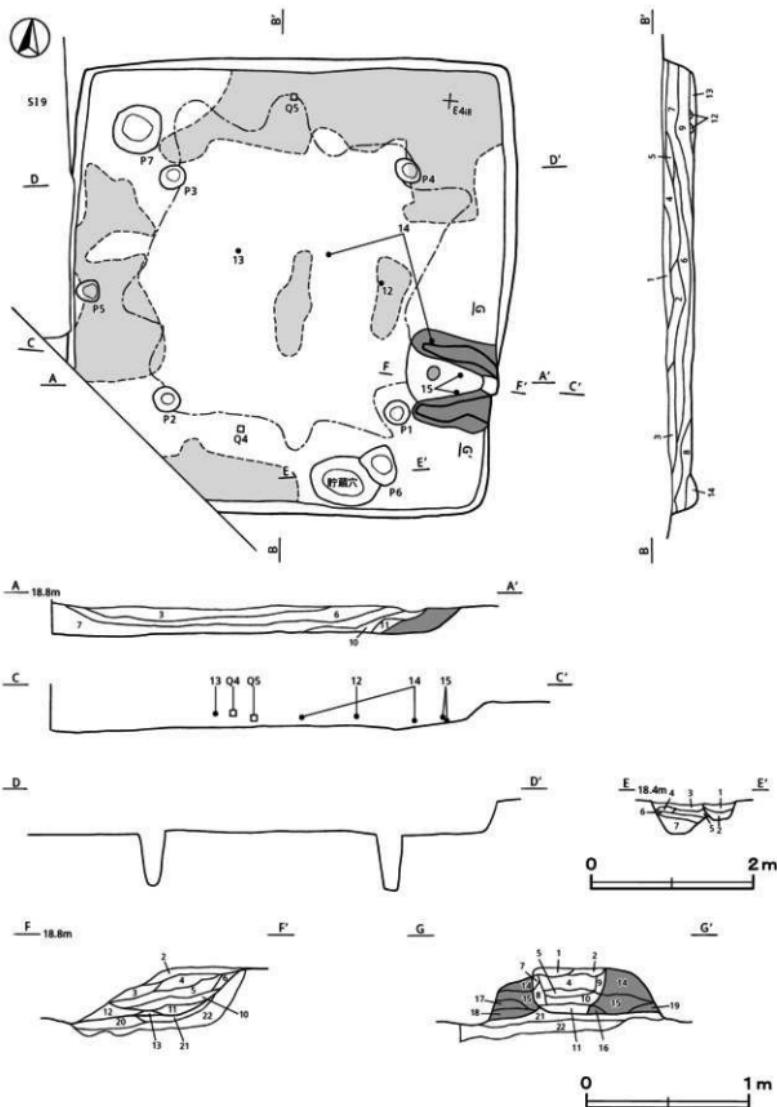
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP6	土玉	2.1	2.0	0.5	8.6	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	PL.78
DP7	土玉	2.3	2.0	0.5	9.4	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	PL.78
DP8	土玉	2.4	2.3	0.6	12.9	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	PL.78
DP9	土玉	2.8	2.7	0.5	16.4	長石	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	結縁環	3.3	2.0	0.6	(35.3)	滑石	上・下面放射状の鋸刃 側面刀子状工具で整形か 二方向からの穿孔	竈右袖部	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G1	小玉	0.5	0.4	0.2	0.1	淡緑	ガラス	一方向からの穿孔 箔切りか	覆土上層	PL.89

第4号住居跡（第16・17図）

位置 調査区東部のE4 i 7区、標高18.7mの台地上に位置している。



第16図 第4号住居跡実測図

重複関係 西部を第9号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.61m、短軸5.50mの方形で、主軸方向はN-85°-Eである。壁高は24~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。中央部と壁際で焼土塊が確認できた。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで115cm、燃焼部幅50cmである。第14~19層は袖部で、ロームブロックと粘土を主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第20~22層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1	褐	褐色	粘土粒子少量、燒土ブロック・ローム粒子・燒土粒子微量	12	褐	褐色	燒土ブロック・ローム粒子・燒土粒子微量
2	褐	褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子微量	13	灰	褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック微量
3	黑	褐色	粘土粒子・燒土粒子微量、ロームブロック微量	14	灰	褐色	燒土粒子多量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量
4	褐	褐色	粘土粒子少量、燒土粒子微量	15	灰	褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量
5	灰	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	16	褐	褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・砂粒微量
6	明	褐色	燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	17	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子・砂粒微量
7	灰	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	18	褐	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・砂粒微量
8	灰	褐色	ローム粒子・燒土粒子・燒土粒子少量	19	褐	褐色	燒土粒子多量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量
9	黑	褐色	ローム粒子・燒土粒子・燒土粒子微量	20	暗	褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量
10	灰	褐色	燒土粒子少量、燒土粒子微量	21	黑	褐色	燒土ブロック・燒土粒子微量
11	暗	褐色	燒土粒子中量、燒土粒子微量	22	褐	褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量

ピット 7か所。P 1~P 4は深さ65~70cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ24~37cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ24cm・40cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南壁際の西寄りに付設されている、長径87cm、短径55cmの楕円形で、深さ55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。P 6と重複しているが、土層からP 6が新しい。第1・2層はP 6の覆土である。

貯蔵穴土層解説

1	黑	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物少量	5	明	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	7	暗	褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
4	灰	褐色	ロームブロック・炭化物微量				

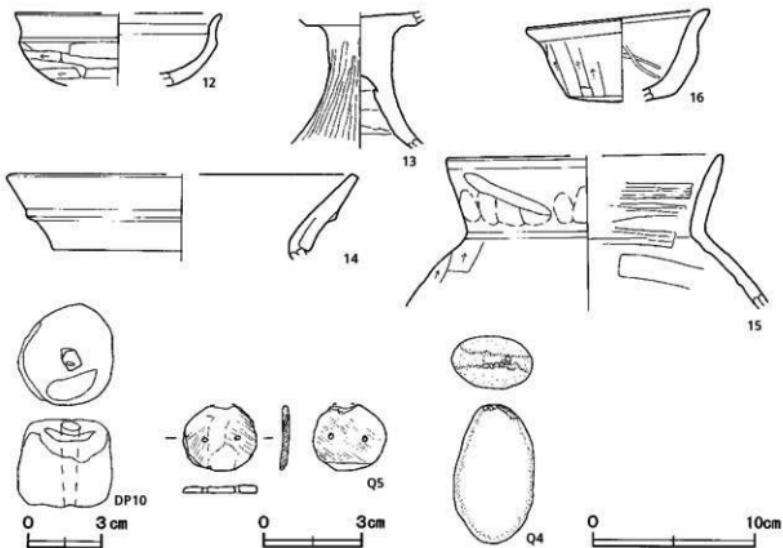
覆土 14層に分層できる。レンズ状の堆積であるが、焼土ブロックやローム粒子が多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	10	灰	褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・燒土粒子微量
2	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	11	灰	褐色	燒土粒子少量、ロームブロック・燒土ブロック微量
3	黑	褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	12	黑	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量
4	灰	褐色	燒土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	13	赤	褐色	燒土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
5	黑	褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子微量	14	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、燒土ブロック微量
6	黑	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量				
7	黑	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量				
8	黑	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量				
9	暗	褐色	燒土ブロック・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土器碎片717点(环124・高杯9・鉢1・壺3・甕580)、須恵器片8点(环5・甕3)、土製品8点(土玉7・管状土錐1)、石器1点(敲石)、石製品7点(白玉5・双孔円板1・劍形模造品1)、滑石片153点、褐鐵鉢1点が出土している。また、混入した縄文土器片2点(深鉢)、弥生土器片120点(壺)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。15は竈の燃焼部、Q 5は北部、12・14は東部のそれぞれ覆土下層、Q 4は南部、13は中央部の覆土中層、DP10は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性が考えられる。



第17図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	底高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土器器	壺	[12.6]	(4.5)	-	長石	にぬ(黄褐)	普通	体部外側へラ削り	覆土下層	15%
13	土器器	高壺	-	(8.3)	-	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	外側磨き 脚部内面へナナデ	覆土中層	30%
14	土器器	壺	[21.0]	(5.3)	-	長石	明赤褐	普通	縦合口縫 粘土絆貼り付け	覆土下層	5%
15	土器器	壺	[16.7]	(9.6)	-	長石・石英・青母・赤色粒子	明褐	普通	体部外側へラ削り 内面へナナデ	覆土焼部	10%
16	土器器	ミニコア	11.2	5.6	6.6	長石・石英	明赤褐	普通	体部外側へラ削り 内面磨き	覆土中	40% PL49

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	鍼状土錐	36	39	0.8	62.6	長石・石英	ナデ調整 指錐圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL79

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	敲石	85	50	32	190	安山岩	敲打痕 1か所	覆土中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	双孔円板	20	23	0.3	0.2	(19)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	

第5号住居跡（第18図）

位置 調査区東部のF4a8区、標高18.6mの台地上に位置している。

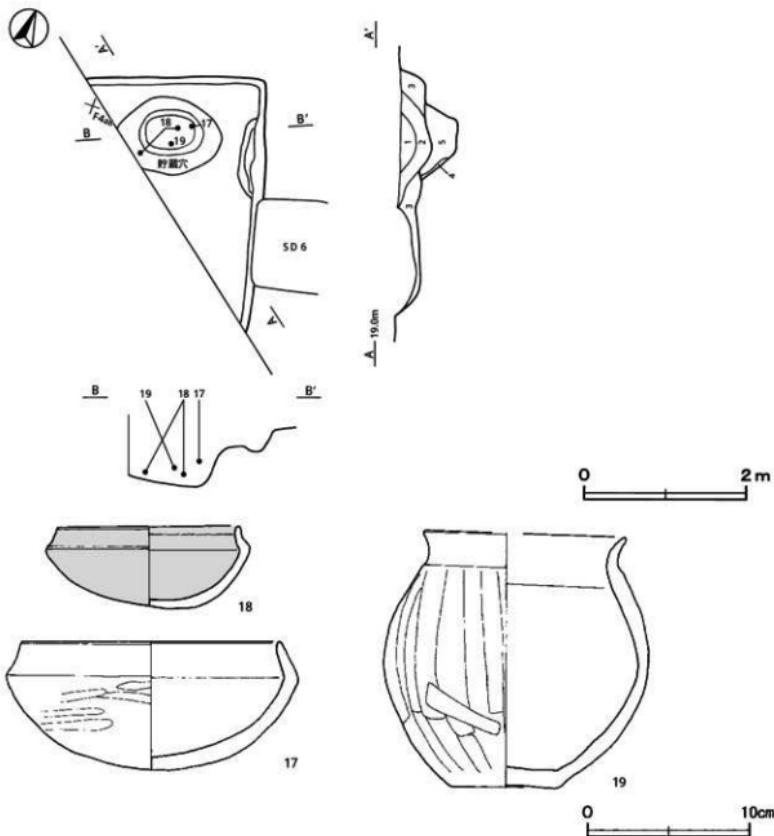
重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、南北軸は3.14mで、東西軸は2.22mしか確認できなかった。

形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、竈が確認できなかったため不明である。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁溝が北東壁下の一部で確認できた。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長径130cm、短径94cmの橢円形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第18図 第5号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第4・5層は貯蔵穴の覆土である。

土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	4	黑	褐色	ロームブロック微量
2	黑	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	5	褐	褐色	ローム粒子微量
3	褐	褐色	ローム粒子少量				

遺物出土状況 土師器片53点(坪21・高坪1・甕29・瓶2), 滑石片1点が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片7点(壺)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土下層から出土している。17~19は貯蔵穴の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。調査区域外に延びているため竈は確認できなかったが、貯蔵穴が北コーナー部に付設されていることから、北西壁に付設されていた可能性がある。

第5号住居跡出土遺物観察表(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	特徴ほか	出土位置	備考
17	土師器	壺	16.0	7.9	-	長石・赤色粒子	にぬけ(模様)	普通	体部外側ヘラ削り後磨き		貯蔵穴	90% PL.49
18	土師器	壺	11.0	5.1	-	長石	にぬけ(模様)	普通	体部外側ヘラ削り		貯蔵穴	80% PL.49
19	土師器	小形壺	[12.3]	15.5	6.5	長石・石膏	根	普通	体部外側ヘラ削り		貯蔵穴	75% PL.49

第6号住居跡(第19・20図)

位置 調査区東部のE5g3区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第12号住居跡を掘り込み、北西部を第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.68m、短軸5.50mの方形で、主軸方向はN-72°-Eである。壁高は20~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部が踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅は46cmである。第4~7層は袖部で、砂粒とロームブロックを主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

土層解説

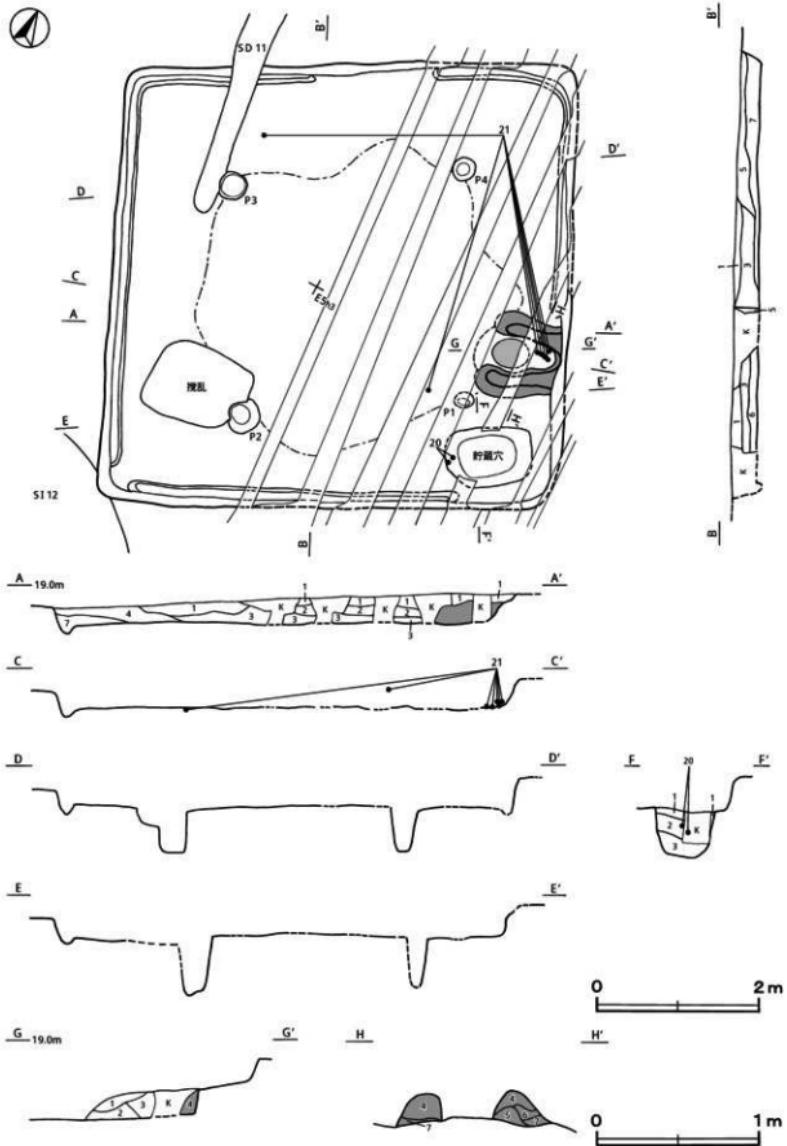
1	灰	褐色	ローム粒子・砂粒少量	5	灰	白色	砂粒多量、ローム粒子少量
2	にぬけ(模様)	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量	6	灰	褐色	砂粒中量、ローム粒子微量
3	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒微量	7	にぬけ(模様)	褐色	砂粒中量、ローム粒子微量、燒土ブロック微量
4	にぬけ(模様)	褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子微量				

ピット 4か所。P1~P4は深さ52~58cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 竈の右側に付設されている。長軸108cm、短軸74cmの隅丸長方形で、深さは60cmである。底面は傾斜して、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	3	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	極暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子微量				



第19図 第6号住居跡実測図

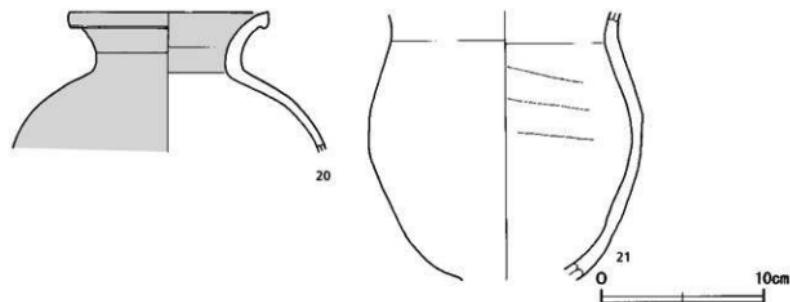
覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックが多く混入していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗 緑 色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	暗 緑 色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
2	褐 色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗 緑 色	ロームブロック・燒土粒子微量
3	褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7	暗 緑 色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
4	暗 緑 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土器片519点（坏78・高坏2・壺4・甕409・瓶26）、須恵器片5点（坏1・蓋1・甕3）、土製品5点（土玉3、管状土錐2）、石製品1点（銅型模造品）、滑石片1点、褐鐵鉱3点が出土している。また、混入した弥生土器片51点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。21は竈の燃焼部、20は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。20は時期が伴わないが、貯蔵穴を埋め戻した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から6世紀前葉と考えられる。



第20図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	壺	12.3 (8.6)	-	石英・雪母 にみくぼ模様	普通	褐色	摩滅により調整不明		貯蔵穴 15%	PL50
21	土師器	壺	- (16.5)	-	長石・石英・雪母	明褐色	不良	内面ヘラナデ		燃焼底部	40%

第8号住居跡（第21・22図）

位置 調査区東部のE-4e3区、標高18.8mの台地上に位置している。

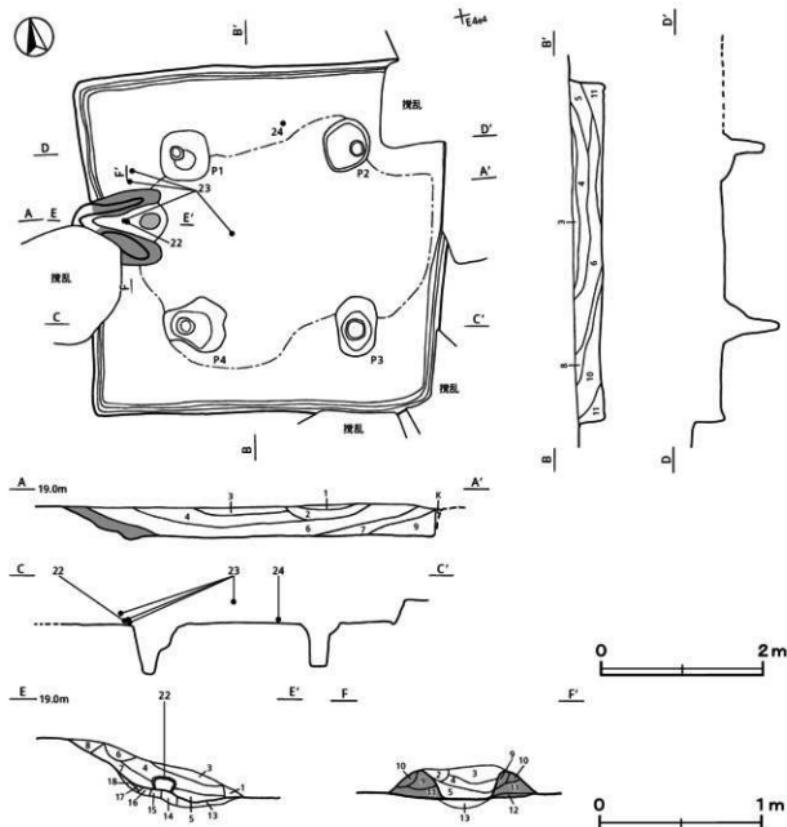
規模と形状 長軸4.57m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-79°-Wである。壁高は27~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から東壁際にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで93cm、燃焼部幅45cmである。第9～12層は袖部で、床面とほぼ同じ高さの地山面に粘土を主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|----------------------------|------------|------------------------|
| 1 にじい褐色 | 砂粒多量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 にじい赤褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 非 棕 色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 10 明 赤 棕 色 | 粘土ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒 棕 色 | 粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量 | 11 棕 色 | ロームブロック、粘土ブロック微量 |
| 4 紫 赤 棕 色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子、炭化粒子微量 | 12 にじい赤褐色 | 粘土粒子・粘土粒子少量 |
| 5 棕 色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子微量 | 13 黄 棕 色 | 粘土粒子中量、粘土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黑 棕 色 | 粘土ブロック・炭化粒子、砂粒微量 | 14 紫 色 | ローム粒子・粘土粒子、炭化粒子、粘土粒子微量 |
| 7 棕 色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 15 紫 赤 棕 色 | 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量 |
| 8 棕 色 | ロームブロック・粘土粒子、炭化粒子微量 | 16 紫 赤 棕 色 | 粘土粒子少量、ロームブロック・砂粒微量 |
| | | 17 非 棕 色 | ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 18 非 棕 色 | 粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量 |



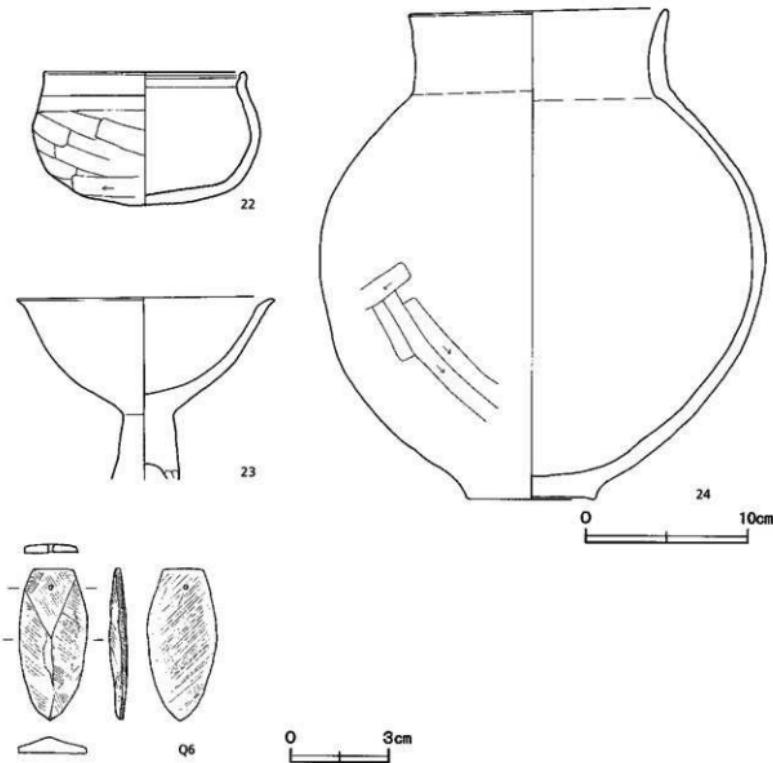
第21図 第8号住居跡実測図

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ50～66cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|-----------------------------|----|---------|------------------|
| 1 | 灰い赤褐色 | 燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒
子微量 | 5 | 褐 紫 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 褐 色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐 色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 7 | 褐 色 | ロームブロック少量、燒土粒子微量 |
| 4 | 褐 色 | ロームブロック中量、炭化物・燒土粒子微量 | 8 | 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| | | | 9 | 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | | 10 | 褐 色 | ロームブロック少量 |
| | | | 11 | 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |



第22図 第8号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片200点(環20・壙1・高壙8・甕171)、須恵器片6点(蓋1・甕5)、土製品8点(土玉)、石製品1点(剣形模造品)、滑石2点、褐鉄鉢1点が出土している。また、混入した繩文土器片1点(深鉢)、弥生土器片10点(蓋)も出土している。遺物の大半は、西部から南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。22は竈の燃焼部から逆位で出土し、支脚として使用されたと考えられる。その上から23が潰れ

た状態で出土している。24は北壁際の床面から潰れた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	楕	12.3	8.5	-	陶石・青母・赤色粒子	暗褐色	普通	体部外側へラ削り	電燃焼部	100% PL50
23	土師器	高環	15.8	(11.1)	-	陶石	楕	不良	摩滅により調整不明	電燃焼部	50%
24	土師器	楕	15.9	30.3	7.8	長石・石英・青母	赤	普通	体部外側へラ削り 内面ナデ	床面	95% PL50

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	鉢形模造品	47	2.1	0.5	0.2	6.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	頂面中	PL84

第9号住居跡(第23・24図)

位置 調査区東部のE416区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込み、第8・9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は5.35mで、東西軸は南西部が調査区域外に延びているため3.52mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は43~54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認した範囲では、中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで107cm、燃焼部幅44cmである。第16~18層は袖部で、粘土粒子とローム粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第19・20層は掘り方への埋土である。

東土層解説

1	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐	色	ロームブロック・施土ブロック・炭化粒子微量		
2	褐	色	ロームブロック微量	12	暗	赤	褐	ロームブロック・施土ブロック微量、炭化粒子微量		
3	にぶい褐色		砂粒多量、施土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13	暗	褐	色	施土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量		
4	にぶい褐色		砂粒中最、ローム粒子、施土粒子、炭化粒子微量	14	暗	赤	褐	施土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量		
5	暗	褐色	炭化物・ローム粒子微量	15	暗	赤	褐	施土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子微量		
6	黒	褐色	ロームブロック・施土粒子、炭化粒子微量	16	灰	褐	色	粘土粒子多量、ローム粒子微量、施土粒子微量		
7	黒	褐色	ロームブロック・施土ブロック・炭化粒子微量	17	暗	褐	色	粘土粒子多量、ローム粒子、施土粒子微量		
8	黒	色	施土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量	18	灰	褐	色	粘土粒子中量、ロームブロック微量		
9	黒	色	砂粒少量、ローム粒子、施土粒子、炭化粒子微量	19	暗	褐	色	施土ブロック微量、ロームブロック・炭化粒子子・粘土粒子微量		
10	暗	赤	施土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	20	暗	褐	色	ロームブロック微量		

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ11cm・51cmで規模と位置から主柱穴である。

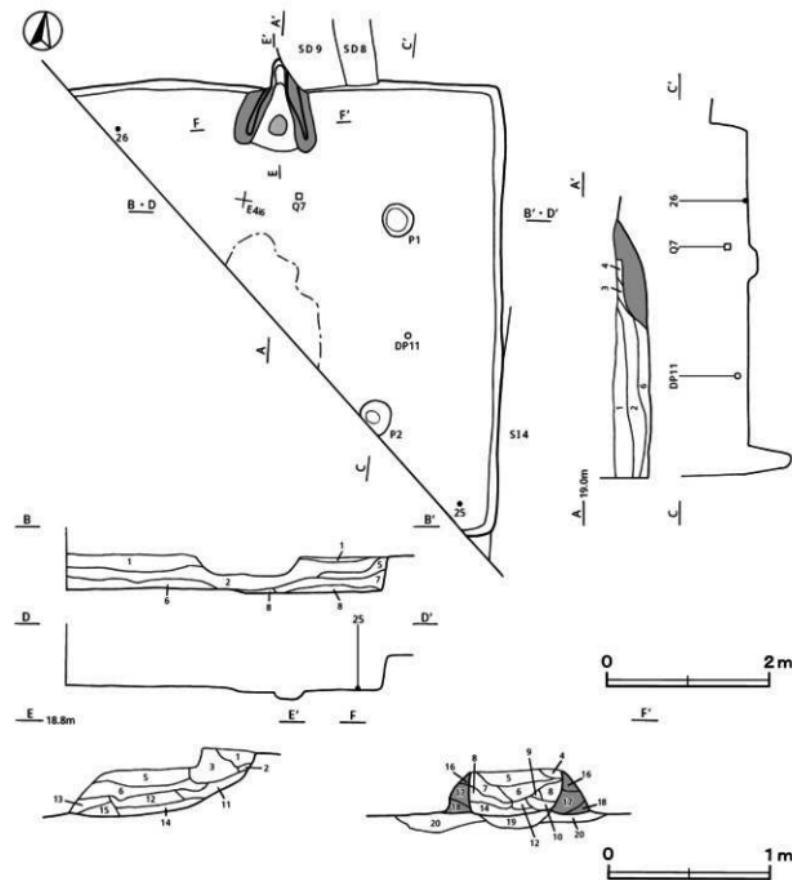
覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

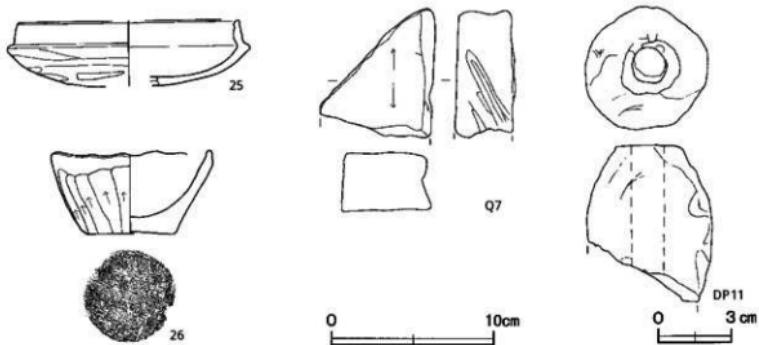
1	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子少量、炭化物・施土粒子微量	6	黒	褐	ロームブロック・施土粒子・炭化粒子微量
3	灰	褐	色	ロームブロック微量、施土粒子微量	7	暗	褐	ロームブロック・炭化物微量
4	褐	色		施土粒子少量、ロームブロック微量	8	褐	色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片309点（坏51・高坏7・鉢1・甕249・ミニチュア1）、須恵器片3点（坏2・甕1）、土製品5点（土玉2・管状土錘1・支脚2）、石器1点（砥石）、滑石片1点が出土している。また、混入した縄文土器片3点（深鉢）、弥生土器片45点（甕）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。25は南東コーナー部、26は北西壁際の床面、DP11は東壁寄りの覆土下層、Q7は北壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第23図 第9号住居跡実測図



第24図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	直径	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	土師器	环	[135]	(40)	-	長石	暗褐	灰黄	体部外面ヘラ削り後焼き	床面	40%
26	土師器	ミニチュア	9.8	5.1	5.7	長石	赤褐	黄褐	体部外面ヘラ削り	床面	60% PL50
<hr/>											
番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
DP11	管状土錐	SD	(65)	1.4	(122.1)	長石・石英	ナデ溝壓 指揮圧痕 一方向からの穿孔			覆土下層	
<hr/>											
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q7	砾石	(79)	70	3.6	(197g)	砂岩	磨耗石 破面2面 剥離に玉研ぎ痕			覆土中層	

第11号住居跡（第25・26図）

位置 調査区東部のE 4 g0区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込んでいる。

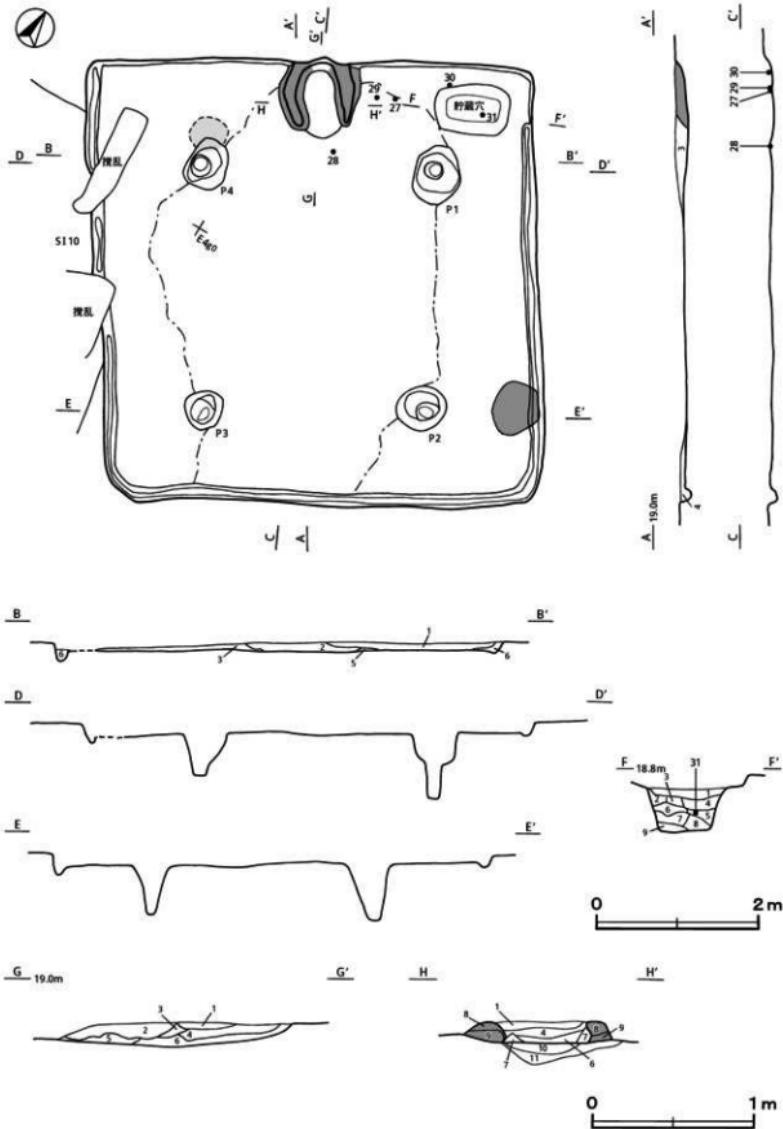
規模と形状 長軸5.49m、短軸5.47mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から南東壁にかけて踏み固められている。壁構が北西壁下を除いて巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅40cmである。第8・9層は袖部で、砂粒とロームブロックを主体とする褐色土で構築されている。火床面は確認できなかった。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第10・11は掘り方への埋土である。

1	無色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量	6	褐色赤褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	燒土ブロック多量、ロームブロック・燒土ブロック・砂粒・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色	燒土粒子少量、ロームブロック微量
3	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・燒土粒子微量	8	灰褐色	砂粒中量、ロームブロック・燒土ブロック微量
4	褐色	砂粒少量、燒土ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック微量
5	緑褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10	赤褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック微量
			11	褐色	燒土粒子少量、ロームブロック微量

ピット 4か所。P 1~P 4は深さ53~79cmで、規模と位置から主柱穴である。



第25図 第11号住居跡実測図

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長軸92cm、短軸62cmの隅丸長方形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	緑	白	ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ロームブロック・炭化物微量
2	緑	褐	ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子微量	6	暗	赤褐色	ロームブロック・埴土ブロック・炭化物微量
3	赤	褐	色	7	黒	褐	ロームブロック・炭化粒子微量
4	緑	赤褐色	埴土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	8	褐	色	ロームブロック少量、炭化物微量
				9	褐	色	ロームブロック少量

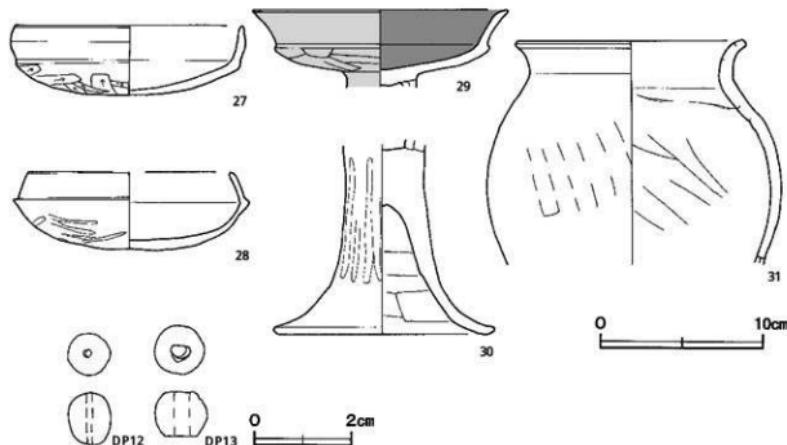
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	緑	白	ロームブロック・炭化粒子微量	4	緑	褐	ロームブロック微量
2	にぶい褐色		埴土ブロック・砂粒少量、ロームブロック微量	5	褐	色	ロームブロック微量
3	黒	褐	色	6	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片467点（环102・高环19・甕346）、須恵器片7点（蓋6・甕1）、土製品10点（小玉8、土玉2）が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）と弥生土器片23点（甕）も出土している。遺物の大半は、北部の覆土中層から下層にまとめて出土している。27~30は竈右脇の床面、31は貯蔵穴の覆土中層から、DP12・DP13は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第26図 第11号住居跡出土遺物実測図

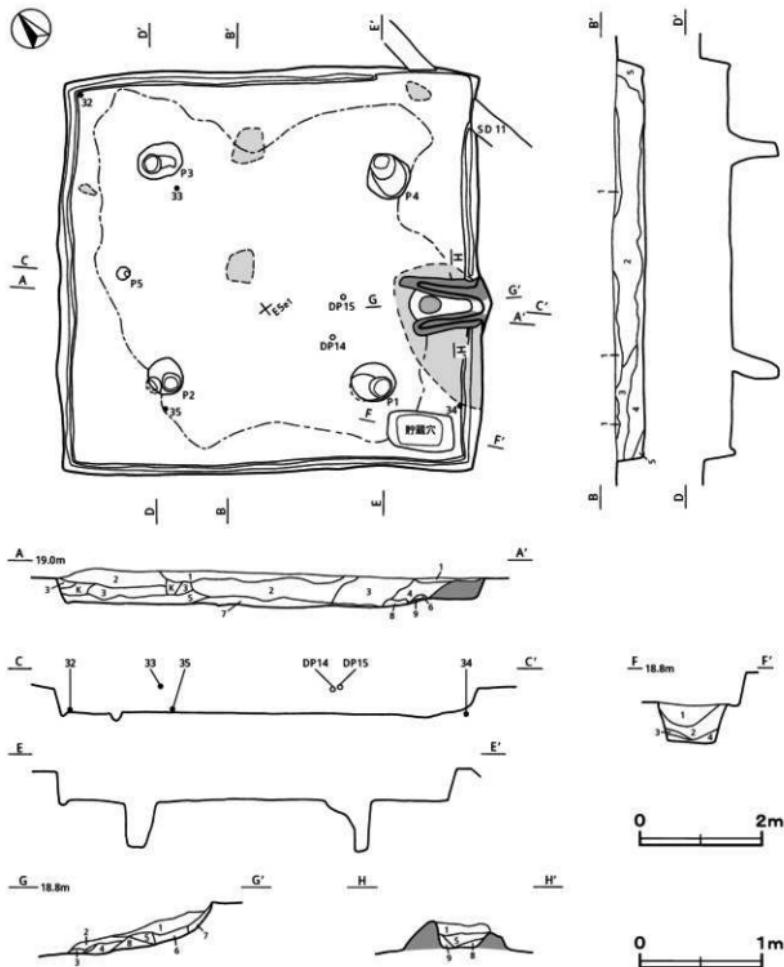
第11号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師器	环	140	43	-	長石・青母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外側ヘラ削り	床面	95% PL50
28	土師器	环	[125]	48	-	長石・青母	黄褐色	良好	体部外側ヘラ削り後ナダ	床面	50%
29	土師器	高环	157	(4.7)	-	長石・赤色粒子	赤褐色	普通	体部外側ヘラ削り	床面	50%
30	土師器	高环	-	(11.7)	13.3	長石	青好	断面外側磨き 内面ヘラナダ	床面	50%	
31	土師器	甕	140	(13.8)	-	長石	褐	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ	貯蔵穴	30%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	小玉	1.1	0.9	0.1	0.8	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	
DP13	小玉	0.9	1.0	0.3	0.7	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	

第13号住居跡（第27・28図）

位置 調査区東部のE 5 d1区、標高18.8mの台地上に位置している。



第27図 第13号住居跡実測図

重複関係 東コーナー部を第11号構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.84m, 短軸6.68mの方形で、主軸方向はN-129°-Eである。壁高は30~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が東コーナー部の壁下を除いて確認できた。北東壁寄りと中央部で焼土塊が確認できた。

窓 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで123cm, 燃焼部幅39cmである。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に5cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

堆土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、燒土粒子少量 | 6 塗赤褐色 砂粒中量、燒土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量、燒土ブロック・砂粒少量 | 7 塗赤褐色 粘土ブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 8 にぶい黄褐色 烧土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 |
| 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒中量、燒土粒子少量 | 9 塗赤褐色 烧土ブロック・炭化物・砂粒少量 |
| 5 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、燒土ブロック・砂粒少量 | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ72~82cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ11cmで、北西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸108cm, 短軸64cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

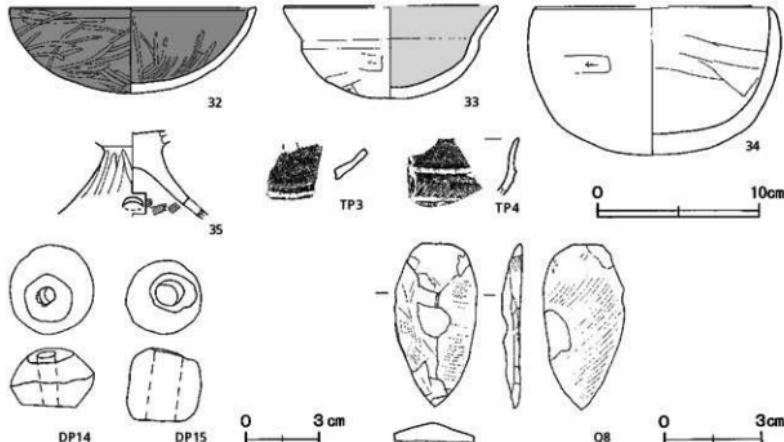
貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物・燒土粒子微量 | 3 塗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |

覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 塗褐色 ローム粒子・燒土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 8 塗褐色 烧土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量 | 9 明褐色 砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 5 細褐色 烧土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 | |



第28図 第13号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1427点(壺225・椀2・高壺6・盞2・甕1189・瓶3), 須恵器片15点(壺5・蓋7・

提瓶1・甕2), 土製品7点(土玉5・管状土錐1・紡錘車1), 石製品2点(双孔円板・劍形模造品), 滑石片7点が出土している。また, 混入した縄文土器片2点(深鉢), 弥生土器片84点(甕)も出土している。遺物の大半は, 全城の覆土中層から下層にかけて出土している。32は北コーナー部, 34は南コーナー部付近のそれぞれ床面, 33は北部の覆土上層, TP3・TP4は覆土中から出土している。35は埋め戻した際の混入と考えられる。

所見 時期は, 出出土器から5世紀末葉と考えられる。北東壁寄りと中央部の床面で焼土塊が確認できることから, 焼失した可能性が考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土研器	环	152	53	-	長石	黒	普通	体部内・外面へラ磨き	床面	85% PL50
33	土研器	环	[130]	57	-	長石・石英・雲母	ぶい度	普通	体部外面へラ削り	覆土上層	30%
34	土研器	板	[146]	91	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面へラナダ	床面	60%
35	土研器	盤台	-	(53)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	脚部外面へラ磨き 内面ハケ目調整 透かし孔	床面	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	須恵器	高環	長石・白色粒子	灰	普通	円形透かし ヘラ擦による三ヵ月状の鋸割痕	覆土中	
TP4	須恵器	高環	白色粒子	灰	普通	外腹標印による波状文 把手付	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP14	結錠車	34	24	0.8	28.1	長石・石英	ナデ調整 上・下ともにへラ削り	覆土上層	PL79

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	管状土錐	30	32	1.2	22.8	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土上層	PL79

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	劍形模造品	50	25	0.6	-	10.1	滑石	未完成品 全面研磨 未穿孔	覆土中	PL84

第14号住居跡(第29・30図)

位置 調査区東部のE 5e7区, 標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第36号住居跡を掘り込み, 北コーナー部を第32号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺6.95mの方形で, 主軸方向はN-53°-Wである。壁高は12~26cmで, 外傾して立ち上がりっている。

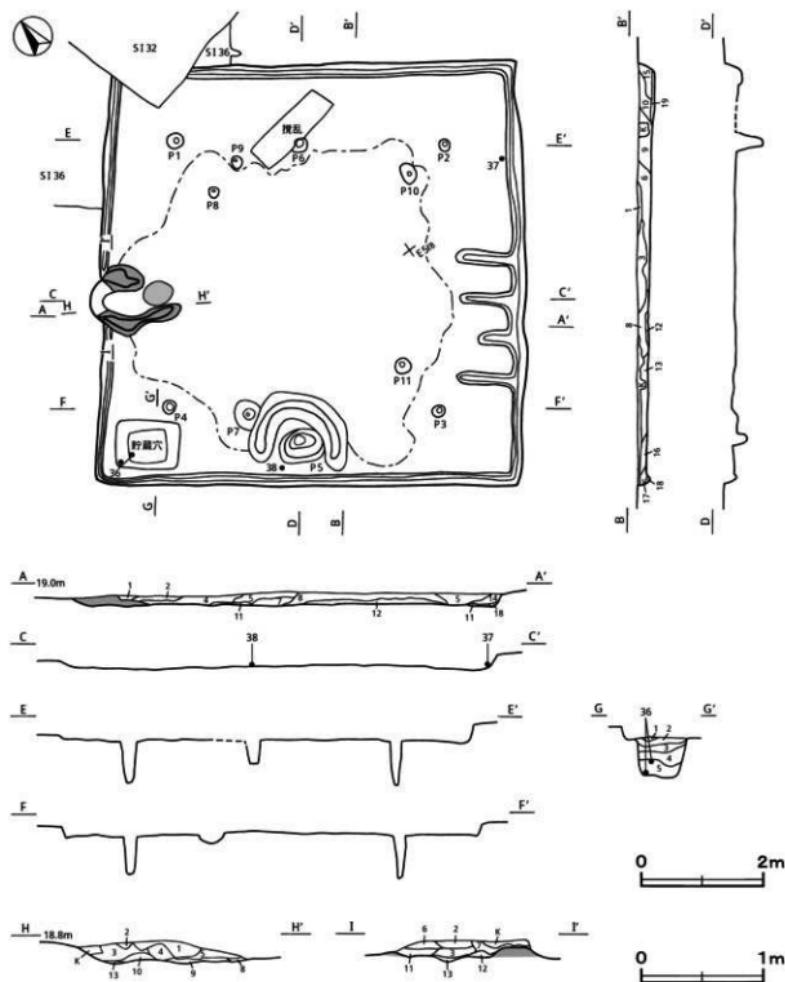
床 平坦な貼床で, 置の前面から中央部にかけて踏み固められている。P 5の周辺に馬蹄形の高まりが見られることから, 出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が全周している。南北壁から中央部に延びる4条の溝が確認できた。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで128cm, 燃焼部幅40cmである。火床面は床面と同じ高さで, 赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

1	粘土層	色	ロームブロック少量, 陶土粒子・炭化粒子微量		7	粘土層	色	粘土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量,
2	粘土層	色	ローム粒子・砂粒少量, 陶土粒子・炭化粒子微量		8	粘土層	色	ローム粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
3	陶	色	粘土ブロック・砂粒少量, 炭化物・陶土粒子		9	粘土層	色	粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
4	陶	色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量, 粘土ブロック微量		10	陶	色	ローム粒子中量
5	粘土層	色	砂粒中量, ロームブロック・粘土ブロック少量, 现化粒子微量		11	粘土層	色	炭化粒子・砂粒少量, 粘土ブロック微量
6	粘土層	色	粘土ブロック・ローム粒子・陶土粒子・炭化		12	粘土層	色	陶土粒子・砂粒少量, 粘土ブロック微量
					13	粘土層	色	ロームブロック少量

ピット 11か所。P 1～P 4は深さ61～72cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ24～37cmで、北西壁際の中央に位置し馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ41cm・43cmで、位置から補助柱穴と考えられる。P 8～P 11は深さ5～14cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長軸105cm、短軸80cmの長方形で、深さは82cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第29図 第14号住居跡実測図

貯藏穴土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック少量	9	褐	褐色	ロームブロック少量
2	黒	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	10	褐	褐色	ロームブロック微量
3	褐	褐色	燒土粒子・炭化粒子少量。ロームブロック微量	11	褐	褐色	砂粒少量、ロームブロック微量

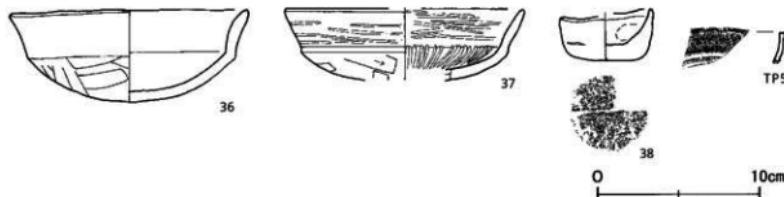
覆土 19層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック微量	9	褐	褐色	ロームブロック少量
2	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	褐	褐色	ロームブロック微量
3	褐	褐色	ロームブロック、燒土ブロック・砂粒少量、炭化物微量	11	褐	褐色	砂粒少量、ロームブロック微量
4	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量、燒土	12	褐	褐色	ロームブロック微量
			炭化物微量	13	褐	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	褐	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	褐	褐色	ロームブロック微量、燒土粒子微量
6	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	15	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	16	褐	褐色	砂粒少量、ロームブロック微量
8	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量、燒土ブロック	17	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
			ク苗頭	18	褐	褐色	ローム粒子少量
				19	褐	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器638点（坏120・甕514・瓶1・ミニチュア3）、須恵器片5点（蓋2・高坏1・壺1・甕1）、土製品4点（玉土2・支脚2）、鐵滓9点（46.3g）、滑石片4点が出土している。また、混入した調文土器片2点（深鉢）、弥生土器片84点（壺）も出土している。遺物の大半は、南西壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土している。38は南西壁寄りの床面、37は南東壁寄りの覆土下層、36は貯蔵穴からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。南東壁際で確認できた構は、根太を設置した可能性が考えられる。



第30図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第30図）

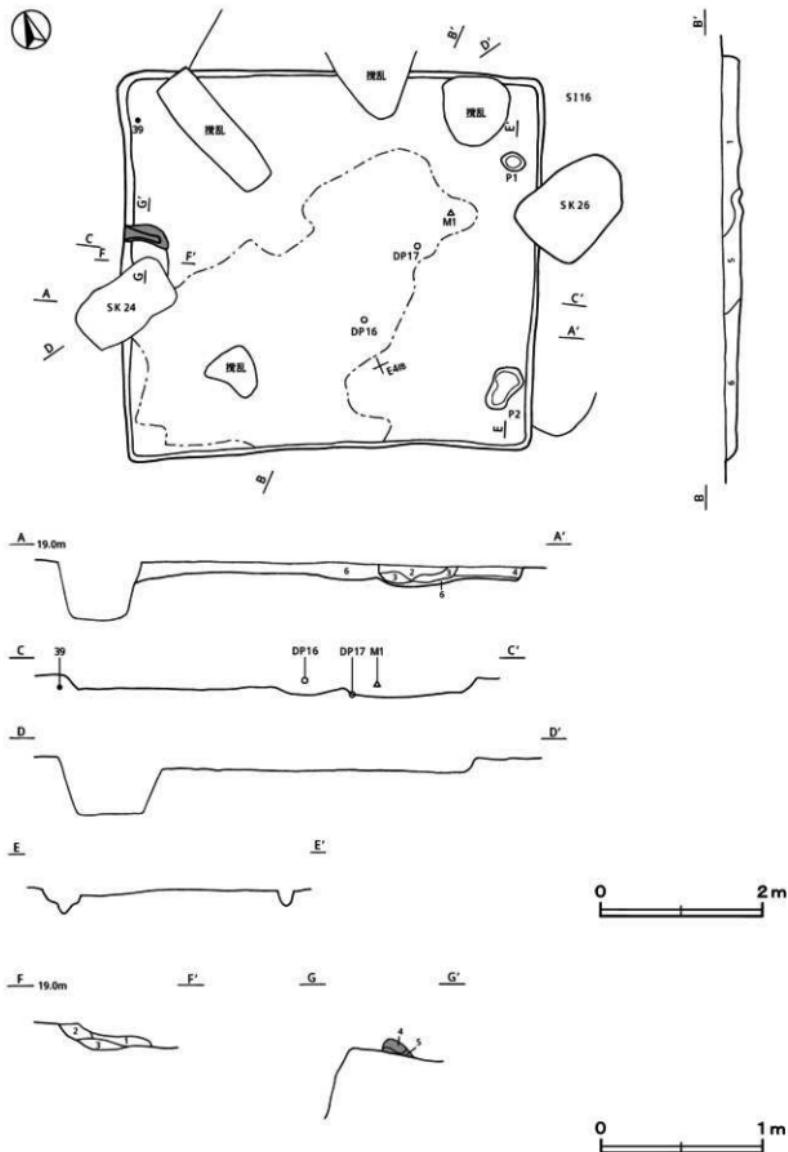
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
36	土師器	坏	146	5.7	-	長石・青母	褐	普通	体部外側ヘラ削り	貯蔵穴	95% PL50
37	土師器	坏	[146]	(44)	-	長石・赤色粒子	褐	良好	口縁部外側ヘラ削き 体部外側ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	30%
38	土師器	ミニチュア	[55]	32	38	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	指揮圧痕 ナデ	床面	60%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	須恵器	高坏	長石・白色粒子	灰	普通	体部外側櫛目による波状文	覆土中	

第15号住居跡（第31・32図）

位置 調査区東部のE4e8区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第16号住居跡を掘り込み、窓と南東部を第24・26号土坑に掘り込まれている。



第31図 第15号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.14m、短軸4.66mの長方形で、主軸方向はN-65°Wである。壁高は14~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から南西部にかけて踏み固められている。

窓 北西壁の中央部に右袖部の痕跡だけが確認できた。左袖部は第24号土坑に掘り込まれ、欠損している。第4・5層は袖部で、ロームブロックと粘土粒子を主体とする褐色土で構築されている。

遺土層解説

1	緑	褐色	ロームブロック微量	4	褐	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量、燒土ブロック微量
2	灰	褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量	5	褐	褐色	ロームブロック少量
3	緑	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	6	褐	褐色	ロームブロック少量

ピット 2か所。P1・P2は深さ19cm・23cmで、規模と位置から主柱穴である。

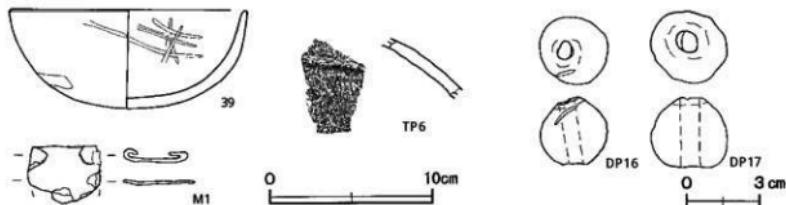
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	緑	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	4	緑	褐色	ロームブロック・燒化粘土粒子微量
2	緑	褐色	ロームブロック微量	5	緑	褐色	焼化物・燒土粒子少量
3	緑	褐色	ローム粒子少量	6	緑	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片592点（坏146・椀1・高杯6・壺2・甕434・瓶3）、須恵器片15点（坏5・高杯1・甕8・不明1）、土製品6点（土玉）、石製品1点（白玉）、鉄製品1点（鎌）、滑石片4点、褐鐵鉱1点が出土している。また、混入した弥生土器片70点（壺）も出土している。遺物の大半は、全層の覆土中層から下層にかけて出土している。DP17は中央部、39は北西コーナー部のそれぞれ床面、M1は北東部の覆土下層、DP16は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第32図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	坏	145	61	-	長石・雲母	緑	普通	体部外側へラ削り後へら巻き	床面	50%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP6	須恵器	瓶	長石・白色粒子	灰	普通	外面擦状工具による刺突文	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP16	土玉	28	28	0.6	19.0	石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP17	土玉	31	29	0.9	22.1	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌	(3.6)	44	0.2	(16.1)	鉄	刃先欠損 柄との接合部の折り返し部が残存	覆土下層	

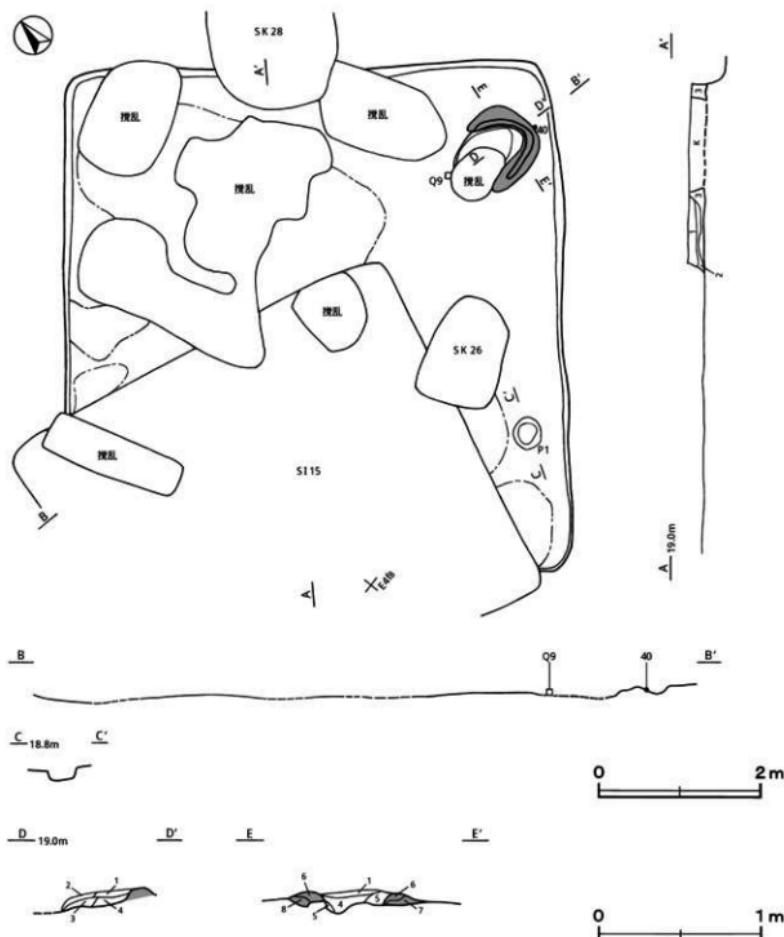
第16号住居跡（第33・34図）

位置 調査区東部のE 4 e8区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 南西部を第15号住居、南東部を第26号土坑、北東部を第28号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.18m、短軸6.14mの方形で、主軸方向はN-97°-Eである。壁高は10~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて硬化している。



第33図 第16号住居跡実測図

竈 東コーナー部の壁内に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅45cmである。第6・7・8層は袖部で、粘土ブロックとロームブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は搅乱により欠損している。

竈土層解説		ク画量	
1	褐 地 色	粘土粒子中量	ローム粒子微量
2	褐 地 色	ローム粒子中量	粘土粒子少量
3	褐 地 色	ローム粒子少量	粘土ブロック多量
4	褐 地 色	粘土粒子少量	ローム粒子微量
5	褐 地 色	粘土粒子中量	ロームブロック・粘土ブロック少量
6	灰 地 色	粘土ブロック中量	ローム粒子中量
7	灰 地 色	粘土ブロック少量	ロームブロック・粘土粒子微量
8	棕 地 色	ロームブロック少量	

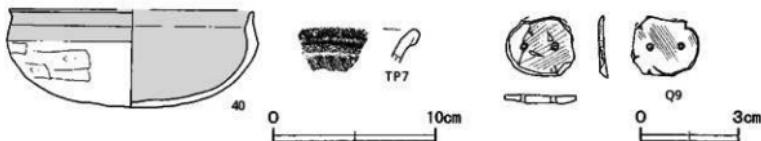
ピット P 1は深さ10cmで、位置から主柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説		ク画量	
1	褐 地 色	ロームブロック	粘土粒子微量
2	褐 地 色	ロームブロック微量	

遺物出土状況 土師器片545点（环58・甕487）、須恵器片8点（高环1・甕3・甕4）、土製品3点（土玉）、石製品1点（双孔円板）、鐵鉄鉗1点と混入した土師器片1点（椀）も出土している。遺物の大半は、竈の周辺の覆土下層から出土している。40は東コーナー部の床面、Q 9は竈の前面の床面から出土している。

所見 時期は、竈が壁の内側に付設されていることや、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第34図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	體高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	土師器	椀	15.1	6.0	-	長石・雲母	褐	良好	体部外表面ラフ削り	床面	40%
TP7	須恵器	瓶	長石・石英	灰黄褐	普通	複合口縁	外縁櫛縁による波状文			覆土中	
Q9	双孔円板	(19)	22	0.3	0.2	(1.8)	滑石	全面研磨	一方向からの穿孔	床面	

第17号住居跡（第35・36図）

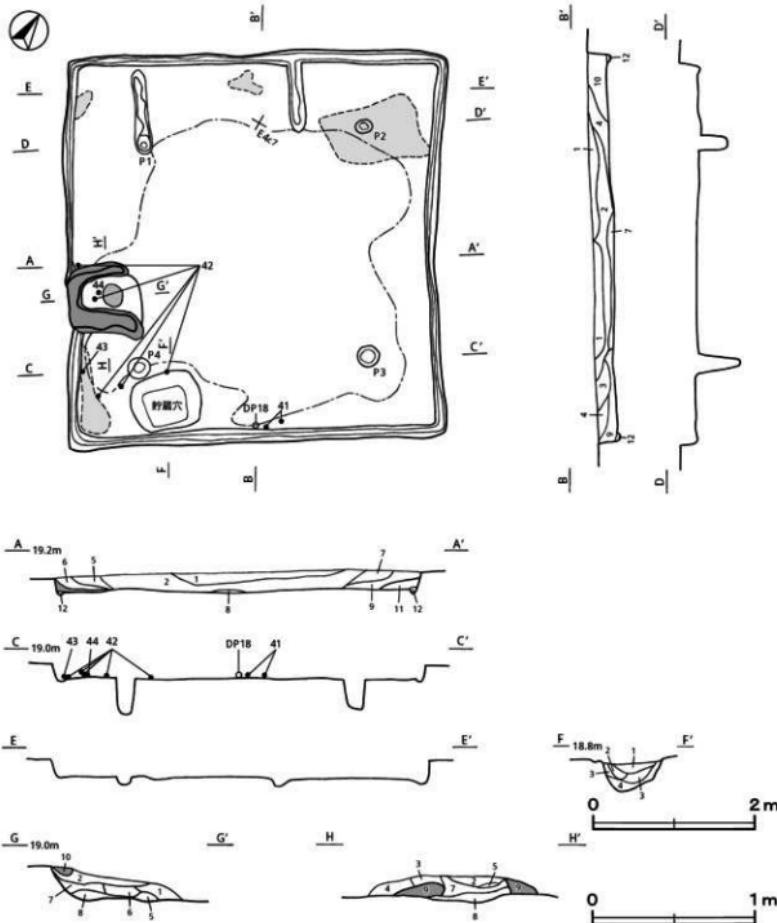
位置 調査区東部のE 4 c 7区、標高19.0mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.78m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-121°-Wである。壁高は17~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて硬化している。壁溝が全周している。北西壁際から中央部に延びる2条の溝が確認できた。北・南コーナー部で焼土塊が確認できた。

■ 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで81cm、燃焼部幅44cmである。第9層は袖部で、砂粒と粘土粒子を主体とした褐色土で構成されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

■ 土層解説	
1 暗褐色・色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量、砂粒微量
4 暗褐色	炭化物少量、ロームブロック・粘土ブロック
5 灰褐色	ロームブロック微量
6 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、砂粒微量
7 灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
8 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
9 灰褐色	粘土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
10 灰褐色	粘土ブロック多量、砂粒少量、粘土粒子微量



第35図 第17号住居跡実測図

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ36～56cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部付近に付設されている。長軸90cm、短軸71cmの長方形で、深さは34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 線 地 色 ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 3 線 地 色 ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 2 線 地 色 ローム粒子微量 | 4 線 地 色 ローム粒子・粘土粒子少量、粘土粒子微量 |

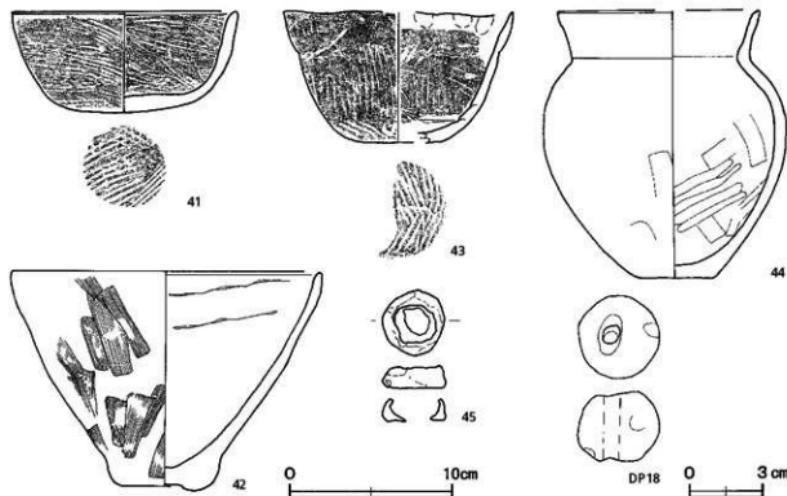
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 明 地 色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 8 暗 地 色 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗 地 色 ロームブロック微量 | 9 暗 地 色 ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 地 色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 10 暗 地 色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
| 4 暗 地 色 粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 11 暗 地 色 ロームブロック微量 |
| 5 明 地 色 粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 12 暗 地 色 ロームブロック微量 |
| 6 暗 地 色 ロームブロック・粘土粒子微量 | |
| 7 暗 地 色 ロームブロック・粘土粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片790点（壺81・甕2・壙3・高杯2・鉢10・甕691・ミニチュア1）、須恵器片8点（壺1・蓋2・甕5）、土製品4点（土玉）、石製品5点（白玉）、滑石片8点が出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）、弥生土器片25点（壺）、古銭1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。45は覆土中、44は竈燃焼部から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。北西壁際で確認できた溝の性格は不明である。北・南コーナー部の床面で焼土塊が確認できることから、焼失した可能性がある。



第36図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第36図）

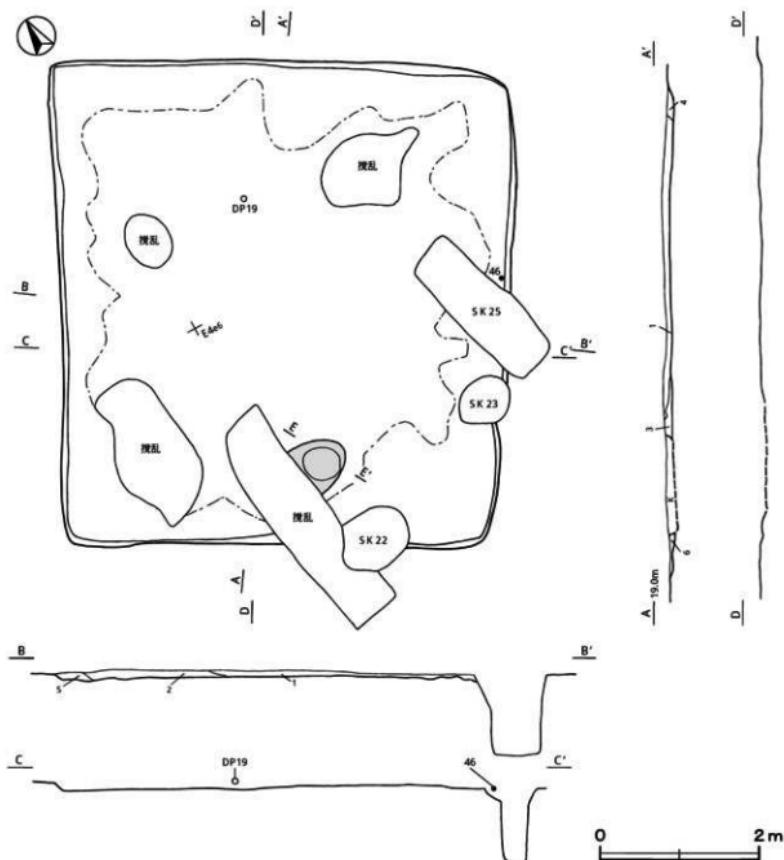
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	組成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
41	土師器	壺	140	62	5.0	長石	にぶい黄褐	普通	内・外表面調査	床面	70% PLS

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	土器	鉢	19.0	14.1	5.2	長石・石英	橙	普通	外面ハケ目調整 内面ヘナダ	床面	60% PL51
43	土器	鉢	[14.1]	8.0	[5.0]	長石	にぶい黄褐色	普通	内・外面櫛目調整	床面	40% PL51
44	土器	小形器	[12.5]	15.4	4.6	長石	橙	普通	体部外側ヘラ削り後ナデ 内面ヘナダ	竪燃焼部	50% PL51
45	土器	ミニコア	3.9	1.4	3.6	長石・石英・雲母	橙	普通	指錐圧痕	覆土中	70% PL51

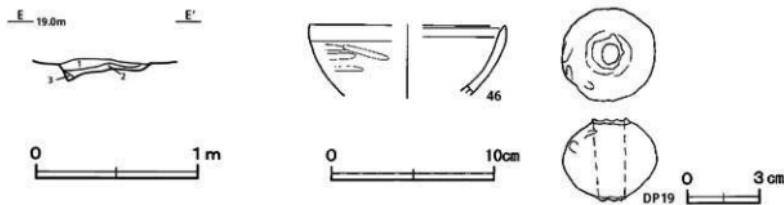
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP18	土玉	3.4	2.9	0.7	33.9	長石・石英	ナデ調整 指錐圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	

第18号住居跡（第37・38図）

位置 調査区東部のE 4 e6区、標高18.9mの台地上に位置している。



第37図 第18号住居跡実測図



第38図 第18号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 南西壁部を第22号土坑、南東壁部を第23・25号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁高は2~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

炉 南西部に付設されている。長径は確認できた範囲で67cm、短径57cmの楕円形の地床炉である。

伊土層解説

1	暗褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	3	褐色	燒土粒子少量、ロームブロック微量
2	赤褐色	燒土ブロック中量、炭化粒子微量			
3	褐色	ロームブロック少量			

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	4	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック中量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ロームブロック少量	6	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土器片132点(坪18・塹1・高坪1・甕112)、須恵器片6点(甕), 土製品5点(土玉4・管状土錐1), 滑石片3点が出土している。また、混入した弥生土器片9点(壺)も出土している。遺物の大半は、北部の覆土下層から出土している。46は南東壁際の床面、DP19は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表(第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	土器器	甕	[120]	(43)	-	巖石	赤褐色	普通	体部外側ヘラ削り後ヘラ削き	床面	5%
DP19	土玉	39	34	14	43.0	巖石・石英			ナデ溝整 一方向からの穿孔	覆土中層	

第20号住居跡(第39・40図)

位置 調査区東部のE-4c4区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第19号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.12m、短軸7.08mの方形で、主軸方向はN-133°-Eである。壁高は35~47cmで、外傾して立ち上がっている。

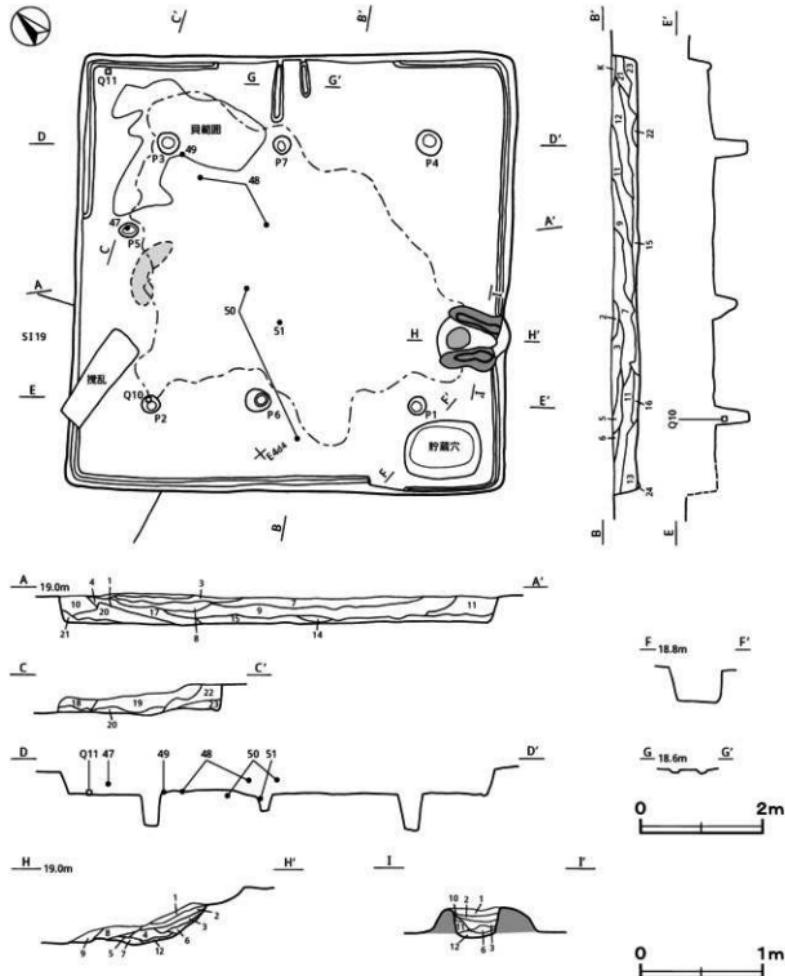
床 平坦で、甕の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。北東壁際から中央部に延びる2条の溝が確認できた。

甕 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで103cm、燃焼部幅56cmで、袖部はロー

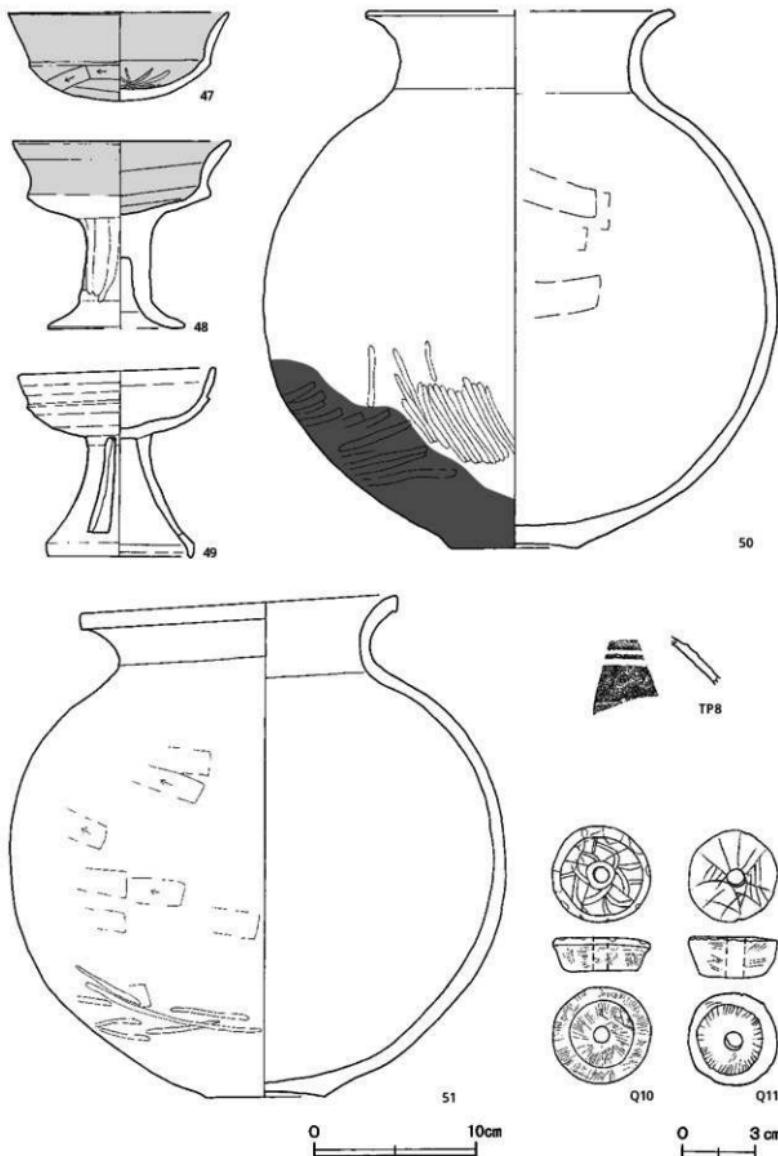
ムブロックと砂粒を主体に構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

地土層解説

1	灰 黄褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・他土粒子微量	7	灰 色	他土ブロック多量、ローム粒子・砂粒少量
2	灰 黄褐色	砂粒・粘土粒子少量、ロームブロック・他土 粒子微量	8	灰 色	ローム粒子・砂粒少量、他土ブロック微量
3	灰 色	他土ブロック・ローム粒子・砂粒少量	9	灰 色	ローム粒子・他土粒子・砂粒少量
4	灰 色	他土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量	10	灰 色	ローム粒子・砂粒少量、他土ブロック微量
5	灰 色	他土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	11	暗 色	ロームブロック・他土粒子微量
6	暗 色	ロームブロック・他土粒子・砂粒微量	12	褐 色	ローム粒子微量



第39図 第20号住居跡実測図



第40図 第20号住居跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ50～58cmで、規模と位置から主柱穴である。P 6・P 7は深さ40cm・27cmで、主柱穴の間に等間隔で位置していることから、補助柱穴と考えられる。P 5は深さ8cmで、北壁寄りの中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている、長軸125cm、短軸95cmの隅丸長方形で、深さは55cmである。底面は緩やかに傾斜し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 24層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第18層は層厚14cmの混貝土層、第19層は層厚16～28cmの混土貝層で、埋め戻された際に廃棄されたものと考えられる。

土層解説

1	灰	褐色	ロームブロック微量	14	褐	色	ロームブロック少量
2	黒	褐色	ローム粘子少量、粘土粘子微量	15	褐	色	ローム粘子少量
3	褐	褐色	ロームブロック微量	16	褐	色	ロームブロック中量
4	灰	褐色	ロームブロック少量、粘土粘子微量	17	灰	褐色	ロームブロック・粘土粘子少量、粘土ブロック微量
5	褐	褐色	ロームブロック微量				
6	褐	褐色	ロームブロック少量、粘土粘子微量	18	褐	褐色	貝中量、ローム粘子少量
7	褐	褐色	ロームブロック微量、粘土粘子微量	19	褐	褐色	貝多量、ローム粘子少量
8	褐	褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	20	褐	褐色	ロームブロック少量
9	黒	褐色	ロームブロック少量	21	褐	褐色	ローム粘子少量
10	褐	褐色	ロームブロック多量	22	褐	褐色	ロームブロック少量
11	褐	褐色	ロームブロック中量	23	褐	褐色	ロームブロック・粘土粘子微量
12	褐	褐色	ローム粘子中量	24	褐	褐色	ローム粘子少量
13	褐	褐色	ロームブロック微量				

遺物出土状況 土師器片4204点（坏751・椀1・高坏137・鉢5・壺1・甕3194・瓶111・ミニチュア4）、須恵器片32点（坏3・蓋12・高坏2・壺2・提瓶2・甕11）、土製品27点（土玉16・管状土錐4・支脚7）、石製品2点（紡錘車）、鐵滓4点（307.9g）、滑石片2点、輕石1点、鐵鉢3点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片63点（壺）、第18層からは貝465個体（ヤマトシジミ463・アカニシ1・マガキ1）、第19層からは貝42727個体（ヤマトシジミ42460・キセルガイ136・ヒメタニシ40・ハマグリ18・オオアサリ16・マルタニシ16・アカニシ15・マガキ11・ウミニナ6・カワアイ3・カワニナ3・ヒロクチカノコガイ2・マツカサガイ1）が出土している。Q11は北コーナー部、49は北部、51は中央部のそれぞれ床面、Q10はP2の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。北東壁際から中央部に向かって確認できた2条の溝の性格は不明である。

第20号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	土師器	坏	13.5	5.4	-	長石・石英・雲母	赤	普通	体部外表面削り 内面へら磨き	覆土中層	100% PL51
48	土師器	高坏	13.4	11.5	18.0	長石・雲母	明赤褐	普通	坏部外表面削り 頂部へら削り	覆土下層	90% PL52
49	須恵器	高坏	12.0	11.8	8.8	長石	灰	普通	断面外側カキ目調整 一段三方透かし	床面	95% PL52
50	土師器	坏	118.0	33.2	7.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外表面削り後上端ナデ 下端へら磨き 内面へらナデ	床面	75% PL51
51	土師器	坏	19.3	31.0	7.5	長石・石英・雲母	浅黄褐	普通	体部外表面削り後上端ナデ 下端へら磨き 内面ナデ	床面	70% PL51

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	須恵器	瓦	長石・石英	灰黄	普通	外面標識による法状文	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	紡錘車	40	1.4	0.6	34.8	滑石	上・下面線刻 直張文 側面刀子状工具による整形カニ方向からの穿孔	P2覆土上層	PL82
Q11	紡錘車	37	1.7	0.7	36.9	滑石	上・下面線刻 上面直張文を複数カ 下面放射状の線刻二方向からの穿孔	床面	PL81

第21号住居跡（第41図）

位置 調査区東部のD 4 h4区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 南東部を第24号住居、北部を第40号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.04m、短軸4.57mの長方形で、主軸方向はN-34°-Eである。壁高は8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、炉周辺と北部壁際が硬化している。

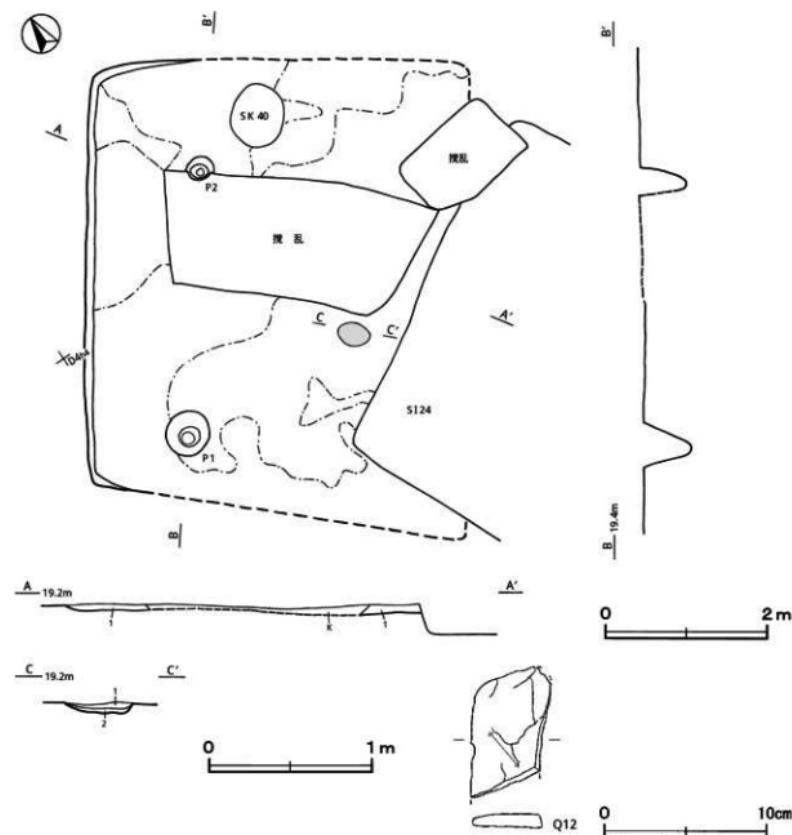
炉 中央部の南寄りに付設されている。長径40cm、短径27cmの楕円形で、床面を5cm掘り込んだ地床炉である。

出土品解説

1 細赤褐色 塵土ブロック中量 炭化粒子微量

2 にじ赤褐色 ロームブロック 塘土粒子微量

ピット 2か所。P 1・P 2は、共に深さ56cmで、規模と位置から主柱穴である。



第41図 第21号住居跡・出土遺物実測図

覆土 単一層である。層厚は薄いが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 級 土色 ロームブロック少後、微土粒子微量

遺物出土状況 土師器片14点（壺1・甕13）、須恵器片3点（甕）、石器1点（砥石）が出土している。遺物の大半は、覆土下層から出土している。Q12は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から5世紀代と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表（第41図）

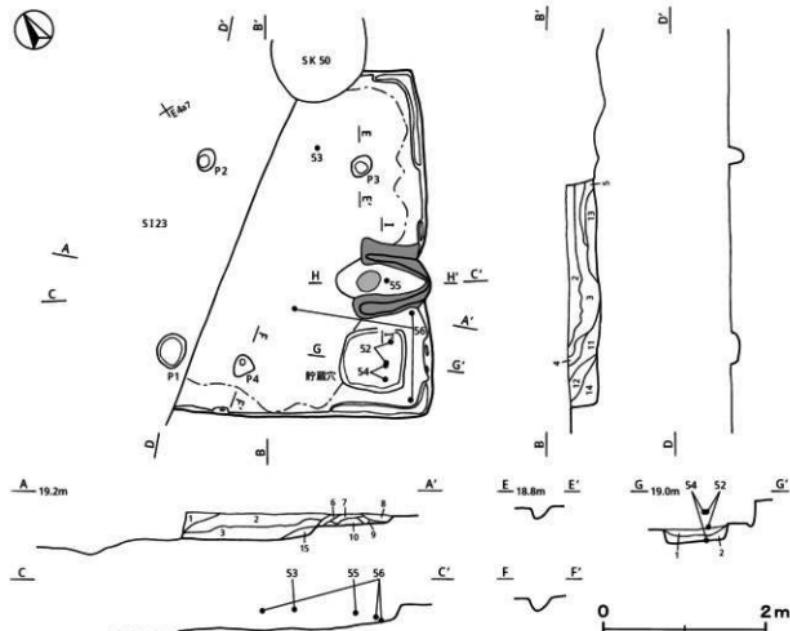
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(8.1)	5.1	0.9	(62.6)	玄武岩	砥面1面	覆土中	

第22号住居跡（第42・43図）

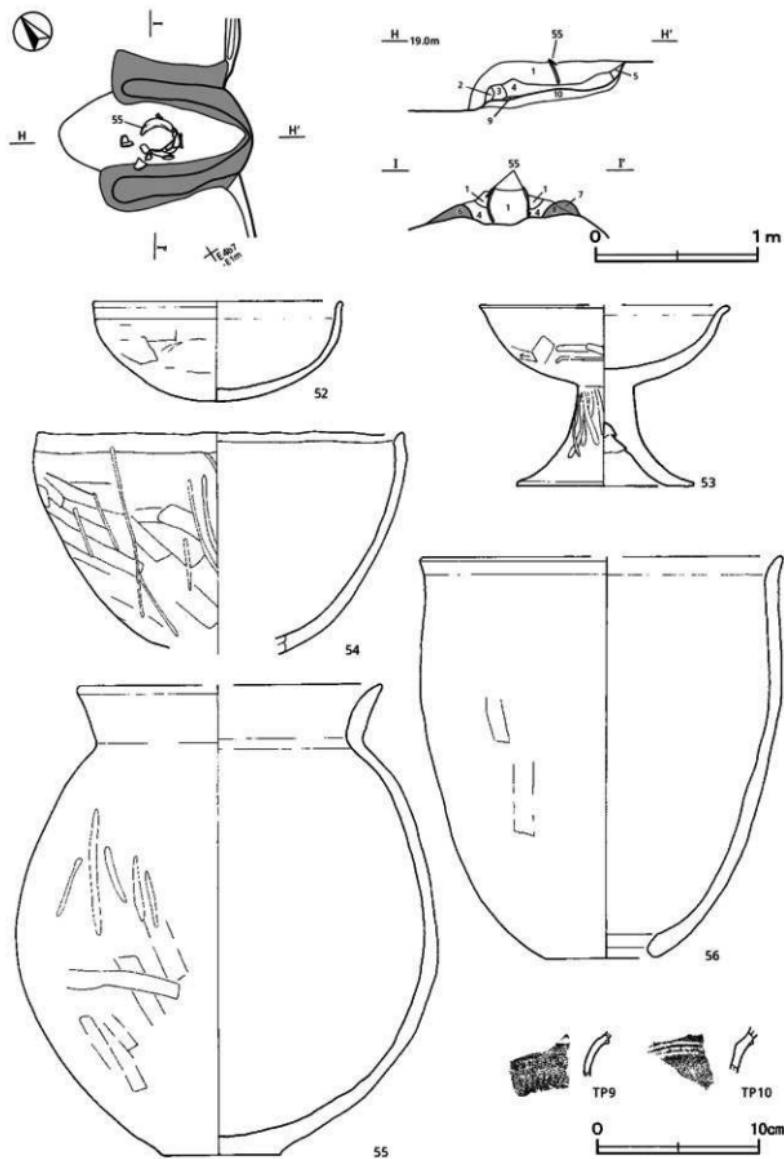
位置 調査区東部のE 4 a 7 区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 北西部を第23号住居、北東部を第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた範囲では、北西・南東軸が3.12m、北東・南西軸が4.26mで、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向はN-121°-Eである。壁高は32~39cmで、外傾して立ち上がっている。



第42図 第22号住居跡実測図



第43図 第22号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が東コーナー部と南コーナー部の壁下で確認できた。

竈 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅37cmである。第6～8層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面より少し高い位置で、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

1	混	褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック微量	6	に	ぶ	い	褐色	砂粒少量、ローム粒子・燒土粒子微量
2	暗	褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	7	暗	褐色	燒土ブロック・炭化粒子・砂粒微量		
3	明	褐色	ローム粒子・砂粒少量、燒土粒子微量	8	暗	褐色	燒土粒子・ローム粒子・砂粒少量		
4	暗	褐色	砂粒少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	9	暗	褐色	燒土粒子・砂粒少量		
5	明	褐色	砂粒・ローム粒子少量、燒土粒子微量	10	に	ぬ	黄	褐色	砂粒中量、ローム粒子微量

ピット 4か所。P1～P3は深さ4～12cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ19cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸79cm、短軸78cmの方形で、深さは16cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・炭化物微量	2	褐	褐色	ロームブロック少量
---	---	----	---------------	---	---	----	-----------

覆土 15層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・炭化物、燒土粒子微量	9	褐	褐色	ローム粒子少量
2	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10	暗	褐色	ロームブロック微量
3	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物・燒土粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	12	暗	褐色	ロームブロック多量、炭化物・燒土粒子微量
5	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	13	暗	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	暗	褐色	ロームブロック少量	14	褐	褐色	ロームブロック多量
7	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8	暗	褐色	ロームブロック少量				

遺物出土状況 土師器片1396点（坏253・高坏57・鉢2・壺4・甕1072・瓶8）、須恵器片21点（坏7・甕2・甕12）、土製品6点（土玉4・支脚2）、滑石片8点、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した弥生土器片58点（甕）、古鏡2点（不明）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。52は覆土上層から下層、54は覆土上層から貯蔵穴の下層にかけてそれぞれ南コーナー部から横位に並んだ状態で出土し、55は竈にかけられた状態で出土している。TP9・TP10は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。

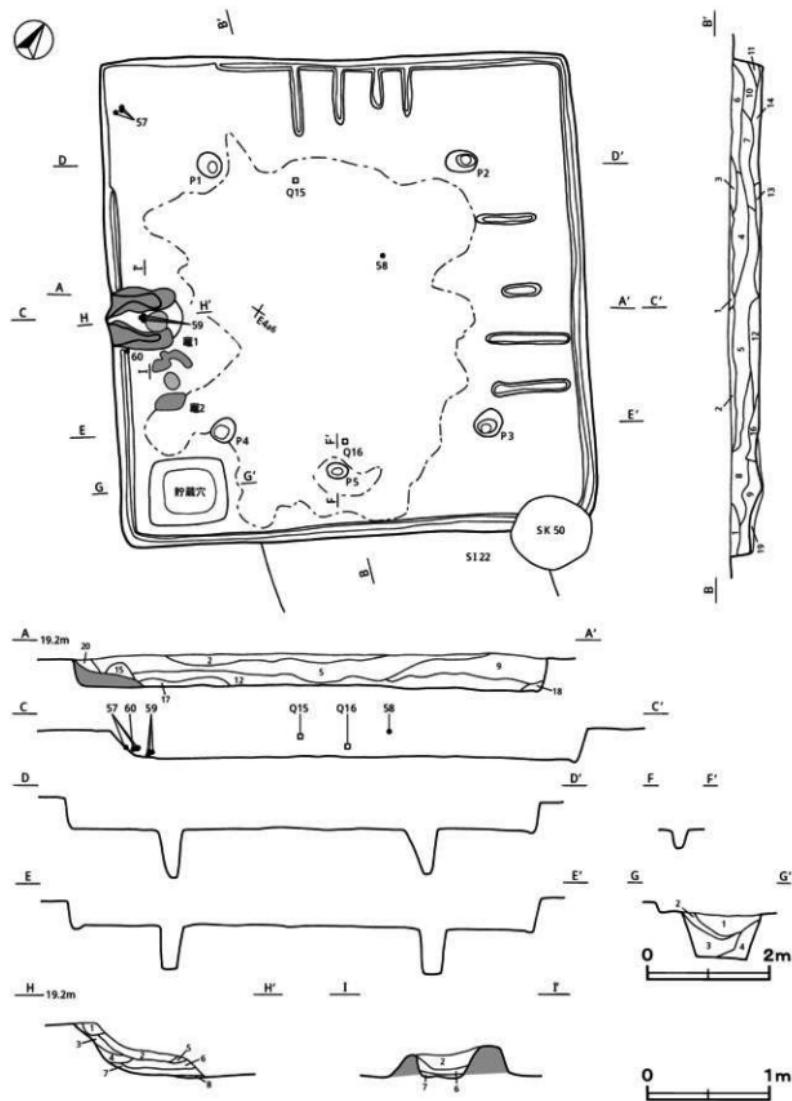
第22号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	體高	直徑	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	土師器	坏	15.0	6.1	-	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り	覆土上層 -下層	95% PL52
53	土師器	高坏	[15.5]	11.1	10.8	長石・雲母	褐	普通	坏部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 脚部 外面ヘラ磨き	覆土中層	80% PL52
54	土師器	鉢	23.0	(13.6)	-	長石・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土上層 -貯蔵穴	70% PL52
55	土師器	瓶	[18.5]	29.0	7.4	長石・石英	褐	普通	体部外面ヘラ削り後上端ヘラ磨き 下端ナデ 内面ナデ	電気焼部	70%
56	土師器	瓶	[22.2]	24.7	6.7	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	40%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP9	須恵器	甕	白色粒子・赤色粒子	にぬい黄褐色	普通	外面擦損による波状文	覆土中	
TP10	須恵器	甕	白色粒子	黄灰	普通	外面擦損による波状文	覆土中	

第23号住居跡（第44・45図）

位置 調査区東部のD 4 j 6区、標高18.9mの台地上に位置している。



第44図 第23号住居跡実測図

重複関係 第2号住居跡を掘り込み、東コーナー部を第50号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.84m、短軸7.79mの方形で、主軸方向はN-126°-Wである。壁高は39~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から南東壁にかけて踏み固められている。壁溝が西コーナー部を除く壁下に確認できた。北西壁と北東壁から各4条の中央部に延びる溝が確認できた。

竈 2か所。竈1は南西壁の中央部に付設され、規模は焚口部から煙道部まで123cm、燃焼部幅36cmである。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2は、南西壁の南寄りに位置し、袖部の痕跡と火床部だけが遺存している。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土ブロック・灰化粒子微量	5	灰褐色	粘土粒子中量、燒土粒子微量
2	にふい黄褐色	砂粒少量、燒土粒子、灰化粒子微量	6	極端赤褐色	燒土粒子・粘土粒子微量
3	にふい黄褐色	砂粒多量、燒土粒子、灰化粒子微量	7	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子・灰化粒子微量
4	暗褐色	燒土ブロック・砂粒少量、灰化物微量	8	にふい赤褐色	燒土ブロック少量、灰化物微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ56~78cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵窓 南コーナー部に付設されている。長径131cm、短径110cmの長方形で、深さは76cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵窓土層解説

1	深褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック・灰化物微量	3	にふい赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量、灰化物微量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量

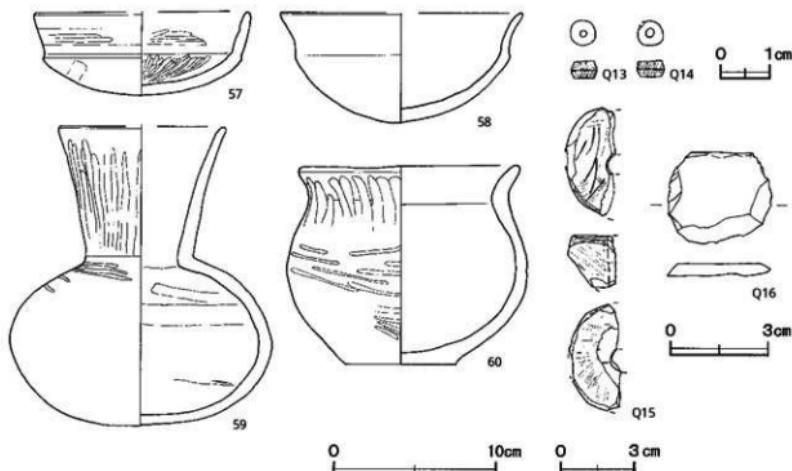
覆土 20層に分層できる。ロームブロックが多く含まれることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・灰化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・灰化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量	14	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック微量	15	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量
6	暗褐色	ロームブロック中量	16	灰褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック少量	17	深褐色	ロームブロック少量
8	暗褐色	ロームブロック多量	18	深褐色	ローム粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量	19	褐色	ローム粒子少量
10	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	20	灰褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量

遺物出土状況 土師器片1772点（坏147・高坏20・壺5・甕1592・瓶8）、須恵器片21点（环3・蓋2・壺1・甕15）、土製品37点（玉土29・支脚7・不明1）、石製品19点（白玉17・紡錘車1・有孔円板1）、鉄滓4点（2.7g）滑石片7点が出土している。また、混入した弥生土器片28点（壺）、鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。58は中央部の覆土上層、Q15は北西部の覆土中層、57は北西壁際、60は南西壁際、Q16は南東部のそれぞれ覆土下層から出土している。59は竈の燃焼部に逆位の状態で出土していることから、支脚として使用されていたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。北西壁際と北東壁際で確認できた溝は、根本太を設置した可能性が考えられる。



第45図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	土師器	壺	[132]	5.1	-	長石・赤色粒子	褐	普通	口縁部内・外側へラ磨き 体部外面へラ削り後へラ磨き 内面へラ磨き	覆土下層	85%
58	土師器	壺	[148]	6.7	-	長石・石英・雲母	にみ(黄褐)	普通	摩滅により調整不明	覆土上層	70%
59	土師器	壺	[99]	18.4	-	長石	褐	普通	錐部外面へラ磨き 内面へラナダ	電気炉部	95% PL52
60	土師器	小形壺	133	12.2	7.0	長石・雲母	にみ(褐)	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き	覆土下層	75% PL52

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	臼玉	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
Q14	臼玉	0.5	0.4	0.2	(0.1)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
Q15	結緒座	(44)	(22)	(0.7)	(23.4)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	有孔円板	28	32	0.4	-	6.8	滑石	未成品 形割初期 未穿孔	覆土下層	PL85

第24号住居跡（第46～48図）

位置 調査区東部のD 4 h5区、標高19.6mの台地上に位置している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.59m、短軸4.08mの長方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁高は24～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。南西壁際を除いて焼土塊と炭化材が確認できた。

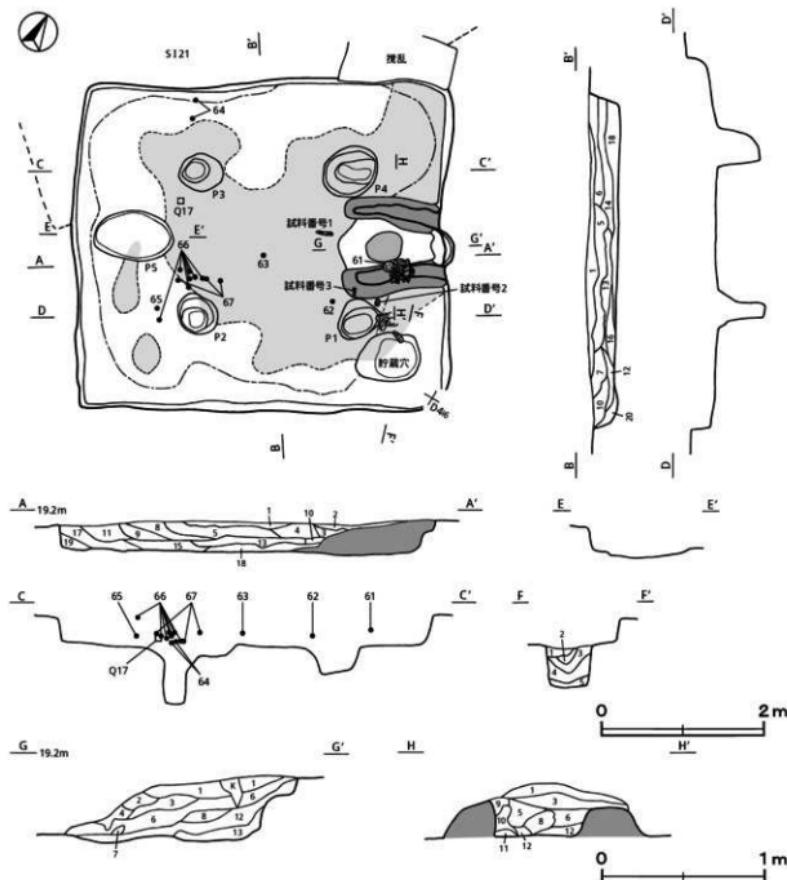
竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで144cm、燃焼部幅60cmである。袖部は粘土粒子と砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。

煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒少量、燒土ブロック微量 | 7 墓 地 色 | 焼化粧子中量、ローム粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック多量、ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | 燒土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒 色 | 炭化物多量、ロームブロック少量 | 9 にぶい黄褐色 | 燒土ブロック・ローム粒子・砂粒微量、燒土粒子微量 |
| 4 深 黑 色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・燒土粒子少量 | 10 にぶい赤褐色 | 燒土粒子・砂粒多量、燒土ブロック中量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、燒土ブロック・ローム粒子少量 | 11 墓 地 色 | 粘土粒子・砂粒多量 |
| 6 淡 黄 色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量 | 12 明 黄 色 | 粘土粒子・砂粒多量、燒土粒子微量 |
| | | 13 墓 地 色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ29～58cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ4cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第46図 第24号住居跡実測図

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸90cm、短軸60cmの長方形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

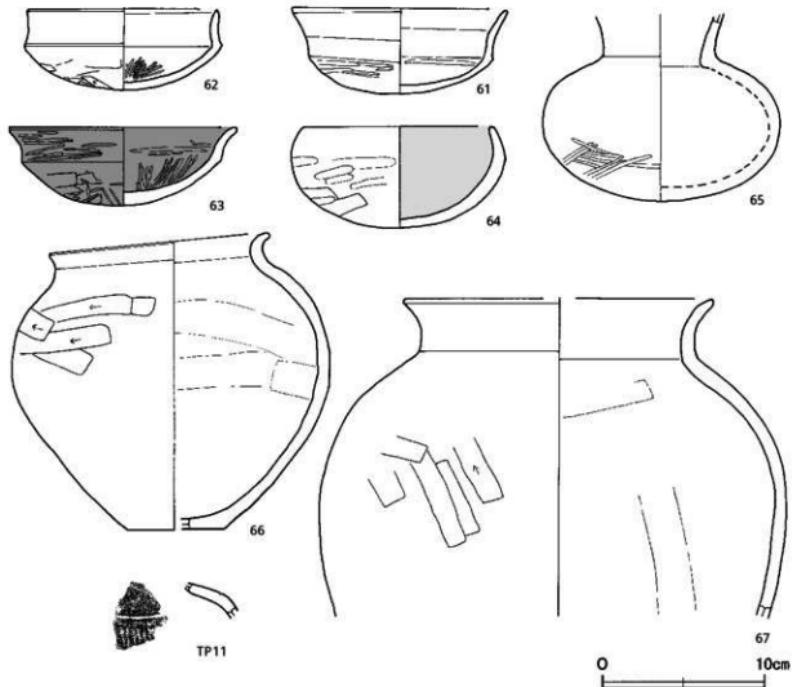
貯蔵穴解説

1	緑	黒	色	炭化物中量。ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	4	褐	黒	色	ロームブロック中量
2	緑	褐	色	ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子少量	5	灰	褐	色	ロームブロック少量
3	緑	褐	色	粘土ブロック中量。ロームブロック・粘土粒					
10	緑	黒	色	ローム粒子少量。粘土粒子微量	12	緑	黒	色	ローム粒子微量
11	緑	褐	色	ロームブロック少量。粘土ブロック微量	13	赤	黒	色	粘土ブロック多量。ローム粒子少量
14	緑	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量。粘土粒子微量	15	緑	黒	色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
16	灰	褐	色	ロームブロック少量。粘土ブロック微量	17	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子少量
18	緑	褐	色	ロームブロック少量。炭化粒子微量	19	緑	褐	色	ロームブロック少量。粘土粒子微量
20	褐	褐	色	ローム粒子少量					

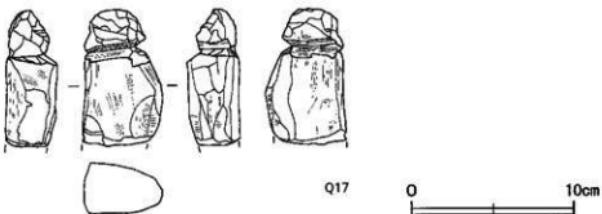
覆土 20層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	緑	黒	色	ローム粒子少量。粘土粒子微量	12	緑	黒	色	ローム粒子微量
2	緑	褐	色	ロームブロック少量。粘土ブロック微量	13	赤	黒	色	粘土ブロック多量。ローム粒子少量
3	灰	黒	色	ローム粒子・粘土粒子少量。粘土粒子微量	14	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子微量
4	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子。炭化粒子微量	15	緑	黒	色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
5	灰	褐	色	ロームブロック少量。粘土ブロック微量	16	灰	褐	色	ロームブロック少量。粘土ブロック・炭化粒子微量
6	緑	褐	色	ロームブロック微量					
7	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子少量	17	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子少量
8	緑	褐	色	ロームブロック少量。炭化粒子微量	18	緑	褐	色	ローム粒子少量。粘土ブロック微量
9	緑	褐	色	粘土ブロック・ローム粒子少量	19	緑	褐	色	ロームブロック少量。粘土粒子微量
10	緑	褐	色	ロームブロック少量。炭化粒子微量	20	褐	褐	色	ローム粒子少量
11	緑	褐	色	ロームブロック・粘土粒子少量。炭化粒子微量					



第47図 第24号住居跡出土遺物実測図(1)



第48図 第24号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片2641点（坏322・挽1・高坏11・壺1・甕2289・瓶17），須恵器片36点（坏4・蓋5・甕1・甕26），土製品45点（土玉24・管状土錐3・支脚18），石製品4点（臼玉2・双孔円板1・チキリ形模造品カ1），鉄洋12点（169.8g），褐鉄鉱10点が出土している。また、混入した鉄製品2点（不明）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて散在して出土している。6Iは竈右袖部の上部から炭化材とともに出土し、62～67・Q17は覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第24号住居跡出土遺物観察表(第47・48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
61	土師器	壺	133	5.2	-	長石・石英	にぶい	普通	体部外側ヘラ削り後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	竈右袖部上層	95% PL53
62	土師器	壺	116	5.0	-	長石・石英・雲母	根	良好	体部外側ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中層	95% PL53
63	土師器	壺	140	4.8	-	長石・石英・雲母	浅黄緑	黄緑	口縁部外側面磨き 体部外側ヘラ削り後磨き	覆土中層	80%
64	土師器	壺	117	6.2	-	長石・石英・黒色粒子	根	普通	体部外側ヘラ削り後ナダ	覆土下層	95% PL53
65	土師器	甕	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	根	普通	体部外側ヘラ磨き	覆土中層	75%
66	土師器	甕	134	18.3	5.9	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土上層 - 下層	90% PL53
67	土師器	甕	[190]	(19.0)	-	長石・石英・雲母	根	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土中層	35%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	須恵器	瓶	長石・石英	灰黄緑	普通	外側棒状工具による刻印文	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	チキリ形 模造品カ	(8.4)	5.0	3.1	(191.3)	滑石	中央部全面研磨 上部に工具痕が残る	覆土中層	PL80

第25号住居跡(第49・50図)

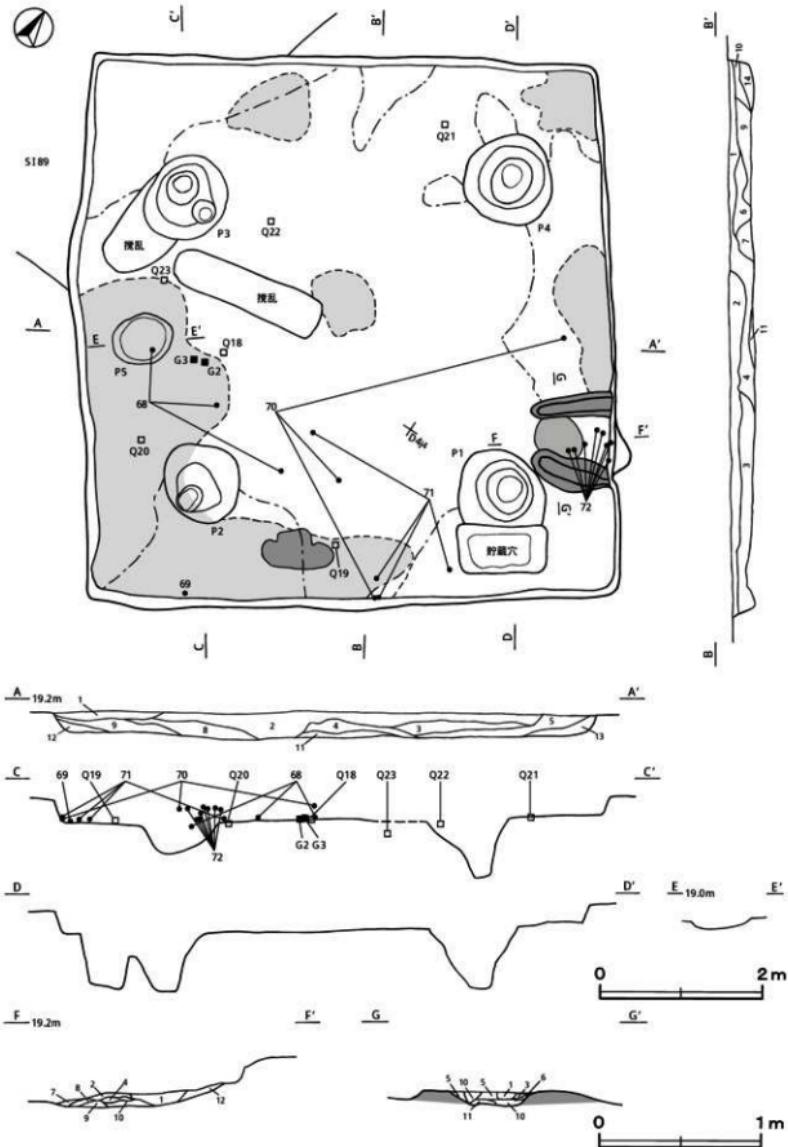
位置 調査区東部のD4-i3区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第89号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.84m、短軸6.63mの方形で、主軸方向はN-61°-Eである。壁高は20~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。壁際と中央部で焼土塊、南東壁際で粘土塊が確認できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、燃焼部幅48cmである。袖部はロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。



第49図 第25号住居跡実測図

遺土層解説

1	灰褐色	粘土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	7	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量。粘土粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂粒多量、粘土ブロック・粘土粒子中量、ロームブロック少量	8	暗褐色	炭化物・ローム粒子少量。粘土粒子微量
3	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量	9	褐色	ロームブロック少量
4	にぶい黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量	10	明赤褐色	ロームブロック・砂粒少量。粘土粒子微量
5	灰褐色	砂粒少量、ロームブロック・粘土ブロック微量	11	明赤褐色	粘土ブロック多量、砂粒少量、ローム粒子微量
6	暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・粘土ブロック微量	12	暗褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子、砂粒少量

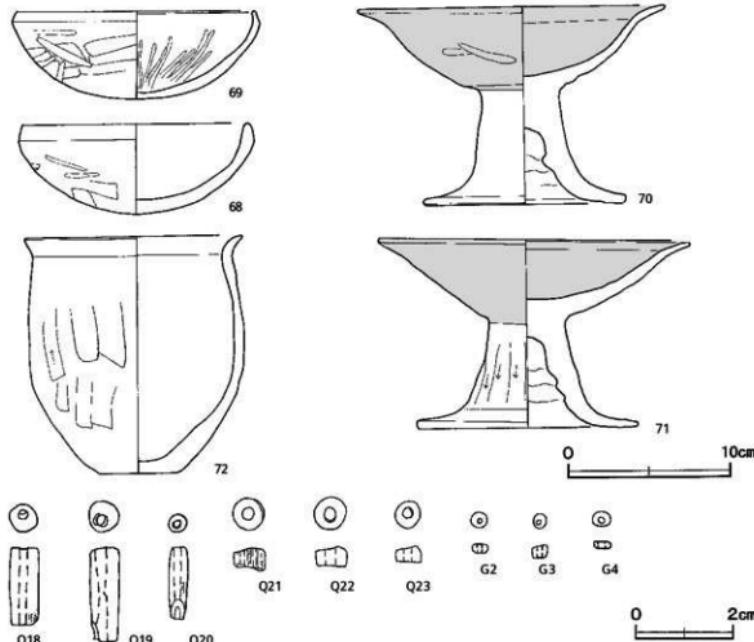
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ56～71cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ14cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸108cm、短軸57cmの長方形で、深さは64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	9	暗褐色	粘土粒子中量、ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量	10	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量	11	灰褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量	12	暗褐色	粘土ブロック・砂粒少量
5	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子中量
6	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量	14	褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック微量			
8	暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量			



第50図 第25号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1984点（坏226・高坏78・壺1・甕1677・瓶2），須恵器片32点（坏3・壺3・甕1・甕25），土製品19点（土玉），石器1点（砥石），石製品14点（管玉6・白玉8），ガラス製品3点（小玉），鉄滓1点（34.8g），滑石片5点，褐鐵鉱57点が出土している。また，混入した弥生土器片15点（壺）も出土している。遺物の大半は，全層の覆土中層から下層にかけて散在して出土している。68・69・Q18・Q21・Q22はそれぞれ床面，Q19・Q20・Q23・G2・G3はそれぞれ床面の焼土範囲。72は壺の燃焼部，70は覆土中層から下層にかけて，71は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから，焼失した可能性がある。

第25号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	縦幅	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
68	土師器	坏	140	5.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り後へラ磨き	床面	90% PL53
69	土師器	坏	148	5.4	-	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	外面へラ削り後へラ磨き 内面へラ磨き	床面	85% PL53
70	土師器	高坏	19.0	12.1	12.3	長石・石英・赤色粒子	赤灰	普通	環部内・外面ナデ	覆土中層 下層	75% PL53
71	土師器	高坏	19.2	11.8	13.6	長石・石英	赤灰	普通	環部内・外面ナデ 脚部外側へラ削り	覆土下層	65% PL53
72	土師器	小形壺	13.2	14.6	4.8	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外側へラ削り 内面へラナデ	電気燃焼部	80% PL54

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	管玉	0.6	1.6	0.2	0.8	グリーンタフ	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL89
Q19	管玉	0.7	2.0	0.3	(1.2)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	
Q20	管玉	0.4	1.5	0.2	(0.3)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	臼玉	0.7	0.5	0.2	0.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q22	臼玉	0.7	0.4	0.2	0.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q23	臼玉	0.5	0.3	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G2	小玉	0.4	0.2	0.1	0.1	淡緑	ガラス	一方向からの穿孔	床面	PL89
G3	小玉	0.3	0.3	0.1	0.1	淡緑	ガラス	一方向からの穿孔 箔切りカ	床面	PL89
G4	小玉	0.4	0.2	0.2	0.1	淡緑	ガラス	一方向からの穿孔	覆土中	PL89

第26号住居跡（第51・52図）

位置 調査区東部のE4b8区，標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 第27号住居跡を掘り込んでいる。

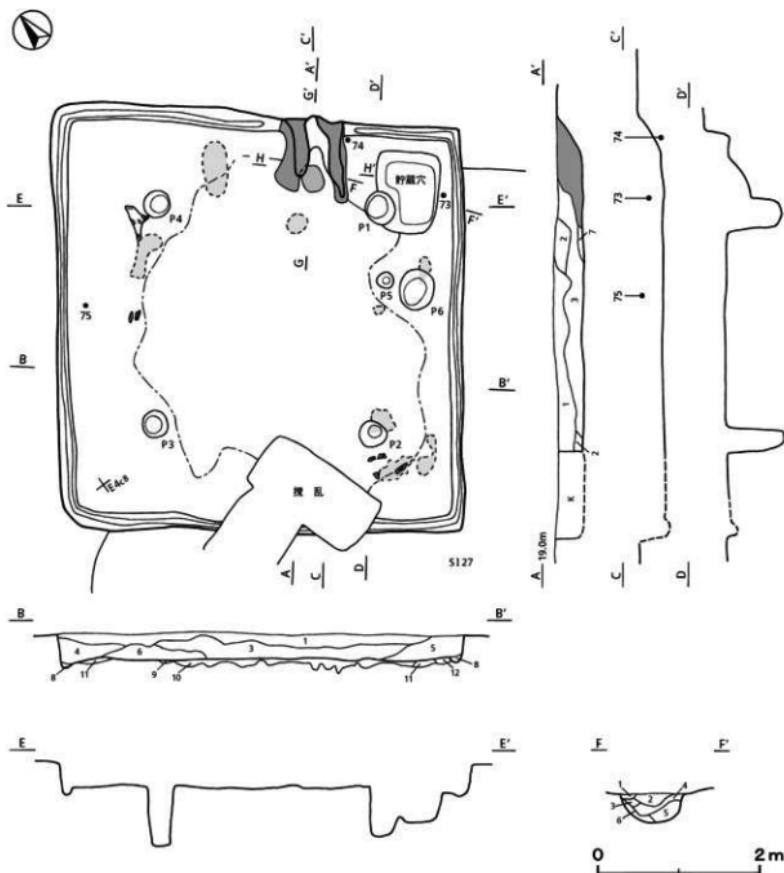
規模と形状 長軸5.16m，短軸4.99mの方形で，主軸方向はN-37°-Eである。壁高は23~34cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で，壺の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁構が全周している。北・南コーナー部で焼土塊と焼化材が確認できた。

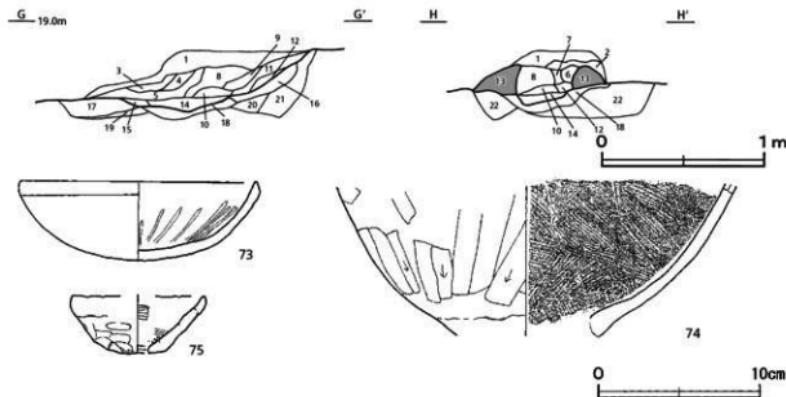
竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで116cm，燃焼部幅40cmである。第13層は袖部で，粘土ブロックと砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで，亦変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~22層は掘り方への埋土である。

竪土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黄褐色 | 砂粒中量、粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 12 初赤褐色 | 砂粒少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 2 砂赤褐色 | 砂粒中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 13 にふい黄褐色 | 砂粒多量、粘土ブロック少量 |
| 3 砂赤褐色 | 粘土ブロック中量、砂粒少量、炭化粒子微量 | 14 赤褐色 | 粘土ブロック少量 |
| 4 にふい黄褐色 | 砂粒多量、粘土ブロック微量 | 15 赤褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 にふい黄褐色 | 砂粒少量、粘土ブロック微量、炭化物微量 | 16 砂赤褐色 | 砂粒中量、炭化粒子微量 |
| 6 にふい黄褐色 | 砂粒多量、粘土ブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 | 17 砂赤褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 7 砂赤褐色 | 砂粒少量、粘土粒子・炭化粒子微量 | 18 砂赤褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 8 にふい黄褐色 | 砂粒中量、炭化粒子少量、粘土ブロック微量 | 19 砂褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 9 黑褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 20 砂赤褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 にふい黄褐色 | 粘土ブロック中量 | 21 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、砂粒微量 |
| 11 にふい黄褐色 | 砂粒少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 22 棕褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子・炭化粒子微量 |



第51図 第26号住居跡実測図



第52図 第26号住居跡・出土遺物実測図

ビット 6か所。P.1~P.4は深さ16~71cmで、規模と位置から主柱穴である。P.5・P.6は深さ23cm・17cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸102cm、短軸75cmの長方形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量	4	にぶい褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
2	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化物粒子微量	5	黒色	ロームブロック少量、炭化物粒子微量
3	灰褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・粘土粒子・炭化物粒子微量	6	にぶい褐色	ローム粒子・炭化物粒子・粘土粒子微量

覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物微量	7	黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量	9	褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量
5	黒褐色	ロームブロック・炭化物粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック多量、炭化物・粘土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・炭化物粒子微量	12	暗褐色	炭化物少量、粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1107点(环131・高环6・鉢2・壺9・壺937・瓶21・ミニチュア1), 須恵器片6点(环1・甕5), 土製品8点(土玉2・支脚6), 鉄滓1点(9.1g), 滑石片27点, 揭鉄鉗2点が出土している。また、混入した弥生土器片70点(甕)も出土している。遺物の大半は、北東壁と北西壁際寄りの覆土中層から下層にかけて出土し、特に甕の右袖部付近にかけてまとめて出土している。74は甕右袖部付近の床面、73は東コーナー部、75は北西壁寄りのそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。床面で炭化材と焼土塊が見られることから、焼失した可能性がある。

第26号住居跡出土遺物観察表(第52図)

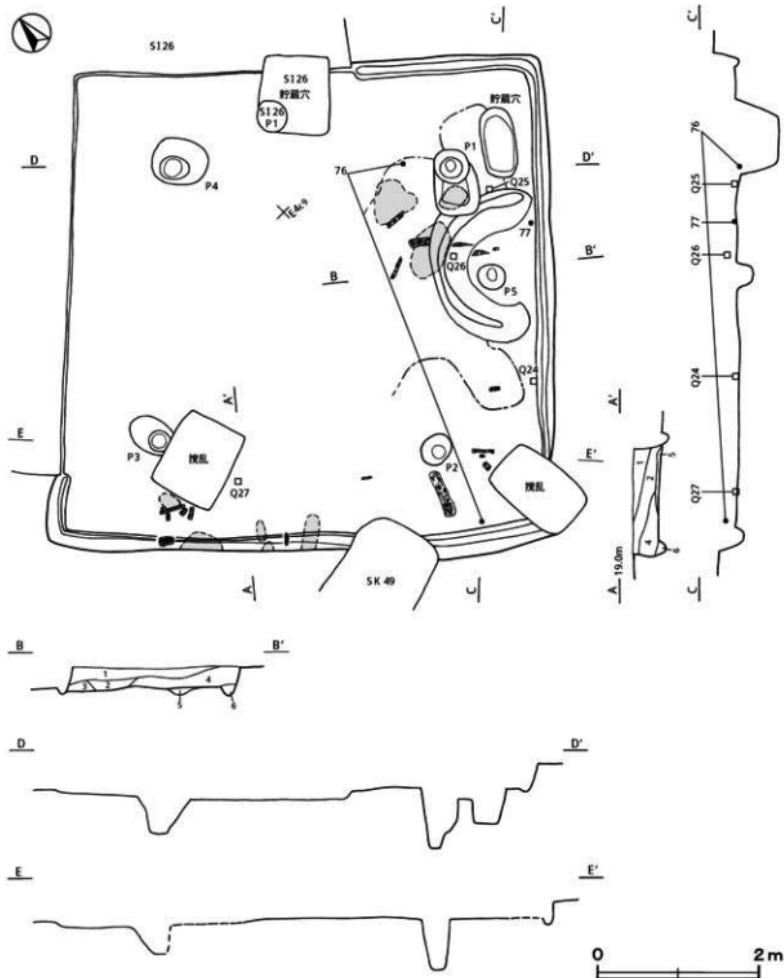
番号	種別	器種	口径	基高	高径	崩土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
73	土師器	环	147	48	-	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面へラ磨き	覆土中層	90% PL54
74	土師器	甕	-	(94)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り 内面ハケ目調整 底部剝離	床面	40%
75	土師器	ミニチュア	[82]	35	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ハケ目調整	覆土中層	70%

第27号住居跡（第53～55図）

位置 調査区東部のE 4 c8区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第26号住居、南西部を第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺6.02mの方形で、主軸方向は、龜が確認できなかつたため不明である。壁高は38cmで、外傾して立ち上がっている。



第53図 第27号住居跡実測図

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では、中央部が踏み固められている。壁構が重複部を除く壁下で確認できた。P 5 の周辺に馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うものと考えられる。東コーナー一部と西部の床面の一部に焼土塊が確認できた。

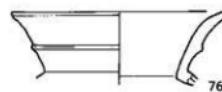
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ56～71cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ20cmで、南東壁際の中央部に位置し、周辺に馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵室 東コーナー部に付設されている。長軸84cm、短軸42cmの長方形で、深さ45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっていている。

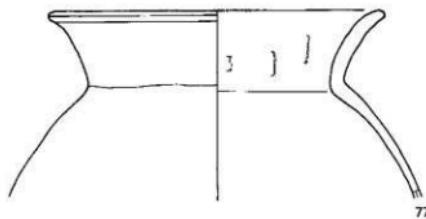
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

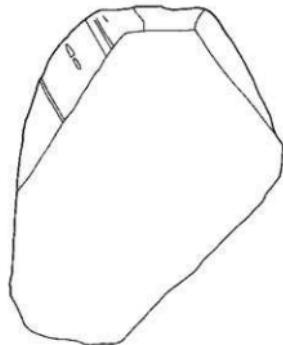
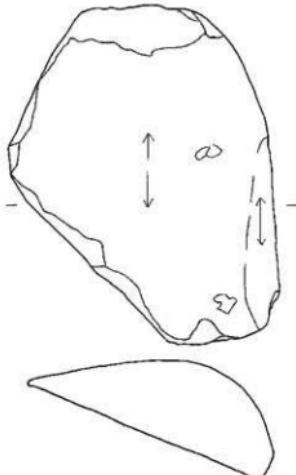
1	免	色	ロームブロック少量	4	免	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	免	黒	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量	5	免	色	ローム粒子中量
3	免	黒	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	6	免	色	ロームブロック中量



76



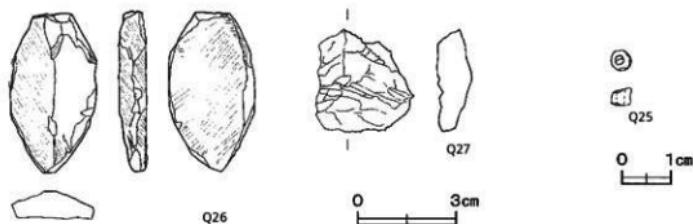
77



Q24



第54図 第27号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第27号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片440点(環34・高环1・壺2・甕403), 須恵器片1点(甕), 土製品2点(土玉), 石器1点(砥石), 石製品3点(管玉1・臼玉1・劍形模造品1), 滑石片6点が出土している。また, 混入した弥生土器片48点(壺), 鉄製品2点(不明)も出土している。遺物の大半は, 南東寄りの覆土中層から下層にかけて出土している。76・77・Q24・Q25は南東壁寄り, Q27は南西壁寄りのそれぞれ床面から出土し, Q26は南東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物や重複関係から6世紀初頭と考えられる。東コーナー部付近と南西壁寄りの床面の一部に焼土塊と炭化材が確認できたことから, 焼失した可能性がある。

第27号住居跡出土遺物観察表(第54・55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
76	土師器	壺	13.1	(4.5)	-	長石	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	床面	20%
77	土師器	甕	20.4	(11.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ	床面	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	砥石	20.7	16.8	7.3	257.68	砂岩	範囲3面 台石から転用か	床面	
Q27	剥片	3.2	3.0	1.1	13.0	滑石	工具痕が残る	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	臼玉	0.4	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q26	劍形模造品	4.9	2.7	0.8	-	16.2	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土下層	PL84

第28号住居跡(第56・57図)

位置 調査区東部のD4h7区, 標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第29・39号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.55m, 短軸4.43mの方形で, 主軸方向はN-59°-Eである。壁高は38~42cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。壁溝が東コーナー部を除く壁下で確認できた。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで120cm, 燃焼部幅38cmである。袖部は, 砂粒を主体とした暗褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変硬化している。煙道部は壁

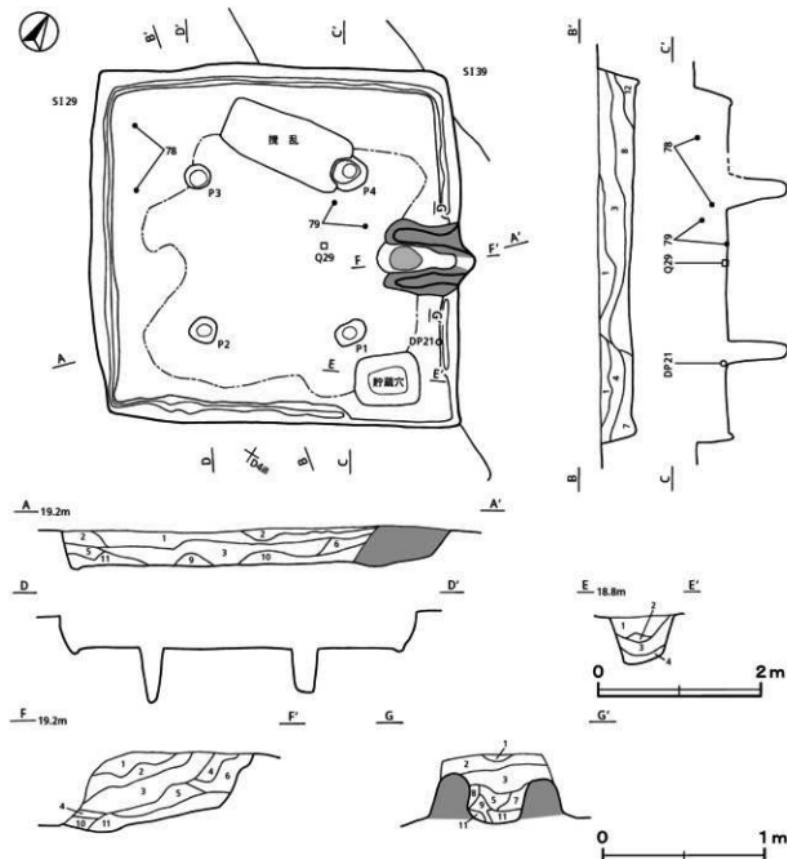
外に19cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒 色 ロームブロック・粘土粒子少量、砂粒微量 | 7 塗 色 砂粒多量、粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 にい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 8 黒 色 砂粒・粘土粒子少量 |
| 3 黒 色 ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量 | 9 塗 色 砂粒多量、粘土粒子少量、炭化粒子少量 |
| 4 にい黄褐色 砂粒多量、粘土粒子少量 | 10 黒 色 粘土粒子多量、ローム粒子・砂粒少量 |
| 5 黒 色 砂粒ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量 | 11 黒 色 粘土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量、砂粒微量 |
| 6 黒 色 砂粒中量、ローム粒子・粘土粒子少量 | |

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ16～71cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸80cm、短軸66cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第56図 第28号住居跡実測図

防護土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・埴土粒子少量 | 3 塗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黄褐色 ローム粒子多量 | 4 黄褐色 ロームブロック中量 |

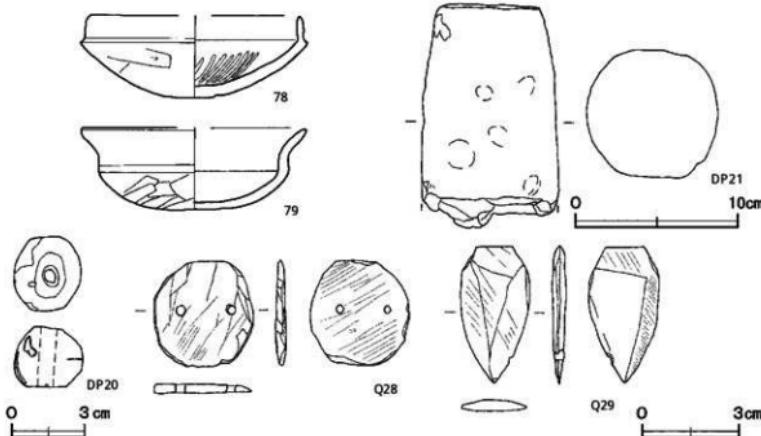
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、埴土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・埴土粒子少量 |
| 2 黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、埴土ブロック微量 | 8 黄褐色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 紅褐色 ローム粒子少量、埴土粒子微量 | 9 黑褐色 炭化粒子少量、埴土粒子微量 |
| 4 黑褐色 ローム粒子中量、埴土粒子少量 | 10 黄褐色 ローム粒子少量、埴土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 紅褐色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量 | 11 黑褐色 ロームブロック中量、埴土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 黑褐色 炭化物、埴土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量 | 12 黑褐色 ロームブロック・埴土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片895点（坏144・高坏12・壺3・甌3・ミニチュア1）、須恵器片7点（坏1・甌6）、土製品10点（土玉6・支脚4）、石製品5点（單孔円板1・双孔円板2・劍形模造品2）、滑石片8点、褐鉄鉱3点が出土している。また、混入した弥生土器片21点（甌）、土師器片2点（器台）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。DP21は北東壁寄り、Q29は中央部のそれぞれ床面、78は西部の覆土中層、79は北東部の覆土中層から床面にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第57図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
78	土師器	坏	[12.9]	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	ぶい焼	普通	体部外側へラ削り 体部内側へラ削き	覆土中層	40%
79	土師器	坏	[13.8]	5.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り	覆土中層 -床面	30%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	土玉	2.8	2.5	0.7	23.2	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP21	支脚	(11.7)	6.2	8.4	(946g)	長石・石英	ナデ調整 指捺圧痕	床面	

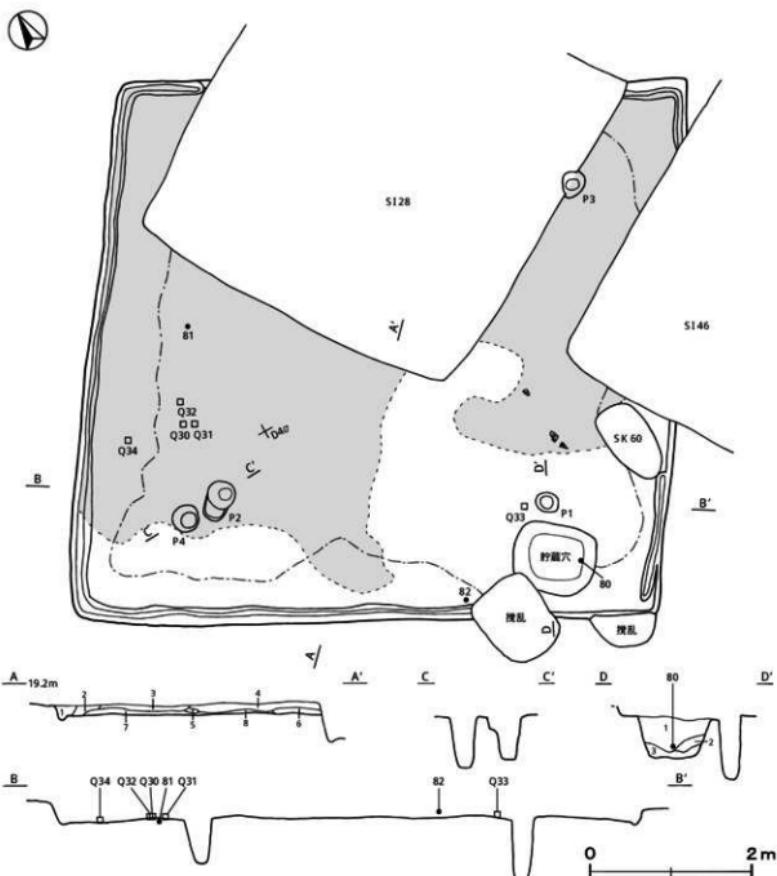
番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	双丸円板	33	30	0.3	0.3	68	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL85
Q29	斜形橢造品	42	22	0.5	-	5.4	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	床面	PL84

第29号住居跡（第58・59図）

位置 調査区中央部のD4 i7区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北東部を第28号住居、南東部を46号住居、南東部を第60号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.26m、短軸6.70mの方形で、主軸方向は、炉もしくは竈が確認できなかつたため不明である。壁高は12~24cmで、外傾して立ち上がっている。



第58図 第29号住居跡実測図

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が重複部分と北東コーナー部を除いて確認できた。焼土塊と炭化材が確認できた。

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ55～57cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は西コーナー部付近に位置している。深さ64cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部の南東寄りに付設されている。長軸103cm、短軸82cmの長方形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ローム粒子少量

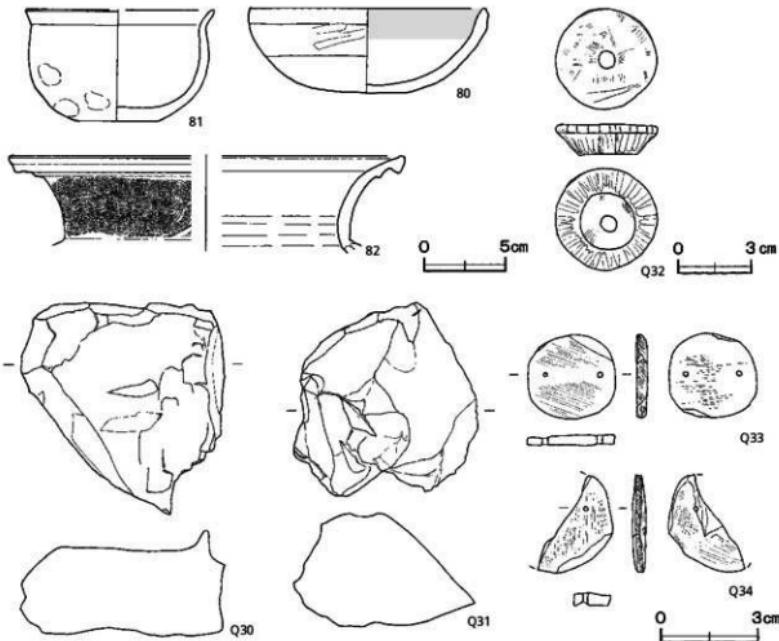
- 3 塗褐色 ロームブロック多量

覆土 8層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 塗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量
3 塗褐色 ロームブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック、燒土粒子少量
5 黒褐色 ロームブロック微量

- 6 黒褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量
7 塗褐色 燃土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量
8 黒褐色 燃土粒子中量、ロームブロック少量



第59図 第29号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片432点（壺63・甕1・高杯4・壺3・甕361）、須恵器片15点（甕）、土製品4点（土玉）、石製品4点（鍛錘車1・双孔円板3）、滑石片9点、雲母片岩1点が出土している。また、混入した弥生土器片11点（壺）も出土している。遺物の大半は、北東コーナー部付近と北西壁際の覆土中層から下層にかけて出

土している。81・Q30～Q34は南西壁寄りのそれぞれ床面、80は貯蔵穴の覆土中層、82は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第29号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
80	土師器	壺	148	52	-	長石・石英	赤	普通	体部外側ヘラ削り後ヘラ巻き	貯蔵穴	55%
81	土師器	壺	[115]	69	49	長石・雲母	にぶい	良好	体部外側ヘラ削り後ナダ指標圧痕	床面	50%
82	須恵器	壺	[242]	(59)	-	長石	灰	良好	輪部擦拂による波状文	覆土下層	10% PL54

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	原石	65	63	33	150.6	滑石	荒削段階	床面	PL87
Q31	原石	60	56	35	130.9	滑石	荒削段階	床面	PL87

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	結縁車	42	12	0.7	29.7		滑石	全面研磨 側面刃刀子状工具による菱形カニ二方向からの穿孔	床面	PL82

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	双孔円板	26	27	0.3	0.2	(48)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	PL85
Q34	双孔円板	(30)	(23)	0.4	0.2	(33)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	

第30号住居跡（第60・61図）

位置 調査区東部のD5j3区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第63号住居跡を掘り込み、南コーナー部を第10号構に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は5.91mで、北東・南西軸は、北東部が調査区域外に延びていて4.97mしか確認できなかった。主軸方向がN-30°-Eの方形もしくは長方形と推測される。壁高は12～35cmで、外傾して立ち上っている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

炉 中央部に付設された地床炉である。長径60cm、短径35cmの楕円形で、床面から17cm掘り込まれている。

伊土居解説

1. 明赤褐色 土粒子多量

2. 極暗赤褐色 土粒子少量 ローム粒子微量

ピット 深さ18cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックを多く含むことから埋め戻されている。

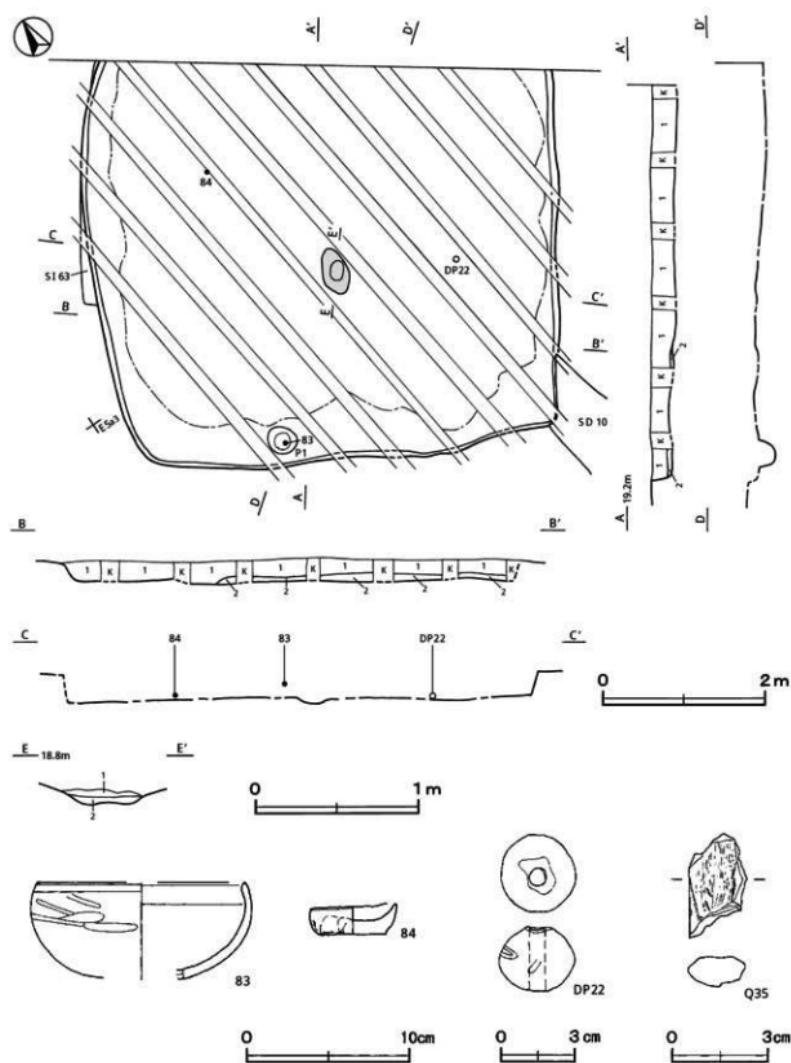
土居解説

1. 緩開色 ロームブロック微量

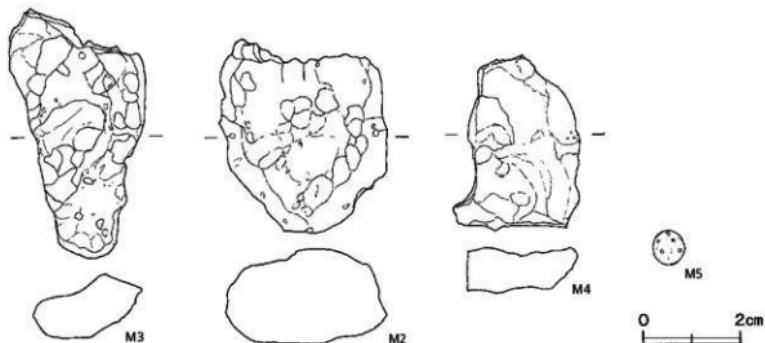
2. 明開色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2679点（壺130・壺5・甕2542・瓶1・ミニチュア1）、須恵器片17点（壺2・蓋2・甕3・甕10）、土製品30点（小玉1・土玉18・管状土錐2・支脚8・不明1）、石製品4点（臼玉2・双孔円板2）、鐵滓36点（355.6g）、鐵製品2点（刀子・不明）、滑石片56点、褐鉄鉱2点が出土している。また、混入した弥生土器片54点（壺）も出土している。遺物の大半は、南東コーナー部と中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。84は北西部、DP22は南東寄りのそれぞれ床面、83は南西壁寄りの覆土中層から出土している。M2～M5は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。羽口や鐵造剝片など製鉄関連の遺物は確認できなかったことから、本跡に鐵滓が廃棄された可能性がある。



第60図 第30号住居跡・出土遺物実測図



第61図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第60・61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
B3	土器	桶	[128]	(5.9)	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外側へラ削り後へラ磨き	覆土中層	30%
B4	土器	ミニコア	5.2	1.9	4.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ナデ	床面	50%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP22	土玉	3.1	2.7	0.7	25.5	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q35	滑石	3.2	1.8	1.0	6.5	滑石	上面研磨面	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
M2	鉄滓	40	35	2.0	42.1	磁性あり	覆土中	
M3	鉄滓	52	29	1.3	26.9	磁性あり	覆土中	
M4	鉄滓	37	26	0.9	17.6	磁性あり	覆土中	
M5	鉄滓	0.7	0.6	-	0.3	磁性あり 中空 粒状滓か	覆土中	

第31号住居跡（第62・63図）

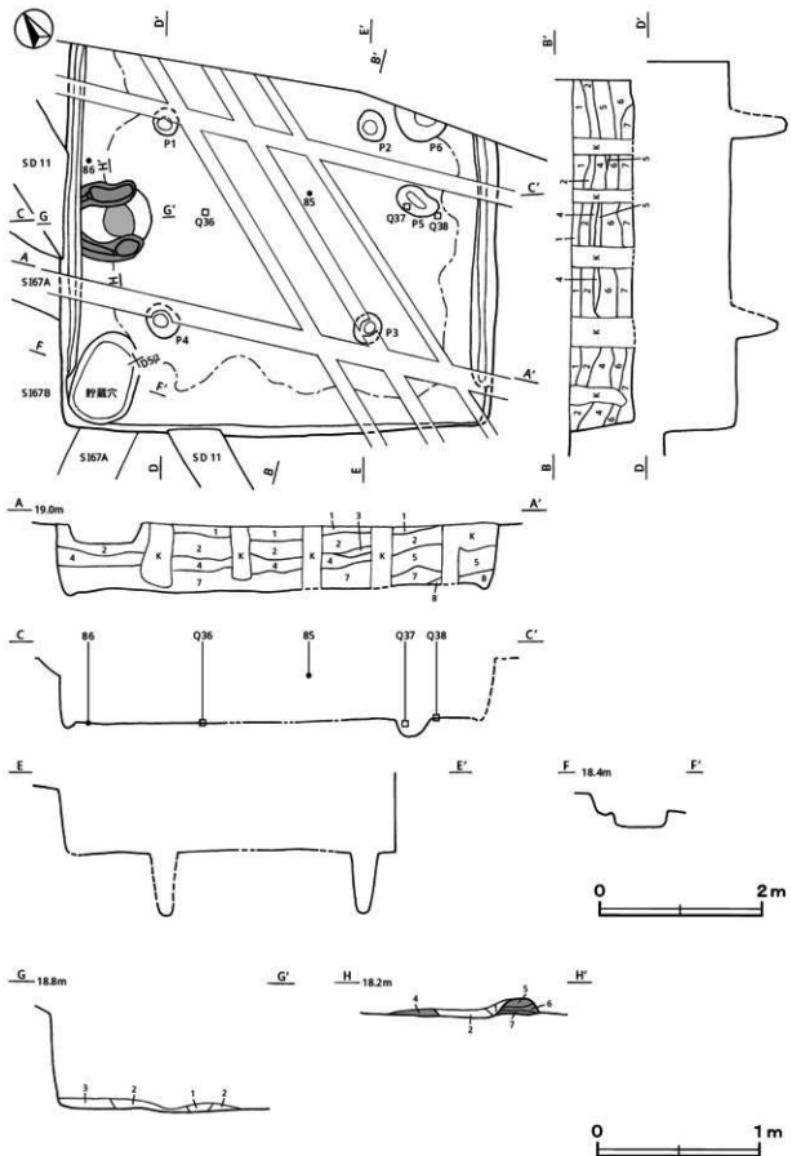
位置 調査区東部のD 5 i 2区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第67A・67B号住居跡を掘り込み、南西・北西部の一部を第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は5.37mで、北東・南西軸は、北東部が調査区域外に延びているため4.69mしか確認できなかった。主軸方向がN-60°-Wの方形もしくは長方形と推測される。壁高は73~86cmで、垂直に立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西・南東壁の壁下で確認できた。

竈 北西壁に付設されている。煙道部は第11号溝に掘り込まれている。規模は、確認できた範囲では焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅47cmである。第4~7層は袖部で、ロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。



第62図 第31号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒 色 粘土粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 2 細砂赤褐色 炭化粒子少量、燒土ブロック微量
- 3 黑 色 烧土粒子・炭化粒子微量
- 4 細 色 ロームブロック・燒土粒子・粘土粒子微量

- 5 灰 色 粘土ブロック中量、燒土粒子微量
- 6 細赤褐色 烧土ブロック・燒土粒子少量
- 7 灰 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ55～74cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ21cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ55cmで、位置から貯蔵穴の可能性も考えられるが、性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長径118cm、短径78cmの橢円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

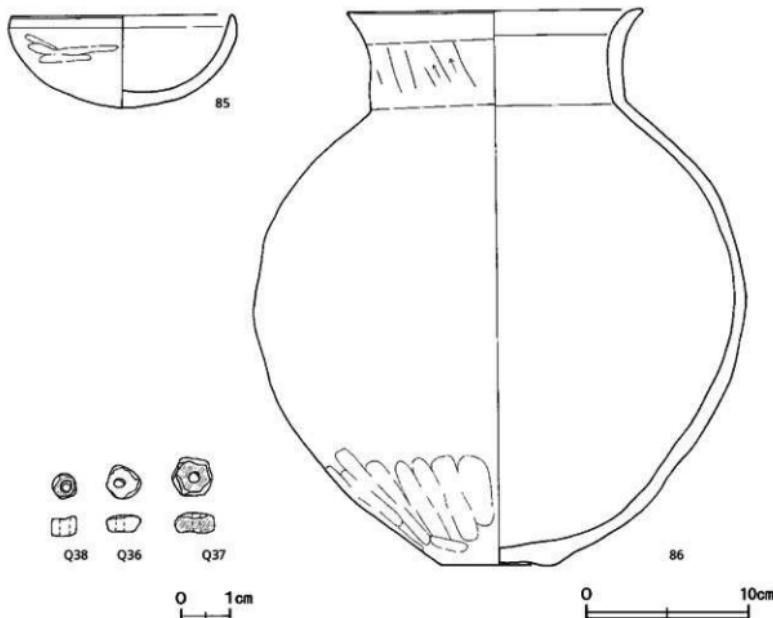
土層解説

- 1 細砂 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 細 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 黑 色 ローム粒子微量
- 4 細 色 ロームブロック・焼土粒子微量

- 5 灰 色 ロームブロック中量
- 6 灰 色 ロームブロック・炭化物微量
- 7 灰 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 灰 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片2081点(环146・高环7・壺2・甕1912・瓶11・ミニチュア3)、須恵器片25点(环1・蓋4・甕20)、土製品7点(土玉5・管状土錐2)、石器2点(敲石・砥石)、石製品3点(白玉)、滑石片11点、掲鉄鉄14点、铁滓8点(68.1g)が出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。86は北西部、Q36は中央部、Q38はP 5周辺のそれぞれ床面、Q37はP 5の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第63図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	土師器	环	137	5.6	-	長石・石英・雲母 赤褐色	普通	外面ヘラ削り後ナデ		覆土上層	90% PL54
86	土師器	環	152	34.2	7.2	長石・石英・雲母 にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後下端ヘラナデ 内面ナデ		床面	85% PL54

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q36	臼玉	0.7	0.4	0.2	0.2	滑石	未完成 未研磨 一方向からの穿孔 板状から加工か		床面	PL86
Q37	臼玉	0.8	0.4	0.2	0.5	滑石	未完成 一方向からの穿孔 板状から加工か		PS覆土上層	PL86
Q38	臼玉	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔		床面	PL86

第32号住居跡（第64・65図）

位置 調査区東部のE 5c7区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第14・33・36・40号住居跡を掘り込み、中央部と北寄りの床面を第18・32号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びている。長軸6.10m、短軸6.02mの方形で、主軸方向はN=19°-Wである。壁高は18~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が一部で確認できた。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで128cm、燃焼部幅58cmである。袖部は粘土ブロックと砂粒を主体とした暗褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒 微量	9	暗褐色	燒土ブロック・炭化粒子・砂粒少量
2	褐色	燒土ブロック・ローム粒子・砂粒微量	10	暗褐色	燒土ブロック・炭化粒子中量・ローム粒子・ 砂粒少量
3	暗褐色	粘土ブロック少量・燒土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量
4	赤褐色	燒土ブロック中量・炭化粒子微量	12	暗褐色	燒土粒子・砂粒少量・ローム粒子・炭化粒子微 量
5	暗褐色	燒土ブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量・ ローム粒子微量	13	にじむ赤褐色	燒土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量・燒土粒子・炭化粒子微 量	14	暗褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量・ローム粒子微 量
7	にじむ赤褐色	燒土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒 子微量	15	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子微量・炭化粒子微量
8	暗褐色	燒土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

ピット P.1~P.3は深さ64~75cmで、規模と位置から主柱穴である。P.4は深さ40cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

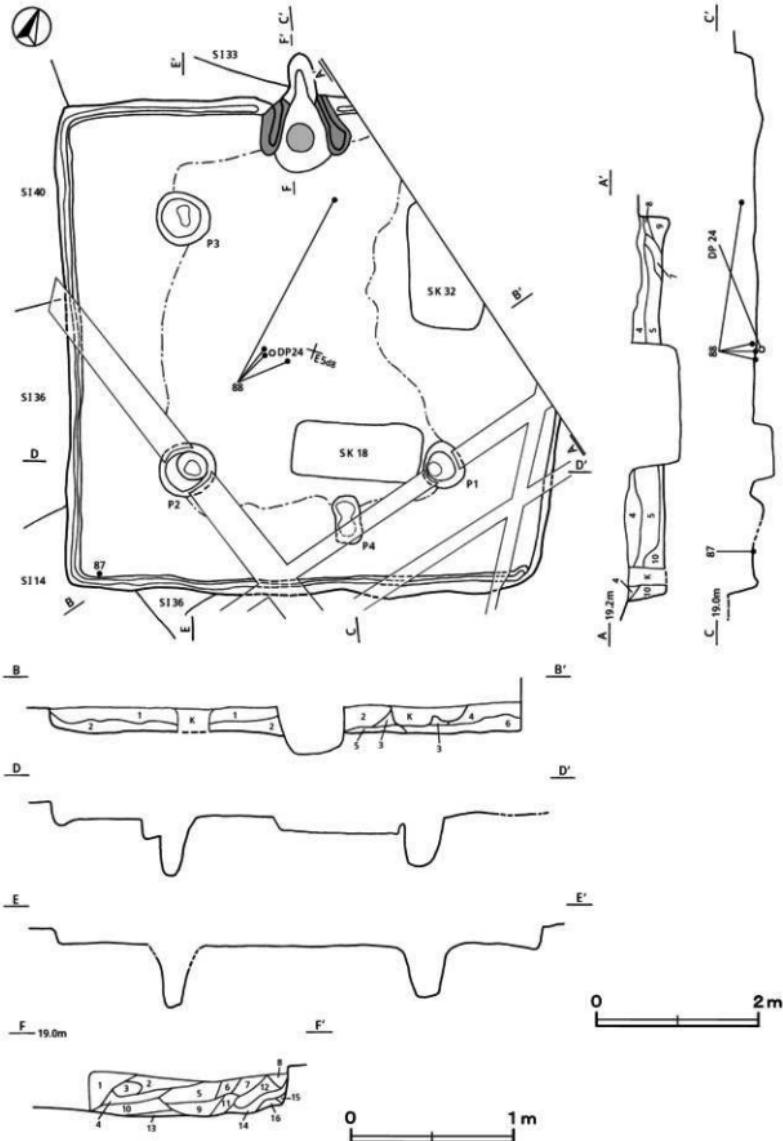
覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

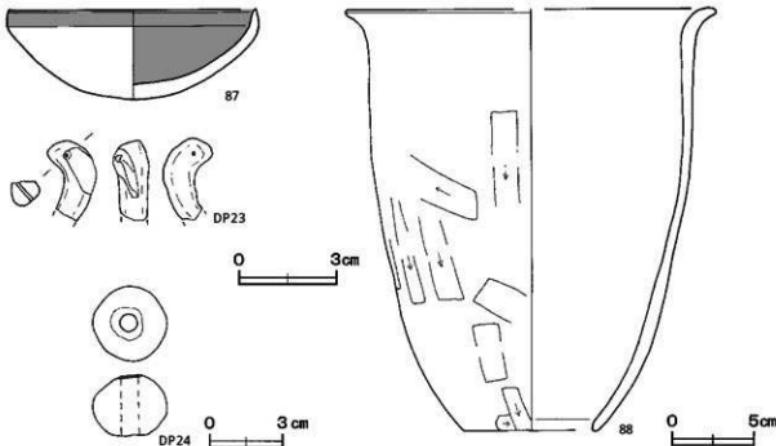
1	黒褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・燒土粒子微 量	7	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量・燒土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック少量	9	暗褐色	砂粒少量・ロームブロック・燒土ブロック・ 炭化粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片933点（环154・高杯6・甕752・瓶15・ミニチュア6）、須恵器片1点（蓋）、土製品12点（勾玉1・土玉11）、鉄津2点（16.5g）、滑石片2点が出土している。また、混入した弥生土器片10点（蓋）も出土している。遺物の大半は、中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。87は南コーナー部、DP24は中央部のそれぞれ床面、88は中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第64図 第32号住居跡実測図



第65図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
87	土師器	环	15.5	5.5	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	95% PL54
88	土師器	瓶	[22.4]	26.0	8.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外側へラ削り 内面ナデ	覆土中層 -床面	40%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP23	勾玉	(2.5)	1.1	0.9	0.1	(2.6)	長石	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	PL79

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP24	土玉	3.0	2.5	0.7	22.6	長石	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

第33号住居跡（第66図）

位置 調査区東部のE 5b 7区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第79号住居跡を掘り込み、南壁の一部を第32号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びていて、東西軸は3.44mで、南北軸は2.67mしか確認できなかつた。形状は方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は竈が確認できなかつたため、不明である。壁高は20~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認した範囲では南壁際が踏み固められている。壁溝が確認した部分では巡っている。

ピット 深さ75cmで、位置から主柱穴と考えられる。

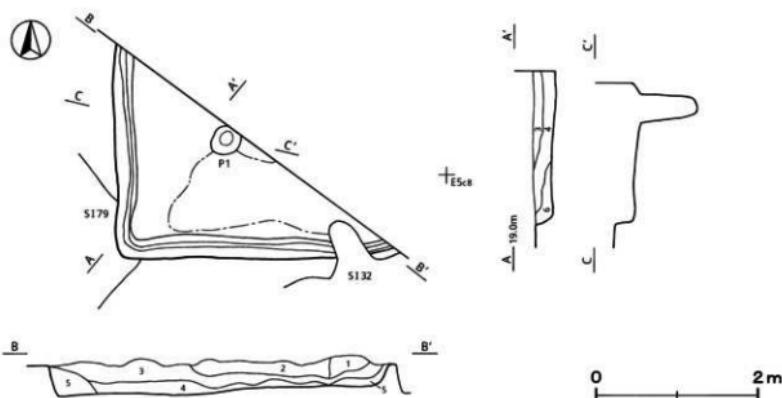
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック・燒土ブロック中量、炭化物少量
2	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化物少量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	6	褐色	ロームブロック少量、燒化物・燒土粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点（坏6・甕16），土製品3点（土玉），滑石片1点が出土している。出土遺物は細片のため図示出来ない。

所見 時期は、重複関係と出土遺物から6世紀前葉と考えられる。



第66図 第33号住居跡実測図

第34号住居跡（第67図）

位置 調査区東部のD 4 d6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北西部を第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は5.45mで、北東・南西軸は北東部が調査区域外に延びているため2.25mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、炉が確認できなかったため不明である。壁高は50cmで、外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では壁際まで踏み固められ、確認できた範囲では壁溝が巡っている。

ピット 深さ55cmで、位置から主柱穴である。

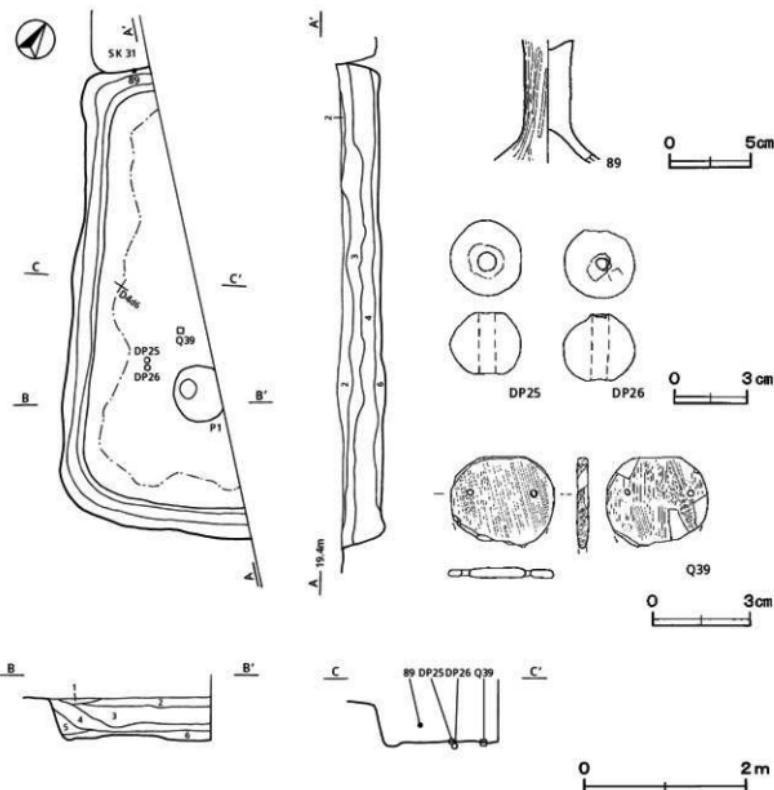
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	基	褐色	ローム粒子微量	4	極	暗	褐色	ロームブロック微量
2	堆	褐色	ロームブロック微量	5	基	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
3	地	褐色	ロームブロック少	6	明	褐色	ローム粒子中量	

遺物出土状況 土師器片86点（坏33・高坏2・鉢1・甕48・瓶1・ミニチュア1）、須恵器片2点（蓋）、土製品5点（土玉）、石製品1点（双孔円板）、滑石片2点、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した土師器片1点（器台）、陶磁器片3点も出土している。DP25・DP26はP 1付近、Q39は中央部のそれぞれ床面、89は北西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



第67図 第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	土器器	高壺	-	(7.6)	-	長石・石英	ぶい黄橙	普通	脚部外側へラözき	覆土中層	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP25	土玉	2.9	2.5	0.7	23.6	長石・石英・雲母	ナデ溝壓 一方向からの穿孔	床面	
DP26	土玉	2.9	2.8	0.5	(21.8)	白色粒子・雲母	ナデ溝壓 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	双孔円板	(2.8)	32	0.3	0.2	(6.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL85

第35号住居跡（第68・69図）

位置 調査区東部のD 4 h0区、標高18.9mの台地上に位置している。

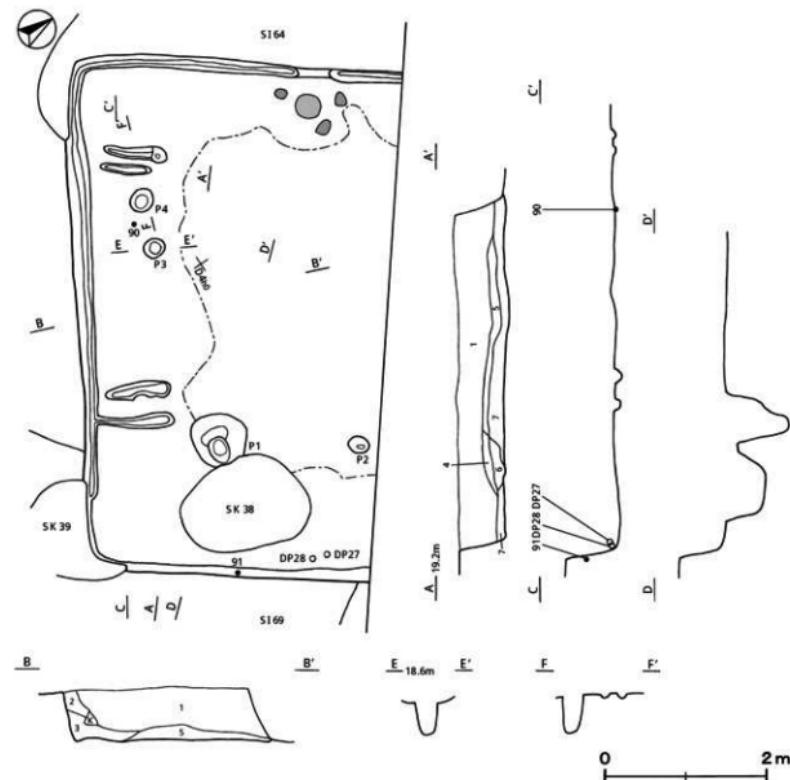
重複関係 第69号住居跡を掘り込み、北西部を第64号住居、南東部の床面を第38号土坑、南コーナー部を第39号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は6.37mで、北東・南西軸は北東部が調査区域外に延びているため3.78mしか確認できなかった。主軸方向はN-56°-Wの方舟もしくは長方形と推測される。壁高は53~68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が北西壁下と南西壁下で確認できた。南西壁際から中央部に延びる4条の溝が確認できた。

竈 北西壁に付設されている。第64号住居に掘り込まれているため、袖部の痕跡と火床面のみ確認できた。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。

ピット 4か所。P1は深さ55cmで、位置から主柱穴である。P2は南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3・P4は深さ44cm・38cmで、性格は不明である。



第68図 第35号住居跡実測図

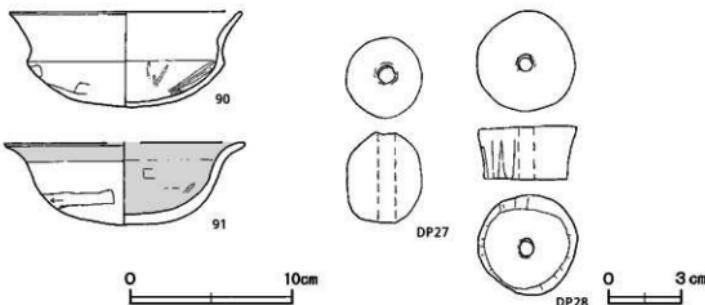
覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	燒土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量
3	褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量	6	褐色	ロームブロック・炭化物微量
			7	褐色	ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片2862点（坏331・楕2・高坏11・甕2481・瓶37）、須恵器片29点（坏11・蓋3・甕1・甕14）、土製品31点（土玉18・管状土錐1・支脚9・紡錘車1・不明2）、石器1点（砥石）、石製品2点（剣形模造品）、鐵滓4点（4.5g）、滑石片16点、鉄鉢3点が出土している。また、混入した縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片49点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。90は南西壁寄りの床面、91は南東壁際の覆土中層、DP27・DP28は南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。南西壁際で確認できた溝は、根太を設置した可能性が考えられる。



第69図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									内面外側へ削り	内面へ削き		
90	土師器	坏	10.4	5.9	-	長石・石英・雷母	ぶい根	普通	体部外側へ削り	内面へ削き	床面	90% PL55
91	土師器	坏	[148]	5.0	-	長石・石英	根	普通	体部外側へ削り	内面ナデ	覆土中層	50% PL54

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土		特徴	出土位置	備考
						内面	外側			
DP27	土玉	31	3.7	0.8	39.5	長石・石英・雷母		ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP28	紡錘車	41	2.2	0.7	45.3	長石・石英・赤色粒子		ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	PL79

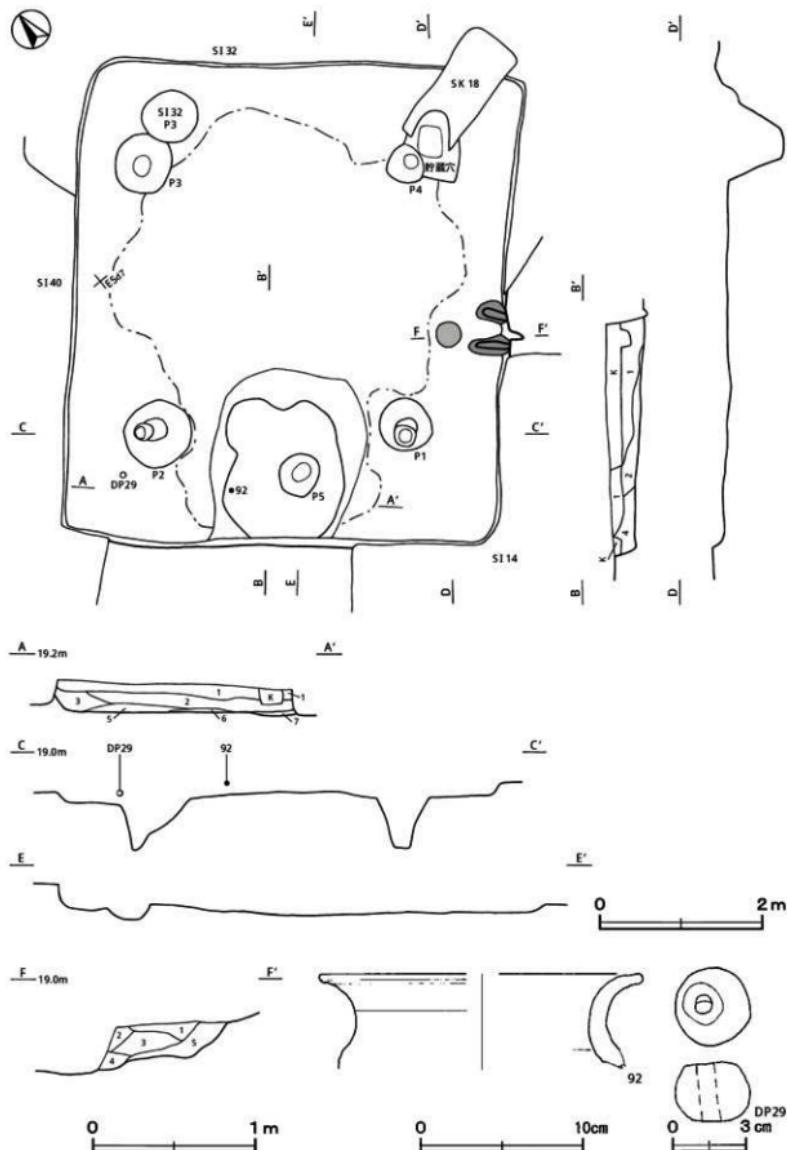
第36号住居跡（第70図）

位置 調査区東部のE 5 d7区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 南部を第14号住居、北東部を第32号住居・第18号土坑、北西部を40号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.85m、短軸5.28mの長方形で、主軸方向はN-124°-Eである。壁高は4~40cmで、外傾して立ち上っている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。P 5の周辺に馬蹄形の高まりが見られ



第70図 第36号住居跡・出土遺物実測図

ることから、出入り口施設に伴うものと考えられる。

竈 南東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで59cm、燃焼部幅27cmである。袖部は、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面より少し高い位置で、赤変化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

土層解説

1 黒褐色 砂粒中量、ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量	4 灰褐色 烧土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
2 灰褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・砂粒微量	5 灰褐色 ロームブロック・砂粒少量、炭化物・燒土粒子微量
3 灰褐色 砂粒中量、燒土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	

ピット 5か所。P 3・P 4は第32号住居跡の掘り方調査で確認した。P 1～P 4は深さ54～70cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ14cmで、南西壁際の中央部に位置し、馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵窓 東コーナー部に付設されている。長軸95cm、短軸70cmの長方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量	5 灰褐色 ロームブロック微量
2 黑褐色 ロームブロック中量	6 灰褐色 ローム粒子微量
3 黑褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	7 黑褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片305点(坪22・甕281・瓶1・ミニチュア1)、土製品5点(土玉)、滑石片2点、鐵鉗3点が出土している。また、混入した弥生土器片1点(壺)も出土している。遺物の大半は、南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。92・BP29は南西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
92	土師器	瓶	[180]	(58)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	摩滅のため調査不明	覆土中層	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP29	土玉	31	25	0.8	27.6	長石・石英・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	

第37号住居跡(第71図)

位置 調査区東部のD 4 e7区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 南東部を第38号住居、北西部を第33号土坑、南西部を36号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は4.73mで、北東・南西軸は北東部が調査区域外に延びているため3.44mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、竈が確認できなかったため不明である。壁高は29～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では、中央部が踏み固められている。

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ39～68cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ28cmで、P 1に掘り込まれていることから、古い主柱穴の可能性がある。

貯藏穴 南コーナー部に付設されている。長軸63cm、短軸48cmの長方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

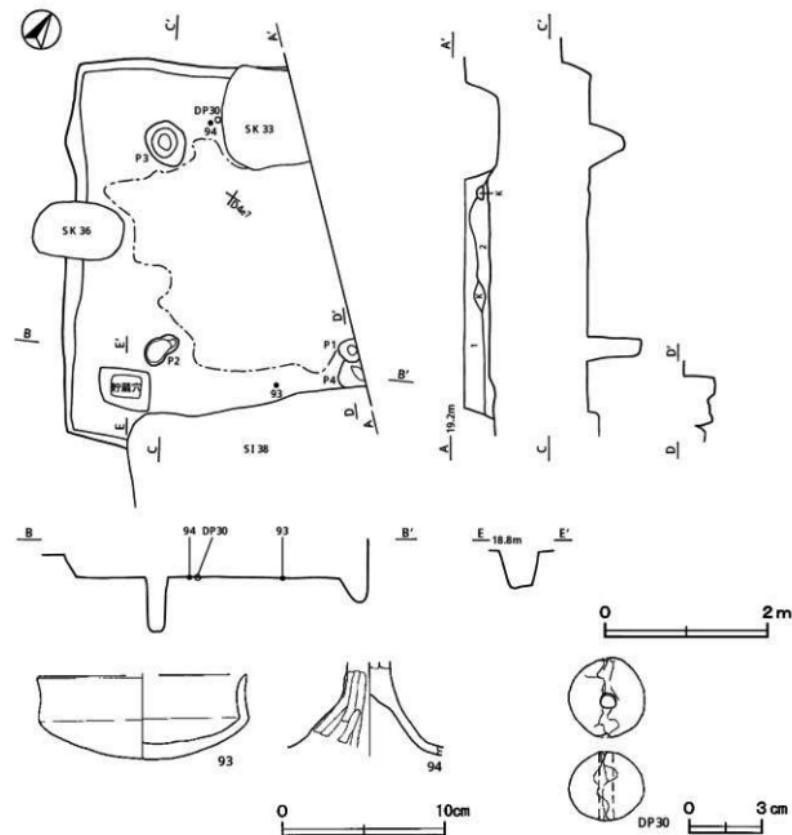
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黑褐色 ローム粒子・同化粒子微量

遺物出土状況 土師器片417点（坪56・掩8・高坪5・甕333・瓶15）、須恵器片3点（甕）、土製品10点（土玉6・支脚4）、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。93は南東壁寄り、94・DP30は北西壁寄りのそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第71図 第37号住居跡・出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
93	土師器	环	[128]	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側ヘラ削り 内面ナデ	床面	70%
94	土師器	高環	-	[58]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側ヘラ削り	床面	25%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP30	土玉	31	2.8	0.7	[258]	白色粒子・雲母・赤色粒子	ナデ溝壓 一方向からの穿孔	床面	

第38号住居跡（第72図）

位置 調査区東部のD 4 e7区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第37・39号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西・南東軸は4.46mで、北東・南西軸は北東部が調査区域外に延びているため3.60mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向はN-126°-Wである。壁高は26~30cmで、外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。

竈 南西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cm、燃焼部幅30cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっていいる。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|-------------------|---|-------|---------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 | 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 灰褐色 | 粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 極暗赤褐色 | 炭化粒子少量、燒土粒子微量 |

ピット 3か所。P 1~P 3は深さ39~80cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸102cm、短軸58cmの長方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっていいる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | | |

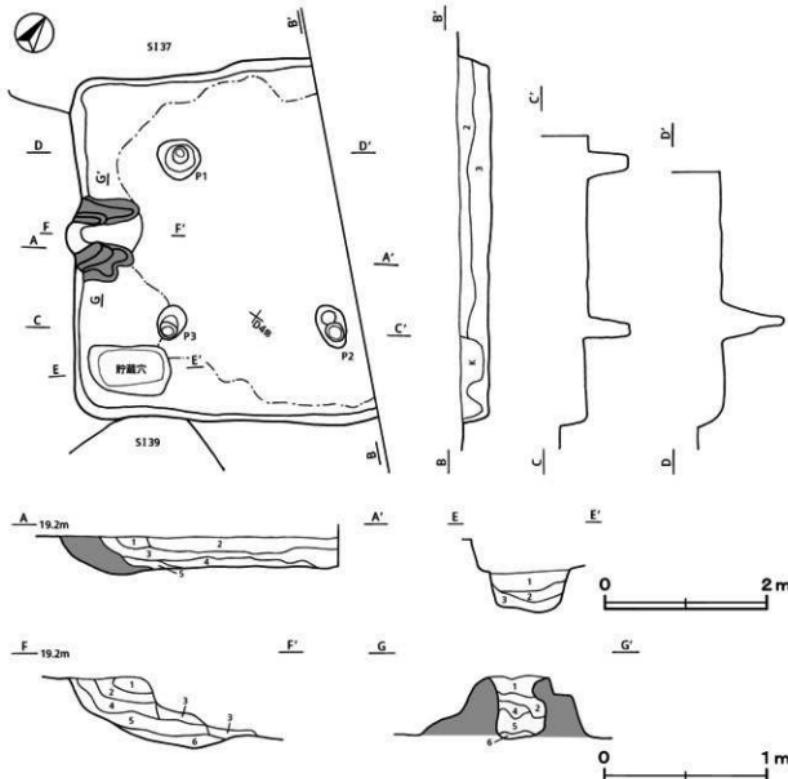
覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------|---|-------|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 極暗赤褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック微量 | | | |

遺物出土状況 土師器片568点（环106・椀11・高环15・鉢2・甕427・瓶7）、須恵器片2点（环・甕）、土製品3点（土玉）、石製品1点（有孔円板）、滑石片1点、緑色凝灰岩1点、褐鐵鉱2点が出土している。また、混入した弥生土器片1点（甕）も出土している。遺物の大半は、北西寄りの覆土中層から下層にかけて出土している。出土遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉以降と考えられる。



第72図 第38号住居跡実測図

第39号住居跡（第73～75図）

位置 調査区東部のD 4 g8区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第38号住居、東部を第64・68号住居、南部を第28・118号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.46m、短軸5.38mの方形で、主軸方向はN-19°-Eである。壁高は32~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北東コーナー部を除いて確認できた。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで145cm、燃焼部幅32cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第9~11層は掘り方への埋土である。

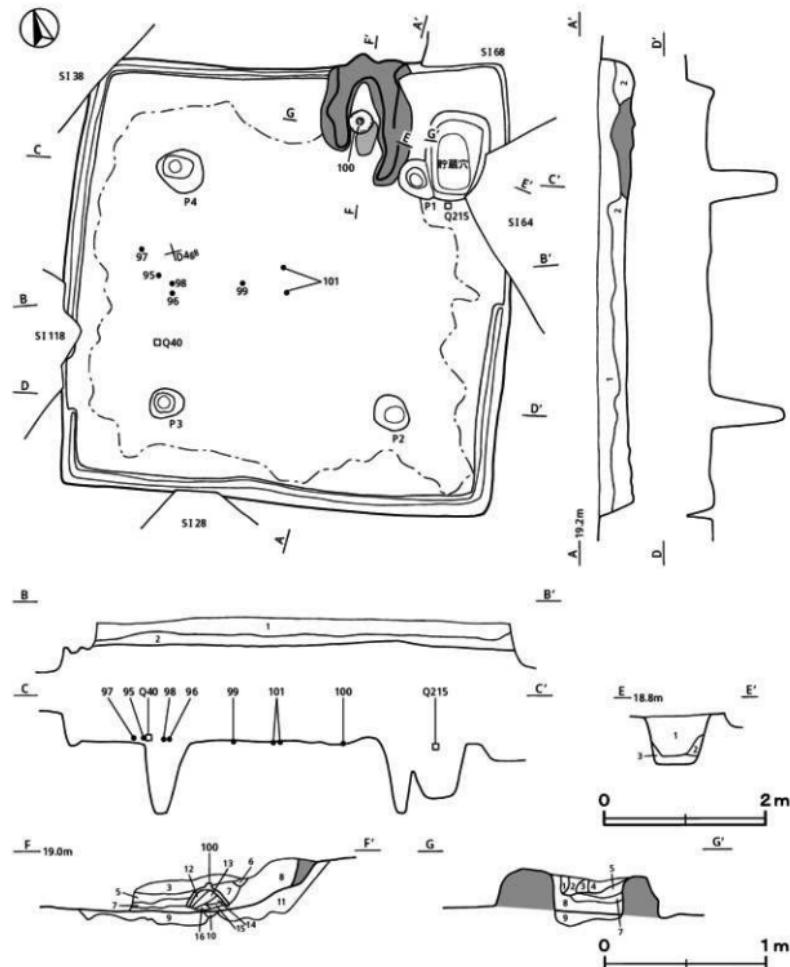
遺土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子中量、粘土粒子微量
- 2 明赤褐色 粘土ブロック少量

- 3 塔赤褐色 硫化物・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 粘土粒子中量

- 5 細 非 鹿 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
 6 無鉻赤褐色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
 7 非 鹿 色 燃土ブロック少量・炭化物微量
 8 にごい褐色 烧土粒子中量・燒土粒子微量
 9 非 鹿 色 烧土ブロック中量・炭化粒子微量
 10 鹿 非 鹿 色 烧土粒子・炭化粒子少量
 11 鹿 鹿 色 炭化粒子少量・燒土粒子微量
 12 明赤褐色 烧土ブロック少量
 13 鹿 非 鹿 色 烧土粒子少量
 14 にごい褐色 烧土粒子・烧土粒子・炭化粒子微量
 15 無鉻赤褐色 烧土粒子・炭化粒子微量
 16 鹿 鹿 色 烧土ブロック中量・炭化粒子微量

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ59～88cmで、規模と位置から主柱穴である。



第73図 第39号住居跡実測図

貯藏穴 北東コーナー部に付設されている。長軸111cm、短軸80cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯藏穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2 緑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 3 褐色 ロームブロック炭化物微量

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

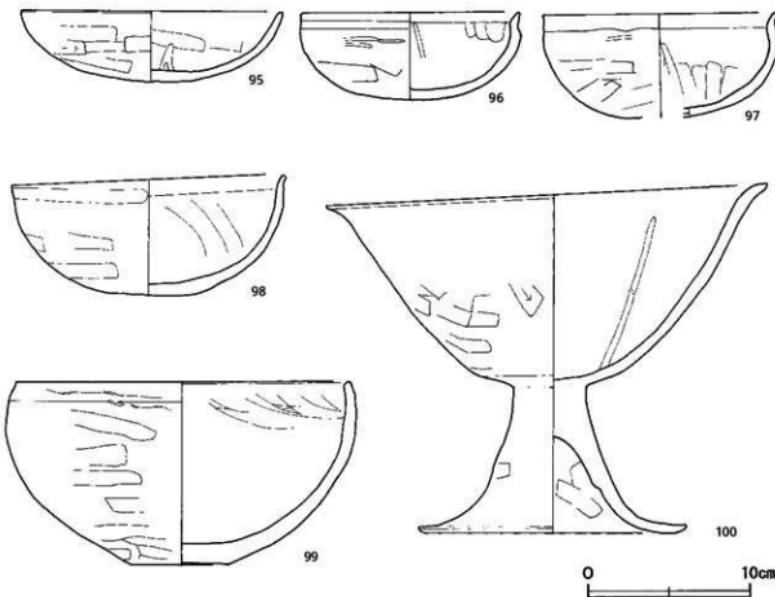
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

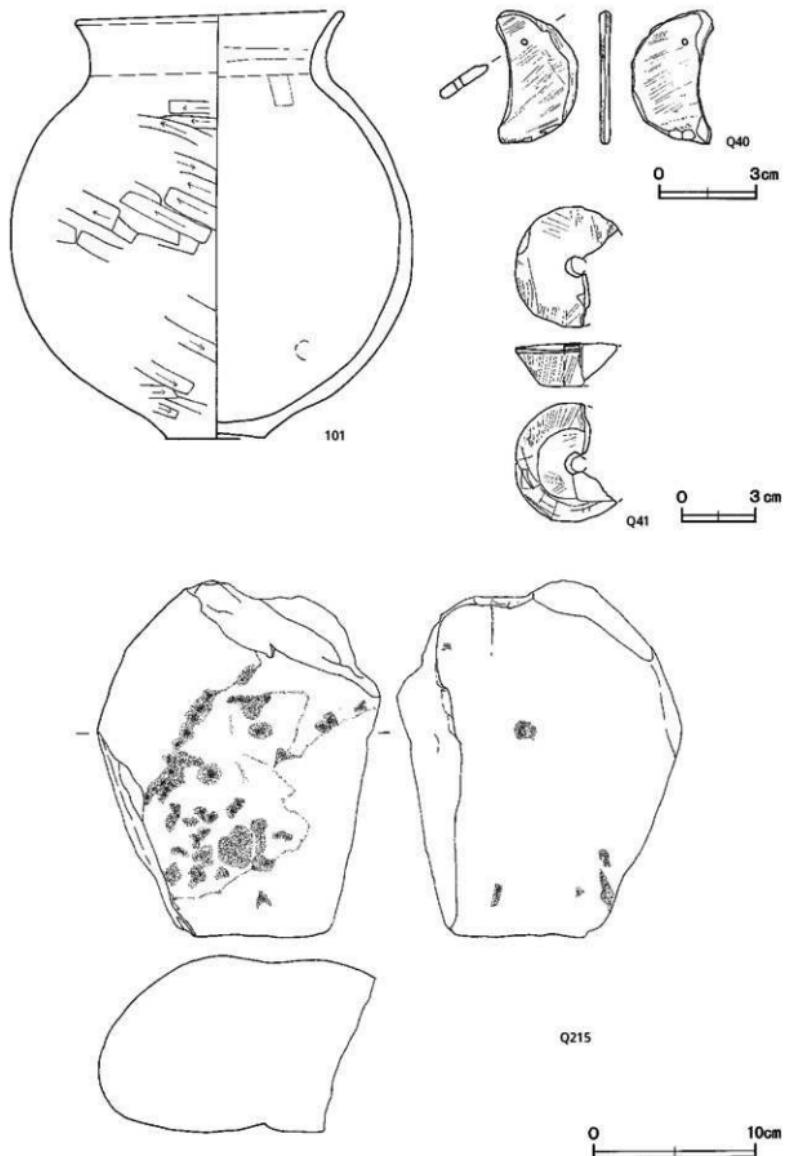
- 2 緑褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片1815点（坏265・椀8・高环20・鉢1・壺7・甕1494・瓶20）、須恵器片12点（蓋1・甕2・壺9）、土製品4点（土玉3・管状土錐1）、石器2点（砥石・台石）、石製品5点（勾玉1・臼玉2・紡錘車1・有孔円板1）、滑石片2点、褐鐵鉄6点が出土している。また、混入した繩文土器片3点（深鉢）、弥生土器片21点（壺）、土師器片4点（高台付坏2・器台2）も出土している。遺物の大半は、西部の中層から下層にかけて出土している。95～98とQ40は西壁寄り、99・101は中央部。Q215は北部のそれぞれ床面から出土している。100は竈の燃焼部から逆位の状態で出土していることから、支脚として使用されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。



第74図 第39号住居跡出土遺物実測図(1)



第75図 第39号住居跡出土遺物実測図(2)

第39号住居跡出土遺物観察表（第74・75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
95	土師器	环	16.2	4.6	-	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ後磨き	床面	80% PL55
96	土師器	环	13.4	5.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面へラナダ後磨き	床面	70%
97	土師器	环	14.6	6.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面へラナダ	床面	60%
98	土師器	桶	16.7	7.4	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面へラナダ	床面	100% PL55
99	土師器	鉢	20.5	11.5	5.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	床面	75% PL55
100	土師器	高環	27.3	21.5	16.5	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	電気焼部	95% PL55
101	土師器	桶	16.4	26.3	6.0	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	床面	95% PL55

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q40	勾玉	41	25	0.3	0.2	6.4	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL83

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	結婚車	49	1.8	(0.7)	(36.1)	滑石	全面研磨 側面に線刻 二方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q215	台石	22.0	17.5	11.0	5170.5		砂岩	上面打痕 下面削み 破面が見られることから底石としても使用か	床面	PL81

第40号住居跡（第76・77図）

位置 調査区東部のE 5c6区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第36・41・79号住居跡を掘り込み、東部を第32号住居、西部を第42号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.42m、短軸6.32mの方形で、主軸方向は、炉もしくは竈が確認できなかったため不明である。壁高は45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から出入り口施設にかけて踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ46～76cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ18cmで、北西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ61cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

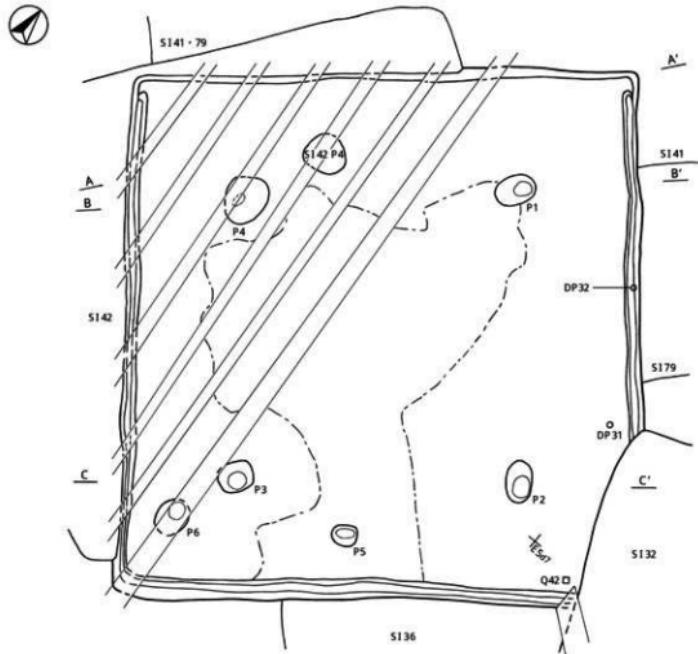
土層解説

1	緑	褐色	ロームブロック中量	燒土粒子微量	3	緑	褐色	ロームブロック中量
2	黒	褐色	ロームブロック少量	燒土粒子・焼化粧粒子微量	4	褐色	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量

5 緑 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片251点（壺32・壺1・甕207・瓶10・ミニチュア1）、須恵器片1点（甕）、土製品4点（土玉3・管状土錐1）、石製品1点（單孔円板）、滑石片2点、揭鉄鉗2点が出土している。また、混入した弥生土器片6点（壺）、陶磁器片2点も出土している。遺物の大半は、北西部の覆土中層から下層にかけて出土している。DP31は北東壁寄りの床面、DP32は北東壁寄りの覆土上層、Q 42は南東壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



A 19.0m



B

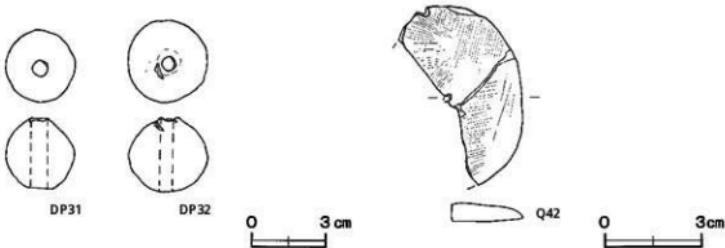
Q42 DP31 DP32 B'

C

C'

0 2m

第76図 第40号住居跡実測図



第77図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP31	土玉	28	29	0.8	23.8	長石・雲母	ナデ溝鑿 一方向からの穿孔	床面	
DP32	土玉	33	30	0.6	(32.1)	白色粒子・黒色粒子	ナデ溝鑿 一方向からの穿孔	覆土上層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	單孔円板	56	(38)	0.6	(0.1)	(12.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	

第41号住居跡（第78図）

位置 調査区東部のE 5 b5区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第79号住居跡を掘り込み、北西部を第43号住居、南部を第40・42号住居、北東部の床面を第52号土坑、東部の床面を第58号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 短軸5.80mで、長軸は北東部が調査区域外に延びているため7.68mしか確認できなかった。形状は長方形である。主軸方向は、炉もしくは竈が確認できなかつたため不明である。壁高は26~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では南東壁際寄りが踏み固められている。南西壁下で壁構が確認できた。南東壁際の東寄りと中央部で焼土塊が確認できた。

ピット 4か所。P 1~P 3は深さ28~50cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ22cmで、南北壁際の中央部に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

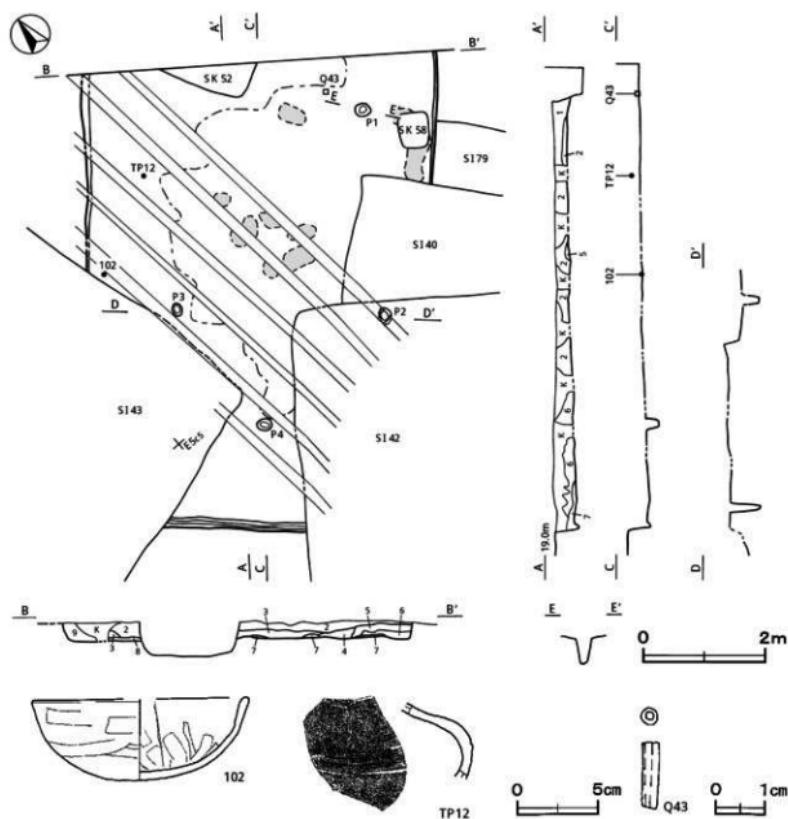
覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	5	暗赤褐色	燒土ブロック・炭化粒子・砂利少量
2	黒褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量	6	灰褐色	砂粒多量
3	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
4	暗赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量、炭化粒子微量	8	暗赤褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
	子礫量		9	培植色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片832点（环100・高坏5・壺3・甕719・瓶4・ミニチュア1）、須恵器片3点（蓋2・壺1）、土製品7点（土玉）、石製品1点（管玉）、滑石片4点、鉛鉄鉄4点が出土している。また、混入した縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片10点（壺）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。102は北西壁際、Q43は北東寄りのそれぞれ床面、TP12は北西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。北東寄りの床面と中央部の北寄りに焼土塊が確認できることから、焼失した可能性がある。



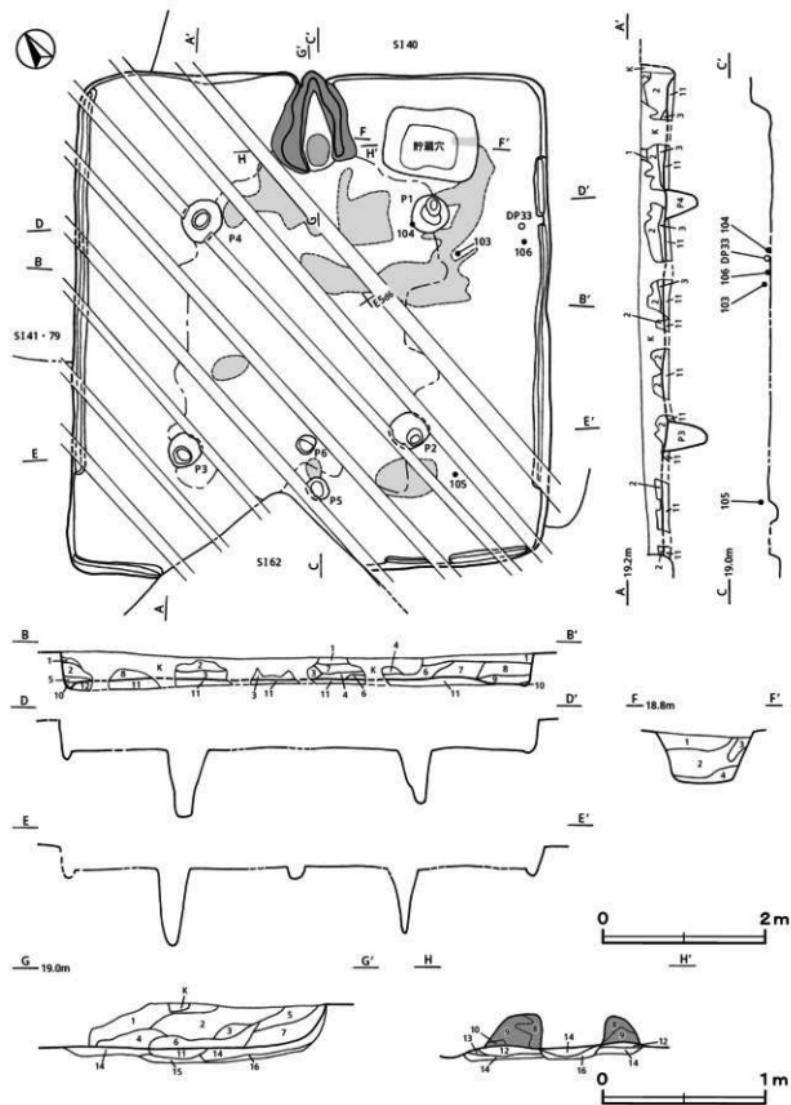
第78図 第41号住居跡・出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師器	环	(134)	5.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナダ	床面	55%
TP12	須恵器	瓦	雲母・白色粒子	に29.1 厚	普通	外表面擦による波状文				壁土中層	
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成		手法の特徴ほか			出土位置	備考
Q43	鏡	圓	グリーンタフ	全面研磨	一方向からの穿孔 下面に穿孔痕が残る					床面	

第42号住居跡（第79・80図）

位置 調査区東部のE 5 c5区、標高18.8mの台地上に位置している。



第79図 第42号住居跡実測図

重複関係 第40・41・79号住居跡を掘り込み、南西部を第62号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.10m、短軸5.79mの方形で、主軸方向はN-35°-Eである。壁高は13~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から出入口までの中央部にかけて踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。北東コーナー部から中央部で焼土塊が確認できた。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、燃焼部幅38cmである。第8~10層は袖部で、砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

1	にい・青褐色	砂粒多量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	にい・青褐色	砂粒中量、燒土ブロック少量、炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量	9	にい・青褐色	砂粒多量、燒土粒子微量
3	暗褐色	燒土粒子中量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量	10	にい・青褐色	砂粒中量、ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
4	暗赤褐色	炭化粒子・砂粒少量、燒土粒子微量	11	赤褐色	燒土粒子多量
5	にい・青褐色	砂粒中量、燒土粒子・炭化粒子少量	12	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6	暗赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量、炭化物微量	13	褐色	ロームブロック微量
7	灰黄褐色	炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
			15	暗赤褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
			16	暗褐色	ロームブロック少量

ピット 6か所。P1~P4は深さ68~92cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ13cm・16cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵窓 東コーナー部に付設されている。長軸120cm、短軸84cmの長方形で、深さは63cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵窓土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	3	暗赤褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック中量

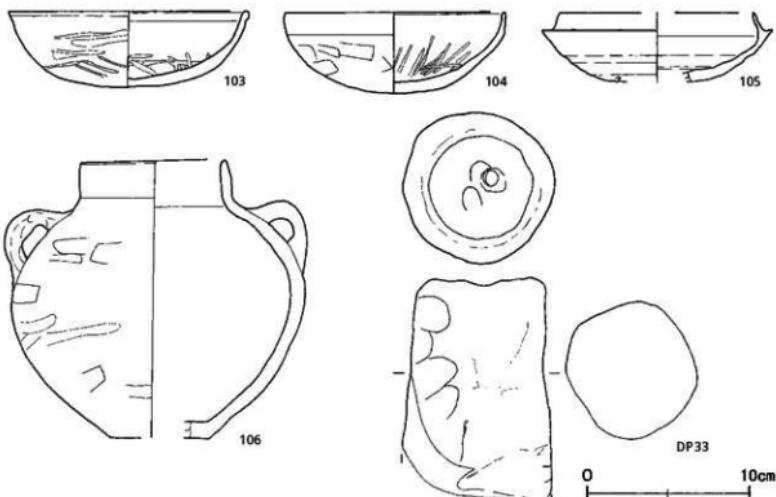
覆土 12層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ロームブロック少量	9	黒褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ロームブロック中量
5	黒褐色	ロームブロック中量	11	暗褐色	ローム粒子微量
6	暗赤褐色	燒土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック微量	12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2083点（坏225・椀4・高杯1・壺2・甕1824・瓶27）、須恵器片14点（坏5・蓋6・甕3）、土製品17点（小玉1・土玉11・管状土錐4・支脚1）、石器1点（砥石）、石製品1点（臼玉）、鐵滓3点（5.1g）、滑石片12点、石英片2点、瑪瑙片1点、褐鐵鉄30点が出土している。また、混入した弥生土器片21点（壺）、土師質土器片1点（火鉢）、鐵製品4点（釘）も出土している。遺物の大半は、北西部の覆土中層から下層にかけてまとまって出土している。104・106・DP33は南東壁寄りのそれぞれ床面、103は東部の覆土下層から出土している。105は南コーナー部の覆土下層から出土しているが、混入した可能性がある。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第80図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	土師器	环	147	4.6	-	長石・石英・雲母 にぶい黄緑	普通	体部内外へラ磨き	覆土下層	90% PL56	
104	土師器	环	137	5.0	-	長石・石英・雲母 明赤褐	普通	体部外側へラ削り後ナデ 内面へラ磨き	床面	70%	
105	須恵器	环	[11.8]	(4.3)	-	長石・石英	灰	普通 体部外側回転へラ削り	覆土下層	40% PL56	
106	土師器	壺	89	17.1	[16.0]	長石・石英・雲母	橙	普通 体部外側へラ削り後ナデ	床面	60% PL55	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	支脚	(138)	6.5	9.3	(1183.0)	長石・雲母	指錠圧痕 上部に穿孔部	床面	

第43号住居跡（第81・82図）

位置 調査区東部のE 5 b4区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第41・79号住居跡を掘り込み、南西コーナー部と北壁の一部を第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.70mの方形で、主軸方向はN-109°-Wである。壁高は10~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が東壁下を除いて確認できた。

竈 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで101cm、燃焼部幅36cmである。第12層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっていいる。

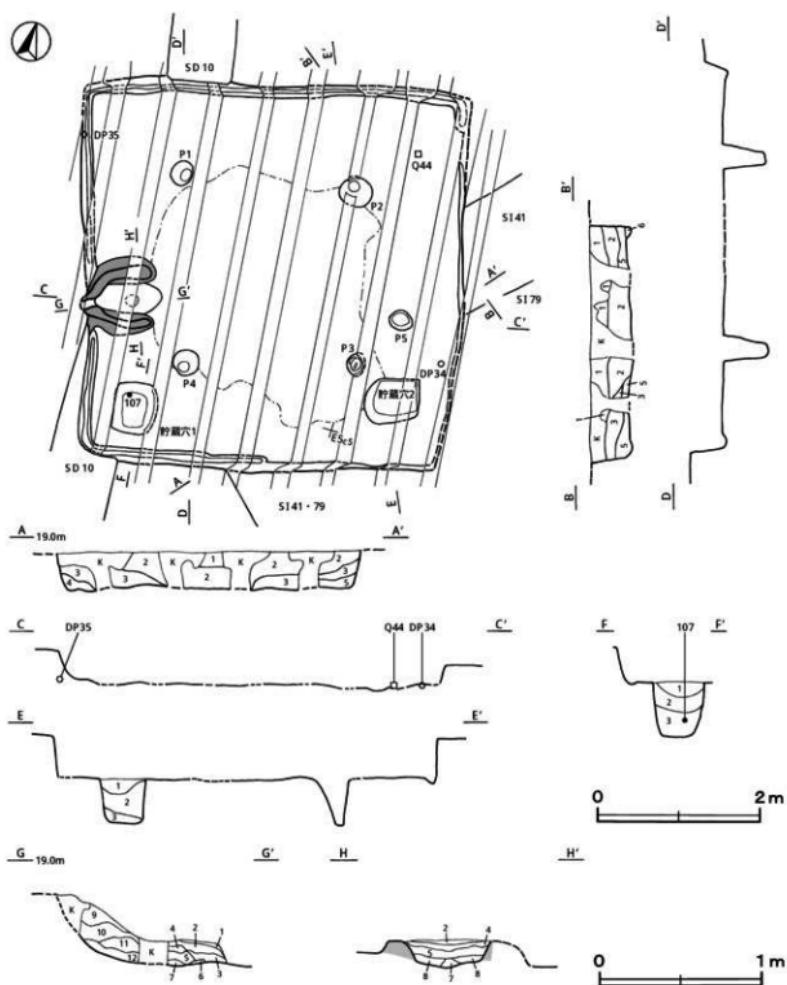
遺土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 線 黒 色 ロームブロック少量 | 5 線 赤 黄 色 砂粒少量、燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 線 赤 褐 色 燃土ブロック・炭化粒子・砂粒少量 | 6 壁 色 ロームブロック少量 |
| 3 線 赤 褐 色 燃土ブロック少量 | 7 線 赤 黄 色 燃土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 4 線 赤 褐 色 炭化粒子少量、燃土ブロック微量 | |

8 黄褐色 砂粒多量、粘土ブロック微量
 9 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量
 10 にほい赤褐色 粘土ブロック・砂粒少量

11 灰褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
 12 黄褐色 砂粒中量、粘土粒子・灰化粘土少量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ52～58cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ5cmで、東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第81図 第43号住居跡実測図

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に付設されている。長軸63cm、短軸53cmの長方形で、深さは65cmである。貯蔵穴2は南東コーナー部に付設されている。長軸68cm、短軸54cmの長方形で、深さは55cmである。ともに底面は平坦で、壁は直立して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 紅褐色 ロームブロック中量

- 3 増褐色 ロームブロック微量

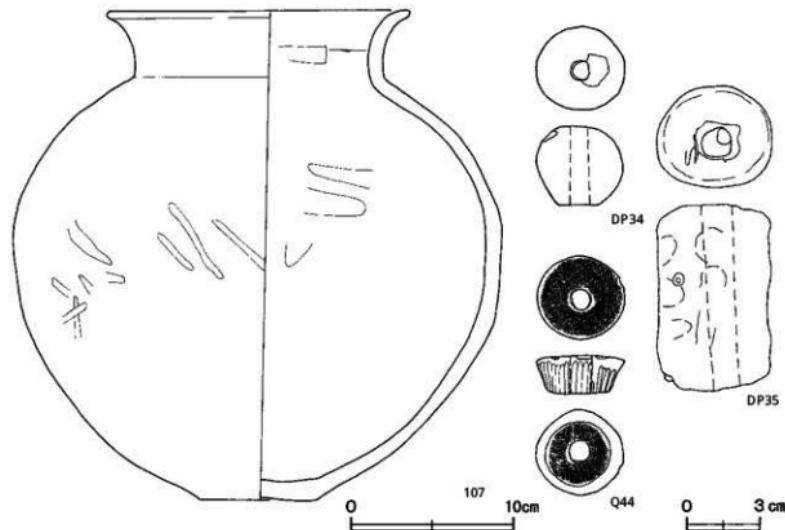
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 紅褐色 ロームブロック中量、鐵土粒子・炭化粒子微量 | 5 増褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・鐵土粒子微量 | 6 増褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1457点（坏46・高坏6・鉢1・壺1385・瓶19）、須恵器片6点（高坏1・壺5）、土製品8点（土玉4・管状土錐1・支脚2・不明1）、石製品2点（勾玉・紡錘車）、鐵滓7点（53.7g）、滑石片3点、雲母片岩1点、褐鐵鉄12点が出土している。また、混入した繩文土器片4点（深鉢）、弥生土器片4点（壺）、鐵製品1点（不明）、貝1点（アカニシ）も出土している。遺物の大半は、南部の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。DP34は貯蔵穴2付近、DP35は北西コーナー部、Q44は北東コーナー部付近のそれぞれ床面、107は貯蔵穴1の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。貯蔵穴1・2ともに貼床の層が確認できず、窓を作り替えた痕跡がないことから両者とも同時に使用されていた可能性がある。



第82図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	土器器	瓶	18.5	30.3	7.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り後へラ磨き 内面へラナダ後ナダ	貯蔵穴	70% PL56

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP34	土玉	37	33	0.8	(40.6)	長石・石英	ナダ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP35	管状土器	48	77	12	165.4	長石・雲母	指揮圧痕 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q44	結婚環	36	15	0.9	26.2	滑石	上・下相反対状の線刻 側面刀子状工具による整形カ 方向からの穿孔	床面	PL81

第44号住居跡（第83・84図）

位置 調査区東部のE 5g5区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 南西部を第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.30m、短軸6.13mの方形で、主軸方向はN-120°-Eである。壁高は25~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部が踏み固められている。壁溝が南壁下と東壁下で確認できた。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで101cm、燃焼部幅30cmである。袖部は、砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

1 黒 色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子 微量	8 埋 埋 色	ロームブロック・燒土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
2 紫 色	燒土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック ・砂粒微量	9 に高い赤褐色	砂粒多量、炭化粒子少量
3 赤 色	燒土粒子多量、炭化粒子微量	10 に高い赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4 黑 色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	11 埋 埋 色	燒土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
5 紫 赤 色	燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量	12 に高い赤褐色	砂粒多量、燒土ブロック微量
6 に高い赤褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量	13 埋 埋 色	炭化粒子少量、燒土ブロック微量
7 紫 埋 色	燒土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子		

ピット 3か所。P.1~P.3は深さ72~76cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸92cm、短軸86cmの方形で、深さは70cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

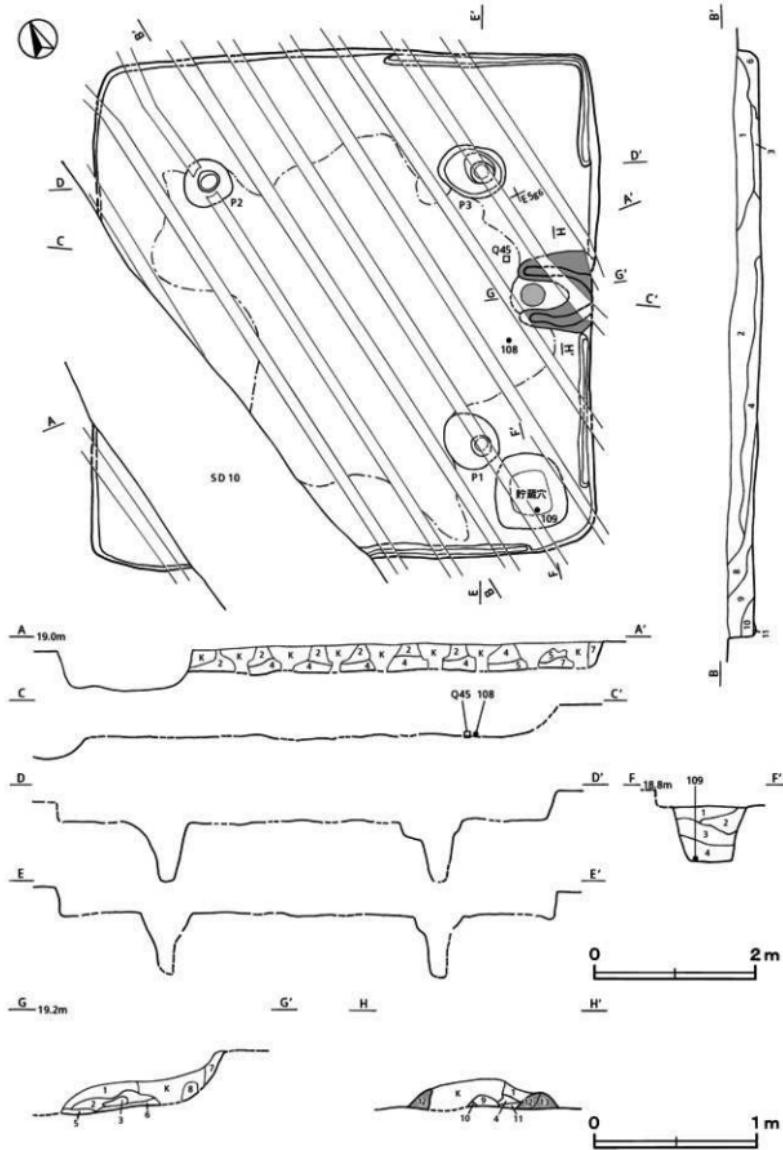
貯蔵穴土層解説

1 黒 埋 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 埋 埋 色	ロームブロック少量
2 紫 色	ロームブロック中量	4 埋 埋 色	ロームブロック多量

覆土 11層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

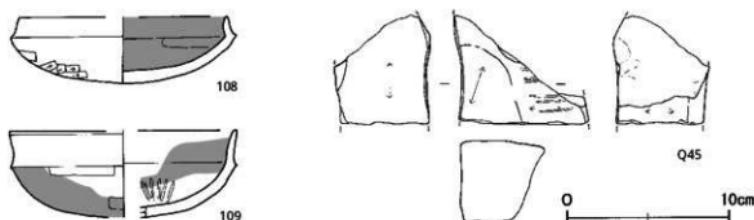
1 細 細 色	ロームブロック少量、炭化物・燒土粒子微量	7 埋 埋 色	砂粒少量、ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子 微量
2 細 細 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 黒 埋 色	ロームブロック少量、炭化物微量
3 細 細 色	ロームブロック微量	9 埋 埋 色	ロームブロック少量
4 細 細 色	ロームブロック・燒土粒子微量	10 埋 埋 色	ロームブロック微量
5 細 細 色	ロームブロック少量	11 埋 埋 色	ローム粒子少量
6 黒 色	ロームブロック中量		



第83図 第44号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片802点（坏77・高坏2・甕710・瓶13），須恵器片7点（蓋2・甕4・甕1），土製品17点（土玉9・管状土錐1・支脚7），石器1点（砥石），鐵滓1点（11.6g），滑石片1点，褐鐵鉱1点が出土している。また、混入した繩文土器片2点（深鉢），弥生土器片15点（壺）も出土している。遺物の大半は、東壁寄りの覆土上層から下層にかけて、散在した状態で出土している。108・Q45は壺付近のそれぞれ床面、109は貯藏穴の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第84図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第84図）

第45号住居跡（第85・86図）

位置 調査区東部のD 3 d0区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第66・88・104・117号住居跡を掘り込み、北東部を第69・70号土坑に掘り込まれている。

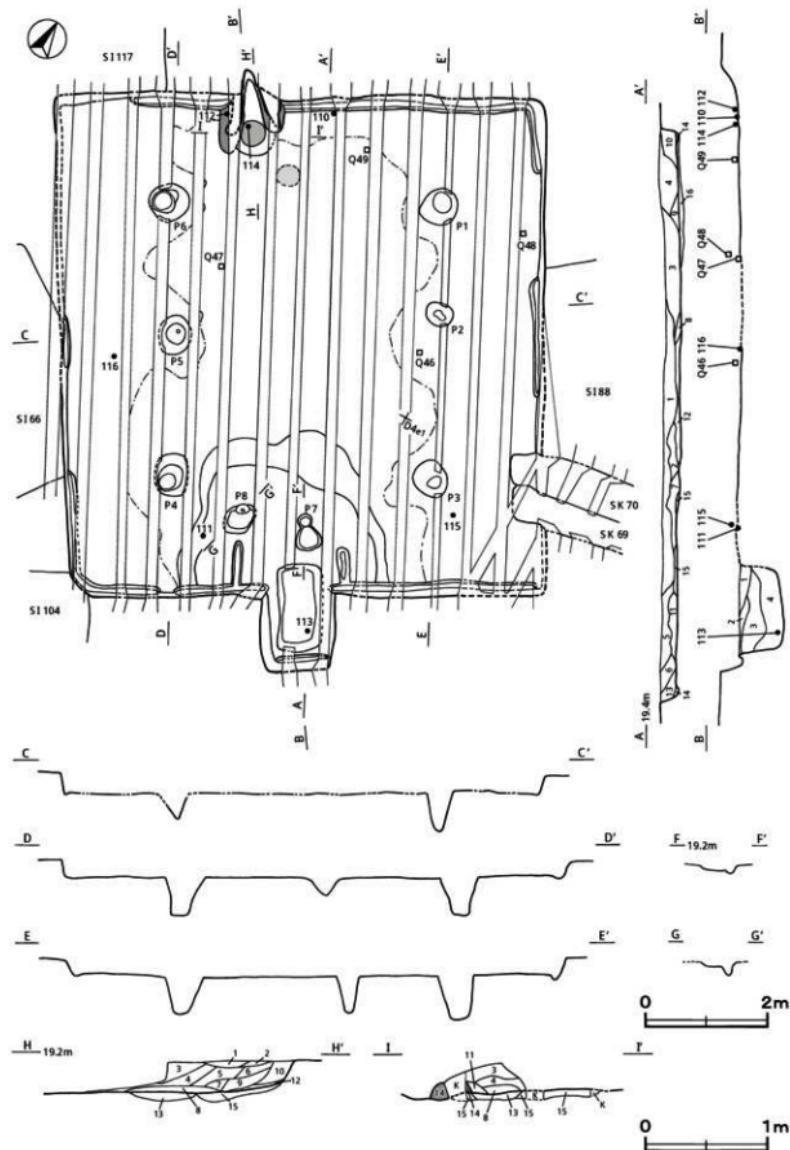
規模と形状 長軸8.20m、短軸7.90mの方形で、南東壁の中央部が張り出している。主軸方向はN-28°-Wである。壁高は32~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壺の前面から出入口にかけて踏み固められている。壁溝が北西壁下、北東壁下、南東壁下で確認できた。南東壁際から中央部に延びる2条の溝が確認できた。

竈 北西壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで140cm、燃焼部幅42cmである。第14層は袖部で、砂粒とロームブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第15層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 | 土師ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子、砂粒微量 | 4 塗赤褐色 | 土師ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 硝褐色 | 砂粒少量、炭化物・粘土ブロック・ローム粒子・地土粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック・砂粒少量、土師ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土ブロック少量、砂粒微量 | 6 塗褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・地土粒子微量 |



第85図 第45号住居跡実測図

7	黒褐色	粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量	13	赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量
8	緑褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	14	褐色	ロームブロック・砂粒少量、粘土粒子・炭化粒子微量
9	緑褐色	砂粒少量、粘土ブロック微量			
10	緑褐色	砂粒少量、粘土ブロック・粘土粒子微量	15	緑褐色	砂粒少量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
11	緑褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量			
12	緑褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量			

ピット 8か所。P 1～P 6は深さ45～74cmで、規模と位置から主柱穴である。P 7は12cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8は深さ23cmで、性格は不明である。

張り出し施設 南東壁の中央部に位置している掘り込みである。長軸146cm、短軸74cmの方形で、深さは68cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。規模と形状から貯蔵穴の可能性がある。

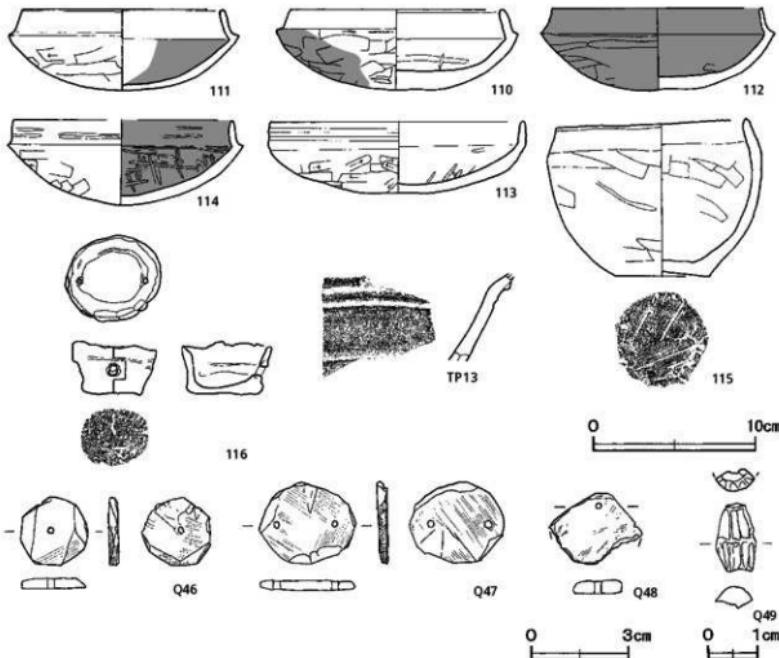
張り出し施設土層解説

1	緑褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	3	緑褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
2	緑褐色	ロームブロック微量	4	緑褐色	ロームブロック微量

覆土 15層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第16層は貼床の構築土である。

土層解説

1	にごい赤褐色	粘土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子微量	4	緑褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	緑褐色	炭化物・粘土ブロック・ローム粒子、粘土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量
3	にごい赤褐色	粘土ブロック少量、砂粒微量	6	緑褐色	粘土粒子微量、ローム粒子・粘土粒子微量



第86図 第45号住跡出土遺物実測図

8	緑	赤	褐色	陶土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	13	緑	赤	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量
9	緑	褐	褐色	粘土ブロック微量	14	赤	褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量
10	緑	褐	褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量	15	緑	褐	砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11	緑	赤	褐色	陶土ブロック・炭化粒子少量	16	緑	褐	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
12	緑	赤	褐色	陶土ブロック・炭化物・ローム粒子微量				

遺物出土状況 土師器片2323点（坏351・楕2・高坏20・鉢1・甕1909・瓶36・ミニチュア4），須恵器片30点（坏8・蓋6・高坏3・楕5・甕8），土製品34点（土玉24・管状土鍾7・支脚3），石器1点（砥石），石製品11点（勾玉1・白玉1・琰玉1・單孔円板2・双孔円板5・劍形模造品1），鐵滓5点（28.8g），滑石片37点，褐鉄鉱7点が出土している。また、混入した礪文土器片1点（深鉢），弥生土器片10点（壺），鐵製品3点（不明）も出土している。遺物の大部分は、全域の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。111は南東壁寄り，Q47は中央寄りのそれぞれ床面，114は竈の燃焼部，113は張り出し施設の覆土下層，Q48は北東壁際の覆土中層，110・112・Q49は北西壁寄り，116は南西壁寄り，115は北東壁寄り，Q46は中央寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。南東壁際で確認できた溝の性格は不明である。

第45号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	土師器	坏	13.1	5.0	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄褐色	普通	体部外側へラ削り	覆土下層	100% PL56
111	土師器	坏	12.4	5.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り	床面	PL56
112	土師器	坏	13.0	5.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り後ナダ	覆土下層	95% PL56
113	土師器	坏	15.6	4.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラ削き	張り出し施設	60% PL56
114	土師器	坏	[13.4]	5.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部・外側磨き 体部外側へラ削り 内面へラ削き	電熱焼部	60%
115	土師器	鉢	11.8	9.7	5.8	長石・石英	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	覆土下層	98% PL57
116	土師器	ミニチュア	5.7	3.3	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	指捺压痕 穿孔2か所	覆土下層	100% PL57

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	須恵器	器台	長石・石英	暗灰	普通	外面標識による波状文	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	単孔円板	2.1	2.1	0.3	0.2	(2.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL85
Q47	双孔円板	2.5	2.9	0.3	0.2	3.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL85
Q48	剣形模造品	(2.2)	2.8	0.4	0.2	(3.2)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	玉	(0.8)	1.4	(0.1)	(0.2)	珪化木	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土下層	

第46号住居跡（第87・88図）

位置 調査区東部のD 4 i 8区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第29号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.82m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-121°-Wである。壁高は30~47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。また、北西壁寄りから中央部に延びる2条の溝が確認できた。

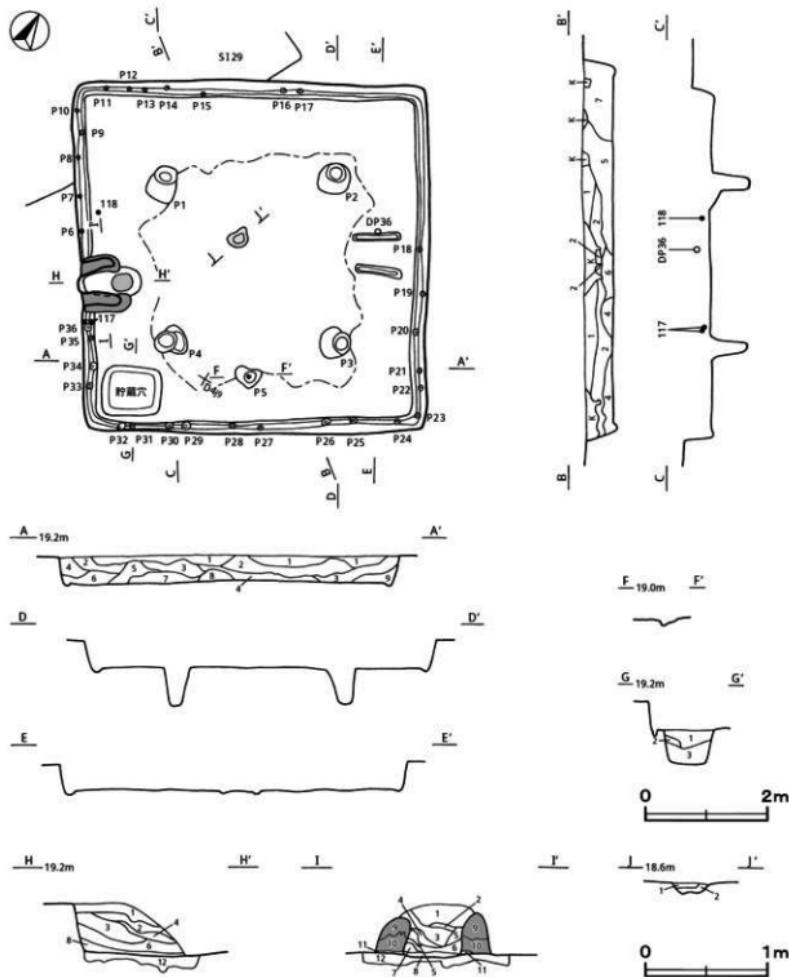
炉 中央部に付設された地床炉である。長径38cm、短径32cmの不整円形で、床面から14cm掘り込まれている。

炉土層解説

1 細粒赤褐色 地土ブロック中量

2 赤 色 ローム粒子中量、地土粒子微量

窓 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、燃焼部幅30cmである。第9・10層は袖部で、砂粒を主体とした黄褐色土で構成されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。



第87図 第46号住居跡実測図

遺土層解説

1	にい黄褐色	砂粒中量、ローム粒子・粘土粒子少量	6	黒	色	焼土ブロック・ローム粒子少量、砂粒微量	
2	黒褐色	砂粒多量、ローム粒子・粘土粒子微量	7	黒	色	砂粒多量、ローム粒子・粘土粒子微量	
3	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	8	黒	褐	色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
4	黒褐色	砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	9	にい黄褐色	色	砂粒多量、粘土粒子少量	
5	暗褐色	粘土粒子中量、ロームブロック・砂粒少量	10	にい黄褐色	色	ロームブロック少量	
12	暗褐色	ロームブロック中量	11	褐	色	ロームブロック少量	

ピット 36か所。P 1～P 4は深さ58～60cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ12cmで、南東壁際の中央部に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 36は深さ7～17cmで、ほぼ等間隔に並んでいることから、壁柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸98cm、短軸82cmの長方形で、深さは49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	3	黒褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

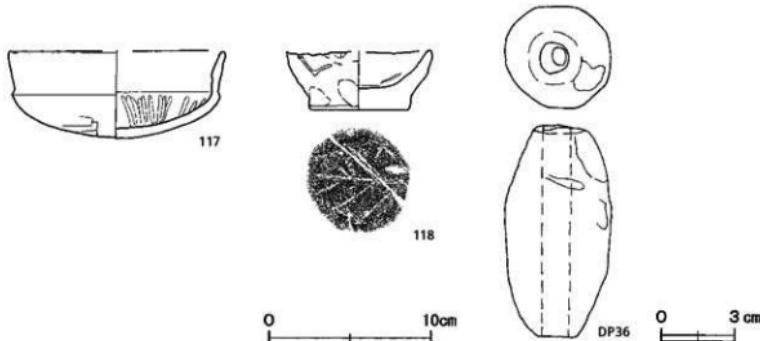
覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量	
2	黒褐色	ロームブロック中量	7	褐	色	ローム粒子多量
3	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	8	褐	色	ロームブロック・粘土粒子中量
4	黒褐色	ローム粒子中量、粘土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子少量	
5	黒褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量				

遺物出土状況 土師器21795点(环503・高杯1・壺2・甕1196・瓶91・ミニチュア2), 須恵器片24点(环1・蓋4・甕1・甕18), 土製品26点(小玉2・土玉16・管状土錐1・支脚7), 石製品4点(臼玉1・双孔円板3), 鉄滓1点(2.6g), 滑石片2点, 緑泥片岩6点, 瑪瑙片1点, 青母片岩3点, 鋼鉄鉢82点が出土している。また, 混入した繩文土器片5点(深鉢), 弥生土器片15点(甕)も出土している。遺物の大半は, 全域の覆土中層から下層にかけて出土している。DP36は北東壁寄りの覆土中層, 117・118は南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。北西壁寄りの床面で確認できた溝の性格は不明である。竈と炉が併設されているが, 炉の火床面の遺存状況から同時に使用されていた可能性が考えられる。



第88図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土器器	环	[132]	5.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外側へラ削り 内部へラ磨き	覆土下層	40%
118	土器器	ミニコア [88]	3.6	5.9	長石・石英	橙	普通	指印压痕	底部に木葉痕	覆土下層	70%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP36	蓋状土器	4.4	8.8	1.3	148.9	長石・石英	ナデ調整 指印压痕	覆土中層	

第47A・47B号住居跡（第89・90図）

位置 調査区東部のD 4 c3区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第48・65号住居跡を掘り込み、西コーナー部を第34号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第47A号住居は長軸5.26m、短軸5.21mの方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁高は25~42cmで、外傾して立ち上がっている。第47B号住居跡の規模は不明であるが、柱穴と貯蔵穴の位置から一辺4mほどの方形と推測できる。

床 第47A号住居の床はほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。第47B号住居跡の床は、第47A号住居の床と同じであったと考えられる。

窓 第47A号住居のものしか確認できず、北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅30cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竪土層解説

1	褐色赤褐色	炭化粒子少量	胎土粒子微量	5	暗赤褐色	胎土粒子・炭化粒子微量
2	灰褐色	胎土粒子中量		6	褐色赤褐色	胎土ブロック中量
3	褐灰褐色	胎土粒子中量		7	暗赤褐色	胎土粒子・炭化粒子・胎土粒子微量
4	暗赤褐色	炭化粒子微量		8	褐色赤褐色	胎土粒子・炭化粒子微量

ピット 9か所。P 1~P 4は深さ34~58cmで、規模と位置から第47A号住居の主柱穴である。P 5は南東壁際の中央部に位置していることから、第47A号住居の出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6~P 9は深さ33~57cmで、規模と位置から第47B号住居跡の主柱穴である。P 6~P 9は埋め戻されている。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1・2は第47A号住居の貯蔵穴である。貯蔵穴1は東コーナー部に付設されている。長軸91cm、短軸71cmの長方形で、深さは60cmである。貯蔵穴2は竪の右袖部の脇に付設されている。長軸98cm、短軸74cmの長方形で、深さは55cmである。併設されているが、新旧関係は不明である。貯蔵穴3は、位置から第47B号住居跡の貯蔵穴である。長軸92cm、短軸65cmの長方形で、深さは51cmである。底面はいずれも平坦で、外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2・貯蔵穴3ともにブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

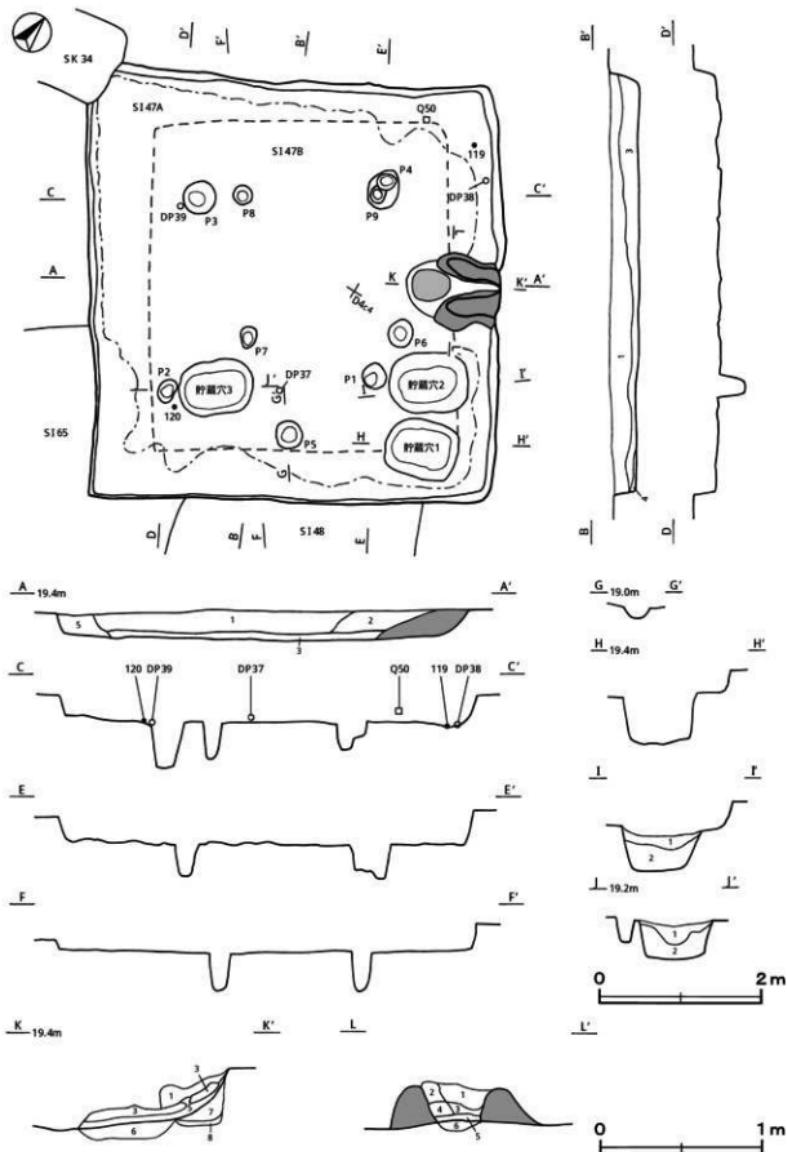
貯蔵穴2・3層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	2	黒褐色	ローム粒子微量
---	-----	-----------	---	-----	---------

覆土 5層に分層でき、いずれも第47A号住居の覆土である。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

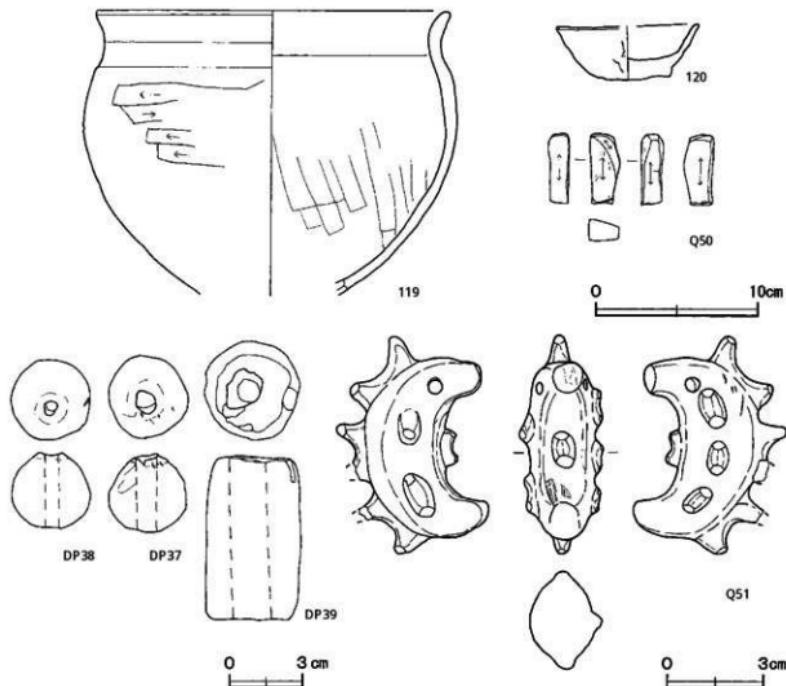
1	暗褐色	ロームブロック微量	4	明褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量			



第89図 第47A・47B号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 868 点 (环 214・楕 6・高环 5・壺 14・甕 601・瓶 28), 須恵器片 7 点 (壺 1・甕 6), 土製品 47 点 (土玉 17・管状土錘 8・支脚 22), 石器 2 点 (砾石), 石製品 2 点 (子持勾玉・劍形模造品), 鉄津 2 点 (21.1 g), 滑石片 2 点, 雲母片岩 2 点, 褐鉄鉢 4 点が出土している。いずれも第 47A 号住居跡に属するものである。また, 混入した黒曜石 1 点も出土している。遺物の大半は, 覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。119・DP38 は北東壁際, 120・DP39 は南西壁寄りのそれぞれ床面, Q50 は北部の覆土中層, Q51 は覆土中層, DP37 は南東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 第 47A 号住居の時期は, 出出土器から 6 世紀前葉と考えられる。貯蔵穴 1・2 は第 47A 号住居に伴うもので, 並列して付設されているが, 新旧関係は不明である。第 47A 号住居の主柱穴が第 47B 号住居跡の外側に位置していることから, 第 47B 号住居跡から第 47A 号住居に拡張されたと考えられる。そのため, 第 47B 号住居跡の時期は, 6 世紀前葉と考えられる。



第 90 図 第 47A 号住居跡出土遺物実測図

第 47A 号住居跡出土遺物観察表 (第 90 図)

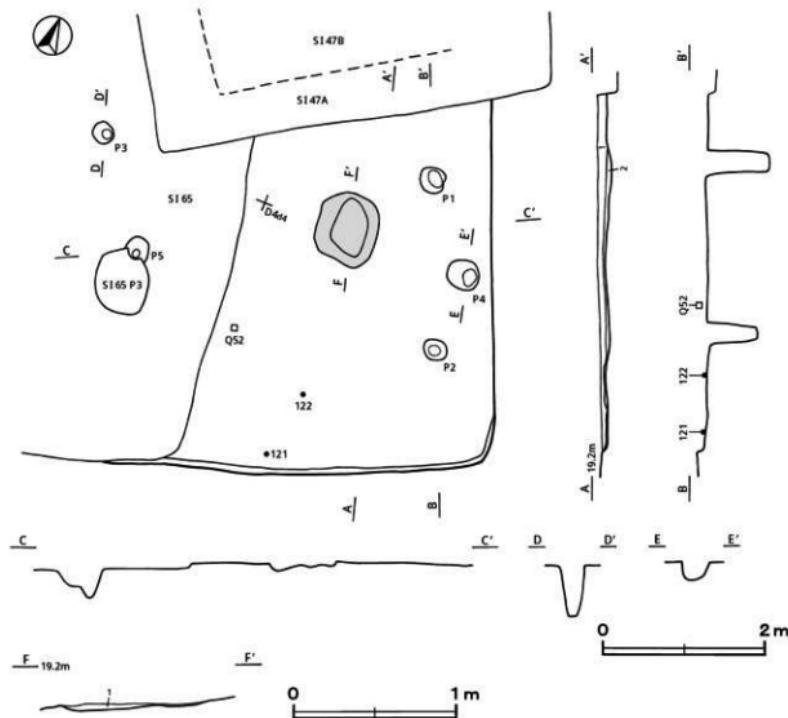
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	壺	21.8 (17.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ		床面	90% PL56
120	土師器	三二チュア [88]	34	5.0	長石・石英	橙	普通	指掘圧痕		床面	70%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP37	土玉	32	32	0.8	30.6	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP38	土玉	32	32	0.6	31.9	長石・石英	指揮圧痕 ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	
DP39	質土土錐	29	67	1.6	(114.3)	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	PL79
Q50	砾石	48	1.8	1.3	17.0	滑石	紙面4面	覆土中層	
Q51	子持勾玉	66	48	2.6	0.4	(58.6)	輝緑岩灰岩	全面研磨 二方向からの穿孔 刀子状工具による整形カ	覆土中層

第48号住居跡（第91・92図）

位置 調査区東部のD 4 d4区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第47A・47B号住居、西部を第65号住居に掘り込まれている。



第91図 第48号住居跡実測図

規模と形状 北部と西部が掘り込まれているため、南北軸は4.44m、東西軸は3.73mしか確認できなかった。主軸方向がN-15°-Wの方形もしくは長方形と推測される。壁高は11cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められていない。

炉 北壁寄りに付設された地床炉である。長径92cm、短径78cmの楕円形で、床面とほぼ同じ高さを炉床としている。

伊土層解説

1 植物赤褐色 地土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 3は深さ60～78cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ22cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5は深さ36cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

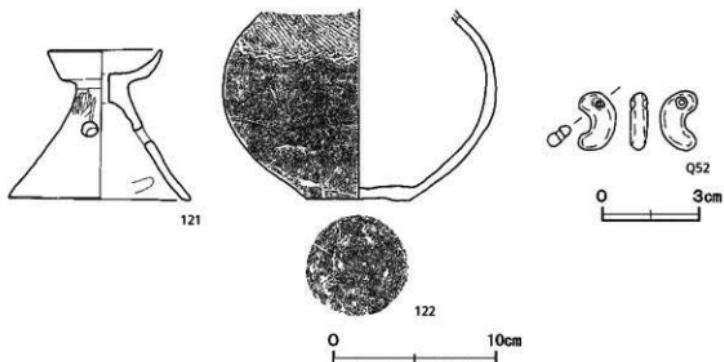
土層解説

1 植物色 ロームブロック、炭化物少々

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片747点(椀13・壺1・器台1・甌730・瓶2)、石製品2点(紡錘車・勾玉)、褐鉄鉱2点が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片2点(深鉢)も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて散在して出土している。121・122は南壁寄りの床面、Q52は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から4世紀代と考えられる。



第92図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	基盤	口径	壁高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
121	土師器	器台	70	92	11.3	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外表面位磨き 内面ヘラナダ	床面	90% PL57
122	土師器	壺	-	(11.6)	6.2	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面上半無磨文・底部磨文施文 下半ヘラ磨き 内面ヘラナダ	床面	50% PL57

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	勾玉	1.8	0.5	0.5	1.9	1.5	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	PL83

第49号住居跡（第93図）

位置 調査区東部のD 2 f8区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は4.91mで、南西部が調査区域外に延びているため、北東・南西軸は2.34mしか確認できなかった。主軸方向がN-36°-Wの方形もしくは長方形と推測される。壁高は12~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、跡線を除いて踏み固められている。南西部と北コーナー部で焼土塊が確認できた。

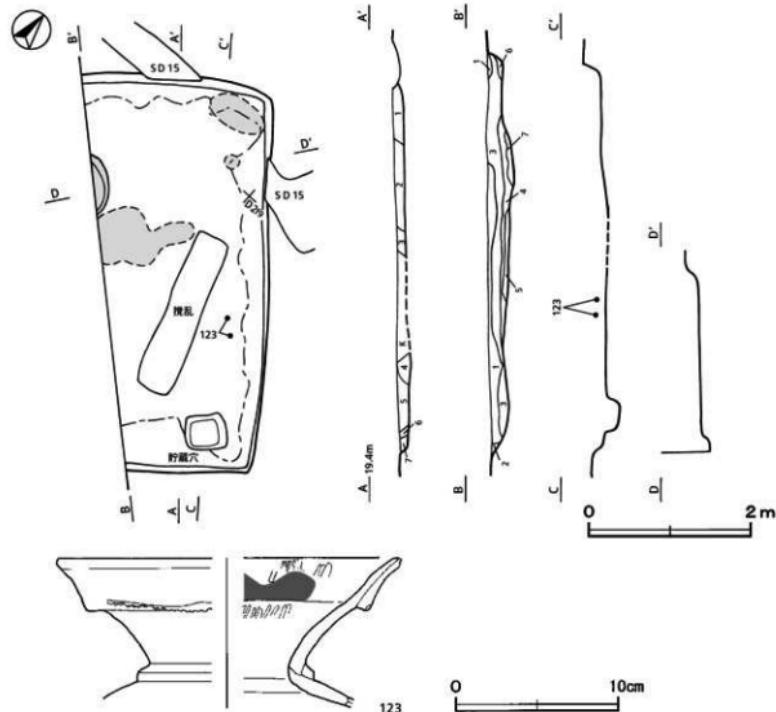
炉 南西寄りに付設された地床炉である。長径は75cmで、短径は調査区域外に延びているため18cmしか確認できなかった。床面から9cm掘り込んでいる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸50cm、短軸42cmの長方形で、深さは21cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第7層は、炉の火床面である。

土層解説

1	基	褐色	ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量	5	培	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
2	細	褐色	ローム粒子・埴土粒子・炭化粒子微量	6	極細赤褐色	埴土粒子・炭化粒子少量・ロームブロック微量	
3	粗	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	7	赤	褐色	埴土ブロック中量・炭化粒子少量・ロームブロック微量
4	細	褐色	埴土粒子・炭化粒子少量・ロームブロック微量				



第93図 第49号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片78点（坏29・壺1・甕48）が出土している。また、混入した繩文土器片2点（深鉢）も出土している。遺物の大半は、南東部の覆土中層から下層にかけて出土している。123は東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。南西部と北コーナー部の床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第49号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	基高	高径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	土師器	壺	[20.6]	(9.2)	-	良石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケナデ崩落 口縁部内面底部の崩れ	覆土下層	10%

第50号住居跡（第94・95図）

位置 調査区東部のE 5e3区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 東コーナー部を第62号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.04mの方形で、主軸方向はN-52°-Wである。壁高は13~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。北コーナー部を除いて壁溝が確認できた。竈の前面、南コーナー部、東コーナー部で焼土塊が確認できた。

竈 北西壁の北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅30cmである。袖部は、砂粘粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

1 緑 赤褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7 緑 赤褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 緑 赤褐色	燒土粒子・炭化粒子、砂粒少量、ローム粒子微量	8 緑 赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量
3 緑 赤褐色	砂粒少量、燒土ブロック・砂粒少量	9 にぶい赤褐色	砂粒中量、炭化粒子少量、燒土ブロック微量
4 にぶい赤褐色	燒土粒子中量、炭化粒子微量	10 にぶい赤褐色	ローム粒子・砂粒少量、燒土ブロック微量
5 緑 赤褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量、砂粒微量	11 緑 色	燒土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
6 黒 色	ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量	12 緑 赤褐色	砂粒多量、燒土粒子中量
7	砂粒微量	13 にぶい赤褐色	砂粒多量、燒土粒子微量
8	砂粒微量	14 色	ロームブロック微量

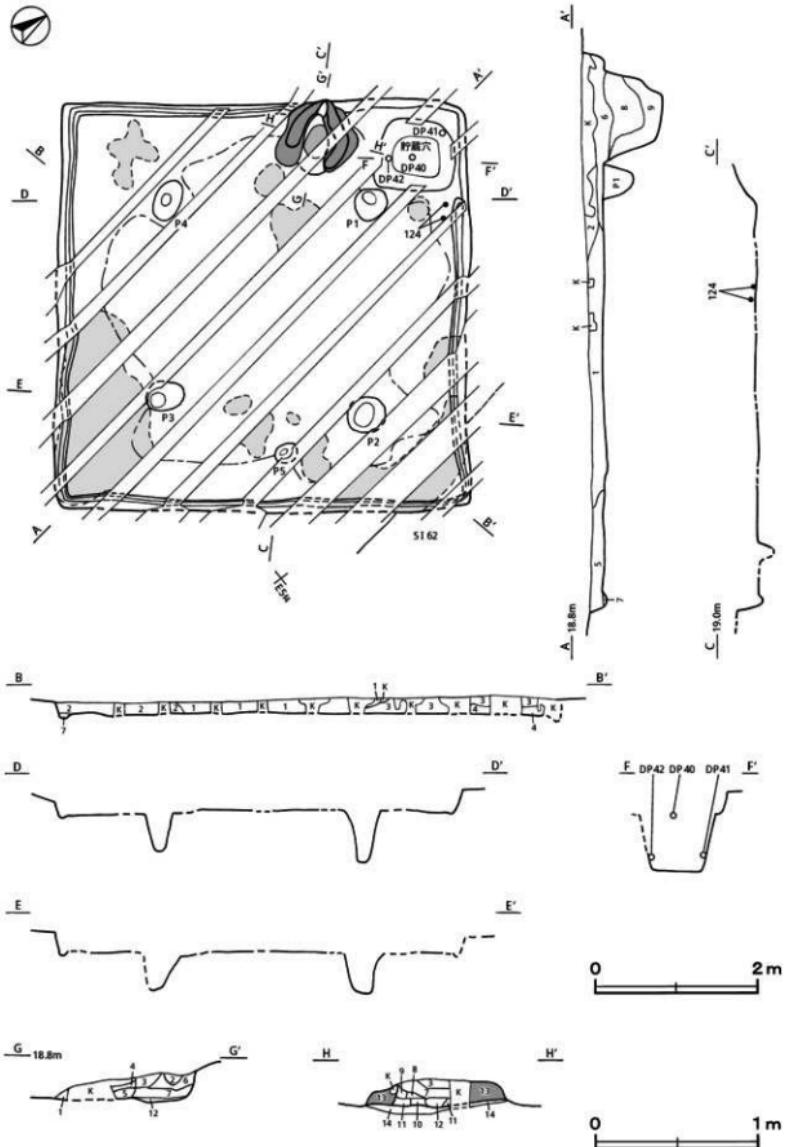
ピット 5か所。P 1~P 4は深さ48~65cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ22cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長軸95cm、短軸87cmの方形で、深さは73cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

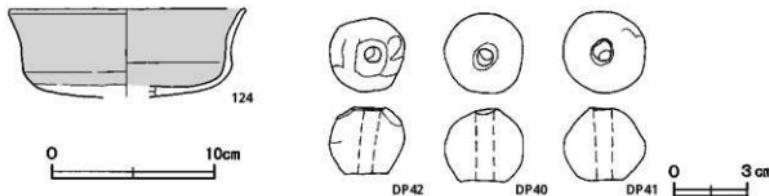
1 黑 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量	7 緑 色	子微量
2 褐 色	ロームブロック微量	8 緑 色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
3 緑 色	ロームブロック少量	9 緑 色	子微量
4 緑 赤褐色	ロームブロック中量、燒土ブロック少量、炭化粒子微量	10 緑 色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5 黑 色	ロームブロック・燒土粒子微量	11 緑 色	砂粒微量
6 緑 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒	12 緑 色	砂粒微量



第94図 第50号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片682点（坏76・甕577・瓶28・ミニチュア1）、須恵器片3点（坏2・甕1）、土製品28点（土玉25・支脚3）、滑石片4点、褐鉄鉱3点が出土している。また、混入した弥生土器片14点（甕）も出土している。遺物の大半は、北部の覆土中層から下層にかけて出土している。DP40～DP42は貯蔵穴の覆土上層から下層にかけて出土している。124は北東壁際の覆土下層から床面にかけて出土しているが、混入した可能性がある。

所見 時期は、重複関係から6世紀後葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第95図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
124	土師器	坏	[146]	5.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外表面ヘラ削り後ナダ	覆土下層	45% PL78

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP40	土玉	33	30	0.8	32.1	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	貯蔵穴	PL78
DP41	土玉	34	30	0.8	32.1	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	貯蔵穴	PL78
DP42	土玉	31	28	0.7	26.5	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	貯蔵穴	PL78

第51号住居跡（第96・97図）

位置 調査区東部のE3c0区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 北西部を第52号住居、南西部を第53号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.10m、短軸5.47mの長方形で、主軸方向はN-127°-Wである。壁高は29~41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。北東壁下から南東壁下にかけて壁溝が確認できた。

竈 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで128cm、燃焼部幅は搅乱のため不明である。第9・10層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------|----|-----|---------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・砂粒少量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・砂粒多量 | 7 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒少量 | 9 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 | 黒褐色 | 砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ44~67cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ14cmで、北東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

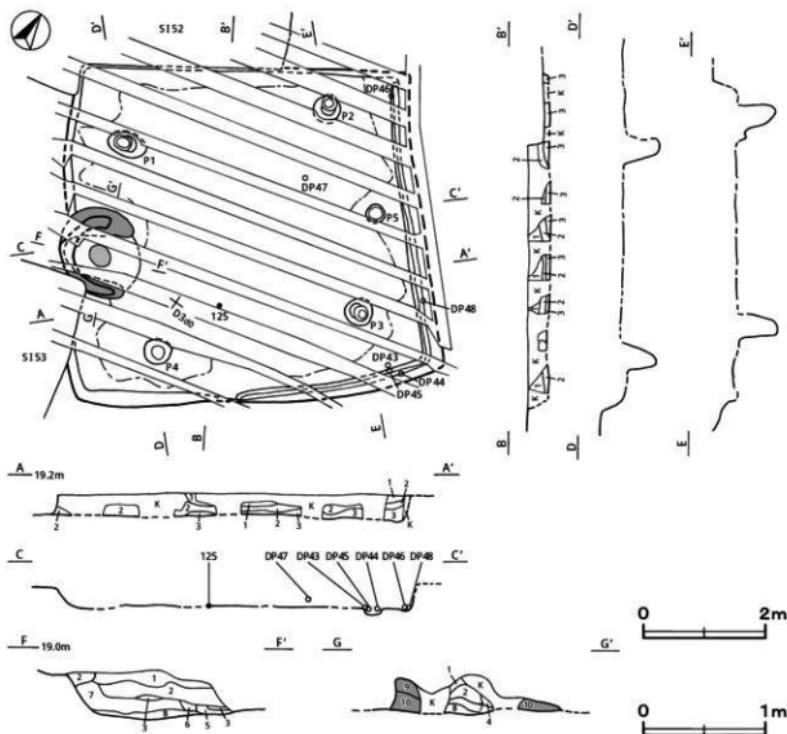
土層解説

- 1 緑褐色 ロームブロック中量
2 緑褐色 ロームブロック少量

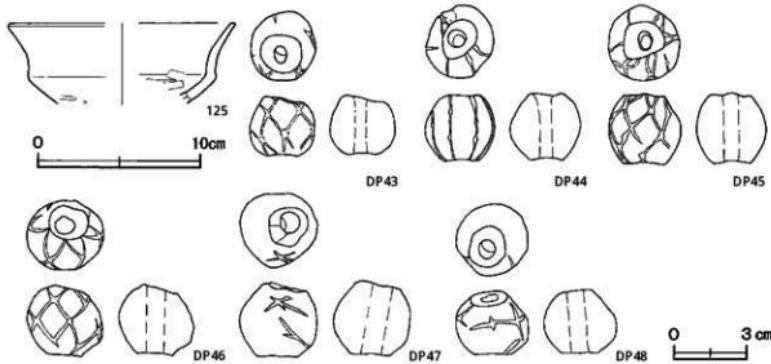
- 3 純褐色 砂粒少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片1495点（坏208・輪4・高坏2・壺2・甕1247・瓶32），須恵器片11点（坏3・蓋4・壺1・甕3），土製品20点（土玉），石器1点（砥石），石製品1点（紡錘車），滑石片1点，褐鐵鉱3点が出土している。また、混入した縄文土器片8点（深鉢），弥生土器片6点（壺），土師質土器片1点（火鉢），鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。125は中央部，DP46は北コーナー部，DP48は東北壁寄りのそれぞれ床面から出土し，DP43～DP45は東コーナー部の床面からまとめて出土している。DP47は南西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。



第96図 第51号住居跡実測図



第97図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	壁高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
125	土師器	环	[138]	(50)	-	長石・石英・雲母	暗	普通	体部外面へラ削り後ナダ 内面へナダ	床面	10%
DP43	土玉	27	25	0.6	18.4	長石			ナデ調整 格子状の網目痕が残る 一方向からの穿孔	床面	PL78
DP44	土玉	29	28	0.7	23.7	長石・石英			ナデ調整 縦位に網目痕が残る 一方向からの穿孔	床面	PL78
DP45	土玉	30	29	0.6	22.5	長石・石英			ナデ調整 格子状の網目痕が残る 一方向からの穿孔	床面	PL78
DP46	土玉	31	29	0.8	26.2	長石・石英			ナデ調整 格子状の網目痕が残る 一方向からの穿孔	床面	PL78
DP47	土玉	32	30	0.8	27.4	長石・石英			ナデ調整 網目痕が残る 一方向からの穿孔	覆土下層	PL79
DP48	土玉	30	26	0.7	20.6	長石・石英			ナデ調整 網目痕が残る 一方向からの穿孔	床面	PL78

第52号住居跡（第98・99図）

位置 調査区東部のE 3 b8区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第51号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.62m、短軸6.30mの方形で、主軸方向はN-68°-Eである。壁高は24~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで146cm、燃焼部幅62cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は壁外に20cm掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 砂粒多量、ローム粒子中量、燒土粒子少量、
燒化粒子微量
- 2 種類 色 砂粒少量、ロームブロック、燒土粒子、燒化粒
子微量

- 3 種類 色 烧化粒子・砂粒少量、ロームブロック・燒土
粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ49~84cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ30cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

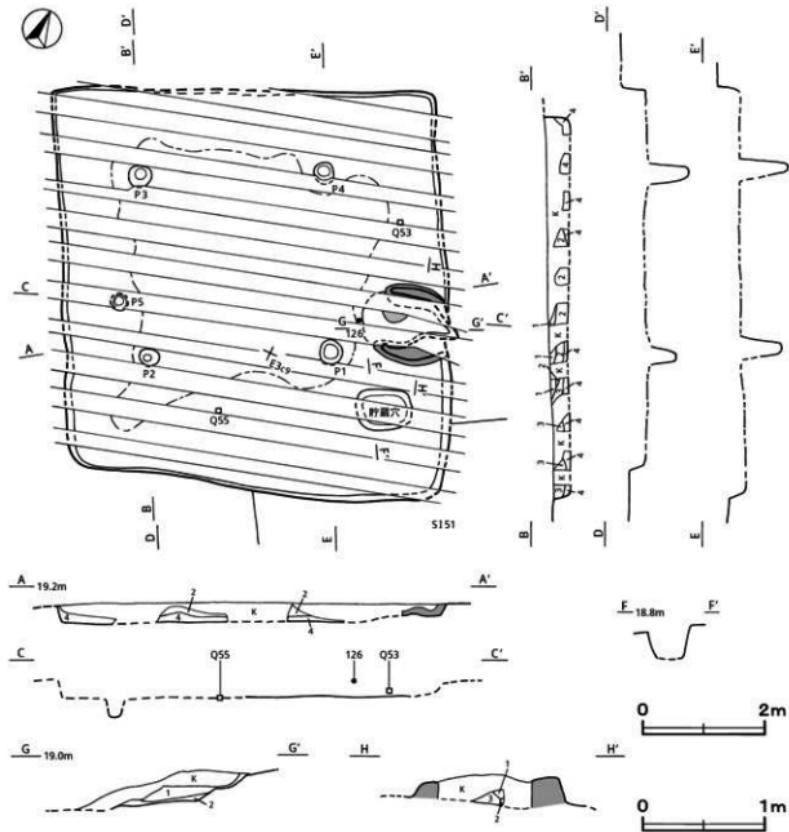
貯藏穴 瓢右袖部の脇に付設されている。長軸86cm、短軸70cmの長方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 細 色 ロームブロック微量
2 黒 土 色 ロームブロック少量

- 3 細 黄 色 ロームブロック中量
4 細 黄 色 ローム粒子多量

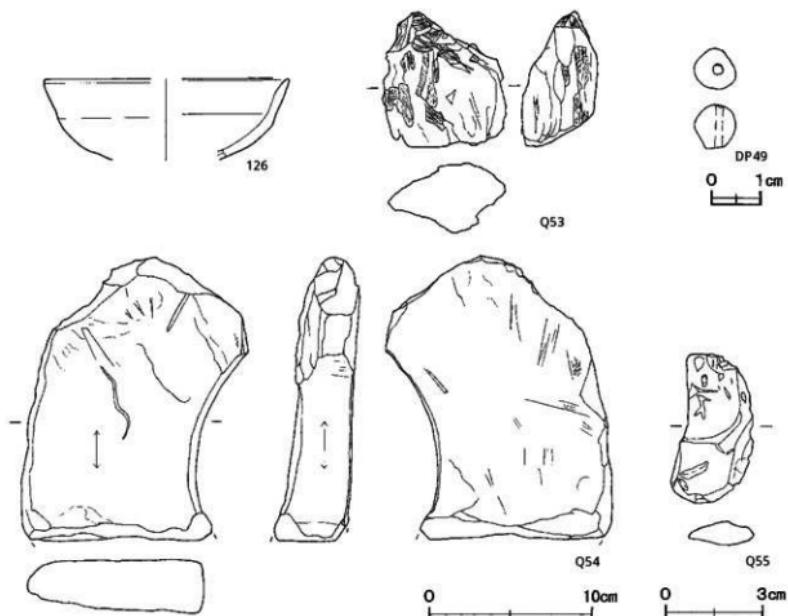


第98図 第52号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片981点（坏192・椀2・高杯6・壺3・甕714・瓶64）、須恵器片5点（坏2・甕1・甕2）、土製品7点（小玉1・土玉5・管状土錐1）、石器1点（砥石）、石製品2点（勾玉・臼玉）、鐵滓5点（25.0g）、滑石片15点、褐鐵鉱3点が出土している。また、混入した縄文土器片7点（深鉢）、土師器片1点

(高台付环), 鉄製品 2 点(不明)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から出土している。Q53は東部, Q55は南部の床面, 126は東部の覆土上層, DP49・Q54は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 6 世紀前葉と考えられる。



第99図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表 (第99図)

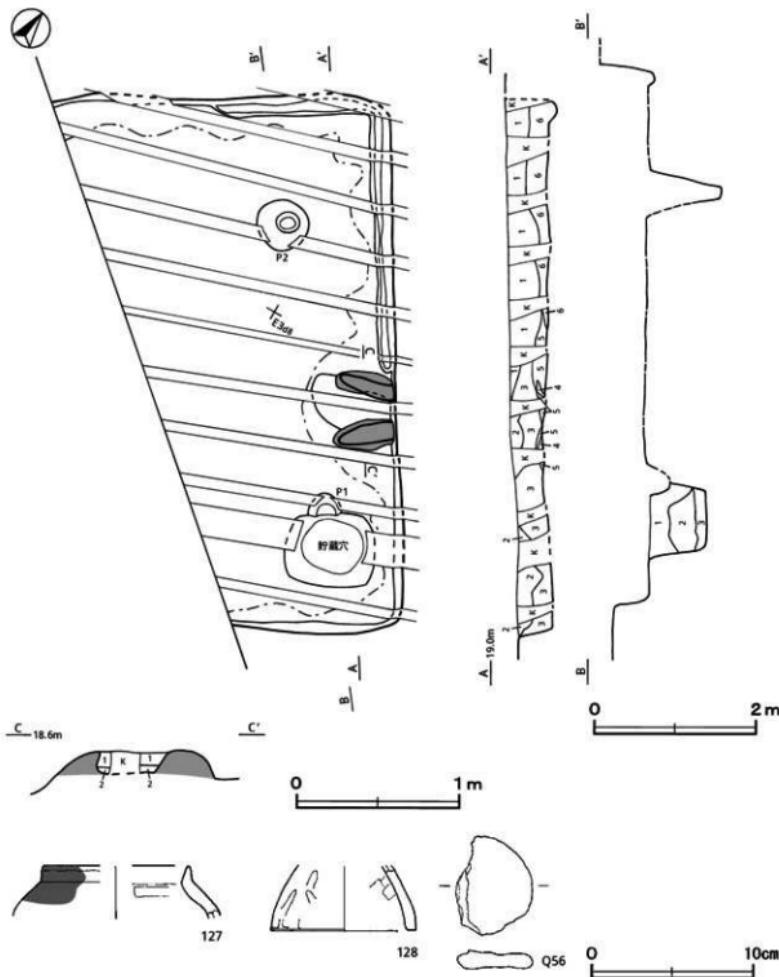
番号	種別	縦幅	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
126	土師器	环	[150]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外表面ヘラ削り	覆土上層	10%
<hr/>											
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
DP-49	小玉	0.9	0.9	0.2	0.8	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔			覆土中	
<hr/>											
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q53	原石	8.5	7.7	4.3	275.1	滑石	2面に工具痕がある 壊割剥離			床面	PL87
Q54	石	(17.5)	14.1	3.4	(1417.2)	粘板岩	破面3面			覆土中	PL80
<hr/>											
番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴			出土位置
Q55	勾玉	4.6	2.6	0.7	0.2	13.5	滑石	未成品 一部研磨 二方向からの穿孔			床面
<hr/>											

第54号住居跡（第100図）

位置 調査区東部のE3c7区、標高18.5mの台地上に位置している。

規模と形状 北西・南東軸は6.80mで、南西部が調査区域外に延びているため、北東・南西軸は4.08mしか確認できなかった。主軸方向がN-60°-E の方形もしくは長方形と推測される。壁高は44~57cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では實際を除いて踏み固められている。壁溝が北コーナー部の壁下で確認



第100図 第54号住居跡・出土遺物実測図

できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、搅乱により焚口部から煙道部が欠損しているため不明である。燃焼部幅は30cmである。袖部は、砂粒を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は搅乱により欠損している。

竈土層解説

1 焼 2 極 3 極	褐色 褐色 褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子微量	褐色 褐色 褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒少量
-------------------	----------------	--------------------------	----------------	--------------------------

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ23cm・90cmで、規模と位置から主柱穴である。貯蔵穴と重複しているP 1は、土層から貯蔵穴より新しい。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸102cm、短軸91cmの長方形で、深さは72cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1 焼 2 極 3 極	褐色 褐色 褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック微量 ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子微量 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	褐色 褐色 褐色	粒子微量 粒子微量 粒子微量
-------------------	----------------	---	----------------	----------------------

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 焼 2 極 3 極	褐色 褐色 褐色	燒土粒子中量、ロームブロック少量、砂粒微量 ロームブロック少量、炭化粒子微量 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒	4 極 5 焼 6 極	褐色 褐色 褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・燒土粒子少量 燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
-------------------	----------------	---	-------------------	----------------	---

遺物出土状況 土師器片622点(环58・高杯3・壺2・甕543・瓶16)、土製品4点(土玉)、石製品1点(有孔円板)、鉄滓2点(24.7g)、滑石片2点、錫鉄鉢19点が出土している。また、混入した繩文土器片1点(深鉢)、土師器片1点(甕)、鉄製品4点(不明)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。127・128・Q56は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表(第100図)

番号	種別	器種	口径	器高	直徑	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
127	土師器	壺	[80]	(32)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部内面ヘラナダ	覆土中	5%
128	土師器	台付壺	-	(40)	90	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内面ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q56	有孔円板	61	47	1.1	-	46.4	滑石	未成品	覆土中	

第55号住居跡(第101図)

位置 調査区東部のD 2 d7区、標高19.2mの台地上に位置している。

規模と形状 南部から西部にかけて調査区域外に延びているため、南北軸は6.48m、東西軸は2.20mしか確認できなかつた。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、炉が確認できなかつたため不明である。壁高は3~16cmで、外傾して立ち上がっている。

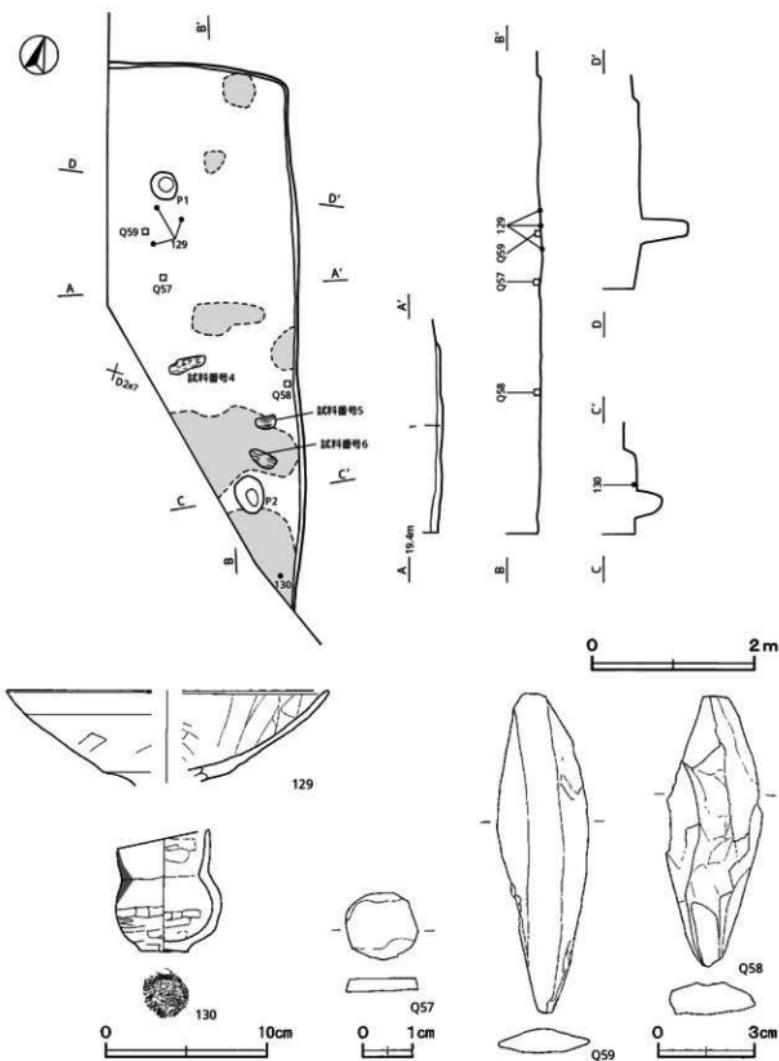
床 平坦で、全城に焼土塊と炭化材が確認できた。

ピット 2か所。P 1は深さ61cmで、規模と位置から主柱穴である。P 2は深さ34cmで、東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 砂 土色 ロームブロック少箇、燒土粒子・炭化粒子微量



第101図 第55号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片35点（坏4・高坏3・壺1・甕27），土製品2点（土玉），石製品3点（白玉1・剣形模造品2），滑石片2点が出土している。また、混入した弥生土器片6点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土下層から出土している。129・Q57・Q59は北部，130・Q58は東壁際のそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第55号住居跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法	特徴ほか	出土位置	備考
129	土師器	高坏	[20.0]	(5.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外側ハラ削り 内面ヘラナダ		床面	20%
130	土師器	壺	5.6	7.5	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側ハラ削り 口縁部内面ヘラナダ		床面	100% PL86

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q57	白玉	1.5	0.3	-	0.9	滑石	未成品	床面	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q58	剣形模造品	8.3	3.0	1.0	-	29.0	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	床面	PL84
Q59	剣形模造品	9.8	2.9	0.7	-	25.1	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	床面	PL84

第56号住居跡（第102図）

位置 調査区東部のE 3 a6区、標高19.0mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.33mの長方形で、主軸方向はN-97°-Wである。壁高は5~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

窓 西壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までの規模は搅乱により不明である。燃焼部幅は30cmである。袖部は、粘土ブロックを主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は搅乱により不明である。

竪土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 稲 岩 色 | 陶土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 にぶい褐色 | 砂粒多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 赤 岩 色 | 陶土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子微量 | | |

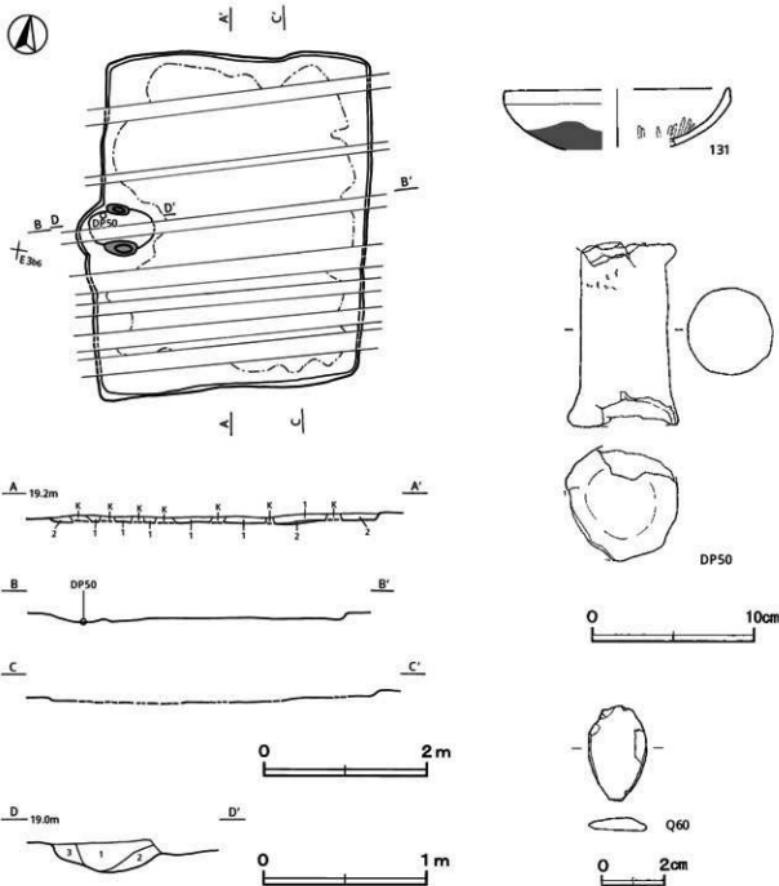
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------|-------|-----------|
| 1 稲 岩 色 | ローム粒子少量 | 2 岩 色 | ロームブロック微量 |
|---------|---------|-------|-----------|

遺物出土状況 土師器片126点（坏7・壺3・高坏1・甕115）、須恵器片1点（坏）、土製品10点（土玉1・管状土錐1・支脚8）。石製品1点（剣形模造品）、滑石片1点が出土している。また、流れ込んだ弥生土器片1点（壺）、混入した鉄製品2点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。DP50は窓の燃焼部、131・Q60は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀初頭と考えられる。



第102図 第56号住居跡・出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
131	土鍋器	环	[138]	(35)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外表面ハラ削り後ナダ 内面ヘラ焼き	覆土中	5%	
番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴			出土位置	備考	
DP50	支脚	11.3	(60)	69	(370.1)	長石・雲母	ナデ溝跡			電熱焼部		
番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q60	剝形構造品	3.0	1.8	0.4	-	3.7	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔		覆土中	PL84	

第57号住居跡（第103・104図）

位置 調査区東部のD3h9区、標高19.2mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.71m、短軸2.70mの長方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁高は25~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。竈の周辺と中央部、南西壁寄りで焼土塊と炭化材が確認できた。

竈 北東壁の北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで110cm、燃焼部幅47cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に34cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

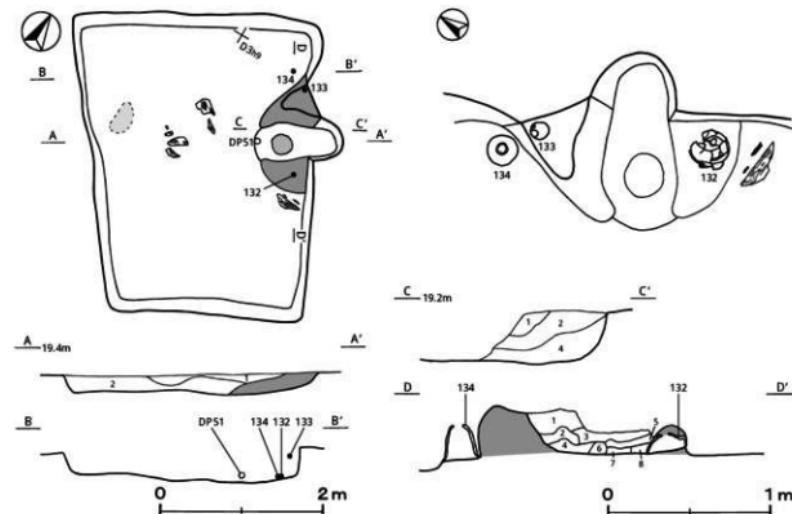
竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 細 色 | 燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 燒土ブロック・砂粒少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 細赤褐色 | 燒土ブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 燒土粒子中量、砂粒少量 |
| 3 細赤褐色 | 炭化物中量、燒土粒子少量 | 7 黒褐色 | 燒土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 細赤褐色 | 燒土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多量に含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

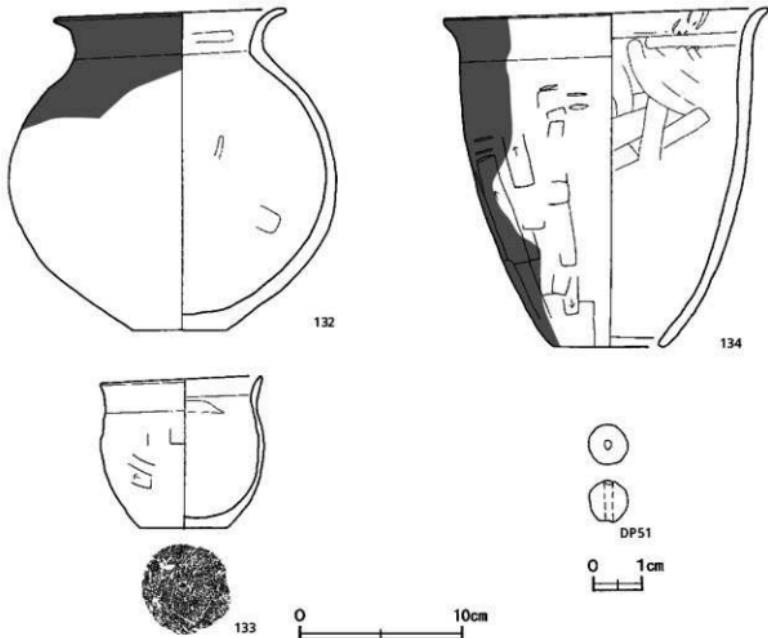
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 細 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|------------------|-------|-----------|



第103図 第57号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片199点（环22・鉢3・甕171・瓶3）、須恵器片4点（蓋）、土製品1点（小玉）、褐鉄鉱1点が出土している。134は竈左袖部脇の床面、133は竈袖部の上面、DP51は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。132は右袖部の内部から出土しており、補強材として使用されている。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第104図 第57号住居跡・出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	土瓶器	瓶	14.3	19.8	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	竈袖部	85% PL58
133	土瓶器	小形瓶	9.8	9.4	5.2	長石・石英	淡紅	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	竈袖部	65% PL58
134	土瓶器	瓶	20.2	20.9	6.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外側へラ削り 内面へラナダ	床面	100% PL57

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP51	小玉	0.8	0.8	0.2	0.8	長石・雲母	ナデ剥離 一方向からの穿孔	覆土下層	

第58号住居跡（第105・106図）

位置 調査区東部のE 3a5区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第77号住居跡を掘り込み、南部の床面を第79号土坑、北部の床面を第78号土坑、北西壁を第14号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.34mの方形で、主軸方向はN-67°-Eである。壁高は35~44cmで、外傾して立ち上がっている。

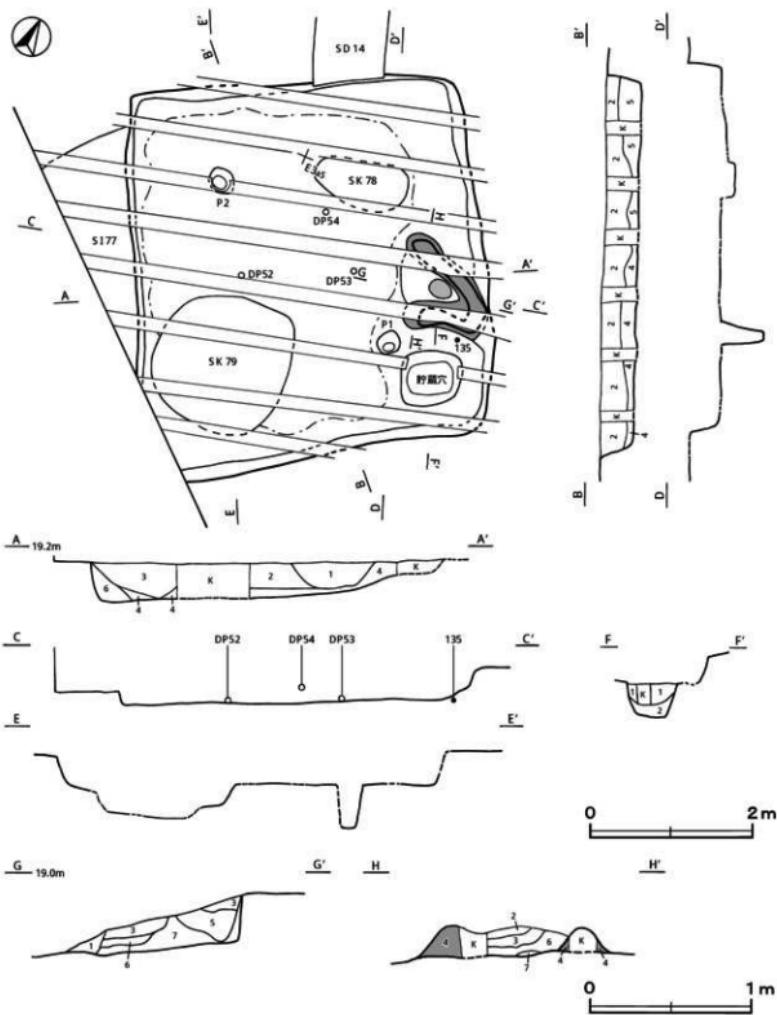
床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで88cm、燃焼部幅40cmである。第4層は

袖部で、ローム粒子と砂粒を主体とした灰褐色土で構成されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

地土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒 色 地土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 灰 色 ロームブロック・地土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰 色 地土粒子少量 | 6 灰 褐 色 砂粒中量、地土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 に占比多量 地土粒子多量、炭化粒子微量 | 7 灰 褐 色 炭化粒子多量、地土粒子中量 |
| 4 灰 色 ローム粒子・地土粒子・炭化粒子微量 | |



第105図 第58号住居跡実測図

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ52cm・55cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸74cm、短軸68cmの方形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1 緑 開 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 緑 閉 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 緑 開 色 砂粒少無、ロームブロック・燒土粒子微量

5 緑 閉 色 ロームブロック少無、燒土粒子・炭化粒子微量

2 緑 閉 色 ロームブロック・燒土粒子微量

6 緑 閉 色 ロームブロック少無、炭化粒子微量

3 緑 閉 色 ロームブロック中量、炭化木・燒土粒子微量

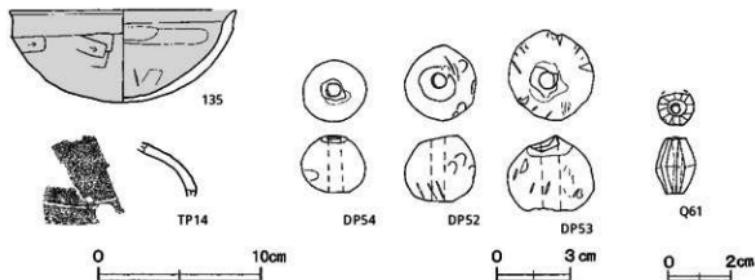
4 緑 閉 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片920点(坪139・窓1・窓2・窓760・瓶18)、須恵器片10点(坪1・蓋1・窓1・窓7)、

土製品2点(小玉1・土玉1)、石製品3点(素玉1・劍形模造品2)、鉄滓3点(12.5g)、滑石片3点、瑪瑙片1点が出土している。また、混入した縄文土器片4点(深鉢)、弥生土器片10点(蓋)、土師器片1点(器台)、鐵製品7点(不明)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。

135は窓の右袖部脇、DP52は中央部、DP53は窓前面のそれぞれ床面から出土している。TP14・Q61は覆土中、D P54は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第106図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表(第106図)

番号	種別	器種	口径	體高	直徑	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
135	土師器	环	13.8	5.6	-	長石・石英・雲母	緑	普通	体部外側へラ刑り 内面へラナデ	床面	40%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP14	須恵器	瓶	長石・黒色粒子	灰黄	普通	外面櫛擦による波状文 円形の造がし	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DPS2	土玉	29	2.7	0.6	24.0	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	
DPS3	土玉	35	3.1	0.7	35.1	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	
DP54	土玉	26	2.3	0.6	14.2	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q61	縄玉	1.1	1.8	0.3	(1.4)	珪化木	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中	PL81

第59号住居跡（第107・108図）

位置 調査区東部のD3 i 7区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第61号住居、東部を第76号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.70m、短軸6.40mの方形で、主軸方向は、炉もしくは竈が確認できなかったため不明である。壁高は25~35cmで、外傾して立ち上がっている。

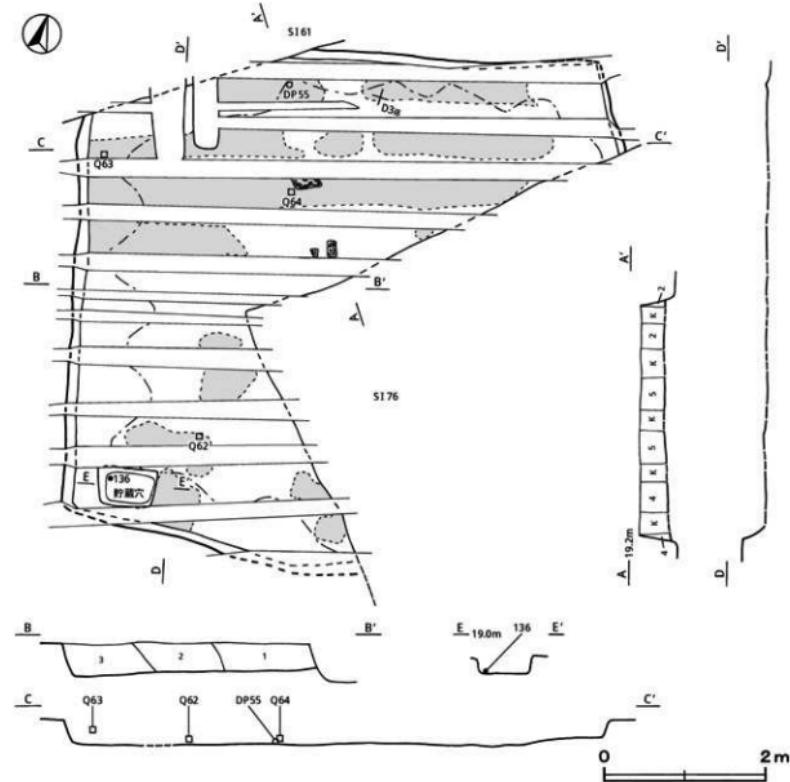
床 平坦な貼床で、確認できた範囲では實際を除いて踏み固められている。ほぼ全域で焼土塊と炭化材が確認できた。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸70cm、短軸47cmの長方形で、深さは20cmである。

覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

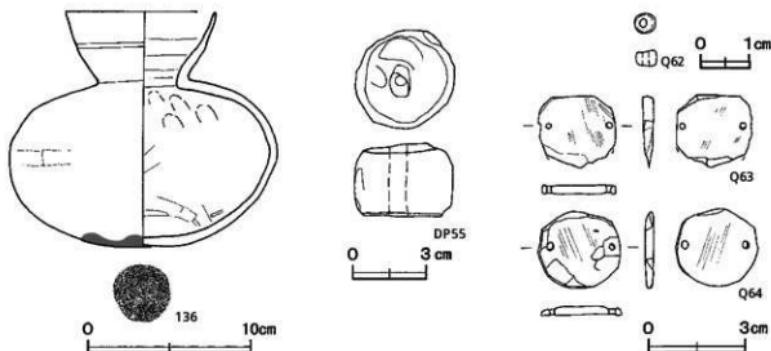
1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	4	灰褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量			



第107図 第59号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片338点（壺33・高杯3・壺2・甕298・甕1・ミニチュア1）、須恵器片3点（蓋）、土製品4点（土玉3・管状土錐1）、石製品4点（白玉1・双孔円板3）、滑石片1点が出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。DP55は北壁際の床面、I36は貯蔵穴の底面、Q62は南部、Q64は北部のそれぞれ覆土下層、Q63は北西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できただから、焼失した可能性がある。



第108図 第59号住居跡出土遺物実測

第59号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	直徑	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
I36	土師器	盤	[9.3]	14.4	3.4	長石・石英	淡緑	普通	内・外表面ラナデ	貯蔵穴	90% PL58

番号	種別	径	表さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP55	管状土錐	42	30	0.9	51.1	長石・石英	指揮圧痕 ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	白玉	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 管状から成型化力	覆土下層	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	双孔円板	(2.3)	2.3	0.3	0.2	(2.8)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL85
Q64	双孔円板	2.4	2.5	0.3	0.2	2.9	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土下層	PL85

第60号住居跡（第109・110図）

位置 調査区東部のD3i6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北東部を第61号住居、西コーナー部を第43号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.28m、短軸4.00mの方形で、主軸方向はN-29°-Wである。壁高は45~58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北西壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅46cmである。袖部は、

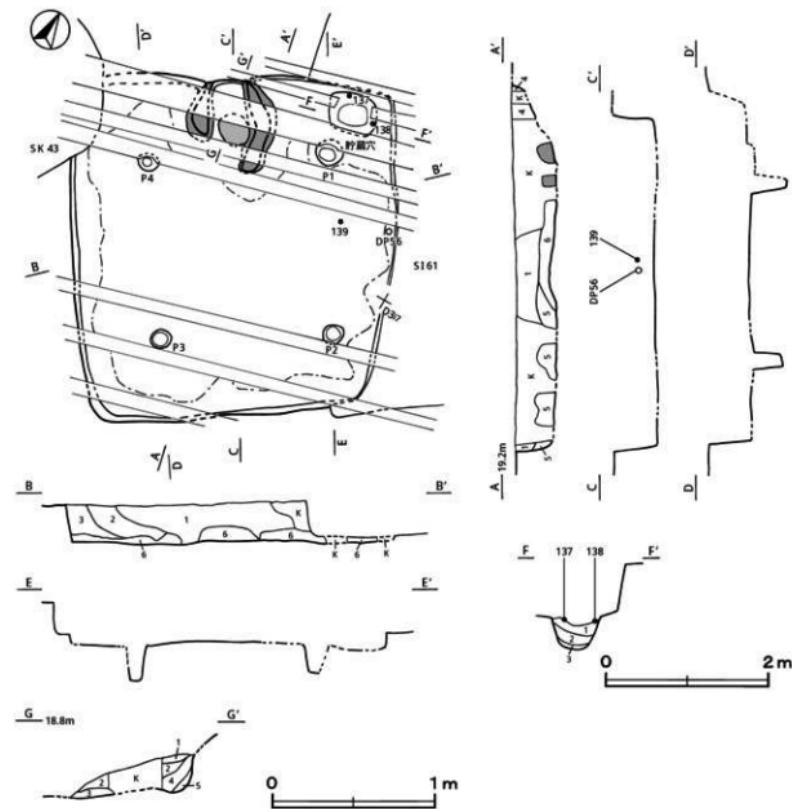
砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

遺土層解説

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 1 にぶい褐色 砂粒多量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒
子微量 | 3 極端褐色 粘土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| | 5 極端褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 |

ピット 4か所。P1・P2は第61号住居跡の掘り方調査で確認した。P1～P4は深さ38～43cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 第61号住居跡の掘り方調査で確認した。北コーナー部に付設されている。長軸58cm、短軸49cmの長方形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第109図 第60号住居跡実測図

野立て穴土層解説

- 1 和風色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 和風色 ロームブロック少量・燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 色 ロームブロック少量

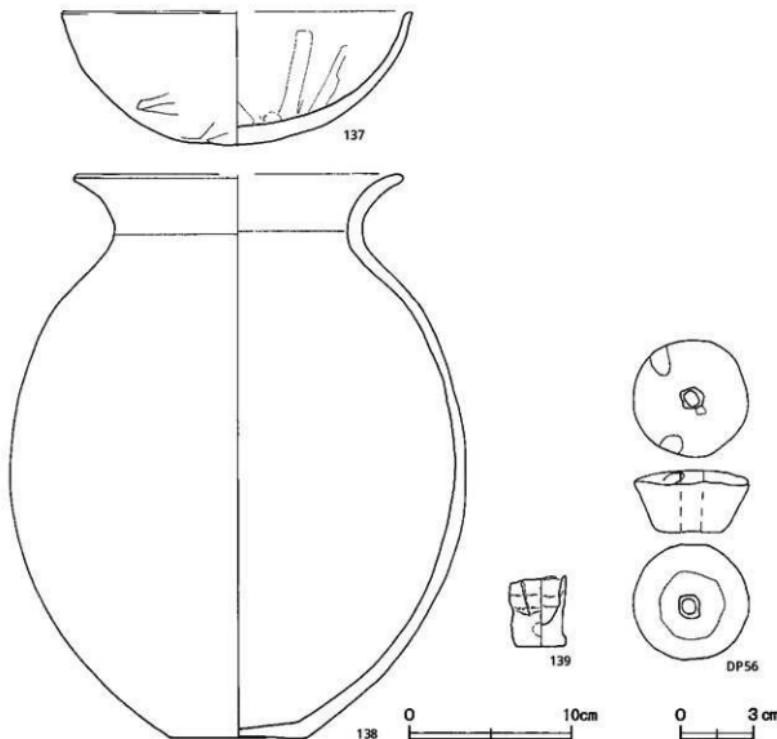
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 和風色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 和風色 ロームブロック少量・燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 色 ロームブロック少量
- 4 にぶい褐色 砂粒多量・ロームブロック・燒土粒子・炭化
- 5 黒 色 ローム粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片860点（环68・碗8・高杯2・鉢1・甕743・瓶37・ミニチュア1）、須恵器片4点（甕）、土製品25点（土玉9・管状土錐1・支脚13・紡錘車1・不明1）、石製品1点（単孔円板）、鐵滓2点（2.7 g）、滑石片7点、輕石1点、褐鐵鉱1点が出土している。また、混入した須恵器片3点（高台付杯）、鐵製品3点（不明）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。137・138は貯蔵穴の覆土上層、139・DP56は北東壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複關係から5世紀後葉と考えられる。



第110図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土器	鉢	[21.6]	8.2	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナダ	野鹿穴	50% PL58
138	土器	瓶	[19.8]	9.7	8.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側ヘラ削り	野鹿穴	30%
139	土器	ミニチュア	3.3	4.3	3.2	長石・石英	橙	普通	指掘痕	覆土中層	100% PL59

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP56	絡織機	47	2.5	1.0	50.1	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	PL79

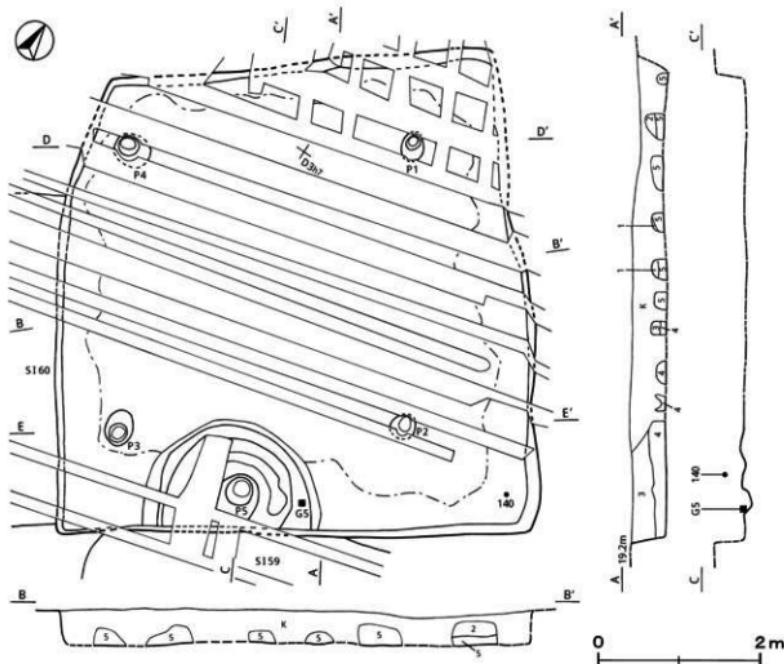
第61号住居跡（第111・112図）

位置 調査区東部のD 3 h7区、標高19.1mの台地上に位置している。

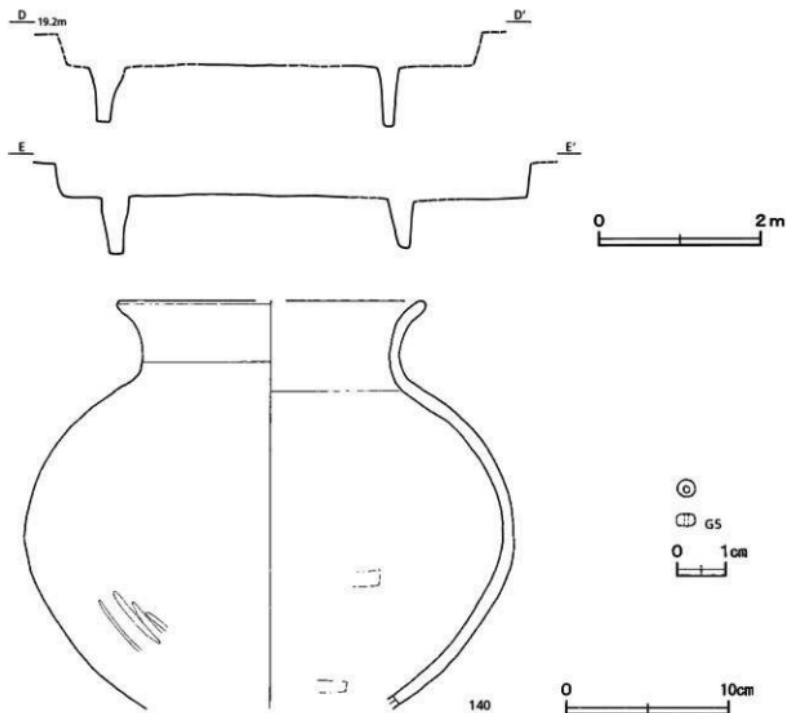
重複関係 第59・60号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.90m、短軸5.82mの方形で、主軸方向は、竈が確認できなかつたため不明である。壁高は35~41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、隙間を除いて踏み固められている。P5の周辺に馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うものと考えられる。



第111図 第61号住居跡実測図



第112図 第61号住居跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ58～75cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ11cmで、南東壁際の中央部に位置し、馬蹄形の高まりがあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。擾乱により堆積状況は不明である。

土層解説

1	粘	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	粘	粘	ローム粒子少量
2	粘	色	ロームブロック少量	5	粘	粘	ロームブロック・炭化粒子微量
3	粘	褐	ロームブロック中量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土器器片323点（壺27・甕290・瓶6）、須恵器器片3点（蓋2・甕1）、土製品7点（土玉5・管状土錐2）、石製品1点（双孔円板）、鐵滓1点（5.1g）、滑石片2点、ガラス製品1点（小玉）、褐鉄鉢9点が出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）、弥生土器片2点（壺）も出土している。遺物の大部分は、南東部の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。G 5は出入口施設付近の床面、140は東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。

第61号住居跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
140	土器器	瓶	(18.6)	(25.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り後下部磨き 内面へラナデ	覆土中層	30%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
GS	小玉	0.4	0.3	0.1	0.1	淡緑	ガラス	一方向からの穿孔	床面	PL89

第62号住居跡（第113・114図）

位置 調査区東部のE 5e4区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第42号住居跡を掘り込み、南部を第50号住居、北および南部を第10号構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.38m、短軸6.34mの方形で、主軸方向はN=80°-Eである。壁高は27~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅48cmである。第11・12層は袖部で、砂粒を主体とした暗褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

1	暗赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量	ロームブロック・灰化粒子多量	7	黒褐色	灰化粒子中量	ローム粒子・灰化粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂粒多量	燒土粒子・灰化粒子微量	8	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子・灰化粒子微量	
3	暗赤褐色	燒土粒子・砂粒少量		9	暗褐色	燒土ブロック中量	灰化粒子微量
4	赤褐色	燒土粒子多量		10	暗褐色	燒土ブロック微量	
5	暗赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量	灰化粒子微量	11	暗褐色	砂粒中量	燒土ブロック少量
6	暗褐色	燒土ブロック少量		12	暗褐色	砂粒少量	燒土ブロック・灰化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ50~84cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ17cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸110cm、短軸80cmの長方形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	燒土粒子・灰化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量				

覆土 16層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

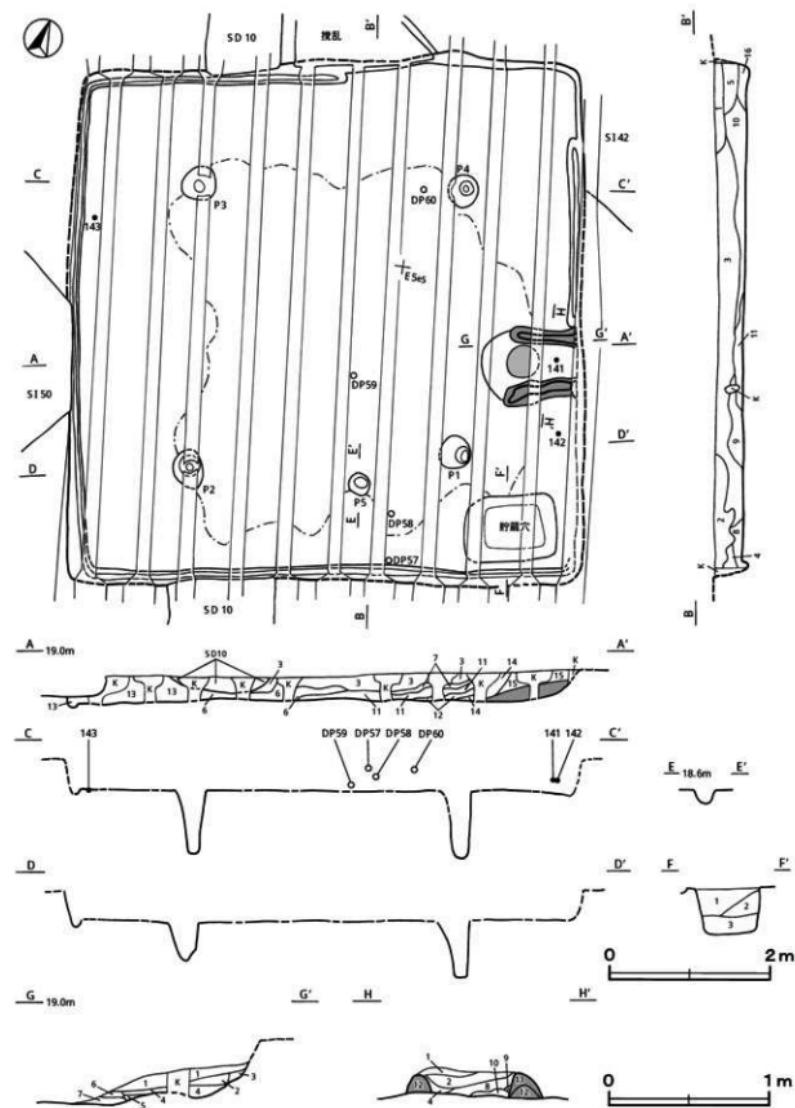
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	燒土粒子少量	9	褐色	ローム粒子多量
2	黒褐色	ロームブロック中量	燒土粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	燒土粒子少量	ロームブロック微量	11	暗褐色	ローム粒子中量
4	黒褐色	ローム粒子少量		12	暗褐色	ロームブロック少量
5	褐色	ロームブロック少量	燒土粒子・灰化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック少量		14	褐色	燒土粒子多量
7	褐色	ロームブロック中量	燒土粒子少量	15	褐色	ロームブロック・燒土粒子・灰化粒子微量
8	褐色	ロームブロック中量		16	褐色	ローム粒子多量

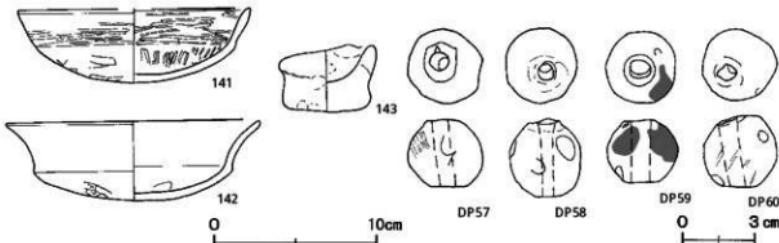
遺物出土状況 土師器片555点（坏87・高坏1・鉢1・甕456・瓶7・ミニチュア3）、須恵器片3点（坏2・甕1）、土製品8点（土玉6・管状土錐2）、石製品1点（臼玉）、鐵滓2点（4.2g）、滑石片3点が出土している。また、混入した繩文土器片22点（深鉢）、弥生土器片6点（壺）、須恵器片1点（高台付坏）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。143は西壁際の床面、141は竈燃焼部、DP59は中央部の覆土下層から出土している。DP57・DP58は南壁際、DP60は北部の覆土中層、142は東壁際の覆

土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考へられる。



第113図 第62号住居跡測定図



第114図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
141	土師器	壺	[142]	45	-	長石・石英	橙	普通	体部外表面ヘラ削り 内面磨き 口縁部内・外面磨き	覆燃焼部	45%
142	土師器	壺	15.6	49	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外表面ヘラ削り	覆土中層	40%
143	土師器	ミニチュア	5.3	41	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通	指揮圧痕	床面	95% PL58

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP57	土玉	31	27	0.7	26.8	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP58	土玉	29	32	0.7	28.1	長石・石英	指揮圧痕 ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP59	土玉	29	26	0.9	19.6	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP60	土玉	31	30	0.8	25.8	長石・石英	指揮圧痕 ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中層	

第63号住居跡（第115図）

位置 調査区東部のD 5 j3区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 第30号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は4.98mで、北東・南西軸は北東部が調査区域外に延びているため3.60mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、炉が確認できなかったため不明である。壁高は12~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

ピット P 1・P 2は深さ76cm・78cmで、規模と位置から主柱穴である。P 3は深さ17cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

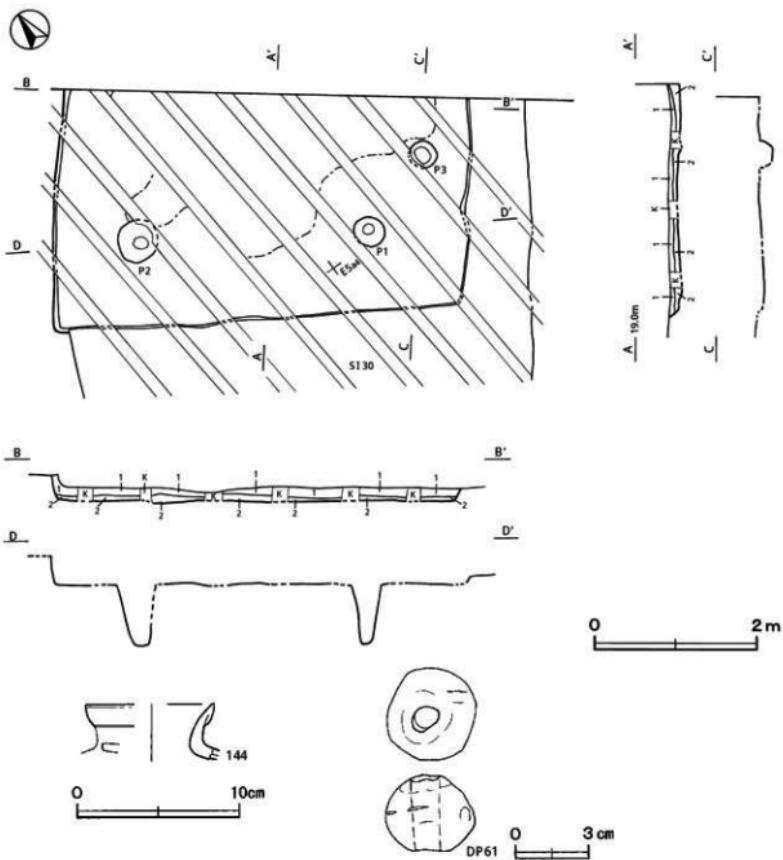
土層解説

1 にぶい褐色 ロームブロック少量、砂粒微量

2 植葉褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片66点（壺8・高壺1・蓋1・甕53・瓶3）、土製品1点（土玉）、滑石片2点が出土している。また、混入した弥生土器片2点（蓋）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。144・DP61は北部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀前半と考えられる。



第115図 第63号住居跡・出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第115図）

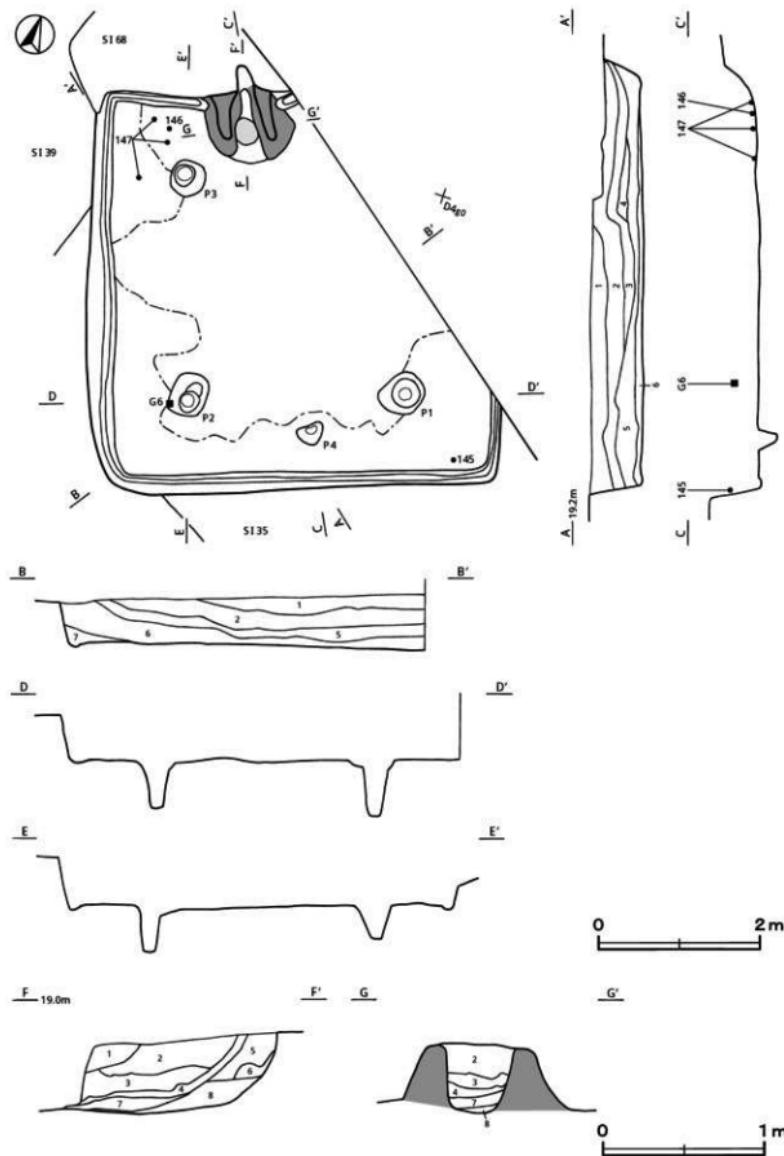
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	土師器	壺	[60]	(35)	-	長石・石英・白 1回転子	にぶい褐	黄透	体部外側ヘラ削り 内面ナデ	覆土中	5%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP61	土玉	37	3.1	1.1	36.9	長石・石英	指揮圧痕 ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	

第64号住居跡（第116・117図）

位置 調査区東部のD 4 g9区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第35・39号住居跡を掘り込み、北部を第68号住居に掘り込まれている。



第116図 第64号住居跡実測図

規模と形状 東部が調査区域外に延びている。長軸5.06m、短軸4.84mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は65cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。確認された範囲で壁構が巡っている。

窓 北壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで118cm、燃焼部幅30cmである。袖部は、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

1	暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	4	暗赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	にふい黄褐色	砂粒少量、燒土ブロック少量、ロームブロック	5	暗褐色	砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	砂粒中量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量

7	暗褐色	燒土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、炭化物微量
8	暗褐色	燒土ブロック少量、炭化物微量

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ43～70cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4は深さ23cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

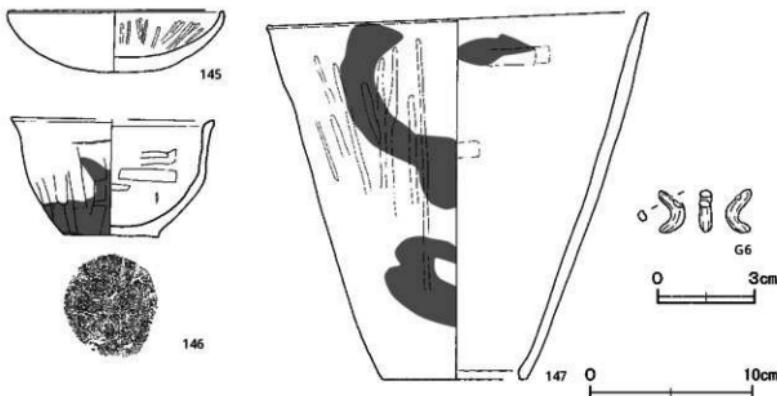
覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
2	細緻褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
3	にふい褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化物・燒土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片1323点（坏84・楕13・高坏3・甕1198・瓶25）、須恵器片8点（坏1・蓋2・甕5）、土製品37点（小玉1・土玉18・支脚18）、石製品1点（勾玉）、鐵滓5点（7.9g）、ガラス製品1点（勾玉）、滑石片6点、鍔鉄鉈6点が出土している。また、混入した赤生土器片5点（壺）も出土している。遺物の大部分は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。146・147は北西コーナー部の床面、145は南壁際。G 6は南西コーナー部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第117図 第64号住居跡出土遺物実測図

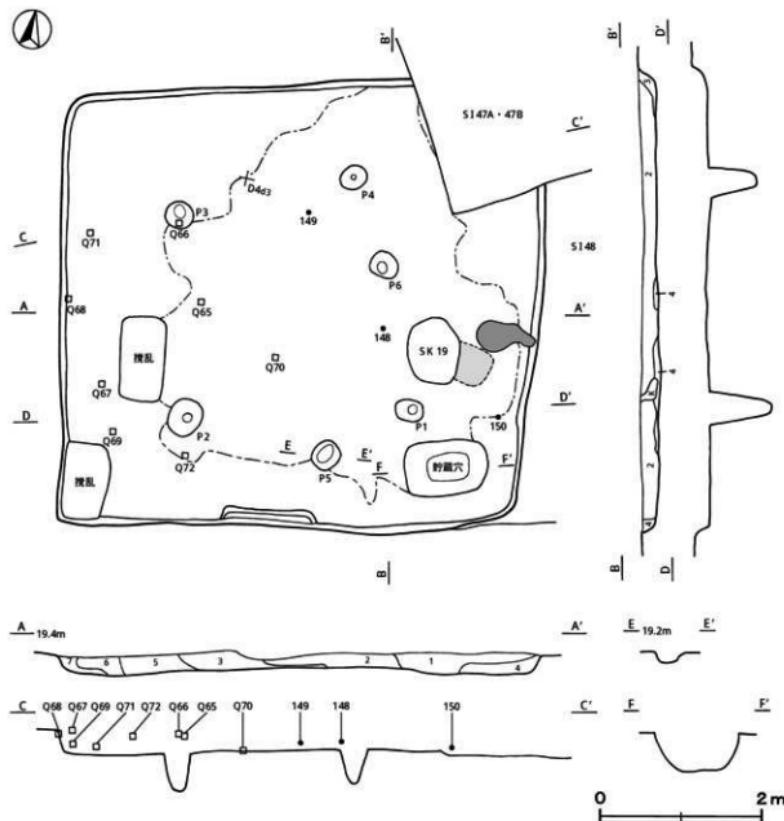
第64号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
145	土器器	壺	13.2	3.7	-	青石・石英・白 色斑子	橙	普通	体部外表面ヘラ削り 内面ヘラ削き	覆土中層	95% PL58
146	土器器	壺	[12.4]	7.2	5.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外表面ヘラ削り 内面ヘラナダ	床面	60% PL59
147	土器器	瓶	23.3	22.7	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外表面ヘラ削り後ナダ 内面ヘラナダ	床面	80% PL59

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G 6	勾玉	1.3	0.8	0.4	0.3	(0.3)	緑色	ガラス	一方方向からの穿孔	覆土中層	PL89

第65号住居跡（第118～120図）

位置 調査区東部のD 4 d3区、標高19.1mの台地上に位置している。



第118図 第65号住居跡実測図

重複関係 第48号住居跡を掘り込み、北東部を第47A・47B号住居、東部を第19号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.67m、短軸5.35mの方形で、主軸方向はN-82°-Eである。壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が南壁下の一部で確認できた。

竈 東壁の南寄りに付設されている。左袖部しか遺存していないため、規模は不明である。袖部は、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。煙道部は煙外まで掘り込まれていない。

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ44~76cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ20cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸104cm、短軸69cmの長方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

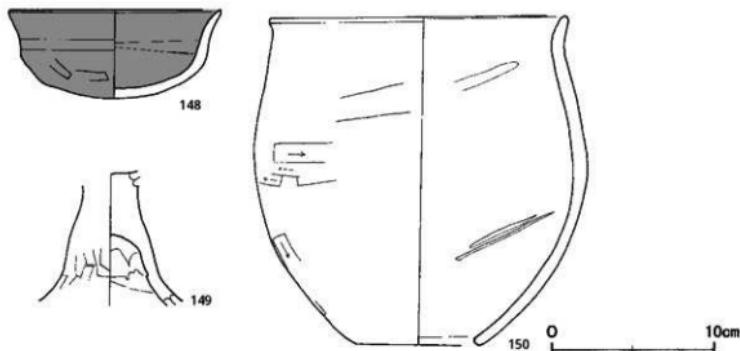
覆土 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

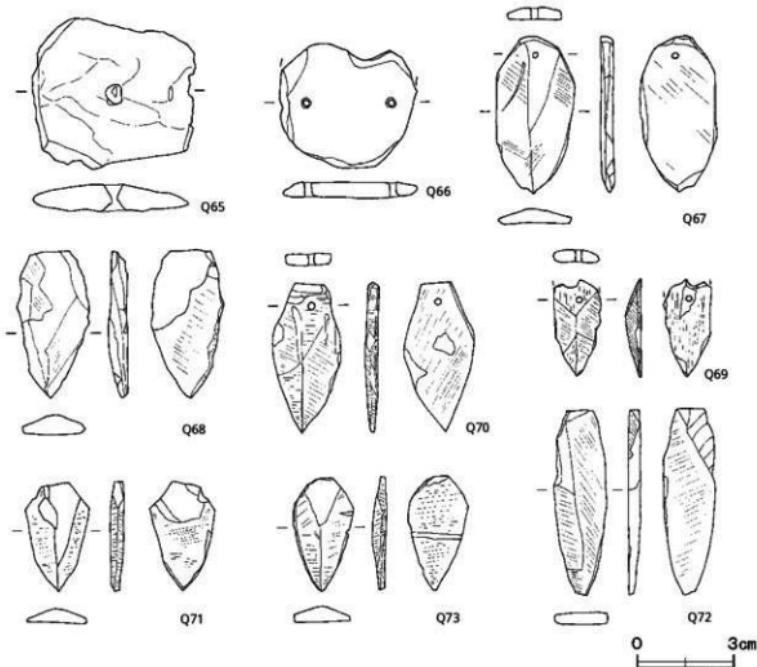
1	褐	褐	色	ロームブロック・混化物・燒土粒子微量	4	黒	褐	色	ロームブロック・燒土粒子少量
2	褐	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・混化物微量	5	黒	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
3	褐	褐	色	ロームブロック・混化物微量	6	にふい	褐色	色	ロームブロック中量、混化物微量

遺物出土状況 土師器片1504点（坏234・椀1・高坏17・壺12・甕1220・瓶20）、須恵器片8点（坏1・蓋1・甕4・器2）、土製品12点（土玉）、石製品16点（臼玉6・單孔円板2・双孔円板1・劍形模造品7）、鐵滓1点（0.7g）、滑石片23点、綠色凝灰岩片5点、褐鐵鉢8点が出土している。また、混入した縄文土器片2点（深鉢）、貝2点（ヤマトシジミ）、石器1点（石鏽）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて散在して出土している。Q70は中央部の床面、150は東壁際、Q65~Q68・Q72は西部のそれぞれ覆土上層、148は竈前面、149は北部、Q69・Q71は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



第119図 第65号住居跡出土遺物実測図(1)



第120図 第65号住居跡出土遺物実測図(2)

第65号住居跡出土遺物観察表(第119・120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	土鉢器	坪	13.0	5.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面へラ削り 内面ナギ	覆土下層	95% PL.60
149	土鉢器	高坪	-	(8.2)	-	長石・石英	橙	普通	脚部外面へラ削り	覆土下層	40%
150	土鉢器	瓶	18.3	20.3	7.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り	覆土下層	90% PL.60

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q65	單孔円板	45	5.0	0.8	0.2	24.5	滑石	未成品 未研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	PL.85
Q66	双孔円板	38	4.2	0.5	0.2	(16.2)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	PL.85
Q67	鈍形模造品	48	2.4	0.4	0.2	(9.2)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土上層	PL.84
Q68	鈍形模造品	45	2.2	0.7	-	7.3	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土上層	PL.84
Q69	鈍形模造品	(29)	1.4	0.5	0.2	(2.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL.84
Q70	鈍形模造品	46	2.1	0.5	0.2	7.5	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL.84
Q71	鈍形模造品	34	2.0	0.5	-	3.9	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土下層	PL.84
Q72	鈍形模造品	58	1.5	0.4	-	6.1	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土上層	PL.84
Q73	鈍形模造品	35	1.8	0.5	-	4.2	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土中	PL.84

第66号住居跡（第121図）

位置 調査区東部のD3e9区、標高19.2mの台地上に位置している。

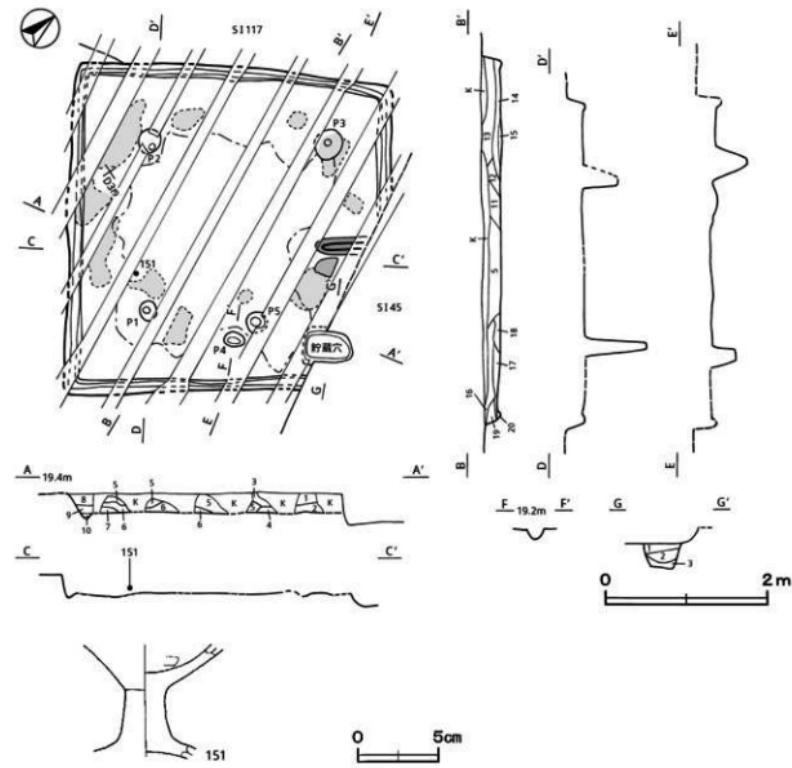
重複関係 第117号住居跡を掘り込み、東部を第45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.00mの方形で、主軸方向はN-57°-Eである。壁高は18~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁構が重複部分を除いて確認できた。壁際で焼土塊が確認できた。

竈 北東壁の中央部に付設されている。左袖部と火床面のみが遺存している。規模は、第45号住居に掘り込まれているため不明である。袖部は、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。

ピット 5か所。P1~P3は深さ41~76cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ13cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ32cmで、性格は不明である。



第121図 第66号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。短軸は44cmで、長軸は搅乱のため57cmしか確認できなかったが、長方形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

防風穴土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック・埴土ブロック少量、炭化粒子微量	3	褐 色	ローム粒子少量、埴土粒子・炭化粒子微量
2	暗 褐色	ロームブロック・埴土ブロック・炭化粒子少量			

覆土 20層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、埴土ブロック微量	11	暗 褐色	ロームブロック・埴土ブロック・炭化粒子少量
2	暗 褐色	ロームブロック少量、炭化物・埴土粒子微量	12	明 赤 褐色	ローム粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	暗 褐色	ロームブロック微量	13	黑 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
4	暗 褐色	ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量	14	暗 褐色	ロームブロック・埴土ブロック微量
5	暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15	暗 褐色	ロームブロック中量、埴土ブロック・炭化粒子少量
6	暗 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	16	黑 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
7	暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17	褐 色	ロームブロック中量
8	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	18	褐 色	ロームブロック少量
9	暗 褐色	ロームブロック・埴土ブロック微量	19	褐 色	ロームブロック微量
10	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	20	褐 色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片285点（坏52・掩1・高坏1・甕231）、須恵器片4点（高坏3・甕1）、滑石片3点が出土している。また、混入した弥生土器片1点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。151は南西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第66号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	埴土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	土師器	高坏	-	(69)	-	灰白・石英・白色粒子	褐	普通	脚部外側へラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%

第67A号住居跡（第122・123図）

位置 調査区東部のD5j1区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第69・81・85号住居跡を掘り込み、東部を第31号住居・第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m、短軸5.82mの方形で、主軸方向はN-56°-Eである。壁高は58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北東壁のやや東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅48cmである。第9～13層は袖部で、粘土粒子を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竈土層解説

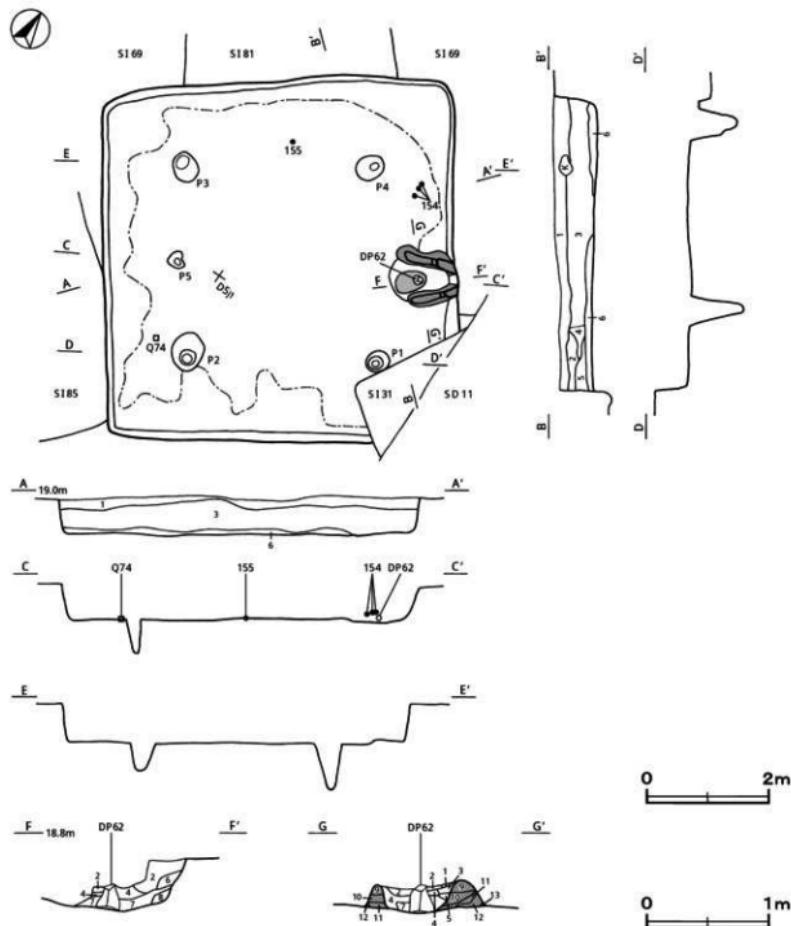
1	にじいろ褐色	粘土粒子中量、ローム粒子微量	8	にじいろ褐色	埴土ブロック少量、炭化粒子微量
2	無暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗 褐色	ロームブロック少量
3	暗 褐色	埴土粒子中量、粘土粒子微量	10	暗 褐色	ローム粒子少量
4	赤 褐色	埴土ブロック中量、炭化粒子微量	11	暗 褐色	粘土粒子中量、埴土粒子・炭化粒子微量
5	にじいろ褐色	粘土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗 褐色	ローム粒子・埴土粒子・炭化粒子微量
6	灰 褐色	埴土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	13	黑 褐色	砂粒少量、埴土粒子・炭化粒子微量
7	暗 褐色	炭化粒子少量、埴土粒子微量			

ピット 5か所。P1～P4は深さ46～86cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ56cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|------------------------|----------------------|---|---|
| 1 細
2 細
3 細
4 | 色
色
色
にふい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量
ロームブロック微量
ロームブロック・炭化粒子微量
粘土粒子中量、ローム粒子・熊土粒子・炭化 | 粒子微量
ローム粒子・炭化粒子微量
炭化粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量 |
|------------------------|----------------------|---|---|

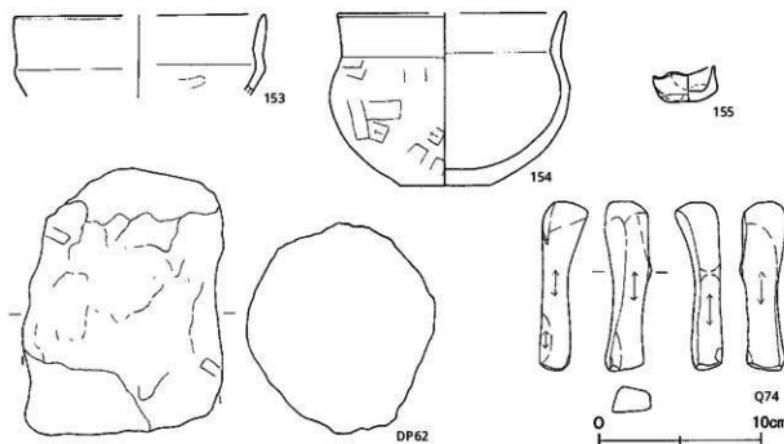


第122図 第67-A号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片2638点（壺290・椀14・高壺22・壺7・甕2236・瓶67・ミニチュア2）、須恵器片22点（壺4・蓋5・甕6・甕7）、土製品34点（土玉18・支脚16）、石器1点（砾石）、滑石片10点、鐵鉄鉱12点が出

土している。また、混入した縄文土器片40点（深鉢）、弥生土器片17点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。155は北西部、Q74は南部の床面。153・DP62は壺の燃焼部、154は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。掘り方調査で第67B号住居跡の主柱穴が確認でき、本跡の主柱穴が第67B号住居跡の外側に位置していることから、第67B号住居跡から拡張されていると推測される。



第123図 第67A号住居跡出土遺物実測図

第67A号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	土瓶器	壺	[15.4]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外表面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土燃焼部	20%
154	土瓶器	小形壺	[14.1]	10.6	5.4	長石・石英・雲母	橙	普通	外表面ヘラ削り	覆土下層	60%
155	土瓶器	ミニコア	3.8	2.1	-	長石・石英	橙	普通	指頭圧痕	床面	90% PL59

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	支脚	(16.4)	11.1	12.4	(2267g)	長石・雲母	指頭圧痕	覆土燃焼部	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q74	磁石	10.4	2.9	1.5	74.0	凝灰岩	磁鐵4面	床面	PL80

第67B号住居跡（第124図）

位置 調査区東部のD5jII区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第69・81・85号住居跡を掘り込み、東部を第31号住居・第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 主柱穴と貯蔵穴の位置、火床面から、長軸4.50m、短軸4.20mの方形と推測される。主軸方向はN-128°-Wである。第67A号住居へ拡張されているため、壁高は不明である。

床 平坦な貼床で、硬化面は確認できなかった。

竈 南西壁のやや南寄りに付設されている。火床面のみが遺存している。

ピット 6か所。第67A号住居の掘り方調査で確認した。P1～P4は深さ54～78cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ13cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ76cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 第67A号住居の掘り方調査で確認した。南コーナー部に付設されている。長軸80cm、短軸56cmの長方形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土器解説

1 灰 黄 色 ロームブロック多量。燒土ブロック・炭化粧
子少量

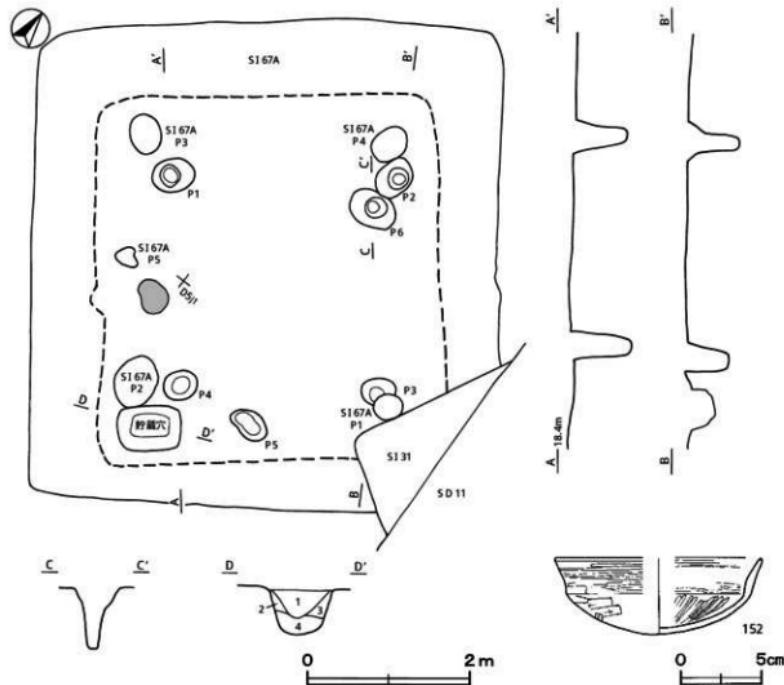
3 灰 黄 色 ロームブロック少量。炭化粧子微量

2 灰 褐 色 ロームブロック微量

4 灰 黄 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片31点（灰2・褐1・灰1・甕27）、滑石片1点が出土している。152は貯蔵穴の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。第67A号住居の掘り方調査で主柱穴と貯蔵穴が確認でき、本跡の主柱穴が第67A号住居の主柱穴の内側に位置していることから、第67A号住居に拡張される以前の住居跡と考えられる。



第124図 第67B号住居跡・出土遺物実測図

第67B号住居跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
152	土器器	环	[128]	47	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外側へラ削り 内面磨き 口縁部内・外面磨き	野鹿穴	20%

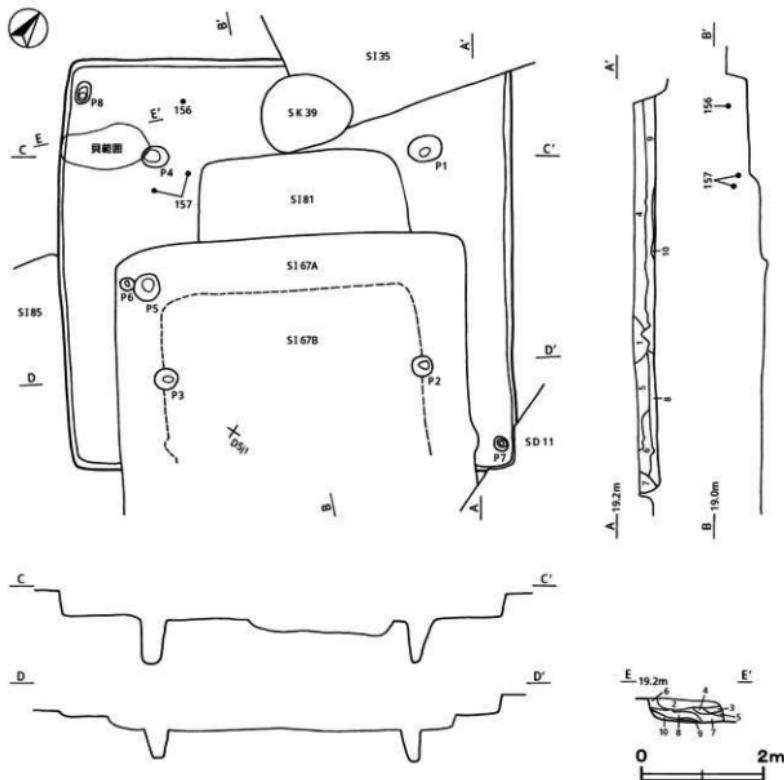
第69号住居跡 (第125・126図)

位置 調査区東部のD 4 i 0区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第85号住居跡を掘り込み、南東部を第67A・67B・81号住居、北西部を第35号住居、北部を第39号土坑、東コーナー部を第11号構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.64m、短軸6.67mの長方形で、主軸方向は、炉が確認できなかったため不明である。壁高は28~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から出入り口施設に伴うと考えられるピットにかけてやや踏み固められている。



第125図 第69号住居跡実測図

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ68～85cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ20cm・10cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7は東コーナー部、P 8は西コーナー部に位置し、性格は不明である。

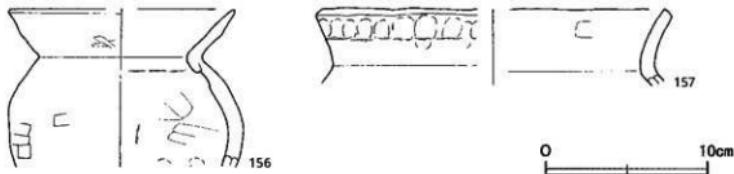
覆土 10層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第2層は層厚12～18cmの混貝土層、第3層は層厚5～10cmの混貝土層で、埋め戻された際に廃棄されたものと考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐	色	ロームブロック・炭化粒子中量
2	褐褐色	貝中量、ローム粒子少量	7	褐	色	ロームブロック・砂粒少量
3	黒褐色	貝・ローム粒子少量	8	褐	色	ロームブロック中量
4	褐褐色	ロームブロック少量	9	褐	色	ロームブロック微量
5	褐褐色	ローム粒子中量	10	暗褐色	色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片423点（壺35・高壺2・壺9・甕373・瓶1・ミニチュア3）、須恵器片4点（壺1・甕3）、滑石片5点、鉛鉢3点が出土している。また、混入した縄文土器片28点（深鉢）、弥生土器片2点（壺）も出土している。南西壁際から貝2577個体（ヤマトシジミ2574・アサリ1・ウミナナ1・ヒメタニシ1）が出土している。157は北西部の覆土中層、156は北西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀中葉と考えられる。



第126図 第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	目幅	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
156	土師器	壺	[138]	(97)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面へラ削り	覆土上層	40%
157	土師器	壺	[212]	(47)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外側指標压痕	覆土中層	5%

第70号住居跡（第127・128図）

位置 調査区東部のE 5c3区、標高18.8mの台地上に位置している。

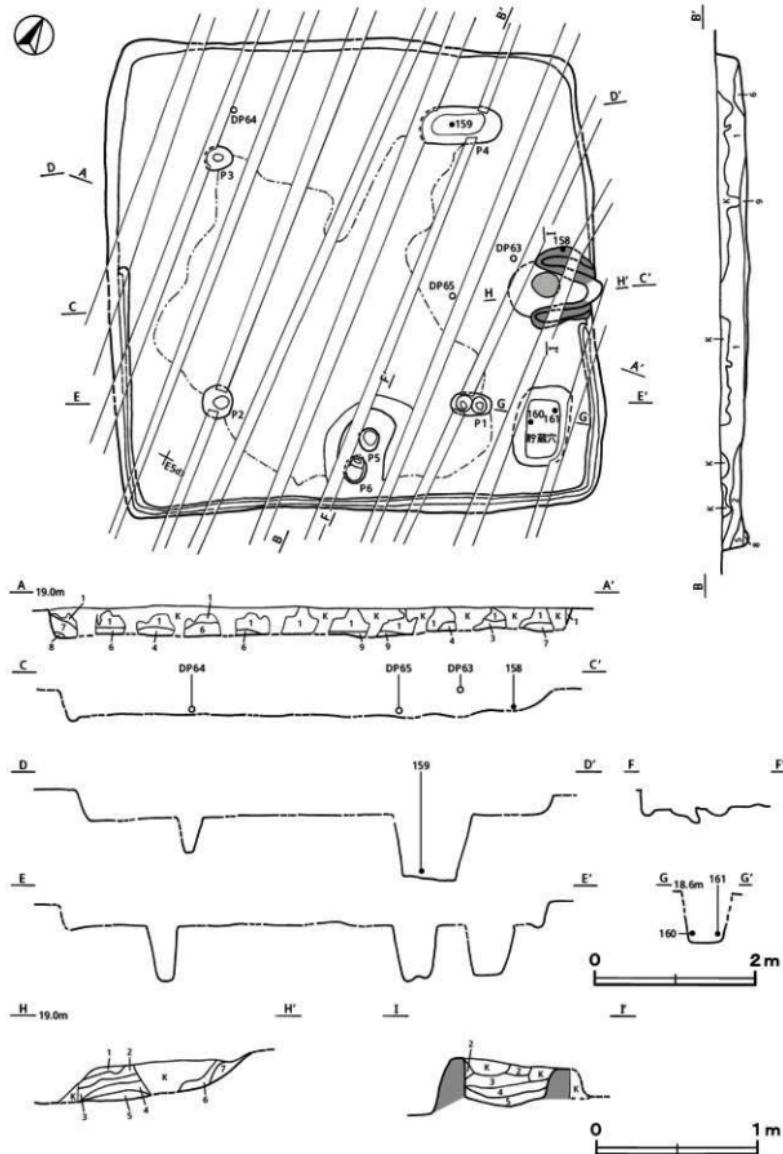
規模と形状 長軸5.93m、短軸5.72mの方形で、主軸方向はN-60°-Eである。壁高は26～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が南部を半周している。P 5・P 6の周辺に馬蹄形の高まりがみられることから、出入り口施設に伴うものと考えられる。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅46cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック・砂粒少量、燒土ブロック微量	5	赤	褐	色	燒土ブロック中量
2	に赤い褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、燒土ブロック	微量	6	赤	褐	色	燒土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化
3	赤	褐色	燒土ブロック・粘土ブロック中量、砂粒微量					粒子微量
4	暗赤褐色	燒土ブロック少量、ロームブロック・砂粒微量		7	暗赤褐色	色	砂粒中量、燒土粒子・炭化粒子微量	



第127図 第70号住居跡実測図

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ42～78cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ5cm・19cmで、南壁際の中央部に位置し、周辺に馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸は90cmで、短軸は搅乱のため52cmしか確認できなかった。形状は長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

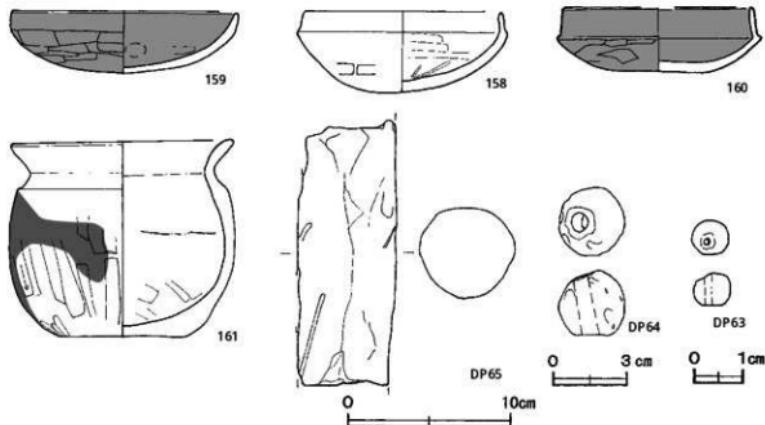
覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	6	褐色	燒土粒子少量。ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量	7	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量。燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック少量	9	褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 土師器片1938点(环201・高杯8・壺1・甕1720・瓶8), 須恵器片12点(环2・高杯1・甕3・甕6), 土製品34点(小玉1・土玉17・支脚16), 石製品4点(白玉), 鉄滓3点(10.2g), 滑石片4点, 瑪瑙片1点, 輻石1点, 褐鐵鉱1点が出土している。また, 混入した縄文土器片11点(深鉢), 弥生土器片2点(甕), 鉄製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は, 南西壁際を除く覆土中層から下層にかけて出土している。159はP 4の覆土下層, 160・161は貯蔵穴の覆土下層, DP64は北西壁寄り, DP63・DP65は甕の前面, 158は甕の左側のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第128図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表(第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
158	土師器	环	12.1	5.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部外側へラ削り 内面へラ磨き	覆土下層	95% PL59
159	土師器	环	14.0	3.8	-	長石・石英	黒褐	普通	体部外側へラ削り	P 4 覆土下層	60% PL59
160	土師器	环	[11.6]	4.0	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外側へラ削り	貯蔵穴	50%
161	土師器	小形壺	13.4	12.1	7.8	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外側へラ削り 内面へラナダ	貯蔵穴	100% PL59

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP63	小玉	0.8	0.7	0.2	0.5	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土上層	
DP64	土玉	2.7	2.7	0.7	19.1	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP65	支脚	(116.3)	5.4	6.1	(618.0)	長石・石英・雲母	ナデ調整	覆土下層	

第71号住居跡（第129・130図）

位置 調査区東部のD 3 i 3区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第72号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びている。長軸6.33m、短軸5.95mの方形で、主軸方向はN-116°-Eである。壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、燃焼部幅44cmである。袖部は、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。竈2は南西壁の中央部に付設されている。右袖部の一部が確認できた。調査区域外に延びているため、規模は不明である。竈1の遺存状況から、竈2から竈1へ作り替えられていると推測される。

竈1 土層解説

- | | | | | | | | |
|---|-----|----|----------------------------|---|-----|----|-------------------|
| 1 | 灰 | 色 | 燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 | にぶい | 褐色 | 子微量 |
| 2 | にぶい | 褐色 | 砂粒少量、ロームブロック・燒土粒子微量 | | | | |
| 3 | 褐 | 色 | 燒土ブロック・ローム粒子中量 | | | | 粒子微量 |
| 4 | 褐 | 褐色 | 燒土ブロック・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 | 暗 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 赤 | 褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 8 | にぶい | 褐色 | 砂粒多量、ローム粒子微量 |
| | | | | 9 | 暗 | 褐色 | ローム粒子微量 |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ44~58cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置し、竈1の左脇に位置していることから、竈2の時期に使用されていた出入り口施設に伴うビットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長軸100cm、短軸74cmの長方形で、深さは45cmである。貯蔵穴2は南西部に付設されている。長軸106cm、短軸82cmの長方形で、深さは40cmである。底面はともに平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴1 土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---|----|-----------|---|---|----|---------|
| 1 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 | 3 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | ロームブロック中量 | | | | |

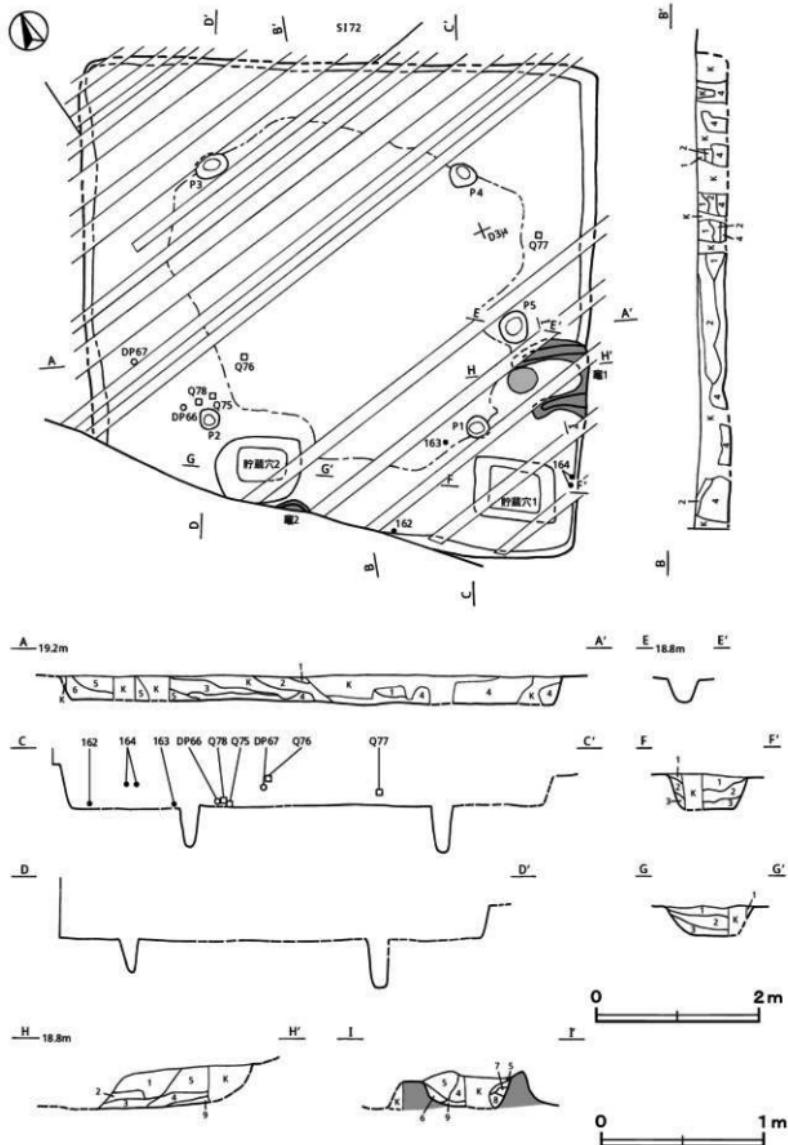
貯蔵穴2 土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---|----|-----------|---|---|----|-----------|
| 1 | 暗 | 褐色 | ロームブロック微量 | 3 | 暗 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 | | | | |

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

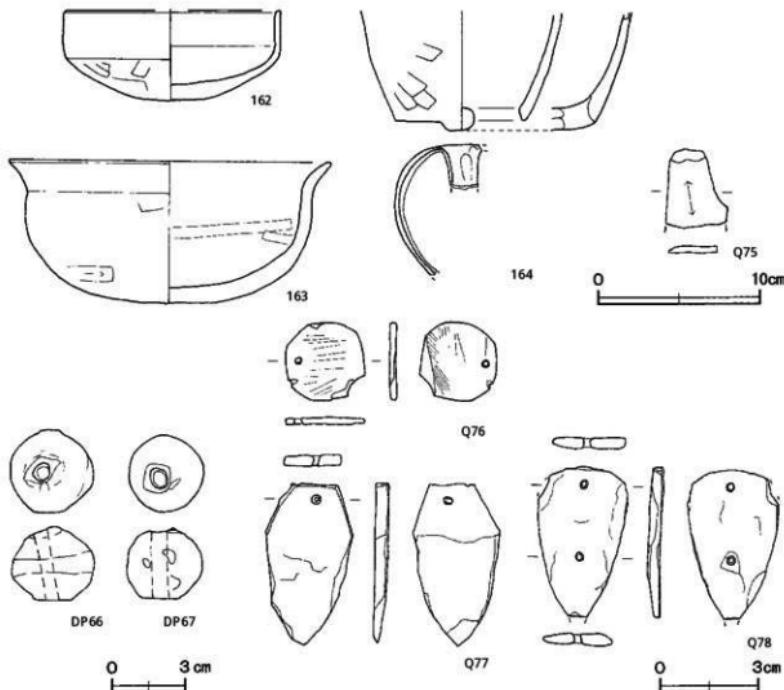
- | | | | | | | | |
|---|---|----|----------------|---|---|----|---------------------|
| 1 | 基 | 褐色 | ロームブロック・燒土粒子微量 | 4 | 第 | 褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 基 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子微量 | 5 | 第 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 | 基 | 褐色 | ローム粒子・燒土粒子微量 | 6 | 暗 | 褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |



第129図 第71号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片 1073点（环98・椀10・高环34・壺15・甕893・甌23）、須恵器片 6点（蓋1・甕5）、土製品 2点（土玉）、石器 1点（砥石）、石製品 7点（双孔円板2・剣形模造品5）、鉄滓 1点（14.1g）、滑石片 5点、軽石 2点、褐鐵鉢 1点が出土している。また、混入した繩文土器片 8点（深鉢）、弥生土器片 1点（壺）、鉄製品 1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。Q75は南西部の床面、164は南東壁寄り、DP67は南西壁寄り、Q76は中央部の覆土上層、Q77は東壁寄りの覆土中層、162・163・DP66・Q78は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。竈2から竈1への移設に伴い、貯蔵穴も貯蔵穴2から貯蔵穴1へ移設されているものと推測される。



第130図 第71号住居跡出土遺物実測図

第71号住居跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
162	土師器	环	[132]	5.6	-	長石・石英	橙	普通	体部外側ヘラ削り	覆土下層	75%
163	土師器	盆	19.6	8.7	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外側ヘラ削り 内面ヘラナグ	覆土下層	100% PL60
164	土師器	瓶	-	(6.9)	(8.0)	長石・石英・雲母	ぶい!橙	普通	体部外側ヘラ削り	覆土上層	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP66	土玉	35	30	0.6	(29.4)	長石・石英	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP67	土玉	30	29	0.7	25.3	白色粒子・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土上層	

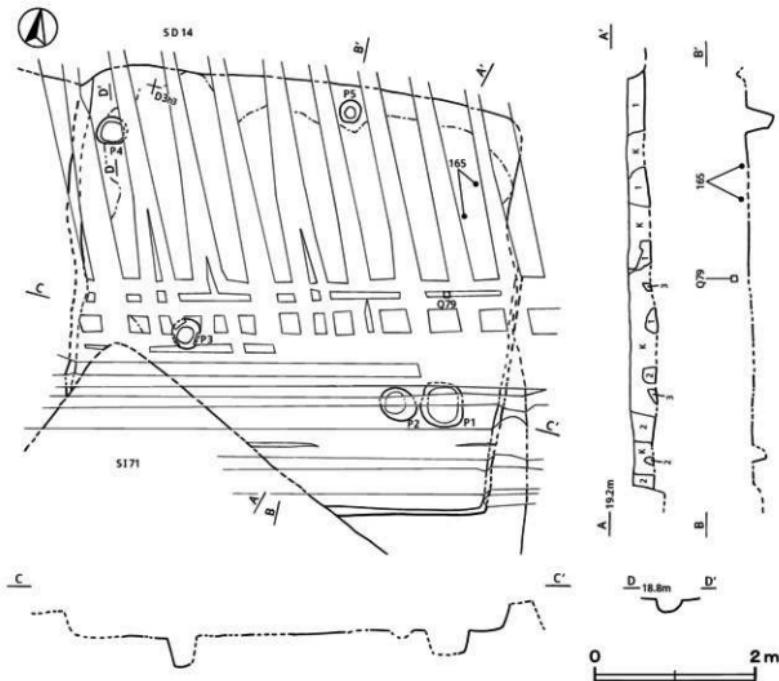
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	砥石	(49)	38	(0.4)	(13.6)	粘板岩	砥面1面	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	双孔円板	25	2.4	0.2	0.2	2.9	滑石	先端研磨 全面研磨 一方向からの穿孔 孔の位置から双孔円板に加工途中か	覆土上層	PL85
Q77	剝形構造品	50	27	0.4	0.3	10.4	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL84
Q78	剝形構造品	(46)	27	0.4	0.2	(9.2)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL84

第72号住居跡（第131・132図）

位置 調査区東部のD 3 h 3 区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 南部を第71号住居、北から東部を第14号溝に掘り込まれている。



第131図 第72号住居跡実測図

規模と形状 重複により、南北軸5.34m、東西軸5.50mの方形と推測される。主軸方向は、炉が確認できなかつたため、不明である。壁高は25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 5か所。P 1は深さ31cmで、規模と位置から主柱穴である。P 2～P 5は深さ15～39cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

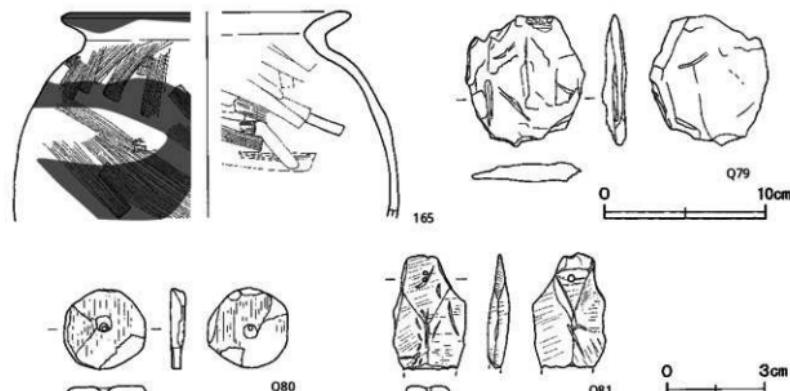
土器解説

1 黒褐色 ロームブロック・地土粒子・炭化粒子微量
2 白褐色 ロームブロック少量

3 塗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土器片551点（坏38・梶1・高坏1・壺15・甕496）、須恵器片7点（蓋1・高坏5・甕1）、土製品2点（土玉）、石製品3点（臼玉・單孔円板・剣形模造品）、滑石片11点、雲母片岩片2点が出土している。また、混入した弥生土器片13点（壺）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は覆土中層から下層にかけて出土している。Q 79は東部の覆土中層、165は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀前半と考えられる。



第132図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
165	土器片	壺	[16.6]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外表面ハケ目調整	覆土下層	15%
Q79	原石	8.0	7.4	1.2	96.9	滑石			一部研磨 工具痕が残る	覆土中層	PL87
Q80	原石	2.5	2.4	0.4	0.2	滑石			全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中	PL85
Q81	单孔円板	(3.5)	2.2	0.7	0.2	(6.8)	滑石		全面研磨 一方向からの穿孔 片面に穿孔途中の痕跡が残る	覆土中	PL84

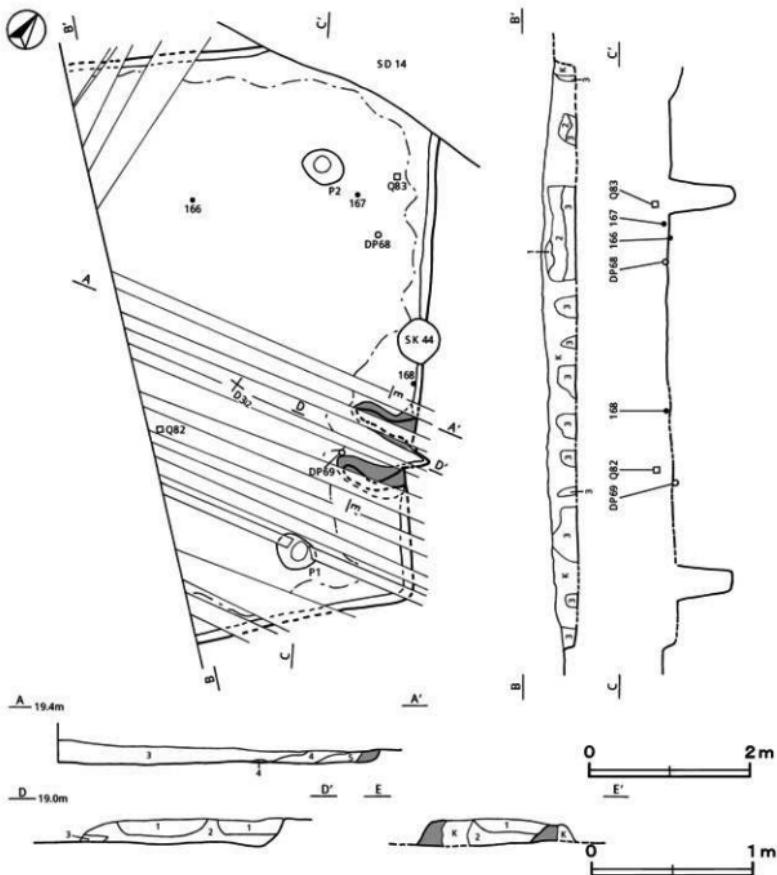
第73号住居跡（第133・134図）

位置 調査区東部のD3h1区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北コーナー部を第14号溝、北東部を第44号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西・南東軸は7.16mで、北東・南西軸は南西部が調査区域外に延びているため3.92mしか確認できなかった。主軸方向がN-77°-Eの方形もしくは長方形と推測される。壁高は14~30cmで、外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では壁際を除いて踏み固められている。



第133図 第73号住居跡実測図

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅38cmである。袖部は、ロームブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は搅乱により失われている。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 砂利中量、ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量 | 2 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐 色 ロームブロック微量 | 4 淡 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ74cm・84cmで、規模と位置から主柱穴である。

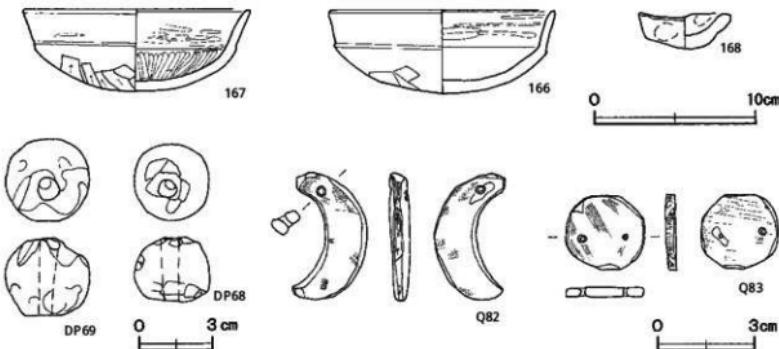
覆土 5層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック少量 | 4 淡 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 細 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック・燒土粒子微量 | 5 褐 色 ロームブロック中量 |
| 3 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片483点（坏41・高坏8・壺3・甕426・瓶4・ミニチュア1）、須恵器片2点（高坏）、土製品10点（土玉3・支脚7）、石製品2点（勾玉・双孔円板）、鐵滓5点（14.0g）、滑石片1点、褐鉄鉱5点が出土している。また、混入した縄文土器片4点（深鉢）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。166は北西部、168は北東壁際、DP68は北東部、DP69は竈の前面の床面、167は北東部の覆土下層、Q83は北東寄りの覆土上層、Q82は南西部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。



第134図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表（第134図）

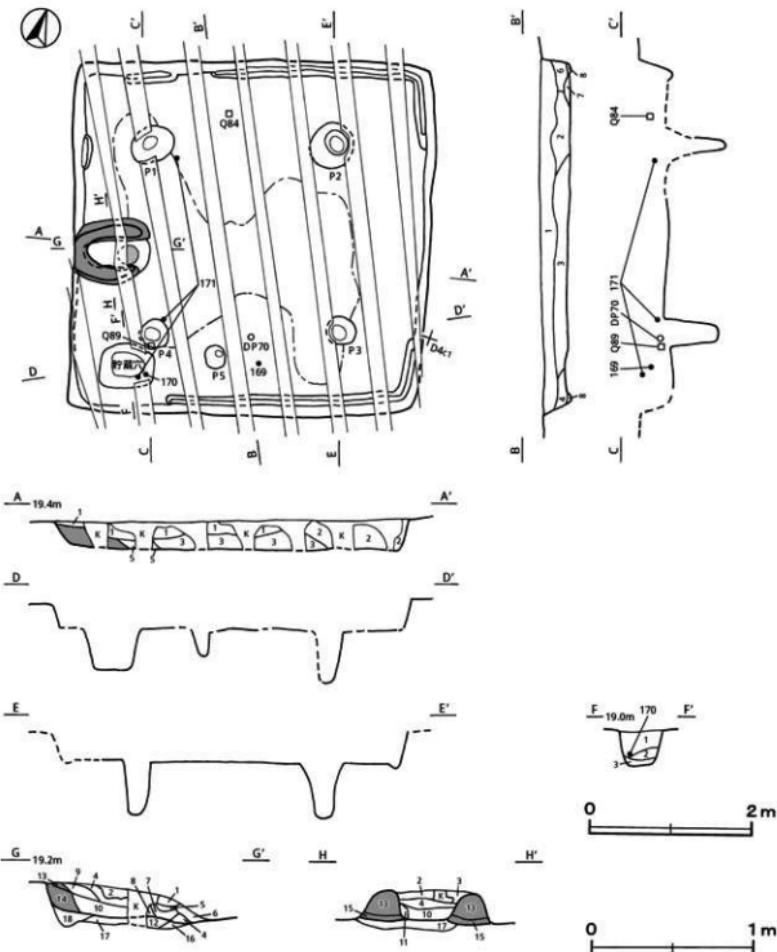
番号	種別	基種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	土師器	坏	140	5.1	-	長石・石英 にぶい橙	黄赤	普通	体部外面ヘラ削り 口縁部内面ヘラ削き	床面	100% PL60
167	土師器	坏	140	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 口縁部内面ヘラ削き	覆土下層	70% PL60
168	土師器	ミニチュア	5.6	2.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	指頭圧痕	床面	100%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP68	土玉	31	27	0.8	26.1	長石・石英・雲母	ナデ調整 上・下端部ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面	
DP69	土玉	34	32	0.8	(33.2)	長石・石英・赤色粒子	ナデ調整 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	勾玉	39	2.3	0.6	0.3	6.8	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	PL83
Q83	穿孔円板	23	2.4	0.3	0.2	3.7	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	PL85

第74号住居跡（第135～137図）

位置 調査区東部のD3b0区、標高19.2mの台地上に位置している。



第135図 第74号住居跡実測図

規模と形状 一辺4.43mの方形で、主軸方向はN-120°-Wである。壁高は27~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。

竈 西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで78cm、燃焼部幅34cmである。第13~15層は袖部で、粘土粒子を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~18層は掘り方への埋土である。

貯土層解説

1 にふい黄褐色	粘土粒子多量	11 にふい黄褐色	粘土粒子多量
2 緑褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量	12 緑褐色	粘土ブロック少量
3 にふい黄褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量	13 にふい黄褐色	粘土粒子多量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 にふい黄褐色	粘土粒子多量、粘土粒子微量		炭化粒子微量
5 緑褐色	粘土粒子中量、粘土粒子少量	14 緑褐色	粘土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
6 緑褐色	ロームブロック微量	15 緑褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 緑赤褐色	粘土ブロック・粘土粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
8 緑褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	17 黒褐色	ロームブロック少量
9 にふい黄褐色	粘土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	18 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	炭化粒子少量、粘土粒子微量		

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ61~79cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ29cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長軸65cm、短軸53cmの長方形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

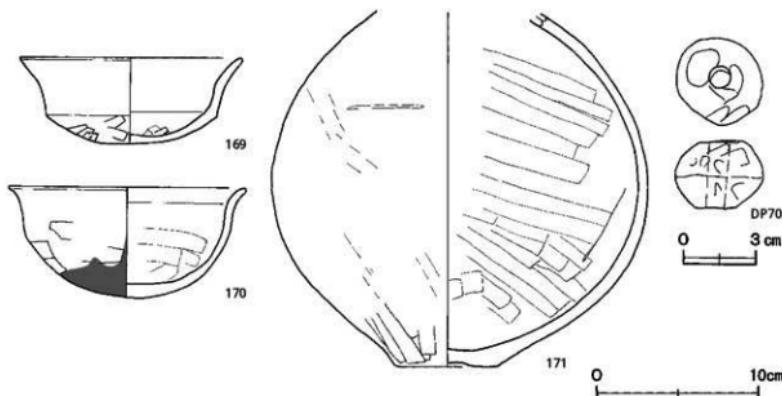
貯蔵穴層解説

1 緑褐色	ロームブロック微量	5 緑褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
2 緑褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック中量

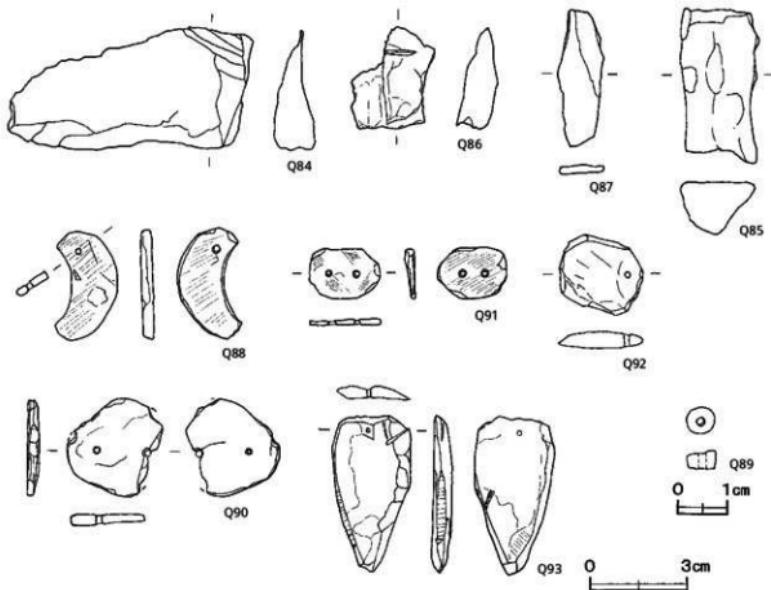
覆土 8層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 緑褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量	5 緑褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
2 緑褐色	ロームブロック中量	6 緑褐色	ローム粒子中量
3 緑褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ロームブロック中量
4 緑褐色	ロームブロック微量	8 緑褐色	ローム粒子少量



第136図 第74号住居跡出土遺物実測図(1)



第137図 第74号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片1556点（坏305・高杯11・壺11・甕1216・瓶13）、須恵器片13点（坏2・蓋3・甕3・甕5）、土製品9点（土玉4・管状土鍤3・支脚2）、石製品7点（勾玉1・白玉2・双孔円板3・劍形模造品1）、鉄滓3点（9.1g）、滑石片47点、珪化木5点、褐鉄鉱2点が出土している。また、混入した縄文土器片7点（深鉢）、弥生土器片9点（壺）、土師器片4点（器台）、須恵器片1点（高台付坏）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。170は貯蔵穴の覆土中層、171・Q89は西部、DP70は南部のそれぞれ覆土下層、Q84は北部、169は南部の覆土中層、Q88は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀初頭と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表(第136・137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
169	土師器	坏	13.6	5.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外表面ヘラ削り	覆土中層	95% PL60
170	土師器	坏	14.4	6.7	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外表面ヘラ削り 内面ヘラナダ	貯蔵穴	65% PL61
171	土師器	壺	-	(21.8)	6.0	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	体部外表面ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土下層	75%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	土玉	36	27	0.8	(32.1)	長石・石英・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	剥片	39	75	1.3	37.8	滑石	工具痕が残る	覆土中層	
Q85	剥片	48	25	1.6	25.6	滑石	工具痕が残る	覆土中	
Q86	剥片	32	25	1.3	7.6	滑石	工具痕が残る	覆土中	
Q87	剥片	43	1.4	0.3	2.5	滑石	荒削り跡	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q89	臼玉	0.6	0.4	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 蝶状から成化物	覆土下層	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q88	勾玉	34	19	0.4	0.3	4.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL83
Q90	双孔円板	29	(28)	0.4	0.2	(5.8)	滑石	二面研磨 二方向からの穿孔	覆土中	
Q91	双孔円板	1.6	2.2	0.2	0.2	1.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL85
Q92	双孔円板カ	2.5	2.6	0.5	0.2	4.4	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 孔の位置から双孔円板に加工途中か	覆土中	PL85
Q93	剥形構造品	48	24	0.6	0.1	11.4	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL84

第75号住居跡（第138図）

位置 調査区東部のD 3b9区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 南西部を第106号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.48mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は26~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が断続的に確認できた。P 5 の周辺に馬蹄形の高まりが見られ、出入り口施設に伴うものと考えられる。

竈 2か所。竈1は東壁に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで80cm、燃焼部幅34cmである。第11~13層は袖部で、粘土粒子を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~18層は掘り方への埋土である。竈2は北壁に付設されている。火床面のみが確認できた。竈1の遺存状況から、竈2から竈1へ作り替えられているものと推測される。

1 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子・炭化粒子微量	16	暗褐色	粘土ブロック少量、粘土粒子微量
2	暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量	11	暗赤褐色	粘土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	12	にじる黄褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量
4	暗赤褐色	炭化ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック、炭化粒子微量
5	暗褐色	粘土粒子少量、粘土粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量
6	暗赤褐色	粘土粒子少量、炭化粒子	15	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
7	にじる黄褐色	粘土粒子中量、粘土ブロック・粘土粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量
8	褐色	ロームブロック少量	17	暗褐色	ロームブロック少量
9	暗赤褐色	粘土粒子・粘土粒子少量	18	褐色	ロームブロック微量

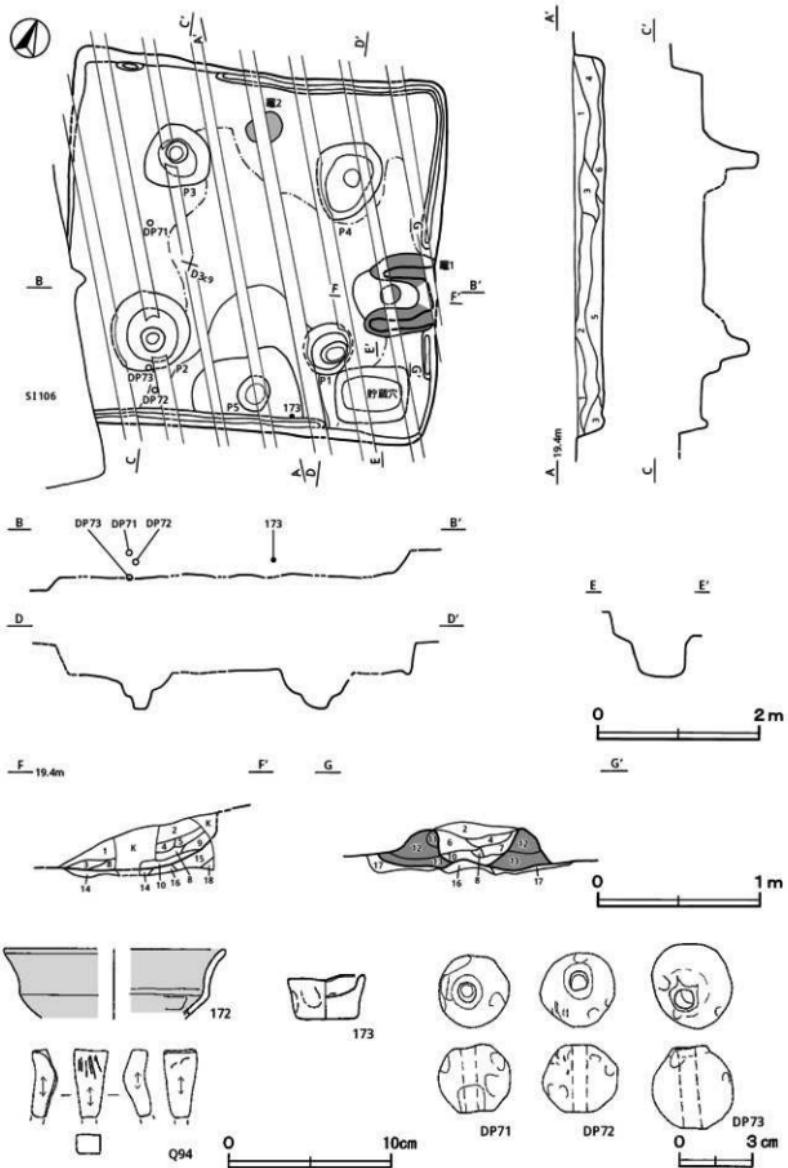
ピット 5か所。P 1~P 4は深さ45~68cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ10cmで、南壁際の中央部に位置し、馬蹄形の高まりが見られることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。短軸は70cmで、長軸は擾乱のため80cmしか確認できなかつたが、長方形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

2 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量



第138図 第75号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片558点（壺47・高杯2・壺1・甕467・瓶12・ミニチュア2）、須恵器片6点（壺2・蓋1・甕3）、土製品12点（土玉6・支脚6）、石器1点（砥石）、滑石片5点、石英片1点、珪化木片1点、褐鉄鉱4点が出土している。また、混入した縄文土器片3点（深鉢）、弥生土器片9点（壺）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。DP73は南部の床面、172は覆土中、DP71は西部、DP72は南壁際の覆土上層、173は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	径	厚さ	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
172	土器器	壺	[13.6]	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部外表面ヘラ削り		覆土中	15%
173	土器器	ミニチュア	4.6	2.8	3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	指顎圧痕		覆土中層	100% PL60

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
DP71	土玉	29	2.8	0.7	24.5	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔			覆土上層	
DP72	土玉	31	2.8	0.8	25.0	白色粒子・黒色粒子	ナデ調整 一方向からの穿孔			覆土上層	
DP73	土玉	33	3.5	0.8	37.0	白色粒子・赤色粒子・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔			床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q94	砥石	(4.2)	2.1	1.2	(17.1)	凝灰岩	砥面4面			覆土中	

第76号住居跡（第139・140図）

位置 調査区東部のD3-i8区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第59号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.64mの方形で、主軸方向はN-51°-Eである。壁高は45~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁際を中心に、焼土塊と炭化材が確認できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで72cm、燃焼部幅31cmである。第5~7層は袖部で、砂粒とロームブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、亦変硬化している。煙道部は壁外に7cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

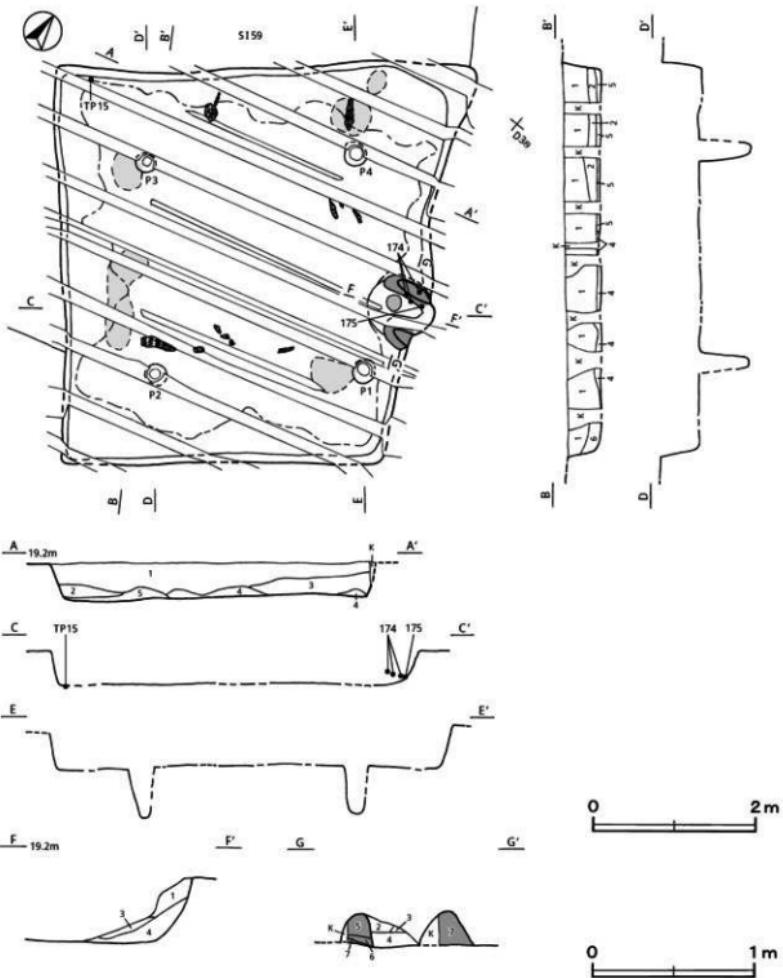
1	無色	ロームブロック・砂粒少量。燒土粒子・炭化 粒子微量	5	にぶい赤褐色	燒土粒子・炭化粒子中量。ローム粒子・砂粒 少量
2	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量。炭化粒子微量	6	暗褐色	燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量。ロームブロ ック微量
3	赤褐色	ローム粒子・燒土粒子・少量。燒土ブロック・ 炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック・砂粒少量。燒土粒子・炭化 粒子微量
4	暗褐色	燒土粒子・炭化粒子中量。ローム粒子少量			

ピット 4か所。P1~P4は深さ59~65cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

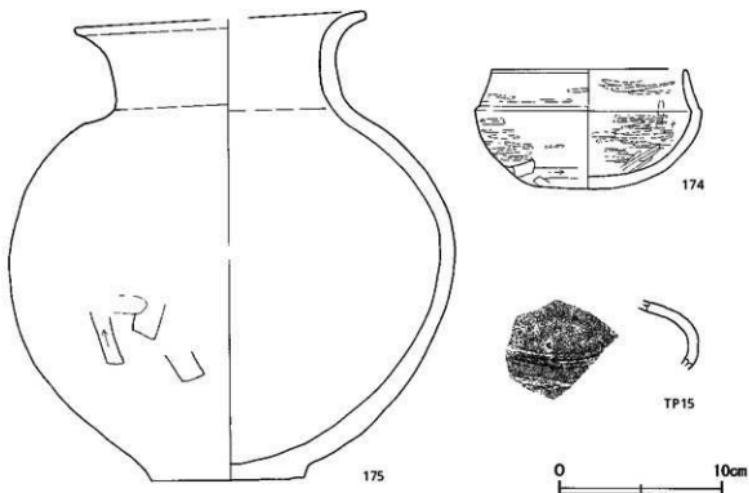
1	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	4	暗褐色	炭化物中量
2	暗褐色	ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微 量	5	暗褐色	燒土ブロック・炭化物少量
3	褐色	ロームブロック中量。炭化物少量	6	暗褐色	ロームブロック少量



第139図 第76号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片493点（壺195・高壺1・壺2・甕284・瓶11）、須恵器片10点（壺1・蓋6・甕1・甕2）、土製品9点（土玉5・管状土錐2・支脚1・不明1）、石器1点（砥石）、鉄滓1点（7.6g）、滑石片4点、雲母片岩4点が出土している。また、混入した弥生土器片6点（壺）、鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。TP15は西コーナー部の床面。174・175は甕の左袖部からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できることから、焼失した可能性がある。



第140図 第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
174	土器器	杯	11.9	8.3	-	長石・石英・雲母	ぶい青	普通	体部外面へラ削り後磨き 内面磨き	竪左袖部	65% PL.61
175	土器器	瓶	[18.7]	29.0	9.4	長石・石英・雲母	緑	普通	体部外面へラ削り	竪左袖部	85% PL.61
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか				出土位置	備考
TP15	須恵器	瓶	長石・白色粒子	灰	普通	外面標識による波状文				床面	

第77号住居跡（第141図）

位置 調査区東部のE3a4区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 北東部を第58号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延び、第58号住居と重複しているため、北東・南西軸は2.80m、北西・南東軸は1.06mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は不明である。壁高は24cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦な床で、硬化面は確認できなかった。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

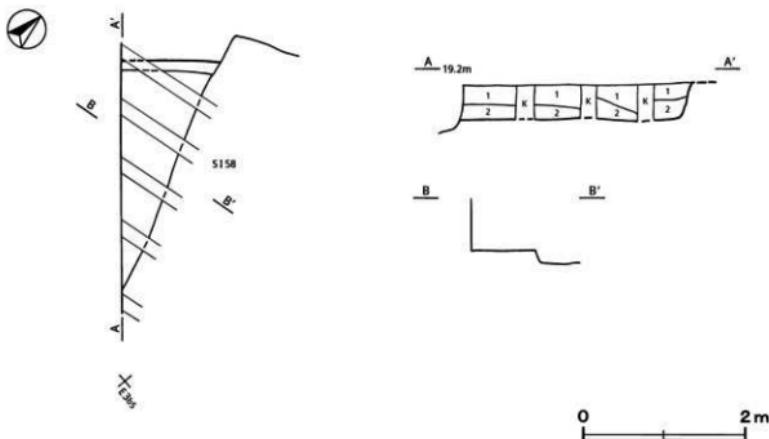
土層解説

1 基層色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

2 埋土色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点（甕），石製品1点（劍形模造品）が出土している。また，混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。出土遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀代と考えられる。



第141図 第77号住居跡実測図

第78号住居跡（第142・143図）

位置 調査区東部のD3e8区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第117号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.07m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-65°-Eである。壁高は32~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。北東・南西コーナー部を除き壁溝が確認できた。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで104cm、燃焼部幅41cmである。第12~14層は袖部で、粘土粒子を主体とした灰褐色土で構成されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

遺土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量	9	暗赤褐色	砂粒少量、粘土粒子・炭化粒子微量
2	にじい黄褐色	粘土粒子多量、粘土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
3	暗赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量	11	暗赤褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
4	暗褐色	粘土ブロック微量	12	にじい黄褐色	粘土粒子多量、粘土粒子少量
5	黒褐色	粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量	13	にじい黄褐色	粘土粒子多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
6	黒褐色	砂粒少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・粘土粒子微量
7	赤褐色	粘土粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量			
8	赤褐色	粘土ブロック中量			

ピット 5か所。P1~P4は深さ52~58cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ12cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸は77cmで、短軸は搅乱のため40cmしか確認できなかったが、長方形で、深さは56cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

野菜穴土層解説

- 1 細 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
2 黒 色 ロームブロック中量

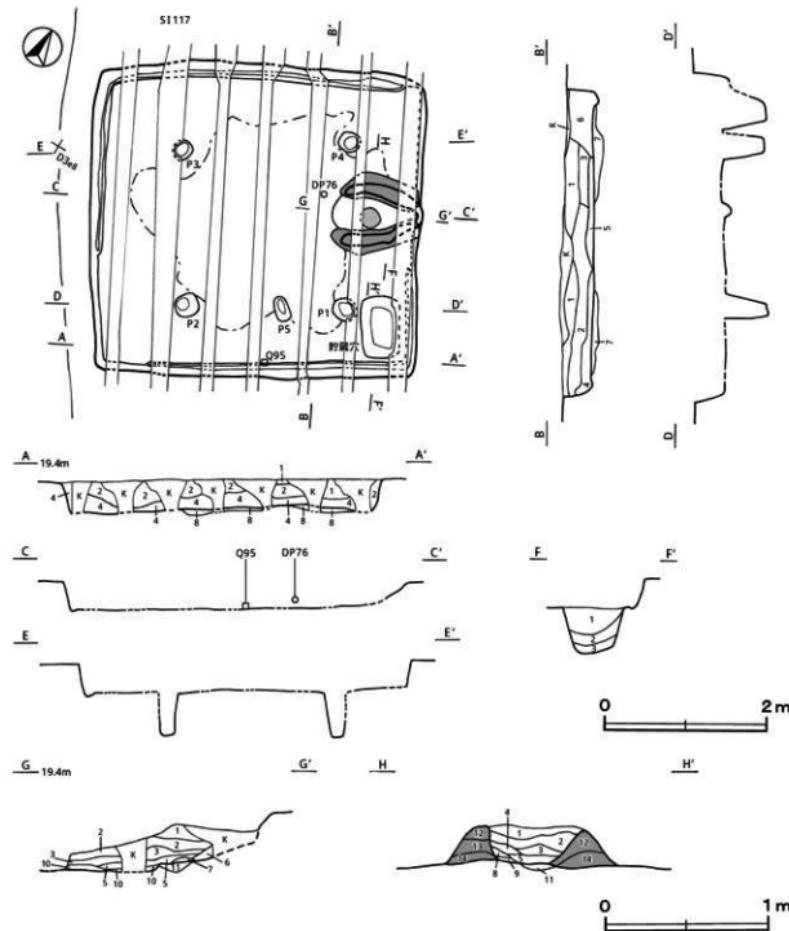
- 3 暗 色 ロームブロック少量

覆土 8層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 細 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
2 細 色 ロームブロック少量
3 細 色 ロームブロック中量
4 細 色 ロームブロック少量

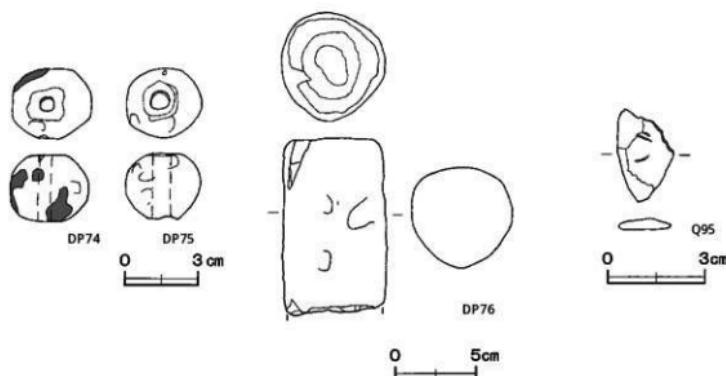
- 5 細 色 ロームブロック・燒土粒子・砂粒少量
6 細 色 ロームブロック・炭化粒子少量
7 暗 色 ロームブロック・炭化粒子微量
8 暗 色 ローム板塊中量



第142図 第78号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片688点（坏93・挽1・高坏5・壺5・甕579・瓶5）、須恵器片6点（高坏2・甕4）、土製品8点（土玉7・支脚1）、石製品5点（白玉1・有孔円板1・剣形模造品3）、鉄滓2点（4.5g）、滑石片6点、凝灰岩片1点、褐鐵鉢6点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片15点（壺）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中層から下層にかけて出土している。Q95は南東壁際の床面、DP76は廻前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第143図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP74	土玉	32	2.8	0.6	25.8	長石・雲母	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	
DP75	土玉	32	2.7	0.8	22.8	白色粒子・黒色粒子	ナデ調整 一方向からの穿孔	覆土中	
DP76	支脚	(11.0)	5.8	6.1	(461.2)	長石・赤色粒子	指揮圧痕 ナデ調整 上端に受け部の痛み	覆土下層	
Q95	剣形模造品	2.9	1.8	0.3	-	滑石	未成品 一面研磨	床面	

第79号住居跡（第144図）

位置 調査区東部のE 5 b6区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 東コーナー部を第33号住居、北部を第41号住居・第58号土坑、北西部を第43号住居、南部を第40・42号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.10m、短軸6.71mの長方形で、主軸方向は、炉が確認できなかったため不明である。壁高は18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認できた範囲では北東壁寄りが踏み固められている。

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ50～55cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ14cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

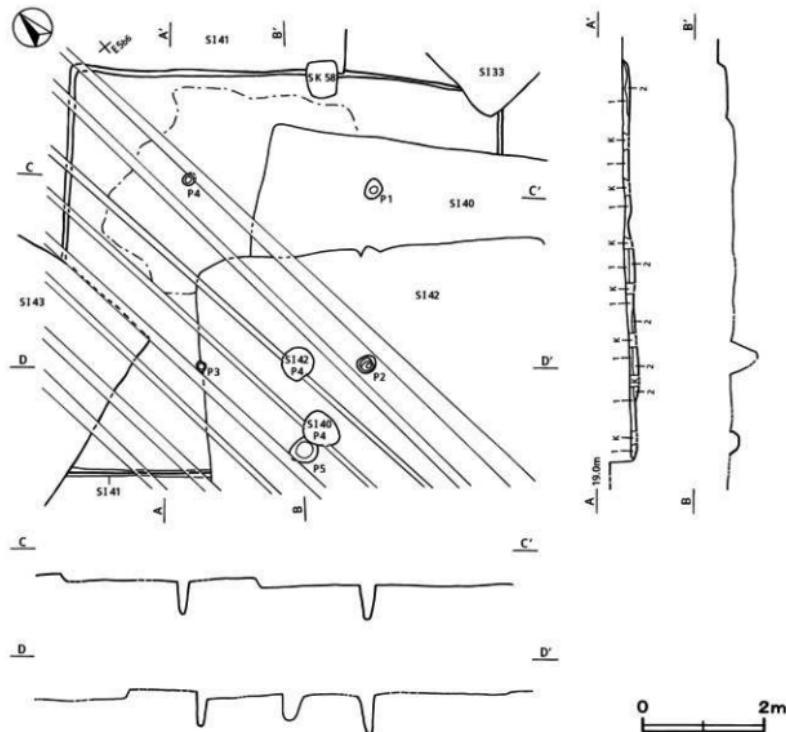
土層解説

1 黒 色 ロームブロック中量

2 緑 塗 色 ロームブロック・堆土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土器片80点(壺14・甕66)、滑石片1点が出土している。また、混入した弥生土器片5点(壺)も出土している。遺物の大半は、覆土中層から下層にかけて出土している。遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀後葉以前と考えられる。



第144図 第79号住居跡実測図

第81号住居跡 (第145・146図)

位置 調査区東部のD 410区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第69号住居跡を掘り込み、南部を第67A・67B号住居に掘り込まれている。

規模と形状 短軸は3.44mで、長軸は重複のため1.32mしか確認できなかつたが、P1・P2の位置から主軸方向がN-39°-Wの長方形と推測される。壁高は65cmで、外傾して立ち上がつている。

床 平坦で、踏み固められていない。

炉 中央部の北寄りに位置する地床炉である。短径47cm、長径は重複のため52cmしか確認できなかつたが楕円形で、床面を24cm掘り下げている。

地土層解説

1 赤 開 色 地土ブロック中量

2 黄 開 色 ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所。P2・P3は第67A・67B号住居の掘り方調査で確認した。P1・P2は深さ57cm・48cmで、規模と位置から主柱穴である。P3は南東壁際の中央部と推測される位置にあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ27cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

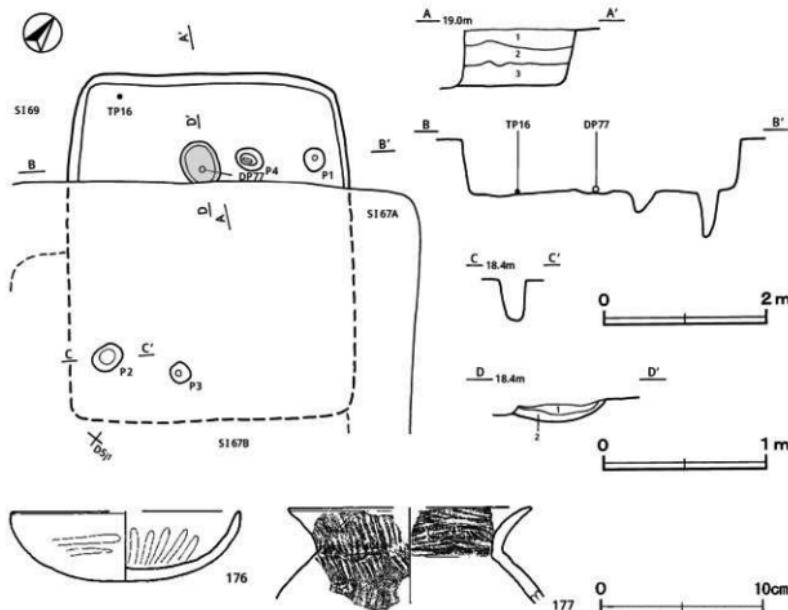
1 緑 開 色 ローム粒子少量

3 青 開 色 ロームブロック少量

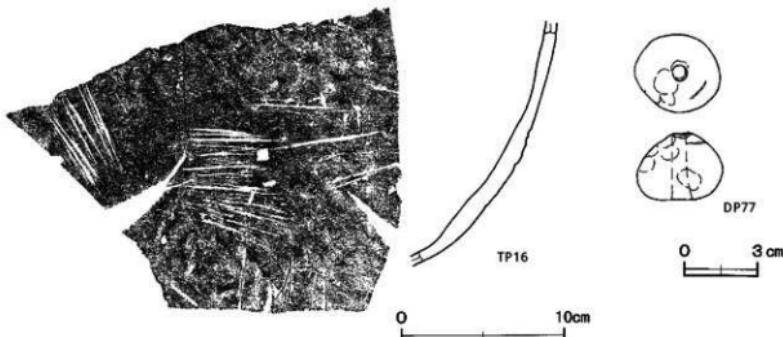
2 黒 開 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片333点(坪35・高坏1・甕296・瓶1)、須恵器片3点(蓋2・甕1)、土製品3点(土玉)、石器1点(敲石)、滑石片1点が出土している。また、混入した土師器片5点(器台)も出土している。DP77は炉の火床面、176は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



第145図 第81号住居跡・出土遺物実測図



第146図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第145・146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
176	土器器	壺	[140]	43	-	長石・石英・雲母	暗	普通	内・外表面磨き	覆土中	50%
177	土器器	壺	[150]	(58)	-	長石・石英・雲母	明快	普通	口縁部・外腹縁目状工具による調整 体部外腹縁目状工具による調整 内面ヘラナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	土器器	壺	長石	にぶらい 青緑	普通	外表面ヘラ削り 砥ぎ痕 内面ヘラナデ	床面	PL77

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP77	土玉	35	28	0.9	285	長石・石英	指揮圧痕 一方から穿孔	炉火床面	

第82号住居跡（第147図）

位置 調査区東部のE 5b1区、標高18.8mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.56m、短軸3.40mの方形で、主軸方向はN=31°-Eである。壁高は10~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から貯藏穴にかけて踏み固められている。焼土塊と炭化物が確認できた。

炉 中央部北寄りに位置する地床炉である。長径62cm、短径47cmの楕円形で、床面を3cm掘り下げている。中央部が赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 硫素褐色 焼土ブロック・炭化粒子少
- 2 硫素褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 23か所。P 1は深さ32cmで、性格は不明である。P 2~P 23は深さ6~17cmで、規模と壁下に位置していることから壁柱穴の可能性がある。

貯藏穴 東コーナー部に付設されている。長径82cm、短径62cmの楕円形で、深さは10cmである。底面は皿状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

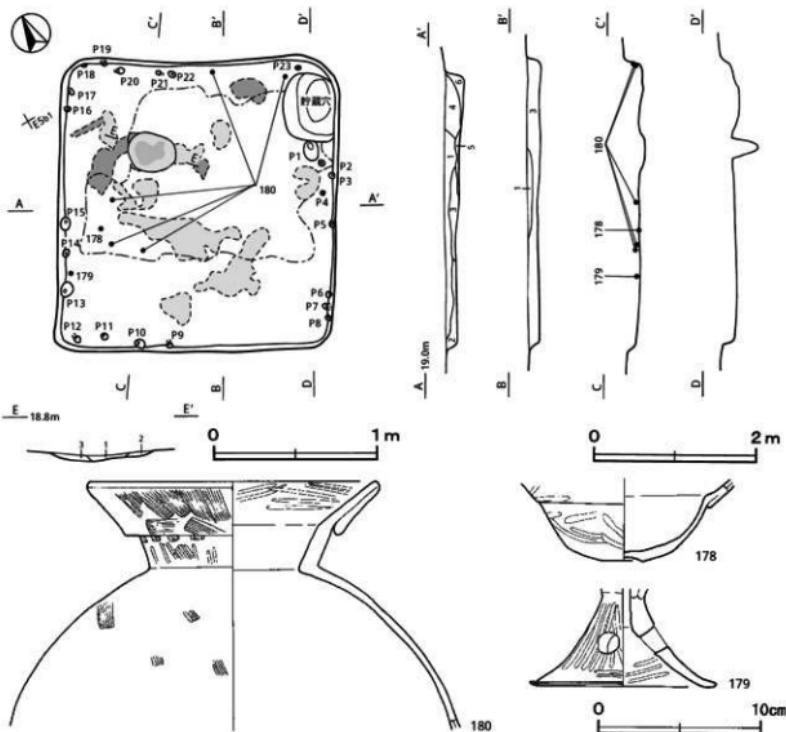
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土器解説

1	縦	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	縦	色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
2	縦	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量	5	横	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	縦	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量	6	横	褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片351点（壇4・器台1・壺17・甕328・ミニチュア1）、土製品2点（土玉）が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、土師器片4点（壺）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。178は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半と考えられる。床面で焼土塊と炭化物が確認できることから、焼失した可能性がある。



第147図 第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
178	土師器	壺	-	(5.1)	1.9	長石・雲母	明赤褐	普通	複合口縁 外面磨き	床面	60% PL61
179	土師器	器台	-	(6.0)	10.8	長石	良好	内・外面磨き 三方向の透かし孔	覆土下部	50% PL61	
180	土師器	壺	17.7	(15.3)	-	長石	にぶい黄褐	普通	複合口縁 口縁部外面ハケ目調整 内面磨き 縫部外側ハケ目調整	覆土下部	20%

第83号住居跡（第148・149図）

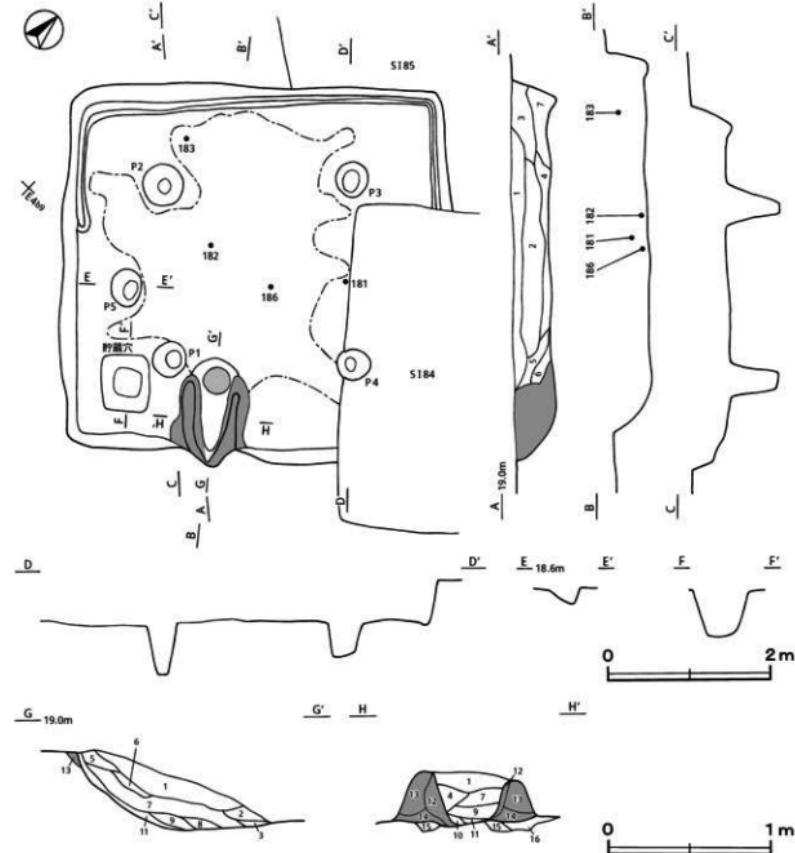
位置 調査区東部のE 4 a9区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第85号住居跡を掘り込み、東部を第84号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.76m、短軸4.63mの方形で、主軸方向はN-140°-Eである。壁高は34~47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁構が西コーナー部から北コーナー部にかけて確認できた。

竈 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで136cm、燃焼部幅36cmである。第12~14層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。第15・16層は掘り方への埋土である。



第148図 第83号住居跡実測図

出土層解説

1	にふい黄褐色	砂粒中量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	にふい黄褐色	砂粒中量、燒土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	砂粒中量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	暗赤褐色	燒土ブロック少量、砂粒微量
3	褐色帶褐色	燒土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	11	暗赤褐色	燒土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
4	暗赤褐色	燒土ブロック中量、燒化粒子・砂粒少量	12	暗赤褐色	燒土ブロック中量
5	赤褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量	13	にふい黄褐色	砂粒多量、ロームブロック少量
6	暗赤褐色	燒土粒子中量、砂粒少量、ローム粒子微量	14	黒褐色	砂粒中量、ロームブロック・燒土ブロック少量
7	暗赤褐色	砂粒中量、燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	15	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量
8	黒褐色	燒土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ46～67cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ21cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸69cm、短軸60cmの長方形で、深さは57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がってている。

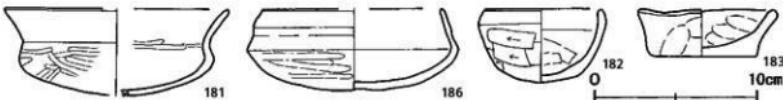
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	黒褐色	砂粒少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器927点（壺183・高杯10・壺1・甕720・瓶11・ミニチュア2）、須恵器片10点（壺1・蓋2・甕7）、土製品12点（土玉5・支脚7）、石製品1点（単孔円板）、滑石片6点、褐鉄鉱37点が出土している。また、混入した繩文土器片11点（深鉢）、弥生土器片9点（壺）、石器1点（石鎌）、貝2個体（ヤマトシジミ）、古鏡1点（寛永通宝）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。181は中央部の覆土中層、182・186は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。



第149図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
181	土師器	壺	[130]	53	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面磨き	覆土中層	25%
186	土師器	壺	[109]	49	-	長石	明黄褐色	普通	口縁部有段 外面磨き	覆土下層	50% PL61
182	土師器	ミニチュア	72	45	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	100% PL62
183	土師器	ミニチュア	85	29	67	長石・石英	橙	普通	指捺压痕	覆土中層	95% PL61

第84号住居跡（第150・151図）

位置 調査区東部のE 4a0区、標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第83・85号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.99m、短軸3.85mの方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は50cmで、外傾して立ち上がってている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで103cm、燃焼部幅33cmである。第9～12層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面より5cm掘り下げ、

赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第13・14層は掘り方への埋土である。

土層解説

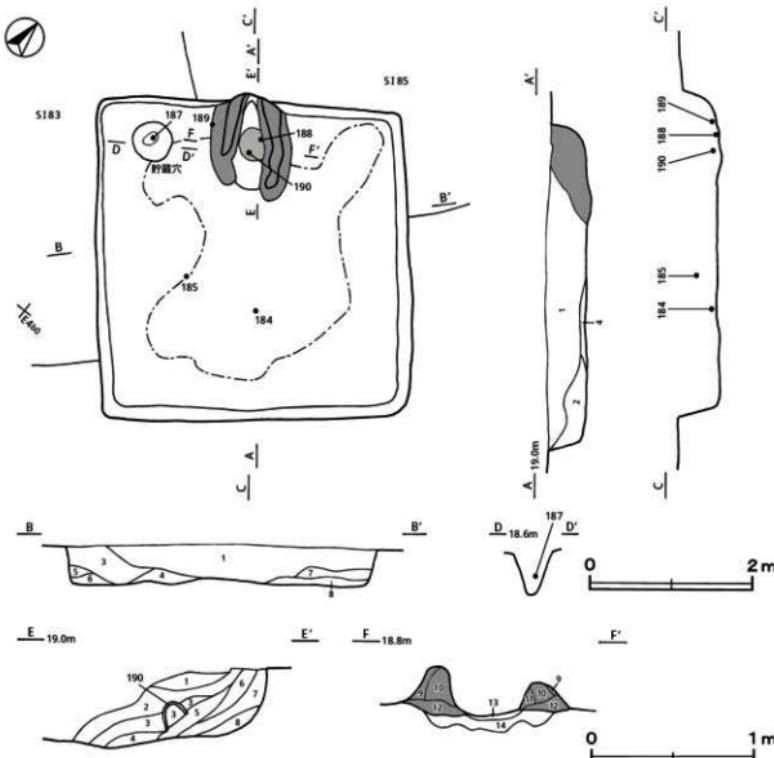
1	にい青褐色	砂粒少量、ローム粒子・壤土粒子・炭化粒子微量	7	暗赤褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、壤土ブロック・砂粒微量
2	暗赤褐色	ロームブロック・壤土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量	8	暗赤褐色	ロームブロック・壤土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	壤土ブロック・砂粒少量	9	暗褐色	砂粒中量、ロームブロック微量
4	暗赤褐色	壤土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	10	にい青褐色	砂粒多量
5	にい青褐色	砂粒少量、壤土ブロック・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・砂粒中量、壤土粒子少量
6	暗赤褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・壤土粒子・砂粒微量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、壤土粒子微量
			13	にい青褐色	壤土ブロック多量
			14	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。径48cmの円形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

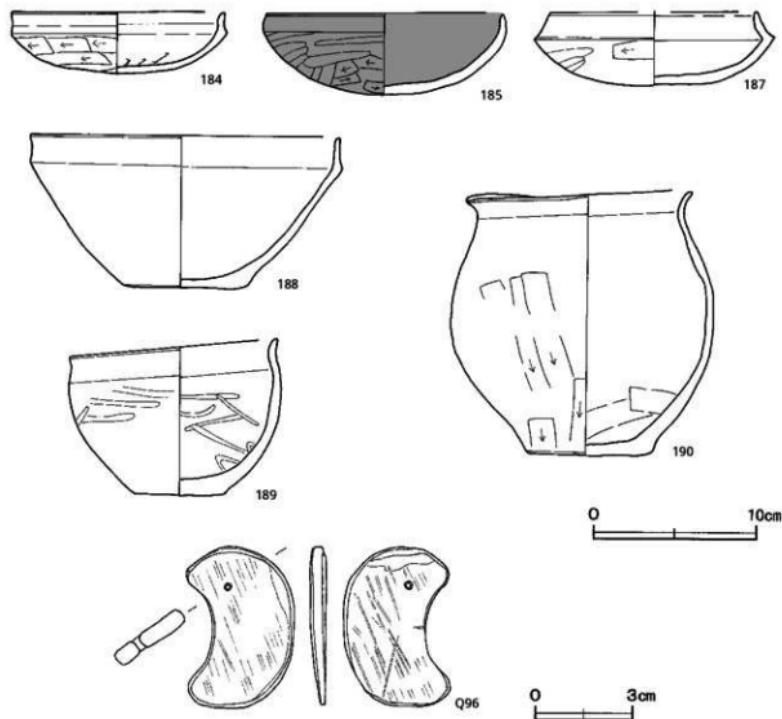
1	暗褐色	ロームブロック少量、壤土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック中量、壤土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、壤土粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量



第150図 第84号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片1871点（坏235・高坏5・鉢2・壺1・甕1554・瓶72・ミニチュア2）、須恵器片9点（坏2・甕1・壺6）、土製品18点（土玉15・管状土錐1・支脚2）、石器2点（磨石）、石製品2点（勾玉・白玉）、鐵滓1点（13.4 g）、滑石片5点、褐鐵鉢4点が出土している。また、混入した縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片11点（壺）、土師器片6点（椀2・壺4）、貝115個体（ヤマトシジミ）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。188・190は竈の燃焼部、187は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。内部にピットを有しない住居跡である。



第151図 第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
184	土師器	坏	12.9	37	-	長石・石英・ 酸化鉄粒子	胡赤褐色	普通	外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	95% PL.61
185	土師器	坏	14.4	50	-	長石・石英	褐灰	普通	外面へラ削り後、磨き	覆土中層	90% PL.62
187	土師器	坏	{ 12.6}	45	-	長石	浅黄褐色	岳好	外面へラ削り後、磨き	貯蔵穴	45%

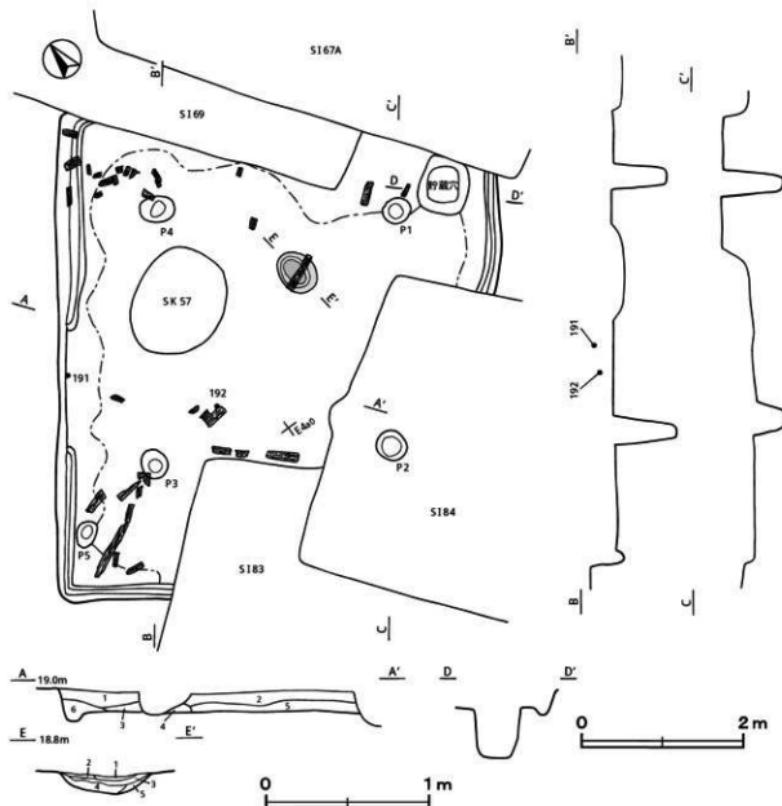
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
188	土師器	鉢	18.9	9.4	7.0	長石・石英	橙	普通	外面へラ削り 摩滅	竪燃焼部	95%
189	土師器	小形鉢	12.8	9.2	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外表面磨き	床面	100% PL63
190	土師器	小形鉢	13.8	16.4	7.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面へラ削り後、ナデ 内面へラナデ	竪燃焼部	85%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q96	勾玉	5.0	3.3	0.5	0.2	12.8	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中	PL83

第85号住居跡（第152・153図）

位置 調査区東部のD-4 j0区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第67A・69号住居、南部を第83・84号住居、北西部の床面を第57号土坑に掘り込まれている。



第152図 第85号住居跡実測図

規模と形状 長軸6.11m, 短軸5.52mの長方形で, 主軸方向はN-31°-Eである。壁高は34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西壁下の中央部と重複部分を除いて確認できた。また, 壁際で炭化材が確認できた。

炉 中央部北寄りに位置する地床炉である。長径55cm, 短径44cmの楕円形で, 床面を10cm掘り下げている。中央部が赤変硬化している。

土層解説

1	暗赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量。ローム粒子微量	4	暗赤褐色	ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
2	褐色赤褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量。ローム粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	燒土粒子中量			

ピット 5か所。P 2は第84号住居の掘り方調査で確認した。P 1~P 4は深さ68~80cmで, 規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ24cmで, 性格は不明である。

貯蔵窓 東コーナー部に付設されている。長軸65cm, 短軸63cmの方形で, 深さは52cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

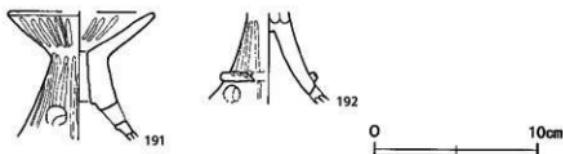
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量。炭化粒子微量	4	黒褐色	燒土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片196点(楕42・壺8・器台1・高杯4・甕141), 土製品4点(土玉), 石器3点(磨石2・砥石1), 鋼鉄鉢1点が出土している。また, 混入した縄文土器片4点(深鉢), 弥生土器片8点(壺), 須恵器片3点(甕), 土製品1点(支脚)も出土している。遺物の大半は, 全域の覆土中から出土している。I91は北西壁際, I92は中央部のそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から4世紀後半と考えられる。床面で炭化材が確認できることから, 燃失した可能性がある。



第153図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表(第153図)

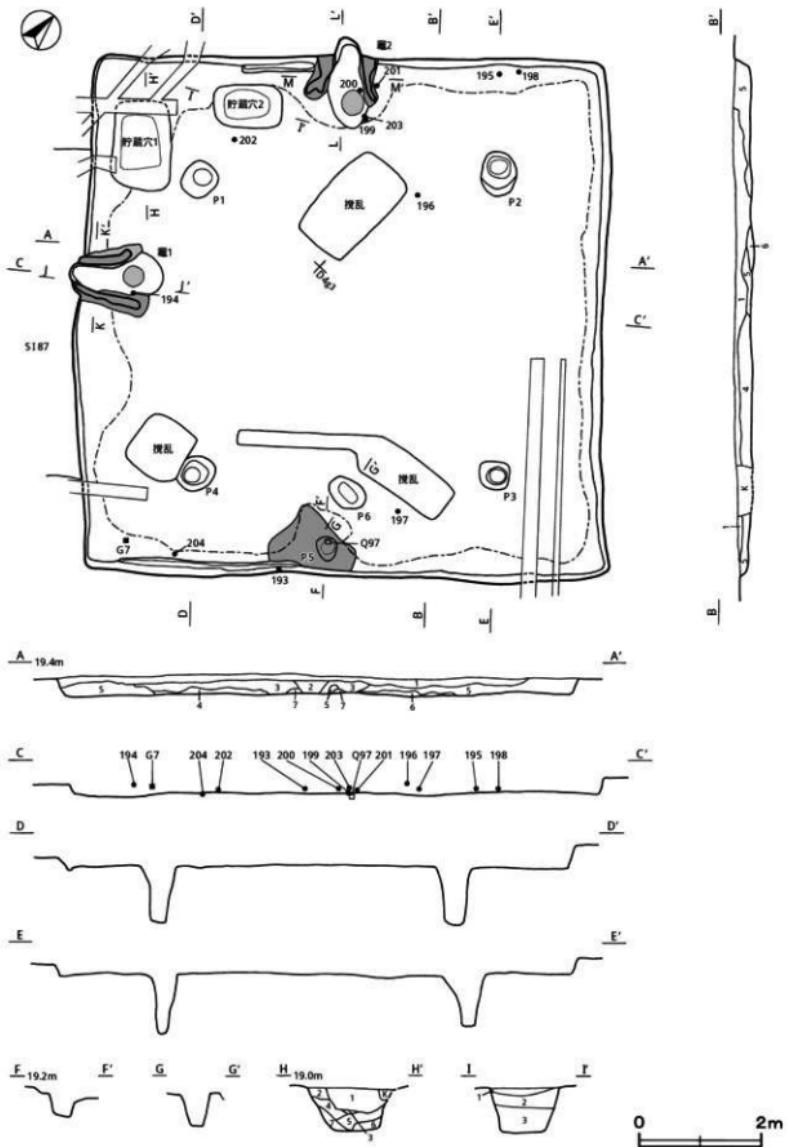
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
191	土師器	器台	(8.9)	(8.0)	-	長石	橙	良好	内・外表面磨き 三方向の透かし孔	覆土中層	60%
192	土師器	高杯	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母 に焼結	普通	普通	外表面磨き 三方向の透かし孔 粘土紐點付後, 刺突	覆土中層	20%

第86号住居跡(第154~156図)

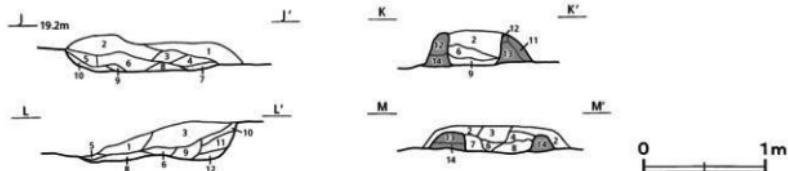
位置 調査区中央部のD 4 g3区, 標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第87号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸8.64m, 短軸8.50mの方形で, 主軸方向はN-132°-Wである。壁高は36~40cmで, 外傾して立ち上がっている。



第154図 第86号住居跡実測図(1)



第155図 第86号住居跡実測図(2)

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が竈2の左脇と南東壁下の一部で確認できた。P5の上部に粘土ブロックが貼られている。

竈 2か所。竈1は南西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで155cm、燃焼部幅57cmである。第11～14層は袖部で、粘土ブロックを主体とする褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2は北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで147cm、燃焼部幅64cmである。第13・14層は袖部で、粘土ブロックを主体とする灰褐色土で構築されている。袖部が一部欠損している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1 土層解説

1	暗赤褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	6	暗赤褐色	ロームブロック・燒土粒子・粘土粒子微量
2	暗赤褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・粘土粒子微量	7	暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子・粘土粒子微量
3	暗赤褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子微量	8	暗赤褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	燒土ブロック・燒土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子微量
5	暗赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量、燒土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子微量	11	にい黄褐色	燒土粒子中量、燒土粒子微量
7	暗褐色	燒土ブロック・燒土粒子微量	12	褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	13	褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量
9	暗褐色	燒土粒子微量	14	褐色	ロームブロック少量

竈2 土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗赤褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	褐灰褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・燒土粒子微量	9	暗褐色	燒土粒子微量
3	褐灰褐色	燒土ブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
4	灰褐色	燒土ブロック少量	11	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	12	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量
6	暗褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子微量	13	褐色	燒土ブロック中量
7	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	燒土ブロック少量、燒土粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ83～97cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ37cm・57cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、竈1の右脇に付設され、長軸147cm、短軸90cmの長方形で、深さは74cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。貯蔵穴2は竈2の左脇に付設され、長軸112cm、短軸71cmの長方形で、深さは70cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。第1層は貼床構築土で、第2・3層は埋め戻された土である。

貯蔵穴1 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

貯蔵穴2 土層解説

1	褐色	ロームブロック中量	3	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量
2	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量			

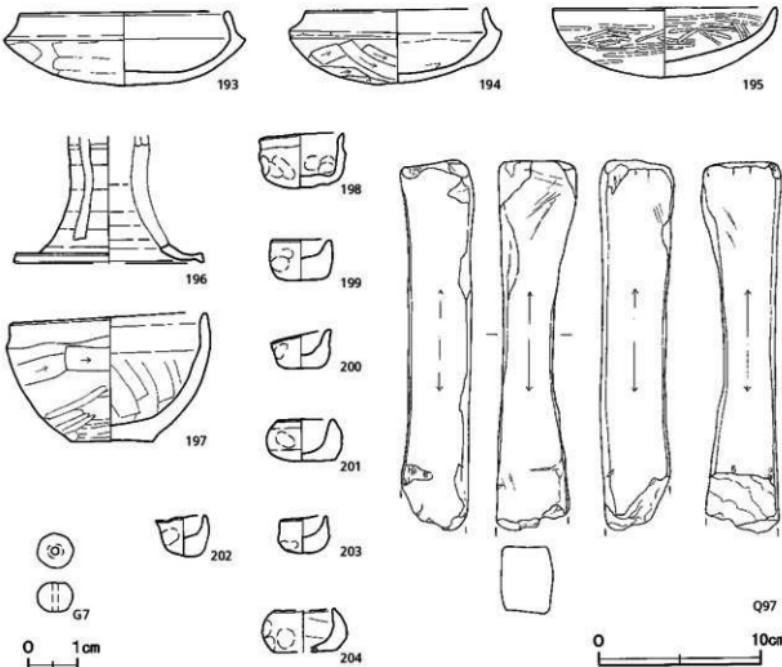
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土器解説

1	黒	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	培	褐	色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	褐	褐	色	ロームブロック、燒土粒子・炭化粒子微量	6	培	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	褐	褐	色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	褐	色	ローム粒子中量	
4	黒	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量					

遺物出土状況 土器器片3277点（坏638・甕19・高坏6・鉢1・壺6・甌2533・瓶60・ミニチュア14）、須恵器片43点（坏8・蓋5・高坏3・甌6・甌21）、土製品71点（小玉2・土玉38・管状土錘8・支脚23）、石器2点（砥石）、石製品10点（白玉9・單孔円板1）、鐵滓28点（90.2g）、ガラス製品1点（小玉）、滑石片11点、瑪瑙片1点、褐色鉄鉢1点が出土している。また、混入した弥生土器片20点（甌）、鐵製品5点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。194は甌1の燃焼部、199・200・203は甌2の燃焼部、201は甌2の脇の床面、G 7は南コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、図示できなかつた土製品は、土玉1点と管状土錘1点が甌2の燃焼部、管状土錘1点が貯蔵穴1の覆土中、土玉37点、管状土錘6点、支脚は破片となって全城の覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。甌2は袖部の一部が欠損しており、貯蔵穴2は埋め戻された後に貼床されていることから、北西壁側の甌2と貯蔵穴2が古く、南西壁側の甌1と貯蔵穴1が新しいと考えられる。出入り口施設に伴うと考えられるピットが2か所確認でき、P5の上部に粘土ブロックが貼られていることから、出入り口施設が作り替えられた可能性が考えられる。



第156図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
193	土鍋器	环	12.8	4.5	-	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後、ナデ	覆土下層	100% PL62
194	土鍋器	环	10.4	4.6	-	長石・石英・ 陶化鉄粒子	明赤褐	普通	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	電1燃焼部	95% PL62
195	土鍋器	环	13.7	4.2	-	長石・石英	明赤褐	普通	内・外面磨き	床面	60%
196	須恵器	高环	-	(7.7)	[11.8]	長石	灰オリーブ	良好	二段脚部の上段欠損 三方向の透かし窓	覆土中層	40%
197	土鍋器	环	12.0	7.9	5.4	長石・雲母	橙	普通	外面ヘラ削り後、磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	100%
198	土鍋器	ミニチュア	5.1	3.4	3.5	長石・雲母	橙	普通	指鍛圧痕	床面	100% PL62
199	土鍋器	ミニチュア	3.6	2.6	3.1	長石・雲母	明赤褐	普通	指鍛圧痕	電2燃焼部	100% PL62
200	土鍋器	ミニチュア	3.5	2.3	2.6	長石	橙	普通	指鍛圧痕	電2燃焼部	100% PL62
201	土鍋器	ミニチュア	3.2	2.6	4.0	長石・雲母	明黄褐	普通	指鍛圧痕	床面	100% PL62
202	土鍋器	ミニチュア	2.9	2.5	-	長石	明褐	普通	指鍛圧痕	床面	100% PL62
203	土鍋器	ミニチュア	2.7	2.3	2.0	長石	明褐	普通	指鍛圧痕	電2燃焼部	100% PL62
204	土鍋器	ミニチュア [35]	2.6	[3.8]	長石・雲母	黄褐	普通	指鍛圧痕	床面	45%	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q97	砾石	(22.8)	48	45	(800g)	凝灰岩	平砥石 砥面4面	P5	PL80

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G7	小玉	0.8	0.6	0.2	0.5	緑	ガラス	一方孔からの穿孔	覆土下層	PL89

第87号住居跡（第157・158図）

位置 調査区中央部のD-4 h2区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第89号住居跡を掘り込み、北東部を第86号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸は5.36mで、短軸は重複のため3.20mしか確認できなかつたが、P3・P4の位置から、主軸方向がN-139°-Eの方形と推測される。壁高は10~30cmで、外傾して立ち上がっている。

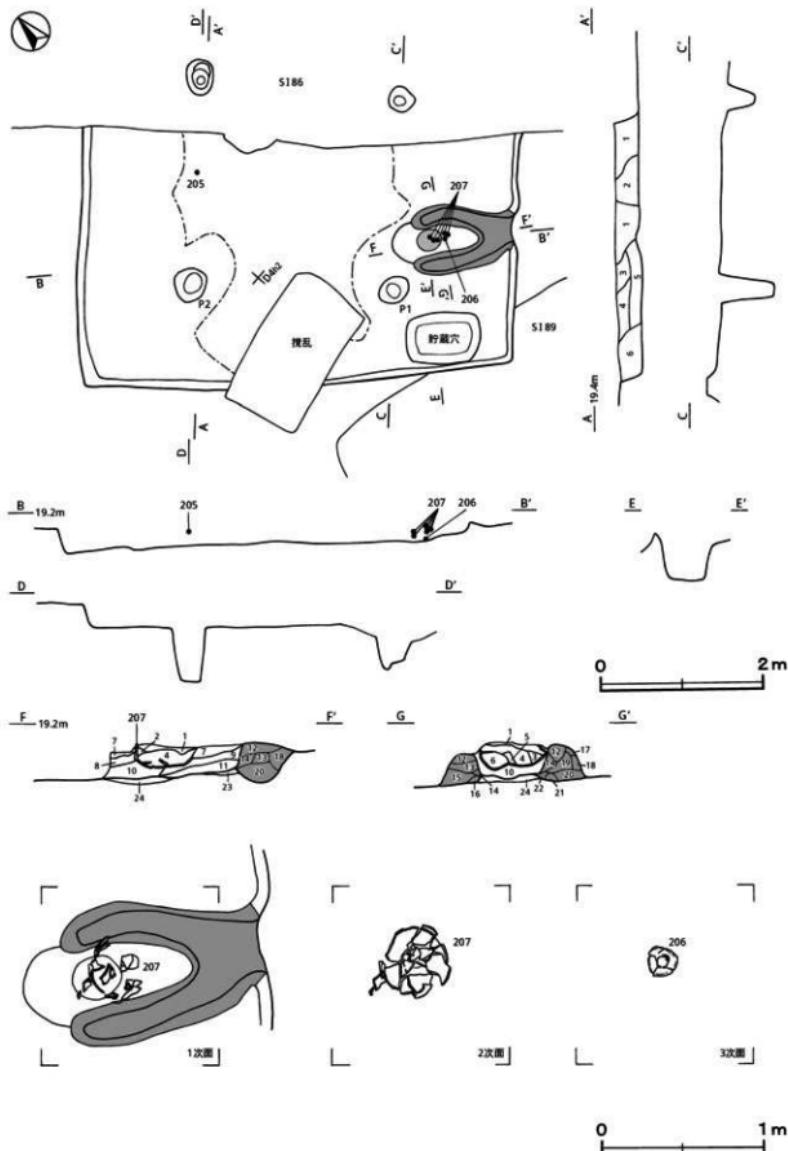
床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

窓 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで111cm、燃焼部幅32cmである。第12~22層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とする褐色土で構築されている。燃焼部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第23・24層は掘り方への埋土である。

重土層解説

1	暗褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子 微量	13	暗褐色	砂粒多量、燒土粒子中量、ローム粒子・炭化 粒子微量
2	黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子少量	14	暗赤褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化 粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量	15	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・砂粒少量
4	褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子 少量	16	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・砂粒少量
5	黑色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量	17	にじむ黒褐色	砂粒多量、ローム粒子中量、燒土粒子少量、 炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック・燒土粒子中量、炭化粒子・ 砂粒少量	18	暗褐色	ローム粒子・砂粒少量
7	黑色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子 少量	19	にじむ黒褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子少量、炭化 粒子微量
8	褐色	砂粒多量、燒土粒子中量、ローム粒子・炭化 粒子少量	20	暗褐色	ロームブロック中量
9	褐色	燒土粒子・砂粒多量、炭化粒子少量	21	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量、炭化粒子 微量
10	暗赤褐色	燒土粒子多量、炭化粒子・砂粒少量	22	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・ 砂粒微量
11	暗赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒 少量	23	暗赤褐色	燒土粒子中量
12	赤褐色	燒土粒子・砂粒多量、ローム粒子・炭化粒子 微量	24	暗赤褐色	燒土粒子・炭化粒子多量

ピット 4か所。P3・P4は第86号住居の掘り方調査で確認した。P1~P4は深さ40~67cmで、規模と位置から主柱穴である。



第157図 第87号住居跡実測図

貯蔵穴 南コーナー部に付設され、長軸92cm、短軸63cmの長方形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上っている。

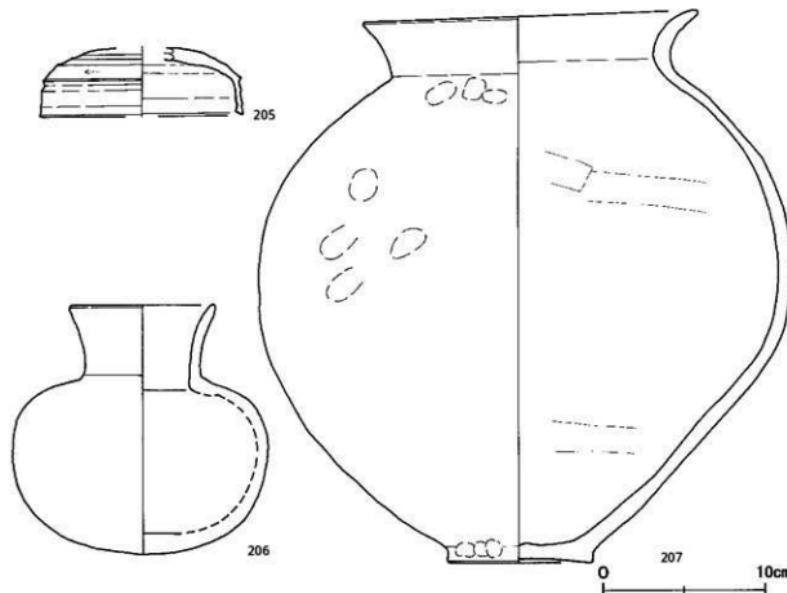
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 地 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5 細 地 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 細 地 色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	6 細 地 色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
3 細 地 色 ローム和子少量、燒土和子微量	
4 細 地 色 ローム和子少量、燒土和子微量	

遺物出土状況 土師器片551点（环49・高坏5・鉢1・壺8・甕486・瓶2）、須恵器片2点（蓋・甕）、土製品5点（土玉）、石製品1点（双孔円板）、滑石片7点、褐鐵鉱13点が出土している。また、混入した弥生土器片4点（蓋）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。甕の燃焼部からは、207が支脚に転用された206の上部に据えられた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



第158図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									天井部全体に回転ヘラ削り	端部内側		
205	須恵器	壺	[12.4]	(4.1)	-	長石	灰	良好	天井部全体に回転ヘラ削り	端部内側	覆土中層	25% PL63
206	土師器	壺	8.8	15.3	-	長石・石英	暗緑	被熱のため調整不明			覆土焼成部	95% PL63
207	土師器	壺	20.2	33.9	8.6	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面擦痕圧痕	内面ヘラナデ	覆土焼成部	70% PL63

第88号住居跡（第159・160図）

位置 調査区中央部のD-4 dII区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 西部を第45号住居、南部を第69・70号土坑、中央部を第76・77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は4.08mで、東西軸は重複のため3.80mしか確認できなかつた。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向はN-35°-Wと推測される。壁高は4~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が東コーナー部で確認できた。また、焼土塊と炭化材が確認できた。

炉 2か所。炉1は中央部に位置する地床がである。長径は57cmで、短径は搅乱のため27cmしか確認できなかつた。炉2は中央部西寄りに位置する地床がである。第76号土坑と搅乱に掘り込まれ、規模は長径24cm、短径14cmしか確認できなかつた。

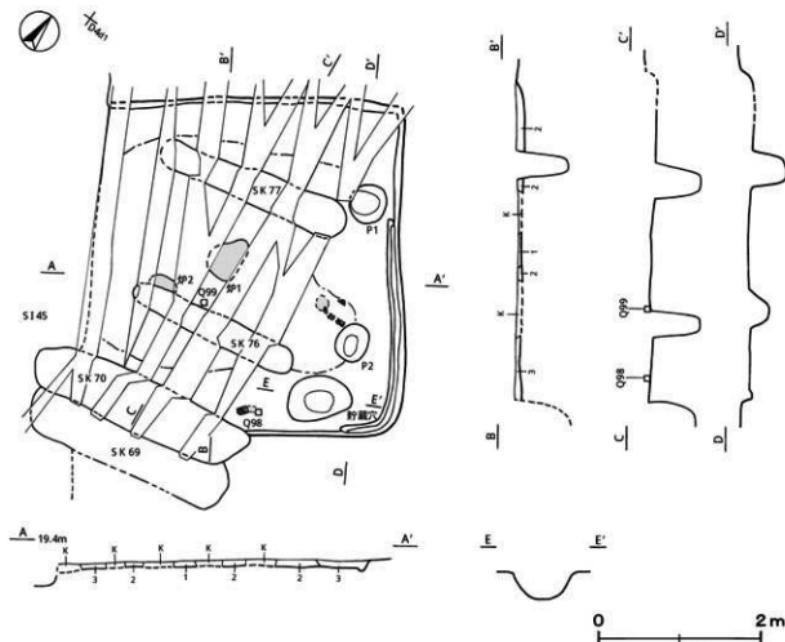
ピット 2か所。P1・P2は深さ42cm・24cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設され、長径74cm、短径54cmの楕円形で、深さは34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

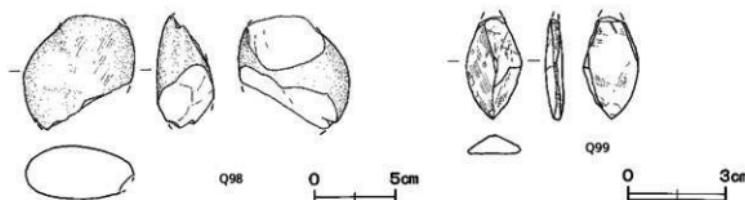
- | | | | |
|----------|-----------------------|---------|---------------------|
| 1 細赤褐色、色 | 燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 細褐色、色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 細褐色、色 | 炭化粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子微量 | | |



第159図 第88号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片112点(壺13・蓋2・甕95・瓶2), 須恵器片2点(蓋・甕), 石器2点(磨石・砥石), 石製品3点(白玉・双孔円板・劍形模造品), 滑石片1点が出土している。また、混入した縄文土器片3点(深鉢)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できない。Q99は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀代と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第160図 第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表(第160図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q98	磨石	(69)	69	35	(163g)	頁岩	擦痕 上下欠損	床面	
Q99	剣形模造品	(31)	1.7	0.6	(3g)	滑石	全面研磨 上半欠損	床面	PL84

第89号住居跡(第161図)

位置 調査区中央部のD4 i 2区, 標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第25号住居, 北部を第87号住居, 第54号土坑, 南部を第94号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.05m, 短軸5.70mの方形で, 主軸方向は, 為もししくは竪が確認できなかつたため不明である。壁高は14~22cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。

ピット 4か所。P.1~P.4は深さ20~70cmで, 規模と位置から主柱穴である。

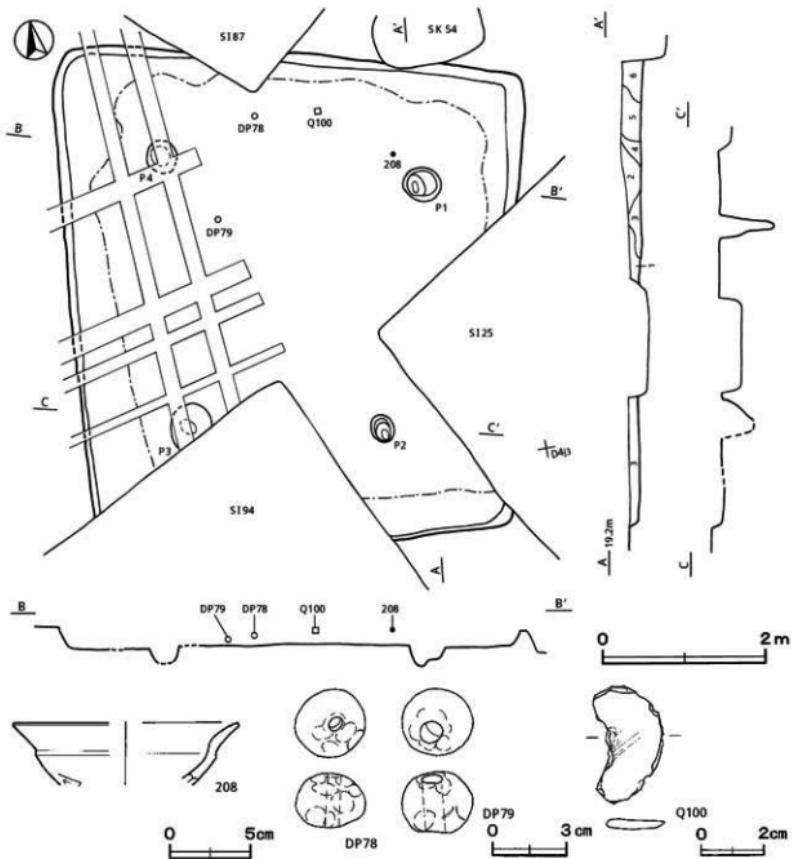
覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒	色	ローム粒子中量	4	暗	褐色	ロームブロック中量	燒土粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック中量	燒土粒子微量		ローム粒子多量	燒土粒子微量
3	黒	褐	色	ローム粒子中量	6	黑	褐	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片241点(壺28・高壺1・甕208・瓶4), 須恵器片6点(壺2・蓋1・甕3), 土製品3点(土玉), 石製品1点(勾玉), 滑石片1点, 鐵鉄鉢7点が出土している。また、混入した赤生土器片1点(蓋), 土師器片1点(器台)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。208は北東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係から5世紀代と考えられる。



第161図 第89号住居跡・出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	基盤	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
208	土器器	环	(13.7)	(3.8)	-	長石・石英	褐	普通	外側へラ削り	覆土上層	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP78	土玉	2.9	2.2	0.6	16.3	長石・石英	指鍛圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP79	土玉	2.7	2.4	0.8	19.7	長石・雲母	指鍛圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q100	勾玉	3.6	2.2	0.3	3.1	滑石	未成品 同面研磨	PL83	

第90号住居跡（第162・163図）

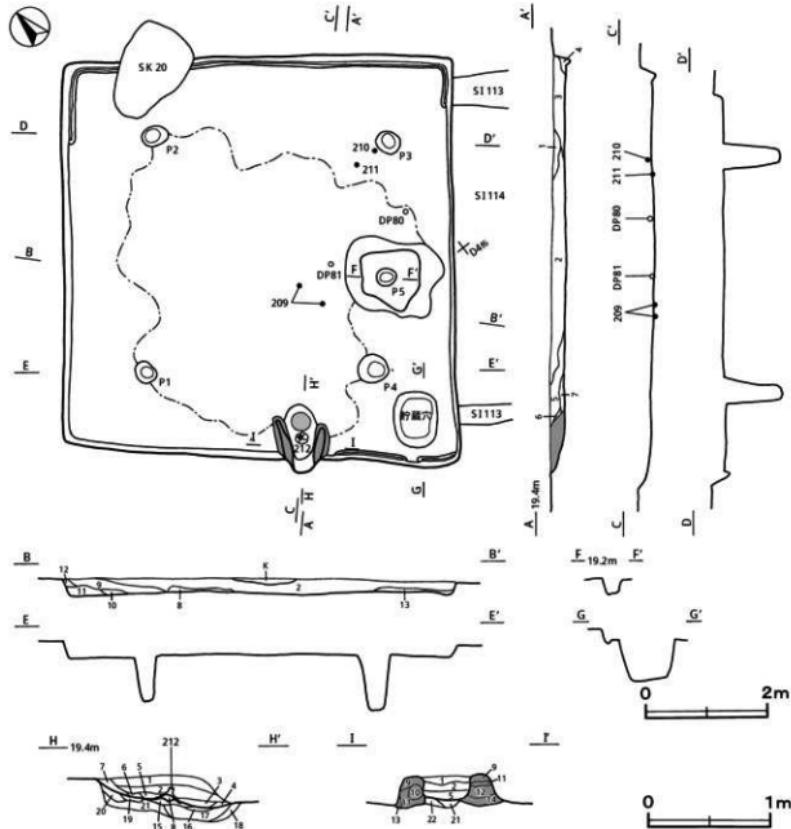
位置 調査区中央部のD 4 e5区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第113・114号住居跡を掘り込み、北部を第20号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.41m、短軸6.25mの方形で、主軸方向はN-133°-Wである。壁高は12~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。P5の周間に楕円形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が北コーナー部から東コーナー部、南コーナー部で確認できた。

竈 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで113cm、燃焼部幅52cmである。第9~14層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とする黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれている。第15~22層は掘り方への埋土である。



第162図 第90号住居跡実測図

出土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・堆土粒子少量	12 にぶい黄褐色	堆土粒子・砂粒中量
2 黒褐色	堆土ブロック中量、ロームブロック少量	13 にぶい黄褐色	砂粒中量
3 細赤褐色	堆土ブロック中量、炭化粒子・砂粒微量	14 細褐色	ロームブロック少量
4 細赤褐色	堆土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 細褐色	ローム粒子少量、堆土粒子微量
5 細赤褐色	堆土ブロック中量、ローム粒子・砂粒微量	16 細赤褐色	堆土粒子中量、堆土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック・堆土粒子微量	17 細褐色	ローム粒子少量、堆土粒子・炭化粒子微量
7 茶色	ロームブロック中量、堆土粒子微量	18 細褐色	ローム粒子・砂粒少量
8 細赤褐色	堆土粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量	19 黒褐色	ローム粒子少量、堆土粒子・炭化物微量
9 にぶい黄褐色	堆土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・砂粒微量	20 茶色	ロームブロック少量、堆土粒子微量
10 にぶい黄褐色	砂粒中量、ロームブロック少量	21 茶色	ローム粒子中量
11 細赤褐色	堆土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量	22 細赤褐色	ローム粒子少量、堆土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ75～98cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ25cmで、南東壁際の中央部に位置し、周囲に高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

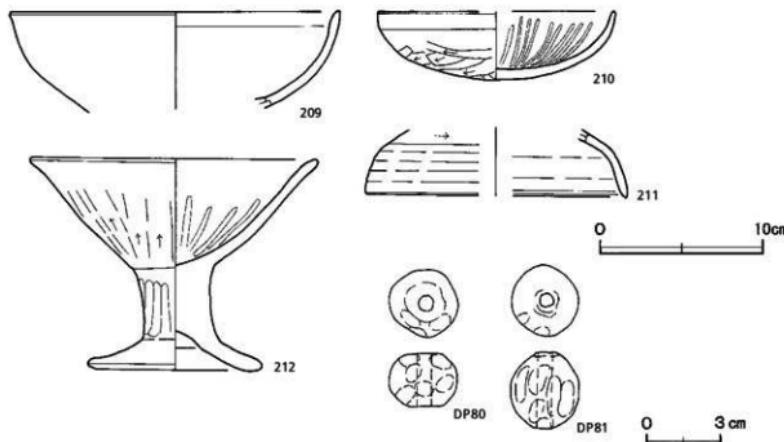
貯蔵窓 南コーナー部に付設され、長軸92cm、短軸73cmの長方形で、深さは64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 13層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 細褐色	ロームブロック・堆土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・堆土ブロック少量、炭化粒子微量	10 細赤褐色	堆土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、堆土粒子微量	11 細褐色	炭化物中量、ロームブロック少量、堆土粒子微量
4 茶色	堆土粒子中量	12 茶色	ロームブロック・堆土ブロック少量、堆土粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、堆土粒子微量	13 細褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2169点（壺295・高杯30・鉢1・壺4・甕1832・瓶7）、須恵器片20点（壺5・蓋9・甕6）、土製品24点（土玉18・管状土錐3・支脚3）、石器1点（磨石）、石製品2点（單孔円板・劍形模造品）、鉄滓8点（72.7g）、滑石片6点が出土している。また、混入した繩文土器片29点（深鉢）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。209は中央部の床面、210・211は中央部東寄りの床面からそれぞれ出土している。また、212は竈の燃焼部から逆位で出土しており、支脚に転用されている。



第163図 第90号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第90号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
209	土師器	鉢	20.2	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	床面	35%
210	土師器	环	[14.4]	4.2	-	長石・石英・ 炭化鉄粒子	橙	普通	外面へラ削り 内面磨き	床面	25%
211	土師器	皿	[16.0]	(4.1)	-	長石	黄灰	良好	天井部断面へラ削り	床面	20%
212	土師器	高环	17.4	1.3	9.6	長石・炭化鉄粒子	橙	普通	环部外部へラ削り後、ナデ 内面磨き 断面外側磨き	壁燃焼部	70% PLG

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP80	土玉	2.7	2.2	0.6	16.3	長石・雲母	指揮圧痕 一方向からの穿孔	床面	
DP81	土玉	2.7	3.1	0.6	23.8	長石	指揮圧痕 一方向からの穿孔	床面	

第91号住居跡（第164～168図）

位置 調査区中央部のD3d1区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第92・99号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.44m、短軸7.23mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。P5の周間に馬蹄形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。また、高まりの北側には粘土ブロックが円形に貼られている。壁構が東壁下の一部を除いて確認できた。竈1の左脇で焼土塊が確認できた。

竈 2か所。竈1は北壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで88cm、燃焼部幅62cmである。第10～17層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第18層は掘り方への埋土である。竈2は北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅13cmである。第6層は袖部で、砂粒を主体とした黄褐色土で構築されており、左袖部の一部が欠損している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、やや赤変している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれている。第7層は掘り方への埋土である。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

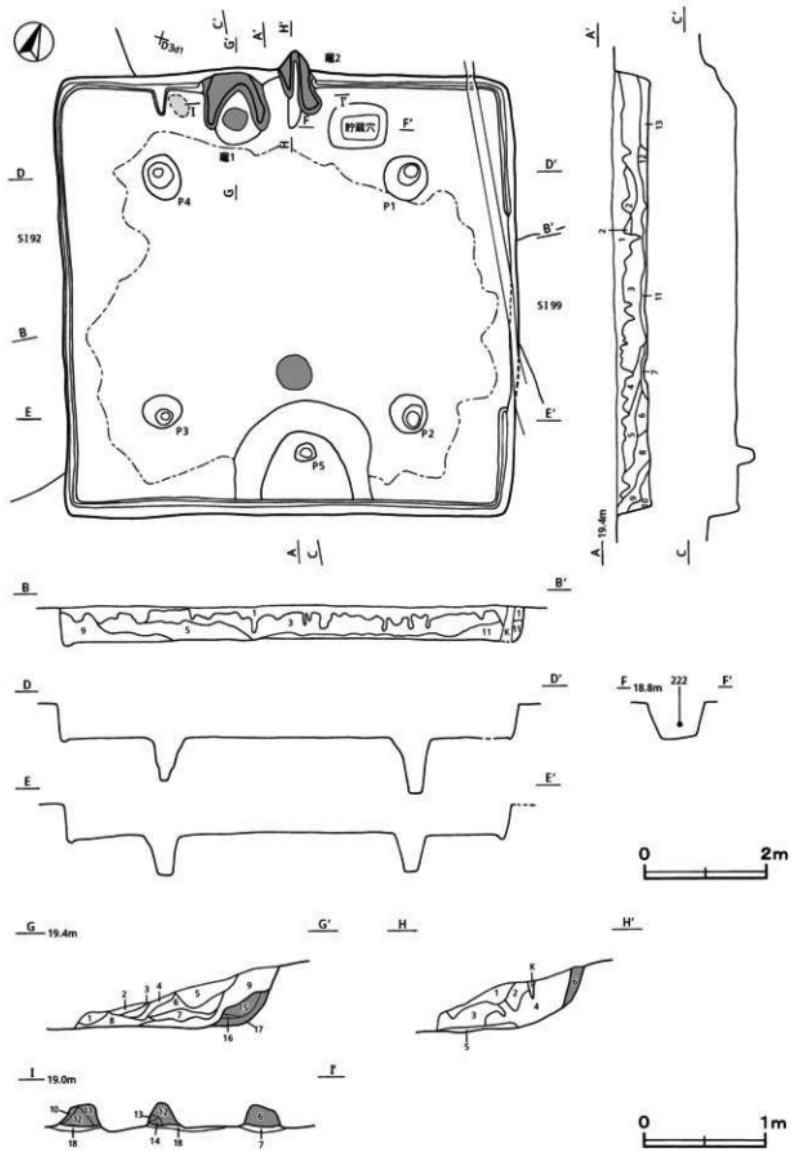
竈1 土解説

1	灰	褐色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子中量	10	褐	色	ロームブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
2	褐	褐色	ロームブロック・風土粒子・粘土粒子・砂粒微量	11	にぶい赤褐色	色	砂粒少量、ロームブロック・風土ブロック微量
3	灰	褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量	12	暗	褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・風土ブロック・砂粒少量
4	褐	褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	13	にぶい赤褐色	色	風土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
5	褐	褐色	砂粒中量、ロームブロック・風土粒子・炭化粒子少量	14	褐	色	砂粒少量、ローム粒子・風土粒子微量
6	褐	褐色	ロームブロック・風土粒子・粘土粒子・砂粒微量	15	にぶい黄褐色	色	砂粒中量、ロームブロック・風土粒子少量
7	褐	赤褐色	風土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	16	暗	赤褐色	風土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
8	黒	褐色	ロームブロック・風土粒子・粘土粒子・砂粒微量	17	黒	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、風土粒子少量
9	黒	褐色	ロームブロック・風土ブロック・粘土粒子・砂粒微量	18	褐	色	ローム粒子中量、風土粒子微量

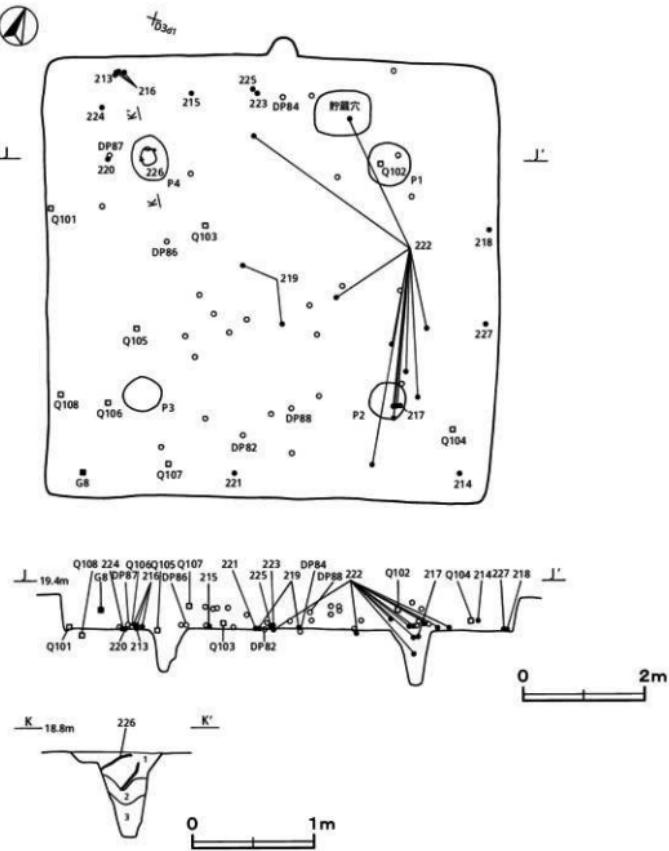
竈2 土解説

1	褐	褐色	ローム粒子・砂粒少量、風土粒子・炭化粒子微量	4	にぶい褐色	色	砂粒中量、ローム粒子・風土粒子微量
2	褐	褐色	ローム粒子中量、砂粒少量、風土粒子・炭化粒子微量	5	にぶい褐色	色	風土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
3	褐	褐色	ローム粒子少量、風土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	6	にぶい黄褐色	色	砂粒多量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ60～93cmで、位置から主柱穴である。P5は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置し、周間に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第164図 第91号住居跡実測図(1)



第165図 第91号住居跡実測図(2)

P 4 土層解説

- 1 細 風 色 ロームブロック少量
2 細 風 色 ロームブロック中量

- 3 細 色 ロームブロック中量

貯藏穴 瓦2の右脇に付設され、長軸95cm、短軸74cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がりっている。

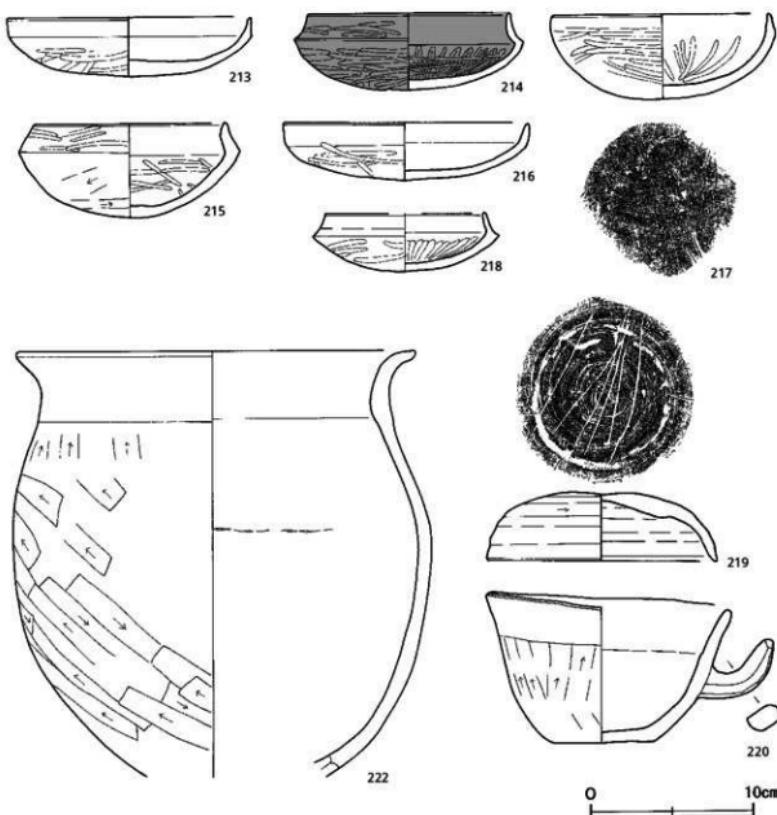
覆土 13層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

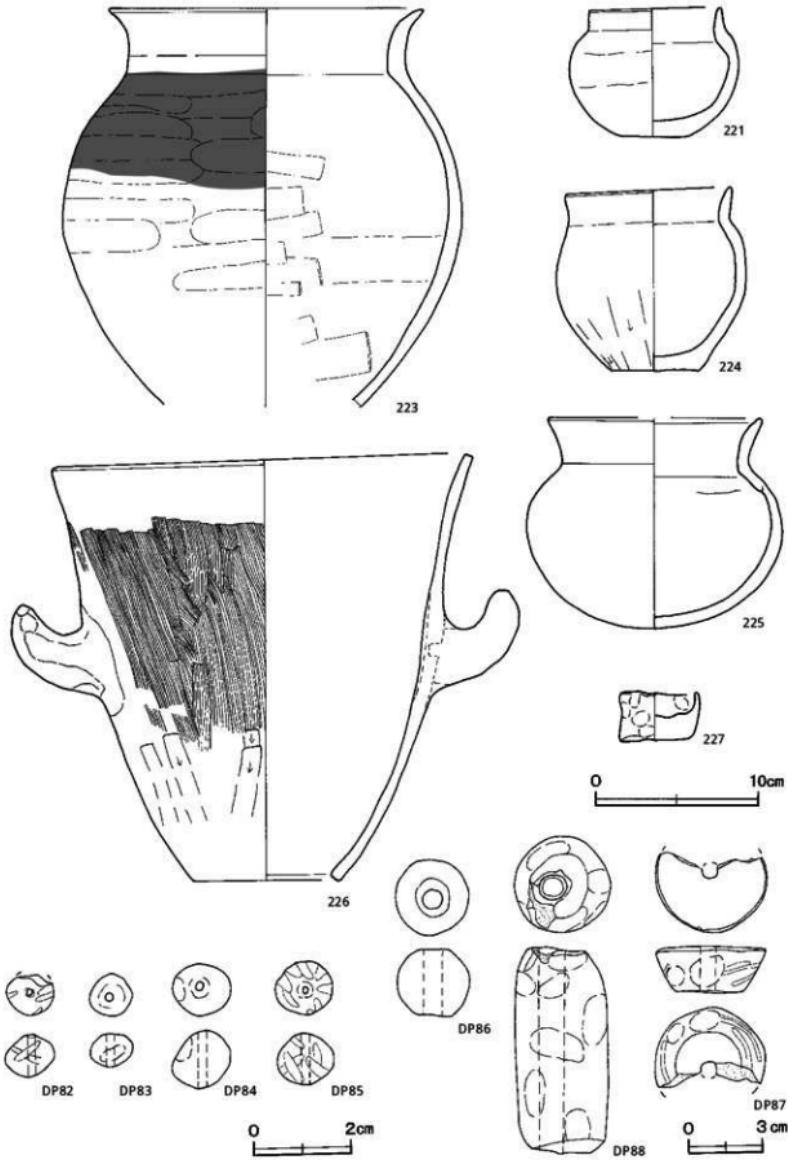
- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 細 風 色 ロームブロック・風土粒子・炭化粒子微量 | 7 細 風 色 ロームブロック少量・風土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 細 風 色 ロームブロック・風土粒子・炭化粒子微量 | 8 細 風 色 ロームブロック中量・風土粒子微量 |
| 3 細 風 色 ロームブロック中量・風土粒子少量・炭化粒子微量 | 9 細 風 色 ロームブロック多量・風土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 細 風 色 ロームブロック中量・風土粒子・炭化粒子微量 | 10 細 風 色 ロームブロック・炭化粒子少量・風土粒子微量 |
| 5 細 風 色 ローム粒子少量・風土粒子・炭化粒子微量 | 11 細 風 色 ロームブロック少量・風土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 細 風 色 ロームブロック中量・風土粒子・炭化粒子少量 | 12 細 風 色 ロームブロック少量・風化粒子微量 |
| | 13 細 風 色 ロームブロック・風土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片3686点（壺317・高壺73・鉢1・壺2・甕3248・瓶40・ミニチュア5）、須恵器片64点（壺17・蓋8・甕8・甕31）、土製品76点（小玉7・土玉49・管状土錐9・支脚10・紡錘車1）、石器1点（磨石）、石製品9点（臼玉6・管玉1・單孔円板1・劍形模造品1）、鐵滓17点（173.6g）、ガラス製品1点（小玉）、滑石片28点、褐鉄鉱2点が出土している。また、混入した繩文土器片51点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）、須恵器片1点（高壺）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。219は中央部の床面、215・223・225は甕1 脇の床面、213・216・220・224は北西コーナー部の床面、217はP2の覆土中、226はP4の覆土中、G8は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP87は正位で出土した220の内部から出土している。また、図示できなかった土玉は、全城の床面から覆土中にかけて45点、甕1の燃焼部から1点がそれぞれ出土している。

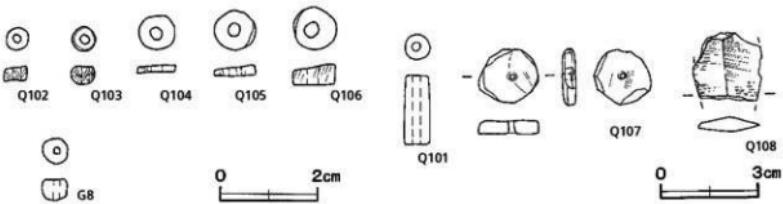
所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第166図 第91号住居跡出土遺物実測図(1)



第167図 第91号住居跡出土遺物実測図(2)



第168図 第91号住居跡出土遺物実測図(3)

第91号住居跡出土遺物観察表(第166~168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
213	土師器	环	149	3.5	-	長石・雲母	浅黄褐	普通	外表面磨き	床面	100% PL64
214	土師器	环	122	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	良好	内・外表面磨き	覆土下層	100% PL64
215	土師器	环	116	5.9	-	長石・石英・雲母	橙	良好	口縁部外表面磨き 体部外表面削り後、ナデ 内面磨き	床面	100% PL64
216	土師器	环	147	3.5	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	外表面磨き	床面	85% PL64
217	土師器	环	134	5.2	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内・外表面磨き 底部へラ記号「x」	P 2	80% PL64
218	土師器	环	[96]	3.6	-	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外表面磨き 体部外表面削り後、磨き	床面	50%
219	須恵器	蓋	142	4.2	-	長石・石英・中継	灰	普通	天井部上半回転へラ削りへラ記号 薄部内締	床面	85% PL63
220	土師器	鉢	150	9.4	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	外表面削り後、ナデ 肥手貼り付け	床面	100% PL65
221	土師器	蓋	8.1	8.1	4.2	長石・雲母	浅黄褐	普通	内・外表面ナデ	床面	100%
222	土師器	環	244	(261)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外表面へラ削り	P2・野原六 覆土下層	85% PL65
223	土師器	環	19.3	(24.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外表面ナデ痕 内面へラナデ	床面	75% PL65
224	土師器	小形瓶	10.0	11.3	5.2	長石・石英	明黄褐	普通	体部外表面へラ削り後、ナデ	床面	85%
225	土師器	小形瓶	[130]	13.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	内・外表面ナデ	床面	60%
226	土師器	瓶	252	26.3	8.9	長石・鈣化鉱粒子	にぶい黄褐	普通	外表面ハケ目調整 下半へラ削り後、ナデ 肥手差し込み	P 4	100% PL64
227	土師器	ミニチュア	46	3.1	4.5	長石・雲母	橙	普通	指謹庄底	床面	95%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP82	小玉	0.9	0.9	0.1	(1.0)	長石	磨き 一方向からの穿孔	床面	
DP83	小玉	0.9	0.6	0.2	0.6	長石	指謹庄底 一方向からの穿孔	竪1燒結部	
DP84	土玉	1.2	1.2	0.2	1.4	長石	指謹庄底 一方向からの穿孔	竪2燒結部	
DP85	土玉	1.1	1.2	0.1	1.7	長石	磨き 一方向からの穿孔	竪1燒結部	
DP86	土玉	3.0	2.6	0.8	24.0	長石	一方向からの穿孔	覆土下層	
DP87	統繩塵	4.6	1.9	0.6	(24.3)	長石	磨き 指謹庄底 一方向からの穿孔	220内	

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP88	管状土錐	3.9	8.4	1.1	147.0	長石	指謹庄底 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q101	管	2.2	0.8	0.3	2.2	緑色凝灰岩	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q102	白玉	0.5	0.3	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL86
Q103	白玉	0.5	0.3	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL86
Q104	白玉	0.8	0.2	0.3	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL86
Q105	白玉	0.9	0.2	0.3	0.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q106	白玉	0.9	0.4	0.3	0.5	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q107	単孔円板	1.7	1.9	0.4	0.2	2.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL85
Q108	鉄形構造品	(2.1)	2.2	0.5	-	(3.4)	滑石	全面研磨 上下欠損	床面	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G 8	小玉	0.5	0.5	0.1	0.3	青緑	ガラス	一方向からの穿孔 管切	覆土中層	PL89

第92号住居跡（第169・170図）

位置 調査区中央部のD2e0区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第91号住居、南部の覆土を第1号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.30m、短軸6.85mの方形で、主軸方向はN-130°-Wである。壁高は43~59cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。P 8の周間に馬蹄形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。また、高まりの上部には粘土ブロックが貼られている。

竈 2か所。竈1は南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、燃焼部38cmである。第11~14層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、第18層上面が赤変硬化している。煙道部は右袖部寄りに位置し、壁外まで掘り込まれていない。竈2は竈1と同位置の下層で確認できたが、竈1に作り替えているため、規模・形状等は不明である。第18層は天井部の崩落土、第19層は袖部、第20・21層は掘り方への埋土である。第17層は竈2の散乱した構築材で、その上部の第15・16層は竈1を付設した際の貼床構築土である。

竈1・2 原解説

1 黒褐色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量	12 暗赤褐色 ローム粒子・砂粒少量、埴土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子・砂粒微量	13 暗赤褐色 ローム粒子・埴土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子少量、砂粒微量	14 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、埴土粒子・砂粒微量
4 黒褐色 ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子・砂粒微量	15 暗褐色 ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、埴土粒子・砂粒微量	16 暗褐色 ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6 明褐色 砂粒少量、ローム粒子・埴土粒子少量	17 にぶい褐色 砂粒多量、ローム粒子少量、埴土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子少量	18 暗褐色 嵌入粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色 嵌入粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	19 にぶい褐色 砂粒中量、ローム粒子・埴土粒子少量、粒子微量
9 にぶい褐色 砂粒多量、ローム粒子・埴土粒子少量、炭化粒子微量	20 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量、埴土粒子微量
10 暗赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	21 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、埴土粒子・炭化粒子微量
11 にぶい黄褐色、砂粒多量、ローム粒子微量	

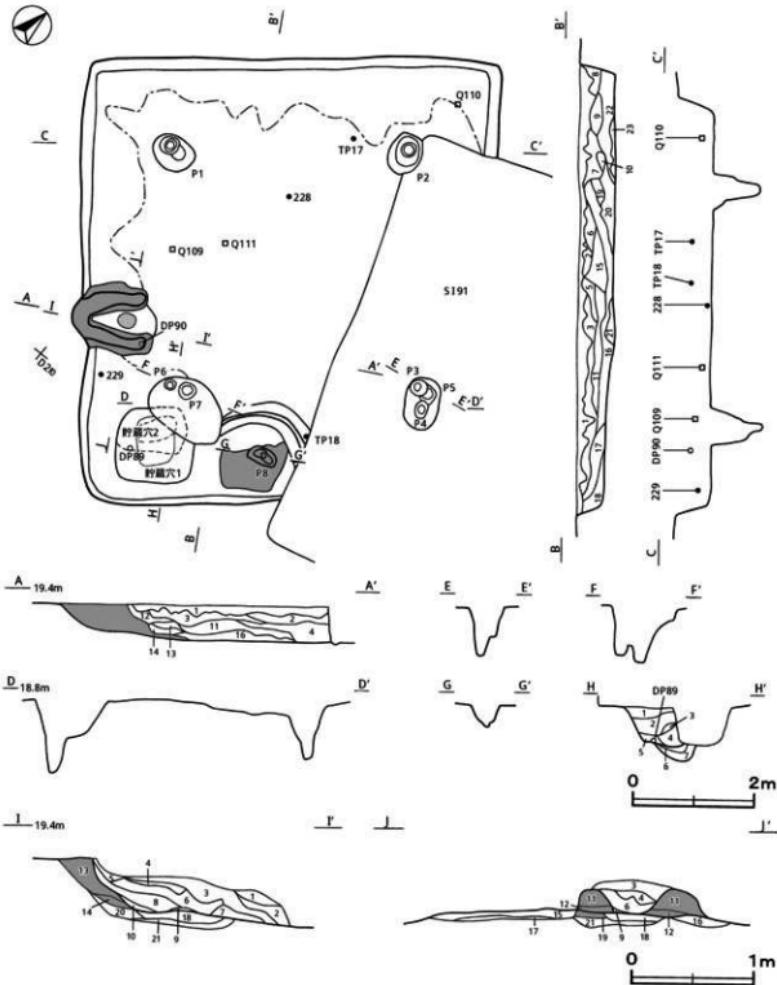
ピット 8か所。P 3~P 5は第91号住居の掘り方調査で確認した。P 1~P 7は深さ49~80cmで、規模と位置から主柱穴である。東部の主柱穴は3か所が確認できた。南部の主柱穴では柱抜き取り痕が確認でき、貯蔵穴1と馬蹄形の高まりを掘り込んでいる。P 8は深さ27cmで、南東壁際の中央部に位置し、周間に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。それぞれ南北コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長軸128cm、短軸120cmの隅丸方形で、深さは47cmである。北側が南部の主柱抜き取り痕と第1号掘立柱建物跡のP 1に掘り込まれている。第1~5層は貯蔵穴1の覆土で、ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。貯蔵穴2は、貯蔵穴1に掘り込まれているため、長径117cm、短径72cmしか確認できなかった。形状は梢円形で、深さは80cmである。第6~7層は貯蔵穴2の覆土で、ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。土層観察の結果、貯蔵穴2

が古く、貯藏穴1が新しい。

貯藏穴土層解説

- | | | | | | | |
|---|---|-----------------------|---|---|----|-----------------------|
| 1 | 緑 | ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 緑 | 褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 緑 | 褐色 | 6 | 緑 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 緑 | 褐色 | 7 | 緑 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 黒 | 褐色 | | | | |



第169図 第92号住居跡実測図

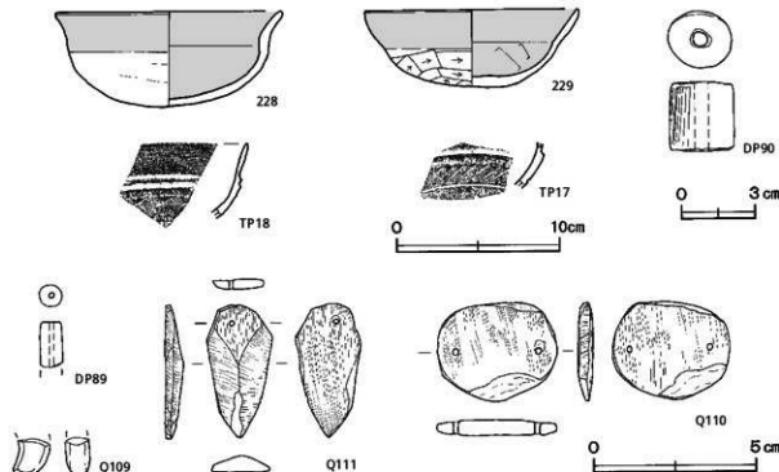
覆土 23層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子微量	13 黒 色 ロームブロック・埴土粒子少量・炭化粒子微量
2 黒 色 ロームブロック中量・炭化粒子微量	14 黒 色 ロームブロック少量・埴土粒子・炭化粒子微量
3 緑 色 ロームブロック中量・埴土粒子・炭化粒子少量	15 緑 色 ロームブロック中量・埴土粒子微量
4 緑 色 ロームブロック少量・埴土粒子・炭化粒子少量	16 黒 色 炭化粒子中量・ロームブロック・埴土粒子微量
5 緑 色 ロームブロック中量	17 黒 色 ロームブロック中量・埴土粒子・炭化粒子微量
6 緑 色 ロームブロック少量・埴土粒子・炭化粒子微量	18 緑 色 ロームブロック少量・炭化粒子・埴土粒子微量
7 黒 色 ロームブロック少量・埴土粒子・炭化粒子少量	19 黒 色 ロームブロック中量・炭化粒子少量・埴土粒子微量
8 緑 色 ロームブロック・埴土粒子・炭化粒子少量	20 緑 色 ロームブロック・炭化粒子少量・埴土粒子微量
9 黒 色 ロームブロック・炭化粒子少量・埴土粒子微量	21 黒 色 ロームブロック中量・炭化粒子少量
10 緑 色 ロームブロック中量・炭化粒子・埴土粒子微量	22 黒 色 炭化粒子中量・ロームブロック・埴土粒子少量
11 緑 色 ロームブロック少量	23 布 色 ロームブロック少量
12 黒 色 ローム粒子中量・埴土ブロック少量・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土器片2149点(坏440・椀1・高杯12・鉢1・甕1668・瓶26・ミニチュア1), 須恵器片46点(坏2・蓋4・高杯5・甕35), 土製品19点(土玉11・管玉2・管状土錐4・支脚2), 石製品16点(臼玉10・勾玉1・單孔円板1・双孔円板2・劍形模造品2), 鉄滓5点(11.8g), 滑石片15点, 鍔鉄鉗9点が出土している。また, 混入した繩文土器片17点(深鉢), 弥生土器片3点(甕), 土製品1点(土器片錐)が出土している。遺物の大半は, 全域の覆土中から出土している。228は中央部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。竈と貯蔵穴は, ほぼ同位置に作り替えられている。貯蔵穴1は, 貯蔵穴2を埋め戻して南東壁寄りに拡張して作り替えられている。東部で3か所, 南部で2か所の主柱穴が確認できたことから, 主柱が立て替えられたと考えられる。また, 出入り口施設は, 馬蹄形の高まりに位置するP8が出入り口施設として使用された後, その上部に粘土ブロックを貼って作り替えられた可能性がある。竈と貯蔵穴は同位置に作り替えられており, 同時期に作り替えられた可能性がある。



第170図 第92号住居跡出土遺物実測図

第92号住居跡出土遺物観察表 (第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
228	土師器	壺	137	5.8	-	長石・雲母・ 炭化鉄粒子	褐色	普通	外面ヘラ削り後、ナデ	床面	90% PL65
229	土師器	壺	132	4.8	-	長石・石英・雲母 にぶい質感	褐色	普通	外面ヘラ削り	覆土下層	90% PL64

番号	種別	器種	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	須恵器	高壺	長石	灰	良好	外面櫛目波状文	覆土中層	
TP18	須恵器	高壺	長石	灰	良好	外面櫛目波状文	覆土中層	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP89	貯蓄	0.7	(1.4)	0.2	(1.2)	長石	磨き 一方向からの穿孔	貯藏穴 1	
DP90	貯蓄	2.6	2.9	0.6	22.8	長石	上下へり 刃ハサウエー ハケ目調査後、ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL79

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q109	勾玉	(1.1)	(1.2)	0.7	-	(1.7)	瑪瑙	全面研磨 上半欠損	覆土中層	PL89
Q110	双孔円板	3.1	3.7	0.5	0.2	(10.1)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土下層	PL85
Q111	鉄形模造品	4.1	2.0	0.5	0.2	(5.2)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL84

第93号住居跡 (第171・172図)

位置 調査区中央部のD 3 f6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第100号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.42m、短軸6.53mの長方形で、主軸方向は、燎もしくは竈が確認できなかったため不明である。壁高は27~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。北東壁際で4条、南西壁際で5条の内部へ延びる溝が確認できた。壁際を中心に焼土塊と炭化材が遺存している。南東壁際で出入り口施設とみられる粘土塊が確認できた。

ピット 8か所。P 1~P 5は深さ10~54cmで、位置から主柱穴である。P 6・P 7はそれぞれ深さ8cmで、主柱穴の間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。P 8は深さ24cmで、性格は不明である。

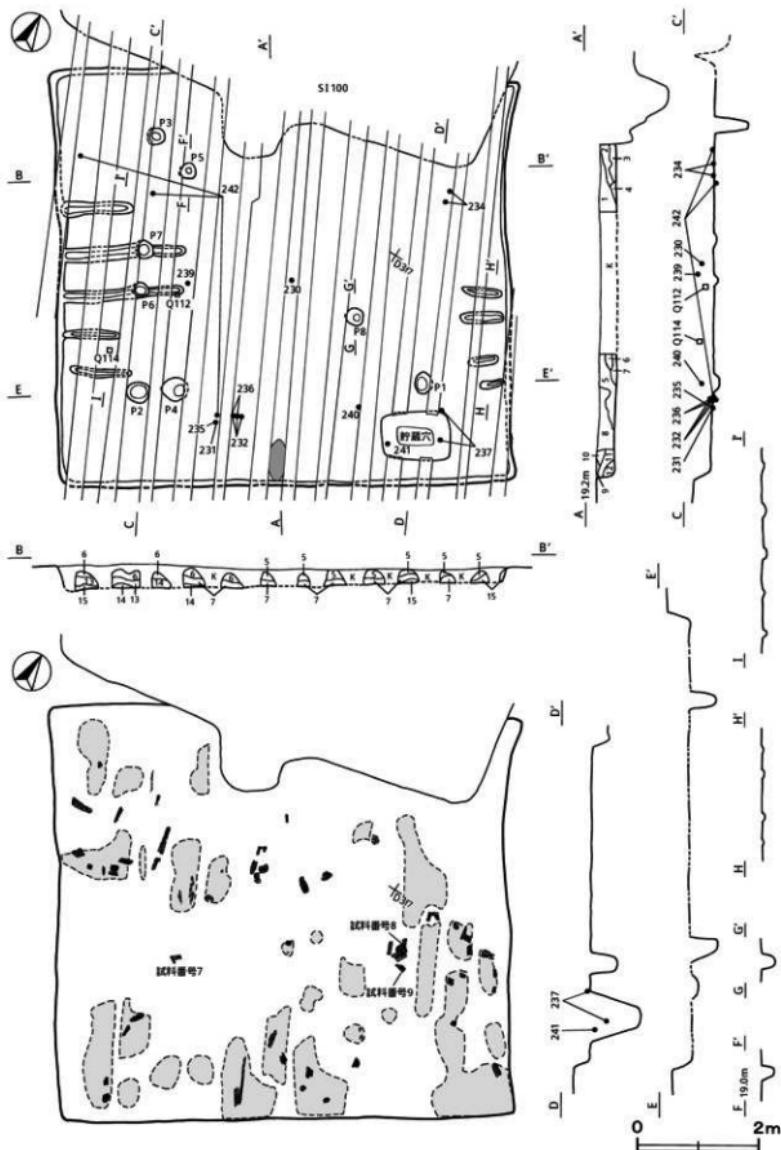
貯蔵穴 東コーナー部に付設され、長軸115cm、短軸79cmの長方形で、深さは81cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 15層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

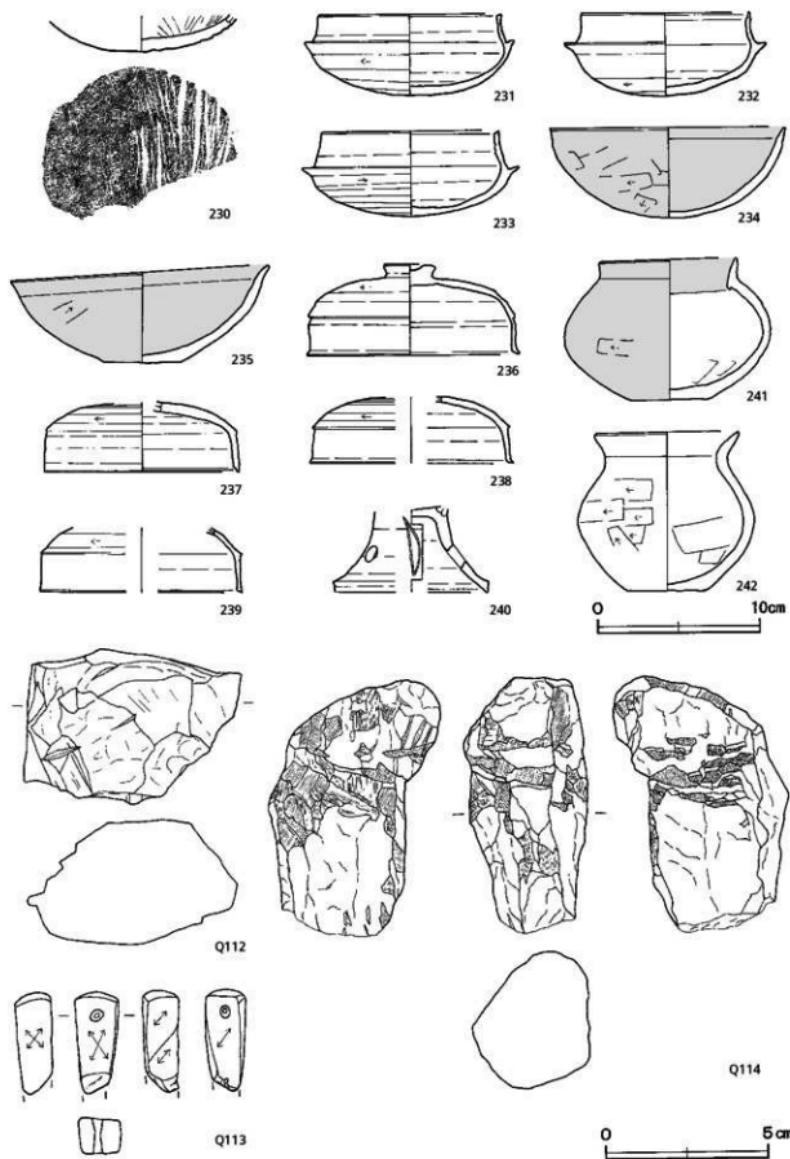
土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック少量	9	黒	褐色	ロームブロック、燒土粒子少量
2	黒	褐色	ロームブロック多量	10	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子少量
3	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子少量	11	黒	褐色	炭化材多量、燒土粒子中量
4	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量	12	褐	褐色	ローム粒子、燒土粒子少量
5	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量	13	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量
6	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子、炭化粒子少量	14	黒	褐色	ローム粒子、燒土粒子中量、炭化粒子少量
7	黒	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量	15	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量
8	黒	褐色	ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子少量				

遺物出土状況 土師器片1529点(壺326・瓶2・高壺7・壺4・甕1173・瓶17)、須恵器片15点(壺10・蓋4・高壺1)、土製品16点(小玉1・土玉15)、石器1点(砥石)、石製品12点(子持勾玉未成品1・白玉9・双孔円板2)、鉄滓12点(110.6g)、滑石片29点、褐鐵鉢2点が出土している。また、混入した縄文土器片6点(深鉢)、弥生土器片3点(甕)、土師器片10点(壺7・器台3)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。231・232・235・236は南東壁際、234は北東壁際のそれぞれ床面、237は貯蔵穴の覆土中層、Q112は覆土中層、Q114は覆土上層から出土している。231は235の上部に重なった状態で出土している。



第171図 第93号住居跡実測図



第172図 第93号住居跡出土実測図

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。北東壁際と南西壁際の構は、根本を設置したと考えられる。南西壁際の構を掘り込んでいるP6・P7は、南西壁寄りに主柱を立て替えた際の補助柱穴と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。また、子持勾玉とみられる未完成品は覆土上層から出土しており、製作途中で廃棄されたと考えられる。

第93号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
230	土師器	环	-	(22)	-	長石・雲母	橙	普通	外表面部紙痕有 内面部有	覆土中層	20%
231	須恵器	环	11.4	5.0	-	長石・石英	灰黄	良好	部全体に回転ヘラ削り 滲部内側	床面	95% PL66
232	須恵器	环	10.4	5.1	-	長石	灰	良好	部下半回転ヘラ削り 滲部有段	床面	90% PL66
233	須恵器	环	10.9	5.2	-	長石・中碳	灰	普通	部全体に回転ヘラ削り 滲部凹面	覆土中	50% PL66
234	土師器	环	14.6	5.6	-	長石・雲母・ 酸化鉄粒子	ぶい黄橙	普通	外表面ヘラ削り後、ナデ	床面	70% PL65
235	土師器	环	15.8	6.1	4.8	長石・雲母	ぶい黄橙	普通	外表面ヘラ削り後、ナデ	床面	70% PL65
236	須恵器	環	13.0	5.6	-	長石・石英	灰黄	良好	天井部上半回転ヘラ削り (径8.5cm)の巻ね焼き痕と自然 剥離有 滲部内側	床面	80% PL66
237	須恵器	環	12.0	(4.4)	-	長石	灰	良好	天井部全体に回転ヘラ削り 滲部有段	貯蔵穴	70% PL66
238	須恵器	環	[12.6]	(4.1)	-	長石	灰	良好	天井部全体に回転ヘラ削り 滲部凹面	覆土中	20% PL66
239	須恵器	環	[13.4]	(4.0)	-	長石	灰	良好	天井部上半回転ヘラ削り 滲部凹面	覆土上層	20%
240	須恵器	高环	-	(5.3)	[9.4]	長石・酸化鉄	灰	普通	透かし丸1か所遺存 三日月状の縫刺	覆土中層	20% PL66
241	土師器	壺	8.3	8.7	4.7	長石・石英・雲母	ぶい赤褐	良好	外表面ヘラ削り後、ナデ 内面ヘラナデ	貯蔵穴	100%
242	土師器	小形壺	8.7	9.7	4.7	長石・石英・雲母	橙	良好	外表面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	80%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q112	原石	48	6.7	3.8	-	146.2	滑石	荒削段階 剥離痕	覆土下層	PL87
Q113	砥石	(31)	1.4	1.1	0.3	(5.7)	滑灰岩	内墨研石 第四面 二方向からの穿孔 下半部有段	覆土中	PL81
Q114	子持勾玉	79	53	38	-	178.3	滑石	形削段階 剥離痕 工具痕	覆土上層	口絵

第94号住居跡（第173図）

位置 調査区中央部のD4 j2区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第89・103号住居跡を掘り込み、南西部を第95号住居、北西部を第96号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸6.02m、東西軸は重複のため5.32mしか確認できなかつたが、P3・P4の位置から方形と推測される。主軸方向はN-110°-Wと推測される。壁高は45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁際で焼土塊と炭化物が確認できた。

ピット 5か所。P4は第95号住居の掘り方調査で確認した。P1～P4は深さ54～92cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ53cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 第95号住居の掘り方調査で確認した。南西コーナー部に付設され、長軸79cm、短軸64cmの長方形で、深さは80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

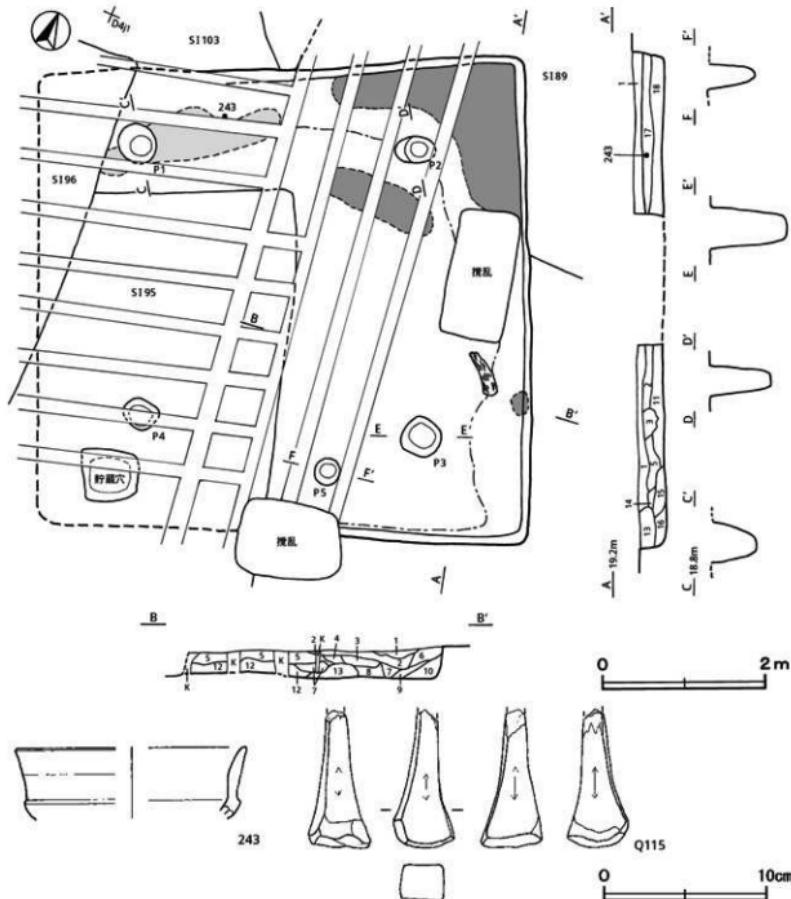
覆土 18層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック中量	從化材粒子微量	10	暗	褐色	燒土粒子・炭化物多量、ローム粒子中量		
2	暗	褐色	ローム粒子多量	燒土粒子少量	11	黒	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化材粒子微量		
3	暗	褐色	ローム粒子中量	燒土粒子少量	12	暗	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子少量		
4	暗	褐色	ローム粒子多量	燒土粒子少量	13	暗	褐色	ローム粒子・炭化物多量、燒土粒子中量		
5	暗	褐色	ロームブロック中量	燒土粒子少量	14	暗	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子微量		
6	暗	褐色	ローム粒子多量	燒土粒子微量	15	暗	褐色	炭化物多量、ローム粒子・燒土粒子中量		
7	黒	褐色	ローム粒子中量	燒土粒子・從化材粒子微量	16	暗	褐色	燒土粒子・炭化材多量、ローム粒子中量		
8	暗	褐色	ローム粒子少量	燒土粒子・從化材粒子微量	17	暗	褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化材粒子微量		
9	黒	褐色	燒土粒子少量	ローム粒子・燒土粒子微量	18	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化材粒子微量		

遺物出土状況 土師器片221点（壺6・椀1・甕214）、須恵器片5点（蓋3・甕2）、土製品4点（土玉）、石器1点（砥石）、滑石片1点が出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。貝364個体（ヤマトシジミ）も南壁際の覆土中層から出土しているが、埋め戻された際に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化物が確認できしたことから、焼失した可能性がある。重複のため甕は確認できなかったが、貯蔵穴とP5の位置から、西壁に付設されていた可能性が考えられる。



第173図 第94号住居跡・出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
243	土器器	环	[142]	(43)	-	板石	明褐色	普通	内・外面ナデ	覆土中層	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q115	砥石	(8.4)	38	38	(90.4)	瑪瑙岩	平板石 砥面4面	覆土中 PL80	

第95号住居跡（第174図）

位置 調査区中央部のE 4 a1区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 第94号住居跡、第55号土坑を掘り込み、西部を第96・102号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.68m、短軸4.20mの不整長方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は35~39cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から北東コーナー部にかけて踏み固められている。

竈 北壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで97cm、燃焼部幅は重複のため65cmしか確認できなかった。第9~13層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。第96号住居に掘り込まれ、左袖部が欠損している。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第14層は掘り方への埋土である。

遺土層解説

1	褐	褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量
2	褐	褐色	砂粒多量、ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	8	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量
3	黑	褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	9	褐	褐色	ロームブロック・砂粒多量、燒土粒子中量、炭化粒子少量
4	褐	褐色	燒土ブロック多量、ローム粒子・砂粒中量、炭化粒子微量	10	褐	褐色	ロームブロック・砂粒多量、燒土粒子微量
5	黑	褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量	11	褐	褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子中量
6	赤	褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	12	褐	褐色	燒土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量
				13	褐	褐色	ローム粒子多量、砂粒中量、燒土粒子・炭化粒子微量
				14	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子少量

ピット 4か所。P 1~P 3は深さ4~13cmで、位置から主柱穴と考えられる。P 4は深さ57cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。搅乱のため長径47cm、短径32cmしか確認できなかったが、楕円形と推測される。深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

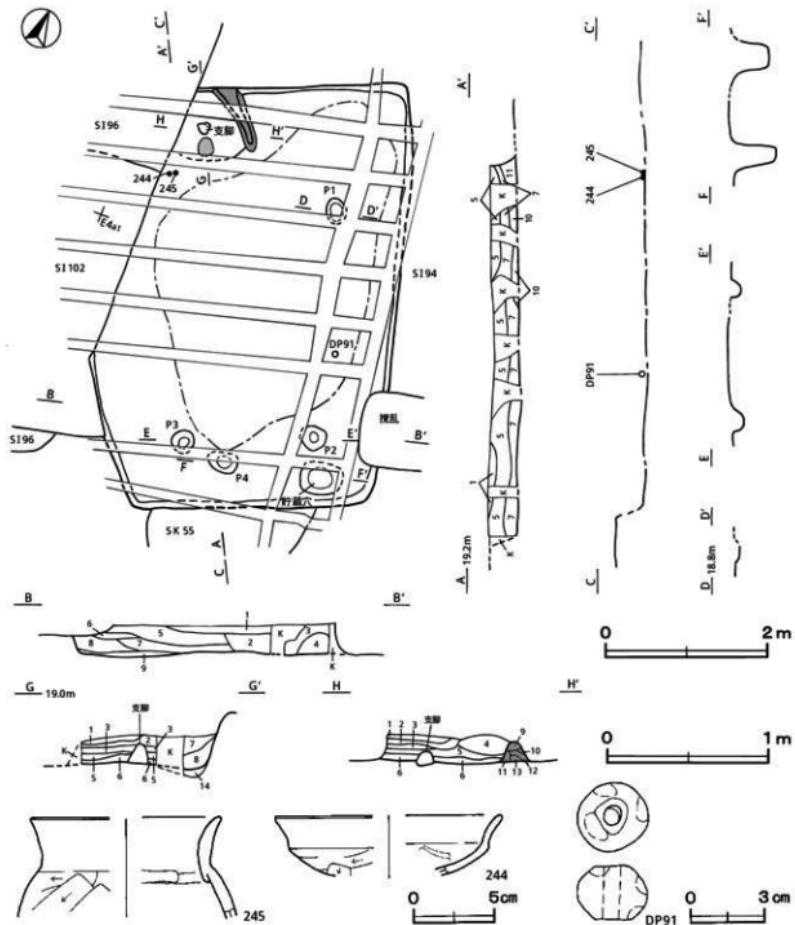
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黑	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
2	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子微量
3	黑	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子・燒土粒子微量	9	黑	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・燒化粒子微量
4	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	10	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・燒化粒子微量
5	黑	褐色	ロームブロック中量、燒土ブロック・ローム粒子微量	11	黑	褐色	燒化粒子多量、燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量
6	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片210点（坪61・高杯1・甕145・瓶3）、須恵器片2点（蓋・甕）、土製品3点（土玉2・支脚1）、石製品1点（白玉）、鐵滓1点（9.0g）、滑石片1点、鉛鉄鉗1点が出土している。また、混入した頁岩剝片1点も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第174図 第95号住居跡・出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	縦幅	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
244	土師器	环	[13.7]	(3.6)	-	長石・酸化鉄粒子	にぶい度	普通	外面へラ削り 内面へラナダ	床面	5%
245	土師器	瓶	[11.6]	(6.1)	-	長石・雲母	橙	普通	外面へラ削り 内面へラナダ	床面	5%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP91	土玉	2.9	2.2	0.7	18.5	長石	指錐圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	

第96号住居跡（第175・176図）

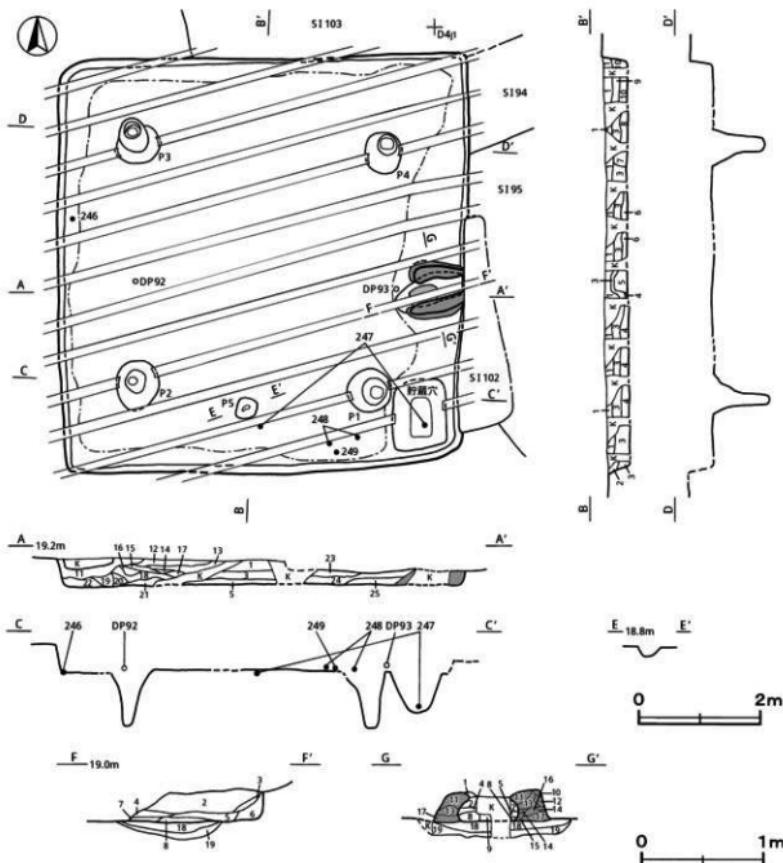
位置 調査区中央部のD 3 j0区, 標高18.8mの台地上に位置している。

重複関係 第94・95・103号住居跡を掘り込み, 南東部を第102号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.80m, 短軸6.68mの方形で, 主軸方向はN-87°-Eである。壁高は24~35cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 東壁の南寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで110cm, 燃焼部幅50cmである。第10~17層は袖部で, ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで, 赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。第18・19層は掘り方への埋土である。



第175図 第96号住居跡実測図

出土品解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック中量。ローム粒子・砂粒少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量。ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
8	黒褐色	ローム粒子中量。焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
9	暗赤褐色	粘土ブロック多量。焼土粒子中量。ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
10	暗赤褐色	焼土粒子多量。ローム粒子・砂粒少量
11	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒多量。ローム粒子少量
12	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒中量。ローム粒子少量
13	濃赤褐色	砂粒多量。ローム粒子中量。焼土粒子微量
14	黒褐色	砂粒多量。ローム粒子・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
15	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
16	黒褐色	ローム粒子・砂粒中量。焼土粒子少量
17	暗褐色	ローム粒子・砂粒中量。焼土粒子・砂粒少量
18	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒中量
19	黒褐色	ロームブロック中量

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ82～91cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長軸115cm、短軸86cmの長方形で、深さは63cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

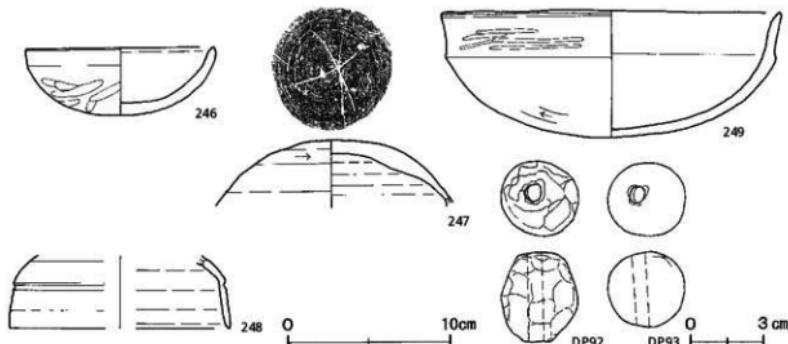
覆土 25層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	14	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック中量。焼土粒子少量	15	黒褐色	ロームブロック多量。焼土粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量。焼土粒子少量。炭化粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子多量。焼土粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量	18	黒褐色	ロームブロック中量。焼土粒子少量
6	暗褐色	焼土粒子中量。ロームブロック少量。炭化粒子微量	19	黒褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量	20	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量	21	暗褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量
9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒	22	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
10	黒褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量	23	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量	24	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
12	黒褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量	25	褐色	ローム粒子中量。焼土粒子少量
13	黒褐色	ローム粒子多量。焼土粒子少量			

遺物出土状況 土師器片953点（壺239・高杯16・鉢1・壺2・甕687・瓶8）、須恵器片24点（壺8・蓋5・高杯1・甕10）、土製品15点（土玉7・小玉1・管状土錐1・支脚6）、石器1点（砥石）、石製品1点（白玉）、鉄滓17点（124.5g）、滑石片7点、褐鉄鉱18点が出土している。また、混入した繩文土器片8点（深鉢）、土師器片2点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。246は西壁際の床面、249は南壁際の床面からそれぞれ出土している。247は貯蔵穴の覆土下層と南壁際の床面から出土した破片が接合したものである。248は埋め戻した際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第176図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
246	土器	环	11.6	41	-	長石・雲母	橙	普通	外圓磨き	床面	90%
247	須恵器	蓋	-	(41)	-	長石・石英・中礫	黄灰	普通	天井部上半回転ヘラ削り へつ記号「x」	貯蔵穴 床面	30%
248	須恵器	蓋	[134]	(44)	-	長石	灰	普通	天井部上半回転ヘラ削り	床面	20%
249	土器	鉢	20.8	7.8	-	長石・雲母	橙	普通	外圓ヘラ削り後、磨き	床面	50%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP92	土玉	32	35	0.6	32.5	長石	指揮压痕 一方向からの穿孔	床面	
DP93	土玉	31	31	0.6	29.3	長石	磨き 一方向からの穿孔	覆土下層	

第97号住居跡（第177・178図）

位置 調査区中央部のD 3 d5区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第98・99号住居跡を掘り込み、中央部を第100号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.54m、短軸8.47mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は40~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められていると推測される。壁溝が北西壁下と東コーナー部で確認できた。また、北東壁際で内部へ延びる6条の溝が確認できた。

竈 北西壁の西寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで151cm、燃焼部幅45cmである。第15~17層は袖部で、粘土粒子を主体とした黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。第18~21層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1	褐 色	炭化粒子・粘土粒子少量	施土ブロック微量	11	にふい黄褐色	粘土粒子多量	施土粒子・炭化粒子微量
2	にふい黄褐色	粘土粒子多量	施土ブロック少量	12	褐 色	炭化物	施土粒子微量
3	褐 色	ローム粒子少量	施土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13	褐 色	ロームブロック少量	
4	にふい黄褐色	施土ブロック・粘土粒子少量	炭化粒子微量	14	褐 色	ロームブロック微量	
5	褐 色	施土粒子少量	炭化粒子・粘土粒子微量	15	にふい黄褐色	粘土粒子多量	
6	褐 色	施土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量		16	にふい黄褐色	粘土粒子中量	
7	褐 色	施土ブロック・粘土粒子少量	炭化粒子微量	17	にふい黄褐色	粘土粒子多量	施土粒子・炭化粒子微量
8	にふい黄褐色	粘土粒子多量	施土ブロック少量・炭化粒子微量	18	褐 色	施土粒子多量	
9	褐 色	施土粒子少量	施土ブロック少量・炭化粒子微量	19	黑 色	ロームブロック・炭化粒子少量	施土粒子微量
10	にふい黄褐色	粘土粒子中量	施土粒子微量	20	褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量	
				21	褐 色	ロームブロック・施土粒子微量	

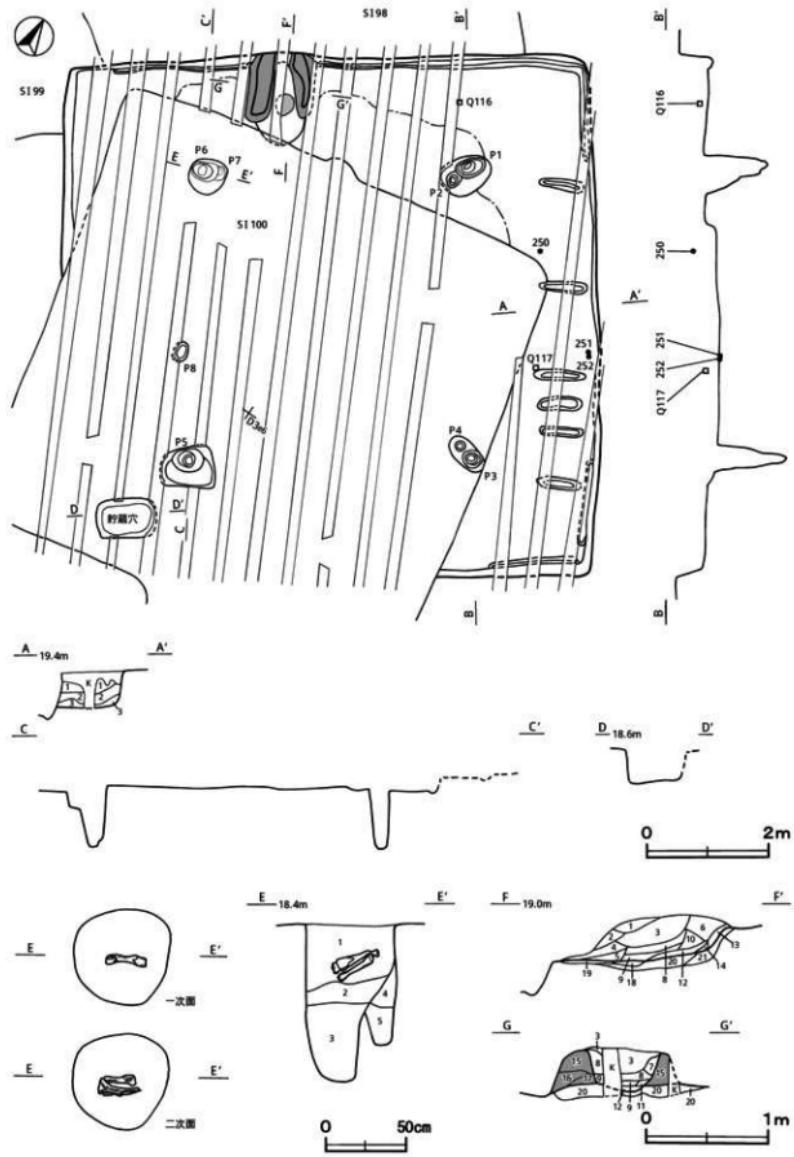
ピット 8か所。P 3~P 8は第100号住居の掘り方調査で確認した。P 1~P 7は深さ73~130cmで、規模と位置から主柱穴である。主柱は立て替えられている。第1~3層はP 6の覆土で、第4~5層はP 7の主柱抜き取り後の埋土である。土層観察の結果、P 7が古く、P 6が新しい。P 8の性格は不明である。

P 5~P 7 土層解説

1	褐 色	ロームブロック少量	4	褐 色	ローム粒子中量
2	褐 色	ロームブロック少量	5	褐 色	ロームブロック中量
3	褐 色	ロームブロック中量			

貯蔵穴 第100号住居の掘り方調査で確認した。南コーナー部に付設されている。長軸97cm、短軸64cmの長方形で、深さは56cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。



第177図 第97号住居跡実測図

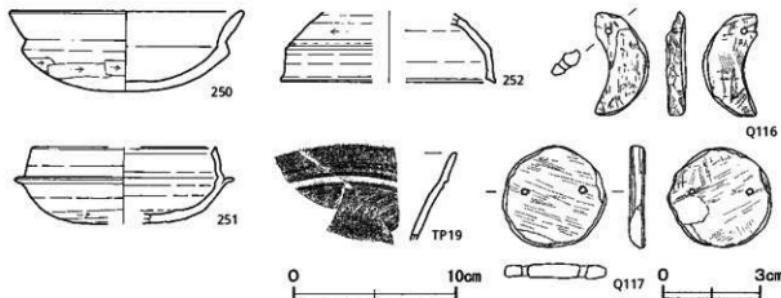
土器解説

1 種 別 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
2 種 別 色 ロームブロック少量

3 種 別 色 ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2644点（坏138・碗28・高坏41・鉢11・壺15・甕2389・瓶16・ミニチュア6）、須恵器片49点（坏10・壺22・壺3・甕1・甕13）、土製品13点（土玉11・管状土錐2）、石製品6点（勾玉1・臼玉1・双孔円板2・劍形模造品2）、鐵滓5点（8.0g）、滑石片24点、褐鐵鉄2点。馬骨3点（肩甲骨・上腕骨・大腿骨）が出土している。また、混入した繩文土器片8点（深鉢）、弥生土器片37点（壺）、土師器片4点（壺3・高台付坏1）、土師質土器片1点（内耳鏡）、鐵製品7点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。251・252は北東壁際の床面から出土している。馬骨はP6の第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。北東壁際の溝は、根太を設置した可能性がある。馬骨は馬齢3～4歳のもので、狭小なP6から異なる部位の骨が重なって出土している。主柱抜き取り後、全城が埋め戻される間に埋められている。



第178図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
250	土師器	坏	143	49	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り後、ナデ	覆土中層	60% PL66
251	須恵器	坏	[113]	47	-	長石・石英・中礫	灰	良好	体部下半回転へラ削り、端部内傾	床面	25% PL66
252	須恵器	壺	[132]	(42)	-	長石・石英	灰	良好	天井部全体に回転へラ削り、底部凹面	床面	10%

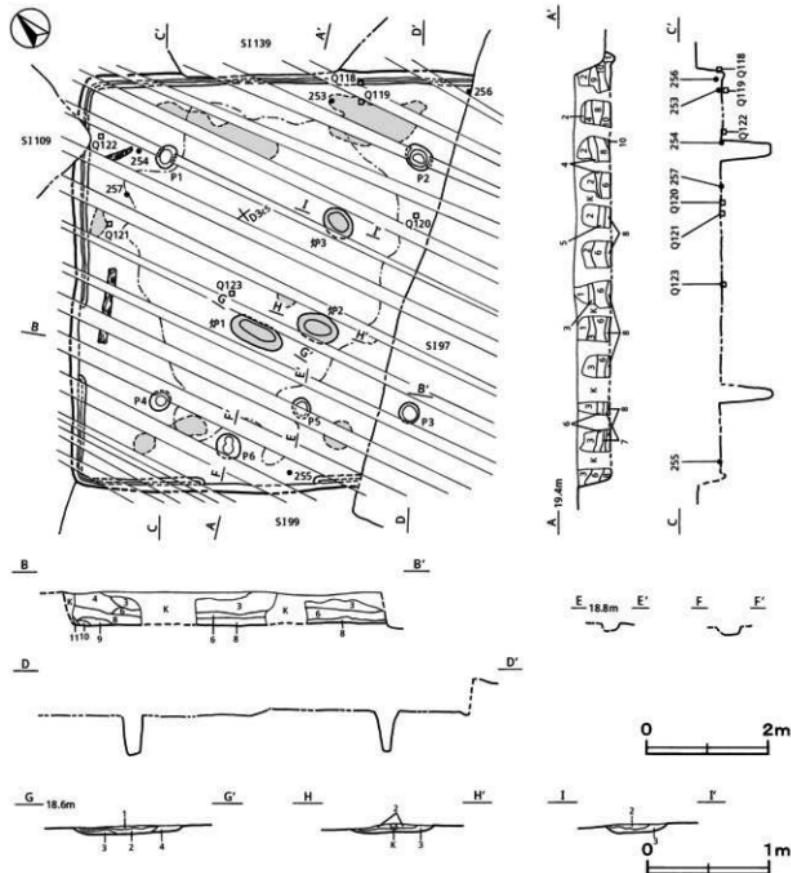
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	須恵器	瓶	長石	灰	良好	外面櫛振波状文、自然縫	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q116	勾玉	31	17	0.6	0.2	(4.3)	滑石	全面研磨、一方向からの穿孔	覆土下層	PL83
Q117	双孔円板	31	32	0.4	0.2	(7.8)	滑石	全面研磨、二方向からの穿孔	覆土中層	PL85

第98号住居跡（第179・180図）

位置 調査区中央部のD3c4区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第99号住居跡を掘り込み、南東部を第97号住居、北西部を第109号住居、北東部を第139号住居に掘り込まれている。



第179図 第98号住居跡実測図

規模と形状 長軸は6.80mで、短軸は重複のため6.36mしか確認できなかったが、P2・P3の位置から、主軸方向がN-52°-Wの方形と推測される。壁高は51cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が部分的に確認できた。壁際で焼土塊と炭化材が確認できた。

炉 3か所。床面を掘り込んだ地床炉である。炉1は中央部西寄りに位置し、長径91cm、短径36cmの楕円形で、床面を9cm掘り込んでいる。炉2は中央部南寄りに位置し、長径48cm、短径24cmの楕円形で、床面を7cm掘り込んでいる。炉3は中央部東寄りに位置し、長径36cm、短径27cmの楕円形で、床面を7cm掘り込んでいる。

伊 1～3 土層解説

1 黒 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	3 灰 色 燃土粒子少量、ロームブロック微量
2 紅 赤 色 ローム粒子中量、ロームブロック少量、炭化 粒子微量	4 灰 色 燃土ブロック少量、ロームブロック微量

ピット 6か所。P 3は第97号住居の掘り方調査で確認した。P 1～P 4は深さ62～85cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ12cm・14cmで、南西壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

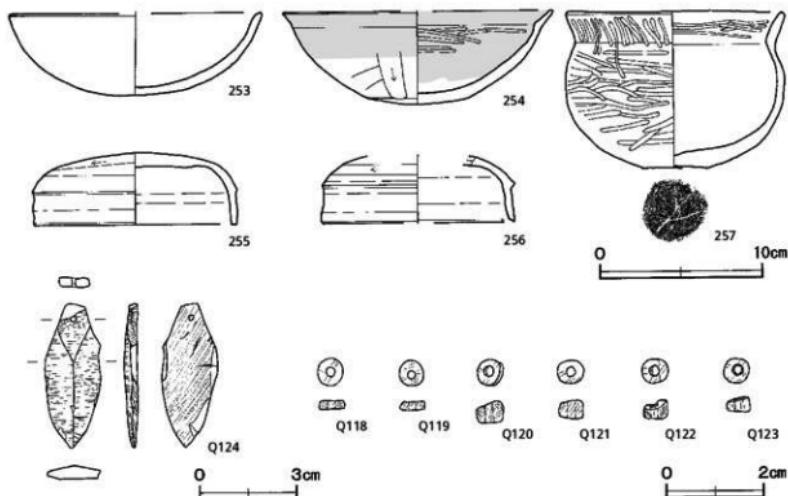
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 紅 色 燃土ブロック・ローム粒子微量	7 灰 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 紅 色 ロームブロック・炭化粒子微量	8 灰 色 ロームブロック少量、燃土粒子・炭化粒子微量
3 紅 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 灰 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黒 色 ロームブロック微量	10 灰 色 ロームブロック・燃土ブロック少量、炭化粒子微量
5 黒 色 ロームブロック少量、燃土粒子・炭化粒子微量	11 黒 色 ロームブロック少量
6 紅 色 ローム粒子微量	

遺物出土状況 土師器片2058点（坏156・椀1・高杯32・壺12・甕1839・瓶12・ミニチュア6）、須恵器片38点（坏11・蓋5・甕21・高杯1）、土製品10点（土玉7・管状土錐1・支脚2）、石器2点（砾石）、石製品7点（臼玉6・劍形模造品1）、滑石片16点、褐鐵鉄1点が出土している。また、混入した繩文土器片4点（深鉢）、弥生土器片18点（壺）、土師器片8点（壺4・器台4）、鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。253は北東壁際の床面、254は北コーナー部の床面、255は南西壁際の床面、Q119～Q123は壁際と中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。出入り口施設に伴うと考えられるピットが2か所確認できたことから、出入り口施設が作り替えられた可能性がある。床面で焼土塊と炭化材が確認できることから、焼失した可能性がある。



第180図 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
253	土器器	环	[154]	5.0	-	長石・酸化鉄粒子 胡赤褐色	良好	外表面磨き		床面	45% PL66
254	土器器	环	[164]	5.8	-	長石・酸化鉄粒子 にぼい質感	普通	外表面ヘラ削り 内面磨き		床面	35%
255	漆器器	蓋	12.4	4.4	-	長石・石英・中砂 灰白	普通	天井部約1/3に回転ヘラ削り 地部凹凸		床面	95% PL67
256	漆器器	蓋	[11周 (41)]	-	長石	灰	良好	天井部上半回転ヘラ削り 地部凹凸	覆土下層	50% PL67	
257	土器器	小形環	13.2	9.6	4.0	長石・黄母 赤褐色	良好	内・外表面磨き 底部木葉状の縁剥		床面	100% PL67

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q118	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL86
Q120	臼玉	0.6	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q119	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q121	臼玉	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q122	臼玉	0.5	0.4	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q123	臼玉	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q124	軽形模造品	4.4	1.6	0.4	0.2	(4.4)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL84

第99号住居跡（第181図）

位置 調査区中央部のD 3 d3区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 西部を第91号住居、東部を第97・98号住居に掘り込まれている。

規模と形状 短軸は6.85mで、長軸は重複のため7.30mしか確認できなかつたが、主軸方向がN-48°-Eの長方形と推測される。壁高は9~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北西壁下と南東壁下で確認できた。

炉 中央部北寄りに位置する地床炉である。長径は70cmで、短径は搅乱のため42cmしか確認できなかつたが、楕円形で、床面を5cm掘り下げている。

伊土層解説

1 線赤褐色 残土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子微量

2 線赤褐色 残土粒子中量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ52~56cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6も深さ16cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北コーナー部に付設されている。規模は長軸83cm、短軸73cmの長方形で、深さは15cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南コーナー部に付設されている。短軸は62cmで、長軸は搅乱のため60cmしか確認できなかつたが、方形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 11層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 線褐色 色 ロームブロック少量

7 線褐色 ローム粒子・残土粒子微量

2 線褐色 色 ロームブロック・炭化粒子少量

8 線褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

3 黒褐色 色 ローム粒子少量、残土粒子・炭化粒子微量

9 線褐色 ロームブロック少量

4 線褐色 色 ロームブロック微量

10 線褐色 ローム粒子微量

5 線褐色 色 ローム粒子微量

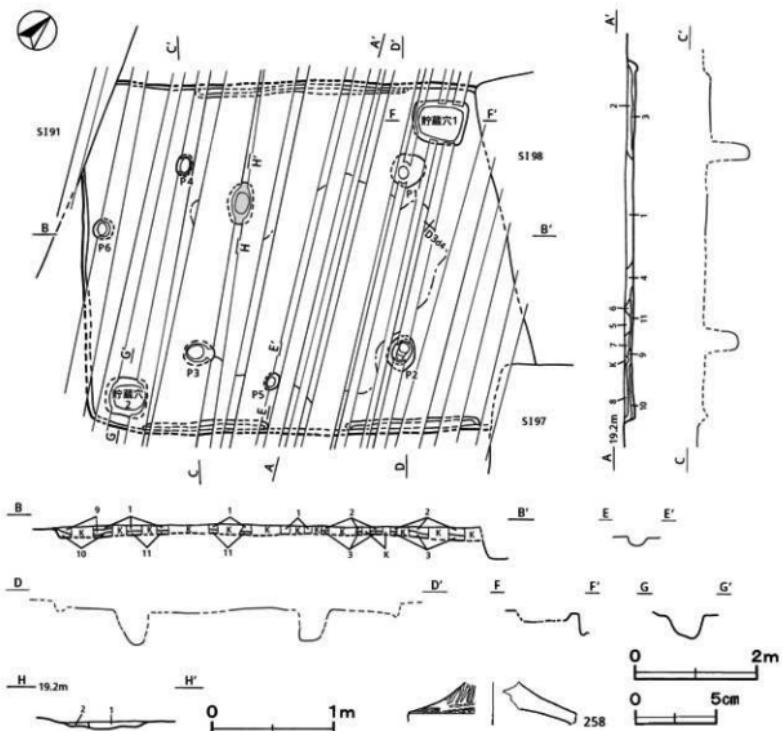
11 線褐色 ロームブロック少量

6 線褐色 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器片214点（器台2・壺1・甕210・瓶1）が出土している。また、混入した縄文土器片1

点（深鉢）、弥生土器片1点（底）、須恵器片1点（坏）、石製品1点（单孔円板）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀代と考えられる。南東壁際の中央部と南西壁際の中央部で出入り口施設に伴うと考えられるビットが確認できたことから、出入り口施設が方向を変えて作り替えられたと考えられる。



第181図 第99号住居跡・出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表（第181図）

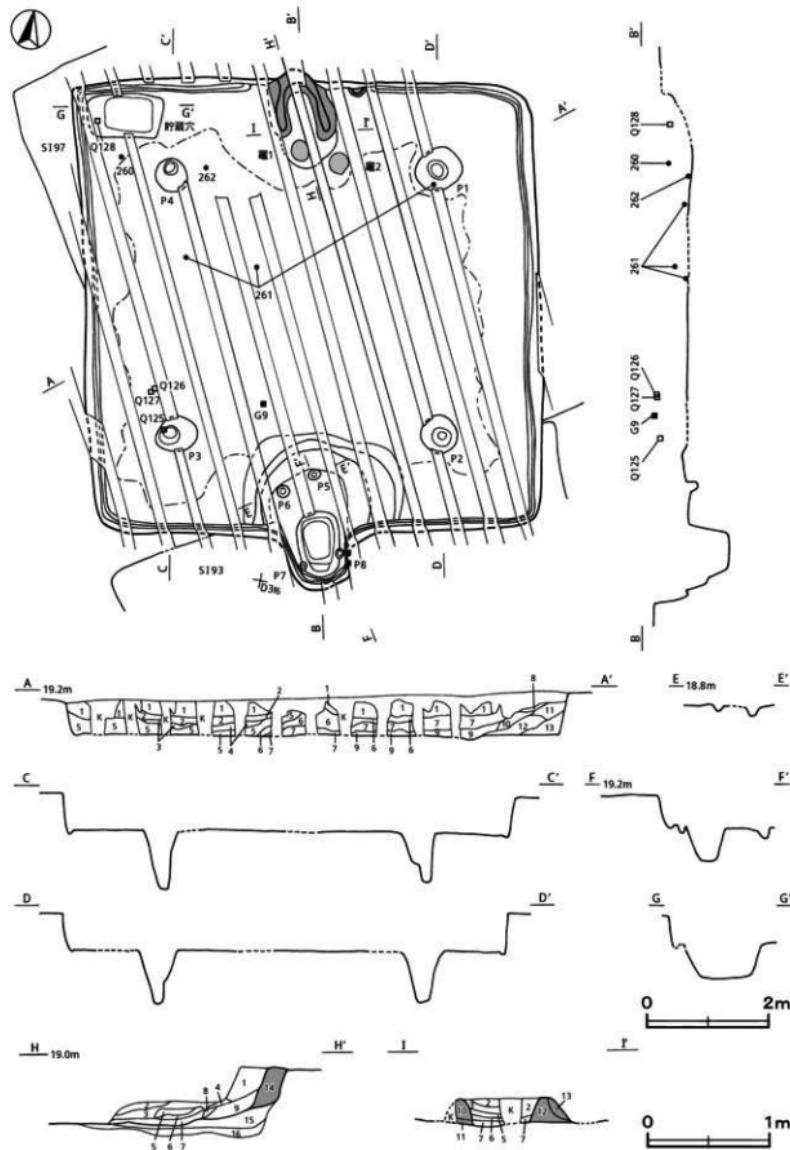
番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
258	土師器	器台	-	(2.7)	-	板石・石英・雲母	棕	普通	外面ハケ目調整・崩き 内面磨き	覆土中	5%

第100号住居跡（第182・183図）

位置 調査区中央部のD 3 d5区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第93・97号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.51m、短軸7.48mの方形で、南壁の中央部が張り出している。主軸方向はN-17°-Wである。壁高は48~63cmで、外傾して立ち上がっている。



第182図 第100号住居跡実測図

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。P 5・P 6の周囲に馬蹄形の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が全周している。

竈 2か所。竈1は北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで142cm、燃焼部幅47cmである。第10～14層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は攪乱のため、13cmしか確認できなかった。第15・16層は掘り方への埋土である。竈2は北壁の東寄りに付設されている。右袖部の一部と、竈1の右側で火床面が確認できたが、規模は不明である。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

■ 1 土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック少量	9	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量
2	褐	褐色	ローム粒子中量	10	褐	褐色	砂粒多量、ロームブロック中量
3	褐	褐色	ローム粒子中量、砂粒微量	11	暗	褐色	砂粒多量、ロームブロック・燒土粒子中量
4	に	褐色	砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量	12	暗	褐色	ロームブロック・燒土ブロック・砂粒少量
5	黒	褐色	ロームブロック・燒土ブロック微量	13	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量
6	黒	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	14	暗	褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子微量
7	黒	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	15	暗	褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
8	暗	褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒 少量	16	に	褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ80～97cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ18cm・14cmで、南壁際の中央部に位置し、周囲に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7・P 8は深さ14cmで、位置から出入り口施設あるいは張り出し施設に伴うピットの可能性が考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設され、規模は長軸138cm、短軸75cmの長方形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

張り出し施設 南壁の中央部に付設された掘り込みである。規模は長軸108cm、短軸70cmの長方形で、深さは65cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。規模と形状から、貯蔵穴の可能性が考えられる。

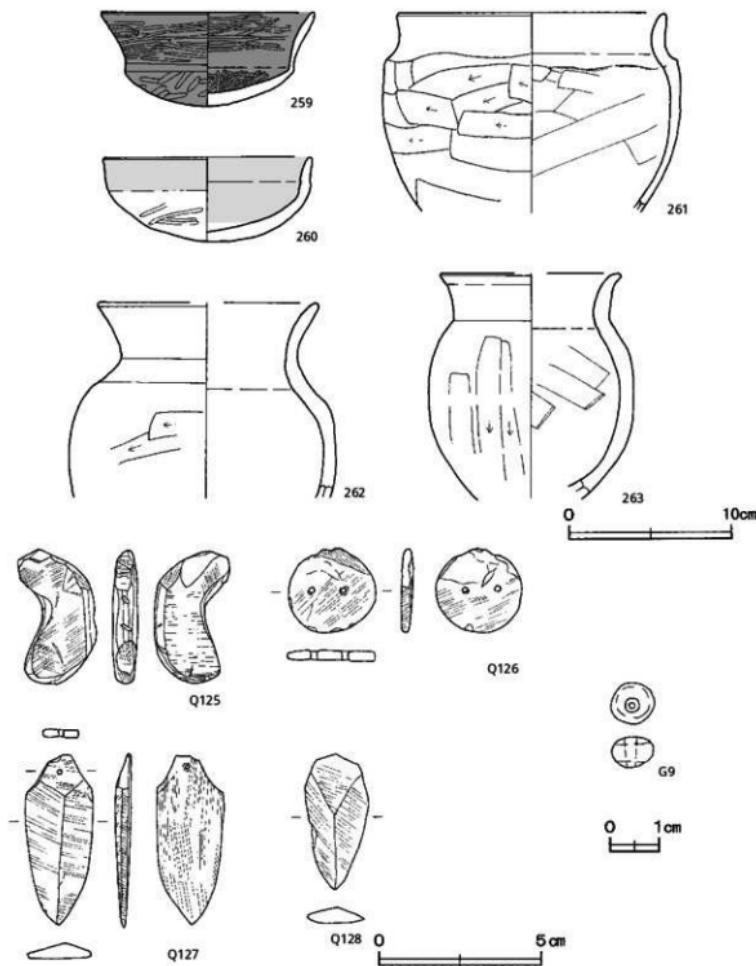
覆土 13層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

■ 2 土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗	褐色	ローム粒子微量
2	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子微量	9	褐	褐色	ローム粒子中量
3	褐	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量	10	暗	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
4	褐	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	11	暗	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	12	暗	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
6	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	13	暗	褐色	ロームブロック少量
7	黒	褐色	ローム粒子微量				

遺物出土状況 土師器片2203点（壺342・碗32・高杯2・鉢1・壺2・甕1794・瓶29・ミニチュア1）、須恵器片48点（壺8・蓋4・高杯2・甕8・甕26）、土製品37点（土玉23・管状土錐4・支脚10）、石製品4点（勾玉1・双孔円板1・剣形模造品2）、ガラス製品1点（小玉）、鉄滓2点（5.1g）、滑石片18点、褐鐵鉱26点が出土している。また、混入した織文土器片9点（深鉢）、弥生土器片16点（甕）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。262は北西コーナー部の床面、260は北西コーナー部の覆土中層、Q125～Q127は南西壁際の覆土上層、G 9は中央部南寄りの覆土上層、259は覆土中からそれぞれ出土している。261は床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。また、図示できなかった土玉は、全城の覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。張り出し施設は、出入り口施設の下方で使用された貯蔵穴の可能性が考えられる。



第183図 第100号住居跡出土遺物実物図

第100号住居跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									内・外面磨き			
259	土鍋器	环	13.1	5.8	-	長石・雲母	にぶい赤	良好	内・外面磨き		覆土中	90% PL65
260	土鍋器	环	12.6	5.2	-	長石・雲母	橙	普通	外面磨き		覆土中層	80% PL67
261	土鍋器	鉢	16.4 (12.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り 内面へラナダ		床面 覆土下層	40%	
262	土鍋器	鉢	[13.4] (12.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り		床面	35%	
263	土鍋器	小形環	[10.8] (13.8)	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	外面へラ削り後 ナダ 内面へラナダ		覆土中	40%	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q125	勾玉	4.1	2.4	0.8	-	12.2	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土上層 PL83	
Q126	貫孔円板	2.6	2.6	0.4	0.2	4.7	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層 PL85	
Q127	劍形環造品	5.2	2.1	0.5	0.1	(8.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土上層 PL84	
Q128	劍形環造品	4.2	2.0	0.2	-	5.0	滑石	未成品 全面研磨 未穿孔	覆土中層 PL84	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G 9	小玉	0.9	0.6	0.3	0.6	細	ガラス	一方向からの穿孔	覆土上層 PL89	

第101号住居跡（第184・185図）

位置 調査区中央部のD 3 c7区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第106号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.58m、短軸6.02mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅は揺乱のため30cmしか確認できなかった。第11~13層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

東土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・燒土粒子微量	7	に	赤褐色	燒土粒子・砂粒中量・ローム粒子少量
2	褐	褐色	砂粒中量・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗	褐	褐色
3	暗	褐色	燒土粒子中量・ローム粒子・炭化粒子少量	9	暗	褐	褐色
4	暗	褐色	燒土粒子・炭化粒子微量	10	暗	褐	褐色
5	暗	褐色	燒土粒子中量・ローム粒子・炭化粒子少量	11	に	赤褐色	砂粒多量・ローム粒子・燒土粒子少量
6	暗	褐色	燒土粒子中量・ローム粒子・炭化粒子微量	12	暗	褐	褐色
		少量		13	暗	褐	褐色

ピット 5か所。P 1~P 3は深さ47~64cmで、規模と位置から主柱穴である。P 4・P 5は深さ27cm・22cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層観察の結果、P 5が古く、P 4が新しい。

P 4・P 5土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量	4	暗	褐色	ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	燒土粒子中量・ローム粒子少量・炭化粒子微量	5	暗	褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
3	暗	褐色	ローム粒子少量	6	暗	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長径89cm、短径72cmの楕円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

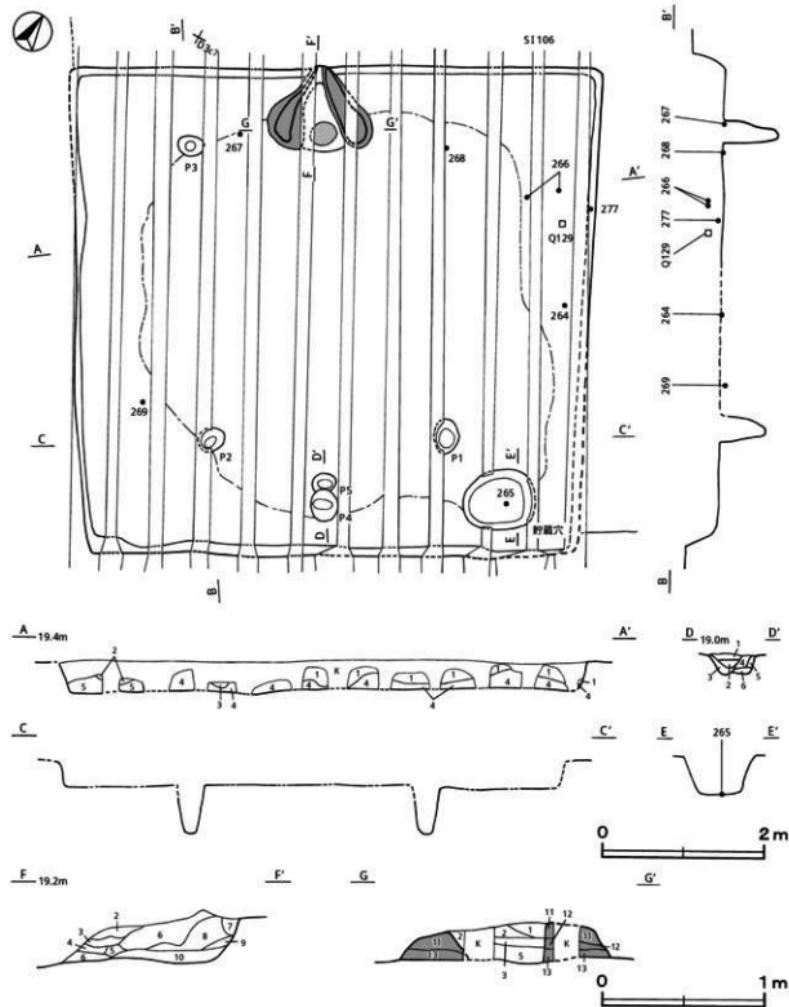
土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・燒土粒子少量・炭化粒子微量	4	暗	褐色	ロームブロック少量
2	暗	褐色	ロームブロック少量・燒土粒子微量	5	暗	褐色	ローム粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐色	ロームブロック少量・燒土粒子・炭化粒子微量				

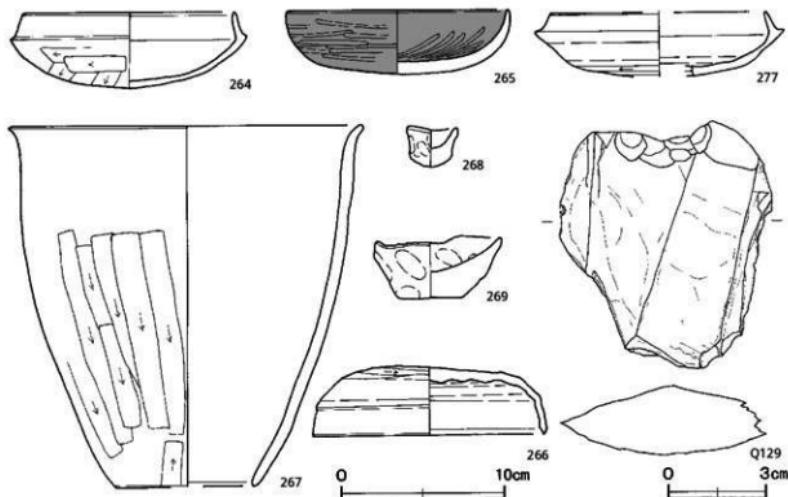
遺物出土状況 土師器片2610点(坏267・楕3・高坏8・鉢2・壺1・甕2314・瓶11・ミニチュア4)、須恵器片54点(坏15・蓋8・高坏4・壺2・甕25)、土製品38点(土玉31・管状土鉢7)、石器3点(磨石2・砥石1)、石製品23点(臼玉13・紡錘車1・單孔円板2・双孔円板6・劍形模造品1)、鐵滓3点(138.7g)、滑石片16点、瑪瑙2点が出土している。また、混入した繩文土器片5点(深鉢)、弥生土器片21点(壺)、土師器片4点

(増), 鉄製品 2 点 (不明) も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。264は北東壁際の床面, 267は竈左脇の床面, 265は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。266と277は北東壁際から出土したもので、組み合うとみられる。また、図示できなかった土製品と石製品は、全城の覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 6 世紀中葉と考えられる。



第184図 第101号住居跡実測図



第185図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
264	土鍋器	环	13.0	4.7	-	長石・雲母	ぶい青	普通	外輪へラ削り	床面	95% PL.68
265	土鍋器	环	13.6	3.9	-	長石・石英・雲母	黒模	良好	内・外削き	貯藏穴	75% PL.68
277	須恵器	环	[13.2]	3.9	-	長石・中礫	灰白	良好	体部約1/3に回転へラ削り	覆土下層	40% PL.67
266	須恵器	蓋	14.2	4.2	-	長石・中礫	灰白	良好	天井部約1/3に回転へラ削り	覆土中層	70% PL.67
267	土鍋器	瓶	21.7	22.1	[8.2]	長石・石英・雲母	橙	普通	外輪へラ削り	床面	60%
268	土鍋器	ミニチュア	2.9	2.4	-	長石・雲母	橙	普通	指鍛压痕	床面	100%
269	土鍋器	ミニチュア	7.7	3.7	3.8	長石・石英・雲母	橙	普通	指鍛压痕	床面	60%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q129	原石	7.6	6.5	2.1	122.8	滑石	剥離痕	覆土中層	

第102号住居跡（第186図）

位置 調査区中央部のE 3a0区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第95・96号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.50mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

竈 東壁の北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、燃焼部幅は搅乱のため23cmしか確認できなかった。左袖部は搅乱のため欠損している。第8～11層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第12・13層は掘り方への埋土である。

竪土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黄褐色 | ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子微量 | 7 紫赤褐色 | 燒土粒子少量、砂粒中量、ローム粒子少量 |
| 2 青褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子、砂粒少量、炭化粒子微量 | 8 黑褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子、砂粒少量 |
| 3 紫褐色 | ロームブロック中量、砂粒少量、燒土粒子、炭化粒子微量 | 9 紫赤褐色 | 砂粒多量、燒土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 4 黑褐色 | 燒土粒子、砂粒中量、ロームブロック少量 | 10 にじく黄褐色 | 燒土粒子、砂粒多量、ローム粒子少量 |
| 5 紫赤褐色 | 燒土粒子、砂粒中量、ローム粒子少量 | 11 紫褐色 | ローム粒子多量、燒土粒子少量 |
| 6 黄褐色 | ローム粒子、砂粒中量、燒土粒子、炭化粒子微量 | 12 黑褐色 | ローム粒子多量、燒土粒子中量 |
| 7 | | 13 紫褐色 | 燒土ブロック多量、砂粒中量、ローム粒子少量 |

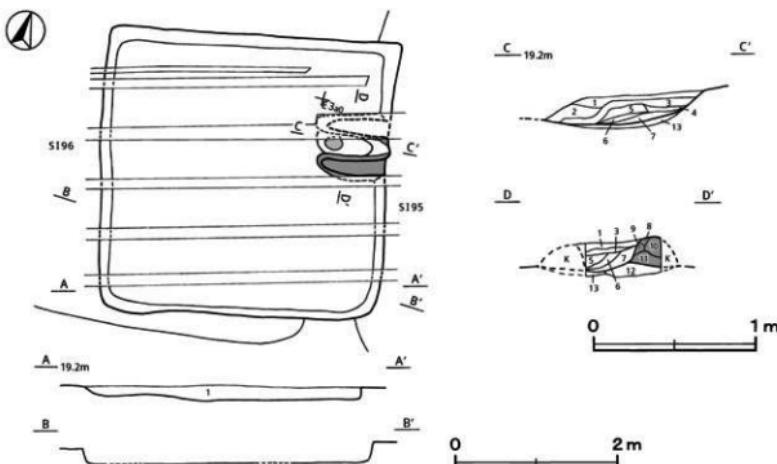
覆土 単一層である。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量

遺物出土状況 土師器片34点(坏9・甕25)、土製品5点(管状土錐1・支脚4)、鐵滓2点(3.2g)、褐鉄鉢17点が出土している。また、混入した縄文土器片2点(深鉢)も出土している。出土遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係から6世紀末葉と考えられる。内部にピットを有しない住居跡である。



第186図 第102号住居跡実測図

第103号住居跡 (第187・188図)

位置 調査区中央部のD3-J0区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 南部を第94・96号住居に掘り込まれている。

規模と形状 短軸は5.20mで、長軸は重複のため4.15mしか確認できなかったが、主柱穴の位置から長方形と推測される。主軸方向はN-58°Eである。壁高は26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで84cmで、燃焼部幅は42cmと推測される。第2～5層は竈の左袖部で、粘土ブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。右袖部は欠損してい

るが、竈の構築材とみられる粘土ブロックが少量遺存している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第6層は掘り方への埋土である。

土層解説

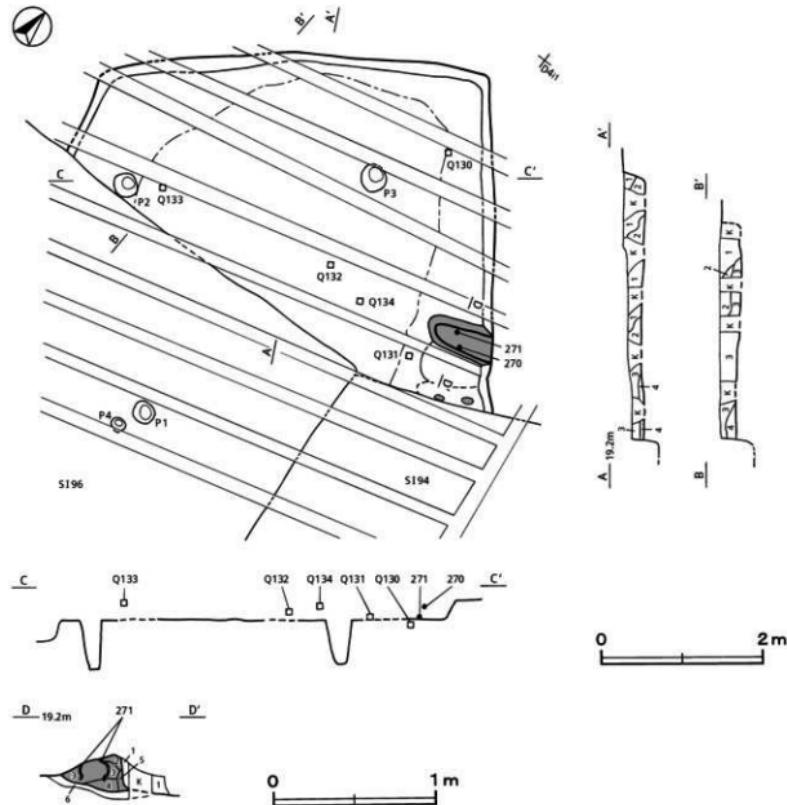
1 黒 色 ローム粒子多量、粘土粒子・炭化粒子少量	4 灰 黑 色 ローム粒子・粘土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
2 緑 黑 橙 色 地土粒子多量、粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量	5 灰 黑 橙 色 地土粒子・粘土粒子・砂粒中量
3 黄 色 ローム粒子・粘土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量	6 黄 黑 橙 色 ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット 4か所。P1とP4は第96号住居の掘り方調査で確認した。P1～P3は深さ56～65cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ79cmで、規模とP1に接して位置していることから、立て替えられた主柱穴と考えられる。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

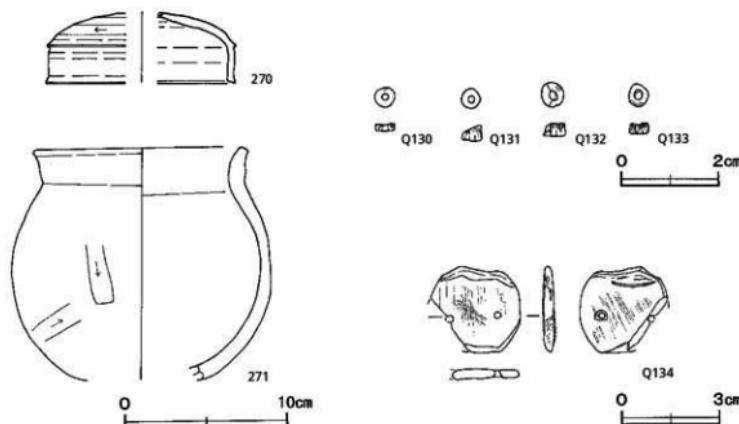
1 黒 黄 色 ロームブロック多量、粘土粒子少量	3 黑 黄 色 ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子少量
2 黄 黑 色 ローム粒子中量、粘土粒子少量	4 灰 黄 色 ローム粒子多量、粘土粒子・炭化粒子少量



第187図 第103号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片606点（坏62・梶9・高坏4・壺1・甕528・瓶2）、須恵器片9点（坏4・壺3・甕2）、土製品5点（小玉1・土玉4）、石器1点（敲石）、石製品5点（臼玉4・双孔円板1）、鐵滓4点（9.0g）、滑石片6点、褐鐵鉱4点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片4点（壺）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。270は壺の上面から出土している。271は甕左袖部の内部から逆位で出土しており、補強材に転用されている。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



第188図 第103号住居跡出土遺物実測図

第103号住居跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
270	須恵器	壺	[11.6]	(4.3)	-	長石	黄灰	良好	天井部全体に回転ヘラ削り 繩部凹面	壺	15%
271	土師器	小形壺	12.9	(14.3)	-	長石・雲母	にぶい黄	普通	外面ヘラ削り	甕袖部内	85% PL.68

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q130	臼玉	0.4	0.2	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL.86
Q131	臼玉	0.4	0.4	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL.86
Q132	臼玉	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL.86
Q133	臼玉	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土上層	PL.86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q134	双孔円板	2.6	(2.8)	0.3	0.2	(4.3)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	

第104号住居跡（第189・190図）

位置 調査区中央部のD3g9区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第105号住居跡、第67号土坑を掘り込み、北コーナー部を第45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.96m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-65°-Eである。壁高は15~37cmで、外傾し

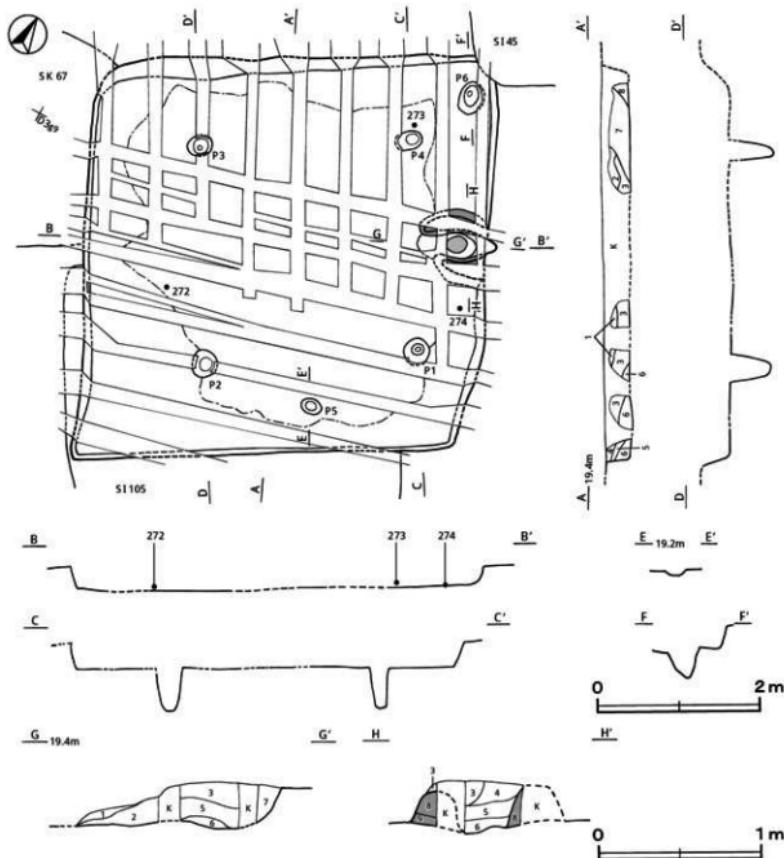
て立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

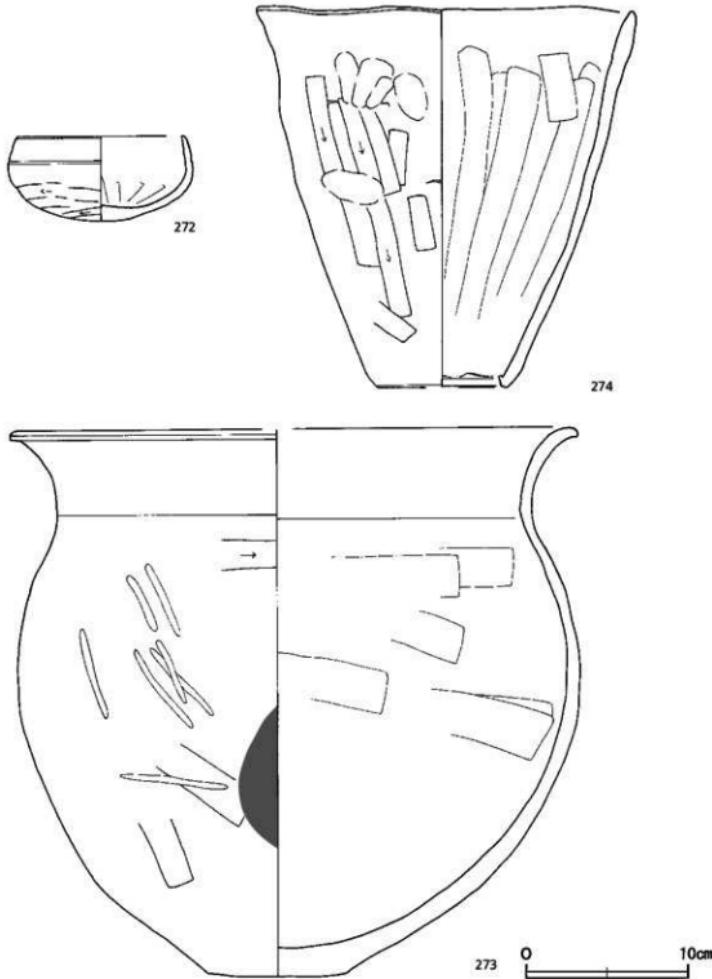
竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅30cmである。第8・9層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外へ17cm掘り込まれている。

電土層解説

1	緑 褐 色	ローム粒子中量、粘土粒子微量	6	緑 褐 色	粘土粒子中量、ローム粒子少量
2	黒 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子、粘土粒子、砂粒少量	7	緑 褐 色	粘土粒子中量、ローム粒子少量
3	黒 褐 色	ローム粒子、粘土粒子、炭化粒子、砂粒少量	8	緑 色	ロームブロック・砂粒中量
4	黒 褐 色	ローム粒子、粘土粒子中量、砂粒少量	9	緑 褐 色	ロームブロック少量、粘土粒子、炭化粒子微量
5	黒 褐 色	ローム粒子、粘土粒子少量			



第189図 第104号住居跡実測図



第190図 第104号住居跡出土遺物実測図

ビット 6か所。P 1～P 4は深さ48～59cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ8cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うビットと考えられる。P 6は深さ33cmで、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片906点（坏96・瓶4・高坏13・鉢20・甕754・瓶19）、須恵器片5点（坏1・蓋3・甕1）、土製品11点（土玉6・管状土錐3・土鉢1・支脚1）、石器1点（砾石）、石製品4点（甕玉1・双孔円板2・劍形模造品1）、滑石片9点が出土している。また、混入した弥生土器片10点（甕）、鐵製品2点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。274は竈の脇、272は中央部西寄り、273は北コーナー部のそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。

第104号住居跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
272	土師器	坏	10.2	5.2	-	長石・石英・雲母	暗褐色	外面へラ削り 内面へラナデ		床面	85% PL67
273	土師器	瓶	[34.4]	33.8	8.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面へラ削り後、磨き 内面へラナデ	床面	85% PL68
274	土師器	瓶	23.2	23.4	[8.0]	長石・雲母	黄褐色	普通	外面へラ削り 磨鍛圧痕 内面へラナデ	床面	60% PL68

第105号住居跡（第191図）

位置 調査区中央部のD3g0区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第104号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.18m、短軸3.87mの方形で、主軸方向はN-63°-Eである。壁高は10~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで75cm、燃焼部幅は揺乱のため17cmしか確認できなかった。重複のため、左袖部は欠損している。第1~4層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで延びていない。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量	3	にぶい褐色	砂粒中量、ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2	赤褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂粒微量

ピット 4か所。P2~P4は第104号住居の掘り方調査で確認した。P1~P3は深さ43~65cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ33cmで、性格は不明である。

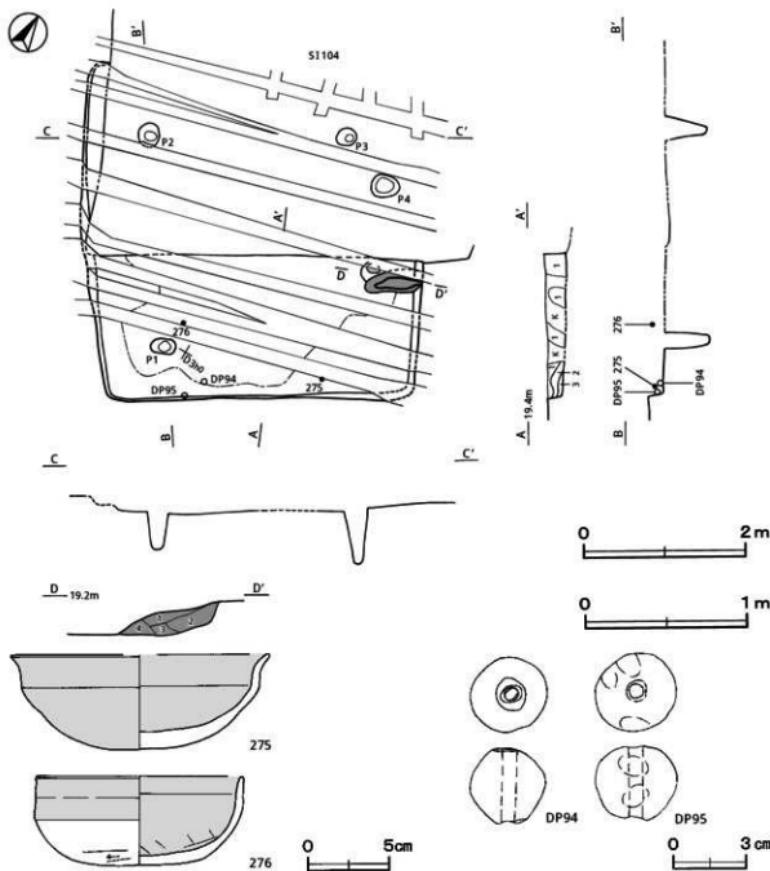
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片195点（坏40・鉢1・甕154）、土製品3点（土玉）、滑石片1点が出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）、弥生土器片2点（甕）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。275は南東壁際、276は中央部南寄りのそれぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。



第191図 第105号住居跡・出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表（第191図）

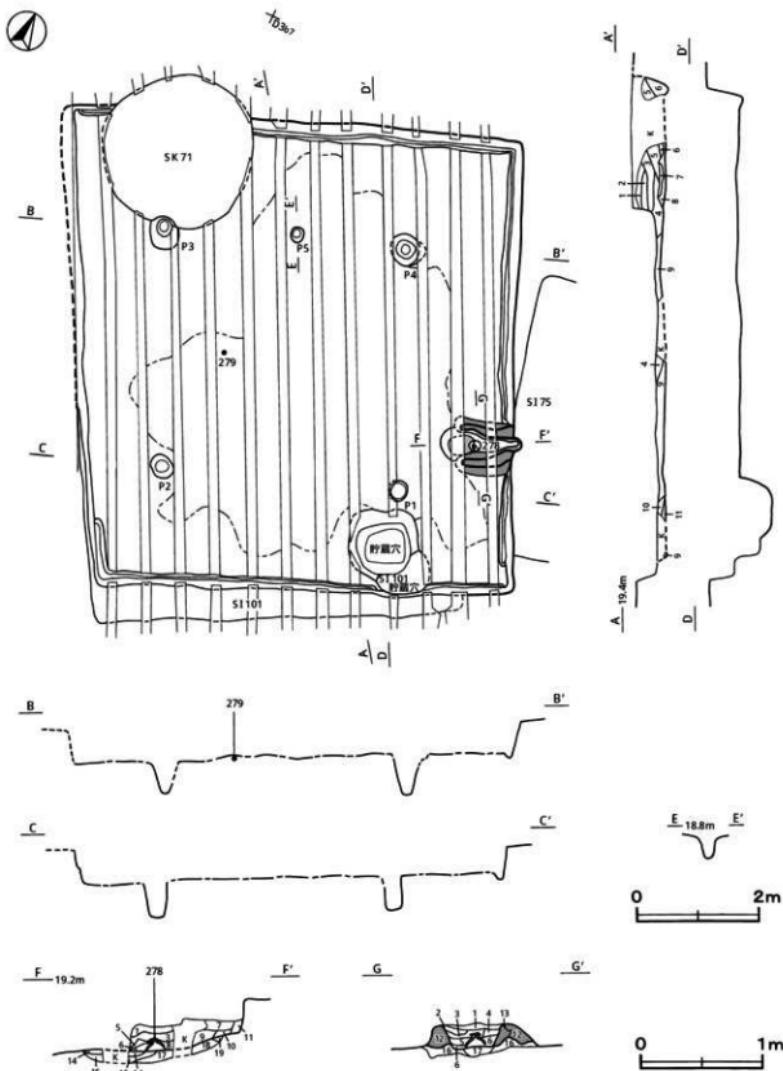
番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
275	土師器	环	[158]	58	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外腹底部ヘラ削り	覆土中層	40%
276	土師器	环	12.7	6.5	-	長石・雲母	にぶい橙	良好	外腹ヘラ削り 内腹ヘラナデ	覆土中層	75% PL67

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP94	土玉	32	3.1	0.6	25.8	長石	上下へタ切り 二方向からの穿孔	床面	
DP95	土玉	33	3.0	0.6	(29.8)	長石	指揮圧痕 二方向からの穿孔	覆土下層	

第106号住居跡（第192・193図）

位置 調査区中央部のD 3 c7区, 標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第75号住居跡を掘り込み, 南部を第101号住居, 北部を第71号土坑に掘り込まれている。



第192図 第106号住居跡実測図

規模と形状 長軸7.92m、短軸7.17mの長方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁高は51cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が南西壁下を除いて確認できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで136cm、燃焼部幅39cmである。第12・13層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に15cm掘り込まれている。第14~19層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1 細 色	燒土粒子・砂粒少量	11 にい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 にい黄褐色	燒土粒子・炭化粒子微量	12 にい黄褐色	粘土ブロック多量
3 細赤褐色	燒土ブロック・砂粒少量、炭化物微量	13 細赤褐色	粘土ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
4 にい黄褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	14 細 色	粘土ブロック多量
5 細赤褐色	燒土ブロック少量、燒土粒子・砂粒微量	15 褐 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量
6 細赤褐色	燒土粒子少量、砂粒微量	16 褐 色	ロームブロック・燒土ブロック少量
7 にい黄褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量	17 褐 色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
8 にい黄褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子少量	18 にい黄褐色	燒土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
9 にい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量	19 にい黄褐色	燒土粒子少量、燒土粒子微量
10 にい黄褐色	ロームブロック・燒土粒子微量		

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ51~64cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ38cmで、主柱穴の間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部の南寄りに付設され、長軸115cm、短軸107cmの隅丸方形で、深さ53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

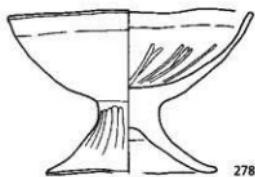
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7 細 色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
2 細 色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	8 褐 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量
3 細 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 褐 色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 細 色	ロームブロック微量	10 細 色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
5 細 色	燒土粒子少量	11 細 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 細 色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片1988点（坏211・碗28・高坏36・鉢20・壺4・甕1684・瓶4・ミニチュア1）、須恵器片69点（坏18・蓋6・甕7・甕38）、土製品22点（土玉18・管状土錐2・支脚2）、石製品3点（白玉2・双孔円板1）、滑石片50点、褐鐵鉱1点が出土している。また、混入した縄文土器片7点（深鉢）、弥生土器片14点（壺）、鐵製品1点（不明）、黒曜石1点も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。278は竈の燃焼部から逆位で出土しており、支脚に転用されている。また、図示できなかった土玉は、竈の燃焼部から5点、貯蔵穴の覆土中から1点、全城の覆土中から12点が散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



278



279



第193図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表（第193図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
278	土器	高環	149	10.1	[10.2]	長石・石英・雲母 明赤褐	普通	輪部外表面ハラ削り 環部内面磨き		竪燃焼部	90% PL67
279	須恵器	瓦	-	(3.2)	-	長石	灰	良好 外面導電波状文		床面	15%

第108号住居跡（第194・195図）

位置 調査区中央部のC 3 j4区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 西部を第109号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.26mで、短軸は重複のため4.20mであるが、P 3 の位置から、主軸方向はN-41°-Wの方形と推測される。壁高は10~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められていない。

炉 北コーナー部に付設された地床炉である。長径は67cmで、短径は搅乱のため27cmしか確認できなかった。床面を3cm掘り下げている。第2層は掘り方への埋土と考えられる。

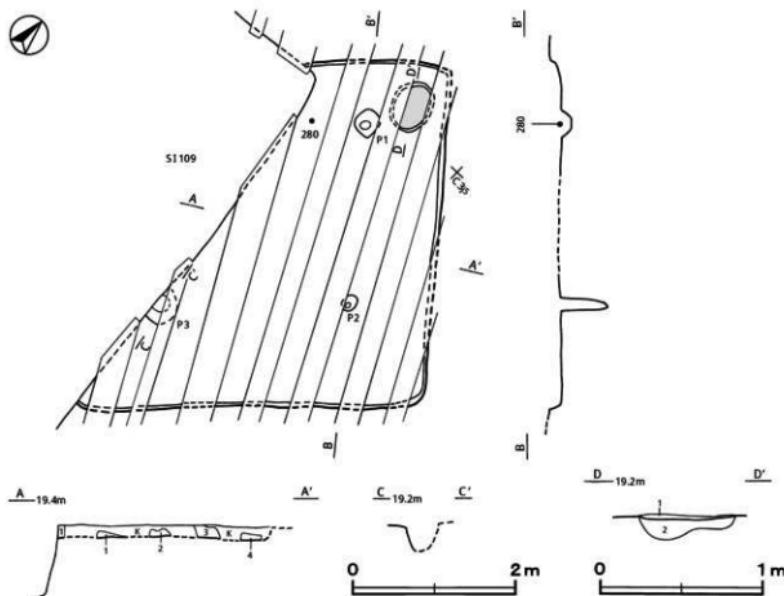
伊土層解説

1 塗赤褐色 残土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量

2 塗褐色 ローム粒子少量、残土粒子、炭化粒子微量

ピット 3か所。P 1 ~ P 3 は深さ12~56cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。



第194図 第108号住居跡実測図

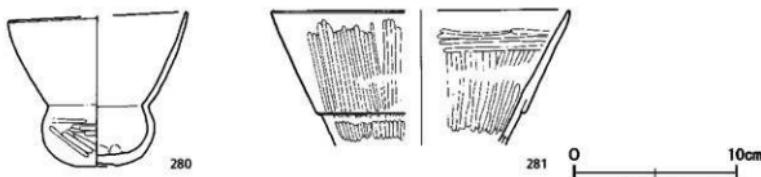
土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片271点（壇10・器台6・壺29・甕226）が出土している。また、混入した繩文土器片4点（深鉢）、土師器片27点（壺25・高杯2）、須恵器片3点（甕）、土製品3点（土玉2・支脚1）、鉄製品3点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。280は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半と考えられる。



第195図 第108号住居跡出土遺物実測図

第108号住居跡出土遺物観察表（第195図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
280	土師器	壺	[11.0]	9.5	2.4	長石・炭化粒子	暗褐色	良好	外面磨き	床面	85% PL68
281	土師器	壺	[18.4]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	複合口縁 外面ハケ目調査後、磨き 内面磨き	覆土中	10%

第109号住居跡（第196～198図）

位置 調査区中央部のD 3a3区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第98・108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺9.20mの方形で、主軸方向はN-87°-Eである。壁高は53～68cmで、外傾して立ち上がっている。

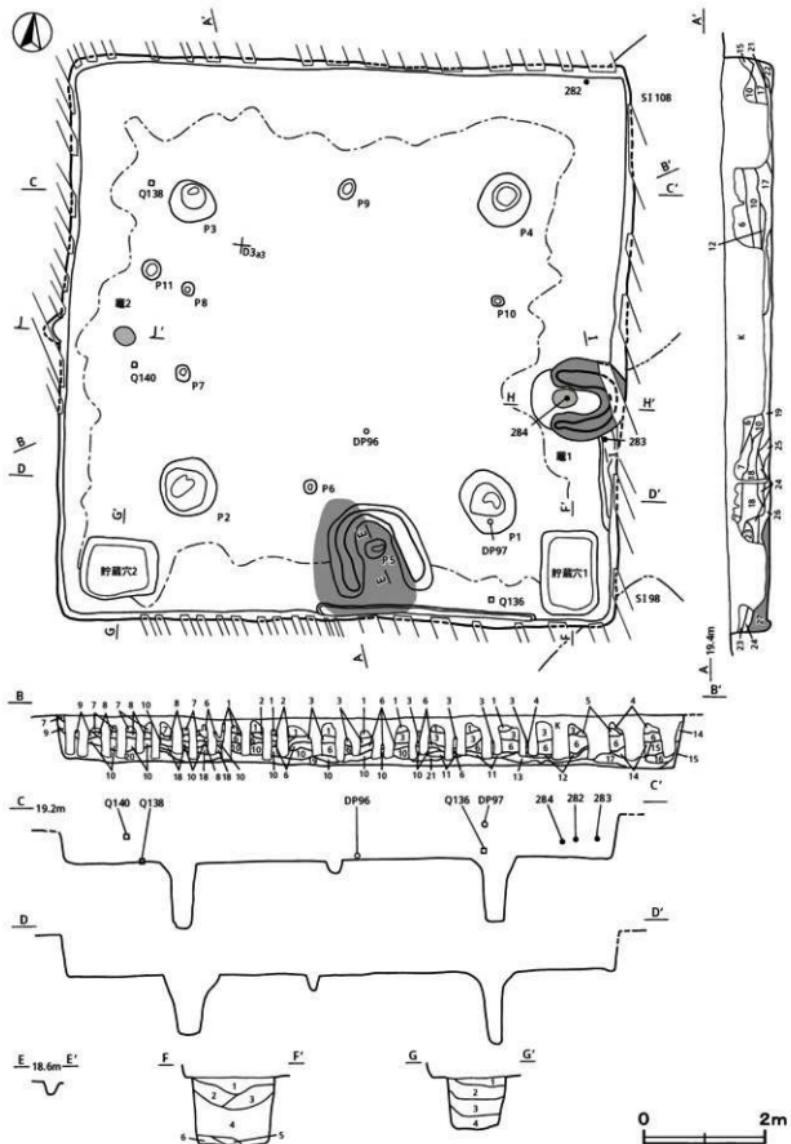
床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。一部で壁溝が確認できた。P 5の周間に馬蹄形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。また、高まりの上部には粘土ブロックがスロープ状に貼られている。

窓 2か所。竈1は東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで130cm、燃焼部幅43cmである。第8～15層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16～18層は掘り方への埋土である。竈2は西壁の中央部に付設されている。火床面と煙道部が遺存しており、規模は、焚口部から煙道部まで152cmである。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれている。

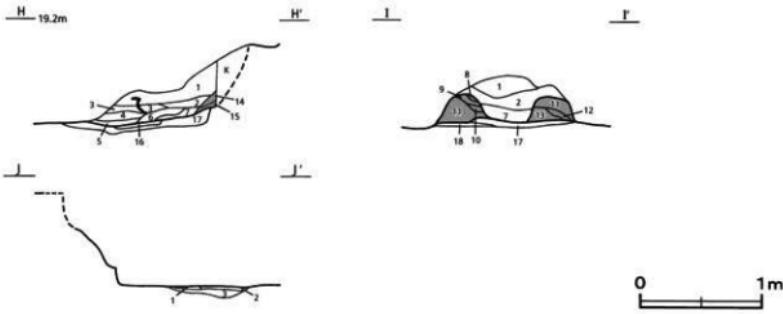
遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

第1土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 明黄褐色 ローム粒子・砂粒中量、炭化粒子少量
3 明黄色 色砂粒少量、ローム粒子微量、焼土粒子微量
4 黑褐色 烧土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子微量
6 黑褐色 ローム粒子、燒土粒子少量、炭化粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
8 にい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子少量
9 にい黄褐色 烧土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量
10 灰褐色 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11 にい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
12 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
13 にい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
14 にい黄褐色 烧土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量
15 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
16 暗赤褐色 烧土粒子微量、ローム粒子微量
17 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
18 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量



第196図 第109号住居跡実測図(1)



第197図 第109号住跡実測図(2)

竪2土層解説

- 1 線 布 色 残土ブロック中量、炭化粒子微量
2 線 布 色 残土粒子少量、炭化粒子微量

3 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

ピット 11か所。P 1～P 4は深さ94～114cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置し、周囲に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 10は深さ18～28cmで、主柱穴間に位置していることから補助柱穴と考えられる。P 11は深さ22cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東コーナー部に付設されている。長軸137cm、短軸97cmの長方形で、深さは110cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。貯蔵穴2は南西コーナー部に付設されている。長軸129cm、短軸101cmの長方形で、深さは87cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況で、互層に埋め戻されている。

貯蔵穴1土層解説

- 1 線 布 色 ローム粒子少量
2 線 布 色 ロームブロック少量
3 線 布 色 ロームブロック少量

- 4 黒 色 ロームブロック微量
5 黒 色 ロームブロック中量
6 黒 色 ロームブロック少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 線 布 色 ロームブロック・残土ブロック微量
2 黒 色 ロームブロック少量

- 3 黒 色 ローム粒子中量
4 黒 色 ロームブロック少量

覆土 26層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。第27層は、出入り口施設に伴うとみられるスロープ状の高まりの構築土である。

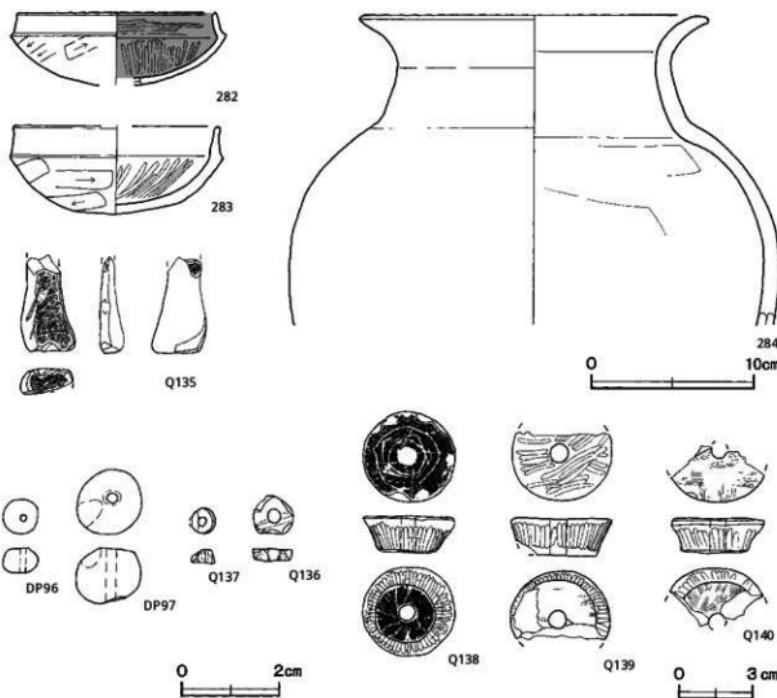
土層解説

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1 線 布 色 ロームブロック少量、残土粒子、炭化粒子微量 | 15 線 布 色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 線 布 色 ロームブロック微量 | 16 線 布 色 ロームブロック微量 |
| 3 線 布 色 ロームブロック中量、残土粒子、炭化粒子少量 | 17 黒 色 ロームブロック中量 |
| 4 線 布 色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 18 線 布 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒 色 ロームブロック中量 | 19 線 布 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 線 布 色 ロームブロック・炭化粒子少量、残土粒子微量 | 20 線 布 色 ロームブロック少量、残土ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 線 布 色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |
| 8 線 布 色 ロームブロック少量 | 21 黒 色 ロームブロック中量 |
| 9 線 布 色 ローム粒子少量、残土粒子微量 | 22 黒 色 ロームブロック少量 |
| 10 線 布 色 ロームブロック・砂粒少量、残土粒子・炭化粒子微量 | 23 黒 色 ローム粒子中量、炭化物・残土粒子微量 |
| 11 線 布 色 ロームブロック・残土粒子、炭化粒子微量 | 24 線 布 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 12 線 布 色 ロームブロック中量 | 25 黒 色 ローム粒子微量 |
| 13 黒 色 ロームブロック少量 | 26 黒 色 ロームブロック微量 |
| 14 黒 色 ロームブロック少量、炭化物・残土粒子微量 | 27 線 布 色 残土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土器片3465点（壺371・瓶9・高杯36・鉢2・壺4・甕2996・瓶43・ミニチュア4）、須恵器片75点（壺14・蓋10・甕3・甕48）、土製品59点（小玉3・土玉35・管状土錐11・支脚10）、石器1点（砥石）、

石製品68点（臼玉7・紡錘車3・双孔円板57・剣形模造品1）、鉄滓8点（84.5g）、滑石片28点、瑪瑙2点、緑色凝灰岩1点、銹鐵鉢3点が出土している。また、混入した繩文土器片41点（深鉢）、弥生土器片30点（壺）、土師質土器片1点（火鉢）、鉄製品10点（不明）、古銭1点（元豊通宝）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。284は壺の燃焼部、282は北東コーナー部の覆土下層、283は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、図示できなかった土玉は、全城の覆土中から散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。貯蔵穴2は互層に埋め戻されていることから、壺の移設に伴って貯蔵穴2から貯蔵穴1へ作り替えられたと考えられる。また、出入り口施設はP5と馬蹄形の高まりから、スロープ状の高まりへ作り替えられている。



第198図 第109号住居跡出土遺物実測図

第109号住居跡出土遺物観察表（第198図）

番号	種別	基盤	口径	基高	底径	胎土	色調	組成	手法の特徴	出土位置	備考
282	土師器	环	12.2	(4.4)	-	長石・雲母	にぶい橙	良好	外側へラ削り後、ナデ 内面磨き	覆土下層	80%
283	土師器	环	[12.5]	5.4	-	長石・雲母 酸化鉄粒子	橙	良好	外側へラ削り後、ナデ 内面磨き	覆土下層	55%
284	土師器	壺	21.2	(19.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面へラ削り	壺1燃焼部	35%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP96	小玉	0.7	0.5	0.1	0.4	長石	一方から穿孔	床面	
DP97	土玉	1.3	1.1	0.2	2.2	長石	指揮圧痕 一方から穿孔	覆土上層	
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q135	砥石	(5.0)	3.3	1.6	(28.1)	滑石	磨耗石 砥面4面うち3面に線状痕	覆土中	PL80
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q136	臼玉	0.8	0.3	0.3	0.2	滑石	未成品 全面研磨 一方から穿孔	覆土下層	PL86
Q137	臼玉	(0.4)	0.3	0.2	(0.1)	滑石	全面研磨 一方から穿孔	覆土中	PL86
Q138	結縁車	3.7	1.6	0.7	(30.9)	滑石	全面研磨 上面に同心円状、下面に斜方向の線刻 二方向からの穿孔	床面	PL82
Q139	結縁車	4.1	1.5	0.7	(26.4)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中	
Q140	結縁車	[4.4]	1.4	[0.7]	(14.5)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中層	

第110号住居跡（第199・200図）

位置 調査区中央部のC 3 h5区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第144号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.42m、短軸5.27mの方形で、主軸方向はN-117°-Wである。壁高は34~41cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から出入り口施設にかけて踏み固められている。P 5・P 6の周囲には円形の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が北西コーナー部と南壁下で確認できた。焼土塊と炭化材が認められた。

窓 南西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで11cm、燃焼部幅51cmである。第13・14層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。第15~19層は掘り方への埋土である。

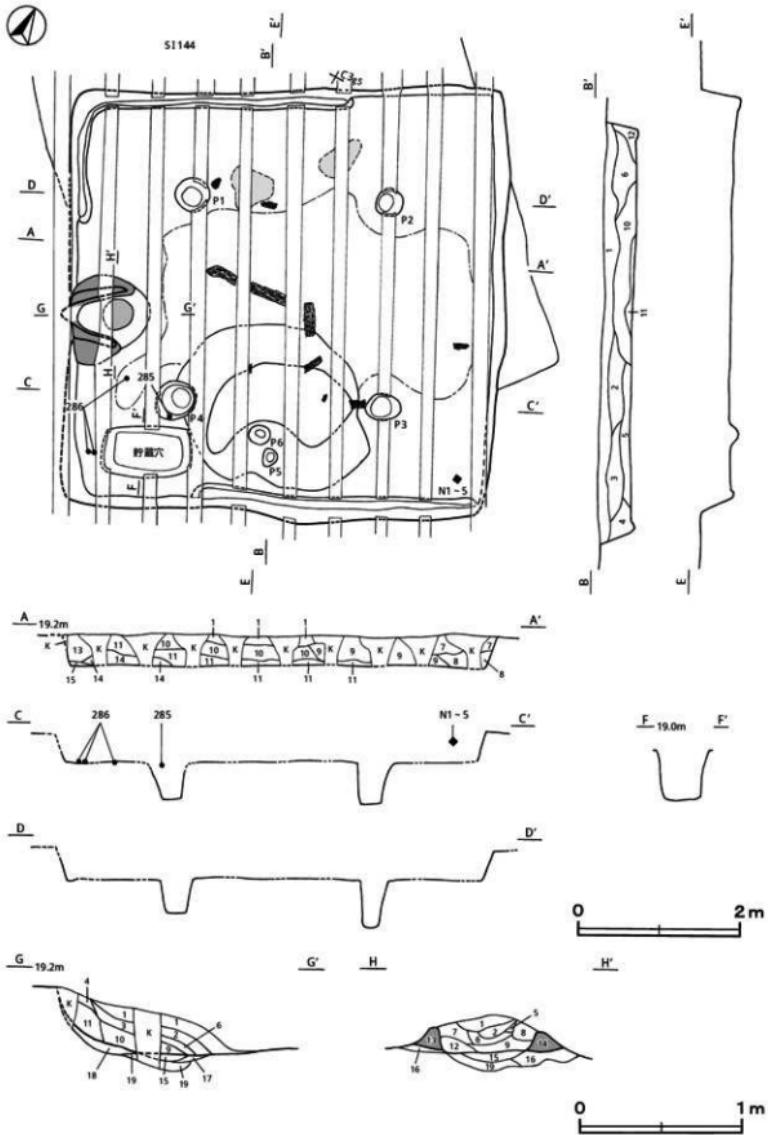
覆土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	10	暗褐色	燒土粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
2	に高い黄褐色	燒土ブロック少量、燒土ブロック中量	11	暗褐色	燒土粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	燒土粒子・燒土粒子少量、燒土粒子中量
4	黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量	13	に高い黄褐色	燒土ブロック中量、燒土粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・燒土粒子少量	14	に高い黄褐色	燒土ブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子少量
6	暗赤褐色	燒土ブロック中量	15	暗褐色	燒土ブロック多量、燒土粒子少量
7	暗赤褐色	燒土ブロック多量、燒土ブロック少量	16	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子少量
8	暗赤褐色	燒土ブロック中量、燒土ブロック少量	17	暗褐色	燒土粒子少量
9	暗赤褐色	燒土ブロック中量、燒土ブロック少量	18	暗褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
			19	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、燒土粒子微量

ピット P 1~P 4は深さ42~60cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ8cm・13cmで、南東壁際の中央部に位置し、周囲に円形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸109cm、短軸65cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 15層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



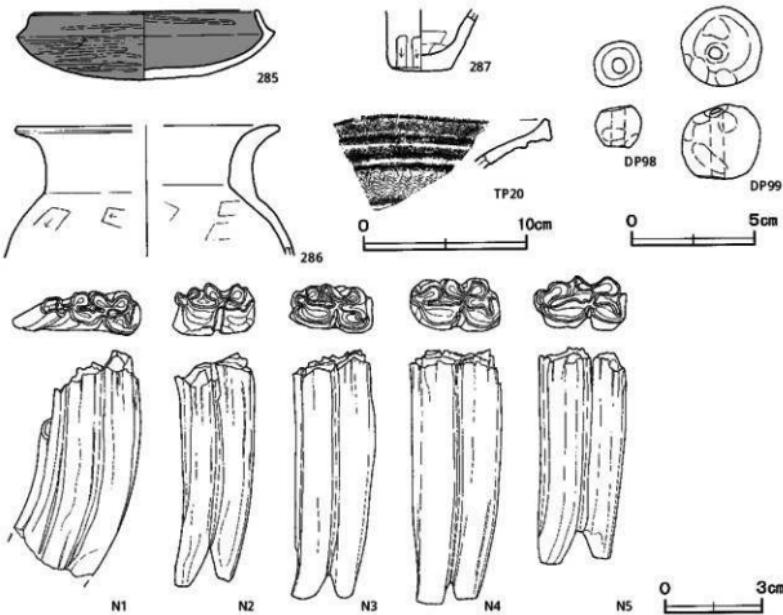
第199図 第110号住居跡実測図

土器解説

1	蓋	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	箱	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	箱	褐色	炭化物・ローム粒子少量	10	箱	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3	箱	褐色	ロームブロック・炭化物少量	11	箱	褐色	焼土粒子・ローム粒子少量
4	箱	褐色	ロームブロック少量	12	箱	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
5	箱	褐色	ロームブロック中量	13	箱	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6	箱	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	箱	褐色	ロームブロック中量
7	蓋	褐色	炭化物微量	15	箱	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	箱	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片2019点(环267・高环19・壺9・甕1711・瓶3・ミニチュア10), 須恵器片46点(环7・蓋7・甕32), 土製品21点(土玉11・支脚10), 石製品1点(臼玉), 鉄滓6点(77.9g), 滑石片14点, 琥珀1点, 銀鉢3点, 馬銜5点が出土している。また, 混入した縄文土器片16点(深鉢), 弥生土器片6点(甕), 須恵器片1点(高环), 土製品1点(土器片鍾), 鉄製品2点(不明)も出土している。遺物の大半は, 全域の覆土中から出土している。285はP 4の覆土上層, 286は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。N 1~N 5は東コーナー部の覆土上層から出土しており, 混入した可能性もある。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから, 焼失した可能性がある。



第200図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表(第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
285	土師器	环	13.8	4.2	-	長石・雲母 にぶい程	普通	内・外面磨き	P 4	60%		
286	土師器	壺	[16.2]	(8.2)	-	長石・雲母 ・炭化鉄粒子	明赤褐	普通	外面ヘラ削り後, ナデ 内面ヘラナデ	床面	15%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
287	土師器	ミニチュア	-	(38)	3.7	長石・雪母	橙	普通	外面下半ヘラ削り 内面ヘラナダ	覆土中	60%
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成				手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	須恵器	鏡	長石	灰	良好				外腹横縦波状文 内面自然輪	覆土中	
番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土			特徴	出土位置	備考
DP98	土玉	19	1.7	0.6	6.1	長石			上下ヘラ切り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	
DP99	土玉	32	3.1	0.6	30.1	長石			指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中	
番号	種別	歯冠高	歯冠幅				特徴			出土位置	備考
N1	馬齒	(68)	1.3			右下顎部の臼歯	エナメル質遺存			覆土上層	PL88
N2	馬齒	57	1.6			右下顎部の臼歯	エナメル質遺存			覆土上層	PL88
N3	馬齒	65	1.4			右下顎部の臼歯	エナメル質遺存			覆土上層	PL88
N4	馬齒	67	1.5			右下顎部の臼歯	エナメル質遺存			覆土上層	PL88
N5	馬齒	53	1.7			右下顎部の臼歯	エナメル質遺存			覆土上層	PL88

第111号住居跡（第201図）

位置 調査区中央部のD 4 a2区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第112号住居跡を掘り込み、中央部の覆土を第37号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は4.36mで、東西軸は北東部が調査区域外に延びているため2.81mしか確認できなかった。

形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、炉あるいは竈が確認できなかつたため不明である。壁高は56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、西コーナー部を除いて踏み固められている。炭化物が西コーナー部で確認できた。

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ28cm・45cmで、規模と位置から主柱穴である。P 3は南東壁際の中央部と推測される位置にあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸70cm、短軸68cmの方形で、深さは43cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

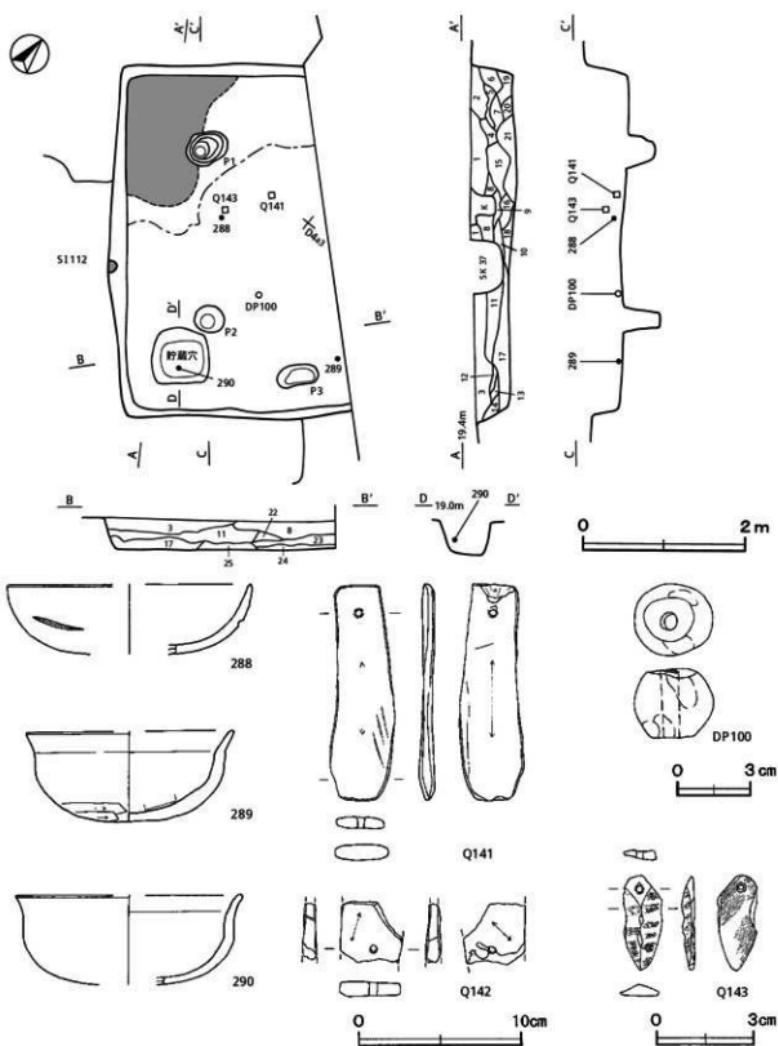
覆土 25層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量	14	黒	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	
2	黒	褐	色	ロームブロック中量	15	暗	褐	色	ロームブロック、燒土粒子少量	
3	黒	褐	色	燒土粒子中量、ロームブロック少量	16	暗	褐	色	燒土粒子中量、ロームブロック、燒化粒子少量	
4	黒	褐	色	ローム粒子少量	17	暗	褐	色	炭化粒子少量、ロームブロック、燒土粒子少量	
5	黒	褐	色	ロームブロック、燒土粒子少量	18	暗	褐	色	炭化物多量、燒土粒子中量、ロームブロック少量	
6	暗	褐	色	粘土ブロック、ローム粒子少量	19	暗	褐	色	炭化物多量、ロームブロック、燒土粒子少量	
7	暗	褐	色	ローム粒子、燒土粒子少量、粘土ブロック微量	20	暗	褐	色	ロームブロック、燒土粒子少量	
8	暗	褐	色	粘土ブロック、ローム粒子少量	21	暗	褐	色	炭化粒子中量、ロームブロック、燒土粒子少量	
9	暗	褐	色	ローム粒子、燒土粒子少量	22	暗	褐	色	ローム粒子多量、燒土粒子微量	
10	暗	褐	色	ロームブロック、燒土粒子少量	23	暗	褐	色	ローム粒子少量	
11	暗	褐	色	燒土ブロック中量、ロームブロック少量	24	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	
12	黒	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	25	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	
13	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量						

遺物出土状況 土師器838点（坏101・椀2・高杯2・鉢1・甕731・ミニチュア1）、土製品4点（土玉1・支脚3）、石器2点（砥石）、石製品1点（剣形模造品）、滑石片1点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、須恵器片8点（坏3・甕5）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。289は南東壁際の床面、290は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。床面で炭化物が確認できたため、焼失した可能性がある。南西壁の中央部に焼土粒子と粘土塊が遺存しており、窓が付設されていた可能性も考えられる。



第111号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
288	土器器	壺	[148]	(4.3)	-	長石・石英・雲母	ぶい赤褐色	良好	外表面磨き 砥ぎ痕	覆土下層	20%
289	土器器	壺	[128]	5.5	-	長石・酸化鉄粒子	橙	普通	外表面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	65%
290	土器器	壺	[138]	(5.5)	-	長石・雲母	橙	普通	内・外表面ナデ	貯蔵穴	25%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP100	土玉	3.2	2.8	0.7	25.6	長石	上下ヘラ切り 球頭圧痕 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q141	砥石	13.3	4.0	0.9	0.4	69.2	ボルンフェルス	平砥石 紙面2面 二方向からの穿孔	覆土下層	PL81
Q142	砥石	(3.7)	3.8	1.0	0.4	(18.2)	砂岩	平砥石 紙面2面 二方向からの穿孔	覆土中	
Q143	斜形研磨品	2.9	1.2	0.4	0.2	1.8	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土中層	PL84

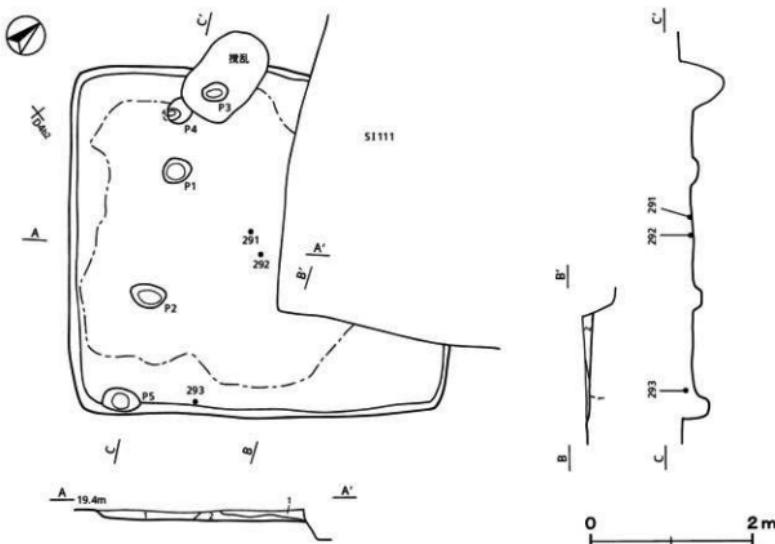
第112号住居跡（第202・203図）

位置 調査区中央部のD 4 a2区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 北東部を第111号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.65m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-40°-Eと推測される。壁高は14~16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。



第202図 第112号住居跡実測図

ピット 5か所。P 1・P 2は深さ14cmで、位置から主柱穴と考えられる。P 3～P 5は深さ18～71cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

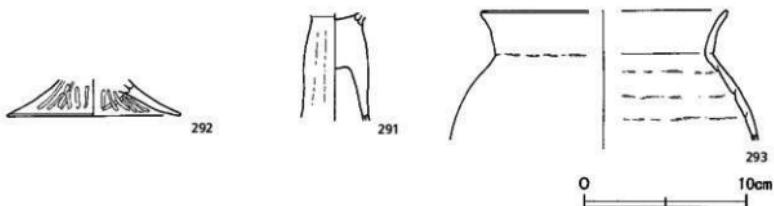
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片99点（坏7・高坏3・甕89）、土製品4点（土玉1・支脚3）、石製品1点（白玉）が出土している。また、混入した須恵器片2点（甕）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。291・292は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



第203図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表（第203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
291	土師器	高坏	-	(6.7)	-	長石	暗	普通	外面ヘラ削り後、ナデ	床面	25%
292	土師器	高坏	-	(2.2)	10.7	長石・雲母	暗	良好	内・外表面磨き	床面	20%
293	土師器	甕	[15.2]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	内・外表面ナデ	覆土上層	15%

第113号住居跡（第204図）

位置 調査区中央部のD 4 e5区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 北西部を第90号住居、中央部から南部を第114・118号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.76m、短軸5.64mの方形で、主軸方向はN-56°Wである。壁高は14～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が部分的に確認できた。

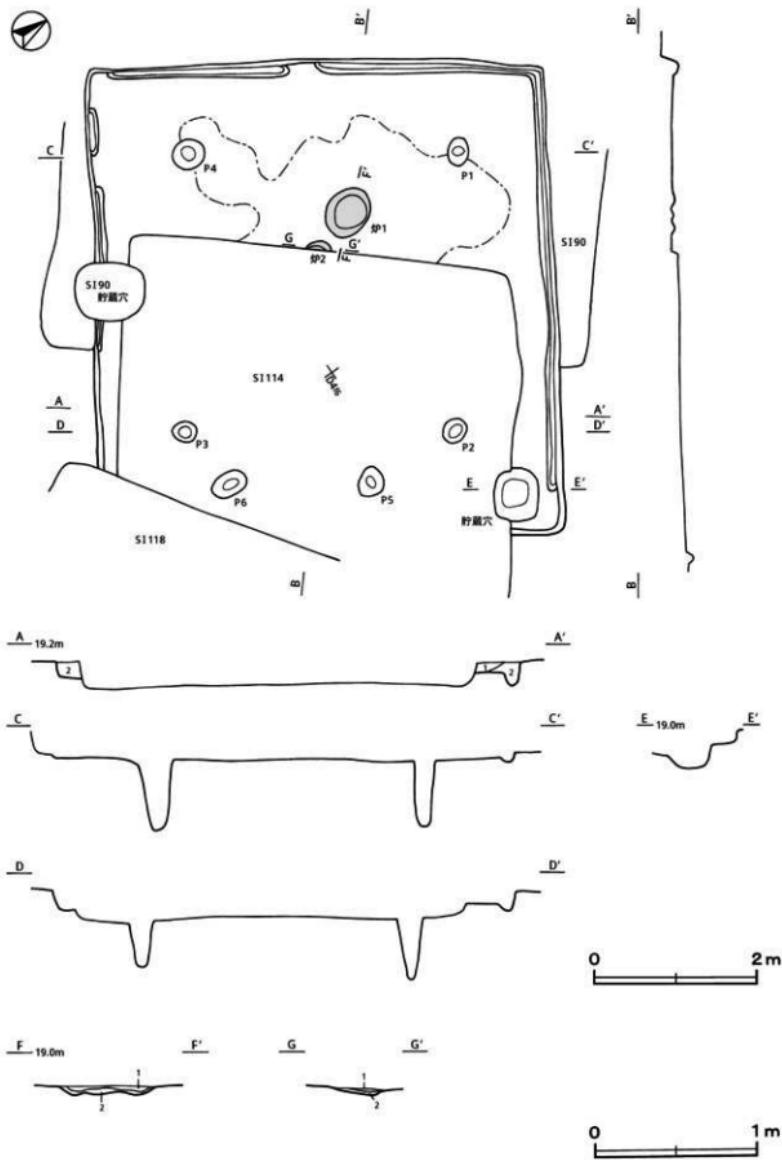
炉 2か所。炉1は中央部の北寄りに位置する地床炉である。長径65cm、短径52cmの楕円形で、床面を8cm掘り下げている。炉2は中央部に位置する地床炉である。第114号住居に掘り込まれているため、東西径30cm、南北径10cmしか確認できなかった。

伊・2土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

2 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P 2・P 3・P 5・P 6は、第114号住居の掘り方調査で確認した。P 1～P 4は深さ53～84cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ20cm・26cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第204図 第113号住居跡実測図

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸64cm、短軸56cmの隅丸長方形で、深さは28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 緑 開 色 ロームブロック少量

2 墓 地 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土器部片136点(环9・掩6・壺1・甕120)、土製品1点(土玉)が出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。出土遺物は細片のため図示できない。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から5世紀代と考えられる。

第114号住居跡(第205・206図)

位置 調査区中央部のD4e6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第113号住居跡を掘り込み、北部を第90号住居、南部を第118号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.93m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は27~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の周辺から中央部にかけて踏み固められている。南西壁際から内部へ延びる4条の溝が確認できた。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅35cmである。第13~19層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第11・12層は砂粒を主体とした柱状の黄褐色土で、支脚と考えられる。第20・21層は掘り方への埋土である。

土層解説

1 緑 開 色 硫土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・炭化
粒子微量

11 にぬい黄褐色 砂粒多量、硫土粒子・炭化粒子微量
12 にぬい黄褐色 砂粒多量、硫土ブロック少量、炭化粒子微量

2 黒 開 色 ロームブロック・硫土ブロック・砂粒少量、
炭化粒子微量

13 にぬい黄褐色 砂粒多量、ロームブロック少量
14 にぬい黄褐色 砂粒少量、ロームブロック・硫土粒子・炭化

3 緑 開 色 硫土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

粒子微量

4 緑 開 色 硫土ブロック・砂粒少量、ローム粒子微量

5 緑 開 色 硫土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子
微量

15 極端赤褐色 硫土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
16 極端赤褐色 硫土粒子・砂粒少量、硫土粒子・炭化
粒子微量

6 にぬい黄褐色 砂粒多量、硫土粒子微量

17 にぬい黄褐色 砂粒多量、ロームブロック・炭化粒子少量

7 緑 開 色 硫土ブロック中量、砂粒少量、炭化粒子微量

18 にぬい黄褐色 砂粒多量、ロームブロック・硫土粒子少量

8 緑 開 色 硫土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量、
炭化粒子微量

19 墓 地 色 ロームブロック少量
20 細 砂 地 砂化粒子微量

9 緑 開 色 ロームブロック・硫土ブロック・砂粒少量

21 墓 地 色 硫土ブロック中量、ロームブロック少量、硫
粒子微量

10 緑 開 色 硫土粒子・砂粒少量

ピット 5か所。P 2は第118号住居の掘り方調査で確認した。P 1~P 4は深さ42~90cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ23cmで、北西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸84cm、短軸62cmの長方形で、深さは57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 開 色 ロームブロック少量、硫土粒子・炭化粒子微量

6 黒 地 色 ロームブロック少量

2 黒 開 色 ロームブロック・炭化粒子少量、硫土粒子微量

7 黒 地 色 ロームブロック少量、硫土粒子微量

3 黒 開 色 ロームブロック・硫土粒子少量、硫土粒子・
炭化粒子微量

8 墓 地 色 ロームブロック中量

4 緑 開 色 ロームブロック少量

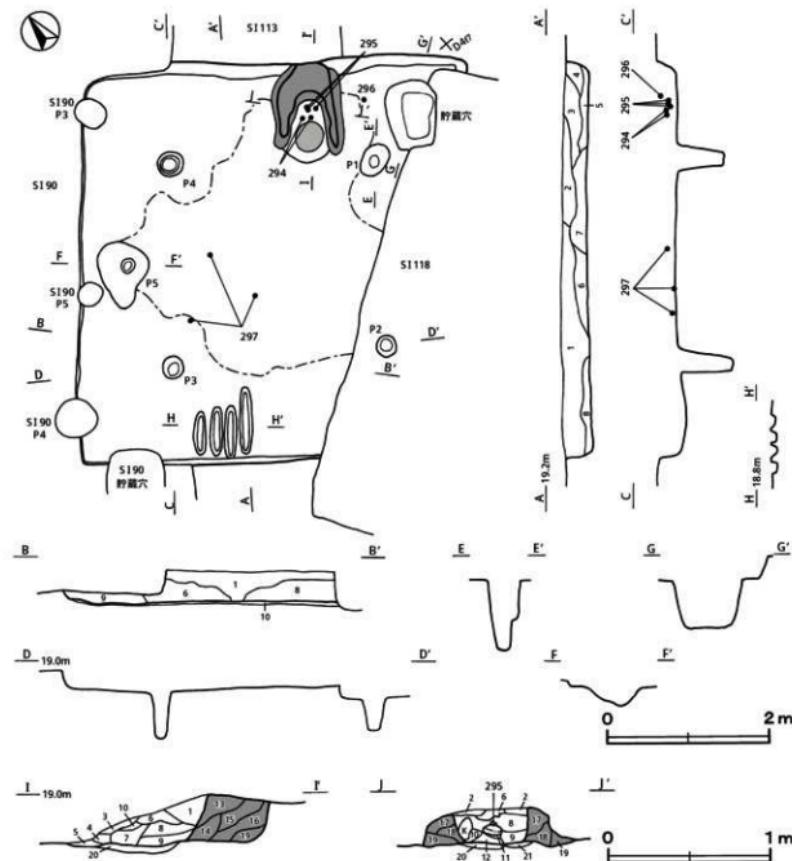
9 黒 地 色 ロームブロック少量、硫土粒子・炭化粒子微量

5 緑 開 色 ロームブロック中量

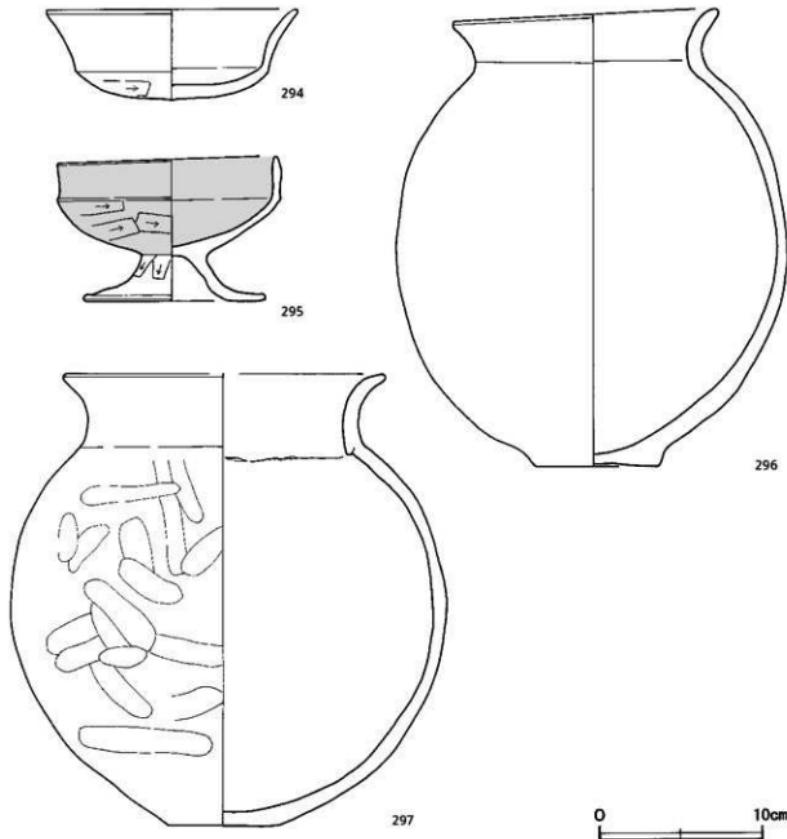
10 墓 地 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片331点（坏52・挽9・高坏5・壺1・甕261・瓶1・ミニチュア2）、須恵器片8点（甕）、土製品9点（小玉1・支脚8）、滑石片3点、銛鉄鉱5点が出土している。また、混入した縄文土器片2点（深鉢）、弥生土器片2点（壺）、石器1点（石鎌）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。297は中央部の床面、294・295は甕の燃焼部からそれぞれ出土している。295は支脚に転用されている。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。南西壁際の溝は、根太を設置した可能性が考えられる。



第205図 第114号住居跡実測図



第206図 第114号住居跡出土遺物実測図

第114号住居跡出土遺物観察表 (第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
294	土師器	環	15.4	5.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り	電気焼部	60% PL69
295	土師器	高環	13.4	8.9	10.9	長石・石英・雲母	橙	普通	外面へラ削り	電気焼部	90% PL69
296	土師器	壺	16.1	28.2	7.7	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	内・外側ナデ	匣土中層	90% PL69
297	土師器	壺	[19.8]	27.9	6.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	内・外側ナデ	床面	60%

第115号住居跡 (第207・208図)

位置 調査区中央部のC 4 jII区、標高19.3mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.34m、短軸4.56mの長方形で、主軸方向はN-45°-Eである。壁高は14cmで、外傾して

立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

炉 中央部に位置する地床炉である。長径76cm、短径62cmの不整梢円形で、床面を14cm掘り下げている。

伊土層解説

1 緑 開 色 残土粒子多量、ロームブロック微量

2 黄 色 ロームブロック多量、焼土粒子少量

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ15～32cmで、位置から主柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

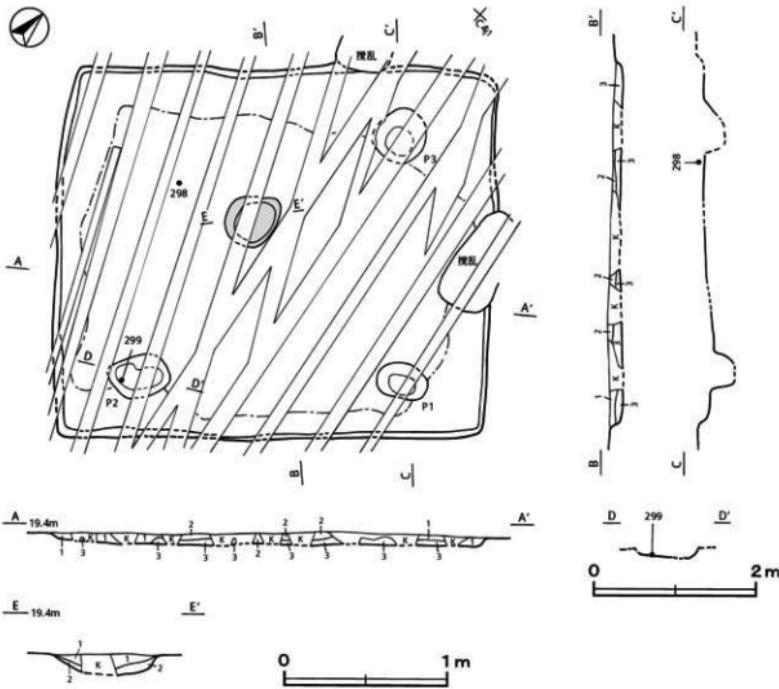
1 緑 開 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

3 黄 色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

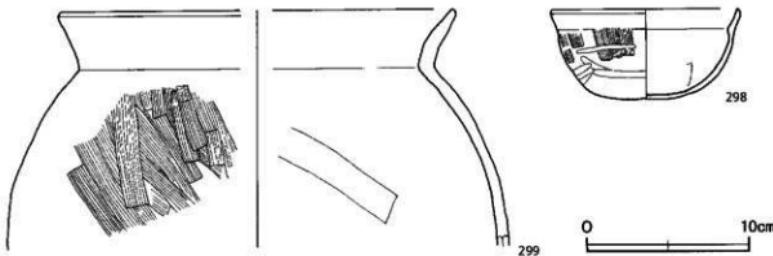
2 黒 閉 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片349点（椀5・高杯1・壺1・甕341・ミニチュア1）が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）、土師器片11点（壺）、須恵器片4点（甕）、土製品3点（土玉）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。299はP 2の埋め戻し土から出土しており、住居廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前半と考えられる。



第207図 第115号住居跡実測図



第208図 第115号住居跡出土遺物実測図

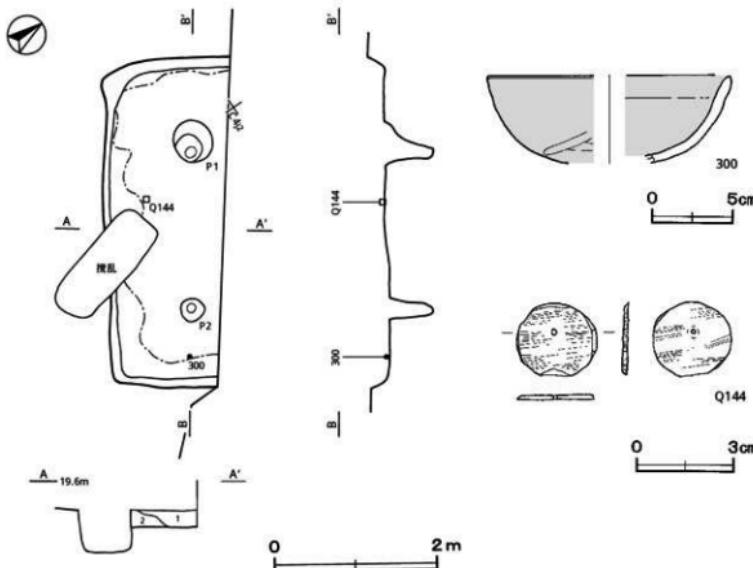
第115号住居跡出土遺物観察表（第208図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
298	土師器	楕	11.5	5.5	2.6	長石・雲母	にぶい赤褐色	良好	外腹ハケ目調整後、縁部 内面ヘラナデ	覆土下層	65%
299	土師器	楕	[124]	[14.6]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外腹ハケ目調整 内面ヘラナデ	P 2	10%

第116号住居跡（第209図）

位置 調査区中央部のC 4 j 2区、標高19.2mの台地上に位置している。

規模と形状 南北軸は4.04mで、東西軸は北東部が調査区域外に延びているため1.56mしか確認できなかった。



第209図 第116号住居跡・出土遺物実測図

形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、炉あるいは竈が確認できなかつたため不明である。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ62cm・50cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 開 色 ロームブロック少量

2 黒 開 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片131点（环22・楕1・高杯1・鉢1・壺4・甕95・瓶7）、須恵器片2点（甕）、土製品2点（土玉）、石製品1点（單孔円板）が出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。300は南壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末葉と考えられる。

第116号住居跡出土遺物観察表（第209図）

番号	種別	基準	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
300	土師器	楕	(150)	(5.4)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面磨き	床面	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q144	單孔円板	2.3	2.5	0.2	0.2	3.0	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL85

第117号住居跡（第210・211図）

位置 調査区中央部のD 3 d8区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第45号住居、南部を第66号住居、中央部を第78号住居、西部を第53号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.51m、短軸6.21mの方形で、主軸方向は、竈が確認できなかつたため不明である。壁高は15~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。堀溝が北コーナー部で確認できた。

ピット 4か所。P 1~P 4は深さ72~97cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。短軸は55cmで、長軸は搅乱のため88cmしか確認できなかつたが、隅丸長方形で、深さは72cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 開 色 ローム粒子少量、胎土粒子微量

4 細 開 色 ロームブロック少量

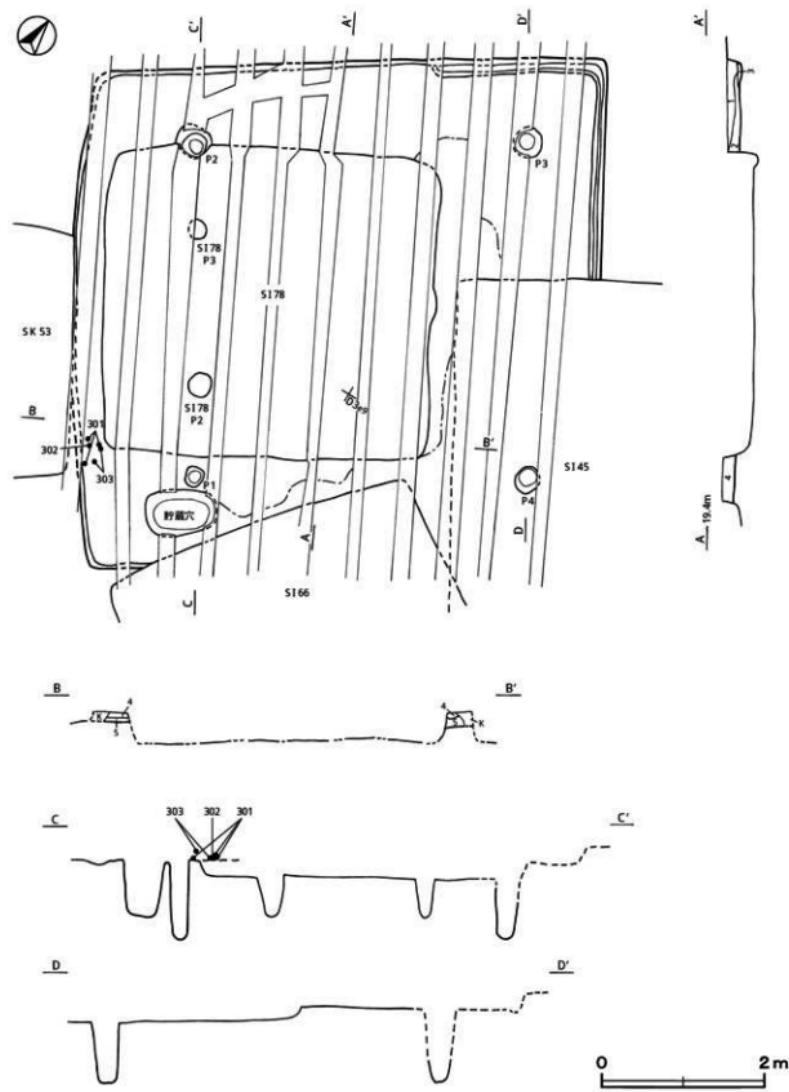
2 細 開 色 ロームブロック中量

5 細 開 色 ローム粒子少量、胎土粒子・炭化粒子微量

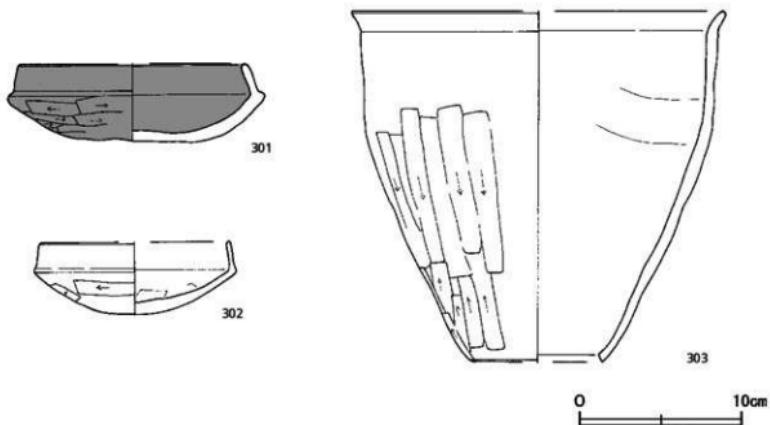
3 細 開 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片321点（环158・壺1・甕159・瓶3）、須恵器片1点（甕）、土製品3点（土玉1・管状土錐2）、滑石片4点が出土している。また、混入した繩文土器片3点（深鉢）、弥生土器片3点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。301・302は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第210図 第117号住居跡実測図



第211図 第117号住居跡出土遺物実測図

第117号住居跡出土遺物観察表（第211図）

番号	種 所	種類	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 権 ほ か	出土位置	備 考
301	土器器	壺	[140]	4.8	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外側へラ削り	床面	75%
302	土器器	壺	[117]	4.4	-	長石・雲母	橙	普通	外側へラ削り 内面へラナデ	床面	50%
303	土器器	壺	[230]	21.4	[8.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	外側へラ削り 内面へラナデ	床面 壁土中層	30%

第118号住居跡（第212・213図）

位置 調査区中央部のD 4 g6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第39・113・114号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.88m、短軸5.77mの方形で、主軸方向はN-53°-Eである。壁高は31~46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から出入り口施設にかけて踏み固められている。P 6の周間に馬蹄形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が全周している。北西壁際では壁下と内側で2条の壁溝が確認できた。また、北西壁際の内側の壁溝から5条、南東壁際から1条の内部へ延びる溝が確認できた。

竈 2か所。竈1は北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで101cm、燃焼部幅31cmである。第13~18層は袖部で、ロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。左袖部の一部が欠損している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれている。第19~27層は掘り方への埋土である。竈2は南西壁の南寄りに付設されているが、火床面しか遺存していない。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

■1 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・焼土ブロック少量。ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック中量。ローム粒子・砂粒少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量
7	暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
8	にじい黄褐色	粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
12	褐色	ロームブロック少量
13	暗褐色	焼土粒子・焼土ブロック多量
14	にじい黄褐色	焼土粒子・焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量
15	にじい黄褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
16	にじい黄褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17	褐色	ロームブロック中量
18	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
19	褐色	焼土ブロック多量
20	暗赤褐色	焼土粒子・焼土ブロック少量
21	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
22	暗褐色	焼土粒子中量
23	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
24	褐色	炭化粒子・焼土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
25	暗褐色	ロームブロック少量
26	褐色	ロームブロック少量
27	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

■2 土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 6か所。P 1～P 5は深さ72～80cmで、規模と位置から主柱穴である。P 6は深さ22cmで、南東壁際の中央部に位置し、周囲に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に付設されている。長軸98cm、短軸83cmの長方形で、深さは57cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南コーナー部に付設されている。長軸108cm、短軸77cmの長方形で、深さは52cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ともにロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴1 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量

貯蔵穴2 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量

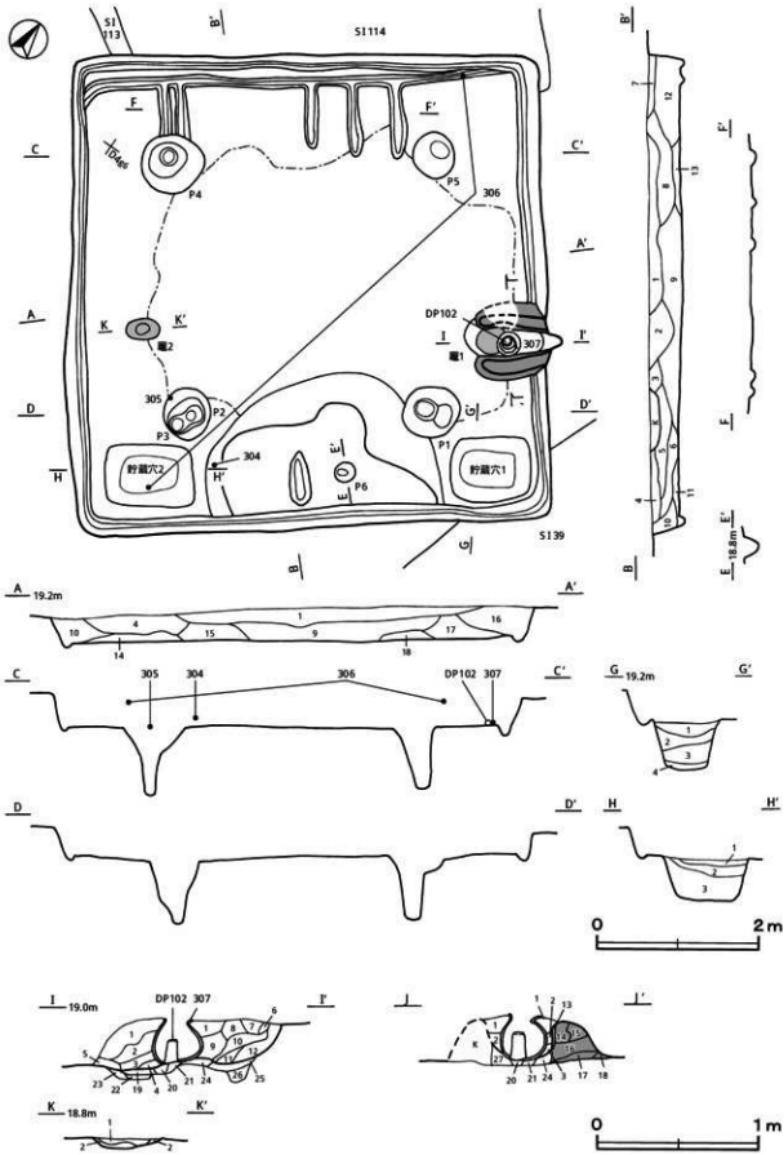
覆土 18層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

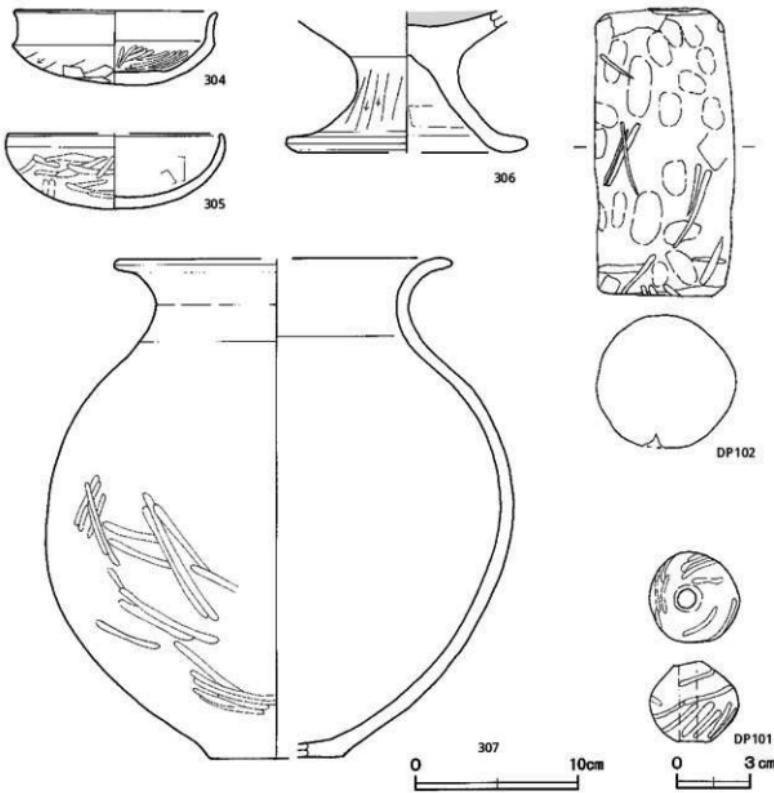
1	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック多量
6	暗褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック少量
9	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック微量
11	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
13	褐色	ロームブロック少量
14	褐色	ロームブロック中量
15	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
16	褐色	ロームブロック中量
17	褐色	ロームブロック少量
18	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2165点(坏230・椀4・高杯10・盞2・甕1908・瓶10・ミニチュア1)、須恵器片23点(坏1・蓋1・甕21)、土製品38点(小玉2・土玉27・管状土錐1・支脚8)、石器1点(砥石)、石製品1点(白玉)、鉄滓1点(11.4g)、滑石片4点、褐鉄鉱13点が出土している。また、混入した縄文土器片6点(深鉢)、鉄製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。307は竈1の燃焼部のDP102の上に据えられ、崩落した状況で出土している。図示できなかった土玉は、全城の覆土中から25点、貯蔵穴1の覆土中から1点がそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。北西壁際で2条の壁溝が確認できたことから、北西壁が拡張されている。北西壁際から内部へ延びる溝は、内側の壁溝から延びていることから拡張前に使用されたもので、根太を設置した溝が間仕切り溝の可能性が考えられる。また、P 4がこの溝を掘り込んでいることから、拡張した際に主柱が立て替えられたとみられる。南東壁際の溝の性格は不明である。貯蔵穴1は竈の移設に伴って付設されたと考えられる。



第212図 第118号住居跡実測図



第213図 第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
304	土器器	环	12.4	4.4	-	長石・雲母	にぶい黄橙	良好	外面部へラ削り 内面磨き	覆土下層	95% PL69
305	土器器	环	[132]	4.4	-	長石・雲母	橙	普通	外面部磨き 内面へラナダ	床面	55% PL69
306	土器器	高环	-	(8.6)	[14周]	長石・石英	にぶい橙	普通	断面部外側へラ削り 内面へラナダ	覆土上層	50%
307	土器器	瓶	[20.2]	30.7	8.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面部磨き 内面へラナダ	竪1自然部	85% PL69

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP101	土玉	37	3.3	0.8	39.8	長石	磨き 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP102	支脚	17.7	6.6	7.8	149.0	長石・石英	指揮痕 工具痕	竪1自然部	

第119号住居跡 (第214・215図)

位置 調査区中央部のD-4 b1区, 標高19.2mの台地上に位置している。

規模と形状 一辺3.55mの方形で, 主軸方向はN-56°-Eである。壁高は18~22cmで, 外傾して立ち上がっている。

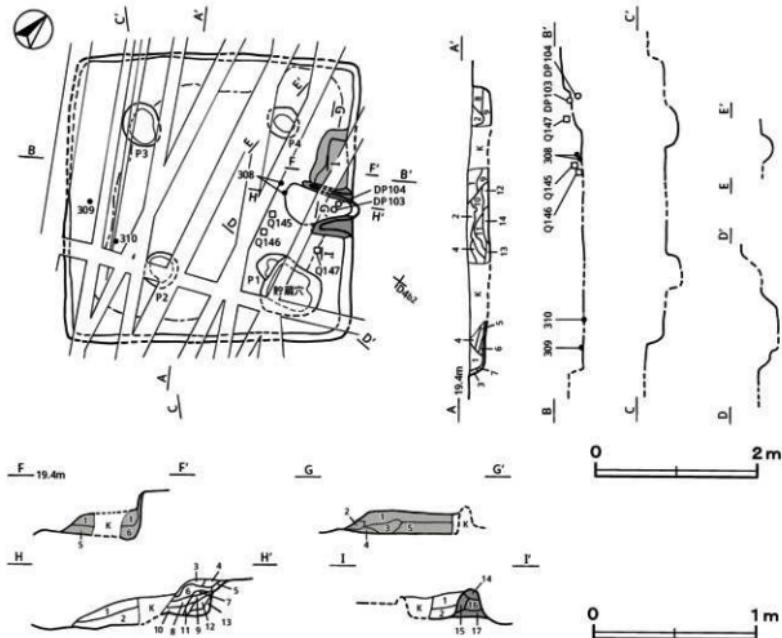
床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで91cm, 燃焼部幅42cmである。第14~17層は袖部で, 砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, やや赤変している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれている。

遺物層解説

1	暗赤褐色	燒土粒子中量, ローム粒子, 砂粒少量	10	暗赤褐色	ローム粒子少量, 燃土粒子微量
2	褐色帶褐色	燒土粒子多量, ローム粒子, 砂粒少量	11	黒褐色	ローム粒子, 燃土粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子, 燃土粒子, 砂粒少量	12	暗赤褐色	燃土ブロック・ローム粒子少量
4	褐色帶褐色	ローム粒子, 燃土粒子, 砂粒少量	13	黒褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量, 燃土粒子微量	14	にじ黄褐色	砂粒多量, ローム粒子少量
6	暗赤褐色	燒土粒子中量, ローム粒子少量	15	にじ黄褐色	燃土ブロック・砂粒多量
7	暗赤褐色	ロームブロック中量	16	暗褐色	ロームブロック, 燃土ブロック微量
8	暗赤褐色	ローム粒子, 燃土粒子, 砂粒中量	17	黒褐色	ロームブロック少量
9	暗赤褐色	燒土粒子中量, ローム粒子, 砂粒少量			

構造施設 北東壁と竈の左袖部に接して付設されている。奥行45cm, 幅71cmの長方形で, 床面から10~17cmの高さである。粘土ブロックを主体として構築されている。



第214図 第119号住居跡実測図

棚状施設土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|--------------------|---|--------|--------------------|
| 1 | にふい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | にふい黄褐色 | 粘土ブロック多量 | 5 | 深褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 3 | 赤褐色 | 粘土ブロック多量 | 6 | にふい黄褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量 |

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ12～24cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸は72cmで、短軸は搅乱のため67cmしか確認できなかつたが、隅丸長方形で、深さは22cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

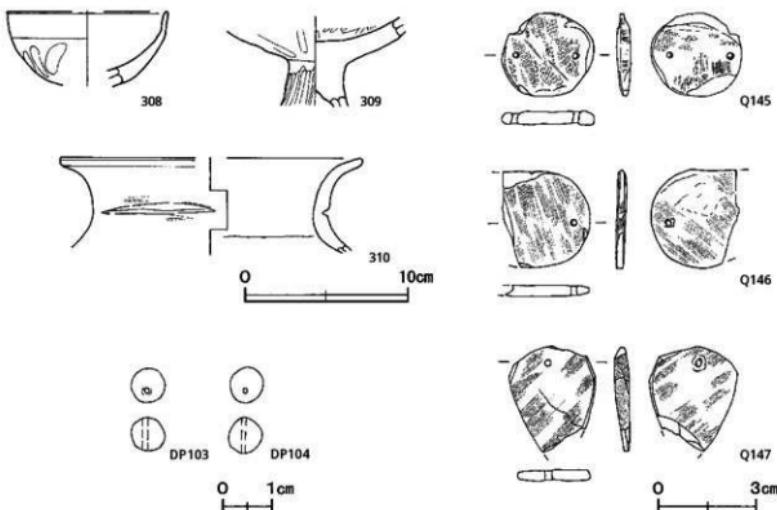
覆土 14層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|--------------------|----|------|--------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック中量、地土粒子微量 | 8 | 黒褐色 | ローム粒子中量、地土粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量、地土粒子微量 | 9 | 暗褐色 | ロームブロック多量、地土粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量、地土粒子少量 | 10 | 褐色 | ローム粒子多量、地土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック、地土粒子少量 | 11 | 深褐色 | ロームブロック、地土ブロック中量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 | 12 | 褐色 | ロームブロック中量、地土ブロック少量 |
| 6 | 黒褐色 | 地土粒子中量、ローム粒子少量 | 13 | 褐色 | 地土粒子中量、ロームブロック少量 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子中量、地土粒子少量 | 14 | 暗赤褐色 | 地土ブロック多量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土器片246点(坪36・高杯1・壺4・甕203・瓶2)、須恵器片5点(坪1・蓋1・甕3)、土製品4点(小玉2・土玉1・支脚1)、石製品4点(双孔円板2・剣形模造品2)、鐵滓3点(71.8g)、滑石片1点が出土している。また、混入した弥生土器片1点(蓋)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。308は竈の前面、309・310は南西壁際のそれぞれ床面、DP103・DP104は竈の燃焼部から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。棚状施設が付設された住居跡は、本跡のみである。



第215図 第119号住居跡出土遺物実測図

第119号住居跡遺物観察表（第215図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
308	土器	环	[19.8]	(45)	-	長石・雲母	橙	普通	外周磨き	床面	40%
309	土器	高環	-	(54)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	环部内・外周磨き 脚部外周磨き	床面	40%
310	土器	環	[18.4]	(57)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	外周頸部研ぎ痕	床面	10% PL.70

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP103	小玉	0.7	0.7	0.2	0.4	長石	一方から穿孔	電気炉部	
DP104	小玉	0.7	0.7	0.1	0.4	長石	一方から穿孔	電気炉部	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q145	双孔円板	25	28	0.4	0.2	55	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	覆土下層	PL.85
Q146	双孔円板	30	(27)	0.3	0.2	(48)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	
Q147	削形標準品	(32)	26	0.5	0.2	(61)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土上層	

第121号住居跡（第216・217図）

位置 調査区中央部のC 3 e5区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第64号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.80m、短軸7.68mの方形で、南東壁の中央部が張り出している。主軸方向はN-30°-Wである。壁高は44~52cmで、外傾して立ち上がっている。北コーナー部は調査区域外である。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が東コーナー部を除いて確認できた。

窓 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで146cm、燃焼部幅49cmである。袖部は砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に9cm掘り込まれている。第12~14層は掘り方への埋土である。

竪土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量	10	黄褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
2	黄褐色	砂粒多量、燒土粒子微量	11	暗赤褐色	燒土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3	黄褐色	砂粒少量、ローム粒子・燒土粒子少量	12	深褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
4	黄褐色	砂粒多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	13	暗青褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量
5	黄褐色	砂粒多量、燒土粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量
6	にぶい黃褐色	砂粒少量、炭化粒子微量			
7	深褐色	燒土粒子中量、燒土粒子・砂粒少量			
8	黒褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量			
9	暗褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量			

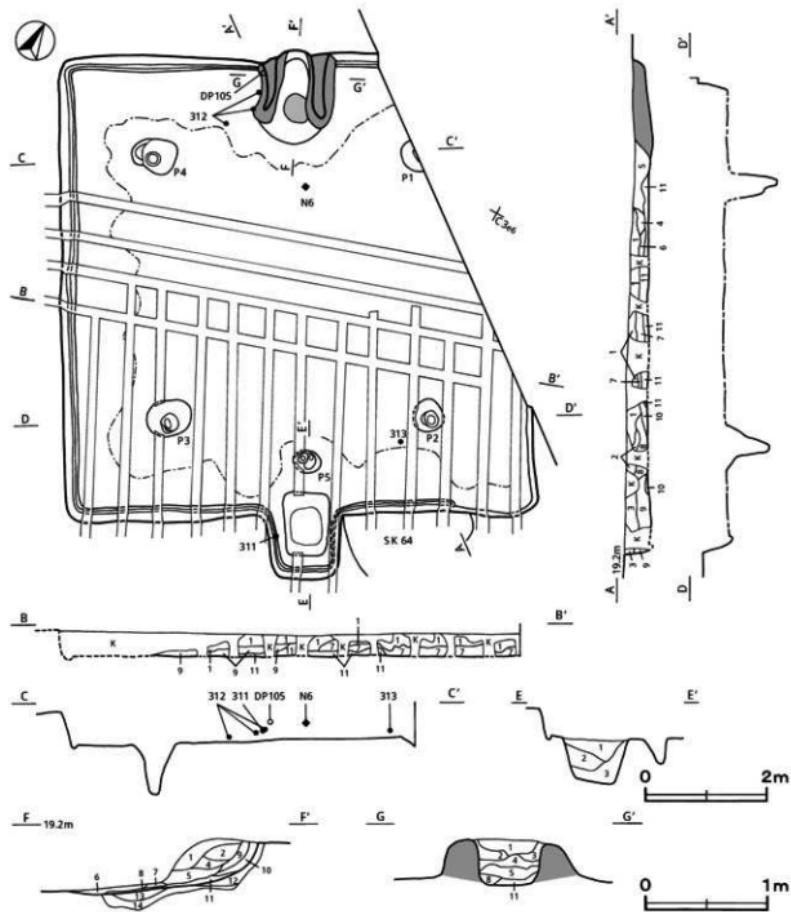
ピット 5か所。P 1~P 4は深さ70~84cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ41cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

張り出し施設 南東壁の中央部に付設されている掘り込みである。長軸100cm、短軸75cmの長方形で、深さは76cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。規模と形状から、貯蔵穴の可能性を考えられる。

張り出し施設層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	3	深褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量			

覆土 11層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第216図 第121号住居跡実測図

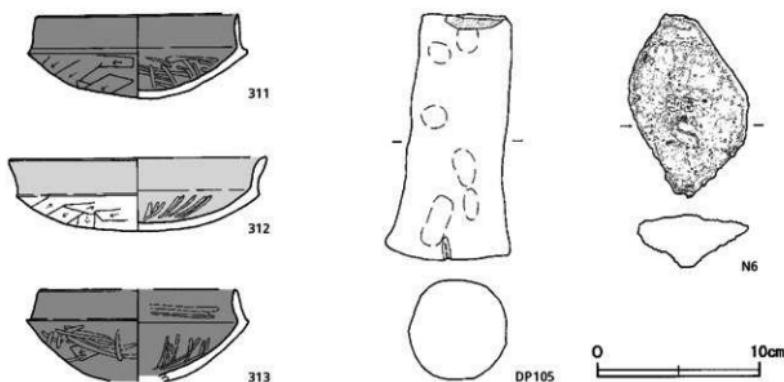
土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 色 ロームブロック中量 | 7 灰 色 ロームブロック中量、埴土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 紙 膜 色 ロームブロック中量 | 8 灰 色 ロームブロック微量 |
| 3 紙 膜 色 ローム粒子少量、埴土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 紙 膜 色 ロームブロック中量、炭化物微量 | 10 棕 色 ロームブロック少量 |
| 5 紙 膜 色 ローム粒子・砂粒少量、埴土粒子・炭化粒子微量 | 11 灰 色 ロームブロック少量 |
| 6 棕 色 ロームブロック少量、埴土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片2078点（壺305・瓶6・高杯22・盞10・甕1716・瓶15・ミニチュア4）、須恵器片24点（甕）、土製品6点（土玉5・支脚1）、鐵滓2点（9.9g）、滑石片1点、褐鐵鉄14点が出土している。また、混入した縄文土器片38点（深鉢）、弥生土器片2点（盞・甕）も出土している。遺物の大

半は、全城の覆土中から出土している。311は張り出し部壁際の覆土下層、DP105は竈の袖部上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第217図 第121号住居跡出土遺物実測図

第121号住居跡出土遺物観察表（第217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
311	土器器	环	12.4	5.2	-	長石・雲母	黒褐色	良好	外面へラ削り 内面磨き	覆土下層	90% PL.69
312	土器器	环	15.8	4.5	-	長石・雲母	橙	普通	外面へラ削り 内面磨き	覆土下層	70% PL.70
313	土器器	环	[12.0]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	良好	外面へラ削り後 磨き 内面磨き	覆土下層	40%

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP105	支脚	15.6	5.7	7.6	777.6	長石・石英	指捺圧痕 工具痕	竈袖部上	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
N6	褐鉄鉢	11.2	7.5	3.2	179.5	酸化鉄・鉄礫・大礫付着	内部空洞	覆土中層	

第122号住居跡（第218～220図）

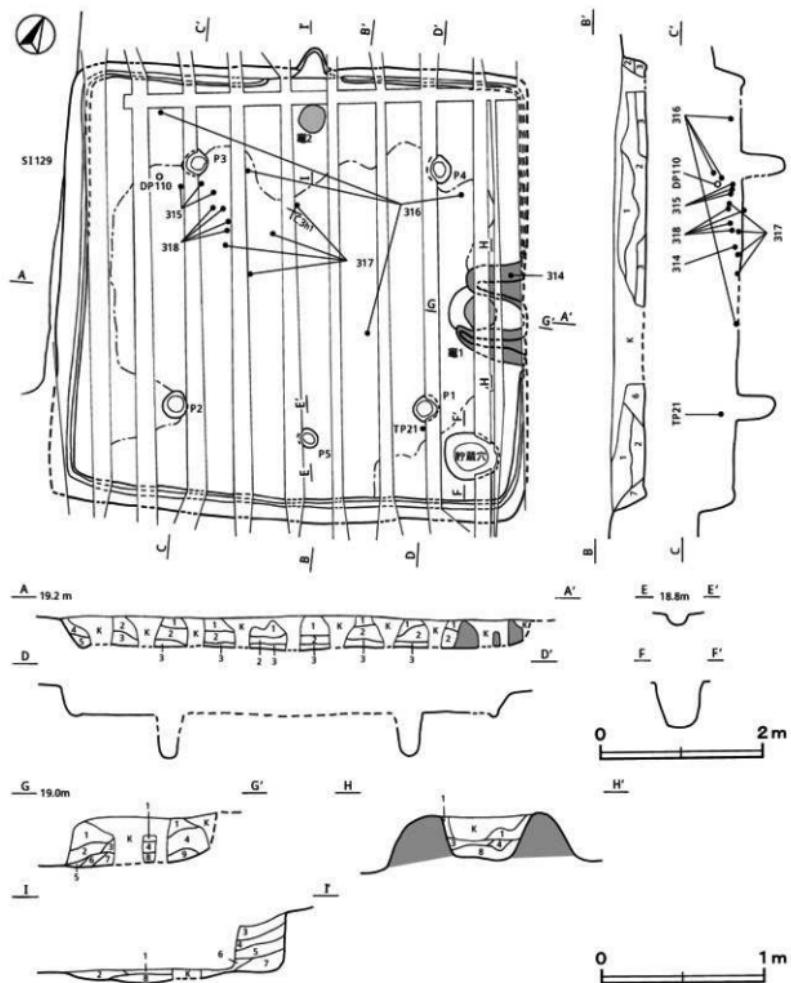
位置 調査区中央部のC3h1区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.72m、短軸5.54mの方形で、主軸方向はN-66°-Eである。壁高は30～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部から南壁際にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 2か所。竈1は東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅45cmである。袖部は、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。竈2は北壁の中央部に付設され、火床面と煙道部が遺存している。焚口部が



第218図 第122号住居跡実測図

ら煙道部まで135cmと推測される。火床面は床面から4cm掘り込まれ、赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれている。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

■ 土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 に赤い黄褐色 ロームブロック・砂粒少量 | 6 に赤い黄褐色 砂粒中量、粘土粒子少量 |
| 2 褐褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 7 褐赤褐色 粘土粒子中量、炭化粒子・砂粒少量 |
| 3 褐褐色 砂粒中量、ローム粒子微量 | 8 褐赤褐色 粘土粒子多量、炭化粒子少量 |
| 4 に赤い黄褐色 粘土粒子微量 | 9 に赤い黄褐色 砂粒中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐褐色 ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量 | |

図2 土層解説

1	褐	色	ロームブロック・燒土粒子中量	5	褐	色	燒土粒子中量、ロームブロック少量
2	黒	色	燒土粒子多量、ローム粒子中量	6	暗赤褐色	色	ロームブロック・燒土粒子中量
3	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子・砂粒少量	7	暗赤褐色	色	燒土粒子多量、ロームブロック少量
4	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子少量	8	暗赤褐色	色	ロームブロック・燒土ブロック中量

ピット 5か所。P.1～P.4は深さ45～54cmで、規模と位置から主柱穴である。P.5は深さ13cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径66cm、短径58cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

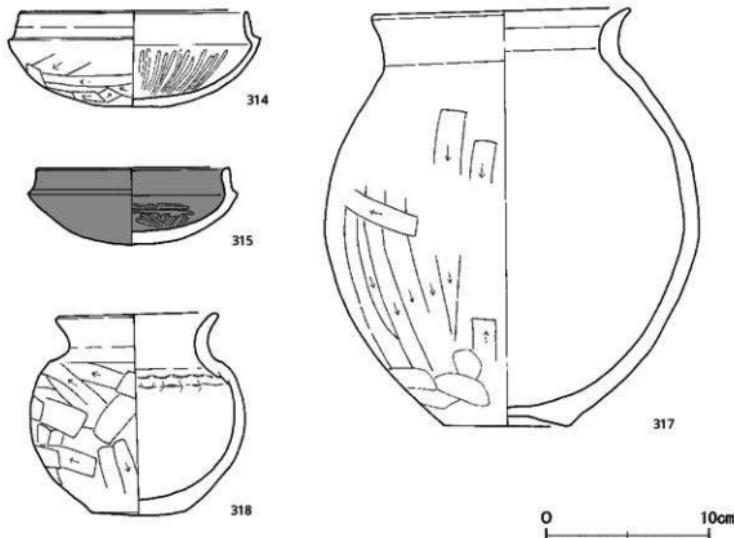
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

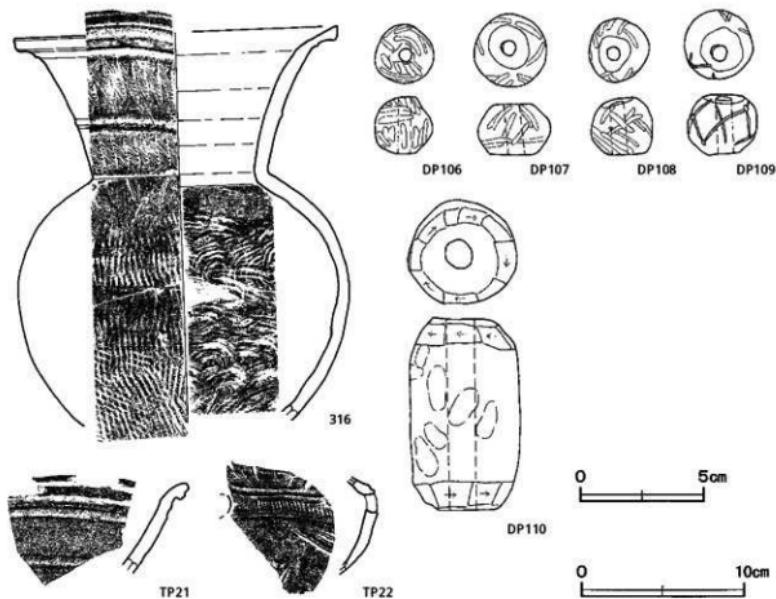
1	黒	褐	色	ローム粒子少量	5	暗	褐	色	ロームブロック中量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量	6	暗	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
3	褐	褐	色	ローム粒子多量	7	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子少量
4	褐	褐	色	ロームブロック多量					

遺物出土状況 土師器片1111点（壺150・碗9・高壺6・壺5・甕939・瓶2）、須恵器片32点（壺5・蓋1・器台1・高壺6・壺1・甕4・甕14）、土製品23点（土玉13・管状土錐5・支脚5）、石器1点（磨石）、鐵滓3点（11.1g）、滑石片2点、褐鉄鉱3点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、弥生土器片4点（壺）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。314は甕1左袖部の内部から逆位で出土しており、袖部の補強材として転用されている。316は覆土上層から床面にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第219図 第122号住居跡出土遺物実測図(1)



第220図 第122号住居跡出土遺物実測図(2)

第122号住居跡出土遺物観察表(第219・220図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
314	土器	环	139	5.9	-	長石・石英・ 酸化鉄粒子	にぶい黄	普通	外面へラ削り 内面磨き	埴生部内	100% PL70
315	土器	环	11.6	4.7	-	長石・石英	にぶい黄褐	二次 焼成	内面磨き	埴生下層	90%
316	漆器	盤	[20.0] (24.0)	-	長石	黄灰	良好	内部外面櫛目状文 体部外面平行叩き目 内面同心 円文の当て具痕 自然輪付	埴生上層 土面	30% PL70	
317	土器	瓶	15.7	25.6	7.9	長石・石英・ 石母	橙	普通	外面へラ削り後、ナデ	埴生下層	80% PL69
318	土器	小形瓶	9.8	12.4	5.7	長石・石英・ 石母	橙	普通	外面へラ削り	埴生下層	70%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP21	漆器	器台	長石・石英	暗灰	良好	外面櫛目状文	埴生中層	TP13と同一 胎土
TP22	漆器	皿	長石・石英・繊維	灰	良好	体部下半口クロコ形成後、ナデ 横曲状工具による刺突文 沈縫 円孔	埴生中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP106	土玉	2.4	2.3	0.6	12.9	長石	磨き 一方向からの穿孔	埴生中	PL79
DP107	土玉	3.0	2.0	0.7	19.1	長石	磨き 上下へラ切り 一方向からの穿孔	埴生中	
DP108	土玉	2.5	2.3	0.6	17.4	長石	磨き 上下へラ切り 一方向からの穿孔	埴生中	
DP109	土玉	2.8	2.5	0.7	20.9	長石	網目状の線剥後、交点に刺突 一方向からの穿孔	埴生中	PL78

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP110	範状土器	4.6	7.9	1.1	181.7	長石・石英	指頭圧痕 基部へラ削り 一方向からの穿孔	埴生上層	PL79

第123号住居跡（第221・222図）

位置 調査区中央部のD2a8区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.52m、短軸6.38mの方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁高は45~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。P5・P6の周間に馬蹄形の高まりがみられ、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が部分的に確認できた。また、南東壁際で内部へ延びる1条の溝が確認できた。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、燃焼部幅51cmである。袖部は砂粒を主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床面は床面より6cm高く、赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれている。第19~22層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1 にぶい黄褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量	13 にぶい黄褐色	燒土粒子・砂粒多量、ローム粒子少量
2 にぶい黄褐色	砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量
3 明黄褐色	砂粒多量、燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	15 紺赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量	16 紺赤褐色	燒土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量	17 紺赤褐色	燒土ブロック多量、炭化粒子・砂粒中量、ローム粒子少量
6 茶褐色	ローム粒子・砂粒中量	18 紺赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
7 にぶい黄褐色	燒土粒子多量、砂粒中量	19 紺褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 明黄褐色	砂粒多量、燒土粒子少量	20 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
9 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	21 紺褐色	ロームブロック少量
10 明黄褐色	砂粒多量、燒土粒子微量	22 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量
11 黒褐色	燒土粒子少量、ローム粒子微量		
12 にぶい黄褐色	燒土粒子・砂粒中量、ローム粒子少量		

ピット 7か所。P1~P4は深さ40~71cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ43cm・13cmで、南東壁際の中央部に位置し、周間に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ28cmで、性格は不明である。

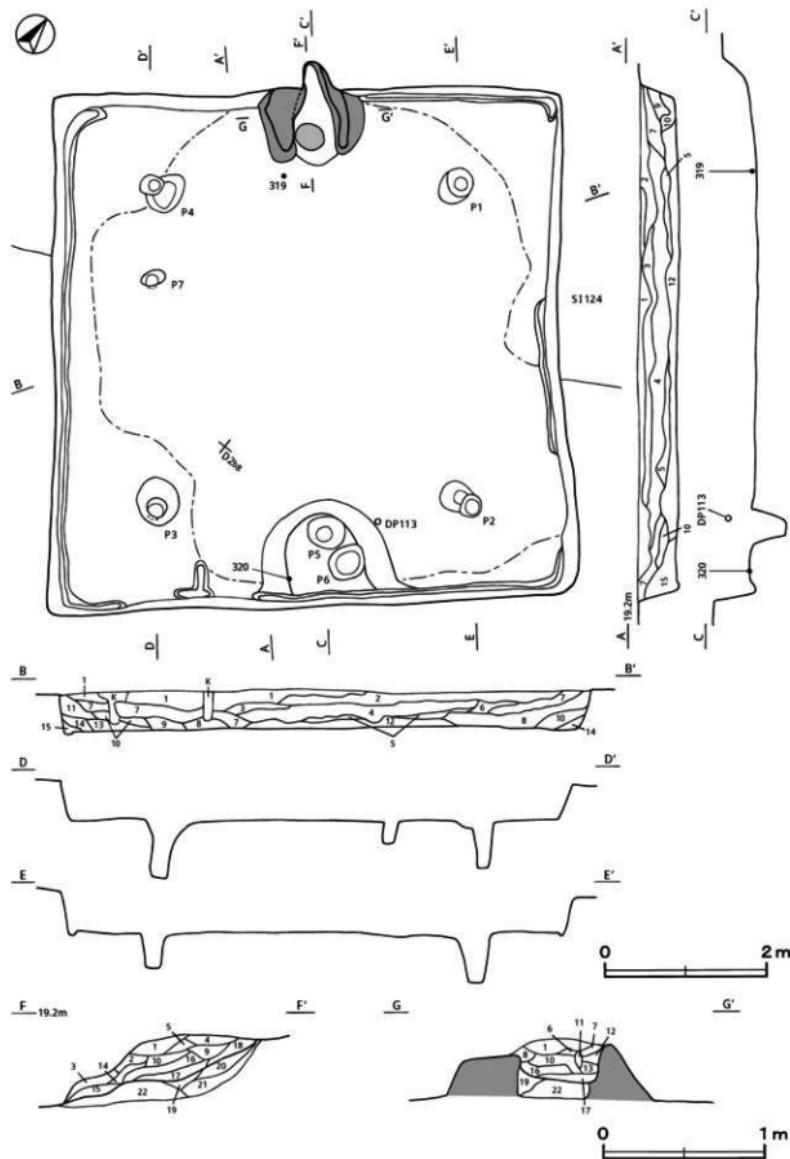
覆土 15層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

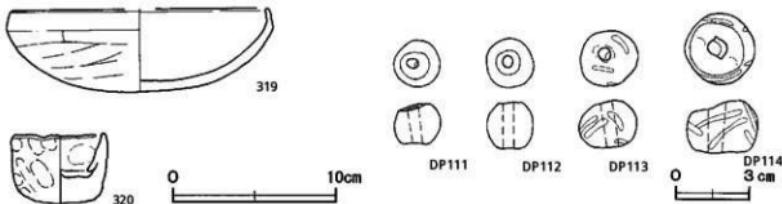
1 黒褐色	ローム粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量
2 紺褐色	ローム粒子中量	10 黒褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	11 紺褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ローム粒子少量	12 紺褐色	ロームブロック中量
5 黒褐色	ローム粒子微量	13 紺褐色	ローム粒子多量
6 黒褐色	ローム粒子微量	14 紺褐色	ローム粒子少量
7 茶褐色	ローム粒子多量	15 紺褐色	ローム粒子多量
8 黒褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片1011点（坏251・椀1・高坏13・鉢1・壺1・甕727・瓶13・ミニチャニア4）、須恵器片13点（坏3・蓋3・高坏2・甕5）、土製品32点（土玉28・管状土錐2・支脚2）、石器2点（磨石）、石製品1点（劍形模造品）、鐵滓21点（188.4g）、滑石片4点、褐鐵鉱6点が出土している。また、流れ込んだ甕文土器片6点（深鉢）、土製品1点（土器片錐）、土師器片1点（器台）、混入した須恵器片1点（高台付坏）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。320は出入り口施設の床面、319は甕の前面の覆土下層から出土している。図示できなかった土玉は、全域の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀末葉と考えられる。南東壁際の溝は、間仕切り溝の可能性がある。



第221図 第123号住居跡実測図



第222図 第123号住居跡出土遺物実測図

第123号住居跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
319	土師器	环	[15.8]	5.1	-	長石・雲母・ 炭化鉄粒子	褐色	普通	外面ヘラ削り後、ナデ	覆土下層	60%
320	土師器	三ニチュウ	5.5	4.3	4.4	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	粘土組合板 無模压痕	床面	95% PL70

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP111	土玉	1.9	1.6	0.4	6.5	長石	一方から穿孔	覆土中	PL78
DP112	土玉	2.0	1.9	0.4	7.2	長石	一方から穿孔	覆土中	PL78
DP113	土玉	2.4	1.9	0.5	11.1	長石	磨き 一方から穿孔	覆土中層	
DP114	土玉	2.9	2.1	0.8	16.9	長石・雲母	磨き 一方から穿孔	覆土中	

第124号住居跡 (第223・224図)

位置 調査区中央部のC 2 J 7区、標高18.9mの台地上に位置している。

重複関係 南部を第123号住居、北部から中央部を第134号住居に掘り込まれている。

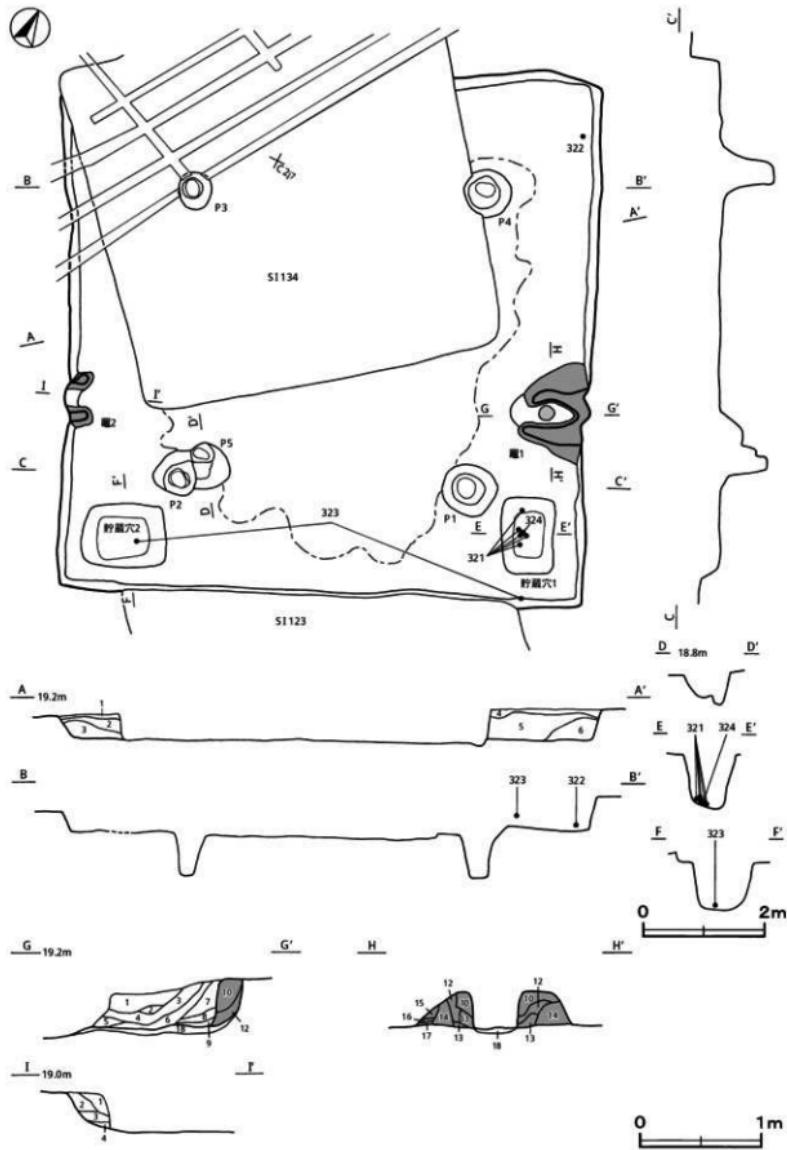
規模と形状 長軸8.72m、短軸8.63mの方形で、主軸方向はN-67°-Eである。壁高は32~56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、燃焼部幅35cmである。第10~17層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面より6cm高く、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第18層は掘り方への埋土である。竈2は南西壁の南寄りに付設されている。壁際に竈の一部が遺存しており、煙道部は壁外に5cm掘り込まれている。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1土解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・砂粒少量 | 9 暗赤褐色 | 鐵土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 鐵土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂粒中量、鐵土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂粒中量、ローム粒子少量、鐵土粒子・炭化粒子微量 | 11 極暗赤褐色 | 鐵土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子・鐵土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 12 暗赤褐色 | 鐵土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子中量、鐵土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 鐵土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・鐵土粒子微量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂粒中量、鐵土粒子微量 |
| 7 にぶい黄褐色 | 鐵土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 15 にぶい黄褐色 | 砂粒少量、ローム粒子少量、鐵土粒子微量 |
| 8 純赤褐色 | 鐵土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 16 黄褐色 | ローム粒子・砂粒少量 |
| | | 17 暗褐色 | ロームブロック・鐵土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 18 暗赤褐色 | ローム粒子・鐵土粒子・炭化粒子少量 |



第223図 第124号住居跡実測図

表 2 土層解説

1 細 風 色	炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量	3 細 風 色	炭化粒子中量、砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 細 風 色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	4 細 風 色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量

ピット 5か所。P 3は第134号住居の掘り方調査で確認した。P 1～P 5は深さ72～83cmで、規模と位置から主柱穴である。観察の結果、P 5が古く、P 2が新しい。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に付設されている。長軸125cm、短軸86cmの長方形で、深さは85cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南コーナー部に付設されている。長軸140cm、短軸105cmの長方形で、深さは78cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

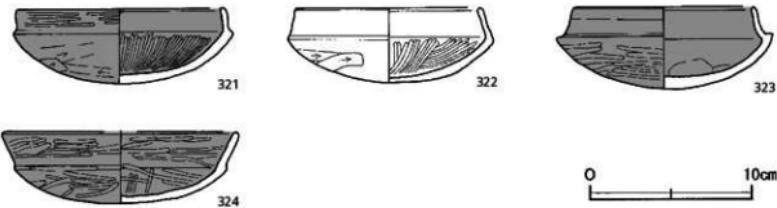
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 風 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 細 風 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 細 風 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 細 風 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 細 風 色	ローム粒子・焼土粒子少量	6 細 風 色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片464点(壺92・碗3・高杯3・鉢1・壺2・甕359・瓶4)、須恵器片4点(蓋2・高杯1・甕1)、土製品12点(小玉1・土玉9・管状土錐1・支脚1)、石器1点(敲石)、鐵滓2点(19.1g)、滑石片3点、褐鉄鉢1点が出土している。また、混入した調文土器片3点(深鉢)、石器1点(石礫)も出土している。321・324は貯蔵穴1の底面から出土している。323は貯蔵穴2の底面と、南東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。貯蔵穴1は甕の移設に伴って付設され、貯蔵穴2と併設されていたと考えられる。



第224図 第124号住居跡出土遺物実測図

第124号住居跡出土遺物観察表 (第224図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
321	土師器	壺	12.5	4.9	-	長石・雲母	ぶい!橙	普通	外側へラ削り 内面磨き	貯蔵穴1	90%
322	土師器	壺	11.4	4.5	-	長石・雲母	橙	普通	外側へラ削り 内面磨き	覆土下層	85%
323	土師器	壺	11.0	5.0	-	長石・雲母	黒褐	普通	外側削き 内面振膜圧縮	覆土下層 貯蔵穴2	80% PL.70
324	土師器	壺	[14.4]	4.3	-	長石・雲母	褐灰	普通	内・外側削き	貯蔵穴1	55%

第125号住居跡（第225・226図）

位置 調査区中央部のC 3 h6区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第126・127号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺4.57mの方形で、主軸方向はN-54°-Eである。壁高は57~68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の周辺が踏み固められている。壁際から中央部にかけて焼土塊と炭化材を確認した。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで123cm、燃焼部幅49cmである。第17~19層は袖部で、ロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。第16層は粘土ブロック塊で、支脚として構築されたと考えられる。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第20~24層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1	灰 黑 棕 色	粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子 微量	11	灰 黑 棕 色	粘土ブロック・粘土ブロック中量
2	棕 黑 棕 色	粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子 微量	12	灰 黑 棕 色	粘土ブロック少量、粘土粒子、炭化粒子微量
3	棕 黑 棕 色	粘土ブロック・粘土ブロック少量	13	棕 黑 棕 色	粘土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
4	赤 黑 棕 色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量	14	灰 黑 棕 色	粘土ブロック中量、炭化粒子少量
5	棕 赤 黑 棕 色	粘土ブロック・灰土粒子少量、炭化粒子微量	15	棕 黑 棕 色	ローム粒子・粘土粒子微量
6	棕 赤 黑 棕 色	粘土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	16	灰 黑 棕 色	粘土ブロック多量、灰土粒子・炭化粒子微量
7	棕 赤 黑 棕 色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子 少量	17	灰 黑 棕 色	粘土ブロック多量、灰土粒子・炭化粒子微量
8	黑 黑 棕 色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子 少量、ローム粒子微量	18	棕 黑 棕 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
9	棕 赤 黑 棕 色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子 少量	19	灰 黑 棕 色	粘土ブロック中量、灰土粒子微量
10	灰 黑 棕 色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子	20	棕 黑 棕 色	ロームブロック中量
		微量、ローム粒子微量	21	棕 黑 棕 色	ロームブロック・粘土ブロック少量
		微量	22	棕 黑 棕 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
		微量	23	黑 黑 棕 色	ロームブロック少量
		微量	24	棕 黑 棕 色	ロームブロック少量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ10~27cmで、位置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ9cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸67cm、短軸56cmの長方形で、深さは51cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

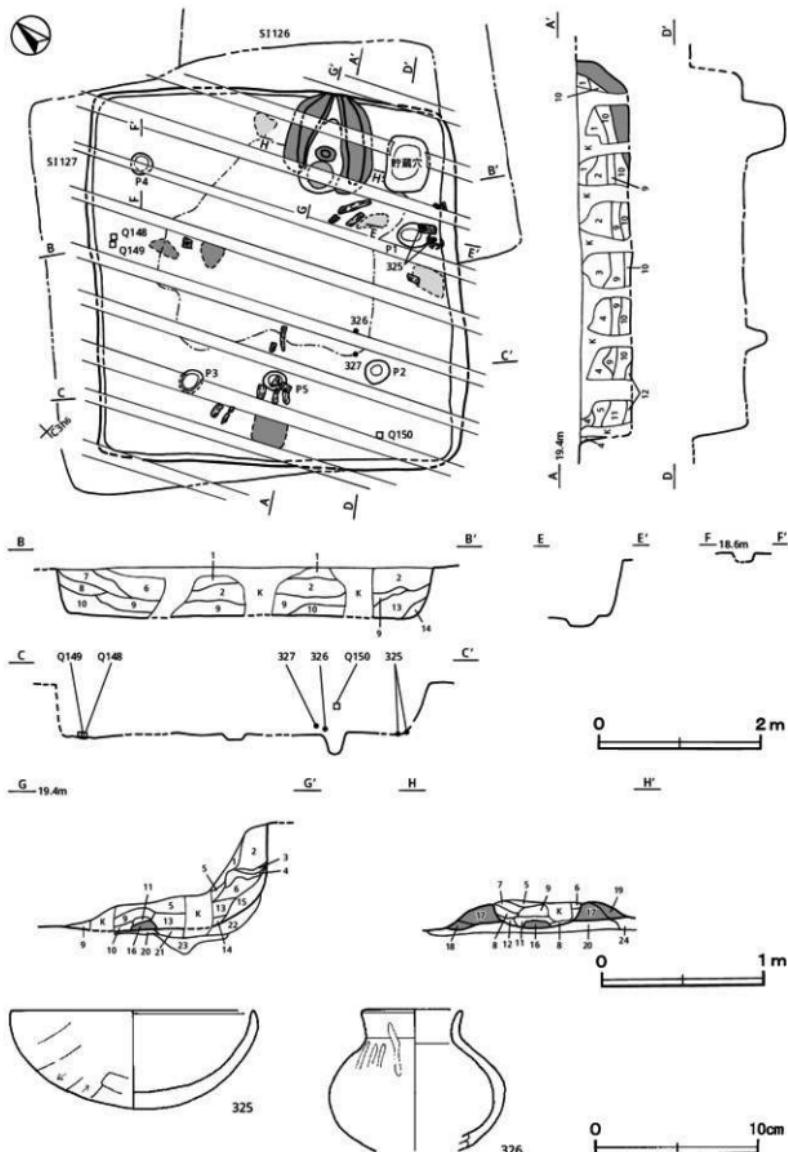
覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

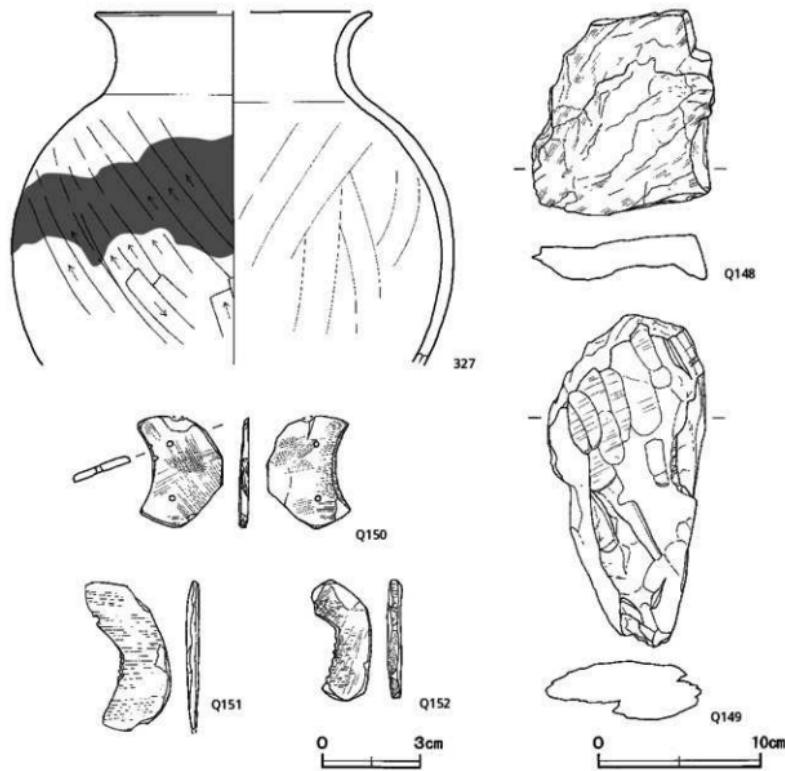
1	黑 黑 棕 色	ロームブロック・灰土粒子・炭化粒子微量	8	黑 黑 棕 色	ローム粒子微量
2	棕 黑 棕 色	ローム粒子少量	9	黑 黑 棕 色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	棕 黑 棕 色	ロームブロック中量	10	黑 黑 棕 色	炭化粒子少量、ロームブロック・灰土粒子微量
4	棕 黑 棕 色	ロームブロック微量	11	黑 黑 棕 色	ロームブロック微量、灰土粒子微量
5	黑 黑 棕 色	ロームブロック少量	12	黑 黑 棕 色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
6	黑 黑 棕 色	ローム粒子少量	13	棕 黑 棕 色	ロームブロック少量、灰土粒子微量
7	黑 黑 棕 色	ロームブロック少量、灰土粒子・炭化粒子微量	14	棕 黑 棕 色	ロームブロック少量、灰土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1481点（坪123・高杯52・鉢1・壺11・甕1284・瓶8・ミニチャア2）、須恵器片11点（坪3・蓋2・甕6）、土製品4点（土玉2・管状土錐2）、石製品5点（勾玉3・双孔円板2）、滑石14点、褐鉄鉱3点が出土している。また、混入した縄文土器片6点（深鉢）、土師器片18点（増10・甕8）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。325は南東壁際の床面、Q148・Q149は北西壁際の床面、Q150は南コーナー部の覆土中層、Q151・Q152は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀末葉と考えられる。滑石の原石や勾玉の未成品が出土していることから、石製品の製作に関連していた可能性がある。また、床面で焼土塊と炭化材が確認できたため、焼失した可能性が考えられる。



第225図 第125号住居跡・出土遺物実測図



第226図 第125号住居跡出土遺物実測図

第125号住居跡出土遺物観察表 (第225・226図)

番号	種別	縦幅	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
Q25	土器器	環	148	6.0	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面へラ削り	床面	90% PL70
Q26	土器器	壺	6.0	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面削き	覆土下層	65%
Q27	土器器	壺	[168]	(21.7)	-	長石・石英・雲母	淡黄褐色	普通	外面へラ削り 内面へラナデ	覆土下層	30%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q148	原石	12.6	11.3	2.8	507.1	滑石	荒削段階 刻離痕	床面	PL87
Q149	原石	20.4	9.7	3.5	835.2	滑石	荒削段階 刻離痕	床面	PL87

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q150	勾玉	3.4	2.6	0.3	0.2	(4.7)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 双孔円板を転用	覆土中層	PL83
Q151	勾玉	4.6	2.5	0.4	-	69	滑石	未成品 全面研磨 腹部に穿孔遺存 双孔円板を転用か	覆土中	PL83
Q152	勾玉	3.6	1.9	0.5	-	48	滑石	未成品 全面研磨	覆土中	PL83

第126号住居跡（第227図）

位置 調査区中央部のC3g7区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 西部から中央部を第125・127号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m、短軸3.86mの長方形で、主軸方向はN-39°-Eと推測される。壁高は17~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所。P1~P3は深さ23~30cmで、位置から主柱穴である。P4・P5はともに深さ28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

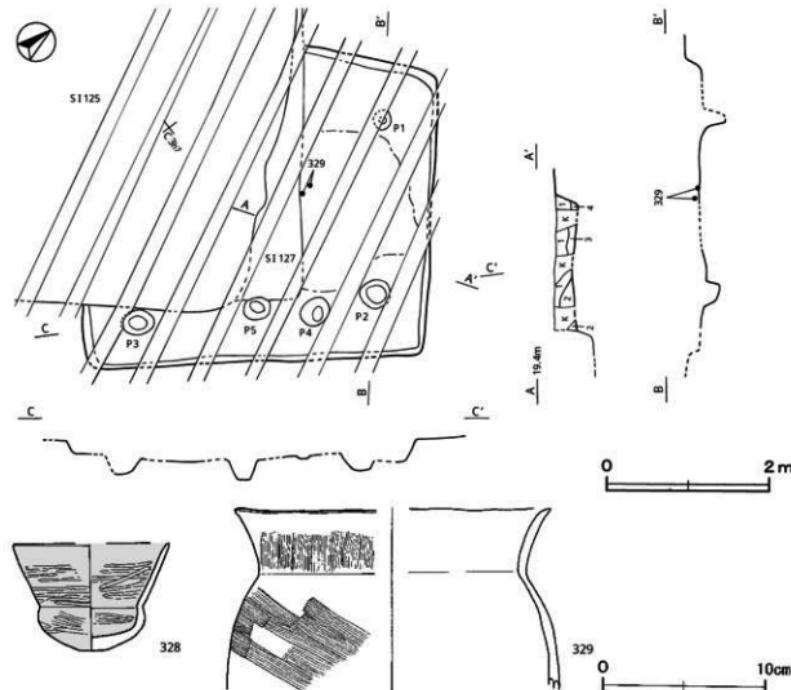
土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック少量
2	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

3	褐	褐色	ロームブロック中量
4	暗	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片230点（壺26・壺2・甕202）が出土している。また、混入した繩文土器片4点（深鉢）、土師器片6点（壺4・高杯2）、須恵器片1点（甕）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。329は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から4世紀後半と考えられる。



第227図 第126号住居跡・出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
328	土器	壺	[9.6]	6.6	1.5	長石・雲母・海綿骨粉	明赤褐色	普通	内・外表面磨き	覆土中	55% PL71
329	土器	壺	[19.4]	[11.2]	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外表面ハケ目調査	床面	20%

第127号住居跡（第228・229図）

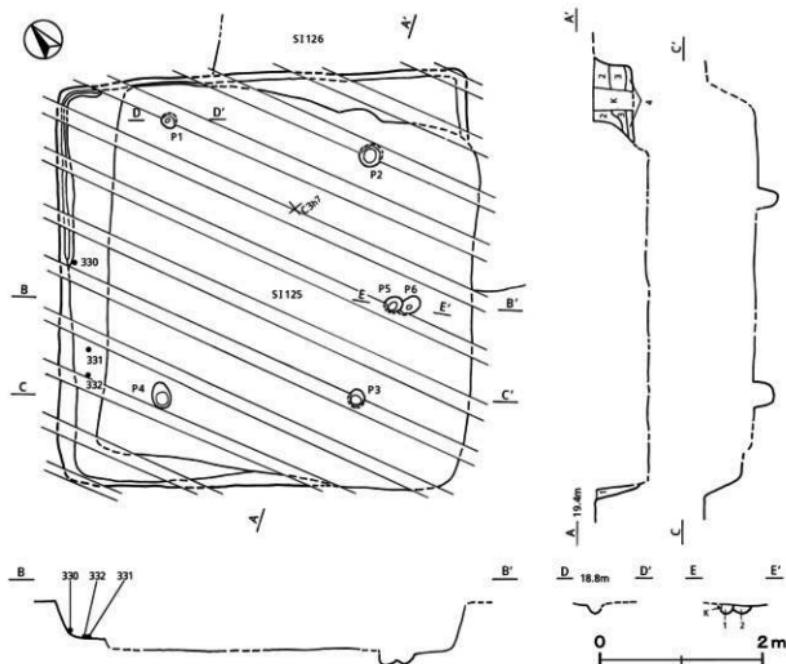
位置 調査区中央部のC 3h6区、標高19.2mの台地上に位置している。

重複関係 第126号住居跡を掘り込み、中央部から南部にかけて第125号住居に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.06mの方形で、主軸方向はN-54°-Wと推測される。壁高は36~56cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 確認できた部分では平坦で、硬化範囲は重複しているため確認できなかった。壁溝が北コーナー部で確認できた。

ピット 6か所。第125号住居の掘り方調査で確認した。P 1 ~ P 4 は深さ28~46cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ28cm・30cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層観察の結果、P 6 が古く、P 5 が新しい。



第228図 第127号住居跡実測図

P 5・P 6 土層解説

1 細 鮎 色 ローム粒子少量

2 黒 鮎 色 ローム粒子少量

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 細 鮎 色 ロームブロック少量

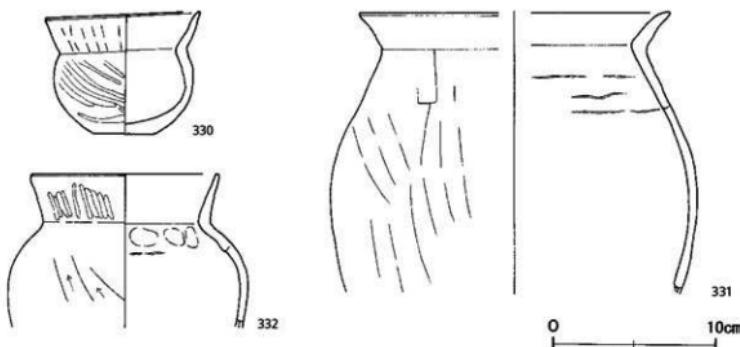
3 細 鮎 色 ロームブロック・炭化粒子少量。燒土粒子微量

2 細 鮎 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量

4 細 鮎 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片71点（鉢1・壺1・甕69）、土製品1点（管状土錐）が出土している。また、混入した弥生土器片1点（壺）、土師器片3点（坏2・器台1）、須恵器片1点（甕）も出土している。330は北西壁際の覆土下層、331・332は北西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀中葉と考えられる。



第229図 第127号住居跡出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表（第229図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
330	土師器	壺	95	76	37	長石・石英・雲母	明褐色	良好	口縁部外側へラ削り後、ナデ 体部外側磨き	覆土下層	80% PL.71
331	土師器	壺	[190]	(17.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	外側へラ削り		床面	20%
332	土師器	小形壺	11.4	(9.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい暗褐色	普通	口縁部外側磨き 体部外側へラ削り 内面指印压痕	床面	30%

第128号住居跡（第230・231図）

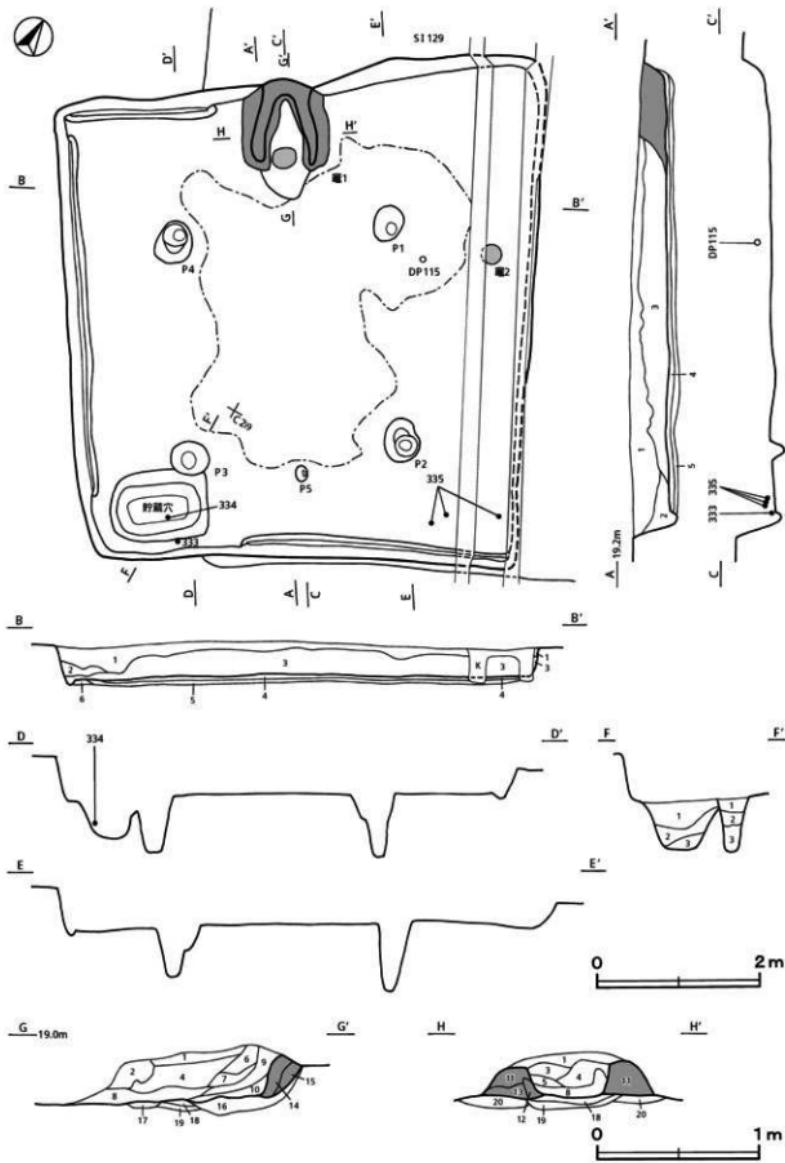
位置 調査区中央部のC 2 b9区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.23m、短軸5.70mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は35~45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、甕の前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が甕の右脇と貯蔵穴周辺を除いて確認できた。北東壁下の壁溝は擾乱のため不明である。

甕 2か所。甕1は北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで149cm、煙道部幅44cmである。第11~15層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~20層は掘り方への埋土で



第230図 第128号住居跡実測図

ある。竈2は北東壁の北寄りに付設されている。焼土塊と竈材とみられる砂粒が確認できた。規模等は不明である。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1 土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 緑 茶褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒 灰色 砂粒中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒 茶褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 にじく黄褐色 砂粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黄 茶褐色 砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 14 にじく黄褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黄 茶褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 5 黄 茶褐色 砂粒多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 烧土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 烧土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 烧土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 8 暗褐色 烧土ブロック中量、炭化粒子微量 | 19 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 9 にじく黄褐色 砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 20 第3層 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 10 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | |
| 11 黄褐色 砂粒多量、焼土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P.1～P.4は深さ61～87cmで、規模と位置から主柱穴である。P.5は深さ17cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は、柱抜き取り後の覆土である。

P.3 土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 緑 茶褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 緑 茶褐色 ロームブロック少量 | |

貯蔵窓 南コーナー部に付設されている。長軸121cm、短軸80cmの長方形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

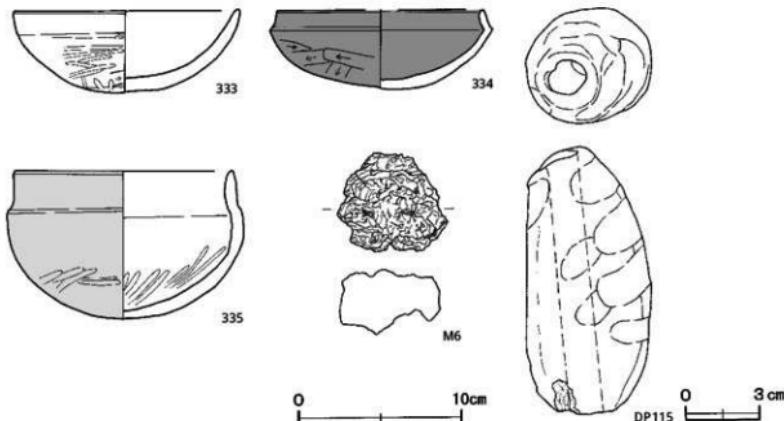
貯蔵窓 土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 緑 茶褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量 | |

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。第4～6層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 緑 茶褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 緑 茶褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |



第231図 第128号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1806点（坏309・椀2・高坏2・鉢1・壺1・甕1407・瓶84）、須恵器片23点（坏7・蓋3・甕13）、土製品21点（土玉19・管状土鍤2）、鐵滓19点（367.6g）、滑石片1点が出土している。また、混入した繩文土器片3点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）、土師器片1点（壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。333は南コーナー部の床面、334は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。また、図示できなかった土玉は、全城の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。

第128号住居跡出土遺物観察表（第231図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
333	土師器	坏	140	50	59	長石・雲母・ 酸化鉄粒子	明赤褐色	普通	外側へラ削り後、磨き	床面	95%
334	土師器	坏	[128]	49	-	長石・雲母	灰褐色	普通	外側へラ削り	貯蔵穴	85%
335	土師器	鉢	134	9.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外側磨き	覆土上層	90%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP115	管状土鍤	50	109	18	253.6	長石・石英	左手指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL79

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	鐵滓	62	68	41	843	鉄	着磁性なし	覆土中	

第129号住居跡（第232・233図）

位置 調査区中央部のC2b9区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第122号住居、西部を第128号住居、北コーナー部を第68号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.46m、短軸6.83mの方形で、主軸方向はN-67°-Eである。壁高は32~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

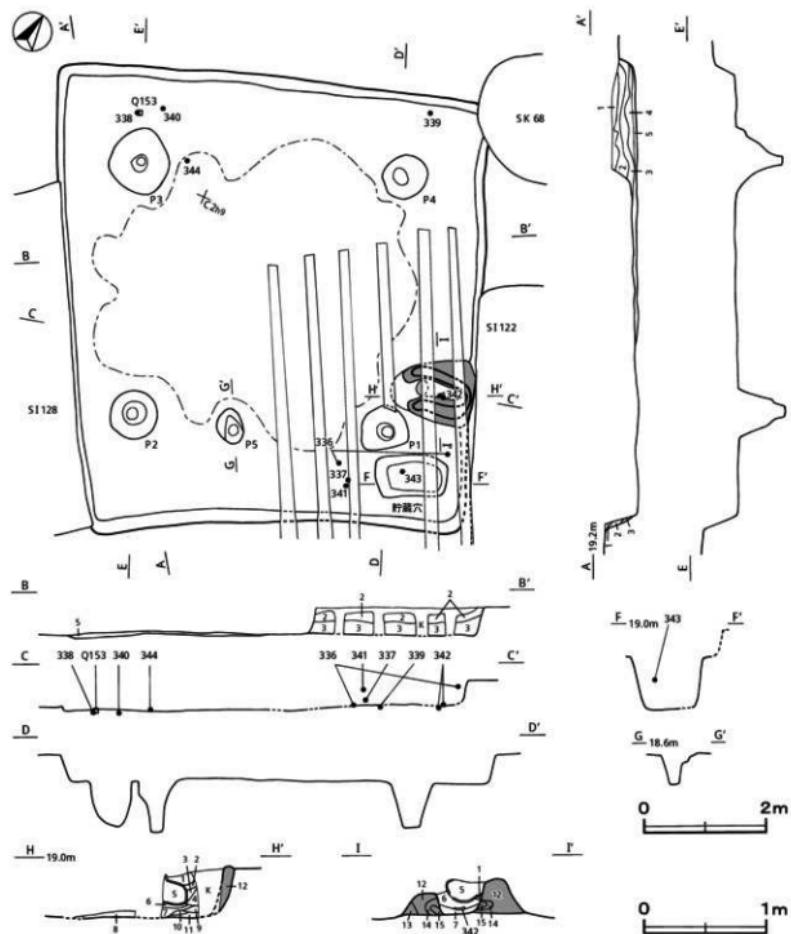
窓 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅28cmである。第12~15層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。

煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	炭化粒子中量
2	暗褐色	砂粒多量、炭化粒子微量	9	暗赤褐色	炭化粒子中量、燒土粒子少量
3	暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	10	にじく黄褐色	砂粒中量、ローム粒子微量
4	暗褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	11	暗赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	12	にじく黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子・燒土粒子微量	13	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
7	暗褐色	砂粒少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
			15	黒褐色	燒土粒子・炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ76~86cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ48cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸118cm、短軸69cmの長方形で、深さは82cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第232図 第129号住居跡実測図

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

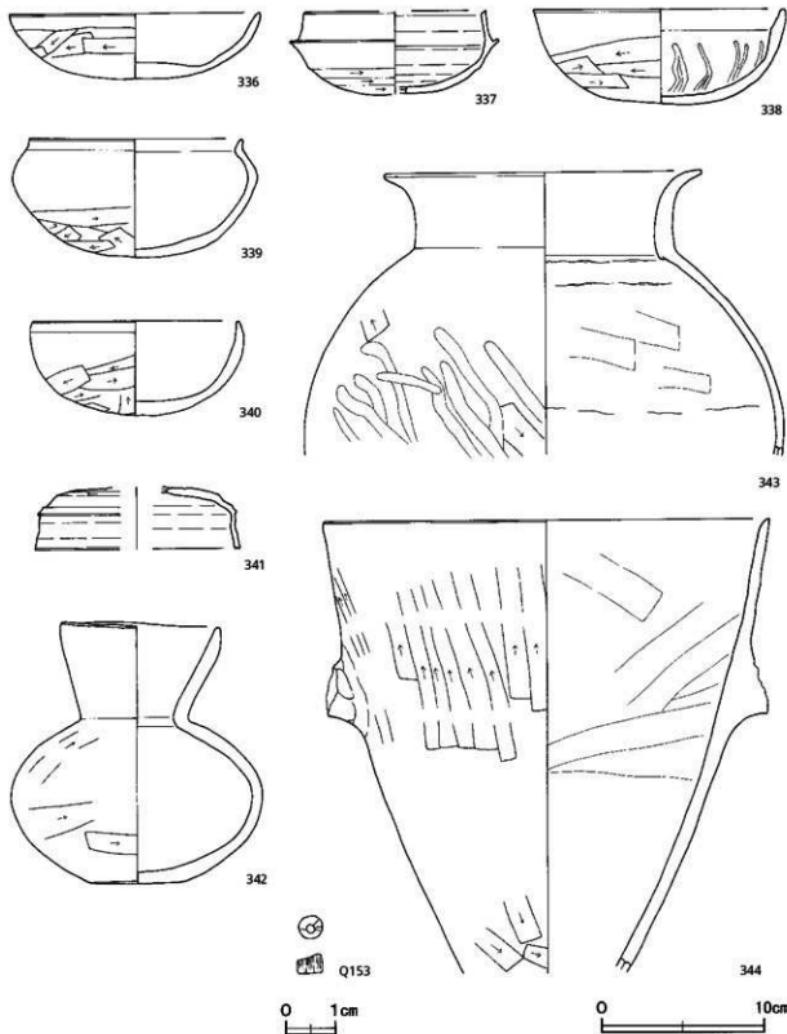
土層解説

1 細 間 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 塗 色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 細 間 色 ロームブロック少量、鐵土粒子・炭化粒子微量	5 黄 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黒 間 色 ロームブロック・鐵土粒子・炭化粒子少量	

遺物出土状況 土器片1352点（壺112・椀3・鉢6・壺1・甕1227・瓶3）、須恵器片7点（壺1・蓋5・甕1）、土製品10点（土玉9・支脚1）、石製品1点（白玉）、滑石片2点が出土している。遺物の大半は、全城

の覆土中から出土している。338・340は西コーナー部の床面、339は北西壁際の床面、343は貯蔵穴の覆土中層からそれぞれ出土している。また、342は竈の燃焼部から逆位で出土し、支脚に転用されており、上部からは土師器の甕の破片が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。



第233図 第129号住居跡出土遺物実測図

第129号住居跡出土遺物観察表 (第233図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
336	土師器	环	15.3	4.0	-	長石・石英・ 焼化鉄鉱子	浅黄褐	普通	外側へラ削り	床面 覆土上層	60% PL.70
337	須恵器	环	[11.1]	5.1	-	長石・中礫	灰	良好	体部下半回転へラ削り　底部内傾	覆土下層	30% PL.71
338	土師器	楕	15.5	5.9	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外側へラ削り　内面磨き	床面	100% PL.71
339	土師器	楕	13.0	7.3	-	長石・石英・ 焼化鉄鉱子	明赤褐	普通	外側へラ削り	床面	95%
340	土師器	楕	12.7	5.8	-	長石・石英・雲母 ・焼化鉄鉱子	にぶい黄褐	普通	外側へラ削り	床面	95% PL.71
341	須恵器	壺	[12.6]	(3.8)	-	長石・中礫	灰	良好	天井部上半回転へラ削り　底部内傾	覆土中層	20%
342	土師器	壺	9.5	16.1	6.0	長石・石英・雲母 ・焼化鉄鉱子	にぶい褐	普通	外側へラ削り後、ナデ	焼成焼部	60% PL.71
343	土師器	壺	19.4	(17.4)	-	長石・石英・雲母 ・焼化鉄鉱子	にぶい褐	普通	外側へラ削り後、磨き　内面へナダ	貯蔵穴	40%
344	土師器	壺	27.2	(27.9)	-	長石・石英・雲母 ・焼化鉄鉱子	にぶい褐	普通	外側へラ削り後、ナダ　内面へナダ　把手欠損	床面	60% PL.72

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q153	臼玉	0.5	0.2	0.1	6.9	滑石	全面研磨　一方向からの穿孔	床面	PL.86

第130号住居跡 (第234図)

位置 調査区西部のC3c4区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 北部を第132号住居、西部を第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.43m、短軸4.27mの方形で、主軸方向はN=45°-Wである。壁高は20~23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。焼土塊と炭化材が確認できた。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、燃焼部幅48cmである。袖部は砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変化している。煙道部は重複のため不明である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 線赤褐色 土師ブロック中量、ロームブロック少量 | 6 線赤褐色 土師粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 線赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 7 線褐色 ローム粒子・土師粒子・炭化粒子少量 |
| 3 線赤褐色 土師粒子多量、炭化粒子微量 | 8 明赤褐色 土師粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 線赤褐色 土師粒子、砂粒中量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子少量、土師粒子微量 |
| 5 線赤褐色 土師粒子少量、ローム粒子微量 | |

ピット P.1~P.4は深さ52~70cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸93cm、短軸52cmの隅丸長方形で、深さは33cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

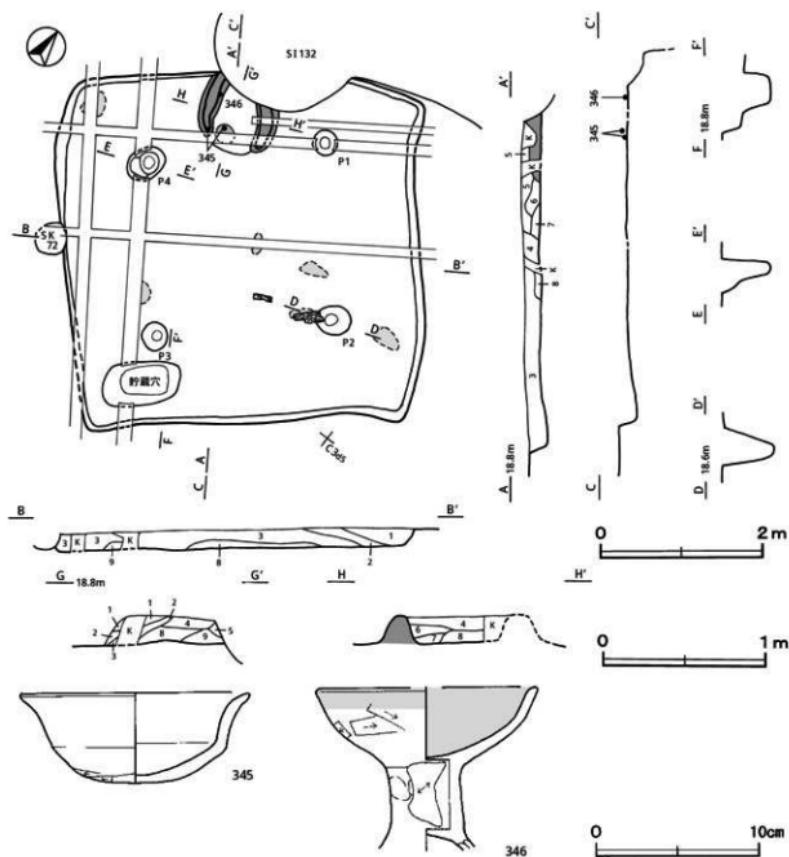
覆土 9層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 線赤褐色 ローム粒子少量、土師粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック少量、土師粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量、土師粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 線赤褐色 ロームブロック少量、土師粒子・炭化粒子微量 | 8 線褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・土師粒子少量 |
| 4 線赤褐色 ローム粒子・土師粒子少量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、土師粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量、土師粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片180点(坪18・高窓7・壺4・甕149・瓶2)、須恵器片3点(甕1・甕2)、土製品3点(土玉)、滑石片1点、褐鉄鉱3点が出土している。また、混入した繩文土器片5点(深鉢)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。345は竈の燃焼部と袖部上から出土している。346は竈左袖部の内部から正位で出土しているが、脚部に抵ぎ痕がみられることから、砥石として使用後に袖部の補強材にされたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたため、焼失した可能性がある。



第234図 第130号住居跡・出土遺物実測図

第130号住居跡出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
345	土器	环	142	54	-	長石・石英・雲母・ 斜長石粒子	暗	普通	外面部底部ヘラ削り	竈	40%
346	土器	基环	{134}	(99)	-	長石・石英・雲母	暗	普通	环部外面部ヘラ削り 脚部外面部擦痕圧痕 破壊痕	竈内部	40%

第132号住居跡（第235・236図）

位置 調査区西部のC 3 a3区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 第130・133号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.56m、短軸7.30mの方形で、南壁の中央部が張り出している。主軸方向はN-70°-Eである。壁高は37~45cmで、外傾して立ち上がっている。北東コーナー部は調査区外である。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 2か所。竈1は東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで145cm、燃焼部幅50cmである。袖部は、ロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれている。第7層は掘り方への埋土である。竈2は北壁の中央部に付設されている。煙道部のみが遺存しており、規模等は不明である。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1 土層解説

1 にい青色	粘土ブロック多量、粘土ブロック中量、炭化粒子微量	4 喧春褐色	粘土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	5 喧春褐色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
3 赤褐色	粘土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量	6 喧春褐色	粘土ブロック少量、炭化粒子微量
		7 単純褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ76~89cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ26cm・8cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁際中央部の東寄りに付設されている。長軸108cm、短軸80cmの長方形で、深さは72cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1 赤褐色	ロームブロック少量	3 喧春褐色	ロームブロック多量
2 細褐色	ロームブロック中量		

張り出し施設 南壁の中央部に付設されている掘り込みである。長軸108cm、短軸100cmの方形で、深さは94cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。遺構全城の覆土とともに埋め戻されている。形状と規模、貯蔵穴を掘り込んで付設していることから、新しい貯蔵穴の可能性が考えられる。

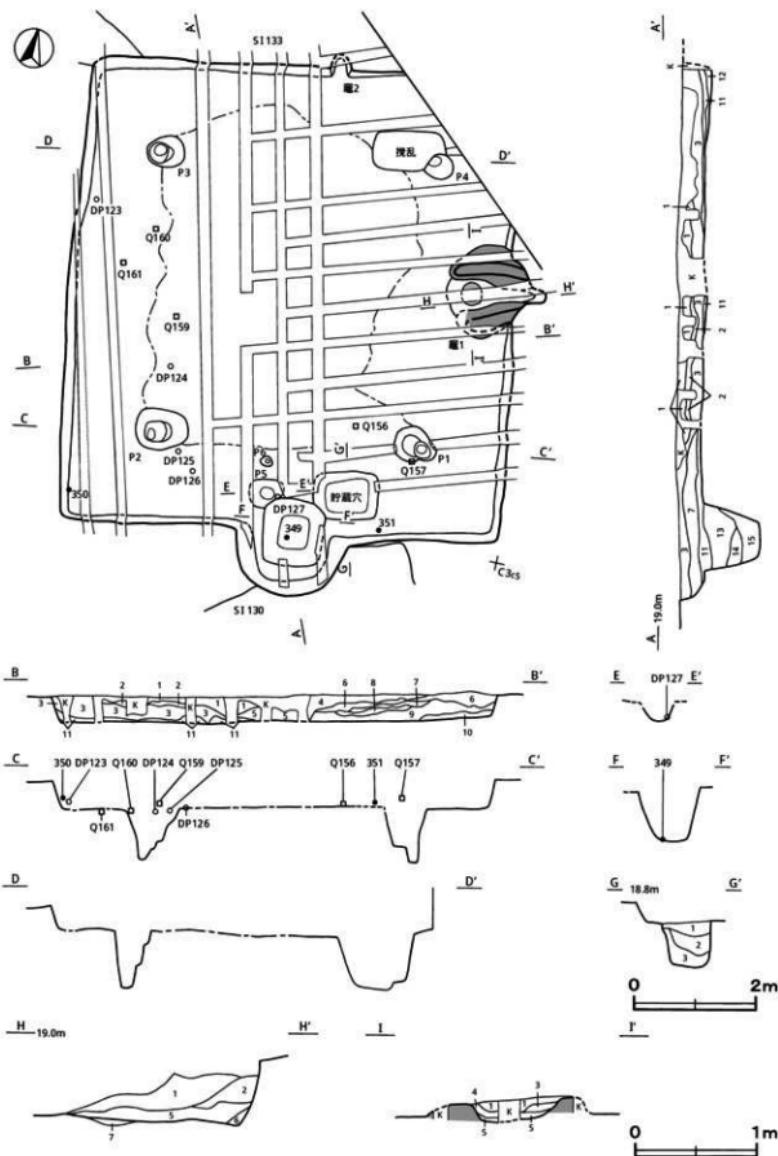
覆土 15層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

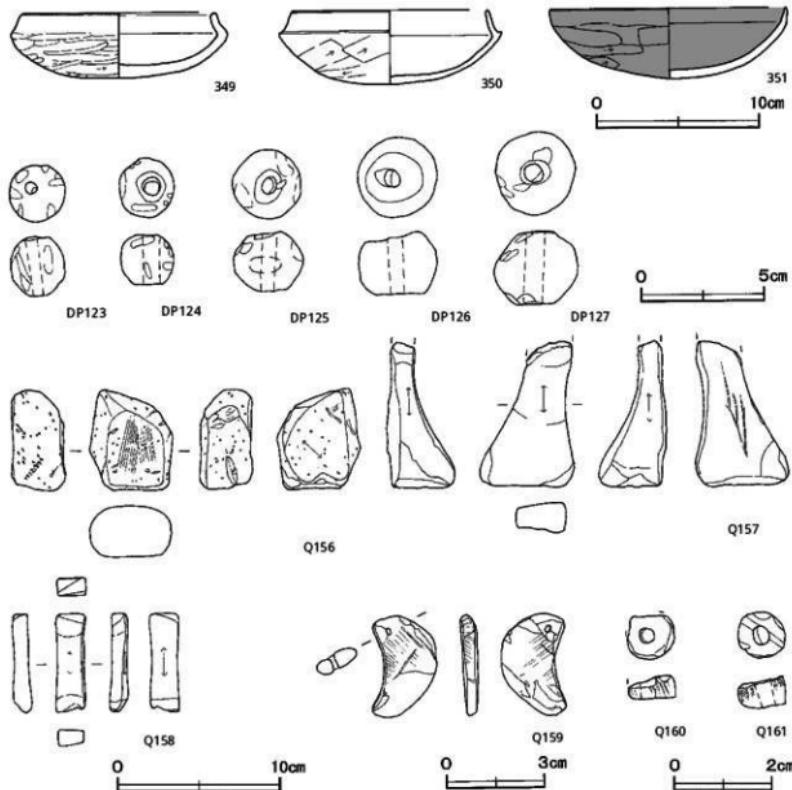
1 褐褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	9 喧春褐色	ローム粒子少量
2 褐褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 喧春褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3 褐褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・炭化粘土粒子微量	11 喧春褐色	ロームブロック微量
4 褐褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粘土粒子微量	12 喧春褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 褐褐色	ロームブロック・粘土粒子・炭化粘土粒子微量	13 喧春褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6 褐褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	14 喧春褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
7 褐褐色	ロームブロック中量	15 喧春褐色	ロームブロック少量
8 褐褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片1889点（坏761・高坏19・鉢1・壺15・甕1080・瓶7・ミニチュア6）、須恵器片22点（坏8・蓋1・高坏2・甕11）、土製品65点（土玉58・管状土錐4・支脚3）、石器5点（砥石）、石製品3点（臼玉2・双孔円板1）、鐵滓2点（38.9g）、滑石片16点、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した繩文土器片12点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）、鐵製品4点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。349は張り出し施設の底面から出土している。また、図示できなかった土玉は、全城の覆土中から47点、張り出し施設の覆土中から6点がそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第235図 第132号住居跡実測図



第236図 第132号住居跡出土遺物実測図

第132号住居跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									長石・雲母・酸化鉄粒子	にぶい擦	普通	
349	土師器	环	11.9	4.0	-	長石・雲母・酸化鉄粒子	にぶい擦	普通	外周へラ削り後、磨き		張り出し施設	100% PL71
350	土師器	环	11.8	4.6	-	長石・雲母	にぶい擦	普通	外周へラ削り		覆土中層	100% PL71
351	土師器	环	14.6	4.3	-	長石・雲母	黒褐色	普通	外周へラ削り		覆土下層	60%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土		特徴	出土位置	備考
						長石	陶土			
DP123	土玉	2.3	2.4	0.4	11.3	長石		磨き 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP124	土玉	2.3	2.0	0.7	11.5	長石		磨き 一方向からの穿孔	床面	
DP125	土玉	2.8	2.4	0.5	18.4	長石		指謹圧痕 一方向からの穿孔	床面	
DP126	土玉	3.3	2.5	0.6	28.6	長石		一方向からの穿孔	床面	
DP127	土玉	3.4	3.0	0.8	30.4	長石		磨き 一方向からの穿孔	P 5	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q156	砥石	62	51	32	29.2	軽石	平砥石 砥面2面	床面	
Q157	砥石	(69)	57	43	(182.8)	凝灰岩	平砥石 砥面4面	覆土下層	PL80
Q158	砥石	61	18	1.1	(21.4)	凝灰岩	内磨砥石 砥面2面	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q159	勾玉	31	21	0.5	0.2	(5.1)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL83

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q160	臼玉	1.0	0.4	0.3	(0.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86
Q161	臼玉	1.0	0.7	0.3	0.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL86

第133号住居跡（第237図）

位置 調査区西部のC 2 j3区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 南部を第132号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸は重複のため7.70m、東西軸は東部が調査区域外に延びているため3.50mしか確認できなかった。形状は、方形もしくは長方形と推測される。主軸方向は、竈が確認できなかつたため不明である。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁際で焼土塊が確認できた。

ピット 5か所。P 5は第132号住居の掘り方調査で確認した。P 1・P 2は深さ76cm・77cmで、規模と位置から主柱穴である。P 3は深さ16cmで、位置から出入り口施設に伴うピットもしくは補助柱穴と考えられる。P 4・P 5は深さ29cm・21cmで、性格は不明である。

貯蔵戸 南西壁際の中央部に位置し、南西壁とP 3の間に付設されている。長軸108cm、短軸58cmの長方形で、深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

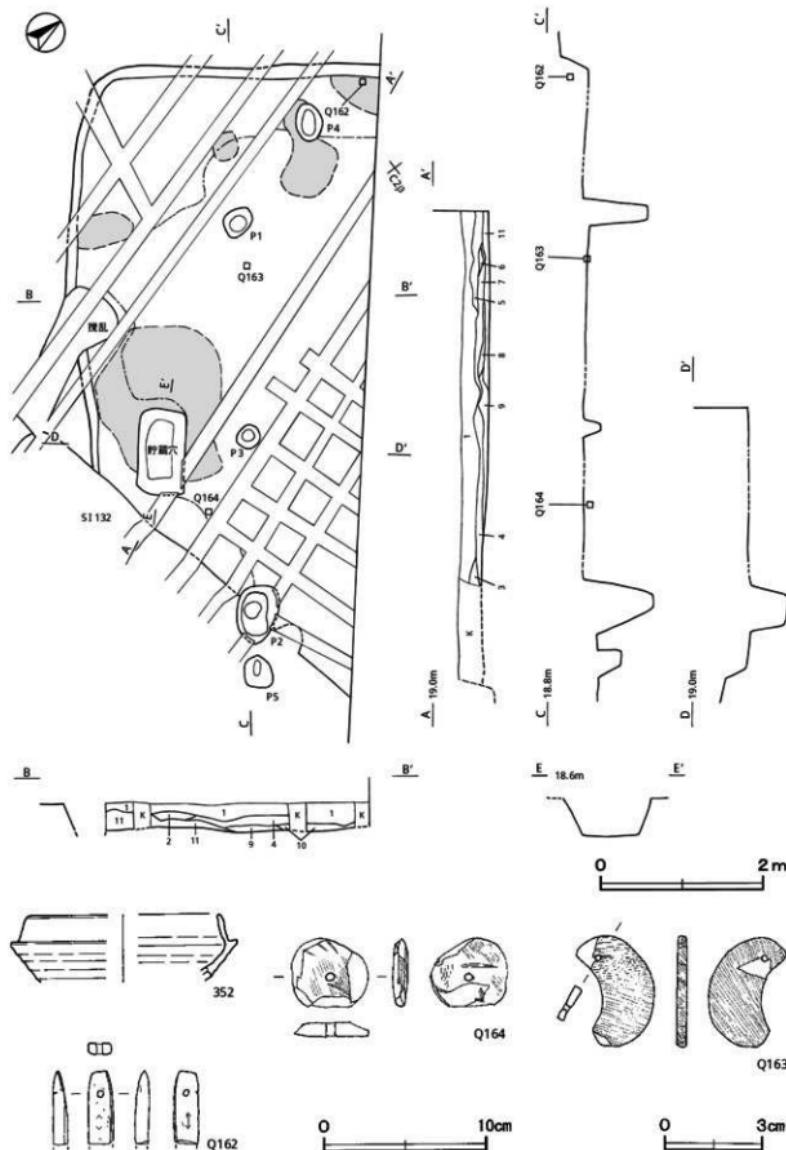
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	燒土粒子中量、ロームブロック・燒土粒子微量	8	黒	褐	色	炭化粒子中量、ロームブロック少量
3	黒	褐	色	ロームブロック少量	9	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量	10	暗	褐	色	ローム粒子少量
5	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量	11	暗	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
6	黒	褐	色	炭化粒子少量、ローム粒子微量					

遺物出土状況 土師器片546点（坏265・椀4・蓋6・甕271）、須恵器片196点（坏2・蓋5・器台1・甕1・甕187）、土製品3点（土玉）、石器1点（砥石）、石製品3点（勾玉・單孔円板・双孔円板）、滑石片6点、褐鉄鉱3点が出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。Q163は中央部西寄り、Q164は中央部南寄りのそれぞれ床面、Q162は北西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第237図 第133号住居跡・出土遺物実測図

第133号住居跡遺物観察表（第237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
352	須恵器	环	[11.7]	(40)	-	長石・石英	灰	良好	体部下半回転ヘラ削り 自然釉付着	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q162	砥石	(45)	1.5	0.9	0.4	(9.4)	闊灰岩	内面砥石 砥面:面 二方向からの穿孔	覆土中層	PL81
Q163	勾玉	35	2.4	0.3	0.2	4.7	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL83
Q164	穿孔円板	(43)	4.7	0.9	0.6	(31.2)	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔	床面	PL85

第134号住居跡（第238・239図）

位置 調査区西部のC 2 i6区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 124号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.47m、短軸6.16mの方形で、主軸方向はN-52°-Wである。壁高は32~56cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。壁構が南東壁下から東コーナー部で確認できた。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで144cmで、燃焼部幅は両袖部が欠損しているが48cmと推測される。第3層は袖部で、砂粒を主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、赤変している。煙道部は搅乱のため不明であるが、13cm掘り込まれていると推測される。第4層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1	暗赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	3	にぶい黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量
2	深褐色	炭化粒子中量、燒土粒子・砂粒少量	4	暗赤褐色	燒土粒子多量、炭化粒子少量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ51~63cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ8cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長軸は69cmで、短軸は搅乱のため38cmしか確認できなかつたが、長方形である。深さは15cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。

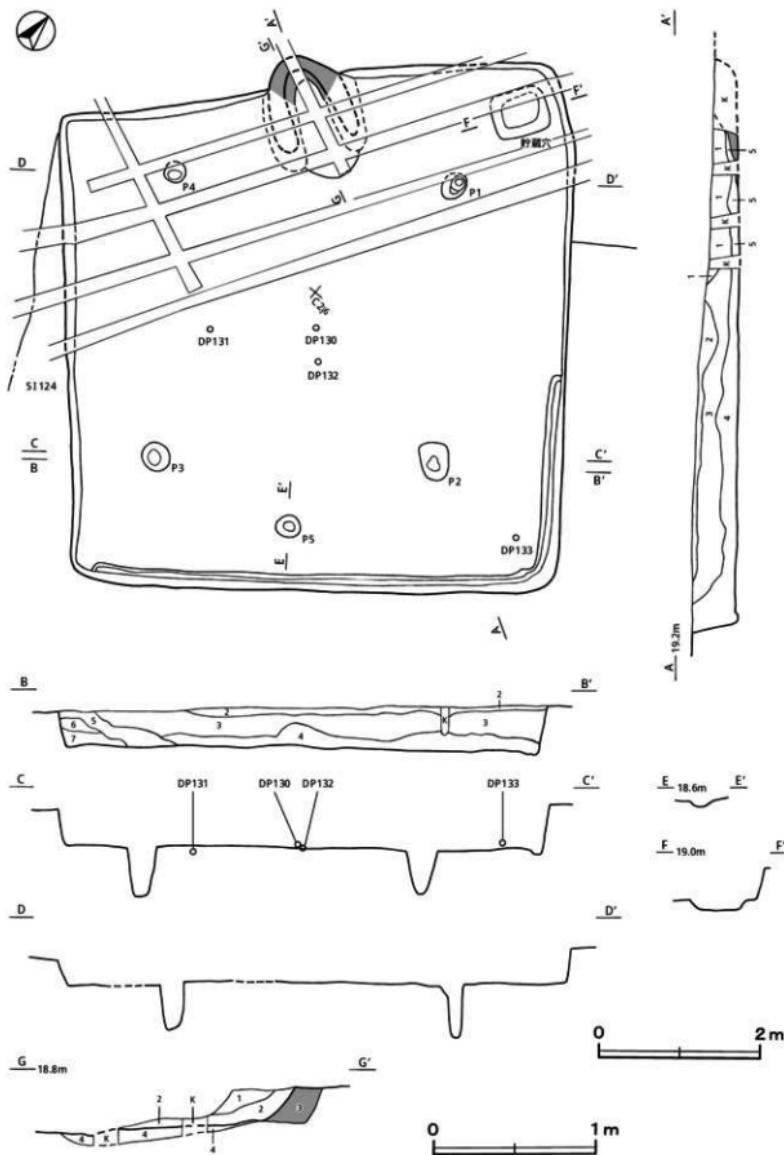
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

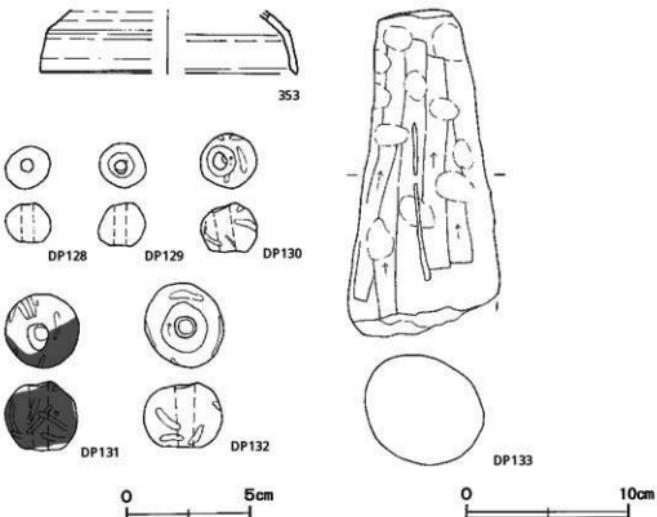
1	暗褐色	ロームブロック中量	4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
2	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片714点（环79・楕2・高杯7・甕600・瓶26）、須恵器片13点（环5・蓋2・甕2・甕4）、土製品26点（小玉1・土玉17・管状土錐4・支脚4）、石製品1点（白玉）、鉄滓7点（50.7g）、滑石片5点、褐鉄鉱2点が出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。DP130~DP132は中央部の床面、DP133は東コーナー部の覆土下層、353は覆土中から出土している。図示できなかった土玉は、全域の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第238図 第134号住居跡実測図



第239図 第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
353	須恵器	蓋	[158]	(39)	-	長石・石英	灰	普通	底部内側	覆土中	15%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土		特徴	出土位置	備考
						内径	外径			
DP128	土玉	1.8	1.5	0.5	49	長石・雲母		磨き 一方向からの穿孔	覆土中	PL78
DP129	土玉	1.9	1.7	0.6	66	長石・雲母		磨き 上下へラ切り 一方向からの穿孔	覆土中	PL78
DP130	土玉	2.3	2.0	0.7	95	長石・雲母		磨き 上下へラ切り 一方向からの穿孔	床面	PL78
DP131	土玉	3.0	2.8	0.9	239	長石・雲母		磨き 一方向からの穿孔	床面	
DP132	土玉	3.3	2.6	0.7	297	長石・石英・雲母		磨き 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP133	支脚	22.5	4.5	9.3	(1225.3)	長石・石英・雲母	ヘラ削り 指印圧痕	覆土下層	

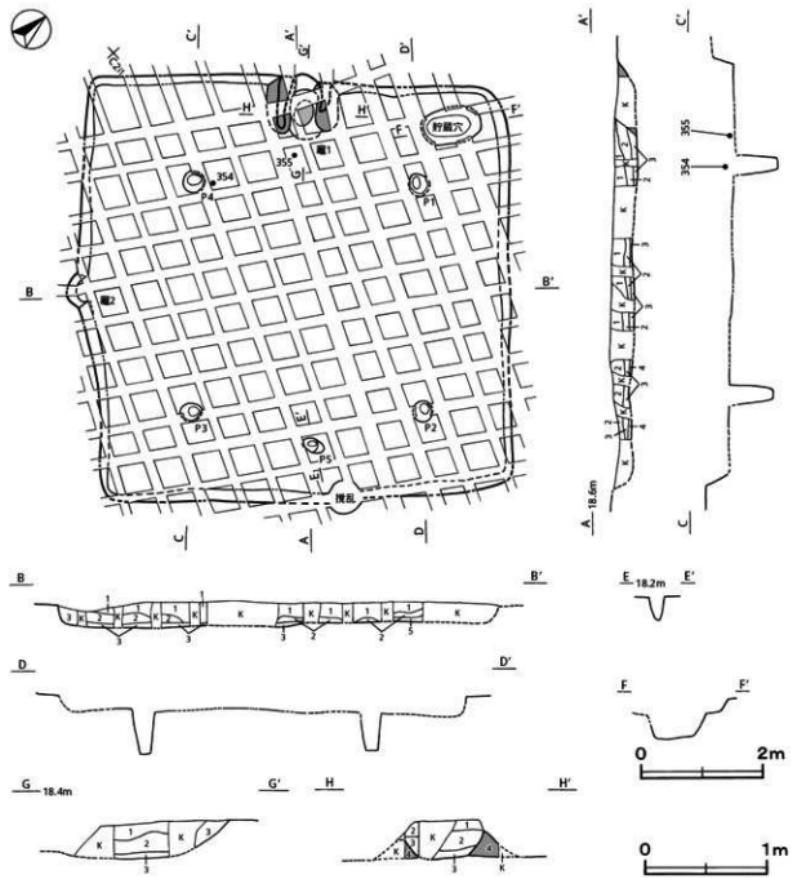
第136号住居跡（第240・241図）

位置 調査区西部のC2h2区、標高18.3mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.94mの方形で、主軸方向はN-48°-Wである。壁高は24~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。

竈 2か所。竈1は北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで106cm、燃焼部幅45cmである。第4層は袖部で、砂粒を主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さ



第240図 第136号住居跡実測図

で、赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれている。竈2は南西壁の中央部に付設されているが、煙道部しか確認できなかった。壁外に16cm掘り込まれていると推測される。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1土層解説

- | | | | | | |
|---|------|----------------------------|---|------|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・礫土粒子・砂粒
少量 | 3 | 暗赤褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・礫土粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 礫土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 4 | 灰褐色 | ローム粒子・砂粒中量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ58～60cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ37cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。直径は60cmで、長径は搅乱のため98cmしか確認できなかったが、梢円形と推測される。深さは49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

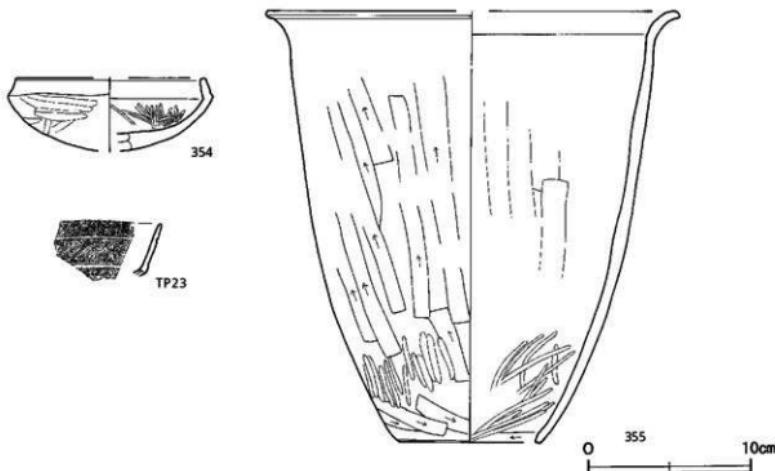
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	芯	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐	褐色	ロームブロック中量
2	緑	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	緑	褐色	ロームブロック少量、施土粒子・炭化粒子微量
3	緑	褐色	ロームブロック中量、施土粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況 土師器片857点（环88・碗26・高杯4・甕681・瓶54・ミニチュア4）、須恵器片2点（甕・甕）、土製品23点（土玉18・管状土錐1・支脚4）、滑石片1点、褐鉄鉢1点が出土している。また、混入した縄文土器片4点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。354は中央部の覆土下層、355は甕1前面の覆土下層からそれぞれ出土している。また、図示できなかった土玉は、全域の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第241図 第136号住居跡出土遺物実測図

第136号住居跡出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
354	土師器	环	[115]	4.5	-	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	内・外面磨き	覆土下層	50%
355	土師器	甕	[252]	26.6	8.8	長石・石英・雲母	褐	普通	外面向へラ削り後、磨き 内面上半ヘナダネ 下半磨き	覆土下層	70%

番号	種別	器種	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	須恵器	瓶	長石	灰	良好	縦巻状工具による刻突文 滲跡	覆土中	

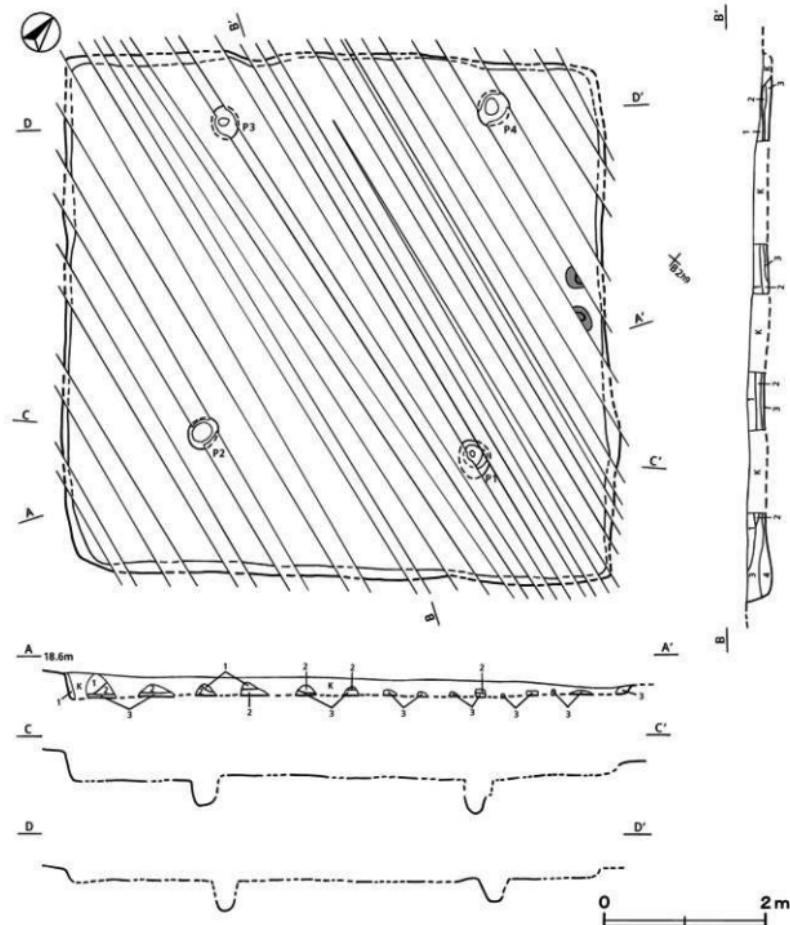
第137号住居跡（第242・243図）

位置 調査区西部のB2h8区、標高18.4mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.64m、短軸6.45mの方形で、主軸方向はN-53°-Eと推測される。壁高は10~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、踏み固められていない。

窓 北東壁の中央部に付設されている。粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。擾乱のため、規模や形状は不明である。



第242図 第137号住居跡実測図

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ28～43cmで、規模と位置から主柱穴である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

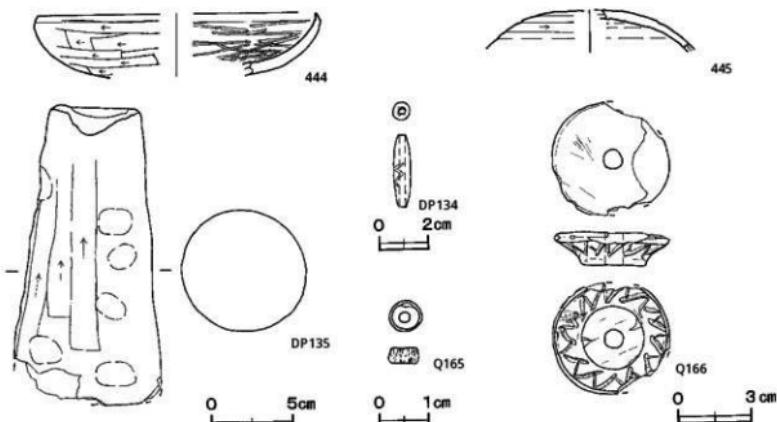
土層解説

1 黒褐色 硫化粒子中量 ロームブロック少量
2 灰褐色 ロームブロック・陶土粒子・硫化粒子微量

3 灰褐色 ロームブロック少量
4 黑褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1022点（坏74・高坏3・甕941・瓶1・ミニチュア3）、須恵器片19点（坏6・甕3・甕4）、土製品14点（土玉12・管状土錐1・支脚1）、石製品3点（臼玉2・紡錘車1）、滑石片25点が出土している。また、混入した繩文土器片3点（深鉢）、土師器片5点（坏4・椀1）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。444・445は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から6世紀末葉と考えられる。



第243図 第137号住居跡出土遺物実測図

第137号住居跡出土遺物観察表（第243図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
444	土師器	坏	[17.1]	(3.8)	-	長石・硫化鉄粒子	灰褐色	普通	外縁ヘラ削り 内面磨き	覆土中	15%
445	須恵器	蓋	-	(2.7)	-	長石・中礫	灰	良好	天井部上半回転ヘラ削り	覆土中	20%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP134	管状土錐	0.7	3.0	0.3	1.3	長石	一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP135	支脚	18.5	5.5	9.1	(1060.0)	長石・雲母・硫化鉄粒子	ヘラ削り 指跡圧痕	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q165	臼玉	0.6	0.4	0.2	0.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL86
Q166	紡錘車	4.8	1.4	0.7	(30.9)	粘板岩	全面研磨 繩文を鏤封 二方向からの穿孔	覆土中	PL81

第139号住居跡（第244・245図）

位置 調査区中央部のD 3 b5区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 第98号住居跡を掘り込み、南東コーナー部を第71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.18m、短軸5.97mの方形で、主軸方向はN=98°-Wである。壁高は35~58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から出入り口施設にかけて踏み固められている。P 9の周間に馬蹄形の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝がほぼ全周している。

竈 2か所。竈1は西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで133cm、燃焼部幅43cmである。第16~19層は袖部で、粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は擾乱のため不明である。第20~22層は掘り方への埋土である。竈2は北壁の中央部に付設されているが、火床面しか確認できなかった。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

P 1 土層解説

1 黒 開 色	粘土ブロック・ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	12 細 開 色	ロームブロック・粘土ブロック少量、粘土ブロック微量
2 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	13 細 開 色	ロームブロック・粘土ブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、粘土粒子・炭化粒子微量	14 細 開 色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
4 細 開 色	粘土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	15 細 開 色	粘土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
5 細 開 色	粘土ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子微量	16 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量、粘土粒子・炭化粒子微量
6 細 開 色	粘土粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	17 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量、粘土粒子・炭化粒子微量
7 細 開 色	粘土ブロック・粘土粒子・炭化粒子微量	18 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量
8 細 開 色	粘土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	19 黑 開 色	ロームブロック・炭化粒子微量
9 細 開 色	粘土ブロック少量、粘土粒子微量	20 細 開 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
10 黑 開 色	砂利少量、粘土粒子・炭化粒子微量	21 細 開 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
11 細 開 色	粘土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	22 細 開 色	粘土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 9か所。P 1~P 8は深さ58~93cmで、規模と位置から主柱穴である。第1~3層はP 1の柱抜き取り後の覆土、第4~6層はP 5の埋め戻された土である。土層観察の結果、P 5が古く、P 1が新しい。P 5~P 8が古い主柱穴で、P 1~P 4が立て替えられた主柱穴と推測される。P 9は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置し、周間に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P 1~P 5 土層解説

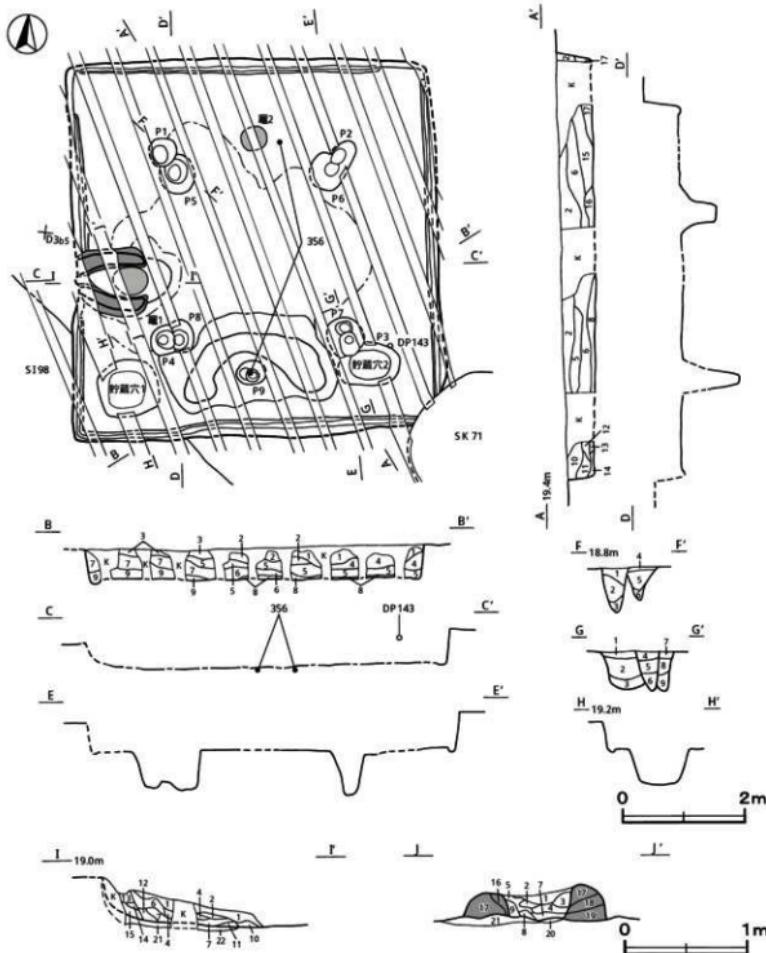
1 黒 色	ロームブロック中量	4 細 色	ロームブロック少量
2 細 色	ローム粒子中量	5 黒 色	ロームブロック微量
3 細 色	ロームブロック多量	6 棚 色	ローム粒子中量

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に付設されている。長軸は97cmで、短軸は搅乱のため94cmしか確認できなかったが、隅丸方形と推測される。深さは56cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南東コーナー部に付設されている。短軸は72cmで、長軸は搅乱のため101cmしか確認できなかったが、楕円形と推測される。深さは64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。土層観察の結果、貯蔵穴2とP 7が古く、P 3が新しい。第2~3層は貯蔵穴の埋め戻し土で、第1層は貼床構築土である。第4~6層はP 3の柱抜き取り後の覆土、第7~9層はP 7の埋め戻された土である。

貯蔵穴2・P 3・P 7 土層解説

1 黒 色	ロームブロック中量	6 棚 色	ロームブロック多量
2 細 色	ロームブロック微量	7 細 色	ロームブロック少量
3 細 色	ロームブロック少量	8 黑 色	ロームブロック微量
4 黒 色	ロームブロック中量	9 棚 色	ローム粒子中量
5 細 色	ローム粒子中量		

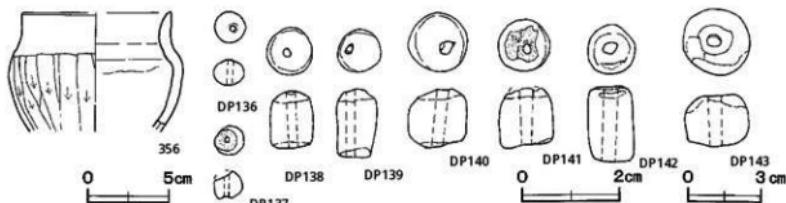
覆土 17層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。



第244図 第139号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片1179点（坏137・高坏11・鉢2・壺5・甕1004・瓶17・ミニチュア3）、須恵器片14点（坏5・蓋5・甕1・甕3）、土製品21点（小玉5・土玉10・管状土錐4・支脚2）、石製品1点（劍形模造品）、鉄滓1点（7.9 g）、滑石片11点、緑色凝灰岩1点、褐鉄鉱6点が出土している。また、混入した繩文土器片11点（深鉢）、弥生土器片6点（甕）、土師器片1点（甕）、鉄製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。356は中央部北寄りの床面と、P 9の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。貯蔵穴2は埋め戻された後に貼床されていることから、北壁側の甕2と貯蔵穴2が古く、西壁側の甕1と貯蔵穴1が新しいと考えられる。



第245図 第139号住居跡出土遺物実測図

第139号住居跡出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
356	土師器	鉢	[9.1]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外縁へラ削り	床面 P 9	35%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP136	小玉	0.6	0.5	0.2	0.2	長石	一方向からの穿孔	覆土中	
DP137	小玉	0.6	(0.5)	0.2	(0.2)	長石	一方向からの穿孔	覆土中	
DP138	小玉	0.9	1.2	0.2	1.3	長石	一方向からの穿孔	覆土中	
DP139	小玉	0.9	1.4	0.2	1.3	長石	一方向からの穿孔	覆土中	
DP140	小玉	1.3	1.2	0.3	1.9	長石	一方向からの穿孔	覆土中	PL 78
DP141	小玉	1.2	(1.3)	0.4	(1.9)	長石	一方向からの穿孔	覆土中	PL 78
DP142	小玉	1.0	1.5	0.3	1.7	長石	一方向からの穿孔	覆土中	PL 78
DP143	土玉	2.7	2.3	0.6	16.2	長石	一方向からの穿孔	覆土中	頭

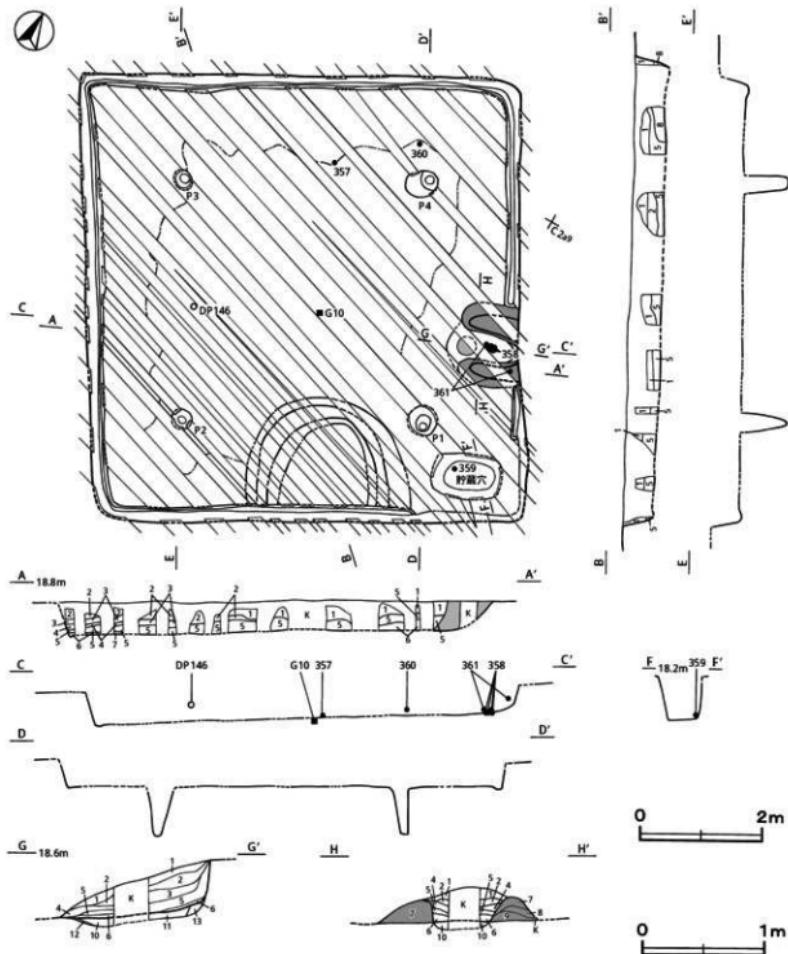
第140号住居跡（第246・247図）

位置 調査区西部のC 2 a8区、標高18.6mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.35m、短軸7.12mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は40~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁溝が南東コーナー部を除いて確認できた。南壁際の中央部に馬蹄形の高まりがあり、出入口施設に伴うものと考えられる。

甕 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで113cm、燃焼部幅45cmである。第7~9層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第10~13層は掘り方への埋土である。



第246図 第140号住居跡実測図

遺土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 白 色 | ロームブロック・砂粒少量。焼土粒子微量。 | 7 にぶい黄褐色 | 砂粒中量。ローム粒子少量。炭化粒子微量。 |
| 2 灰褐色 | 砂粒中量。ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 8 黑褐色 | 砂粒中量。ローム粒子・炭化粒子少量。燒土粒子微量。 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂粒多量。ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 9 黄褐色 | ローム粒子少量。燒土粒子微量。 |
| 4 灰赤褐色 | 燒土粒子・砂粒中量。ローム粒子・炭化粒子微量。 | 10 土褐色 | 地土粒子中量。ローム粒子・炭化粒子少量。 |
| 5 黑褐色 | 燒土粒子・炭化粒子少量。ローム粒子・砂粒微量。 | 11 灰褐色 | ローム粒子中量。燒土粒子・炭化粒子微量。 |
| 6 黑褐色 | 炭化粒子中量。ローム粒子・燒土粒子・砂粒微量。 | 12 灰褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量。 |
| | | 13 にぶい黄褐色 | ローム粒子・砂粒少量。燒土粒子・炭化粒子微量。 |

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ72～86cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。短軸は75cmで、長軸は擾乱のため118cmしか確認できなかつたが、長方形と推測される。深さは73cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

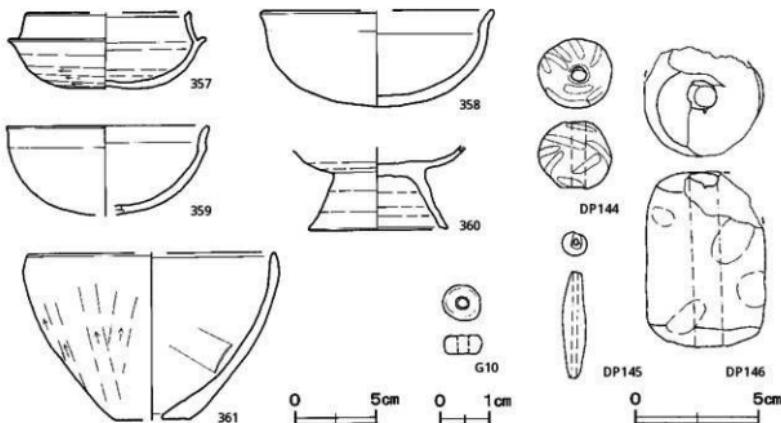
覆土 8層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量
4	黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・燒土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1244点（坏217・楕2・高坏10・鉢2・壺6・甕1002・瓶2・ミニチュア3）、須恵器片42点（坏19・蓋12・高坏3・甕8）、土製品15点（土玉10・管状土錐4・支脚1）、石製品2点（双孔円板・劍形模造品）、鐵滓2点（4.5g）、ガラス製品1点（小玉）、滑石片5点、銛鉄鉈1点が出土している。また、混入した繩文土器片12点（深鉢）、弥生土器片1点（甕）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中層から下層にかけて出土している。357は中央部北寄りの床面、G10は中央部の床面、358は甕の燃焼部、361は甕の燃焼部と右袖部の上部、359は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第247図 第140号住居跡出土遺物実測図

第140号住居跡出土遺物観察表（第247図）

番号	種別	器種	口径	底高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
357	須恵器	坏	[10.0]	4.7	-	長石・中礫	灰	良好	体部下半回転ヘラ削り 腹部凹面	床面	40% PL.72
358	土師器	椭	[14.2]	5.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外腹底部ヘラ削り	電気焼部	45% PL.72
359	土師器	椭	12.2	5.5	-	長石・石英・雲母・炭化鉄粒子	橙	普通	摩滅のため調整不明	貯蔵穴	40% PL.72
360	須恵器	高坏	-	(5.1)	8.4	長石	灰黄	良好	自然釉付着	覆土下層	50% PL.72
361	土師器	瓶	[15.2]	10.2	[4.6]	長石・雲母・炭化鉄粒子	橙	普通	外腹ヘラ削り後、ナデ 内腹ヘラナデ	甕	45% PL.73

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP144	土玉	3.0	2.7	0.6	20.6	長石	磨き 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP145	管状土錐	1.0	4.4	0.2	2.7	長石・酸化鉄粒子	一方から穿孔	覆土中	PL79
DP146	管状土錐	5.0	7.1	1.3	(148.1)	長石	指揮圧痕 一方から穿孔	覆土中層	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質	特徴	出土位置	備考
G10	小玉	0.8	0.4	0.3	0.3	緑	ガラス	一方から穿孔	床面	PL89

第141号住居跡 (第248・249図)

位置 調査区西部のC3e1区、標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第145号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一边6.91mの方形で、主軸方向はN-140°-Eである。壁高は40~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナー部を除いて確認できた。また、西コーナー部で内部へ延びる2条の溝も確認できた。壁際で焼土塊が認められた。

竈 南東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅37cmである。第11~15層は袖部で、ロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~17層は掘り方への埋土である。

重土層解説

1 緑 赤褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	11 緑 赤褐色	粘土粒子・粘土ブロック中層、ローム粒子・炭化粒子少量
2 緑 単褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	12 に高い黄褐色	粘土ブロック多量、粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3 緑 褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
4 緑 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
5 に高い黄褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子少量	15 黒色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
6 緑 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	16 黒色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
7 緑 褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	17 黒色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8 緑 褐色	粘土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量		
9 緑 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量		
10 緑 単褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 6か所。P1~P4は深さ44~54cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6は深さ25cm・30cmで、規模と主柱穴間に位置していることから補助柱穴と考えられる。

貯蔵窓 南コーナー部に付設されている。長軸119cm、短軸90cmの長方形で、深さは53cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

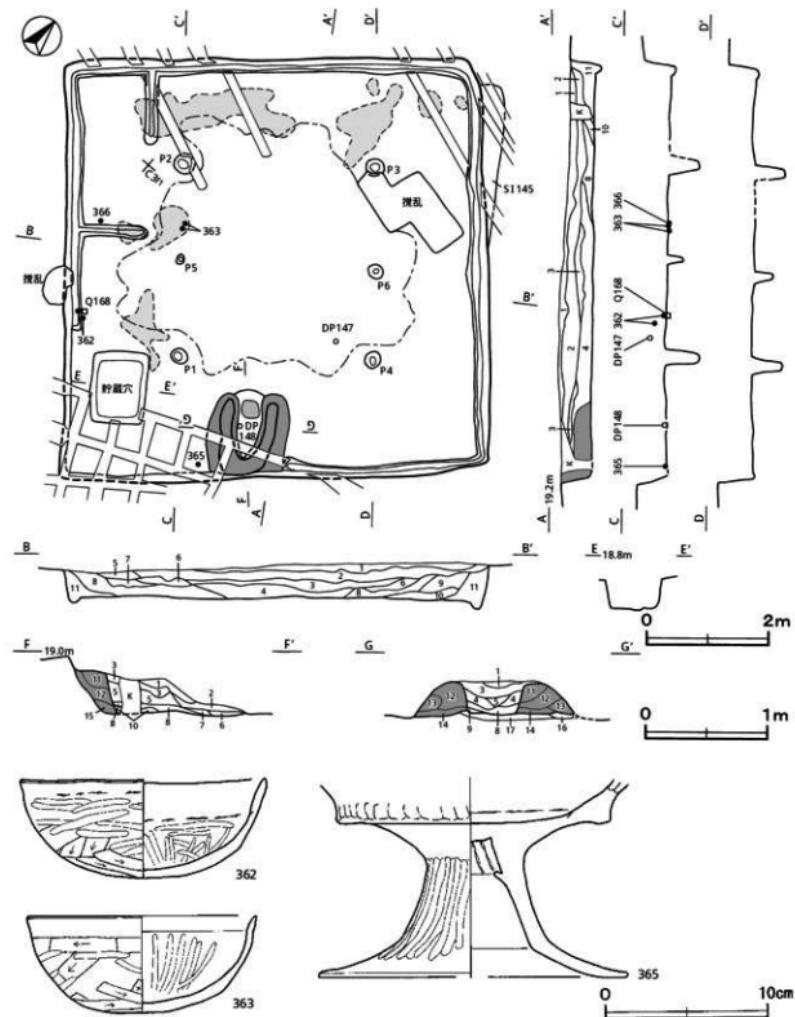
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

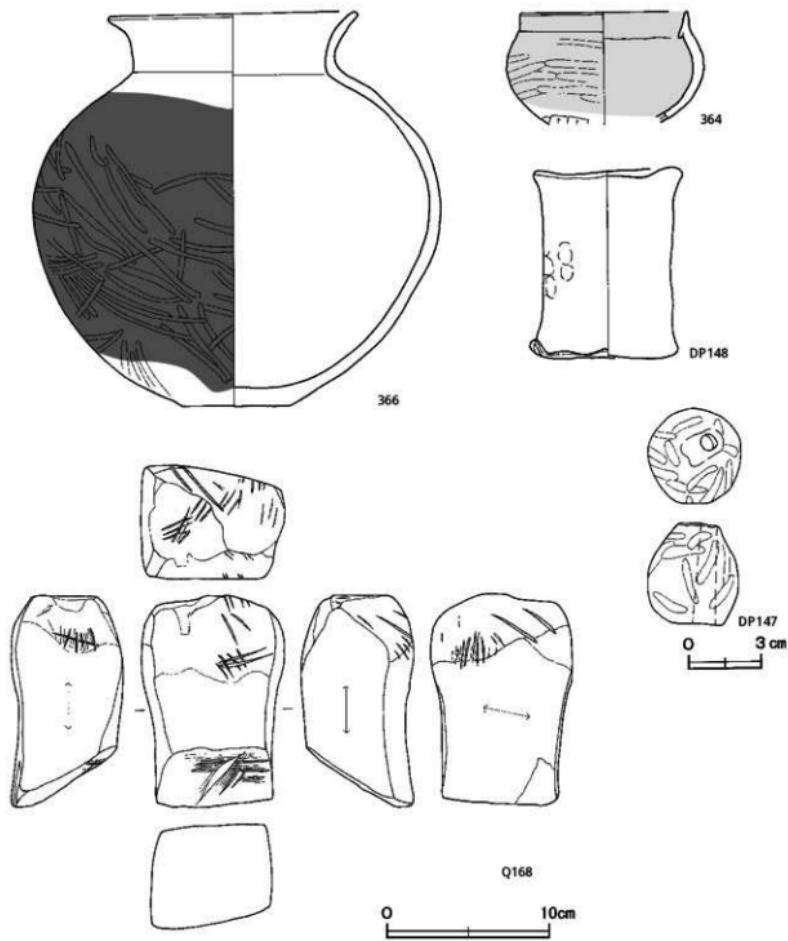
1 黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
2 緑褐色	ロームブロック少量、粘土粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
3 緑褐色	ローム粒子多量	9 緑褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 緑褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 緑褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5 黑褐色	ローム粒子中量	11 黒褐色	ローム粒子多量
6 緑褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片1662点(壺170・瓶24・高壺11・壺13・甕1433・瓶11)、須恵器片15点(壺3・甕12)、土製品6点(土玉5・支脚1)、石器1点(砥石)、滑石片2点、褐鉄鉱7点が出土している。また、混入した縄文土器片2点(深鉢)、弥生土器片1点(甕)、骨角製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。362は南西壁際の覆土下層から床面にかけて、363は中央部、365は甕の脇、366は南西壁際のそれぞれ床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。西コーナー部で確認できた溝は、長軸2.45m、短軸1.00mの長方形に区画する間仕切り溝の可能性がある。また、床面で焼土塊が確認できしたことから、焼失した可能性がある。



第248図 第141号住居跡・出土遺物実測図



第249図 第141号住居跡出土遺物実測図

第141号住居跡出土遺物観察表 (第248・249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
362	土師器	壺	15.5	6.1	-	長石・雲母・ 陶化鉄粒子	胡赤褐	普通	外腹へラ削り後、磨き 内面磨き	床面 覆土下盤	90%
363	土師器	壺	13.9	5.9	-	長石・雲母・ 陶化鉄粒子	胡赤褐	普通	外腹へラ削り後、磨き 内面磨き	床面	70%
364	土師器	壺	10.2	(6.8)	-	長石・石英・雲母 陶化鉄粒子	赤褐	普通	外腹体部上半磨き 下半へラ削り	覆土中	40%
365	土師器	高環	-	(12.2)	[18.9]	長石・雲母・ 陶化鉄粒子	橙	普通	环部連續指捺压痕 脚部外腹磨き 内面ヘラナデ	床面	50%
366	土師器	壺	15.2	24.3	6.5	長石・石英・雲母 にぶい黄褐	普通	外腹磨き		床面	98% PL73

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP147	土玉	39	43	0.9	58.3	長石	縦き 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP148	支脚	11.7	78	9.3	918.6	長石・雲母・炭化鉄粒子	指揮圧痕 工具痕 受け部凹み	電線絶縁部	PL79
Q168	底石	13.0	89	7.0	919.8	鵞灰岩	筋模石 紙面6面	床面	PL80

第142号住居跡（第250～252図）

位置 調査区西部のC1g0区、標高17.8mの台地上に位置している。

規模と形状 南北軸は8.90mで、東西軸は西部が調査区域外に延びているため7.91mしか確認できなかった。形状は、P2の位置から方形と推測され、南東壁の中央部が張り出している。主軸方向はN-61°-Eである。壁高は20～63cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。P4の周間に馬蹄形の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。

竈 2か所。竈1は北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで128cm、燃焼部幅38cmである。第8～13層は袖部で、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第14～19層は掘り方への埋土である。竈2は北東壁の南寄りに付設されている。袖部の一部しか遺存していないため、規模は不明である。袖部は、ロームブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。煙道部は壁外に掘り込まれていない。遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しい。

竈1 土解説

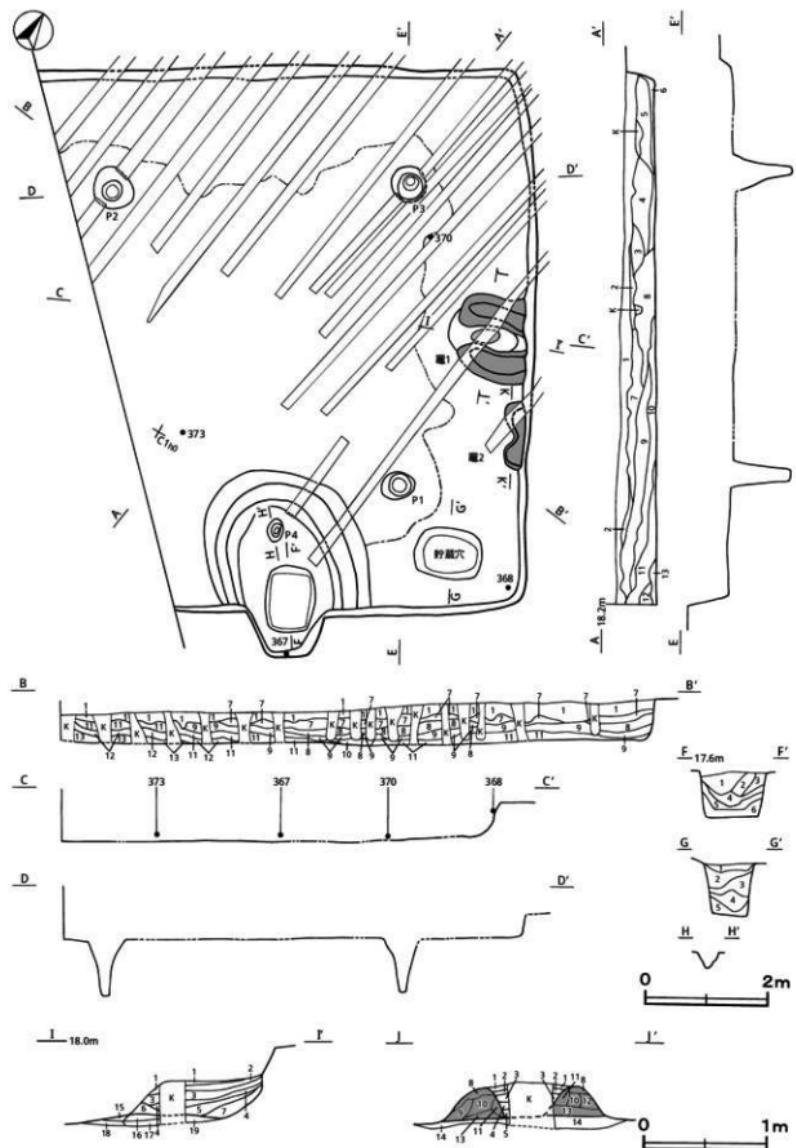
1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・砂粒微量	10	褐 色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子微量
2	にい黄褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	11	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
3	暗赤褐色	燒土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量	12	にい黄褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	13	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量
5	にい黄褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
6	にい黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	15	暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	16	暗褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
8	にい黄褐色	砂粒中量、燒土粒子少量、ローム粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量
9	褐色	ロームブロック・砂粒少量	18	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・砂粒微量	19	褐色	ローム粒子中量

竈2 土解説

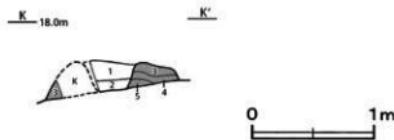
1	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・砂粒微量	4	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	にい黄褐色	砂粒中量、ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量			

ピット 4か所。P1～P3は深さ91～94cmで、規模と位置から主柱穴である。P4は深さ26cmで、南東壁際の中央部と推測される位置にあり、周間に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。長軸113cm、短軸82cmの長方形で、深さは88cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第250図 第142号住居跡実測図(1)



第251図 第142号住居跡実測図(2)

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 緑 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒 色 ロームブロック中量 |
| 2 緑 色 ローム粒子少量 | 5 黒 色 ローム粒子少量 |
| 3 緑 色 ロームブロック少量 | |

張り出し施設 南東壁の中央部に付設されている掘り込みである。長軸110cm、短軸82cmの長方形で、深さは73cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。規模と形状から、貯蔵穴の可能性が考えられる。

張り出し施設土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 緑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 緑 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 緑 色 ローム粒子少量 | 5 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 緑 色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 黒 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子微量 |

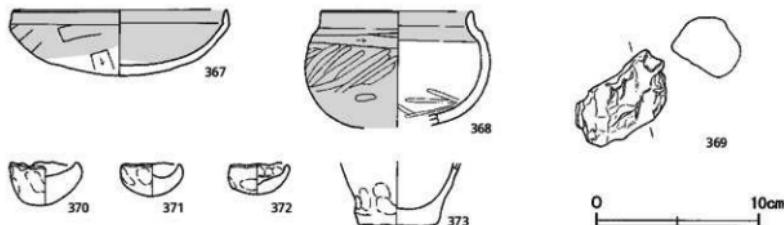
覆土 13層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 緑 色 ロームブロック中量 |
| 2 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9 黒 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 緑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 黒 色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 緑 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 緑 色 ローム粒子少量 |
| 5 緑 色 ローム粒子中量 | 12 緑 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 緑 色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 13 黒 色 ローム粒子中量、砂粒微量 |
| 7 緑 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土器片1311点(坪380・高杯2・鉢4・壺1・甕862・瓶55・ミニチュア7)、須恵器片19点(坪13・蓋4・甕2)、土製品16点(土玉10・管状土錐3・支脚3)、石製品5点(白玉1・勾玉1・双孔円板2・剣形模造品1)、滑石片2点、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した繩文土器片12点(深鉢)、弥生土器片10点(壺)、鉄製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。367は張り出し部壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。張り出し施設は、規模と形状から、出入り口施設の下方で使用された貯蔵穴と考えられる。



第252図 第142号住居跡出土遺物実測図

第142号住居跡遺物観察表 (第252図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
367	土鍋器	环	13.0	4.1	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り	覆土下層	80% PL.72
368	土鍋器	鉢	9.2	(7.0)	-	長石・雲母・ 焼化物・赤母	赤褐	普通	外面ヘラ削り後、磨き 内面磨き	覆土中層	55%
369	土鍋器	鉢	-	-	-	長石・雲母	浅黄褐	普通	差し込み状の把手 指揮圧痕	覆土中	5%
370	土鍋器	ミニチュア	4.1	2.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	指揮圧痕	覆土下層	100% PL.73
371	土鍋器	ミニチュア	3.5	2.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	指揮圧痕	覆土中	100% PL.73
372	土鍋器	ミニチュア	3.4	2.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	指揮圧痕	覆土中	100% PL.73
373	土鍋器	ミニチュア	-	(3.9)	4.8	長石・石英・雲母	橙	普通	指揮圧痕	覆土下層	60%

第143号住居跡 (第253・254図)

位置 調査区西部のC 3 i 3区。標高19.0mの台地上に位置している。

重複関係 第144号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.47m、短軸6.22mの方形で、主軸方向はN-120°-Wである。壁高は36~58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。P 5の周間に馬蹄形の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと考えられる。壁溝が南コーナー部を除いて確認できた。また、北東壁際から内部へ延びる4条の溝も確認できた。

窓 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで151cm、燃焼部幅48cmである。第17~19層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれている。第20~23層は掘り方への埋土である。

土層層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・灰化	12	暗褐色	燒土粒子多量、砂粒中量
		粒子微量	13	暗褐色	燒土粒子・灰化粒子・砂粒微量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック・砂粒少量	14	暗褐色	燒土粒子・灰化粒子・砂粒微量
3	にぶい黄褐色	砂粒多量、燒土粒子少量	15	暗褐色	燒土粒子・砂粒少量
4	暗褐色	ローム粒子少量	16	暗褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量
5	にぶい黄褐色	砂粒中量、燒土粒子・灰化物子微量	17	にぶい黄褐色	砂粒多量、燒土粒子微量
6	にぶい黄褐色	燒土粒子・砂粒少量	18	暗褐色	燒土粒子・砂粒少量
7	にぶい黄褐色	ロームブロック・砂粒少量	19	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
8	にぶい黄褐色	砂粒中量、燒土ブロック・灰化物子微量	20	暗褐色	燒土粒子多量、ローム粒子微量
9	暗赤褐色	燒土ブロック中量、灰化物子・砂粒少量	21	褐色	ロームブロック中量、灰化粒子微量
10	暗赤褐色	燒土ブロック中量、砂粒少量、灰化粒子微量	22	褐色	ロームブロック中量
11	暗褐色	砂粒少量、燒土粒子・灰化粒子微量	23	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・灰化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ62~87cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ16cmで、南東壁際の中央部に位置し、周囲に馬蹄形の高まりがあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸101cm、短軸78cmの長方形で、深さは68cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

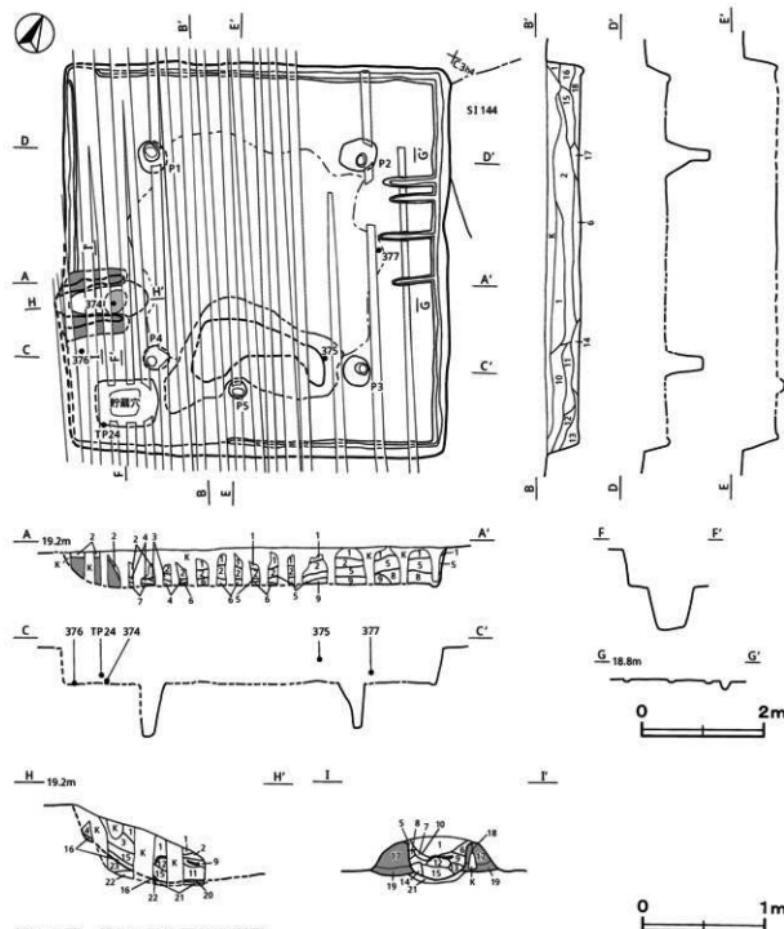
覆土 18層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層層解説

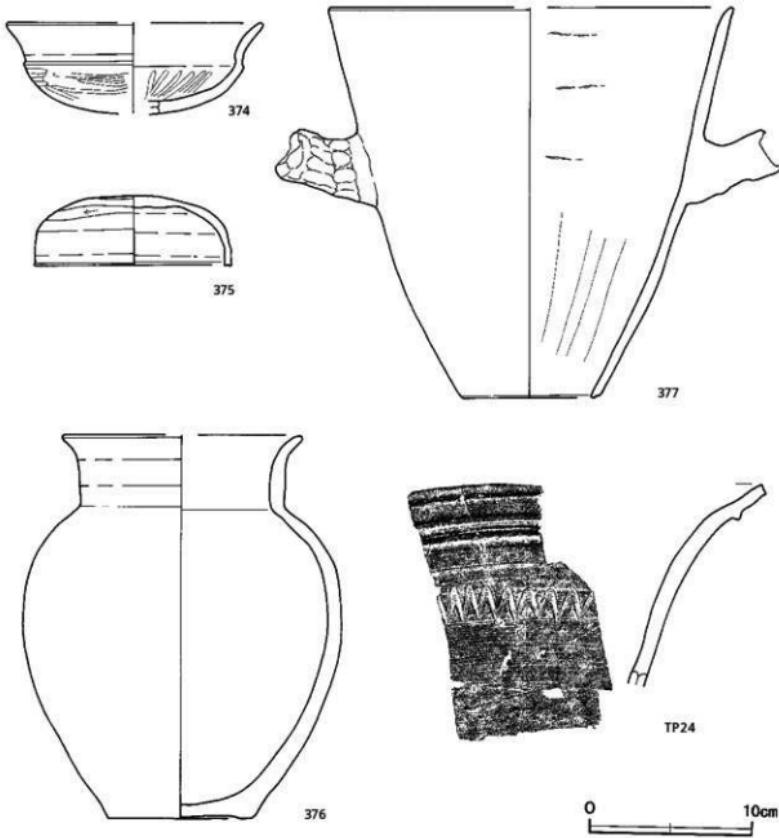
1	暗褐色	ロームブロック中量	10	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ロームブロック中量、灰化粒子少量	11	褐色	ロームブロック多量
3	にぶい黄褐色	砂粒多量	12	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック中量、灰化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量、灰化物微量	14	暗褐色	ロームブロック少量、灰化物微量
6	暗褐色	ロームブロック少量	15	暗褐色	ローム粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量、灰化粒子少量、燒土粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック微量
8	暗褐色	ローム粒子中量	17	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・灰化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック多量	18	暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片1053点（坏155・椀4・高杯10・鉢2・壺8・甕862・瓶10・ミニチュア2）、須恵器片104点（坏11・蓋18・甕75）、土製品19点（土玉6・管状土錐1・支脚12）、石製品1点（双孔円板）、鐵滓4点（39.8 g）、滑石片7点、褐鐵鉱5点が出土している。また、混入した繩文土器片101点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）、土師質土器片1点（火鉢）、鐵製品1点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。374は窓の燃焼部から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。北東壁際の溝は、根太を設置した可能性が考えられる。



第253図 第143号住居跡実測図



第254図 第143号住居跡出土遺物実測図

第143号住居跡出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
374	土器器	环	[15.6]	(55)	-	長石・雲母	明赤褐	普通	内・外表面磨き	電熱焼部	25%
375	須恵器	瓶	12.1	43	-	長石・中礫	灰	良好	天井部全体に凹軸ヘラ削り 織部凹面	覆土中層	55% PL.72
376	土器器	瓶	[145]	23.5	9.0	長石・石英・雲母	ぶいい度	普通	ナデ成形	床面	50%
377	土器器	瓶	[248]	24.2	8.1	長石・石英・雲母	浅黄褐	良好	内面ヘラナデ 壁に込み状の把手か 指輪圧痕 破削痕 既存孔	覆土下層	40% PL.74

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	須恵器	瓶	長石	青灰	良好	外面模様波状文	覆土下層	

第144号住居跡（第255図）

位置 調査区西部のC3h4区、標高19.1mの台地上に位置している。

重複関係 西コーナー部を第143号住居、中央部から南部を第110号住居に埋り込まれている。

規模と形状 長軸6.63m、短軸5.24mの長方形で、主軸方向は、竈が確認できなかつたため不明である。壁高は28cmで、外傾して立ち上がっている。

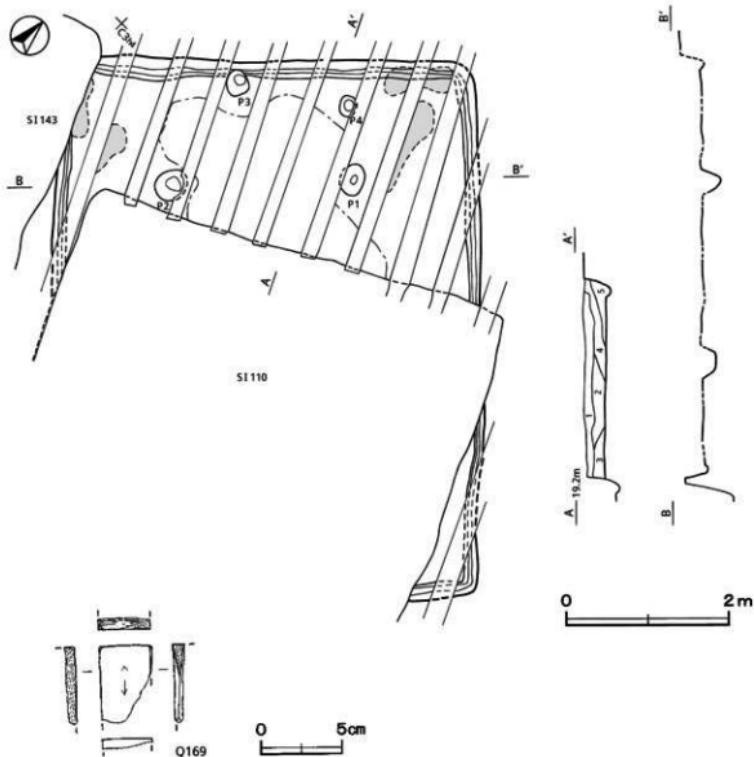
床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が重複部分を除いて確認できた。北コーナー部と西コーナー部で焼土塊が確認できた。

ピット 4か所。P1・P2は深さ24cm・16cmで、位置から主柱穴である。P3・P4は深さ44cm・30cmで、性格は不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	藍	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック中量	
2	暗	褐	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量						



第255図 第144号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片427点（坪62・高坪1・鉢1・壺9・甕352・ミニチュア2）、須恵器片7点（甕）、土製品1点（管状土錐）、石器1点（砾石）、褐鉄鉱1点が出土している。また、混入した縄文土器片8点（深鉢）、弥生土器片4点（壺）、土師器片3点（壺）、土製品1点（土器片錐）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。出土土器は細片のため図示できない。Q169は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀代と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第144号住居跡出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q169	砾石	(48)	32	(0.7)	(14.4)	粘板岩	平砾石 砂面1面 裏面欠損	覆土中	

第145号住居跡（第256図）

位置 調査区西部のC3e1区、標高19.0mの台地上に位置している。

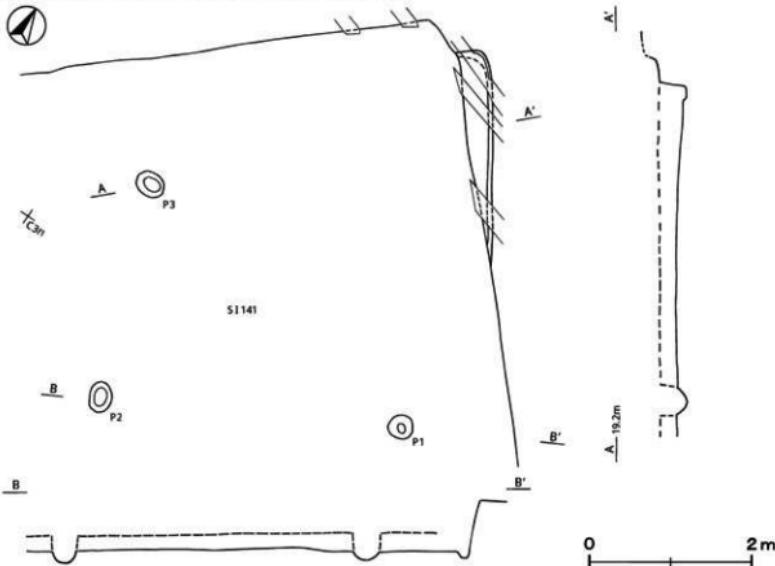
重複関係 北コーナー部を除いて第141号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北コーナー部しか遺存していないため、規模は不明である。北コーナー部の形状から、方形または長方形と推測される。壁高は18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲では平坦であるが、詳細は不明である。

ピット 3か所。第141号住居の掘り方調査で確認した。P1～P3は重複のため深さ8～14cmしか遺存していないかった。位置から主柱穴と考えられる。

所見 時期は、重複関係から5世紀後葉以前と考えられる。



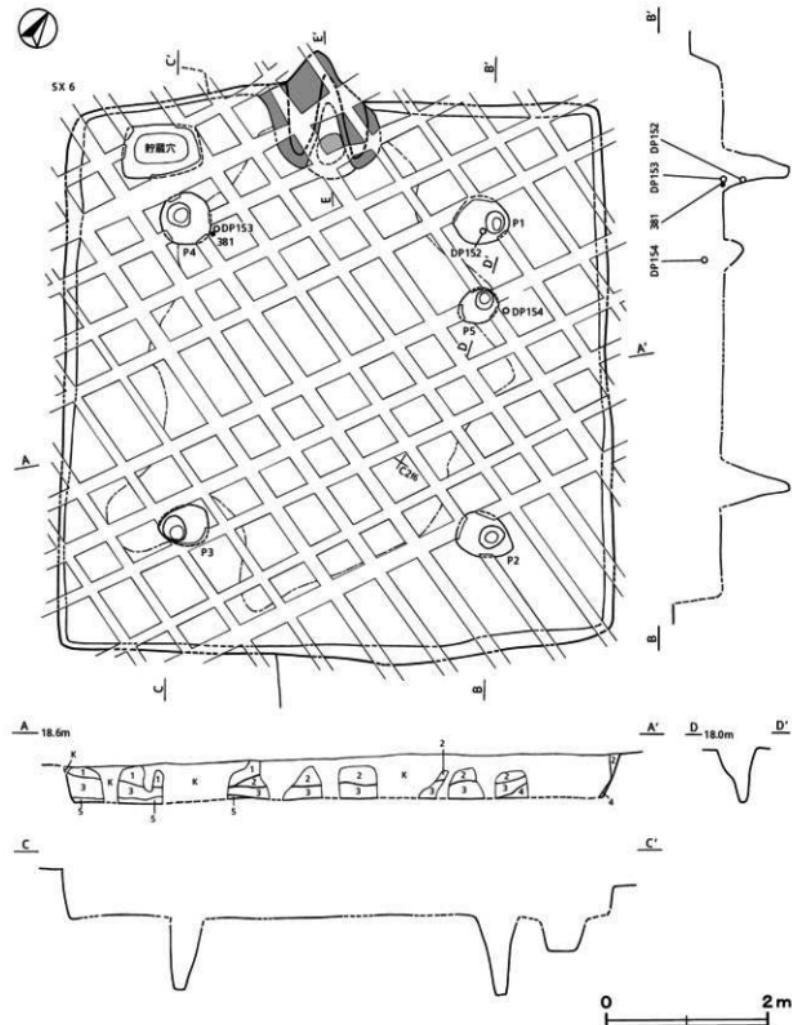
第256図 第145号住居跡実測図

第147号住居跡（第257・258図）

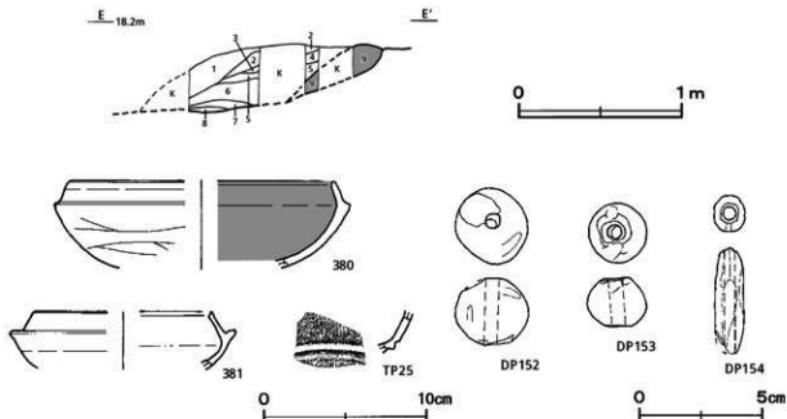
位置 調査区西部のC2e5区、標高18.4mの台地上に位置している。

重複関係 第6号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.90m、短軸6.64mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は36~60cmで、外傾し



第257図 第147号住居跡実測図



第258図 第147号住居跡・出土遺物実測図

て立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで156cmで、燃焼部幅は搅乱のため30cmしか確認できなかった。第9層は袖部で、砂粒を主体としたぶい黄褐色土で構築されている。第7層上面は新しい火床面で、第8層上面は古い火床面である。煙道部は搅乱のため不明である。

土層解説

1	緑	色	ロームブロック中量	6	に高い青褐色	砂粒多量、燒土粒子少量、ローム粒子少量
2	緑	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	7	に高い赤褐色	燒土ブロック多量、燒土粒子・砂粒少量
3	緑	色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量	8	黒	色
4	緑	色	ロームブロック中量	9	に高い黄褐色	砂粒多量、ロームブロック・燒土粒子少量
5	緑	色	ロームブロック少量			

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ80～96cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ66cmで、規模と位置から、補助柱穴ピットと考えられる。

貯蔵窓 西コーナー部に付設されている。短軸は68cmで、搅乱のため長軸は90cmしか確認できなかったが、長方形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	緑	色	ローム粒子中量	4	暗	青	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	緑	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	緑	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量				

遺物出土状況 土器片1070点（壺148・高杯1・鉢1・壺4・甕894・瓶21・ミニチュア1）、須恵器片33点（壺18・蓋8・竈2・甕5）、土製品34点（小玉1・土玉22・管状土錐2・支脚9）、石器1点（砥石）、石製品1点（剣形模造品）が出土している。また、混入した繩文土器片9点（深鉢）、鉄製品2点（不明）も出土している。遺物の大半は、全城の底面から出土している。381は中央部西寄りの床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第147号住居跡出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
380	土器	环	[16.1]	(5.3)	-	長石・雲母	ぶい黄	普通	外面ヘラ削り後、ナデ	覆土中	10%
381	須恵器	环	[10.8]	(3.5)	-	長石	灰	良好	ロクロ成形	床面	10%

番号	種別	器種	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP25	須恵器	环	長石	灰	良好	外面施土の沈跡	覆土中	

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP152	土器	3.0	2.7	0.6	(23.5)	長石	磨き 一方向からの穿孔	P 1	
DP153	土器	2.4	2.0	0.6	10.0	長石	指謹圧痕 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP154	管状土錐	1.2	4.3	0.5	(6.3)	長石	一方から穿孔	覆土中層	

第148号住居跡（第259図）

位置 調査区西部のC 2 e3区、標高18.2mの台地上に位置している。

重複関係 第6号堅穴建物跡を掘り込み、北西部を第5号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.52m、短軸6.16mの方形で、主軸方向はN -125° -Wである。壁高は34~54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。東コーナー部で焼土塊が確認できた。

窓 南西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで94cm、燃焼部幅40cmである。第6層は袖部で、砂粒を主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

竪土層解説

1	粘 土	ローム粒子・炭化粒子少量	4	粘 土	炭化粒子中量、燒土粒子少量
2	粘 土	ローム粒子多量	5	粘 土	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
3	にぶい黄褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量	6	にぶい黄褐色	砂粒中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1 ~ P 4は深さ72~92cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ35cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵窓 南コーナー部に付設されている。長軸104cm、短軸70cmの長方形で、深さは78cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

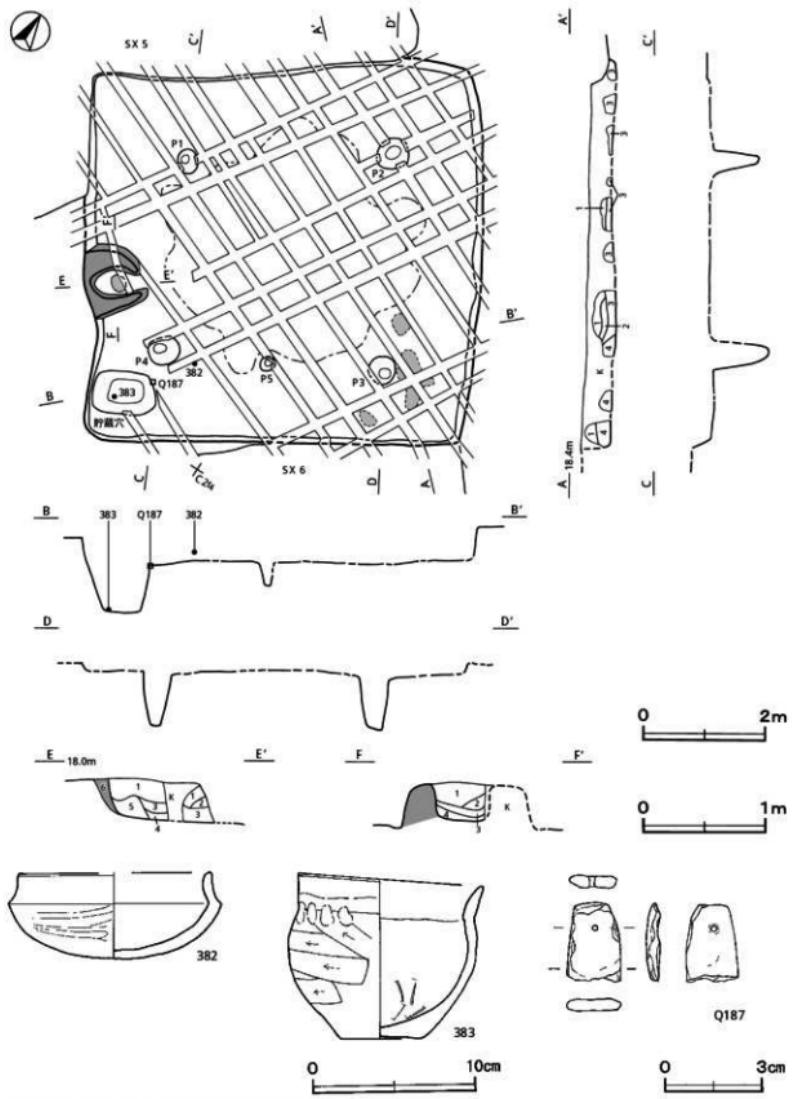
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	粘 土	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	3	粘 土	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	粘 土	ロームブロック・炭化粒子少量	4	粘 土	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片257点（环58・高环3・壺1・甕195）、須恵器片8点（环3・蓋3・甕2）、土製品3点（管状土錐1・支脚2）、石製品1点（剣形模造品）、滑石片5点、褐鉄鉱4点が出土している。また、混入した繩文土器片2点（深鉢）、土師質土器片2点（火鉢）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。383は貯蔵窓の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第259図 第148号住居跡・出土遺物実測図

第148号住居跡出土遺物観察表 (第259図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
382	土器器	环	[11.8]	5.3	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外表面き 内面ヘラナダ	覆土下層	50%
383	土器器	小形環	11.2	10.2	5.1	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外表面ヘラ削り 瓦頭压痕 内面ヘラナダ	竹籠穴	70%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q187	鉄形模造品	2.4	1.7	0.5	0.2	3.4	滑石	未成品 二方向からの穿孔	床面	

第149号住居跡 (第260・261図)

位置 調査区西部のC 2 g4区、標高18.2mの台地上に位置している。

重複関係 第6号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.64m、短軸3.95mの長方形で、主軸方向はN-59°-Eである。壁高は42~46cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。北西壁際と中央部で焼土塊が確認できた。

窓 北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅37cmである。第9~15層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。第16~17層は、掘り方への埋土である。

重土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂粒多量、ローム粒子・燒土粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	にぶい黄褐色	砂粒中量、ローム粒子・燒土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	12	にぶい黄褐色	砂粒少量、燒土粒子少量、ローム粒子微量
4	暗赤褐色	燒土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	13	にぶい黄褐色	砂粒多量、ロームブロック少量
5	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14	にぶい黄褐色	燒土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・焼化粒子微量
6	暗褐色	炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量			粒子微量
7	暗赤褐色	燒土粒子中量、炭化粒子少量	15	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
8	にぶい黄褐色	砂粒少量、炭化粒子微量	16	暗赤褐色	砂粒少量、ロームブロック微量
9	にぶい黄褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂粒少量	17	深褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

ピット P 1~P 4は深さ34~67cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ15cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長軸86cm、短軸65cmの長方形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

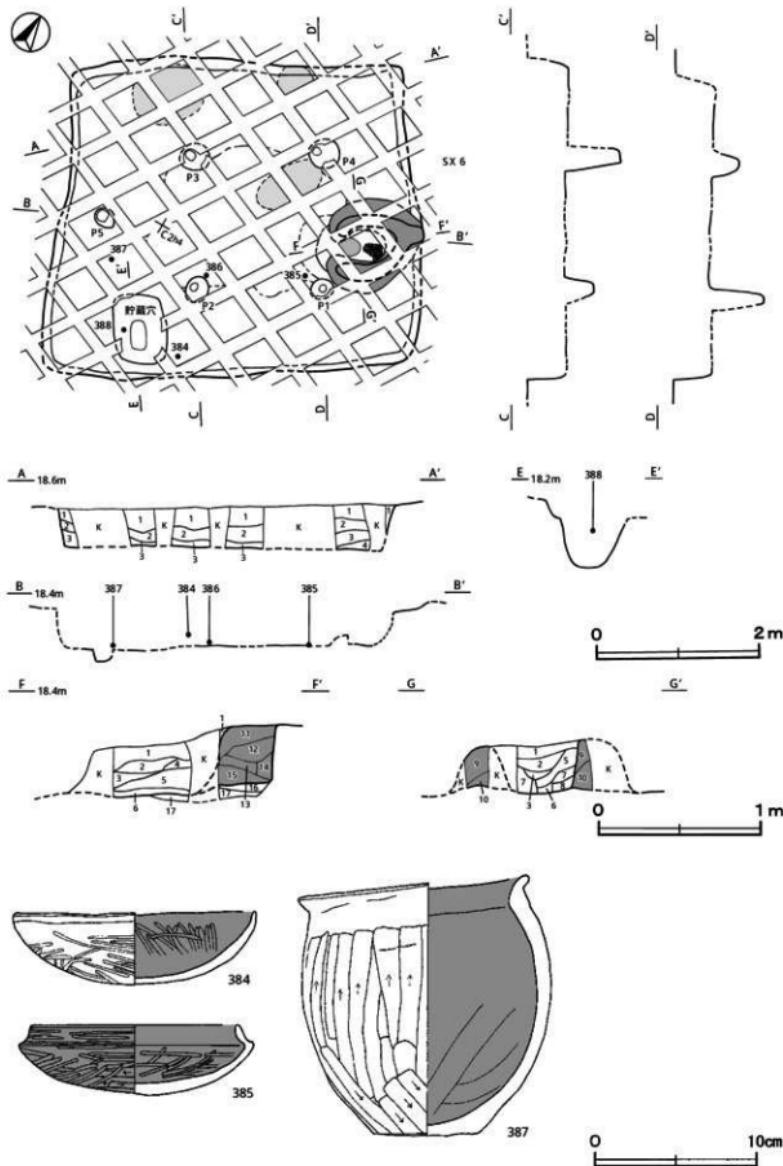
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

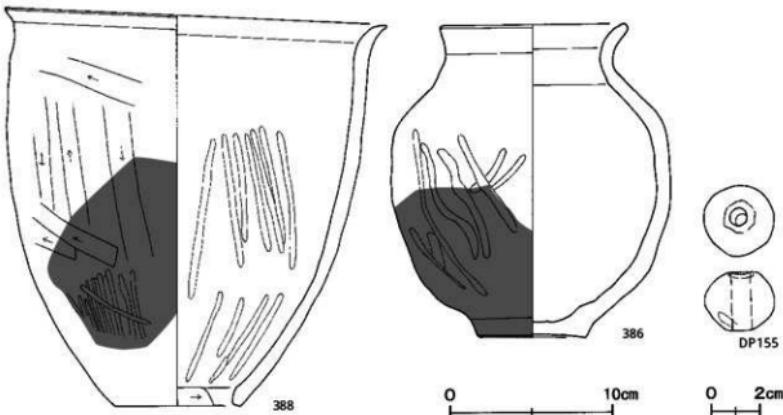
1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片1395点(坏144・壺6・甌1242・瓶2・ミニチュア1)、須恵器片7点(坏2・蓋2・甌3)、土製品10点(土玉8・支脚2)、石器1点(砥石)、鐵滓1点(7.6g)、滑石片6点が出土している。また、混入した弥生土器片3点(甌)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。385は甌の前面、386は中央部、387は南西壁際のそれぞれ床面、388は貯蔵穴の上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀末葉と考えられる。床面で焼土塊が確認できたことから、焼失した可能性がある。



第260図 第149号住居跡・出土遺物実測図



第261図 第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表 (第260・261図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
384	土師器	环	147	4.4	-	長石・雲母	にぶい赤褐	良好	内・外表面磨き	覆土下層	100% P1.73
385	土師器	环	12.6	4.3	-	長石・雲母	暗赤褐	良好	外表面へラ削り後、磨き 内面磨き	床面	100% P1.73
386	土師器	瓶	11.3	19.3	6.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外表面磨き	床面	95% P1.74
387	土師器	小形瓶	14.0	16.0	6.4	長石・石英・雲母	橙	普通	外表面へラ削り 内面ヘラナダ	床面	95% P1.74
388	土師器	瓶	23.5	24.4	7.8	長石・石英・雲母	橙	良好	外表面へラ削り 下平磨き 内面磨き	貯藏穴	95% P1.74

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP155	土玉	2.9	2.4	0.7	16.3	長石	磨き 一方向からの穿孔	覆土中	

第150号住居跡 (第262・263図)

位置 調査区西部のC 2 b3区、標高17.8mの緩斜面部に位置している。

重複関係 東部を第156号住居、南部を第5号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.75m、短軸4.59mの方形で、主軸方向はN=134°-Wである。壁高は2~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

窓 南西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで137cm、燃焼部幅37cmである。第4~7層は袖部で、砂粒を混入した褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれている。第8層は掘り方への埋土である。

遺土層解説

1	粘	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	5	粘	褐	ロームブロック・砂粒少量、燒化粒子微量
2	粘	褐	色	ローム粒子、燒土粒子少量	6	粘	褐	ローム粒子・砂粒少量
3	黑	褐	色	燒化粒子中量、ローム粒子、燒土粒子少量	7	褐	色	ロームブロック中量
4	粘	褐	色	ロームブロック・砂粒少量、燒土粒子・燒化 粒子微量	8	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子少量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ52～76cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ60cm・70cmで、性格は不明である。

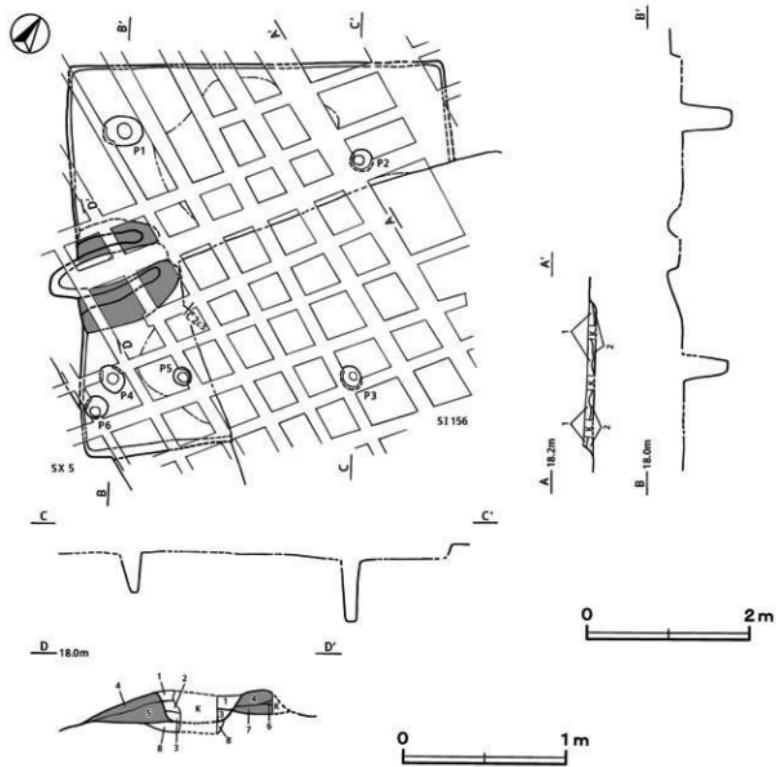
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

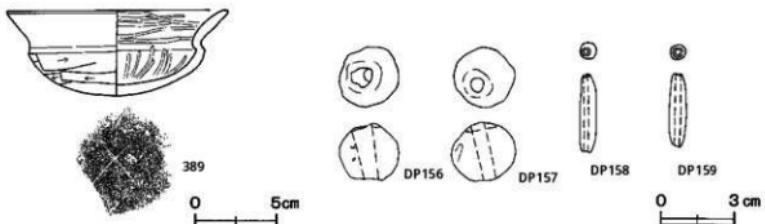
1 細 開 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 細 密 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片241点（壺31・高杯1・壺2・甕204・瓶3）、須恵器片3点（壺2・甕1）、土製品5点（土玉3・管状土錐2）、鐵滓1点（53.5g）、滑石片3点、褐鐵鉱2点が出土している。また、混入した調文土製品1点（深鉢）、須恵器片1点（高台付壺）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。389は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。



第262図 第150号住居跡実測図



第263図 第150号住居跡出土遺物実測図

第150号住居跡出土遺物観察表 (第263図)

番号	種別	器種	口径	縦高	横径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
389	土師器	壺	13.5	5.2	-	長石・石英・雲母 明赤褐色	普通	外面ヘラ削り 内面磨き 底部ヘラ記号「x」		覆土中	70% PL73

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP156	土玉	2.5	2.3	0.8	11.4	長石	一方から穿孔	覆土中	
DP157	土玉	2.6	2.4	0.6	11.9	長石	磨き 一方から穿孔	覆土中	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP158	管状土錐	0.7	3.2	0.2	1.8	長石	一方から穿孔	覆土中	
DP159	管状土錐	0.7	3.0	0.2	0.9	長石	一方から穿孔	覆土中	

第152号住居跡 (第264図)

位置 調査区西部のC3c1区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 第153号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.10m、短軸4.82mの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は22~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。P1・P3・P6付近で焼土塊と炭化材が確認できた。

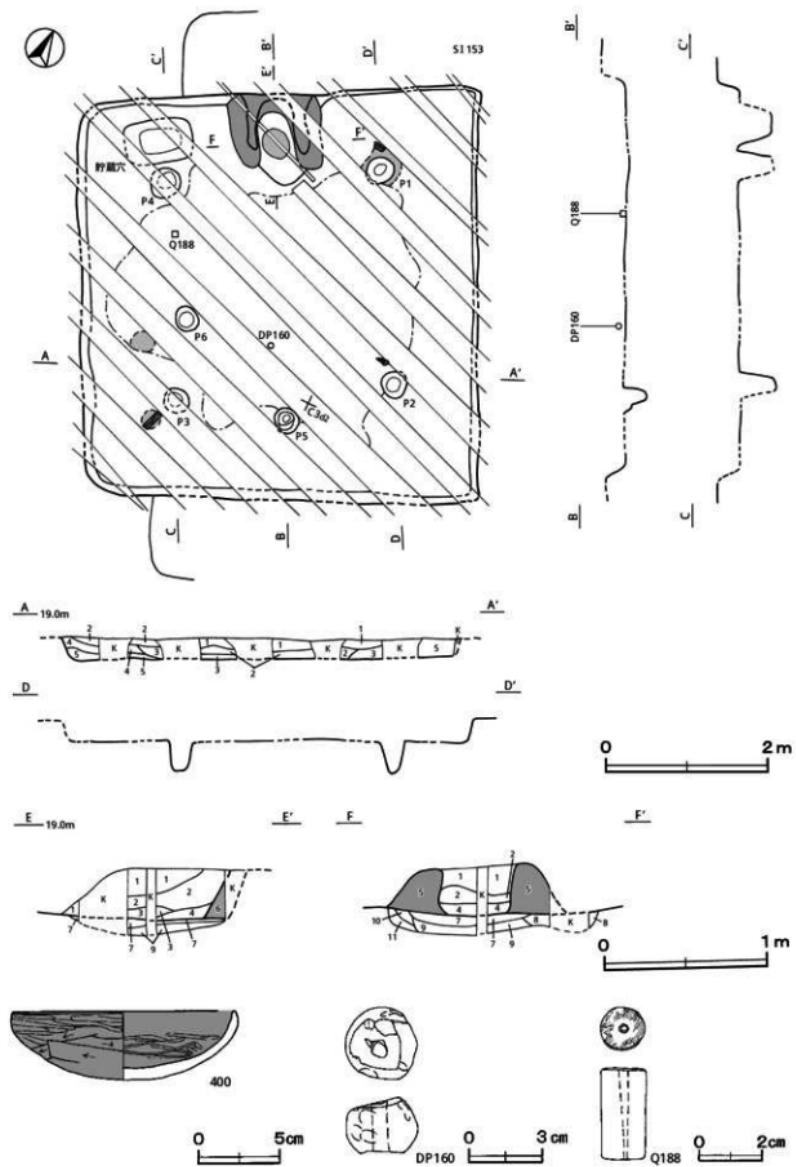
竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで109cm、燃焼部幅44cmである。第5・6層は袖部で、粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は擾乱のため不明である。第7~11層は掘り方への埋土である。

竈土層解説

1	暗赤褐色	燒土粒子中量、ロームブロック・燒土ブロック ケラマ	6	灰黄褐色	燒土ブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	灰黄褐色	燒土ブロック・焼土ブロック少量	7	暗赤褐色	燒土ブロック多量
3	暗赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック・ 粘土ブロック微量	8	褐	ロームブロック少量
4	暗赤褐色	燒土粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	9	褐	ロームブロック中量、燒土粒子微量
5	灰黄褐色	燒土ブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	褐	ロームブロック中量

ピット P1~P4は深さ37~43cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ29cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ15cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長軸84cm、短軸53cmの長方形で、深さは41cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第264図 第152号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 緑 色 ローム粒子少量	4 塗 面 色 ローム粒子微量
2 緑 色 ロームブロック少量	5 黄 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 緑 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	

遺物出土状況 土師器片837点(环188・甕648・瓶1),須恵器片19点(环3・蓋1・甕15),土製品31点(土玉19・管状土錐1・支脚11),石製品1点(管玉),鉄滓1点(9.5g),滑石片6点が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片1点(深鉢)と、混入した鉄製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。Q188は中央部の床面, DP160は中央部の覆土下層, 400は覆土中からそれぞれ出土している。また、図示できなかった土玉は、全城の覆土中から16点、甕の燃焼部から1点、貯蔵穴の覆土中から1点がそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。床面で焼土塊と炭化材が確認できたことから、焼失した可能性がある。

第152号住居跡出土遺物観察表(第264図)

番号	種別	縦幅	口径	底高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
400	土師器	环	13.7	4.2	-	長石・雲母	赤緑	普通	外側へラ削り後、磨き 内面磨き	覆土中	55% PL75
<hr/>											
DP160	土玉	3.0	2.3	0.7	16.8	長石	指揮圧痕 一方向からの穿孔			覆土下層	
<hr/>											
Q188	管玉	1.4	2.8	0.2	9.7	碧玉	全面研磨 一方向からの穿孔			床面	PL89

第153号住居跡(第265・266図)

位置 調査区西部のC3c2区、標高18.7mの台地上に位置している。

重複関係 中央部から西部を第152号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.26m、短軸7.16mの方形で、主軸方向はN-75°-Eである。壁高は27~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が東壁下を除いて部分的に確認できた。

甕 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅48cmである。袖部はロームブロックと粘土ブロックを主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。

土層解説

1 黄 色 ロームブロック・焼土ブロック中量 2 にじい黄褐色 烧土ブロック中量、焼土粒子少量	5 塗 面 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
3 緑 色 褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 4 緑 色 褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量	6 塗 面 色 焼土粒子・炭化粒子少々、粘土ブロック微量 7 にじい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少々 8 塗 面 色 焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1~P4は深さ33~59cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁際の東寄りに付設されている。搅乱のため一边92cmしか確認できなかつたが、方形と推測される。深さは71cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

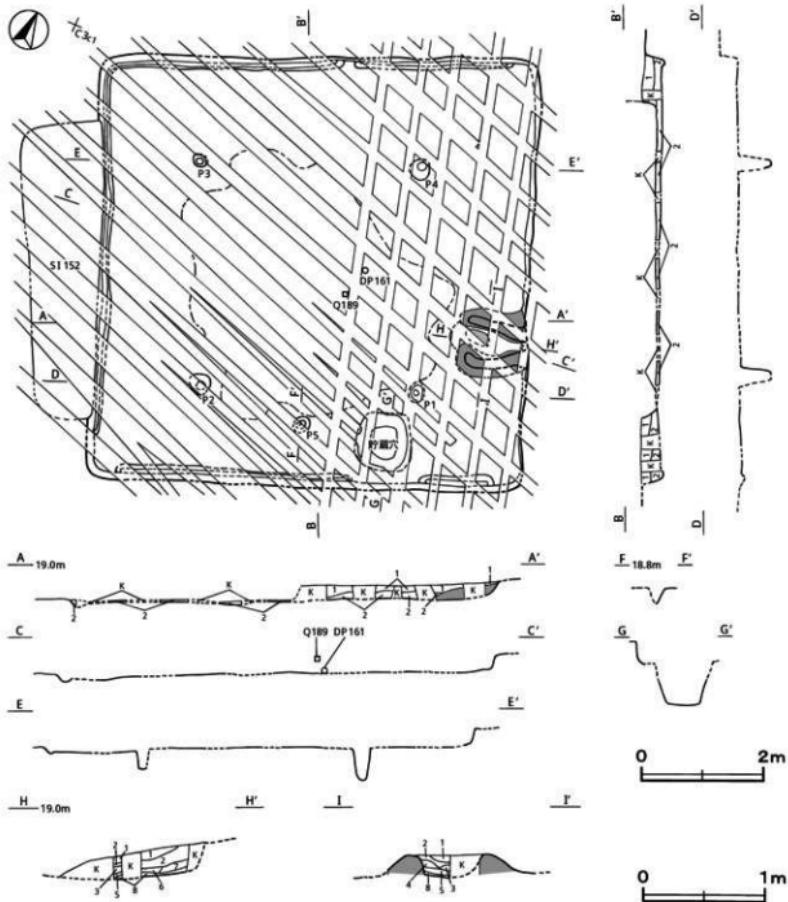
土層解説

1 細 開 色 ロームブロック少量

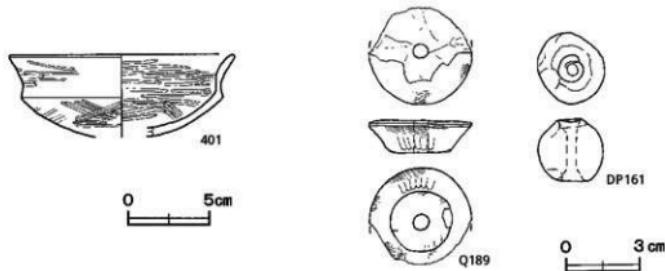
2 粗 開 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片828点（坏104・高坏1・壺6・甕711・瓶3・ミニチュア3）、須恵器片5点（坏1・蓋1・盤1・甕2）、土製品8点（小玉1・土玉5・管状土錐2）、石製品1点（紡錘車）、滑石片1点が出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。401は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀初頭と考えられる。



第265図 第153号住居跡実測図



第266図 第153号住居跡・出土遺物実測図

第153号住居跡出土遺物観察表（第266図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
401	土器	环	13.6	(5.0)	-	長石・雲母	棕	普通	内・外表面磨き	覆土中	70% PL.75
DP161	土玉		2.7	2.5	1.1	17.8 長石			指揮圧痕 二方向からの穿孔	覆土上層	
Q189	埴輪		4.2	1.3	0.6	(27.0)	粘土		全面研磨 二方向からの穿孔	覆土上層	

第154号住居跡（第267・268図）

位置 調査区西部のC 2 c6区、標高18.4mの台地上に位置している。

重複関係 第155号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.76m、短軸4.46mの方形で、主軸方向はN-49°-Eである。壁高は30~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の東寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、燃焼部幅40cmである。袖部は粘土ブロックと砂粒を主体とした褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、亦変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まれていない。

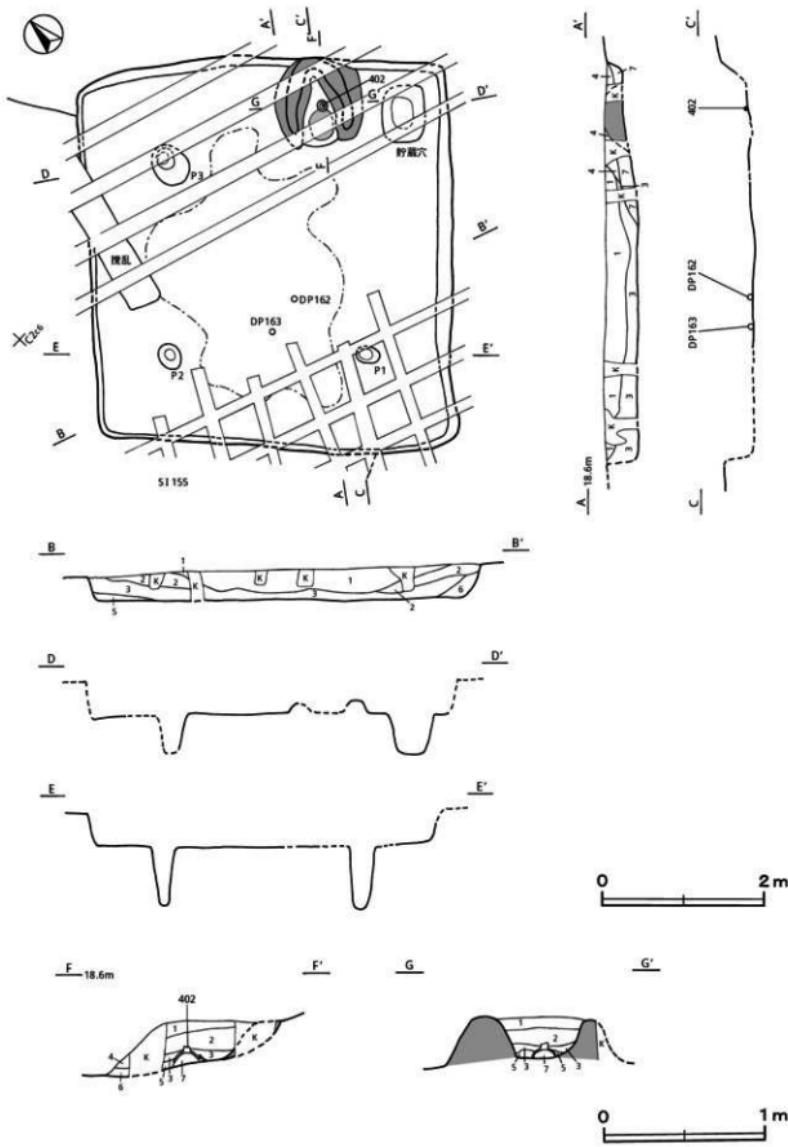
遺土層解説

1 細赤褐色	粘土ブロック・砂粒中量	5 細赤褐色	粘土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 細褐色	ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量	6 細赤褐色	粘土ブロック・炭化粒子中量
3 にい黄褐色	粘土ブロック・砂粒中量、粘土粒子微量	7 細赤褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4 細赤褐色	粘土粒子多量、粘土ブロック・砂粒少量		

ピット 3か所。P 1~P 3は深さ50~76cmで、規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。短軸は51cmで、長軸は搅乱のため71cmしか確認できなかつたが、隅丸長方形と推測される。深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



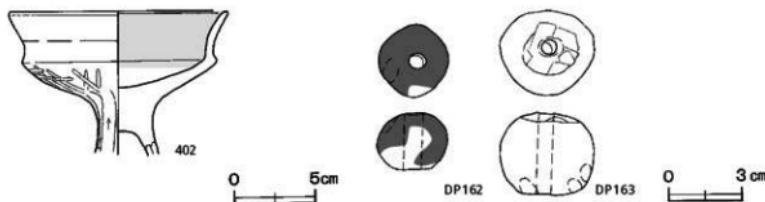
第267図 第154号住居跡実測図

土器解説

1	縦	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	縦	褐色	ローム粒子中量
2	縦	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	横	褐色	ローム粒子微量
3	縦	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	横	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
4	縦	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量				

遺物出土状況 土器片273点（坏31・高坏3・甕237・瓶2），須恵器片6点（坏1・蓋3・高坏1・甕1），土製品3点（土玉）。滑石片1点，褐鐵鉱2点が出土している。また，流れ込んだ繩文土器片6点（深鉢），弥生土器片2点（甕）も出土している。遺物の大半は，全域の覆土中から出土している。402は竈の燃焼部から逆位で出土しており，支脚として使用されている。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第268図 第154号住居跡出土遺物実測図

第154号住居跡出土遺物観察表（第268図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
402	土器器	高坏	13.4	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	環部外表面磨き 節部外表面ヘラ削り	電気焼成部	75% PL.74

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP162	土玉	29	2.3	0.7	18.6	長石	指揮圧痕 一方向からの穿孔	床面	
DP163	土玉	39	3.9	0.6	43.7	長石	指揮圧痕 一方向からの穿孔	床面	

第155号住居跡（第269・270図）

位置 調査区西部のC 2c5区、標高18.2mの台地上に位置している。

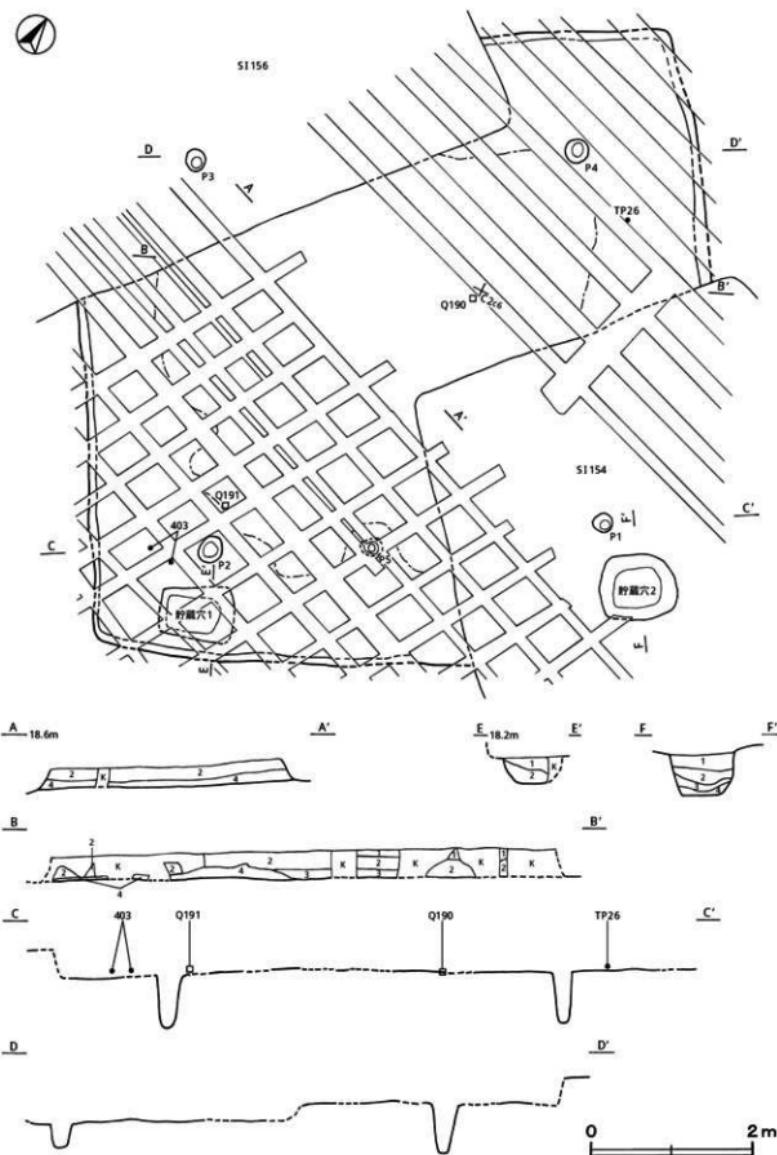
重複関係 東部を第154号住居、西部を第156号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.81m、短軸7.74mの方形で、主軸方向は、炉もしくは竈が確認できなかったため不明である。壁高は28~35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所。P 1・P 3は第154・156号住居の掘り方調査で確認した。P 1~P 4は深さ31~61cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ32cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴2は第154号住居の掘り方調査で確認した。貯蔵穴1は南コーナー部に付設されている。長軸92cm、短軸60cmの長方形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は東コーナー部に付設されている。長径96cm、短径78cmの楕円形で、深さは49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。それぞれブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



第269図 第155号住居跡実測図

野戸穴 1 - 土層解説

- 1 稲 色 ロームブロック中量
2 稲 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 3 黒 色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
4 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 4層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

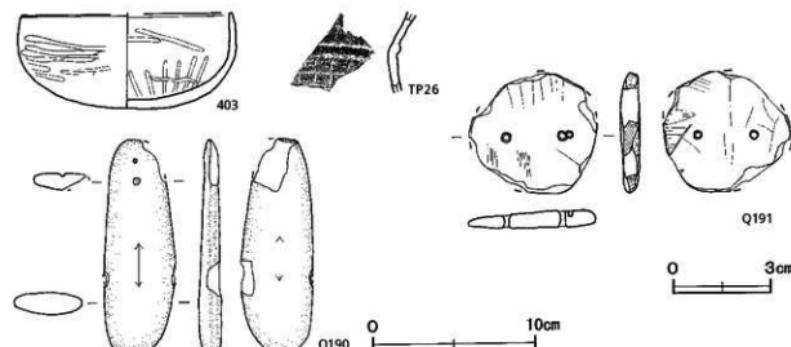
土層解説

- 1 稲 色 ロームブロック少量
2 稲 色 ローム粒子少量

- 3 黒 色 ロームブロック多量
4 黒 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片271点(环47・碗1・鉢2・壺8・甕208・瓶5)、須恵器片6点(环1・蓋3・甕2)、土製品6点(土玉)、石器1点(砥石)、石製品1点(双孔円板)が出土している。また、混入した繩文土器片2点(深鉢)、弥生土器片2点(壺)、鉄製品1点(不明)も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。403は南コーナー部の覆土下層、TP26は北東壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。



第270図 第155号住居跡出土遺物実測図

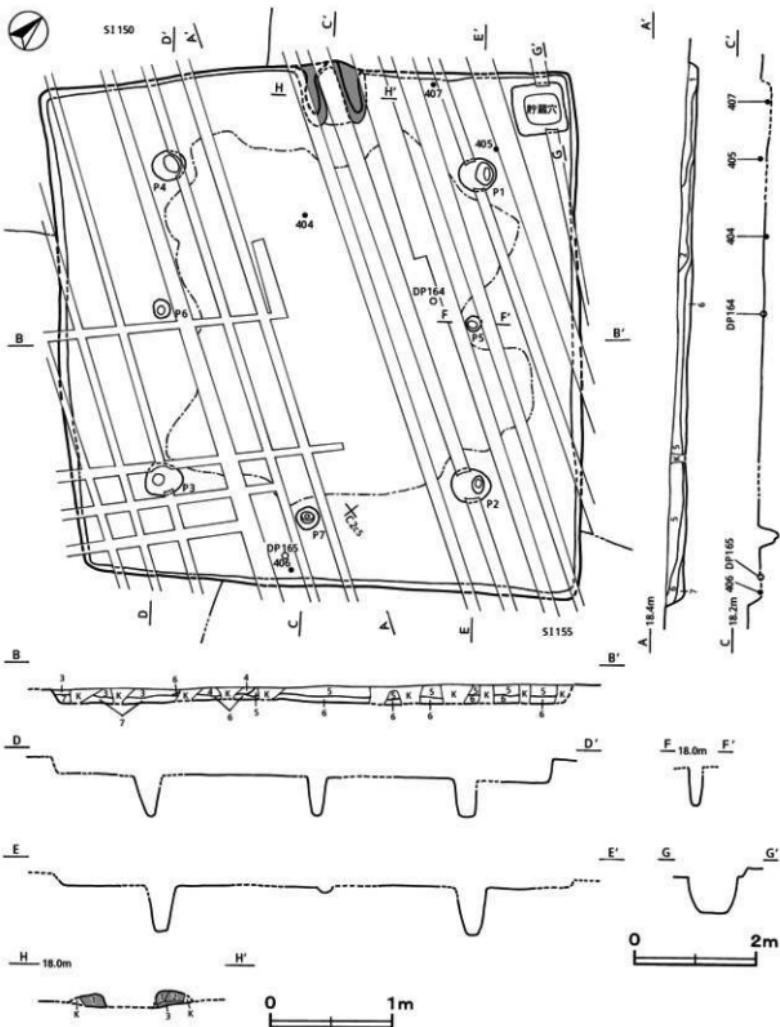
第155号住居跡出土遺物観察表 (第270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
403	土師器	碗	[130]	58	-	長石・鈣化鉱粒子	にぶい赤褐色	普通	内・外表面磨き	覆土下層	40% PL75
TP26	須恵器	碗	後石							床面	
Q190	石器	砥石								床面	
Q191	双孔円板	双孔円板	37	40	0.5	0.2	120	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔 未貫通の穿孔孔1か所	床面	PL85

第156号住居跡 (第271・272図)

位置 調査区西部のC 2b4区、標高18.1mの台地上に位置している。

重複関係 第150・155号住居跡を掘り込んでいる。



第271図 第156号住居跡実測図

規模と形状 一边8.57mの方形で、主軸方向はN-49°-Wである。壁高は13~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで97cmである。第1～3層は袖部で、砂粒を主体とした褐色土で構築されている。燃焼部と煙道部は搅乱のため不明である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 にい黄褐色 砂粒中量 ローム粒子・埴土粒子・炭化粒子少量 | 3 緑 黄 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 緑 黄 色 ロームブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 | |

ピット 7か所。P1～P4は深さ61～76cmで、規模と位置から主柱穴である。P5・P6はそれぞれ深さ60cmで、規模と主柱穴間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。P7は深さ30cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵窓 北コーナー部に付設されている。一辯83cmの方形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

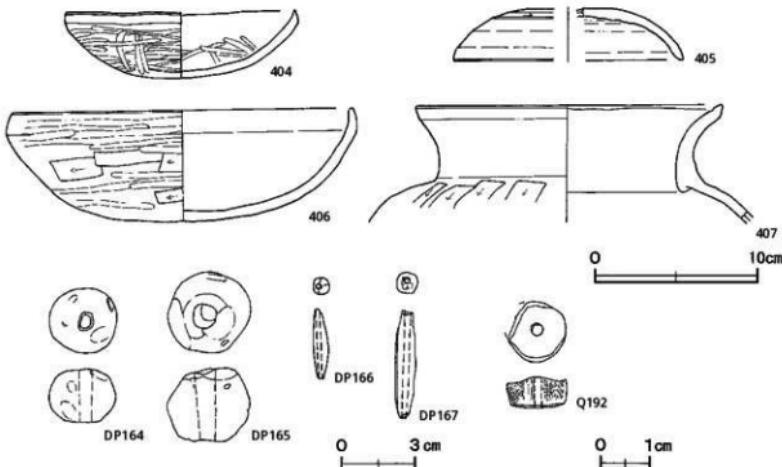
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 緑 色 ロームブロック半量、炭化粒子微量 | 5 緑 黄 色 ローム粒子少量、埴土ブロック微量 |
| 2 緑 黄 色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 緑 黄 色 ロームブロック少量 |
| 3 緑 色 ロームブロック半量 | 7 棕 色 ロームブロック中量、埴土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 棕 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 士師器片646点（环126・高环5・鉢1・壺2・甕504・瓶8）、須恵器片21点（蓋11・高坏4・壺1・甕5）、土製品21点（土玉17・管状土錐4）、石器2点（砥石）、石製品2点（白玉・双孔円板）、滑石片5点が出土している。また、混入した繩文土器片1点（深鉢）、土師質土器片1点（火鉢）も出土している。遺物の大半は、全城の覆土中から出土している。406とDP165は南東壁際、404は中央部のそれぞれ床面、405は北コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複關係から6世紀末葉と考えられる。



第272図 第156号住居跡出土遺物実測図

第156号住居跡遺物観察表 (第272図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
404	土鍋器	环	141	41	-	長石・石英・雲母 にぶい褐	普通	内・外面磨き		床面	100% PL75
405	須恵器	蓋	[142]	(3.3)	-	長石	灰	普通	天井部約1/3に凹転へつ削り	覆土中層	5%
406	土鍋器	鉢	208	68	-	長石・雲母 にぶい褐	普通	外腹へラ削り後、磨き		床面	60%
407	土鍋器	蓋	189	(7.2)	-	長石・石英・雲母 にぶい褐	普通	外腹へラ削り 口縁底部つまみ上げ		覆土下層	10%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP164	土玉	28	22	0.7	16.5	長石	指揮压痕 一方向からの穿孔	床面	
DP165	土玉	34	30	1.0	29.5	長石	指揮压痕 一方向からの穿孔	床面	

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP166	管状土錐	07	29	0.2	1.9	長石	一方向からの穿孔	覆土中	
DP167	管状土錐	09	45	0.3	3.5	長石	一方向からの穿孔	覆土中	PL79

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q192	臼玉	12	6.6	0.2	(1.3)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL86

第158号住居跡 (第273・274図)

位置 調査区西部のC 3a1, 標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 第159号住居跡を掘り込み、南西部を第20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.77m, 短軸6.64mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁溝が南壁下を除いて部分的に確認できた。

竈 北竈の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで132cm, 燃焼部幅40cmである。袖部は、粘土ブロックを主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まっているが、搅乱のため30cmしか確認できなかった。

土器層解説

1	にぶい黄褐色	粘土ブロック多量、燒土粒子少量	5	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・燒土粒子少量
2	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・燒土粒子微量
		燒土粒子微量	7	暗褐色	燒土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	粘土ブロック・燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	燒土ブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	粘土ブロック・燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	燒土ブロック中量、燒土ブロック・ローム粒子微量

ピット P 1~P 4は深さ58~74cmで、規模と位置から主柱穴である。P 5は深さ24cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長軸114cm, 短軸63cmの長方形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

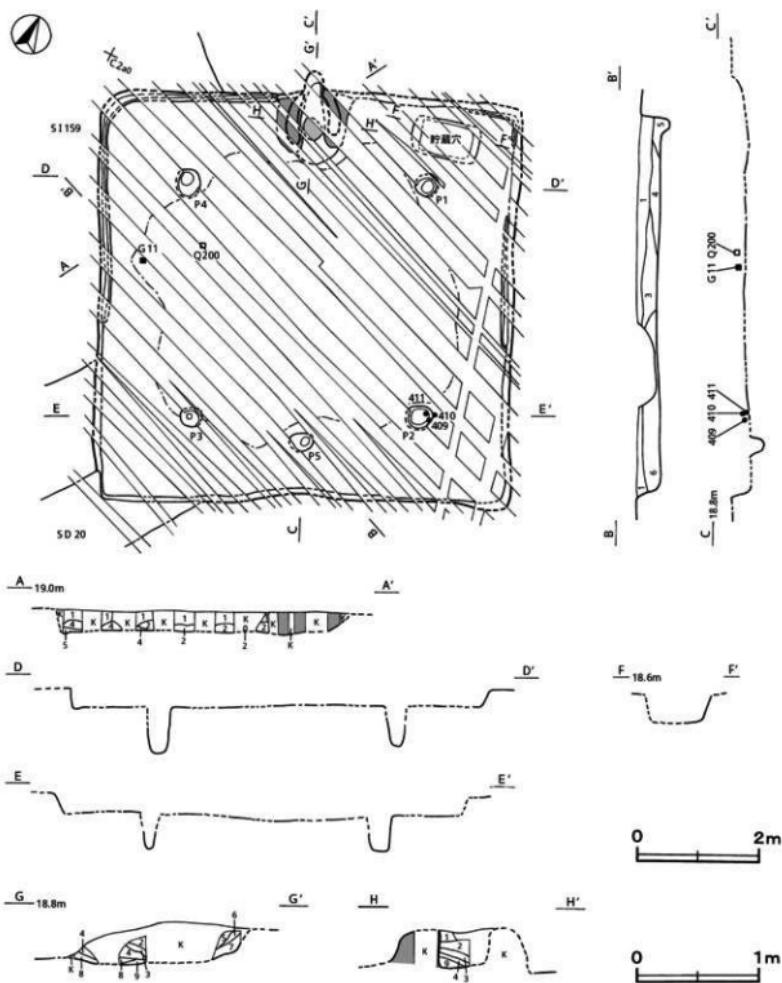
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	6	暗褐色	ロームブロック少量

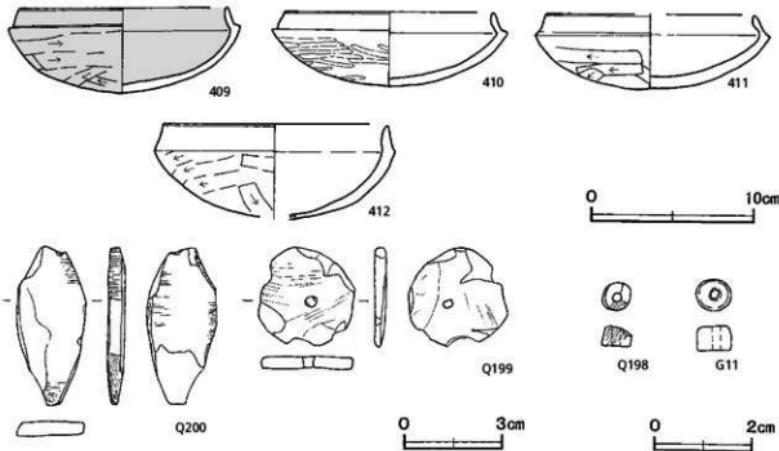
遺物出土状況 土師器片964点(坪185・高坪7・壺2・甕2・甕79・ミニチュア1), 須恵器片20点(坪4・蓋4・高坪1・壺2・甕9), 土製品19点(土玉17・管状土錐2), 石器1点(砾石), 石製品3点(臼玉・單孔円板・

剣形模造品), ガラス製品 1 点 (小玉), 鉄滓 1 点 (17.3 g), 滑石片 4 点, 鋼鉄鉢 1 点が出土している。また, 混入した縄文土器片 5 点 (深鉢), 鉄製品 2 点 (不明) も出土している。遺物の大半は, 全域の覆土中から出土している。409~411は南東コーナー部, G11は西壁際のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から 6 世紀後葉と考えられる。



第273図 第158号住居跡実測図



第274図 第158号住居跡出土遺物実測図

第158号住居跡出土遺物観察表（第274図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									外側へラ削り後、ナデ	内側へラ削り後、ナデ		
409	土師器	环	12.8	5.2	-	長石・雲母・陶化鉄粉子	褐	良好	外側へラ削り後、ナデ	内側へラ削り後、ナデ	覆土下層	100% PL75
410	土師器	环	12.8	4.6	-	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	外側へラ削り後、磨き	内側へラ削り後、磨き	覆土下層	90% PL75
411	土師器	环	112周	4.6	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外側へラ削り	内側へラ削り	覆土下層	80%
412	土師器	环	13.7	5.8	-	長石・雲母・陶化鉄粉子	暗赤褐	普通	外側へラ削り後、ナデ	内側へラ削り後、ナデ	覆土中	75%

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質		特徴		出土位置	備考
						滑石	全面研磨 一方向からの穿孔				
Q198	白玉	0.6	0.5	0.2	0.2	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔			覆土中	PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質		特徴		出土位置	備考
							未成品 全面研磨 一方向からの穿孔	未成品 全面研磨 一方向からの穿孔				
Q199	穿孔円板	3.0	3.1	0.4	0.3	5.9	滑石	未成品 全面研磨 一方向からの穿孔			覆土中	PL85
Q200	削形環造品	4.8	2.1	0.5	-	8.8	滑石	未成品 全面研磨			覆土下層	PL84

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	色調	材質		特徴		出土位置	備考
							ガラス	ガラス	一方から穿孔 篦切 内部に気泡	ガラス		
G11	小玉	0.7	0.5	0.2	0.4	青					覆土下層	PL89

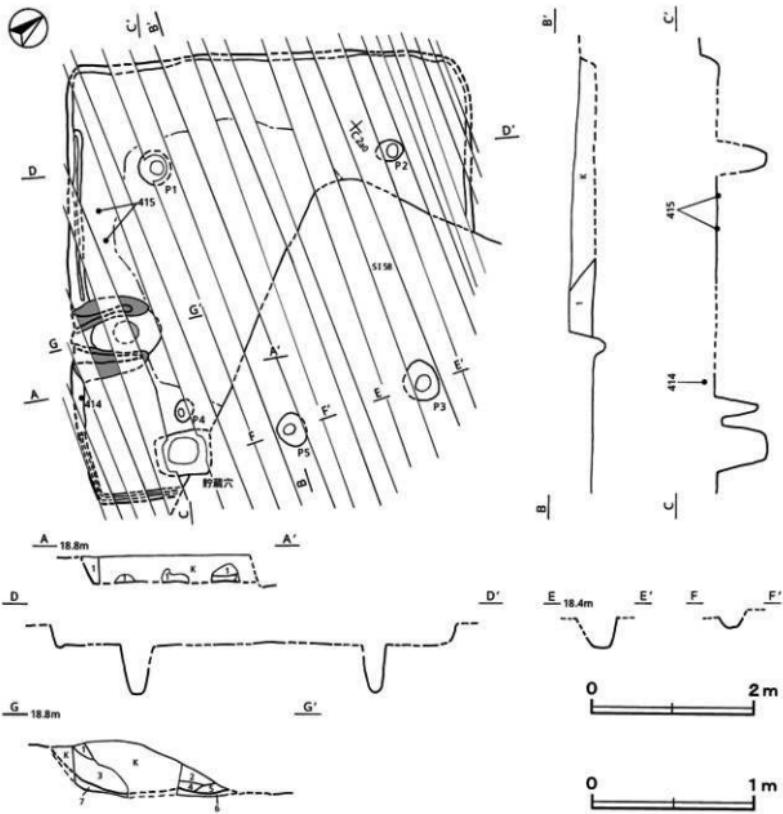
第159号住居跡（第275・276図）

位置 調査区西部のC 2 a9区、標高18.6mの台地上に位置している。

重複関係 東部を第158号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.39m、短軸4.98mの方形で、主軸方向はN-143°-Wである。壁高は20~33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、竈の前面から中央部が踏み固められている。壁構が南東壁下と南西壁下の一部で確認できた。



第275図 第159号住居跡実測図

竈 南西壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、燃焼部幅45cmである。袖部は、粘土ブロックを主体としたにぶい黄褐色土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、赤変硬化している。煙道部は搅乱のため不明である。第6・7層は掘り方への埋土である。

遺土層解説

1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化物、燒土粒子微量	4 細赤褐色 焃土ブロック・炭化粒子少量
2 細褐色 燃土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量	5 黒褐色 炭化粒子中量、燒土粒子微量
3 細赤褐色 燃土粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	6 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量

ピット 5か所。P3とP5は第158号住居の掘り方調査で確認した。P1～P4は深さ38～60cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ22cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。短軸54cmで、長軸は搅乱のため55cmしか確認できなかつたが、長方

形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含む堆積状況から埋め戻されている。

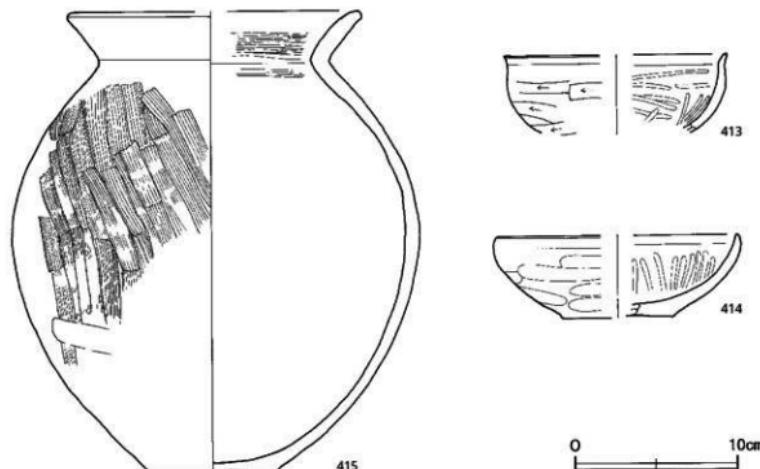
土層解説

1 級 極 色 ロームブロック少見。微土粒子・炭化粒子微量

2 級 極 色 ロームブロック少見

遺物出土状況 土師器片356点(壺7・椀1・壺4・甕296・瓶8), 須恵器片7点(壺1・甕6), 土製品4点(土玉2・管状土錐1・支脚1), 石製品1点(白玉), 滑石片2点が出土している。また、混入した繩文土器片6点(深鉢), 土師質土器片1点(火鉢)も出土している。遺物の大半は、全域の覆土中から出土している。415は南西壁際の床面, 414は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から5世紀後葉と考えられる。



第276図 第159号住居跡出土遺物実測図

第159号住居跡出土遺物観察表(第276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
413	土師器	壺	[137]	(4.8)	-	長石・雲母	明赤褐色	普通	外側へラ削り 内面磨き	覆土中	20%
414	土師器	壺	[148]	5.0	[6.7]	長石・雲母	明赤褐色	普通	外側ナデ 内面磨き	覆土下層	15%
415	土師器	甕	[178]	28.4	5.7	長石・雲母	にぶい焼	普通	外側全体上半ハケ目調理 下半へラ削り 内面ハケ目調理	床面	35%

表3 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	堅溝	内間構造				土質	主な出土遺物	時期	墓地跡 (古+新)	
								主軸六 南北	出口 一	ピット 一	炉 一					
1	E 6 i4	N- 92° - E	方形	7.02× 6.58	12~18 平坦	-	-	3	-	1	東面	-	土師器、須恵器、土玉、磁石、鉛錠、人骨	6世紀代 本跡-S52 2~3		
2	F 5 a1	N- 123° - W	方形	6.70× 6.60	8~16 平坦	-	-	4	-	-	南西面	1	自然	土師器、須恵器、土玉、鉛錠	6世紀中葉 本跡-S53 5~13	
3	E 4 h0	N- 18° - W	方形	6.65× 6.43	18~30 平坦	一部	4	1	-	北面 + 北東	1	自然	土師器、須恵器、小玉、鉛錠、人骨	6世紀末葉 S110→本跡		
4	E 4 i7	N- 85° - E	方形	5.61× 5.50	24~45 平坦	-	-	4	1	2	東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠、人骨、白玉、双孔円板、滑石	5世紀末葉 本跡-S519	
5	F 4 a8	-	[方形-長方形] (3.14)×(2.22)	22 平坦	一部	-	-	-	-	-	1	人為	土師器	6世紀中葉 本跡-S56		
6	E 5 g3	N- 72° - E	方形	5.68× 5.50	20~36 平坦	一部	4	-	-	東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠、刻印模造品	6世紀前葉 S112→本跡-S511		
8	E 4 e3	N- 79° - W	方形	4.57× 4.25	27~34 平坦	全周	4	-	-	西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠模造品	5世紀後葉		
9	E 4 i6	N- 5° - W	[方形-長方形]	5.35×(3.52)	43~54 平坦	-	-	2	-	-	北面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠、支脚、磁石	6世紀後葉 S14→本跡-S58 8~9	
11	E 4 g0	N- 32° - W	方形	5.49× 5.47	10~16 平坦	一部	4	-	-	北西面	1	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉	6世紀中葉 S110→本跡		
13	E 5 d1	N- 125° - E	方形	6.84× 6.68	30~52 平坦	一部	4	1	-	南東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、双孔円板、滑石	5世紀末葉 本跡-S511		
14	E 5 e7	N- 53° - W	方形	6.95× 6.95	12~26 平坦	全周	4	1	6	北西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、鉢津	5世紀前葉 S136→本跡-S512		
15	E 4 e8	N- 65° - W	長方形	5.14× 4.66	14~20 平坦	-	-	2	-	-	北西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、白玉、鉢津	5世紀後葉 S116→本跡-SK24~26	
16	E 4 e8	N- 97° - E	方形	6.18× 6.14	10~22 平坦	-	-	1	-	-	東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、双孔円板	5世紀後葉 本跡-S515, SK26~28	
17	E 4 c7	N- 121° - W	方形	4.78× 4.64	17~24 平坦	全周	4	-	-	南西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、白玉	5世紀中葉		
18	E 4 e6	N- 26° - E	方形	6.00× 5.70	2~8 平坦	-	-	-	-	炉	-	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠	5世紀後葉 本跡-SK22~23~25		
20	E 4 c4	N- 133° - E	方形	7.12× 7.08	35~47 平坦	一部	4	1	2	南東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠、人骨	6世紀前葉 S119→本跡		
21	D 4 h4	N- 34° - E	長方形	5.04×(4.57)	8 平坦	-	-	2	-	-	炉	-	自然	土師器、須恵器、磁石	5世紀代 本跡-S524, SK40	
22	E 4 a7	N- 121° - E	[方形-長方形]	4.26×(3.12)	32~39 平坦	一部	3	1	-	南東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚	5世紀末葉 本跡-S523, SK50		
23	D 4 j6	N- 126° - W	方形	7.84× 7.79	39~52 平坦	一部	4	1	-	南西面 + 南面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、白玉、鉛錠	6世紀前葉 S122→本跡-SK50		
24	D 4 h5	N- 62° - E	長方形	4.59× 4.08	24~36 平坦	-	-	4	1	-	北東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鉛錠	6世紀前葉 S121→本跡	
25	D 4 i3	N- 61° - E	方形	6.84× 6.63	20~28 平坦	-	-	4	1	-	北東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、磁石、白玉、白玉、カラス玉	6世紀中葉 S189→本跡	
26	E 4 b8	N- 37° - E	方形	5.16× 4.99	23~34 平坦	全周	4	2	-	北東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、鉢津	6世紀後葉 S127→本跡		
27	E 4 c8	-	方形	6.02× 6.02	38 平坦	一部	4	1	-	-	1	人為	土師器、須恵器、土玉、磁石、白玉、白玉、鉛錠模造品、滑石	6世紀初頭 本跡-S126, SK49		

番号	位置	主軸方向	平面 形	規模 (m) 長軸×短軸	幅員 (m)	床面	壁面	内部構造						出土	主な出土遺物	時 期	墓地跡 (古→新)	
								主 軸 六 部	出 入口	ビ ト ト	炉 ・ 竈	附 屬 六 部						
28	D 4 h7	N= 59° - E	方形	455×443	38~42	平坦	一部	4	-	-	北東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、穿孔内板、鐵鋤頭	6世紀前葉	S129・39→本跡		
29	D 4 i7	-	方形	726×670	12~24	平坦	一部	3	-	1	-	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鐵鋤頭、双孔内板、滑石	5世紀末葉	本跡-S128・46, SK60		
30	D 5 j3	N= 30° - E	[方形・後方四角]	591×(497)	12~35	平坦	-	-	1	-	炉	-	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、白玉、鏡薄、滑石	5世紀後葉	S163→本跡-SD10		
31	D 5 i2	N= 60° - W	[方形・後方四角]	5.37×(4.69)	73~86	平坦	一部	4	1	1	北西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡薄土絲、白玉	6世紀後葉	S167A・67B→本跡-SD11		
32	E 5 c7	N= 19° - W	方形	6.10×602	18~38	平坦	一部	3	1	-	北面	-	人為	土師器、須恵器、勾玉、土玉	6世紀中葉	S114・33・36・40→本跡-SK18・32		
33	E 5 b7	-	[方形・後方四角]	(3.44)×(2.67)	20~36	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器、土玉	6世紀前葉	S179→本跡-S132		
34	D 4 d6	-	[方形・後方四角]	5.45×(2.25)	50	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔内板	5世紀前半	本跡-SK31		
35	D 4 h0	N= 56° - W	[方形・後方四角]	6.37×(3.78)	53~68	平坦	一部	1	1	2	北西面	-	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔土絲、滑石、鐵鋤頭	6世紀前葉	S169→本跡-S164, SK38・39		
36	E 5 d7	N= 124° - E	長方形	5.85×528	4~40	平坦	-	4	1	-	南東面	1	人為	土師器、土玉	5世紀後葉	本跡-S114・32・40, SK18		
37	D 4 e7	-	[方形・後方四角]	4.73×(3.44)	29~36	平坦	-	3	-	1	-	1	自然	土師器、須恵器、土玉、玉形	6世紀前葉	S138・SK33・36		
38	D 4 e7	N= 126° - W	[方形・後方四角]	4.46×(3.60)	26~30	平坦	-	3	-	-	南西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔内板	6世紀前葉以降	S137・39→本跡		
39	D 4 g8	N= 19° - E	方形	5.46×5.38	32~38	平坦	一部	4	-	-	北面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、滑石、台石、白玉、白玉、鐵鋤頭	5世紀後葉	本跡-S128・38・64・68・118		
40	E 5 c6	-	方形	6.42×6.32	45	平坦	一部	4	1	1	-	-	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡狀土絲、穿孔内板	5世紀末葉	S136・41・79→本跡-S132・42		
41	E 5 b5	-	[後方四角]	(7.68)×580	26~30	平坦	一部	3	1	-	-	-	人為	土師器、須恵器、土玉、玉形	5世紀後葉	S179→本跡-S140・42・43, SK52・58		
42	E 5 c5	N= 35° - E	方形	6.10×5.79	13~38	平坦	一部	4	2	-	北東面	1	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、鏡狀土絲、穿孔内板	6世紀前葉	S140・41→本跡-SI62		
43	E 5 b4	N= 105° - W	方形	4.70×4.70	10~48	平坦	一部	4	1	-	西面	2	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔土絲、滑石、鐵鋤頭	6世紀中葉	S141・79→本跡-SD10		
44	E 5 g5	N= 120° - E	方形	6.30×6.13	25~38	平坦	一部	3	-	-	南東面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔土絲、穿孔内板、滑石	6世紀後葉	本跡-SD10		
45	D 3 d0	N= 28° - W	方形 張り出し	8.20×790	32~34	平坦	一部	6	1	1	北西面	1	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔土絲、穿孔内板、鐵鋤頭	6世紀後葉	S166・88・104・117→本跡-SK69・70		
46	D 4 i8	N= 121° - W	方形	5.82×570	30~47	平坦	全周	4	1	31	炉 ・ 竈	南西面	1	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、鏡狀土絲、穿孔内板	6世紀前葉	S129→本跡	
47A	D 4 c3	N= 60° - E	方形	5.26×521	25~42	平坦	-	4	1	-	北東面	2	人為	土師器、須恵器、土玉、穿孔土絲、穿孔内板、鐵鋤頭	6世紀前葉	S140・48・65→本跡-SK34		
47B	D 4 c3	-	[方形]	(4.00)×(4.00)	-	平坦	-	4	-	-	-	1	-	-	6世紀前葉	本跡-S147A		
48	D 4 d4	N= 15° - W	[方形・後方四角]	(4.44)×(3.73)	11	平坦	-	3	1	1	炉	-	人為	土師器、勾玉	4世紀代	本跡-S147A・47B・65		
49	D 2 f8	N= 36° - W	[方形・後方四角]	4.91×(2.34)	12~30	平坦	-	-	-	-	炉	1	人為	土師器	4世紀代	本跡-SD15		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	幅員 (m)	床面	壁面	内部構造						出土土	主な出土遺物	時期	墓地跡 (古~新)
								主 軸 六	出 口	ビ ト ー ト	炉 ・ 竈	附 屬 六					
50	E 5 e3	N~ 52° - W	方形	5.04× 5.04	13~ 30	平坦	一部	4	1	-	北西南	1	人	土師器、須恵器、土玉、瓦脚	6世紀後葉	S162→本跡	
51	E 3 c0	N~ 127° - W	長方形	6.10× 5.47	29~ 41	平坦	一部	4	1	-	南西南	1	人	土師器、須恵器、土玉、瓦石、鐵劍	6世紀前半	本跡-S152・S3	
52	E 3 b8	N~ 68° - E	方形	6.62× 6.30	24~ 37	平坦	-	4	1	-	東南	1	人	土師器、須恵器、小玉、土玉、瓦脚、土石、鐵劍、瓦石、瓦片	6世紀前葉	S151→本跡	
54	E 3 c7	N~ 60° - E	[方形・長方形]	6.80× (4.06)	44~ 57	平坦	一部	2	-	-	北東南	1	人	土師器、土玉、瓦孔円板	6世紀前葉		
55	D 2 d7	-	[方形・長方形]	(6.48)× (2.20)	3~ 16	平坦	-	1	1	-	-	1	人	土師器、土玉、瓦玉、劍形柄頭	5世紀中葉		
56	E 3 a6	N~ 97° - W	長方形	4.18× 3.33	5~ 8	平坦	-	-	-	-	西	-	自然	土師器、須恵器、土玉、破土状土器、鐵劍柄頭	6世紀前半		
57	D 3 h9	N~ 60° - E	長方形	3.71× 2.70	25~ 35	平坦	-	-	-	-	北東南	1	人	土師器、須恵器、小玉	6世紀中葉		
58	E 3 a5	N~ 67° - E	方形	4.58× 4.34	35~ 44	平坦	-	2	-	-	北東南	1	人	土師器、須恵器、小玉、土玉、破玉、瓦孔円板	6世紀前葉	S177→本跡-S178・S14	
59	D 3 i7	-	方形	6.70× 6.40	25~ 35	平坦	-	-	-	-	-	1	人	土師器、土玉、破土状土器、瓦玉、瓦孔円板	5世紀末葉	本跡-S161・76	
60	D 3 i6	N~ 29° - W	方形	4.28× 4.00	45~ 58	平坦	-	4	-	-	北西南	1	人	土師器、須恵器、土玉、破土状土器、鐵鍔頭、單孔円板	5世紀後葉	本跡-S161・SK43	
61	D 3 h7	-	方形	5.90× 5.82	35~ 41	平坦	-	4	1	-	-	-	-	土師器、須恵器、土玉、破土状土器、双孔円板、ガラス小玉	6世紀前半	S159・60→本跡	
62	E 5 e4	N~ 80° - E	方形	6.38× 6.34	27~ 37	平坦	一部	4	1	-	東南	1	人	土師器、須恵器、土玉、破土状土器、瓦玉	6世紀中葉	S142→本跡-S150・SD10	
63	D 5 j3	-	[方形・長方形]	4.98× (3.60)	12~ 30	平坦	-	2	1	-	-	1	人	土師器、土玉	5世紀前半	本跡-S130	
64	D 4 g9	N~ 15° - W	方形	5.06× 4.84	65	平坦	一部	3	1	-	北東	1	人	土師器、須恵器、小玉、土玉、支脚、ガラス瓦玉	6世紀前葉	S135・39→本跡-S168	
65	D 4 d3	N~ 82° - E	方形	5.67× 5.35	18~ 26	平坦	一部	4	1	1	東南	1	人	土師器、須恵器、瓦玉、单孔円板、劍形標	5世紀末葉	S146→本跡-S147A・47B・SK19	
66	D 3 e9	N~ 57° - E	方形	4.00× 4.00	18~ 24	平坦	全周	3	1	1	北東南	1	人	土師器、須恵器	6世紀中葉	S1117→本跡-S145	
67A	D 5 j1	N~ 56° - E	方形	6.00× 5.82	58	平坦	-	4	1	-	北東南	-	人	土師器、須恵器、土玉、支脚、破石	6世紀前葉	S167B・69・81→本跡-S131・SD11	
67B	D 5 j1	N~ 128° - W	(方形)	(4.50)× (4.20)	-	平坦	-	4	1	1	南西南	1	-	土師器	6世紀前半	S160・81・85→本跡-S131・SD11	
69	D 4 i0	-	長方形	7.54× 6.67	28~ 35	平坦	-	4	2	2	-	-	人	土師器、須恵器、瓦	5世紀中葉	S185→本跡-S135・67A・67B・81・SK39・SD11	
70	E 5 c3	N~ 60° - E	方形	5.93× 5.72	26~ 30	平坦	一部	4	2	-	北東南	1	人	土師器、須恵器、小玉、土玉、支脚、瓦玉	6世紀後葉		
71	D 3 i3	N~ 116° - E	方形	6.33× 5.95	30~ 38	平坦	-	4	1	-	南西南	2	人	土師器、須恵器、土玉、瓦石、双孔円板、劍形標	5世紀末葉	S172→本跡	
72	D 3 h3	-	[方形]	(5.50)× (5.34)	25	平坦	-	1	-	4	-	-	人	土師器、須恵器、土玉、瓦石、双孔円板、劍形標	5世紀前半	本跡-S171・SD14	
73	D 3 h1	N~ 77° - E	[方形・長方形]	7.16× (3.92)	14~ 30	平坦	-	2	-	-	北東南	1	人	土師器、須恵器、土玉、瓦脚、勾玉、双孔円板	6世紀前葉	本跡-SK44・SD14	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	幅員 (m)	床面	壁面	内部構造						出土土器	時期	墓地時代 (古~新)
								主 軸 六 角	玄 関 口	火 炉	炉 室	鉢 六 角				
74	D 3 b0	N~120°~W	方形	4.43×4.43	27~38	平坦	一部	4	1	-	南西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉、勾玉、白玉、双孔円板、劍形横造品、滑石	6世紀初頭	
75	D 3 b9	N~75°~E	方形	4.58×4.48	26~30	平坦	一部	4	1	-	北東 東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、砾石	6世紀初頭	本跡→S1106
76	D 3 i8	N~51°~E	方形	4.90×4.64	45~48	平坦	-	4	-	-	北東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、破土棒、砾石	6世紀中葉	S159→本跡
77	E 3 a4	-	[方形・ 長方形]	(2.80)×(1.06)	24	平坦	-	-	-	-	-	1	人為	土師器、劍形橫造品	6世紀代	本跡→S158
78	D 3 e8	N~65°~E	方形	4.07×3.88	32~52	平坦	一部	4	1	-	北東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、白玉、劍形横造品	6世紀後葉	S1117→本跡
79	E 5 b6	-	長方形	7.10×6.71	18	平坦	-	4	1	-	-	1	人為	土師器	5世紀後葉 以前	本跡→S133~40~43, SK58
81	D 4 i0	N~39°~W	[長方形]	(1.32)×3.44	65	平坦	-	2	1	1	炉	1	人為	土師器、土玉、砾石	5世紀末葉	S169→本跡→S167A~67B
82	E 5 b1	N~31°~E	方形	3.56×3.40	10~24	平坦	-	-	-	23	炉	1	人為	土師器、土玉	4世紀後半	
83	E 4 a9	N~140°~E	方形	4.76×4.63	34~47	平坦	一部	4	1	-	南東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、双孔円板	6世紀初頭	S185→本跡→S184
84	E 4 a0	N~37°~W	方形	3.99×3.85	50	平坦	-	-	-	-	北西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉、破土棒、砾石、白玉、勾玉	6世紀後葉	S183~85→本跡
85	D 4 j0	N~31°~E	長方形	6.11×5.52	34	平坦	一部	4	-	1	炉	1	人為	土師器、土玉、砾石、砾石	4世紀後半	本跡→S167A~69~83~84, SK57
86	D 4 g3	N~132°~W	方形	8.64×8.50	36~40	平坦	一部	4	2	-	北西南 南西端	2	人為	土師器、須恵器、砾石、白玉、双孔円板、力拉斯	6世紀後葉	S187→本跡
87	D 4 h2	N~139°~E	[長方形]	5.36×(320)	34~47	平坦	-	4	-	-	南東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、双孔円板	5世紀末葉	S189→本跡→S186
88	D 4 d1	N~35°~W	長方形	3.20×2.58	4~14	平坦	一部	2	-	-	炉 2	1	人為	土師器、須石、白玉、双孔円板、劍形横造品	5世紀代	本跡→S145, SK69~70~76~77
89	D 4 i2	-	方形	6.05×5.70	14~22	平坦	-	4	-	-	-	1	人為	土師器、土玉、勾玉	5世紀代	本跡→S125~87~94, SK54
90	D 4 e5	N~133°~W	方形	6.41×6.25	12~28	平坦	一部	4	1	-	南西南	1	人為	土師器、須石、土玉、破土棒、双孔円板、劍形横造品	6世紀後葉	S1113~1114→本跡→SK20
91	D 3 d1	N~19°~W	方形	7.44×7.23	56	平坦	一部	4	1	-	北端 2	1	人為	土師器、須石、土玉、白玉、破土棒、双孔円板、劍形横造品、方当 小五	6世紀後葉	S192~99→本跡
92	D 2 e0	N~130°~W	方形	7.30×6.85	43~59	平坦	-	7	1	-	南西南 2	2	人為	土師器、須石、土玉、白玉、破土棒、双孔円板、劍形横造品	5世紀末葉	本跡→S191, SB 1
93	D 3 f6	(N~33°~W)	長方形	7.42×6.53	27~37	平坦	-	5	-	3	-	1	人為	土師器、須石、白玉、土棒、双孔円板、滑石	5世紀末葉	本跡→S1100
94	D 4 j2	(N~110°~W)	[方形]	6.02×(5.32)	45	平坦	-	4	1	-	-	1	人為	土師器、土玉、砾石	6世紀前半	S189~103→本跡→S195~96
95	E 4 a1	N~23°~W	不整 長方形	5.68×4.20	35~39	平坦	-	3	1	-	北端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、白玉	6世紀中葉	S194, SK55→本跡→S196~102
96	D 3 j0	N~87°~E	方形	6.80×6.68	24~35	平坦	-	4	1	-	南端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、破土棒、砾石、白玉	6世紀後葉	S194~95~103→本跡→S1102
97	D 3 d5	N~32°~W	方形	8.54×8.47	40~52	平坦	一部	7	-	1	北西南	1	人為	土師器、須石、白玉、双孔円板、劍形横造品、磨骨	6世紀初頭	S198~99→本跡→S1100

番号	位置	主軸方向	平 面 形	内部構造								出土物	時 期	墓地關係 (古→新)		
				規模 (m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	井戸	壁溝	前穴	口	ヒ ドリ	火 葬					
98	D 3 c4	N~52°~W	[方剖]	6.80×(6.36)	51	平坦	一部	4	2	-	火 3	人骨	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、勾玉、玉璧、劍形鏡遺品	5世紀末前	S199→本跡→S197・109・139	
99	D 3 d3	N~48°~E	[後方剖]	6.85×(7.30)	9~20	平坦	一部	4	2	-	火	1	人骨	土師器	4世紀代	本跡→S191・97・98
100	D 3 d5	N~17°~W	方形 張り出し	7.50×7.50	22~63	平坦	全周	4	2	2	北轍 2	1	人骨	土師器、須恵器、勾玉、豆玉、円丹板、劍形鏡遺品、ガラス玉	6世紀前半	S193・97→本跡
101	D 3 c7	N~28°~W	方形	6.58×6.02	38	平坦	-	3	2	-	北轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、玉璧、丸足円丹板、双孔円丹板	6世紀中頃	S1106→本跡
102	E 3 a0	N~75°~E	方形	3.55×3.50	15	平坦	-	-	-	-	東轍	1	人骨	土師器、鏡状土錐、支脚	6世紀末前	S195・96→本跡
103	D 3 j0	N~58°~E	[後方剖]	(4.15)×5.20	26	平坦	-	4	-	1	北東轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、玉璧、双孔円丹板	5世紀末前	本跡→S194・96
104	D 3 g9	N~65°~E	方形	4.96×4.85	15~37	平坦	-	4	-	1	北東轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、玉璧、双孔円丹板、劍形鏡遺品	6世紀前半	S1105・SK67→本跡→S145
105	D 3 g0	N~63°~E	方形	4.18×3.87	10~24	平坦	-	3	-	1	北東轍	1	人骨	土師器、土玉	5世紀末前	本跡→S1104
106	D 3 c7	N~62°~E	[後方]	7.92×7.17	51	平坦	一部	4	-	北東轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、白玉、双孔円丹板	6世紀前半	S175→本跡→S1101・SK71	
108	C 3 j4	N~41°~W	[方剖]	4.26×(4.20)	10~12	平坦	-	3	-	-	火	-	人骨	土師器	4世紀後半	本跡→S1109
109	D 3 a3	N~87°~E	方形	9.20×9.20	53~68	平坦	一部	4	1	6	西轍 東轍	2	人骨	土師器、須恵器、小玉、土玉、砾石、玉璧、双孔圓板	6世紀中頃	S198・106→本跡
110	C 3 h5	N~117°~W	方形	5.42×5.27	34~41	平坦	一部	4	2	-	南西轍	-	人骨	土師器、須恵器、土玉、支脚、白玉	6世紀後半	S1144→本跡
111	D 4 a2	-	[方形・ 後方剖]	4.36×(281)	56	平坦	-	2	1	-	-	1	人骨	土師器、土玉、砾石、劍形鏡遺品	5世紀末前	S1112→本跡→SK37
112	D 4 a2	(N~40°~E)	方形	4.65×4.25	14~16	平坦	-	2	-	3	-	-	人骨	土師器、白玉	5世紀前半	本跡→S1111
113	D 4 e5	N~56°~W	方形	5.76×5.64	14~22	平坦	一部	4	2	-	火 2	1	人骨	土師器、土玉	5世紀代	本跡→S190・114・118
114	D 4 e6	N~42°~E	方形	4.93×4.85	27~45	平坦	-	4	1	-	北東轍	1	人骨	土師器、須恵器	6世紀前半	S1113→本跡→S190・118
115	C 4 j1	N~45°~E	後方	5.34×4.56	14	平坦	-	3	-	-	火	-	人骨	土師器	5世紀前半	
116	C 4 j2	-	[方形・ 後方剖]	4.04×(156)	22	平坦	-	2	-	-	-	-	人骨	土師器、須恵器、土玉、单孔円丹板	5世紀末前	
117	D 3 d8	-	方形	6.51×6.21	15~20	平坦	一部	4	-	-	-	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、劍形鏡遺品	6世紀中頃	本跡→45・66・78・SK53
118	D 4 g6	N~53°~E	方形	5.88×5.77	31~46	平坦	全周	5	1	-	南西 北東轍	2	人骨	土師器、須恵器、小玉、土玉、斜削、白玉	6世紀中頃	S139・113・114→本跡
119	D 4 b1	N~56°~E	方形	3.55×3.55	18~22	平坦	-	4	-	-	北東轍	1	人骨	土師器、小玉、土玉、双孔円丹板、劍形鏡遺品	6世紀前半	
121	C 3 e5	N~30°~W	方形 張り出し	7.80×7.88	44~52	平坦	一部	4	1	-	北西轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、支脚、鐵鍼	6世紀中頃	SK64→本跡
122	C 3 h1	N~66°~E	方形	5.72×5.54	30~42	平坦	全周	4	1	-	北轍 東轍	1	人骨	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐	6世紀中頃	S1129→本跡

番号	位置	主軸方向	平面形	面積(m) 長軸×短軸	幅員 (m)	床面	壁面	内部構造						土質	主な出土遺物	時期	重複既存 (古~新)
								主 軸 六 角	玄 関 口	ビ ト ト ー ル	炉 ・ 竈	鉢 六 角					
123	D 2 a 8	N~ 40° ~ W	方形	652× 638	45~50 平坦	一部	4	2	1	北西南	-	自然	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐	6世紀末葉	S1124~本跡		
124	C 2 j 7	N~ 67° ~ E	方形	872× 863	32~47 平坦	-	5	-	-	南西南 北東端	2	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、鏡状土錐	6世紀前葉	本跡→S1123~134		
125	C 3 h 6	N~ 54° ~ E	方形	457× 457	57~68 平坦	-	4	1	-	北東端	1	人為	土師器、須恵器、幻玉、双孔円板、滑石	5世紀末葉	S1126~127~本跡		
126	C 3 g 7 (N~ 39° ~ E)	儀方形	425× 386	17~25 平坦	-	3	2	-	-	-	人為	土師器	4世紀後半	本跡→S1125~127			
127	C 3 h 6 (N~ 54° ~ W)	方形	506× 506	36~56 平坦	一部	4	2	-	-	-	人為	土師器、滑状土錐	5世紀中葉	S1126~本跡→S1125			
128	C 2 h 9	N~ 32° ~ W	方形	623× 570	35~45 平坦	一部	4	1	-	北東端 北西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐、鏡海	6世紀中葉	S1129~本跡		
129	C 2 h 9	N~ 67° ~ E	方形	746× 683	32~60 平坦	-	4	1	-	北東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、幻玉	5世紀後葉	本跡→S1122~128, SK 68		
130	C 3 c 4	N~ 45° ~ W	方形	443× 427	20~23 平坦	-	4	-	-	北西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉	6世紀初頭	本跡→S1132, SK 72		
132	C 3 a 3	N~ 70° ~ E	方形 張り出し	756× 730	37~45 平坦	-	4	2	-	北端 南端	2	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐、滑石、白玉、幻玉、鏡状土錐	6世紀後葉	S1130~133~本跡		
133	C 2 j 3	-	〔方形・ 張り出し〕	770× (350)	30 平坦	-	2	-	3	-	1	人為	土師器、須恵器、土玉、幻玉、双孔円板、双孔円板	6世紀前葉	本跡→S1132		
134	C 2 i 6	N~ 52° ~ W	方形	647× 616	32~56 平坦	一部	4	1	-	北西南	1	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、鏡状土錐、土錐、幻玉	6世紀中葉	S1124~本跡		
136	C 2 h 2	N~ 48° ~ W	方形	700× 694	24~36 平坦	-	4	1	-	南西南 北西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐	6世紀後葉			
137	B 2 h 8	N~ 53° ~ E	方形	664× 645	10~35 平坦	-	4	-	-	北東端	-	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐、幻玉、胡錐	6世紀末葉			
139	D 3 b 5	N~ 98° ~ W	方形	618× 597	35~58 平坦	全周	8	1	-	北端 西端	2	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、滑状土錐、明鏡模底器	6世紀前葉	S109~本跡→SK 71		
140	C 2 a 8	N~ 75° ~ E	方形	735× 712	40~50 平坦	一部	4	-	-	東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐、双孔円板、幻玉、幻玉	5世紀後葉			
141	C 3 e 1	N~ 140° ~ E	方形	691× 691	40~60 平坦	一部	4	-	2	南東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、支脚、砾石	5世紀後葉	S1145~本跡		
142	C 1 g 0	N~ 61° ~ E	〔方形・ 張り出し〕	890× (791)	20~63 平坦	-	3	1	-	北東端 2	2	人為	土師器、須恵器、土玉、白玉、幻玉、双孔円板、肘形模底器	6世紀中葉			
143	C 3 i 3	N~ 120° ~ W	方形	647× 622	36~58 平坦	一部	4	1	-	南西南	1	人為	土師器、須恵器、土玉、滑状土錐、双孔円板	6世紀初頭	S1144~本跡		
144	C 3 h 4	-	長方形	663× 524	28 平坦	全周	2	-	2	-	1	人為	土師器、須恵器、滑状土錐、砾石	5世紀代	本跡→S1110~143		
145	C 3 e 1	-	〔方形・ 張り出し〕	-	18 平坦	-	3	-	-	-	-	-	5世紀後葉 以前	本跡→S1141			
147	C 2 e 5	N~ 33° ~ W	方形	690× 664	36~60 平坦	-	4	-	1	北西南	1	人為	土師器、須恵器、小玉、土玉、滑状土錐、明鏡模底器	6世紀後葉	SX 6~本跡		
148	C 2 e 3	N~ 125° ~ W	方形	652× 616	34~54 平坦	-	4	1	-	南西南	1	人為	土師器、須恵器、滑状土錐、肘形模底器	6世紀中葉	SX 6→本跡→SX 5		
149	C 2 g 4	N~ 59° ~ E	長方形	464× 395	42~46 平坦	-	4	1	-	北東端	1	人為	土師器、須恵器、土玉、砾石	6世紀末葉	SX 6→本跡		

番号	位置	主軸方向	平面 形	規模 (m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	窓溝	内部構造					土	主な出土遺物	時期	重複段落 (古+新)
								主 縦 溝 六	嵌 入 口	ビ ト ト ー ー	炉 ・ 竈	縦 溝 六				
150	C 2 c3	N- 134° - W	方形	475× 459	2~18(平坦)	-	-	4	-	2	東西窓	-	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、	6世紀初頭	本跡→S1156, SX 5
152	C 3 c1	N- 26° - W	方形	510× 482	22~30(平坦)	-	-	4	1	1	北西窓	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、	6世紀中期	S1153→本跡
153	C 3 c2	N- 75° - E	方形	726× 716	27~32(平坦)	一部	-	4	1	-	東窓	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、	6世紀初頭	本跡→S1152
154	C 2 c6	N- 49° - E	方形	476× 446	30~48(平坦)	-	-	3	1	-	北東窓	1	自然	土師器、須恵器、土玉	6世紀前葉	S1155→本跡
155	C 2 c5	-	方形	781× 774	28~35(平坦)	-	-	4	1	-	-	2	人為	土師器、須恵器、土玉、滑石、双方 円板	5世紀後葉	本跡→S1154→156
156	C 2 b4	N- 49° - W	方形	857× 857	13~44(平坦)	-	-	4	1	2	北西窓	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、滑石、白玉、双方 円板	6世紀末葉	S1150~155→本跡
158	C 3 a1	N- 22° - W	方形	677× 664	53~68(平坦)	一部	-	4	1	-	北窓	1	人為	土師器、須恵器、土玉、白玉、滑石、鏡状模造品、ガラス小玉	6世紀後葉	S1159→本跡→SD 20
159	C 2 a9	N- 143° - W	方形	539× 498	20~33(平坦)	一部	-	4	1	-	東西窓	1	人為	土師器、須恵器、土玉、鏡状土錐、白玉、	5世紀後葉	本跡→S1158

茨城県教育財団文化財調査報告第309集

堂ノ上遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

上巻

平成21（2009）年3月18日 印刷
平成21（2009）年3月23日 発行

発行 財團法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター一分館内
TEL 029-225-6587

印刷 衛平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL 0246-23-9051